



ガバナー月信

7月号
July

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR 小林 博 KOBAYASHI HIROSHI

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp



全国に誇れるロータリーを

国際ロータリー第2510地区ガバナー
小林 博

昨年10月28日、岩城秀晴ガバナー年度の地区大会において私は次のようなご挨拶をいたしました。このときの気持ちは新年度をむかえる今も全く同じです。

「ご存知のとおり、いまロータリーはかつての成長期を過ぎ、その価値観の混乱の渦のなかにあるといえます。このままでいいと思っている人はいませんでしょうし、みんなが悩んでいます。

それではわれわれは何をしなければならないのでしょうか。その前にわれわれはいまなぜロータリーにいるのでしょうか？ その意味をはっきり自覚することから始めな

れば、私どもはこうやってロータリーにいること自体に興味がなくなってしまうのではないのでしょうか。

新たな世紀を迎え、激しい時代の動きに遅れることなく、その流れを先取りするくらいの情熱をもって、私どもの理想とする友愛と奉仕のロータリーを真剣に作っていかねばならないと思います。

皆様のお力をいただきながら、全国に誇れるようなロータリーを作っていきましょう。私も一生懸命がんばっていきたいと思います。地区の皆様、ご理解とご協力のほどどうかよろしく願い申し上げます。」

2002-03年度

RI 2510地区目標

1. 家庭に慈愛の種を播きましよう
2. クラブに慈愛の種を播きましよう
3. 職業を通じて慈愛の種を播きましよう
4. 地域社会にそして国際社会に慈愛の種を播きましよう



ラタクルRI会長と談笑する小林ガバナー夫妻 (2520地区菊地弘尚ガバナー撮影 アナハイムの国際協議会にて)

2002-03年度 RIテーマ

慈愛の種を播きましょう Sow the Seeds of Love

RI会長 **ビチャイ・ラタクル**
Bhichai Rattakul

2002-03年度 RI 2510地区目標

1. 家庭に慈愛の種を播きましょう
 - ・家庭こそ社会の原点です
 - ・家庭のあり方について考え家庭に奉仕しましょう
2. クラブに慈愛の種を播きましょう
 - ・クラブの発展のために率直に語り合い親睦を深めましょう
 - ・ロータリーの理念・目標・活動内容を地域社会に伝え会員になることを勧めましょう
3. 職業を通じて慈愛の種を播きましょう
 - ・ロータリー精神で職場の仕事に取り組みましょう
 - ・ロータリー精神を職場に広めましょう
4. 地域社会にそして国際社会に慈愛の種を播きましょう
 - ・基本はロータリー財団と米山記念奨学会への協力です
 - ・地域社会の前進のためにそして世界の深刻な諸問題の解決のために語り合い行動しましょう



目次

全国に誇れるロータリーを	小林 博	1	ロータリー文庫の案内	19
2002-03年度 RI2510地区目標		2	ロータリーウェブサイトの案内	19
地区重点目標の具体像		3	2003-04年度 青少年交換派遣学生募集要項	20
「ガバナー月信」の編集方針について		3	ライラセミナーの御案内	20
RI会長メッセージ	ビチャイ・ラタクル	4	RI会長主催会議の御案内	20
船出にあたり	岩城秀晴・小林 博・佐藤秀雄	6	2002-03年度 青少年交換プログラム	21
ガバナー補佐挨拶		8	百周年の企画進む	21
ガバナー補佐連絡先一覧		11	ガバナー日記	小林 博 22
地区組織図		12	会員からの投稿	
クラブ一覧表		13	……中川喬雄・川田憲秀・辻野 修・成田雅敏・関村和義	23
ガバナー公式訪問日程表		14	ロータリーQ&A	27
会員の皆様へ：指導力の持続	小林 博	15	ガバナー事務所より	27
「識字率向上月間」について		15	ガバナー事務所構成と担当	28
地区予算		16	掲示板	28
定期報告先の所在地・連絡先と送金先振込口座一覧表		17	地区カレンダー	29
定期報告関係一覧表		18		

地区重点目標の具体像

1. 日常の心掛け

- ・自らの資質を高める努力を
親睦が大切であるなら、まず親睦に値するロータリアンになることを心掛けましょう。
- ・積極的に行動を
良い伝統を踏まえつつ、新しい活動にも取り組みましょう。前例がないからこそ価値がある場合があります。
- ・時間と経費は有限です。慣習にとらわれず、より良い使い方を工夫しましょう。

2. クラブ運営の改革

- ・例会での禁煙の普及を
タバコの害毒を認識し少なくとも例会中は禁煙にしましょう。
- ・インターネットコミュニケーション（IC）の普及を
クラブにIC担当者を置き、ICを使いこなしましょう。
- ・広報活動の推進を
ロータリーの理念・目標・活動内容を広く地域社会に知ってもらい、賛同者を増やしましょう。
- ・会員の増強と退会の防止を
地域の清新な人材に入会を勧め、新入会員は大事にしましょう。

3. グループ内活動の活性化

- ・グループ研修会の開催を

グループ内のクラブ会長・幹事等の意見交換を活発にしましょう。

- ・IMに新鮮な企画を
グループ内の交流や地域の特徴を生かした活動を企画しましょう。

4. 地区活動への協力

- ・「月信」を会員の交流の場に
「月信」に投稿し積極的に希望・提案・意見・質問を述べましょう。
- ・ワークショップへの参加を
地区全会員の自由参加で、特定のテーマについて議論を深めましょう。
- ・GSE受け入れに協力を
10月16日～11月20日、フィリピン第3830地区からの一行を暖かく迎えます。
- ・新しい委員会構成に理解を
新しく、家庭奉仕、友情交換、ライラ、米山学友、IC、雑誌、100周年記念の各委員会が設けられました。また、青少年交換委員会は国際奉仕委員会の下から新世代委員会の下に移り、趣味職業別親睦委員会は親睦活動委員会に名称が変更されました。ご理解をお願い致します。
- ・顔写真付き地区会員名簿作成に協力を
地区内会員の親睦と地区の活性化に役立つことを願っての企画です。ご理解下さい。

「ガバナー月信」の編集方針について

ガバナー月信は、地区内の会長・幹事等クラブ指導者にロータリーの情報を提供し、その情報を広く会員に伝えるのが本来の役目と思われれます。

本年度の小林ガバナーの方針は、トップダウンの情報ばかりでなく、会員相互の意見交換・交流の場としての月信を発信しよう、それを全員の会員の方々に読んで頂きたい。

この方針にもとずき、地区内各クラブの活動や皆様からのご意見や投稿を数多く掲載し、またロータリーの各種の疑問にお答えするQ&Aも設けることと致しました。

月信に「広告」を掲載し、その収入を郵送費・製作費の補助にあて、月信の費用を従来の3分の1程度に圧縮すべく努力しております。

月信にたいする皆様からのご意見やご感想を是非お寄せ下さい。

(月信編集委員長 竹原 巖)



慈愛の種を播きましょう

—何処に播くのか？ どうすれば最も効果的か？—

2002-03年度 国際ロータリー会長
ビチャイ・ラタクル

親愛なる同僚ロータリアンの皆さん：

私たち一人一人にとって、ロータリーは皆それぞれ違った特別の意味を持っています。クラブ内における温い友情を大事に育てる人が居るでしょう。一方また、奉仕と援助を必要としている人々に尽くす機会を、とりわけ高く評価する人も居るでしょう。いずれにせよ、大部分の人々は、世界中隅から隅まで奉仕という点で極めて効率よく私たちを結びつけている国際的精神に、ロータリーの価値を見出しているのです。

まさしくただ今現在、ロータリーの名において、数え切れないほど沢山の活動が行われています。ただ、たとえ私たちが何をするにしても、その中には終始変わらぬ一つの基本があります。

それは、ロータリーにおける最善の親睦、奉仕は、常に愛の真心から出たものだ、ということです。ひとたび慈愛の心が私たちの行動に吹きこまれると、私たちは時間や金の犠牲などに躊躇しておられません。私たちはより多くの事を成し、より多くのものを与えようと奮立たされます。まさに慈愛こそ、すべてロータリーの仕事を背後から支えて、これを最善のものにする原動力なのです。

かつてマザー・テレサがこう言いました：「どれだけ沢山の物を与えるかではない、大事なのはどれだけ満ち溢れる慈愛をこめて与えるかです」と。私たちの行動が慈愛に発するものであるなら、それは真正正銘一層効果的なものとなり、奉仕を受ける人々の心情に深く深く沁み透るでしょう。

私たちロータリアンは、自分自身十分に慈愛の心を備えているのですが、私たちの前途に横たわる壮大な目標を達成するためには、私たちの信条と負託を共有してくれる人々がもっと沢山必要なのです。私たちの組織の永続を確実なものにする最善の方途は、出来るだけ沢山の人の心に**慈愛の種を播く**ことです。されば2002-03年度、全ロータリアンに向かって私が強くお願いしたいのは、正にこの一語です：**慈愛の種を播きましょう**—あなたのクラブに、あなたの職場に、あなたの地域社会に、そして世界中ありとあらゆる場所に。

ロータリーは慈愛の種を播く無数の道を示す

国際ロータリーとロータリー財団のプログラムによって—私はあなたがた自身のインスピレーションと自発的創意で、上意下達ではなく、草の根レベルから立ち上って動くことを強く求めるものですが—私たちの専門的能力を最も必要としている所に、私たちは一役買って出ることが出来るのです；即ち若者たちが現在の困難を乗り越えて、明日の指導者になれる様に応援する；国境を越えた奉仕の協力的態勢を発展させる；またポリオ撲滅に関する私たちの誓約を完遂する、など…

私たちのクラブや地区内でも、私たちは身辺地帯の改善から、更に広い地域社会に対する力強い貢献に到るまで、さまざまな方策があります。

私たちは新しいプログラムやプロジェクトを作る必要はありません；私たちは現在あるものに一層多く関わりを持ち、直接自分で手をつけることに、今すぐ取りかかれるのです。奉仕というものが愛の真心から発し、自分の経験に裏打ちされている限り、私たちは単なる小切手を書くのではありません；私たちは自分の人生にロータリーを書きこむのです。

私の願いは、2002-03年度、真実ロータリー奉仕の喜びをすべてのロータリアンに直接味わって頂くこと

その喜びは、あなたの指導に従ってひたすら読み方を覚えようと、勉強に熱中している子供から来るかも知れません。それはまた、あなたの地区が開発した小規模融資計画のお蔭で、子供を養える様になった仕合わせな母親を目のあたりにした時に得られるものかも知れません。あるいはまた、あなたのクラブが先鞭をつけた職業訓練プロジェクトによって、生産的な仕事に就くことが出来た男女の誇らしげな顔を見て覚える喜びかも知れません。

奉仕の喜びの極致を実感する道は、それこそ様々でしょうが、何れにせよ、それには私たちの時間と能力を全面的に捧げなければなりません。ロータリーにこんな投資をしても、あなたは決して後悔する破目にはならぬ、と私は保証します。ひとたびあなたが、他の人々の生活を変え、彼等に希望をもたらして絶望の淵から救い出し、冷淡な風潮に慈愛を吹きこむ、という機会を経験すれば、あなたは自分がロータリアンであることの意義を十分に感得するでしょう。

2002-03年、ロータリーを簡素に、と私はロータリアンを激励する

実際問題として、ロータリーの奉仕の理想は、その手段、方法の多様性によって、どの様にも解釈出来ます。それをこれ以上複雑にする必要はありません。ロータリーは他人に対する奉仕を通じての親睦という機会を提供するものです。この心に訴える単純な呼びかけが、男女を動かし奮い立たせるのです。

慈愛の種を播けば、その幾つかは殆どすぐにも芽を出し始めるでしょう。そして野の花の様に、自分で種を飛ばし、大気の流れに乗って慈愛を播き広めることが出来るのです。また残りの種は、もう少し育成に時間がかかるでしょう。然しこの種を慈愛献身のロータリーの行動に浸しこめば、必ず人道的奉仕という大豊作の収穫が得られる、ということをお断り保証します。

何処に慈愛の種を播くのか？ どうすれば最も効果的か？

機会はあなたの周り、到る所にあります。

まず最初に、自分のクラブに慈愛の種を播く

良いクラブの親睦とは、会員同士が相手に対して示し合う慈愛と関心の上に成立つものです。あなたは同僚ロータリアンについてどれだけ良く知っていますか？ もっとよく知ろうと努めてみましょう。相手の家族のこと、仕事のこと、また相手の希望や夢についてもっと学びましょう。あなたのクラブに暖かい歓待の雰囲気があれば、専門職や管理職の新人を引き入れ、今の会員達を巻き込んで、これを活性化することが出来ます。強力なクラブ奉仕というロータリーの基本原則を復活させることによって、ロータリーの原点に立ちもどりましょう。

自分の職場に慈愛の種を播く


今日のグローバル化した経済取引の市場は度外れて没人間的なものになっています。人々は協力し加勢してくれる専門的人脈との結びつきを必要としているのです—言うまでもなくそれこそロータリーの理想に対する品質保証でもあります。もしあなたが慈愛の種を社員、顧客、競争相手に播けば、破壊的過当競争を終結させ、ロータリーが信奉する高度の道徳的水準を維持することが出来るでしょう。

地域社会に慈愛の種を播く

これは、クラブ会員の知識、技能、個人的興味を十分に活用し、野心的な奉仕プロジェクトを開発することによって出来るでしょう。その様な意義深いプロジェクトを通じてロータリアンは、クラブ活動に慈愛という個人的スタンプを押すことが出来ます。そしてまた、それがロータリー奉仕活動の価値を完全に発揮することにもなります。私たちの播いた種が私たちの地域社会で育ち始めるにつれて、他の地域社会も私たちの尽力に与りたいと願ってくるでしょう—そしてロータリーもまた成長してゆくのです。

そして最後に、世界に慈愛の種を播く

慈愛無くしてこの苦難に満ちた世界に平和をもたらすことなど望むべくもありません。ロータリアンとして私たちは、国際親善奨学生、研究グループ交換チーム、ロータリー・ボランティアを通じて慈愛の種を播くことが出来ます。私たちはまた、飢えた人々に食を与え、病める人を治療し、ホームレスに簡易宿泊施設を与えるなどして、海を越え国境を越えて慈愛を注ぐことが出来ます。ロータリーを通じて実現される清潔な飲み水、身近かな健康管理、世界の子供達に対する教育、そして全人類に対する基本的生存条件の充足ということ、その中に私たちの慈愛は自ずから光り輝くのです。



ビチャイ・ラタクルRI会長略歴

(タイ、バンコク、トンプリ・ロータリー・クラブ)

ビチャイ・ラタクル氏は、バンコクと香港で教育を受け、バンコクのラムカムヘーン大学ならびにカリフォルニア州のケンジントン大学で政治学の名誉博士号を取得しました。

1969年よりタイ議会の議員として9期を務め、民主党の指導者、外務大臣、副首相、下院の議長および委員長を歴任。第13回アジア・オリンピック組織委員会の委員長も務めました。これまでにタイの国王から最高位の栄誉、日本の天皇、フィリピン、韓国、オーストリアおよびニカラグアの大統領から数々の勲章を受賞しています。ラタクル氏とラタクル夫人には、3人の子供と5人の孫がいます。氏の楽しみは、園芸、ゴルフ、読書です。

1993-94年度
RI国際大会委員会委員長
1990-92年度
国際ロータリー理事
1991-92年度
理事会、執行委員会委員長
1985-86年度
ロータリー財団管理委員

船出にあたり



小林博ガバナーへの激励の詞

直前ガバナー（札幌南RC） 岩城秀晴

新世紀も一歩踏みこんだ2002-2003年度の小林博ガバナーの就任に際し、心からなる激励とともにお祝辞を申し上げます。

ロータリーの役職については1年の原則があり、マンネリ化を排除するとともに、常に新しい思考の導入による組織の活性化を図ることが要請されておりますが、特に地区におきましては単独決議機関であり、地区委員会はガバナーの諮問機関でありまして、決議機関ではないので地区委員会が決議し独自に行動することはできないのです。地区管理における決議機関は、ガバナーが唯一機関の人でありますので、ロータリーの地区運営にとっては不可欠の人であります。

21世紀に入った最初の年度、キングRI会長のテーマは「人類が私たちの仕事」でありました。この世界における人類が自らの人世において真の幸福を得、他の人々を援助するロータリアンこそ真のロータリアンである、これが私たちの仕事として捉えようとしたもの

でありました。2002-2003年度はラクタルRI会長のテーマ『慈愛の種を播きましょう』でありますから、未来に向けてロータリーがどのように育つかが大切なことになるわけです。ロータリーには多くの夢があり、大きなロマンがあるわけですから、大きく大きく育てて欲しいと希望する者の一人として、小林博ガバナーにご尽力願いたいと存じます。

小林ガバナーにおかれましては、医学者としての卓越した識見をお持ちでありますし、ロータリー歴におきましてもGSE委員長として、また国際奉仕委員長としてもご活躍戴いたご経験もありますので、ロータリーには十分なお見識を有されていると思います。しかしながら、ガバナーの職務は激務でございますので、ご健康についてはご配慮戴きたいと存じます。

どうかこれからの1年間を楽しくご精励賜ります事をご祈念致し、激励の詞と致します。

直前ガバナーへの謝辞

ガバナー（札幌北RC） 小林 博

この一年間、この地区の責任者としてご尽力下さいました岩城秀晴現ガバナーに対する謝辞を申し上げます。

岩城ガバナーはたまたま地区大会が1年に2度行われる変換期にあたり大変ご多忙のなかご苦労が多かったと思います。しかも71クラブをつぶさに公式訪問されましたご努力は大変なものであったと想像致します。お車をご自分で運転され、奥様に助手席に座っていただき記録などの執筆の手伝いもお願いしていたとお伺いしております。

沈着冷静、岩城秀晴現ガバナーのお人柄もあって、この地区にロータリー精神の具現化に着実な一歩を築

かれました。これは地区の長い歴史のなかにあって永遠に語り継がれていくことでしょう。

岩城ガバナーは6月いっぱい任期を満了されるわけですから、地区協議会の今日、こうやって地区のロータリアンの皆様方と直接お会いされるのは最後の機会かもしれません。そういった意味で今日、岩城ガバナーご夫妻、そして地区幹事の皆様方に心から御礼を申し上げ、皆様ともども拍手をもってお礼の言葉に替えたいと思います。簡単ながら心から御礼申し上げます。本当に有難うございました（地区協議会での直前ガバナーへの御礼の言葉より）。



ご挨拶

国際ロータリー第2510地区 ガバナーエレクト
(千歳RC) 佐藤秀雄

私は、千歳ロータリークラブの会員です。千歳ロータリークラブ創立35周年を迎えるに当たり、名誉ある地区ガバナーエレクトにご指名を受けたことは慶びにたえないところであります。

国際ロータリーを取り巻く環境は、大変厳しいものがあります。全世界的に会員を減らし、それに伴う予算、財団寄付が減少し、それに引き換え一般経費は増え続けているのが現状ではないでしょうか。

我が国がデフレ経済下にあって、思い切った行財政改革、構造改革と経費の節減に努力されています。

我が地区においても、その必要性を痛感しています。今年度小林ガバナーは、このことにつき真剣に取り組んでおられます。

先達ガバナーが築き上げたすばらしい国際ロータリー第2510地区を汚さないよう改革の努力をしたいと思

っています。

人口を比較いたしますと千歳市は札幌市の1つの区の3分の1にも満たない小さな都市ではありますが、その中の小さなクラブは小さななりにロータリーの「何か」を発信出来るものがあればと望んでいます。

私は、ロータリーに入会し20有余年経過いたしました。ガバナーエレクトのご指名を受け、いま、あらためて自分の勉強不足を感じながら、この挨拶文を書いています。

どうか、先輩ガバナーの皆様、会員の皆様好意と友情と世界平和の限りなき探求を基本理念に活動している国際ロータリー精神に基づき、暖かいご支援を御願いたします。

広告の募集

本年度の月信に「広告」を募集いたします。皆様の職業紹介・企業紹介に是非ご利用下さい。料金は全ページ10万円で1コマを1万円と致します。広告収入は月信の製作補助金並びに地区会員名簿等の補助金に使いたく考えております。広告掲載の詳細のお問い合わせはガバナー事務局（TEL011-219-2510）までお願い致します。

(月信編集委員会)

YOSAKOIソラン 今年も大通を舞台にはじまった。ガバナー事務局（大通西6 北海道医師会館）から見下ろしたところ（上）、下において見たところ（下）



ガバナー補佐挨拶



郷原徳之賊也

第1グループガバナー補佐
吉本 勲

郷原（キョウゲン）ハ徳ノ賊ナリ。『論語』にみる孔子の言葉である。徳の賊とは徳の反対物であり不徳を指す。それでは郷原とは何か。要するにこれは八方美人の事なかれの人物、誰からも愛され、自分でも正しいと信じている口先ばかりの内容空疎な俗物をいうのである。孔子が強い言葉で批難した郷原のような人物から、われわれロータリアンはいささかでも免れてやりたいものである。

（深川RC）



DLPの仕上げを

第2グループガバナー補佐
藤原 税

今年度、第2グループのガバナー補佐を務めることになりました藤原でございます。よろしくお願い申し上げます。地区リーダーシッププランも今年度が仕上げの年度と聞いており、その一例としてガバナー公式訪問は合同例会への訪問となり、クラブ協議会はガバナー補佐の担当ということになりました。この目的はガバナーの負担を軽減し柔軟性をもたせ且つクラブを活性化させようというものだそうですが所期の目的達成の為に皆様のご協力をお願いする次第です。

（赤平RC）



好意と友情を

第3グループガバナー補佐
辻野 修

2002-2003年度のガバナー補佐のご指名をいただきました辻野でございます。

ガバナー補佐の仕事は、言うまでもなくガバナーの意図、方針を正確にグループ内の各クラブに伝え、各クラブの活性化とグループ内の親睦を図る事でありませぬ。

元より私は、その器ではありませんが会員皆様の好意と友情と慈愛の心で何とかこの大役を務めたいと思っておりますので、特段のご支援をお願い申し上げ就任の挨拶といたします。

（当別RC）



意志の疎通を

第4グループガバナー補佐
村山 正

これからの一年間、できるだけガバナーの意を体して、グループ内各クラブの間で意志の疎通をはかり、親睦と友好を深めることに微力を尽くしたいと思います。

グループを構成する八つのクラブは、それぞれが異なった成り立ちと歴史を持ち、色々な価値観と伝統に基づいて、その運営を行っておられますので、先ずは、出来るだけメイクアップにお邪魔して、各クラブの実状を勉強させて頂くことから、仕事を始めたいと考えております。

（札幌RC）



会員の中継役として

第5グループガバナー補佐
角掛晴雄

昨年11月クラブ会長より突然、第5グループのガバナー補佐をとのコンタクトがあり、考えているうちに引き受けることになってしまい、この大役を私如きが遂行出来るかどうか、果たしてガバナーのお手伝いが出来るかどうかを考えると胃の痛くなる毎日です。しかし、一旦引き受けたからにはガバナーと会員の中継役として精一杯努力する所存です。ガバナーの足手まといにならぬよう頑張ります。

不勉強な私ですがこの際、今一度ロータリーを見直してみたいと思っております。

(札幌南RC)



形式にとらわれずに

第6グループガバナー補佐
近藤徹哉

ロータリークラブの創立-1905年当時の原点は、お互いに助け合いをし、各職業を認め、研鑽をして地域に奉仕をする事で、自分の職業が成り立つ。

今までの、ロータリー活動を根本から見直す時代にきました。と考えています。形式にとらわれず、質素で、そして内容の濃い-人間として何が幸せか？をこの1年間に本年度のテーマに乗って行動をしていく事が、急務と考えます。

会員の方と大いに語る機会を沢山持つように努力して、言葉を通じてお互いを認め合い尊敬する心を身につけていくことが、会員の増強に結び付く事と思えます。

出来るだけ、多く各クラブを訪問して、意見を述べる機会を各クラブ会員と持って、ディスカッションを多くします。退会防止策の一環となりますし、その目的は、信頼関係の構築を目指して、まず聞く耳をもって、事の対処に当たります。

いままでの慣例を根本から見直す時期にきていると思いますし、費用対効果の面でも経済界の動態を参考にしながら、少しずつ移行をすることが大切であると信じます。この1年浅学非才な私ですが、宜しくご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

(余市RC)



地域社会との関わりを

第7グループガバナー補佐
和田次彦

私たちの運動は、地域社会の最も徳性を重んじる企業人の日常の出会いの中から、自らの資質向上を図り、識見と判断力を増すなかで、より良い社会を求めることでもあります。と同時に私たちは「企業はそれ自体が市民権を有し、社会的役割を担った存在である」ということをしっかりと認識することが大切であると考えます。私たちのロータリークラブも又、同じなのであります。

よって今私たちに求められていることは、具体的活動を通して、より深く地域社会と関わりあうことでもあります。自己研鑽の場としてのロータリーと共に、よりアクティブな運動体としてのロータリークラブを目指したいと思えます。

(千歳セントラルRC)



ガバナーとのパイプ役

第8グループガバナー補佐
郷司公雄

ガバナー補佐を拜命して、このガバナー補佐の役割を私は、ガバナーとグループのパイプ役と理解しました。すなわち、この1年間ガバナーは地区の中で何を目標しているかを正しく理解し、グループに浸透させる。また、グループ内の各クラブが持つ悩みや活動を、ガバナーに正しく伝えることだと思っております。ロータリーの原点であります各クラブの発展が、地区の発展につながると思い、この役割を微力ですが担って行きたいと思っております。ご協力よろしくお願いたします。

(様似RC)



意思疎通の強化

第9グループガバナー補佐
斉藤修弥

ガバナー補佐の主な責務は担当クラブの管理運営に関して、ガバナーを支援することと明記されております。具体的には 1. ガバナーの公式訪問に関連してクラブ協議会に出席する。2. ロータリー年度の四半期に最低一回はクラブを定期的に訪問し、クラブ会長はじめクラブ指導者と会合すると規定されておりますので、この原則を遵守してガバナーと各クラブとの意思疎通の強化をはかり、以ってロータリー活動の活性化に寄与したいと願っています。

(室蘭RC)



意識変改と行動

第10グループガバナー補佐
遠藤哲二

第10グループ担当のガバナー補佐の大役を任命され、身の引き締まる思いとその責務を全う出来るのかとの危惧の念で一杯でございます。ビチャイ・ラタクルRI会長は「慈愛の種を播きましょう」とのテーマを高々と掲げ、小林ガバナーは「家庭に」、「クラブに」、「職場に」そして「地域社会から国際奉仕に」、「慈愛の種を播きましょう」と四つの目標を設定し、そのためには皆が充分話し合い、意識の変革もしなければなりません。何よりも行動を起こすことが大事である。との事でございます。

ガバナー補佐としての私の任務はRI会長とガバナーの方針を各クラブが実践していく様にする。又、各クラブの活動状況をガバナーに報告、そのクラブとして最も適切な活動をする様に促すなど、手助けする事にあります。

元より浅学非才でありますので皆様の御支援、御指導をいただき任を果たしたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

(函館RC)



融和を目指して

第11グループガバナー補佐
松見修二

ロータリーの目的を意識し、融和を目指して。

私は2000-01遠藤正之ガバナー年度に『クラブに新風と活力を』をクラブテーマにクラブ会長を終え、暫くは気持ちを楽にしていたところ、小林ガバナーより第11グループのガバナー補佐を拝命し大役を務めることに成り身の引き締まる思いが致します。

最近特に感じることは、急激な社会機構の変革がロータリーの理念と言う物差しでは計ることが困難になってきたのではないかと思います。

そこで、小林ガバナー年度のガバナー補佐として

1. グループ内の地域に密着した奉仕活動を実践しロータリーの目的を再認識することを進めたい。
1. グループ内の親睦活動に積極的に参加して、親睦を通じて各クラブの融和に努めたい。
1. 各クラブの訪問機会を出来るだけ多くし、ガバナーとクラブを繋ぐパイプ役に徹します。

浅学非才ではありますが、以上の3点を中心にこの1年間ガバナー補佐としての活動をして参りたいと思います。11グループ内6クラブの会員の皆様、宜しくご協力をお願い申し上げます。

(函館北RC)



組織は会員のために

第12グループガバナー補佐
川田憲秀

既予定者でありました、藤岡和男さんが体調が思わしくなく、急遽交代いたしました。

ロータリークラブの長い歴史が、様々な形式を続けてきましたので、なかなか改善することに時間がかかることは思いますが、21世紀のロータリーはこれまでの、スタイルを継続しては、会員数は減少するばかりです。すこしでも、改善できるとすれば、小林年度しかないと確信しました。1905年ポールハリスがロータリーを創設したアメリカ社会に、今の日本が極めて似ている……弱肉強食の経済連合が先行しているのです……地域社会の公正な経済活動の必要性や社会的弱者のための活動の火を消してはならない……こんな、点を強調することが大切だと思います。組織は会員のために2002～2003はこれが、強調できて、ロータリーを変えることができるラストチャンスかもしれません。

(白老RC)

グループ	氏名	勤務先・役職	勤務先所在地	TEL	FAX
	所属クラブ	職業分類	自宅住所		
1	吉本 勲 (深川)	(医)厚北会吉本病院 理事長・院長	〒074-0003 深川市3条25番19号	0164-22-7130	0164-22-7132
		私立病院	〒074-0002 深川市2条25番19号	0164-22-1566	
		(ガバナー補佐室)	〒074-0003 深川市3条8番25号 (株しまの内)	0164-22-3261	0164-22-3454
2	藤原 税 (赤平)	川本運輸(株) 代表取締役社長	〒079-1101 赤平市共和201-16	0125-32-2177	
		プレス機械	同上	0125-32-2324	0125-32-0128
3	辻野 修 (当別)	(株)辻野商店 代表取締役会長	〒061-0224 石狩郡当別町末広町380	01332-3-2035	01332-3-3591
		穀物販売	〒061-0224 石狩郡当別町末広町380-1	01332-3-4123	
4	村山 正 (札幌)	北海道自動車短大 学長	〒062-0922 札幌市豊平区中の島2条6丁目2-1	011-821-1207	011-821-7300
		機械工学教育	〒064-0944 札幌市中央区円山西町8-6-1	011-621-8055	011-621-8055
5	角掛晴雄 (札幌幌南)	角掛産婦人科 院長	〒062-0903 札幌市豊平区豊平3条7丁目2-10	011-811-5665	011-821-5368
		産婦人科医	〒062-0903 札幌市豊平区豊平3条8丁目1-50-306	011-823-5208	
6	近藤徹哉 (余市)	(有)みどりや 代表取締役	〒046-0001 余市郡余市町栄町8	0135-22-4747	0135-23-4915
		レストラン	〒046-0003 余市郡余市町黒川町15-22-9	0135-22-4423	0135-23-8338
7	和田次彦 (千歳セントラル)	(有)エスプラザ 代表取締役	〒066-0063 千歳市幸町4丁目30番地の1	0123-22-6885	0123-23-5941
		ビル管理	〒066-0065 千歳市春日町5丁目5-7	0123-23-5148	
8	郷司公雄 (様似)	様似郵便局 局長	〒058-8799 様似郡様似町錦町6番6号	01463-6-2470	01463-6-4746
		通信事業	〒058-0032 様似郡様似町西町99-1	01463-6-2876	
9	斎藤修弥 (室蘭)	(医)斎藤外科医院 院長	〒051-0011 室蘭市中央町2丁目7-17	0143-23-1411	0143-24-3599
		整形外科医	同上	0143-22-1415	
10	遠藤哲二 (函館)	遠藤歯科医院 院長	〒040-0053 函館市末広町18-9	0138-22-3718	0138-23-3718
		口腔外科医	同上	0138-23-1618	
11	松見修二 (函館北)	(株)北匠建築設計事務所 代表取締役	〒041-0853 函館市中道1丁目14-1	0138-51-1650	0138-51-1571
		建築設計	〒041-0841 函館市日吉町3-5-17	0138-54-7012	
12	川田憲秀 (白老)	(株)川田商会 代表取締役	〒059-0921 白老郡白老町石山15番地	0144-83-6111	0144-83-6641
		石油販売	〒059-0914 白老郡白老町栄町2丁目3番23号	0144-85-9900	

財団法人札幌がんセミナー (Sapporo Cancer Seminar Foundation)

がんの解決を目的にがんの国際会議が1981年から夏に、またがんの臨床にかかる全国会議が1987年から冬(雪まつりの頃)に毎年札幌で開催されている。既に二十余年の歴史をもち2千数百名の内外の研究者が参加した。理事長は小林博 北大名誉教授。ほかに面接によるがんのボランティア相談を電話予約のうえ実施している。時間は9:00am-5:30pmの間。

資料請求ほか連絡は下記財団事務所宛。ここはRI 2510地区のガバナー事務所 (TEL:011-219-2510) と現在共同利用中である。

連絡先: 札幌市中央区大通西6丁目6 北海道医師会館6階

TEL:011-222-1506/FAX:011-222-1526/E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp

URL:http://www.phoenix-c.or.jp/scs-hk/

広告



RI会長	ピチャイ・ラタクル
RI理事	飯橋 敏雄
	菅生 浩三

地区研修リーダー	西條 正博 (札幌 PG)
----------	---------------

地区ガハナー	小林 博 (札幌 北)
--------	-------------

地区ガハナー・エレクト	佐藤 秀雄 (千 歳)
-------------	-------------

国内委員会	
米山記念奨学会	ロータリーの友委員会
理事 伊藤 長英 (小牧北)	地区委員 佐藤 公 (札幌 北)
評議員 小林 博 (札幌 北)	役員 山田 信夫 (小笠原 北)
評議員 戸井 敏夫 (札幌 南)	
	DICO

ガハナー顧問委員会 指名委員会	地区ガハナー補佐	地区幹事	地区役員部門	地区財務委員会	地区サーナム研修セミナー	会長エレグロト研修セミナー	地区行事部門	地区大会	地区リーダーシップセミナー
伊藤 義郎 (札幌 南) 富田 清 (札幌 南) 竹山 清一郎 (札幌 南) 河部文一郎 (札幌 南) 大橋 康次 (札幌 東) 日石 欽一 (札幌 東) 富山 雅夫 (留 札 北) 富原 薫 (札幌 北) 野口 信夫 (小 樽 北) 石垣 博美 (小笠原 北) * 伊藤 長英 (小笠原 北)	第1グループ 吉本 勲 (深 川) 第2グループ 藤原 税 (保 体) 第3グループ 辻野 修 当 (札幌 東) 第4グループ 村山 角仙 (札幌 東) 第5グループ 近藤 憲成 (京 市) 第6グループ 和田 次彦 (札幌 南) 第7グループ 藤田 公雄 (札幌 南) 第8グループ 高橋 修次 (札幌 東) 第9グループ 高橋 修二 (函 館 北) 第10グループ 遠藤 修一 (函 館 北) 第11グループ 松見 壽秀 (札幌 東) 第12グループ 川田 憲秀 (札幌 東)	代表幹事 菅原 耕治 (札幌 北) 幹事 木村 修 (札幌 北) 幹事 河野 英夫 (札幌 北) 幹事 朝谷 滿 (札幌 北) 幹事 竹原 道男 (札幌 北) 幹事 山田 豊 (札幌 北) 幹事 脇田 次彦 (札幌 東)	代表幹事 菅原 耕治 (札幌 北) 幹事 木村 修 (札幌 北) 幹事 河野 英夫 (札幌 北) 幹事 朝谷 滿 (札幌 北) 幹事 竹原 道男 (札幌 北) 幹事 山田 豊 (札幌 北) 幹事 脇田 次彦 (札幌 東)	委員長 杉下 清次 (札幌 北) 委員 大西 大 (札幌 北) 委員 島津 宏典 (札幌 南) 委員 福田 武男 (千 歳)	菅原 耕治 (札幌 北) 大田 すすみ子 (札幌 北) 河野 英夫 (札幌 北) 朝谷 滿 (札幌 北) 船谷 悠 (札幌 北) 藤田 豊 (札幌 北) 菅原 耕治 (札幌 北) 大田 すすみ子 (札幌 北) 河野 英夫 (札幌 北) 朝谷 滿 (札幌 北) 山田 道男 (札幌 北) 藤田 豊 (札幌 北) 菅原 耕治 (札幌 北)	菅原 耕治 (札幌 北) 大田 すすみ子 (札幌 北) 河野 英夫 (札幌 北) 朝谷 滿 (札幌 北) 船谷 悠 (札幌 北) 藤田 豊 (札幌 北) 菅原 耕治 (札幌 北)	ホスト・札幌賛助PRC ホスト・RC会長 片岡 孝夫 ホスト・RC副会長 小林 孝夫 ホスト・RC委員 小野 忠 副委員長 小野 忠 副委員長 福田 十太郎 副委員長 深浦 信吾 副委員長 大西 康秋 幹事 長太 高橋 義雄 幹事 徳登谷美重子 幹事 阿部 弘 SAA 阿部 謙司 SAA 藤田 健 会計 大西 敬	担当 米山 道男 (札幌 北) 菅原 耕治 (札幌 北) 竹原 薫 (札幌 北) 大田 すすみ子 (札幌 北) 河野 英夫 (札幌 北) 朝谷 滿 (札幌 北) 大田 すすみ子 (札幌 北) 河野 英夫 (札幌 北) 朝谷 滿 (札幌 北) 船谷 悠 (札幌 北) 藤田 豊 (札幌 北)	担当 米山 道男 (札幌 北) 菅原 耕治 (札幌 北) 竹原 薫 (札幌 北) 大田 すすみ子 (札幌 北) 河野 英夫 (札幌 北) 朝谷 滿 (札幌 北) 大田 すすみ子 (札幌 北) 河野 英夫 (札幌 北) 朝谷 滿 (札幌 北) 船谷 悠 (札幌 北) 藤田 豊 (札幌 北)

孤大委員会	増強委員会	クラブ奉仕委員会	職業奉仕委員会	社会奉仕委員会	奉仕部門	増強委員会	情報委員会	情勢委員会	文獻資料室
伊藤 長英 (小笠原 北) 森本 正夫 (札幌 西) 遠藤 正之 (札幌 南)	吉本 勲 (札幌 南) 藤原 税 (深 川) 辻野 修 当 (札幌 東) 村山 角仙 (札幌 東) 日石 正 (札幌 南) 角井 晴彦 (札幌 南)	◎ 富原 利臣 (札幌 南) ◎ 神代 近藤 (札幌 南) 金子 全子 (札幌 南)	◎ 野口 公治 (札幌 南) ◎ 富田 全子 (札幌 南) 夏井 博 (札幌 南) 高田 栞 (札幌 南)	◎ 対木 彩江 (札幌 南) 中野 智 (札幌 南) 菅原 剛 (札幌 南) 菊地 芳彦 (小笠原 北)	◎ 伊藤 長英 (小笠原 北) ◎ 森本 正夫 (札幌 西) ◎ 遠藤 正之 (札幌 南)	◎ 岩城 勲 (深 川) ◎ 藤原 税 (保 体) ◎ 辻野 修 当 (札幌 東) ◎ 村山 角仙 (札幌 東) ◎ 日石 正 (札幌 南) ◎ 角井 晴彦 (札幌 南)	◎ 佐藤 公 (札幌 北) ◎ 菅原 薫 (札幌 北) ◎ 山名 善久 (札幌 南) ◎ 山田 信一 (札幌 南) ◎ 山本 雅昭 (函 館 北) ◎ 青藤 元雄 (札幌 東) ◎ 山名 善久 (札幌 南) ◎ 坂井 治 (札幌 南)	◎ 山田 信夫 (小笠原 北) ◎ 野田 富夫 (札幌 南) ◎ 光枝 健三 (札幌 南) ◎ 藤瀬 保男 (札幌 南) ◎ 丸山 雄一 (札幌 南)	◎ 湯原 房樹 (札幌 東) ◎ 小田切房之 (札幌 東) ◎ 野田 雅彦 (札幌 南) ◎ 佐々木 雅彦 (札幌 南) ◎ 藤瀬 保男 (札幌 南) ◎ 丸山 雄一 (札幌 南) ◎ 藤瀬 保男 (札幌 南)

地区委員会		青少年部門	青虎部門	情報部門				ライラ委員会				米山学友委員会	
		増進委員会	国際親善奨学委員会	開校50周年記念委員会	財団学友委員会	補助委員会	ロータリー交換委員会	ロータリー交換委員会	青少年交換委員会	ライラ委員会	米山学友委員会		
◎ 若狭 吉龍 (札幌 北) 大星 孝幸 (札幌 北) 佐藤 宏 (札幌 東) 大村 孝男 (千 歳)		◎ 土橋 健一 (札幌 東) 丹羽 祐男 (札幌 南) 戸部アキラ (札幌 東)	◎ 山名 善久 (札幌 南) 武藤 芳明 (小樽 北) 高橋 和正 (札幌 南)	◎ 山名 善久 (札幌 南) 武藤 芳明 (小樽 北) 高橋 和正 (札幌 南)	◎ 藤谷 裕 (札幌 南) ◎ 藤谷 裕 (札幌 南) ◎ 藤谷 裕 (札幌 南)	◎ 伏木 忠 (札幌 西) 阪田 隆志 (千 歳) 阪田 元弘 (札幌 西)	◎ 中塚 力 (函 館 南) ◎ 今井 孝一 (札幌 東) ◎ 柳 幸一 (札幌 東) ◎ 宇野 啓隆 (札幌 南) ◎ 小川 運 (函 館 北) ◎ 沢谷 賢治 (函 館 北)	◎ 山田 信夫 (小笠原 北) ◎ 野田 富夫 (札幌 南) ◎ 光枝 健三 (札幌 南) ◎ 藤瀬 保男 (札幌 南) ◎ 丸山 雄一 (札幌 南)	◎ 菅原 薫 (札幌 北) ◎ 山本 雅昭 (函 館 北) ◎ 青藤 元雄 (札幌 東) ◎ 山名 善久 (札幌 南) ◎ 坂井 治 (札幌 南)	◎ 清水 龍子 (函 館 南) ◎ 玉木 弘孝 (札幌 北) ◎ 長瀬 勇男 (札幌 南) ◎ 渡邊 哲則 (札幌 南) ◎ 加藤 康子 (札幌 南) ◎ 明田 明徳 (札幌 南) ◎ 目黒 幸隆 (札幌 南) ◎ 山内 初郎 (上 越 南) ◎ 馬場 信吾 (上 越 南) ◎ 坂口 運也 (札幌 南)	◎ 見延三郎 (小樽 南) ◎ 高橋 紀幸 (札幌 北) ◎ 笠原 勇一 (札幌 東) ◎ 工藤 龍也 (札幌 北) ◎ 野村 幸平 (函 館 南) ◎ 斎田 義孝 (小樽 南)		

C: カウセーラー ◎委員長

地区リーダーシッププラン(DLP)の完全実施にむけて

このプランは、ご承知のとおりガバナーの負担を出来るだけ減らし地区の運営はガバナー補佐に分担していただこうという趣旨である。今年度、12グループのガバナー補佐はじめ71クラブ会長・幹事のご協力をいただき、ガバナーの公式訪問は従来の個々のクラブの訪問ではなく下記のような合同例会の公式訪問となった。この新しい試みにご協力をお願いします。

No.	月日	クラブ名	例会		会長幹事懇談会	担当ガバナー補佐	No.	月日	クラブ名	例会		会長幹事懇談会	担当ガバナー補佐		
			時間	会場						時間	会場				
1	7/21(日)	上磯	12:30	江差	11:30~	⑪松見修二	14	9/3(火)	小樽	12:30	小樽 グランドホテル	9:00~9:45	⑥近藤徹哉		
		小樽南							10:00~10:45						
		小樽銭函							11:00~11:45						
2	7/22(月)	函館	12:30	函館ホテル オークランド	11:00~	⑩遠藤哲二 ⑪松見修二	15	9/4(水)	札幌はまなす	7:30	センチュリー ロイヤルホテル	8/27(火)17:00 センチュリーロイヤルホテル	④村山 正		
		札幌モーニング							9/3(火)16:00 G事務所						
		江別							12:30			江別 市民会館		11:30~	③辻野 修
		江別西 当別													
3	7/23(火)	栗沢	12:30	栗山パラダイス ヒルズホテル	11:30~	③辻野 修	17	9/7(土)	余市	12:30	余市 ホテル水明閣	9:15~9:55	⑥近藤徹哉		
		栗山							10:00~10:40						
4	7/24(水)	札幌	12:30	札幌 グランドホテル	11:30~	④村山 正	17	9/7(土)	倶知安			10:45~11:25			
		蘭越							11:30~12:10						
5	7/26(金)	苫小牧	12:30	苫小牧 グランドホテル ニュー王子	9:30~10:10	⑫川田憲秀	18	9/10(火)	札幌西	12:30	札幌 後楽園ホテル	11:00~ ガバナー事務所	④村山 正		
		苫小牧北			10:15~10:55										
		苫小牧東			11:00~11:40										
		白老			11:45~12:25										
6	7/30(火)	深川	18:00	深川 プラザホテル 板倉	15:55~16:40	①吉本 勲	19	9/12(木)	千歳	12:30	千歳 全日空ホテル	11:00~	⑦和田次彦		
		妹背牛			16:45~17:30										
7	8/6(火)	七飯	18:30	大沼 プリンスホテル	17:00~	⑩遠藤哲二	20	9/13(金)	羽幌	18:00	サンセットプラザ 羽幌	15:05~15:50	①吉本 勲		
		森							15:55~16:40						
		長万部							16:45~17:30						
8	8/20(火)	浦河	12:30	浦河 ウエリントン ホテル	9:30~10:15	⑧郷司公雄	21	9/21(土)	岩見沢	18:30	岩見沢 サンプラザ	17:30~	③辻野 修		
		様似			10:20~11:05										
		えりも			11:15~12:00										
9	8/21(水)	静内	12:30	静内	10:20~11:05	②藤原 税	22	10/17(木)	滝川	18:30	滝川 ホテルスエヒロ	16:30~	②藤原 税		
		三石			11:15~12:00										
10	8/27(火)	芦別	12:30	赤平 交流センター 未来	10:30~	②藤原 税	22	10/17(木)	砂川	18:30	札幌幌南	10/11(金) G事務所	⑤角掛晴雄		
		赤平							幌南)15:00 清田)15:45 真駒内)16:30 大通公園)17:15						
11	8/28(水)	室蘭	12:30	室蘭 蓬萊殿	8/28(水) 時間未定 (クラブ毎)	⑨斎藤修弥	23	10/18(金)	札幌清田	12:30	サッポロ ルネッサンス ホテル	11:45~	⑦和田次彦		
		札幌真駒内													
		札幌大通公園													
		札幌南													
12	8/29(木)	伊達	12:30	伊達 ロイヤルホテル	11:30~	④村山 正	25	10/23(水)	恵庭	18:30	キャッスル 恵庭	17:00~	⑦和田次彦		
		北広島													
長沼	14:00~														
13	9/2(月)	札幌北	12:30	センチュリー ロイヤルホテル	11:30~	④村山 正	26	10/31(木)	札幌東	12:30	札幌 ロイヤルホテル	15:00~	⑤角掛晴雄		
		新札幌							14:00~						

指導力の持続 —1999年国際協議会におけるRI会長エレクト カルロ・ラビッツァさんの講演から ガバナー 小林 博

重要な意志決定は

ロータリーは単年性か継年性かということがある。1人のガバナーが、1年ぼっきりで勝手なことをやってもいいのか、或いは継続的に何年も続けてやらなければいけないのか。もちろん物事による。非常識な企画であれば続くわけでもないし、素晴らしい企画なら黙っていても継続するであろう。

1999年の国際協議会におけるRI会長エレクトのカルロ・ラビッツァさんがロータリー2000年の課題「指導力の持続」というテーマで素晴らしい講演をしている。

カルロ・ラビッツァ氏がRIの会長ノミニーになったとき、彼はグレン・キンロスRI会長に呼ばれ、レイスィー会長エレクトと3人一緒に重要な意思決定をするように誘われた。これはロータリーにとって歴史的な瞬間であったという。

それまでは単年性で、一人ひとりのRI会長の判断で進められ、重要な決定がRI会長エレクト或いは会長ノミニーと相談されることはなかった。

「ガバナーのみなさん一人ひとりが2人の後任者と3

頭制を築くようお願い致します。最高責任者が毎年変わる企業を想像してみてください。この1年交代性のロータリーが94年間生き残れたのは、幸運としか言いようがありません」。

賢明なる変化を

カルロ・ラビッツァ氏はロータリーの創始者ポール・ハリスの言葉を引用している。「物事は年を経るにつれ、慣行化します。伝統が理性の行使を阻みます。今まで、いつもこうだったからという理由だけで価値のないものや不合理なものが続けられます。かつては存在理由があったとしても、もはや存在理由がないことが明らかであっても、誰もあえて前例を破ろうとはしません。」

以上の言葉は、ロータリーを変化のない千年一日の如き団体としたいたくない私達に語りかけております。創始者ポール・ハリスは賢明なる変化の必要性を認識していたのです。(貴重な資料提供の野口信夫パストガバナーに深謝いたします)

■■■■■■■■■■ 「識字率向上月間」 について ■■■■■■■■■■

アジア・太平洋19か国の識字率の比較 各国の男女別成人識字率 (1995年)

	国名	成人女子	成人男子
1	モルジブ	95.2%	95.3%
2	フィリピン	93.8%	94.4%
3	タイ	92.0%	96.3%
4	ベトナム	87.7%	94.7%
5	スリランカ	86.8%	93.7%
6	マレーシア	79.4%	89.4%
7	インドネシア	77.8%	89.7%
8	ミャンマー	77.7%	88.2%
9	モンゴル	77.2%	88.6%
10	中国	72.7%	89.9%
11	イラン	63.0%	78.8%
12	パプアニューギニア	62.7%	81.0%
13	ラオス	44.4%	69.4%
14	インド	37.6%	65.5%
15	ブータン	28.1%	56.2%
16	バングラデシュ	26.1%	48.8%
17	パキスタン	23.7%	53.6%
18	ネパール	18.6%	53.5%
19	アフガニスタン	16.0%	46.2%
	平均	59.9%	79.3%

注1) 識字率はユネスコ統計年鑑(1998年)に基づいています。
注2) グラフは、女性の識字率の高い順に並べられています。

我々は、文字と数字の世界に生きている。もし、文字が読めない、書けない、計算が出来ないとしたら、我々の生活はどうか。貧困から抜け出し、人間らしく暮らす事など出来ないと思う。社会から置き去りにされ、生計の総てを失い、飢餓と貧困の状態となり、貧困は更に人々の学習の機会を奪ってしまうというように、非識字は悲惨な悪循環を生み出すことになる。1997～1998年度キンロスRI会長は「飢餓と貧困は、この世における様々な悪の根源である。飢餓と貧困との戦いを開始しよう。飢餓や貧困のない世界、みんなが文字の読み書きや計算が出来る世界、これらを実現するために、ロータリアンが先頭に立たなければならない」とのメッセージを出し、こうして1997～1998年度RI理事会は、識字率向上をRIの強調事項とし、2005年まで続ける事を決定し、7月をRIの一番新しい特別月間とした。

現在、非識字者は約10億人とも言われ、その4分の3はアジア人であるとされている(左表を参考に)。識字率はとくにアフガニスタン、ネパール、パキスタンなどの女性に極端に低い。発展途上国には1億数千万人の就学年令児が生まれ、更に、自分の仕事を果たす事が出来ない機能的非識字者が数百万人と推定されている。

ロータリーでは、非識字が原因でおこる社会的、経済的損失・損害に注意をはらい支援して行こうと「ライトハウスプロジェクト」のように、地域社会共同隊、世界社会奉仕、ロータリーボランティアその他の既存プログラムを通して識字率向上に取り組んでいる。(RIの刊行物：「識字率を高めるロータリー」、「ロータリーの友」掲載の関連記事などを参照。編集委員 熊谷 満)



No.	名称	所在地	TEL	FAX	送金の目的・種別	銀行振込口座
1	国際ロータリー	Rotary International One Rotary Center 1560 Sherman Avenue Evanston, Illinois 60201 U.S.A.	1-847-866-3000	1-847-328-8554 または 1-847-328-8281	特記事項 1. ロータリーレートはRIより連絡があります。円に換時の端数は送金合計金額で切り上げて処理して下さい。 2. 振込手数料は各クラブにてご負担願います。 3. 送金期限を厳守願います。	
2	ロータリー財団	The Rotary Foundation One Rotary Center 1560 Sherman Avenue Evanston, Illinois 60201-3698 U.S.A.	寄付増進関係 1-847-866-3222 人道的プログラム 1-847-866-3304	1-847-328-5260 1-847-866-1894		
3	国際ロータリー 日本事務局	〒115-0045 東京都北区赤羽2-51-3 NS3ビル1階	奉仕室 03-3903-3161 財団室 03-3903-3192 経理室 03-3903-3183 資料室 03-3903-3194	全室共通 03-3903-3781	国際ロータリーへの振込 (人頭分担金、比例人頭分担金、新クラブ加盟申請金、世界社会奉仕活動金、TheRotarian誌購読料、資料代)	三井住友銀行 新宿御苑支店 普通預金 6733244 国際ロータリー日本事務局 事務局長 大島四郎
					ロータリー財団への寄付	三井住友銀行 本店営業部 普通預金 0968049 国際ロータリー日本事務局 事務局長 大島四郎
					ロータリー財団への寄付 税制上の優遇措置扱い分	東京三菱銀行 本店 普通預金 1528228 国際ロータリー日本事務局 事務局長 大島四郎
					米ドル建振込	三井住友銀行 新宿御苑支店 普通預金 0000167 国際ロータリー日本事務局 事務局長 大島四郎
4	第2510地区 ガバナー事務所	〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会館6F	011-219-2510	011-222-1526	一般地区資金 特別地区資金 ガバナー月信購読料 国際ロータリー2004年 国際大会協力金	北海道銀行 本店営業部 普通預金 2571382 国際ロータリー第2510地区 ガバナー事務所 会計 杉下清次
5	ロータリーの友 事務所	〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館8F	03-3436-6651	03-3436-5956	ロータリーの友購読料	三井住友銀行 浜松町支店 普通預金 6326314 ロータリーの友事務所
6	ロータリー 米山記念 奨学会	〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館8F	03-3434-8681	03-3578-8281	普通寄付 特別寄付	三井住友銀行 京橋支店 普通預金 0920373 ロータリー米山記念奨学会

報告事項	報告書式・方法およびその時期	報告先
半期報告	書類はRI日本事務局から直接次期幹事へ送付されます。 a. 半期報告 b. 会員リスト 2002年7月1日、2003年1月1日付けでRI事務総長宛で送付して下さい。	RI日本事務局 写-ガバナー事務所
国際ロータリー取り扱い分・送金明細書 (人頭分担当金・比例人頭分担当金・資料代)	人頭分担当金・資料代-----2002年7月1日付で作成 (半期報告書) 2003年1月1日付で作成 比例人頭分担当金・資料代---2002年10月1日付で作成 (四半期報告書) 2003年4月1日付で作成	RI日本事務局 写-ガバナー事務所
新会員報告	書式見本は「幹事要覧P.37」に掲載。 新会員入会の都度報告します。用紙はRI日本事務局から無料で入手出来ます。	RI日本事務局 写-ガバナー事務所
会員退会届	書式見本は「幹事要覧P.37」に掲載。会員が退会したときに報告します。用紙は上記と同様に無料で入手出来ます。	RI日本事務局 写-ガバナー事務所
会員の資料変更	書式は「幹事要覧P.37」に掲載。会員の記載事項が変更になった時に報告します。用紙は上記と同様に無料で入手出来ます。	RI日本事務局 写-ガバナー事務所
月次出席報告	毎月、最終例会終了後15日以内に報告して下さい。 書式は発送済の会員数及び出席報告をコピーしてご使用下さい。	ガバナー事務所
役員または例会情報の変更	クラブの会長、幹事の氏名及び住所並びに例会場・例会時刻などの変更があった場合、直ちに報告が必要です。 書式見本は「幹事要覧P.42」に掲載。 グループ担当ガバナー補佐への連絡も忘れないで下さい。	RI日本事務局 写-ガバナー事務所 写-グループ内クラブ 写-担当ガバナー補佐
公式名簿記載資料	RIから次年度のクラブ役員の名簿記載資料が10~11月頃に送付されます。漏れなく記載し12月末迄に各々ご送付下さい。 書式見本は「幹事要覧P.43」に掲載。	RI日本事務局 写-ガバナー事務所 写-ガバナー・エレクト事務所
全日本会員名簿	ロータリーの友委員会から名簿調査票が送付されます。 変更、追加、修正を行いご返送下さい。	ロータリー全国名簿編集室
地区大会 - 選挙人指名、信任状証明書	信任状委員会が発行する信任状に記載する。 信任状は選挙人が地区大会に持参することになります。	地区大会信任状委員会
RI国際大会 - 代議員の選任、委任状による代理者の指定、信任状	RIから信任状が送付されてきます。 会員数、代議員数、代議員の選定日を記入し会長、幹事の署名をします。代議員に関しては、クラブの会員を代議員に定めます。慣例的にガバナー・エレクトを代理者と指定しています。	国際大会信任状委員会
ロータリー財団	寄付を实践した場合、「ロータリー財団への寄付・送金明細書」に記入し提出して下さい。 尚、寄付金の振り込み口座は当ガバナー月信P17を参照下さい。	RI日本事務局 写-ガバナー事務所
米山記念奨学会	寄付を实践した場合、各クラブへ送付される振り込み用紙に記入し提出して下さい。 尚、寄付金の振り込み口座は当ガバナー月信P17を参照下さい。	(財)米山記念奨学会 写-ガバナー事務所

ロータリー文庫の案内



ロータリー文庫は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に設立され、32年の歴史を誇る全日本ロータリアンの資料室です。

文庫にはロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万8千余点が収集・分類・整備され、皆様のご利用に備えております。

ロータリーの研究や諸活動のため、ぜひご利用くださるようお待ちしております。

●利用方法

文庫資料は自由に閲覧できますが、電話や書信によるお問い合わせも承ります。お問い合わせは間接では要領を得ない場合がありますので、なるべくご本人から直接お願いいたします。

(文庫資料をご希望の場合は)

- ・発行先に在庫のある資料については、発行先をご紹介します。
- ・絶版のものは実費（1枚20円+送料）でコピーサービスいたします。
- ・重複資料はご希望により無料進呈いたします。
- ・ビデオテープは実費（1巻800円+送料）でダビングいたします。

(貸出し)

- ・視聴覚資料（スライド・フィルム）は予約制（申し込み用紙有り）で貸し出しいたします。

(登録資料の紹介)

- ・「資料目録」をクラブ事務所に備付用としてお送りしてありますので、ご利用願います。「目録」をご希望の場合はお申し込みください。
- ・「ガバナー月信」に「文庫通信」欄を設けさせて頂き、皆様のご参考になるような資料の紹介をいたしております。
- ・「ホームページ」を開設しております。分類別に検索可能です。

(ご寄贈)

- ・個人の著作、クラブ発行のもの、地区発行のもの等々、いずれも内外を問わずロータリーに関する資料をご寄贈願います。文庫に保存して皆様のお役に立てさせていただきます。

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary.bunko.gr.jp>
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

ロータリーウェブサイトの案内



ロータリーに関する資料・情報はホームページやメールからも得ることが出来ます。下記のホームページとメールアドレスを参考にしてください。

- ☆ 国際ロータリーのホームページ
<http://www.rotary.org>
- ☆ 2510地区のホームページ
<http://www.ri2510.gr.jp>
- ☆ ガバナー事務所のメール
E-mail: scs-hk@phoenix-c.or.jp
- ☆ 2510地区ホームページ管理者（文献資料室）のメール
E-mail : bunken@ri2510.gr.jp
- ☆ メールマガジン読者登録（IC委員会）のメール
E-mail: kye00213@nifty.ne.jp

2003-04年 青少年交換派遣学生募集要項

(アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ・オーストラリア・台湾)

国際ロータリー第2510地区青少年交換委員会

当地区の青少年交換プログラムとして、2003-04年の派遣学生を下記の要領に基づいて募集いたします。ロータリーの親善使節としてふさわしい高校生をご推薦いただくよう、お願いいたします。1クラブ2名までの推薦ができますが、原則として、受入時期のずれるオーストラリア1名とオーストラリア以外の交換国1名の計2名となります。

派遣期間: 2003年7~8月からの1学年間 (11ヶ月以上1年未満)

派遣予定国: ★アメリカ2または3地区 (オレゴン州1地区、ニューヨーク州1または2地区)

★カナダ1地区 (アルバータ州) ★フィンランド・マルチ1地区

★メキシコ1地区 ★オーストラリア5地区 ★台湾1地区

募集人員: 各地区1名、合計11または12名の予定。

応募資格: 2003年1月現在で15歳以上19歳未満で、中程度以上の学業成績があり、ロータリーの親善使節としての留学に対して積極的な態度を持つ男女。ロータリー会員の子であるか否かは問いませんが、保護者と在籍高校(受入高校) および推薦ロータリークラブの全面的支援(受入学生のホストを含む)を必要とします。

自己負担分: 往復の旅費・保険、その他、渡航に必要な費用(航空券・保険については、地区委員会指定の代理店から購入することが条件です)。

応募の方法: 推薦ロータリークラブから2002年7月23日(火)(必着)で応募書類をお送り下さい。

選考方法: 英語・小論文・面接により選考します。

選考日: 2002年7月28日(日)を予定しています。

結果の通知: 推薦ロータリークラブ宛に通知致します。

問い合わせ・応募書類請求・送付先 (2002-03年度青少年交換委員会事務局)

青少年交換委員会事務局 (事務局員: 伝庄こずえ)

〒069-1343 夕張郡長沼町旭町南1丁目1-2 KSインターナショナル内

TEL: 01238-2-5251/FAX: 01238-2-5252

Email: yecd2510@violin.ocn.ne.jp/執務時間 月・水・金 (10:00~15:00)

ライラセミナーの御案内

今年度はシニアクラス、ジュニアクラスのセミナーを分離して開催いたします。共通のテーマは、「共生」です。世界のグローバル化が益々促進され私たちは、民族、人種、文化、習慣の異なる地域の人々と共に生き、共に行動する機会が益々増えてくることが予想されます。また、日本人同士でも他者と協働していくために、人生の目的や価値観など様々な差異をどの様に考え、受容し或いは差異を認めつつ共に生きていこうとするのかを参加者が自分の言葉で考え、話し合い、客観的、且つオリジナルな「共生」の価値観を養うための動機付けとしていきたいと思っております。多くの新世代メンバー、ロータリアンの参加を期待しております。

ジュニアクラスセミナー

日程 2002年9月7日(土) 14:00~8日(日) 12:30

場所 札幌NTTセミナーセンター (札幌市中央区南22条西7丁目)

講演者 石川 淑子氏 (矯正施設篤志面接員)

対象者 インターアクター、交換留学生 (20歳未満)、顧問教師、ロータリアン

シニアクラスセミナー

日程 2002年9月21日(土) 15:00~22日(日) 15:30

場所 札幌JR研修センター (札幌市東区北5条東10丁目)

講演者 宮崎 幸雄氏 (財団法人ロータリー-米山記念奨学会理事・事務局長)

対象者 財団奨学生・学友、米山奨学生・学友、20歳以上ローテックス、ローターアクター、ロータリアン

尚、詳細は各クラブ会長、新世代関係者宛てに7月末までにはご案内の予定です。

RI会長主催会議の御案内

会長主催会議は、RI会長の構想を世界中のロータリアンに伝達するための総合的プログラムの1つである。この会議は、1995年アンカレッジ (アラスカ) で開催されて以来、毎年2ヶ所以上で開催され、前はキング会長のもと台北で開催された。今回はビチャイ・ラタクル会長のもと、マレーシアのクアラルンプールで平和と発展を主体としたいくつかのシンポジウムが企画されている。会議の予定は、本年8月9日~11日。参加希望の方、あるいは詳細をお知りになりたい方はガバナー事務所 (Tel 011-219-2510) へ。



2002-03年度 青少年交換プログラム

派遣学生一覧

氏名	スポンサーRC	在籍・出身高校	派遣国・地区
蓬畑景子(女) よもぎはた けいこ	札幌東	大麻高2年	アメリカ5100地区
高橋春菜(女) たかはし はるな	苫小牧北	札幌聖心女子高3年	アメリカ7150地区
張江浩司(男) はりえ こうじ	上磯	函館ラ・サール高2年	アメリカ7170地区
渡邊亜未(女) わたなべ あみ	静内	静内高2年	カナダ5360地区
栃丸文(女) とちまる あや	札幌西北	札幌東高3年	フィンランドマルチ
大窪健五(男) おおくぼ けんご	札幌幌南	札幌山の手高3年	メキシコ4180地区
成田祐子(女) なりた ゆうこ	札幌幌南	北海高3年	台湾3480地区
宮崎奈津子(女) みやざき なつこ	函館東	函館遺愛女子高卒	オーストラリア9550地区
鈴木愛(女) すずき あい	恵庭	千歳高2年	オーストラリア9640地区
小林令奈(女) こばやし れいな	札幌南	北星学園女子高2年	オーストラリア9650地区
阿部香織(女) あべ かおり	由仁	札幌日大高3年	オーストラリア9650地区
大熊慧子(女) おおくま さとこ	札幌モーニング	立命館慶祥高2年	オーストラリア9710地区
崎康子(女) たかさき やすこ	札幌手稲	藤女子高2年	オーストラリア9800地区
太田久恵(女) おおた ひさえ	札幌モーニング	立命館慶祥高3年	アメリカ5100短期

受入学生一覧

氏名	ホストRC	ホスト高校	国・地区
Celeste Williams(女) セレスト・ウィリアムズ	札幌東	大麻高	アメリカ5100地区
(女)	苫小牧北	未定	アメリカ7150地区
Gabrielle MacMillen(女) ガブリエル・マクミレン	上磯	大野農業高	アメリカ7170地区
Cheryl Morrow(女) シェリル・モロー	静内	静内高	カナダ5360地区
Matti Surakka(男) マッティ・スラッカ	札幌西北	札幌山の手高	フィンランドマルチ
Oscar Marin(男) オスカー・マリン	札幌幌南	札幌龍谷学園高	メキシコ4180地区
Shao-Hsuan Lee(女)	札幌幌南	北海高	台湾3480地区
Peta Jordan(女) ペータ・ジョーダン	函館東	函館遺愛女子高	オーストラリア9550地区
Elizabeth Mullan(女) エリザベス・マラーン	恵庭	千歳高	オーストラリア9640地区
Nicole Latham(女) ニコル・レイサム	札幌南	北星学園女子高	オーストラリア9650地区
Tennealle Kennedy(女) テニール・ケネディ	由仁	由仁商業高	オーストラリア9650地区
Takuro Steele(男) タクロー・スティール	札幌モーニング	立命館慶祥高	オーストラリア9710地区
Rachael Lee(女) レイチェル・リー	札幌手稲	藤女子高	オーストラリア9800地区
Michael Heurlin(男) マイク・ヒューリン	札幌モーニング	なし	アメリカ5100短期

苫小牧北RCホスト予定の受入学生についてはアプリケーションフォームが到着しておりませんので、女性としかわかっておりません。

百周年の計画進む

投票が終わり、ロータリー百周年記念公式ロゴが決定されました(右)。選ばれたロゴはウェブサイトと郵送により投じられた総計13,052票のうち、6,344票を獲得しました。RIはロータリー創立百周年が世界中の人々に認識されやすいようにする目的で、この公式ロゴを作成しました。クラブと地区は、ロータリー百周年に関連する全資料にこのロゴを使用するよう奨励されています。ロゴの変更はできません。また、百周年に関連するその他のロゴの使用はお控えください。

公式ロゴはRIウェブサイトのダウンロード・センターから入手できます。印刷されたロゴシートが百周年記念事業推進キットに入っており、これは2003-03ロータリー年度の年初に全クラブに送付される予定です。

ロゴの票決のほかにも、ロータリーの百年史の記念書籍の題名をロータリアンから募集しています。この本は、ロータリーの創立から100年の歴史を隈なく綴ったもので、2004年7月に発売されます。ロータリーの百年史の記念書籍委員会のメンバーとロータリアン誌編集者は、ロータリアンの皆さまから独創的な題名が寄せられるのを待っています。上位5名には元RI会長諸氏のサインが入った革表紙の本書一冊が贈呈されます。

本の題名の募集締切は2002年7月31日です。寄せられた題名は全て国際ロータリーの所有となります。百年史の記念書籍委員会がロータリアン誌編集者の援助を受けて優秀作品を選考します(ロータリーワールド8巻5号より)。



ガバナー日記

小林 博

「ガバナー日記」なるものを月信に毎号載せたらという地区幹事のお勧めでお受けすることにした。この7月号は、ガバナーになったばかりなので、むしろ「エレクト日記」としてこの6月までの過去1年間を振り返ってみた。

昨年7月からエレクトとしての準備が始まった。「エレクトのときのほうがガバナーの時よりもむしろ大事です」という声を耳にしていたのでみんなで何度も構想を練った。ただ自らに言いかけたことは、悲壮感をもってやるのではなく毎日を楽しくやろうということだった。

地区リーダーシッププラン（DLP）の完全実施

このプランは、ご承知のとおりガバナーの負担を出来るだけ減らし、ガバナー補佐に担当していただくという趣旨である。既にその準備はわが地区で着々と進められてきたのであるが、ガバナーの公式訪問はまだ71クラブを個々に行っていた。地区リーダーシップセミナー（DLP）の完全実施のためには、従来の個々のクラブの訪問ではなく、いくつかのクラブの合同例会における公式訪問を実施するべくその具体案を考えた。

そこで昨年11月、12月に地区内12グループのガバナー補佐エレクトを訪問し、その折に各クラブ会長エレクトにもお集まりいただき、地区リーダーシッププランについての説明とともにその完全実施に向けてのご協力をお願いした。

大変嬉しかったのは私の予想以上に皆さんが積極的に対応してくれて、このような合同例会はむしろ単独例会よりよろしいというご意見であった。全てのクラブがガバナー公式訪問を緊張して迎えるよりも、順番に担当していけばいくつかのクラブ間の親睦をはかる為にも大変いいのである。ということで今期は71クラブの訪問に代えて26回の訪問ですむことになった。感謝の気持ちあるのみである。

地区の顔写真付き会員名簿の作成

予想外であったのは、クラブによって顔写真の無い名簿、あるいはその名簿さえ無いクラブも数多くあることを知って、正直なところ愕然とした。そんなものを必要としないくらいお互いが既に身近な存在であったことの象徴であるとかって安堵したものであるが、いずれにしても自分のクラブ内はともかく、他のクラブの人、まして他の都市のクラブの人の名前も顔も解らないという現実を大変寂しく思っていたのである。

せっかくロータリーの地区としての単位がある以上、お互いをもっと顔見知りになり親睦を深めることが、即ロータリーの活性化にもつながると確信していたことでもある。既にこの地区のライオンズにおいても毎年顔写真付きの会員名簿を作成しているし、外国でもいくつものクラブ



地区リーダーシッププラン（DLP）の説明は2001年11月、12月小林ガバナーエレクト自身が12グループのガバナー補佐（Assistant Governor）を訪ね、補佐のほかRC会長エレクト（PE）のご参集をいただいて行われた。写真は上から第3グループ（当別）、第9グループ（室蘭）、第10・11グループ（函館）、第1グループ（深川）との懇談スナップ。

でそのような実態の効果を垣間見ていたので、その意向をガバナー補佐並びに会長エレクトの皆さまにお伝えした。

ただそのような名簿を始めから無料でというわけにもい

かず、とりあえず1人1冊1,000円で買っていただきたい旨をお伝えしたが、一部には1,000円で買わせるのはいかがかという意見もお伺い致し、現実の厳しさを知ったものである。

しかし初心に戻り、出来るだけ低額でお分けしたいということで、月信あるいは地区大会プログラムなどの刊行物に各ロータリアンの職業紹介を兼ねた有料広告をお願いすることで、出来るだけその費用を代償したいと考え、現在そのための作業を始めたところである。

家庭奉仕に新しい視点を

家庭奉仕とは何かといえば、いうまでもなく家庭に対する奉仕のことである。家庭にいる伴侶者、あるいは子供たちに対するロータリアン個人としての奉仕の心である。慈愛の種はまず家庭に播きたいものである。

とくに昨今、家庭崩壊とか家庭の不和、不仲による事件が多発している。こういった問題に対してロータリーとして何か出来ないのだろうか？ ここで家庭奉仕委員会がス

タートすることになった。

まずは夫婦が互いに理解し協力し合い、子供の教育にも真剣に語り合いたい。また子供に対しては言うよりも親側に反省すべきことはないかを考え、ロータリアンが自ら襟を正し、ロータリアンらしく行動することから始めたい。具体的な活動内容は和田三委員長と委員の方々にご一任した。わが国初の家庭奉仕委員会の成長が楽しみである。

エレクトの1年間は大変だったと思う。恐らくこれからのガバナーとしての1年間よりも大変だったのではないかと。何が大変だったかというと、何か変化を求めることに対する反対が意外に強かったことである。組織の成長を求める為には変化は必須であるとの意識がロータリーには未だ十分育ってないようである。

これからの1年は、ガバナーとしてすでに決っているコースの上をみなさんとじっくり話しながら楽しく歩ければと思う。そして次年度佐藤秀雄ガバナーエレクトにうまくバトンをタッチできればよいと思う。

会員からの投稿

スモール・イズ・ビューティフル

中川喬雄



私は、今年度の会長方針を20世紀の偉大な思想家、E・F・シューマッハの著書から『スモール・イズ・ビューティフル』としました。彼はドイツ人ですが、仏教徒で現代文明の根底にある物資至上主義と科学技術

の巨大信仰を痛撃に批判し『人間は小さいものである。だからこそ、小さいことは素晴らしいのである。巨大さを追い求めるのは自己破壊に通じる』と大量生産、大量消費、大量廃棄の経済成長至上主義に警告を与えました。

近年、国際ロータリーも拡大主義の傾向が見られます。しかし、私はロータリーの原点にたつて、たとえ小さくとも、会員一人ひとりがロータリーを修行の道場と考え、共に学び、共に汗して奉仕の道を進むクラブを目標にしました。

RI会長はトップダウンよりもボトムアップの活動を推奨しています。上から指示されるのではなく、各々のクラブは会員による会員のための奉仕活動を期待しています。そして、職業奉仕こそロータリーの神髄だと述べています。

E・F・シューマッハの『スモール・イズ・ビューティフル』は有機農業のバイブルと言われています。和訳するより英文の方が深い意味を感じますし、私の座右の銘でもありますので、会長方針とさせていただきます。

(札幌手稲RC会長)

慈愛の種を播きましょう —妻の更年期を考え

川田憲秀



ビチアイ・ラタクルRI会長のテーマをロータリーアンである自分自身の生活に合わせて考えてみました。慈愛とは、「感謝されることを期待しない愛…たとえばわが子・わが孫などに対する愛…」と辞書にありました。RI会長は、この愛を家庭に…職場に…地域社会に…丁寧に播く一年にしよう

との呼びかけであると思いました。

私が職場や地域社会で活動できる原点は、家庭であります。妻の健康状態の理解が大切なのです。RCの会員同士は、気の置けない素晴らしい友人たちです。当然、夫人たちも仲良しです。年代も同じであり、また先輩がいても姉のような存在で適切なアドバイスをいただいております。

子供たちの話・夫の悪口などが長電話の原因となって

います。そして、「更年期」の話題が時々話されています。数年まえ、ある団体の女性部の役員になってほしいと思い、あるご婦人をお尋ねしました。ご主人の了解の前に、奥さんの了解が必要と思ったからです。ところが「更年期」がひどく外に出られない状態で…と断られました。本当に症状が重そうに思いました。

10年ほど前、ラジオの番組を偶然聴きました。「私の更年期症状」という番組で、視聴者からの電話が放送されていました。自分の耳を疑うほどの症状が、次々と聞かされました。そして、結婚後20年・30年間の夫の言動に原因があることも解かりました。今時の経済環境の中で、RCの会員でいられることは過去に、家庭を省みず、子育てを妻に託し仕事に没頭してきた人が多いのではないかと思います。反省と理解をすることで、症状が軽くなることも聞きました。専門のカウンセラーもありますが、予約で一杯と聞いております。この機会に「慈愛の種」をまず自分自身の妻にと…考えるプログラムを計画できないかと思います。

(第12グループガバナー補佐 白老RC)

身の引き締まるスタート

辻野 修



本年度図らずも、当別ロータリークラブの推薦により第3グループのガバナー補佐という重責を負うことになりました。小林博ガバナーから委嘱状が届いた時から、その任務の重大さにあらためて身の引き締まる思いを致しております。

五木寛之の近著「大河の一滴」の中で、小林先生

の病理学者としての立場からがんの治療に対するの考え方が記述されておりますが、がん化した細胞の暴走を制御し、コントロールする力、減速させる力が大切でこれを征圧するのではなく救うことで治していくというエッセイを読んで、多くの読者が共感を覚えたと思います。これはロータリーの精神にも通じるものだと感じました。

補佐就任までの間にも、小林ガバナーには色々な会合でご指導、ご指示を受けて参りました。その一つにロータリーの意識改革があります。今までの良きロータリーの伝統を踏まえながら、新しい活動にも取り組んで行く姿勢であります。前例を踏襲するだけではなくロータリーに新しい

価値、新しい活動を見い出そうとしておられ、ロータリーに誇りと夢を持っておられます。

ガバナー補佐が主催する最大の行事となる『I・M』は当別クラブがホストで9月14日(土)「北海道道民の森」を会場に開催が決定しております。目下クラブ一丸となって懸命に準備を進めているところであります。

『I・M』では、あまり例の無い野外での行事も一部企画しており、当日の天候も心配ではありますが、その日は袴をぬぎ、ネクタイを外し自然に親しみ森の恵みを満喫し道民の森で芽生えた友情と活力を、明日の仕事にロータリーの奉仕活動に生かしていただければと思っております。当日の記念講演には堀達也北海道知事の快諾をいただいております。

又次世代に残す記念事業には桜の木を植樹する予定になっております。これは今年のテーマであります『慈愛の種を播きましょう』の精神をクラブに家庭にそして地域社会に定着させようとの願いを込めて行い度いと思っております。

私はロータリー歴こそ26年を越してはおりますものの、果たしてこの補佐の責務を勤めることができるか大変危惧致しておりますが、この小林年度が感動と革新の一年となるよう微力をつくして参りたいと思っております。

(第3グループガバナー補佐 当別RC)

種は蒔かねば生えぬもの

成田雅敏

2001年もあと1カ月でのところで、小林Gエレクトから次年度会長会を開催せよとの連絡がありました。DLP施行元年に向け、余りにも早い立ち上げに、5クラブに連絡を取り、戸惑いと不安を抱えながら2002年1月14日、開催をしました。

地区はガバナー補佐にあれこれ命令、強要してくるのではないかと。受けて後々クラブに多大な苦勞を強いる事になる、事前情報ではエレクトはワンマンとの噂もあり、否が応にも張り詰めた空気が漂っていました。

しかし、それは杞憂に終わりました。小林Gエレクトからは強制どころか、各クラブの自主性、持ち味を存分に發揮して欲しいとの挨拶を受け、また懇親会に移り、その人柄に触れ最後には参加者全員が笑顔になりました。

クラブ幹事の経験がありながら、地区とクラブの間のポジションにあって、要領が掴めず、軽々しくこの仕事を引き受けてしまった事に反省をしています。しかしながら、クラブの仲間の絶大なる協力を得て、今日に至ることができました。

地区内に補佐室は第1グループだけとか、あくまでも、主役は吉本ガバナー補佐であり我々は黒子に徹して、地



区内各クラブとの連絡係としての役割を担っていくつもりである。

生えぬ種もあるかもしれないが、種は蒔かねば生えぬもの。微力ながら、小林ガバナーの応援団として、頑張ろうと思っています。

(第1グループガバナー補佐室 深川RC)

投 稿 歓 迎

会員の皆様に自由に投稿していただく欄を設けました。率直なご提案、ご提言、質問などなど積極的なご利用をお持ち致します。

特に基準はございませんが、文章はできるだけ簡潔に、字数はできれば400字以内をお願い致します。月末までに原稿を頂きますと、翌々月号に掲載できるようになっております。地区会員のための情報提供を皆様をお願い致します。



北大構内 大野池



北大構内 ポプラ並木

金田弘夫会員（札幌北RC）撮影

スリランカへ医療ベッド支援

室蘭ロータリークラブ 関村和義

本年3月に、日鋼記念病院より医療用ベッド提供の申し出をいただき、室蘭ロータリークラブが窓口となり、医療ベッド不足に悩んでいるスリランカへ贈る活動を始めました。

支援実績のある札幌北ロータリークラブから指導を受け、病院・輸送業者・倉庫業者等と繰り返し検討を重ね、無事6月1日に室蘭港を出港しました。

これに先立ち5月30日に室蘭市港湾部・病院・札幌北RC・室蘭RC等関係者が立ち会い、ベッド206台・マットレス236枚を

輸出用コンテナに積み込む作業が行われました。

この作業状況がマスコミの取材を受け、NHKテレビのニュース番組で取り上げられ、また北海道新聞・室蘭民報でも報道され、多くの市民の関心呼びました。

今回の活動は地区WCSの補助金を受けましたが、多くの地元関連業者・団体の絶大なる奉仕精神に支えられ実行出来たと思っております。

善意のベッド搬送

スリランカへ医療支援

室蘭RC

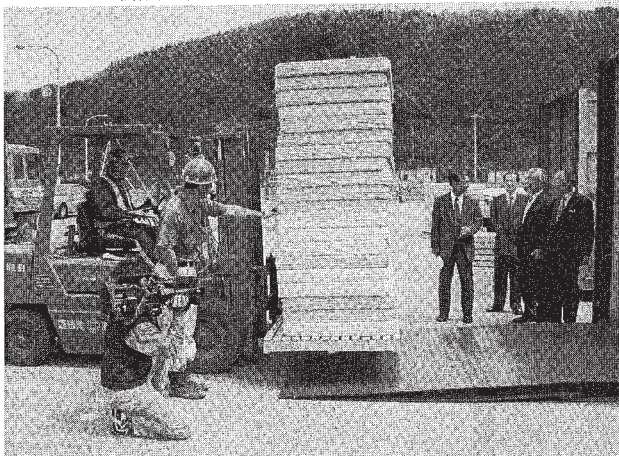
室蘭ロータリークラブ（田所邦夫会長）は、スリランカの医療支援のため、室蘭・日鋼記念病院提供のベッドなどの搬送作業を三十日に実施し、名古屋港から送った。昨年、札幌北ロータリークラブがスリランカの要請で初めて中古ベッド（日鋼記念病院提供）を組込み、室蘭港が活用される。スリランカに送られるのは、同病院提供の中古ベッド二百六台、サイドレール百六組と、帯広市内の三病院が提供したマ

ットレス二百三十六枚。室蘭港でコンテナに詰め込まれ、貨物船で釜山を経由、スリランカへ運ばれる。道内陸送を含め、この日は、室蘭RCの田所邦夫会長、札幌北RCの竹原慶代表幹事、室蘭市の寺島孝征港湾部長ら関係者約十人が崎守町のコンテナヤードを訪れ、荷役作業に立ち会った。メンバーは、四十以

のコンテナに搬入機械で次々と詰め込まれるマットやベッドを見守りながら、スリランカの医療の発展に願いを込めていた。船は六月一日出港、スリランカには六月二十七日に着く予定。

北海道新聞

関係者が見守るなか、コンテナに収容されるマット



室蘭ロータリークラブ（田所邦夫会長）がスリランカの病院へ贈るベッドの、コンテナへの積み込み作業が三十日、室蘭港崎守余港で行われた。コンテナは三十一日に入港する高麗輪運（本社・ソウルの室蘭・釜山航路の貨物船）搭載さ

スリランカの がん患者救え

ロータリー・クラブがベッド寄贈

スリランカでは薬は古く、古くは漢方薬で送った。その日は日鋼記念病院の中古ベッド二百六台、マットが、首都コロンボの使くと輸送費を三割は、二百三十六枚など、約三割を、同クラブの関村和義幹事は、地元企業や病院と関係し、外国への奉仕が、意欲深くと話していた。



ガバナー事務所にもいろいろの質問や感想が寄せられます。その一部を紹介します（お名前、クラブ名は省略しております）。

Q. 先日の地区協議会のクラブ奉仕部門での説明ですが、「人数が51人以上のクラブでは、同一職業分類の会員の上限は、四捨五入して決める」と説明を受けたそうですが、……たとえば54人なら5名まで、56人なら6名まで可能とのことですが、このことは本人の聞き違いでしょうか？ それともこれが正しいのであれば、手続要覧のどこに記載されておりますか？

A. 国際ロータリー定款第5条第2節（b）に示されているように、会員数50名までのクラブは、同一職業分類の会員を5名迄入会させることが出来、51名以上のクラブはそのクラブの会員総数の10パーセントまで入会させることができる。となっております。→手続要覧184頁 RI定款第5条 会員（b）参照

質問の要旨は、51人以上のクラブの場合51人から59人の10パーセントの算定の問題であろうと思います。

（例）51名のクラブの10パーセントは5.1人です。59名のクラブの10パーセントは、5.9人です。0.1人とか0.9人とかの会員は存在しませんので、59名までは10パーセントとはいえ5名を限度とします。60名を有した場合初めて6名の会員を入会させることが出来、会員総数の10パーセントでコンマが生じた場合は正の数で上限とします。

Q. 2002-2003年のピンが大変気に入ったので、ロータリーの標章をはずしてつけてもよいか？

A. 近年、その年毎に出されているその年のテーマを表徴した徽章は、ロータリーの標章の中のロータリー徽章（バッジ）との直接的な関係はありません。又ロータリー・バッジに代わるものでもありません。
ロータリーの徽章バッジその他の記章を全ロータリアンの

みの使用とその利益のために確保されていて、ロータリアンのみが、襟ピンとして誇りをもって着用するものであります。

参照；定款第13条 会員の名称と徽章

手続要覧第19章 ロータリーの標章の使用と保護

Q. 家庭奉仕委員会が設置されることにつきましては私自身、たいへん嬉しく、また興味深く思い、感謝いたしております。

私はJRIC（全国ロータリアン、インターネット協議会）にも所属しておりますが、このメーリングリストで「絆」という家庭の絆をテーマにした漫画が紹介されております。この漫画は2580地区の社会奉仕委員会の活動として作成されたものですが、現代の多くの家庭でありがちな問題を鋭く描いていると、私は感じました。

次年度の家庭奉仕委員会の活動の参考になるかと思い、ご紹介させていただきます。

2580地区のWebSite

<http://www.rid2580.org/>

A. 有り難うございました。参考にさせていただきます。

Q. ガバナー補佐を、アシスタントガバナーと認識しておりましたが地区協議会に出席のメンバーからバイスガバナーが正しいのではとの指摘がありました。意味は同じようですが……

A. RI事務総長は、手続要覧の意味・解釈に付いて疑義が生じた場合これらの規定事項に関して英文が正文となります。

手続要覧の用語語彙 281頁参照

Assistant Governor [ガバナー補佐]

理事会の方針に従い、ガバナーにより任命され、指定される地理的地域内で指定されたクラブのクラブ運営に関連する管理業務に関してガバナーを補佐するロータリアン英文手続要覧ではViceは使われておりません。

Q. 地区からくる資料の回答は、メールでも可能でしょうか？

A. 可能です。

ガバナー事務所より

■地区事務所の住所・連絡先（TEL・FAX等）はこれまでのエレクト事務所と変更はありません。今後ともよろしくお願い致します。

■今年度のガバナー月信は、地区会員全員のご購読となりました。地区内の情報を充実した内容で皆様に毎月発信致します。

■6月9日（日）に、地区の新旧役員（ガバナー補佐・地区委員長）会議が開催され、いよいよ2002-2003年度のスタートを迎えました。2510地区会員皆様のご協力をお願い致します。

■定期報告のお願い

1. クラブ出席報告は、毎月の最終例会から15日以内に

お願い致します。間に合わなければFAXか電話で結構です。

2. 変更等のご報告について

新会員、退会者、会員資格変更、クラブ事務所、例会場、例会日、時間の変更、会長・幹事の移動の場合、所定の手続によりご報告下さい。万一、会員に不幸があった場合は、氏名・年齢・ロータリー歴・写真同封の上、至急ご報告願います。

3. クラブの移動例会等は地区内他クラブへ周知のため、変更日の50日前までご連絡をお願い致します。

4. 各月ごとのクラブ会報を当該月の最終例会終了後、まとめて毎月送付下さるようお願い致します。



代表幹事
菅原 耕治

所属クラブ
札幌北RC
業務内容
・アドバイザー部門
・拡大部門



幹事
竹原 巖

所属クラブ
札幌北RC
業務内容
・情報部門
月信
家庭奉仕



幹事
河野 英夫

所属クラブ
札幌北RC
業務内容
・奉仕部門
公式訪問
会員名簿



幹事
大田すみ子

所属クラブ
札幌北RC
業務内容
・奉仕部門



幹事
米山 道男

所属クラブ
札幌北RC
業務内容
・育成部門
ワークショップ



幹事
熊谷 満

所属クラブ
札幌北RC
業務内容
・育成部門



幹事
脇田 稔

所属クラブ
札幌北RC
業務内容
・育成部門
・国内委員会部門



幹事
武石 忠俊

所属クラブ
千歳RC
業務内容
次年度業務



財務委員長
杉下 清次

所属クラブ
札幌北RC
業務内容
地区資金予算



財務委員
大西 勲

所属クラブ
札幌北RC
業務内容
地区資金会計



財務委員
島津 宏興

所属クラブ
札幌南RC
業務内容
地区資金会計



財務委員
福田 武男

所属クラブ
千歳RC
業務内容
地区資金予算・会計



事務局
阿部 智子



事務局
及川 智江

掲示板

○例会日変更

長万部RC(7/1より)
火曜日12:10→月曜日12:10
(第3例会は18:00 丸金旅館)
会場 長万部商工会館

江別RC 7月11日(木)
点鐘 19:00
場所 江別市民会館
マキシンドルバ

○事務局移転(7/1より)

岩見沢RC
068-0004 岩見沢市4条東1丁目6-1
三井グリーンランド ホテルサンプラザ4F
tel 0126-24-0700
fax 0126-24-0020

七飯RC
041-1122 亀田郡七飯町大川1丁目11-20
ななえ印刷内
tel 0138-65-4661
fax 0138-65-4946

札幌清田RC
060-0004 札幌市中央区北4条西15丁目
1番14号4階
tel 011-632-5303
(午後4時頃より)
fax 011-632-5308

●編集スタッフ



前列左から竹原巖(編集委員長)、脇田稔、大田すみ子委員
後列左から松木新コンサルタント、熊谷満委員
小林博ガバナー(第2回編集委員会、2002年5月9日)

国際ロータリー第2510地区
2002-2003年度 ガバナー月信

発行人 2002-2003年度ガバナー 小林 博
発行元 国際ロータリー第2510地区
2002-2003年度ガバナー事務所
発行日 毎月1日発行 年12回
編集委員 ◎竹原 巖 (地区幹事) 委員長
大田すみ子 (地区幹事)
熊谷 満 (地区幹事)
脇田 稔 (地区幹事)
松木 新 (コンサルタント)

事務局 札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館6F
TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526
E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp

2002(平成14)年						
ロータリー月間強調事項	月	日(曜日)	地区の行事	日(曜日)	国内行事・国際行事	グループ内の行事 IM、クラブ周年行事
RI国際大会 ロータリー趣味・職業別 親睦活動月間	6	9(日)	新旧ガバナー補佐・地区委員長会議 インタラクティブ地区年次大会	14(金)	米山記念奨学会 理事会・評議委員会 ガバナー・エレクト研修会	
		29(土)	03-04年国際親善奨学生選考試験	23(日)~26(水)	国際大会(スペイン・バルセロナ)	
識字率向上月間	7		各クラブ半期報告・人頭分担金送金 02-03年派遣学生杜行会 01-02年受入学生帰国報告会・送別会 社会奉仕委員会情報交換会	7(日) 8(月)	ガバナー会・青少年交換委員会 第1回ガバナー会 ガバナー・元・次期ガバナー懇談会 ロータリーの友委員会(予定)	
会員増強および拡大月間		1(木)~5(月)	インタラクティブ海外研修 (韓国ソウル市中心) 01-02年派遣学生帰国報告会	9(金)~11(日) 30(金)	アジア会長会議 (マレーシア・クアラルンプール) 米山記念奨学会 理事会・評議委員会 ガバナー・エレクト研修会	
新世代のための月間	9	7(土)~8(日)	ライラセミナー:ジュニアクラス(札幌市NTTセミナーセンター) インタラクティブ1日研修併合	8(日) 9(月) 14(土) 16(月)	ロータリーの友委員会(予定)	由仁RC10周年 第3グループIM 札幌はまなすRC10周年
		21(土)~22(日)	ライラセミナー:シニアクラス (札幌市JR研修センター) 02-03年短期派遣学生帰国報告会			
職業奉仕月間 米山月間	10	6(日)	地区ゴルフ大会	10 19(土)		札幌清田RC5周年
		16(水)	第3830地区GSEメンバー来札			
世界インタラクティブ週間 (11/5を含む週)	11	10(日)	地区囲碁大会	11(月) 28(木)~29(金)	ロータリーの友委員会(予定) ガバナー・エレクト研修セミナー	
		16(土)~17(日) 20(水)	地区年次大会 (北海道厚生年金会館/ロイトン札幌) 第3830地区GSEメンバー帰国			
	12		02-03年オーストラリア受入学生帰国報告会・送別会	30(土)~1(日)	ロータリー研究会	
2003(平成15)年						
ロータリー月間強調事項	月	日(曜日)	地区の行事	日(曜日)	国内行事・国際行事	グループ内の行事 IM、クラブ周年行事
ロータリー理解推進月間 追悼記念週間 (1/27を含む週)	1		各クラブ半期報告:人頭分担金送金 03-04年オーストラリア受入学生歓迎会	13(月・祝)	ロータリーの友委員会(予定)	
世界理解月間 家族週間(第2週) ロータリー創立記念日、 世界理解と平和の日(2/23) 世界理解と平和週間 (2/23~3/1)		2	1(土) 9(日)	04-05年国際親善奨学生募集開始 新世代委員会、札幌スキーマラソン参加 地区チーム研修セミナー(予定)	1(土)~2(日) 22(土) 23(日)	米山奨学生選考試験 米山奨学生歓送会
世界ロータリー週間 (3/13を含む週)	3		会長エレクト研修セミナー(予定)	8(土) 10(月) 29(土)	ロータリーの友委員会(予定)	第7グループIM 第10・第11グループ合同IM
ロータリー雑誌月間		4		地区協議会(財団・米山セミナー)(予定) 03-04年短期受入学生募集	24(木)	
	5		新世代によるパネルディスカッション(予定) 03-04GSE派遣団員募集 03-04年短期受入学生選考試験 04-05年国際親善奨学生募集締切	12(月) 17(土) 24(土) 25(日) 31(土)	米山奨学生オリエンテーション ロータリーの友委員会(予定)	岩見沢東RC20周年 第1・第2グループ合同IM 第12グループIM 美唄RC30周年
RI国際大会 ロータリー親睦活動月間		6		新旧ガバナー補佐・地区委員長会議 インタラクティブ地区年次大会 03-04年派遣学生選考試験 04-05年国際親善奨学生選考試験	1(日)~4(水) 7(土)	国際大会 (オーストラリア・ブリスベン)
	9		小林年度地区要覧発行			



世界各国から国際協議会に集まった530名のガバナーエレクト。
1月27日～2月5日。米国カリフォルニア州アナハイムにて。



国際ロータリー第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

2002-2003 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER No.2

ガバナー月信

8月号
August

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR **小林 博 KOBAYASHI HIROSHI**
 〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
 Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp



会員増強はどう進めるか？

— 楽しく有意義な例会を演出することから



小林 博

今月はロータリーの会員増強月間である。会員の数が増えれば嬉しいし、減れば寂しい。我々の地区では会員減少の傾向にあるが、世界的にみれば減少の歯止めはかかり、昨年のRI会長リチャード・キングさんの会員増強のための「グローバルクエスト」は成功裡に進んだようである。

ただ、会員増強の言葉だけがあまり強調されると、会員の間に反発の声が出てくるのも当然かもしれない。日本に期待するRI会長は毎年訪日し、バストガバナーを主体とするロータリー研究会で講演する。その際会員増強とロータリー財団への寄附がとくに強調される。会員増強の理由を十分議論することなく増強、増強という、質ではなく量だけでいいのかといった誤解が先走りしてしまう。要するに金がほしいために会員を増強せよというふうにも聞こえかねない。

声高の会員増強論の背景には、会員減はロータリーという組織の衰退につながるとの危機感があるのかもしれない。でも、極論はさておき、ここはやはり会員相互の議論と認識の深まりが必要であろう。言うまでもないことだが数は力であり、当然会員増強によって親睦の輪が広がるだけでなく、そこから生ずる財政的経済的余裕はその地域社会に対するより大きな貢献につながるであろう。ロータリアンの望む奉仕もより望む形で出来る。会員増は力の源泉として、やはり必要不可欠なのである。

会員増強は具体的にどう進めたら良いのだろうか？ 会員増強はただ人に声をかけ誘うだけではいけない。せっかく入会しても退会していく人が多いのでは意味がない。その歯止めはまずは自らのクラブを楽しく有意義なものにすることではないか。そうすれば退会者も減り、また入会希望者も増えてくることは確かである。

第12グループのガバナー補佐川田憲秀さん（白老RC）から聞いた話だが、カナダのあるクラブを訪問したときニコニコは担当の人が読み上げるのではなくニコニコを提案した本人が語ることで非常に和やかでいい雰囲気であったとの話を伺った。一寸したアイデアでクラブは楽しくなるものである。

「急がば廻れ」、会員増強はクラブ例会の魅力づくりから始まる、そのための名案は他にもいろいろあるであろう。地区のみんなが工夫し行動してみようではないか。

目次

ガバナーレター	小林 博	2	ロータリアンの喫煙	19
会員増強および拡大月間について	竹原 巖	3	向笠広沢元RI会長 友人に感謝！	19
地区委員会活動計画		4	ロータリーQ&A	20
地区組織図について		11	地区活動紹介	家庭奉仕委員会・社会奉仕委員会・国際親善奨学金委員会
子どもから教わる…ビチャイ・ラタクルRI会長の2つの話		11	クラブ活動紹介…余市RC・苫小牧東RC・札幌はまなすRC	22
2004～2005年度 ガバナー・ノミニー候補者推薦のお願い		12	GSE派遣締め切り迫る	23
文庫通信		12	会員の声…佐々木敦・相馬哲也・阿部 弘・宮田昭一・川田憲秀・神部洋史	24
バルセロナ国際大会報告 …柏倉 慎・西岡憲廣・大田すみ子		13	事務所だより	27
米山記念奨学生紹介		15	掲示板	27
2002秋キャンプ	青少年交換委員会	16	地区大会のご案内	28
社会奉仕に関する情報交換会	社会奉仕委員会	16	表紙顔写真紹介	28
第6回障害者世界会議（DPI）を支援しましょう		16	8・9月地区カレンダー	29
ガバナー事務所が身近になりました	塚原房樹	17		
ガバナー日記		18		
ガバナー補佐会議		19		

会員増強および拡大月間について

8月は「会員増強および拡大月間」に定められております。会員増強には二つの方法が考えられます。一つはクラブ内部の拡大のため会員数を増やすクラブ内の会員増強であり、二つ目はクラブの存在しない地域に新しいクラブを作るクラブ拡大です。

このうち、二つ目の新クラブ結成によるクラブ拡大は、スポンサークラブの中によほど新クラブ結成への熱気と行動力がないと、そして、クラブとしての意思の統一がないと、成就是困難です。クラブとして大変なエネルギーも必要ですので、おいそれと手をつけることが出来ません、一方、クラブの会員増強は、クラブを構成する会員が、それぞれ自分の知り合いを誘うことによって可能です。会員個人の熱意と行動力があれば会員を増やすことが出来ます。

どのような組織もいかなる企業も、新しいメンバーの加入がなければ、高齢化しやがては衰退して行くことは、あらゆる社会に見られることです。

RIが特別月間を指定し、増強に努めるのは、ロータリーにとり、またクラブにとっても会員増強がいかに大切であるかのあらわれだと思えます。

1905年の初期のロータリーには、会員同志の商取引や親睦を深めるという意識だけで奉仕の概念はなく、1906年ドナルド・カーターが入会した頃より「世のため、人のため、奉仕をしよう」ということで奉仕がロータリーにとり入れられることになりました。

奉仕を考えるクラブならば多くの人達に入会を勧め、またシカゴ市だけでなく他の都市にもクラブを作るべきだということになり、クラブの拡大が実行されるようになりました。

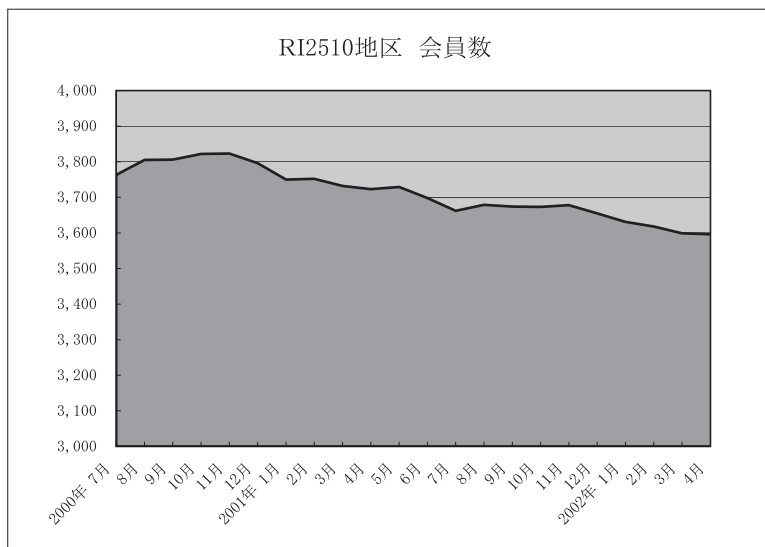
以来、ロータリーの奉仕と増強・拡大は表裏一体をなし発展を続けてきました。しかし近年、表に示されているように会員の減少傾向は歯止めがかからず、憂慮すべき事態といわざるを得ません。

昨年のRIの規約改正により、同一業種より最大5名の会員の入会が可能になりました。会員の同業者の中から、ロータリアンにふさわしい人を推薦し、そしてクラブの職業分類表の未重点分野を見なおすことにより新たな会員の確保が出来るはずです。会員一人ひとりが増強の重要性を理解し、これに取り組む必要があると思われま

(編集委員長 竹原 巖)

RI2510地区 会員数変遷

年月	会員数
2000年 7月	3,763 人
8月	3,805 人
9月	3,806 人
10月	3,822 人
11月	3,823 人
12月	3,796 人
2001年 1月	3,750 人
2月	3,752 人
3月	3,732 人
4月	3,723 人
5月	3,729 人
6月	3,698 人
7月	3,662 人
8月	3,679 人
9月	3,674 人
10月	3,673 人
11月	3,678 人
12月	3,655 人
2002年 1月	3,631 人
2月	3,618 人
3月	3,599 人
4月	3,596 人



会員数は減少傾向にあります。

意義深い言葉

クラブで会員が増え、会員が辞めないのには多くの理由があります。最も重要なものは、適格な会員を慎重に選ぶことで、これによって、新会員が長期にわたり、ロータリアンであり続けます。

—ベニト・チウチニ、イタリア、ミラノ北ロータリー・クラブ、RI会員組織コーディネーター

地 | 区 | 委 | 員 | 会 | 活 | 動 | 計 | 画

オン・ツー・ブリスベン委員会



委員長
遠藤正之(札幌幌南PG)

委員
大阪 忠(札幌大通公園)
佐々木仁志(札幌幌南)

94回 国際大会開催地Brisbaneへ

明年6月に国際大会が開かれるオーストラリア・ブリスベンはクィーンズランド州の州都で人口約150万。オーストラリア第3の都市・常夏の亜熱帯性気候に恵まれたサンシャインキャピタル。町の中心は大きく蛇行して流れるブリスベン川に囲まれるように広がっている町です。

今回の大会の詳細は未だ発表されていないが2003年6月1日(日)~4日(水)と決定している。

当2510地区では92回サンアントニオ大会以来所謂「北海道ナイト」を設定し開催地でのゆかりの人達と大会に参加した地区ロータリアンとの交流の一夜の会を催しており、本年もパルセロナ大会で多くの会員・家族の参加をみ、年々もり上がりをみせている。

明年も大会前夜の5月31日(土)にこの様な会を催したいと考えております。

オーストラリアクィーンズランド州からは当地区に多くの留学生との交換がおこなわれれば、その家族ホストファミリー等、又2500地区の有志の方々の参加による新しい形の「北海道ナイトオンブリスベン」を模索しております。

日本と時差1時間のブリスベン。久しぶりでアジアから出たビチャイ・ラタクル会長のもとに開かれる大会に一人でも多くの会員・ご家族の参加を望んでおります。

尚、詳細については判り次第お知らせします。

拡大委員会



委員長
伊藤長英(苫小牧北PG)

委員
森本 正夫(札幌西北PG)
遠藤 正之(札幌幌南PG)
石垣 博美(札幌西PG)

昨年度設立された「札幌大通公園RC」に続いて、現在進行中の「札幌セントラルRC」が間もなく誕生しそうです。2002・7・12現在、漸く20名の会員名簿が完成し、新クラブ認証の手続きに入るところです。関係各位のご努力に対し深く敬意を表する次第です。小林ガバナーの手により認証状伝達式が行われる日が待ち遠しいところです。

ロータリー創立(1905年)の頃の世相を考える時、現在のよように不況の時代こそ、ロータリーのように思いやりと助け合いの精神で奉仕する団体が必要とされるのではないのでしょうか。組織を生き生きとさせるには常に新しい血の導入が必要であり、細胞と同じように分裂が必要です。新しい血は増強であり、分裂は拡大です。

ガバナー補佐の皆さん、クラブ会長の皆さん、今回の札幌のような拡大を考えるか、或いはグループ内の地域でRCの無い市町にクラブを創設するか、どちらでも結構ですので積極的な対応をお願い致します。

クラブ奉仕委員会



委員長
神代利臣(札幌幌南)

委員
近藤 良一(札幌モーニング)
金子 隆(札幌手箱)

過去3年間地区クラブ奉仕委員会委員として名を連ねてきたが、地区の委員会としての活動はほとんど無かったように思われる。そこで今年度は少し具体的な活動を展開したいと考え、以下のごとき活動を計画した。

1. 各クラブから信頼され、クラブの役に立つ委員会となるべく、歴代の地区クラブ奉仕委員長にも協力を仰ぎ、具体的な活動を模索する。
2. 地区大会時またはその前夜に、クラブ奉仕委員長会議を開催する。
3. 地区協議会のクラブ奉仕部門を企画・実施する。

職業奉仕委員会



委員長
富岡公治(札幌西北)

委員
金子 均(札幌幌南)
夏井坂信幸(札幌南)
高田 潔(留 萌)
森居 清(岩見沢)

第1 活動方針

- 1 職業奉仕活動に熱心なラタクルRI会長及び小林博ガバナーの方針に従い、ロータリーの根幹ともいべき職業奉仕の理念及び実践の普及に努める。
- 2 地区内各クラブ及び会員個人に職業奉仕の理念に合致した具体的な活動計画を企画するよう奨励する。

第2 活動計画

- 1 地区委員会においてロータリー創立以来の職業奉仕理念の誕生及びその後の経過と現状に対する勉強会を熱心に取り組む。
- 2 10月の職業奉仕月間を中心として地区内クラブから卓話の要請があった場合、地区委員会により分担して派遣実施する。
- 3 地区レベル、国際レベルの展望を持ちながら2年前から研究し、取り組んでいる「ロータリー・ボランティア・プログラム」を奨励研究し、実践活動についても推進する。
- 4 10月の職業奉仕月間については、2項の事項のみならず、広く職業奉仕理念の普及広報に取り組み実施する。
- 5 地区委員会としても、地区内クラブ及び会員に具体的な職業奉仕活動例を紹介し援助し、各クラブの職業奉仕活動が活発になるよう努力する。
- 6 地区職業奉仕委員会として具体的な職業奉仕活動を企画実施する。

地 区 委 員 会 活 動 計 画

社会奉仕委員会



委員長
対木正文(札幌西)

委 員
杉江俊太郎(小樽)
中野 亮(函館北)
菅原剛太郎(滝川)
菊地 芳彦(苫小牧北)

地区社会奉仕委員会は下記の事業を予定しております。各クラブの積極的な参加と協力をお願いいたします。

社会の成熟化、経済状況の悪化など種々の理由から、子供達を取り巻く環境は私たちが考える以上に悪く、また、潜在化しております。子供たちの目線で考え、家庭崩壊の問題、児童虐待の問題を含めた教育問題に取り組みたいと考えております。具体的には、ロータリアンとその関係者と市民参加のシンポジウムを開催し問題点を整理し、ロータリークラブがその問題点に対して積極的に関与し、他の団体と共に子供達を支援する奉仕活動をするものです。市民にロータリーの奉仕活動を知ってもらう機会にもなります。

また、7月から9月にかけて地区内5カ所(滝川、札幌、余市、苫小牧、函館を予定)でクラブ社会奉仕委員長さんを対象とした『社会奉仕に関する情報交換会』をグループ合同で開催します。主旨は、年度始めに他のクラブの活動を知ることにより、地域社会が真に求めている奉仕活動を幅広く模索し、活動のマンネリ化を防ぐと共に、地域と一体となったロータリー活動を社会に知ってもらうことにあります。また、会員数や予算の関係で実施が難しい事業に関してはグループ内での調整をはかる機会にもなります。多くのクラブが参加し情報交換するとともに、クラブ間の親睦を深めていただければと願っております。

家庭奉仕委員会



委員長
和田壬三(札幌南)

委 員
長谷川美栄子(札幌大通公園)
大場 公孝(上磯)
高下 泰三(札幌西)
水野 正純(新札幌)

当委員会は、世界のロータリークラブの中でもおそらく初めて新設された委員会であります。私を含め、4人の委員全員が未知の活動を手探りでしかもかなりの速さで行わなければなりません。

目的は、ロータリアンに家庭奉仕について認識していただきできれば、一歩でも実践していただくことだろうと思います。

当面は、書物や映画、演劇などを通して、家族の絆や夫婦のあり方などについて学ぶことから始めたいのですが、並行して、会議も月一回程度の頻度で開催します。会議には地区の社会奉仕委員会の委員の方は全員出席いただくことになっていますが、それ以外のどなたでも参加していただけるようオープンにしますし、映画も書物も演劇も情報が入り次第月信を通じて皆様に通知したいと思います。

国際奉仕委員会



委員長
青木功喜(札幌東)

委 員
土倉 裕之(札幌東)
植田 英隆(札幌)
金井 重博(札幌南)

小林GNの強い希望で青少年交換は新世代に移り、従来の世界社会奉仕と親睦活動(従来の趣味、職業別親睦)に加えて友情交換委員会が新設された。各委員会の活動は上記各委員会の活動計画書を参照されたい。

2510地区の各クラブの国際奉仕は各クラブの規模、従来からの伝統があり、国際奉仕の活動が、地区委員会構成のごとく判然と区別されていないのが現状である。すなわち財団、米山、青少年交換が国際奉仕に含まれ、予算化され、また委員会構成も単純でない。この現実を良く理解し、地区の縦の組織にこだわらず、国際奉仕と関係する事には、地区委員会としても積極的に関わって行きたい。地区外としても本年同様アジアにおけるPresidential congressには参加して、その情報を地区の方々にはガバナー月信をとおして還元し、またGolden Wheelの抄訳を継続したい。

世界社会奉仕(WCS)委員会



委員長
土倉裕之(札幌東)

委 員
若原 秀明(札幌東)
光銭 健三(上磯)
神部 絢子(滝川)
土屋 孝人(苫小牧北)
板垣 宏志(小樽)
木村 芳江(札幌北)

WCS委員会は相手の見える支援ということでアジアの国々の支援を行って行きたいと考えております。また、同じ社会奉仕を目標としている地区社会奉仕委員会と合同プロジェクトを推進していきたくと考えております。

基本的には2001～2002年度と同じプロジェクトを引き継ぎます。

- 1 未使用テレカ・書き損じ葉書の回収
- 2 勉強会(グループ・各クラブでの卓話)
- 3 スリランカ病院ベッド・マットレス寄贈
- 4 タイ(ノンカイ地区)飲料水施設設置
- 5 タイ(ノンカイ地区)中学学費援助
- 6 タイ(バンコク)バベナ基金支援
- 7 ミャンマー医療活動支援(開眼運動他)
- 8 車椅子寄付プロジェクト
- 9 カンボジア支援
- 10 地区社会奉仕委員会との合同プロジェクト
- 11 その他緊急の災害援助

地 | 区 | 委 | 員 | 会 | 活 | 動 | 計 | 画

親睦活動委員会



委員長
植田英隆(札幌RC)

委員
高薄 浩志(札幌)
徳中 征之(札幌南)
灰野 篁(札幌北)
高島 英寿(札幌南)
加藤 直樹(七飯)

今2002—2003年度の委員会活動につきましては、以下の点を重点として行っていく予定とします。

- (1) 2510地区として親睦活動の情報交流など、動き流れがつかんでいけるようにしていく。
- (2) ロータリー国際ヨット同好会あるいはゴルフ同好会などの具体的活動を行っていることの情報提供を行っていく
- (3) 地区同好会などの必要なデータ整理を検討する。

友情交換委員会



委員長
金井重博(札幌南)

委員
阿部 功一(札幌東)
大野 重昭(札幌)
日下 健三(恵庭)

1. 友情交換の事業
 - ①クラブ対クラブの姉妹・友好関係を深める(現状調査)
 - ②地区対地区交流
 - ③外国に詳しいロータリアンの国別グループ登録
2. 国際大会における日本人のための朝食会、北海道ナイト
3. 友情交換委員会の開催
4. 国際奉仕委員会への協力
5. 財団、米山、新世代、青少年交換委員会との横の連絡

ロータリー財団委員会



委員長
森本正夫(札幌西北PG)

委員
若狭 吉範(札幌北)
土橋 信男(札幌南)
山名 善久(札幌南)
鍋谷 操子(函館東)
伏木 忠了(札幌西)

小林年度ではビチャイ・ラタクルRI会長とガバナーの方針に沿って寄付額25万ドルを達成したいので、皆様には特段のご協力をお願いしたい。具体的な活動については、財団の各委員会と協力して進めたいと考えている。特にGSE委員会での交流、およびロシアからの財団奨学生2名受け入れが予定されているので、皆様のご協力をお願いする次第である。

財団増進委員会



委員長
若狭吉範(札幌北)

委員
大星 孝幸(札幌南)
佐藤 宏(札幌北)
大村 孝男(千歳)

4月に開催された地区協議会の分科会、ロータリー財団部門で発表されている小林ガバナー年度の当地区年次寄付の目標額は、米貨25万ドルとなって居ります。同時に発表されたことはシェアシステムが変更になり、DDF60、WF40の比率がDDF50、WF50の比率に変わりました。このことは3年後の2510地区の活動資金に係る問題だけに目標が低くなる事を手ばなしで喜ぶ駅にも参りません。

不景気、会員数減少、為替レートの問題等、難問が山積している中、今年度も地区内各クラブさんに不安を抱きながら自己申告をお願い致しました。結果として6月6日現在の自己申告をして戴いた寄付合計額は279,750ドルとなって居り、各クラブの会長、幹事さん、又直接担当責任者のロータリー財団委員長さんの強力なご支援、ご協力に対し心から感謝申し上げる次第でございます。

今後とも設定して戴いた目標額達成のために、ご支援宜しくお願い申し上げます。

地 区 委 員 会 活 動 計 画

財団国際親善奨学金委員会



委員長
土橋信男(札幌南)

委員
丹羽 祐而(札幌手稲)
戸部アナマリア
(札幌はまなす)
関堂 勝幸(札幌東)
松下 文芳(江別西)
瀧川 哲夫(札幌手稲)
高橋 麗秋(札幌北)

以下の活動を計画しています。

- 2003-04年度国際親善奨学生の選考とオリエンテーション
7月から8月に面接と書類審査により10名の奨学生を選考し、選考後オリエンテーションをします。奨学生の種類と奨学金の金額は以下のとおりです。
3か月奨学生(奨学金12,000ドル)5名 6か月奨学生(同19,000ドル)3名
1年奨学生(奨学金25,000ドル)2名 2年奨学生(同24,000ドル)3名
- 2002-03年度ロシアからの国際親善奨学生の受け入れ
7月中旬から約3カ月の期間を以下の2名を日本語の研修のために受け入れる。
日本語の研修はIAYで行う。学生を受け入れるホストクラブは以下のとおり。
リュウバ・イグリナ(サハリン総合大学2年生) 札幌モーニングクラブ
アリーサ・コワレンコ(同4年生) 札幌真駒内クラブ
- 2004-05年度国際親善奨学生の募集
募集要項の決定後、ポスター作成、各クラブや大学その他関係機関への通知など。

研究グループ交換(GSE)委員会



委員長
山名善久(札幌南)

委員
武藤 順(札幌西)
岡崎 芳明(小樽南)
高橋 宏(札幌清田)
金坂 和正(札幌真駒内)
山内 浩資(札幌南)
井上 勝一(札幌北)
小林 敏夫(函館)
片見 怜子(小樽銭函)
戸部 謙一(札幌西)

活動計画

- 受け入れ
2002-03年度は、RI3830地区からのGSEチームを受け入れることになっております。
2002年10月16日～11月20日の35日間。(2510地区大会参加)
3830地区は、フィリピン、マニラ市の南部。
- 派遣
2003-04年度にRI3830地区へ派遣が決定しております。
2004年2月18日～3月24日です。
団員募集は、2002年5月に公募予定。
選考試験は、9月を予定しております。(2510地区大会参加)
今まで、GSEプログラムは単年度で受入と派遣を実施してきました。ところが、2002-03年度(次年度)からは一方の地区が最初の年にチームを派遣し、相手の地区が2年目にチームを派遣するように、国際ロータリー財団管理委員会で決定されました。
これからは、2年度にまたがり一つのプログラムを実施することになります。
- 将来のGSEプログラム相手地区との情報交換
GSEプログラムの実施に当たっては、相手地区を選択し、交渉し、合意することが必要になってきます。
当年度は3年後のGSEプログラムを実施するための相手地区を選定する予定です。
- GSEプログラムの報告書作成
今までは、受け入れ・派遣の報告書を1冊にまとめていましたが、事業が2年にまたがりますので、当年度は受入の報告書を作成することになります。

財団学友委員会



委員長
鍋谷操子(函館東)

委員
橋本 信夫(札幌西)
山崎 晴嘉(札幌西北)
桃井 康夫(札幌清田)
神谷 英光(札幌真駒内)
中島 勉(札幌南)

財団学友会が設立されて、満1年以上経過致しました。今年度は財団学友会の存在が地区内の各クラブに認知され、活用されるように支援を続けていきたいと考えております。

- 委員会の目標
1) 財団学友会の活動に対する助言と支援。2) 財団学友のロータリー活動への参加促進とクラブの財団学友への理解推進。
3) 財団学友会の広報。
- 委員会活動計画
1) 委員会の開催：年間4回の委員会を開催する。第1回：7月、第2回：10月、第3回：2月、第4回：6月 2) 財団学友会の例会への参加。3) 財団学友会総会への参加。4) 財団学友名簿の追補作業。5) 財団学友会への顧問ロータリアンの推薦。6) 財団学友会賛助会員の賛助金拠出を推進。7) 学友ニューズレター発行の支援。8) 財団学友の地区大会への参加推進。9) 婦国学友報告会の開催。

財団補助金委員会



委員長
伏木忠了(札幌西)

委員
服部 隆志(千歳)
浅野 元広(札幌西)

財団補助金委員会は新しい委員会であるため、地区内にその存在と役割や各ロータリークラブとの関連等が知られていないと思われる。補助金委員会の仕事はロータリー財団からの助成金について、各クラブへの情報の提供と財団への補助申請のお手伝いをするにあり、地区社会奉仕委員会や地区世界奉仕委員会とご相談の上、各クラブから補助金の申請を出していただけるようPRに努めます。

地域補助金は、地域社会援助プログラム、同額補助金、ポリオ・プラス・パートナー、新人道的補助金、世界社会奉仕助成金等々、色々、有りますが、今年度は地域社会援助プログラム(CAP)と世界社会奉仕(WCS)に重点を置くようお勧めしたいと考えております。

ロータリー財団の目標は人道的、教育的文化交流プログラムに補助金を授与することによって、世界の人々に理解と友情関係を増進していくことですから、財団への補助金申請が活発になるよう活動いたします。

地 | 区 | 委 | 員 | 会 | 活 | 動 | 計 | 画

新世代委員会



委員長
奥貫一之(札幌東)

委員
細川 好弘(静内)
中塚 力(岩見沢)
清水 慧子(長沼)
宮崎 善昭(札幌西)
鎌田 慎司(札幌北)

「考え方の基本」

ロータリアンの横のつながりを通じて奉仕をするプロジェクトの一つとして新世代に取り組む機会が得られる奉仕活動委員会です。

新世代関連各委員会が協力して相互理解を深め、奉仕事業や各種研修活動を通じて共に相集い友情を深めることが推進できる貴重な役目を果たしたいと考えております。

「具体的な展開方針」

◎継続事業予定

- ①ライラセミナーの実施
(シニアクラス、ジュニアクラス共に9月開催2回に分ける)
- ②札幌国際スキーマラソンへの参加
(2003年2月9日実施)
- ③新世代によるパネルディスカッション
(2003年5月頃・札幌以外で開催予定)

◎新しい活動予定

- ①交換留学生とインターアクターの交流奨励
- ②帰国留学生のローターアクトクラブへの入会奨励
- ③ローターアクトクラブ卒業生のロータークラブ入会奨励
- ④ローターアクターと財団奨学生、米山奨学生、学友の交流奨励

◎RI世界大会へ交換留学生の招聘計画

2003年6月にオーストラリアのブリスベンに於いて開催予定のRI世界大会に、かつてのオーストラリアよりの交換留学生達を招き、ロータリアン、ホストファミリーと感激の再会をしようとする計画です。ロータリアンの皆様、奥様を連れてかつての娘、息子たちに逢いに行き“家庭に慈愛の種をまきませんか？”(5月31日(土)閉会式当日予定)

ローターアクト委員会



委員長
中塚 力(岩見沢)

委員
今井 義憲(函館東)
柳 孝一(札幌南)
宇戸 啓隆(赤平)
小川 進(岩内)
渋谷 賢治(深川)

活動計画

本年度地区ローターアクト委員会は、小林ガバナーの指導のもと、R.I会長のテーマを尊重し、提唱ロータークラブ会長並びに提唱クラブ、ローターアクト委員会と連携を保ち、地区内ローターアクトクラブの活発な活動と活性化を図る為会員増強に努め、更に新クラブ設立、休止クラブの復活に努力する事を目標とします。

《重点目標》

【地区行事への参加協力】

1. ローターアクト地区年次大会への参加
2. ローターアクト地区協議会への参加
3. 新世代委員会行事への参加
4. アクトクラブ主催セミナーへの参加
5. 海外研修への参加
6. ローター地区年次大会への参加

【クラブ運営に関する要望】

1. 会員増強とクラブ強化対策
2. RA委員会メンバーの指導力強化
3. RCとRACとの合同例会の実施
4. 提唱クラブとの共同事業の実施

【その他】

1. 休止中のクラブへの復活の働きかけ
2. 未提唱クラブへの新クラブ誕生働きかけ
3. 北海道RA交流会の発展
4. 提唱クラブ委員長会議は年4回程度開催

インターアクト委員会



委員長
細川好弘(静内)

委員
堀田 昌資(札幌東)
仲屋 成裕(岩見沢)
光銭 裕二(函館五稜郭)
古野 重幸(札幌)
佐藤 嘉高(札幌モニング)

新世代の若いエネルギーと共に「慈愛の種を播きましょう」活動方針

青少年との共同奉仕プロジェクトを通じて新世代奉仕活動が組み込まれることによって、ロータリアン側の熱意と関心が理解され、ロータリアンとしての貴重な役目を果たすこととなります。『ここは青春です』と語る小林博ガバナーは『地域社会も含めて新世代にロータリーの素晴らしい種を播き育ててほしい』と提言されました。地区内インターアクトクラブのユニークな活動と連携を組みながら、地区内全71ロータークラブでの新世代活動が活性化される事を目指します。

活動計画

1. 海外研修—国際理解を深めるために
期 日 2002年8月1日(木)～5日(月)
2. 「RYLA」企画、開催—語り合い、理解し合い、学び合う(Jグループ)
期 日 2002年9月7日(土)8日(日)泊2日
3. インターアクト年次大会—独創的なアイデアを活用して
期 日 2003年6月予定
4. 世界インターアクト週間祝賀行事、祝賀表彰の奨励—新世代のボランティアを学ぼう
期 日 11月5日を含む週(11月4日～10日)
5. 地区委員会開催—顧問教師と共に連携を
※顧問会議 随時開催。

青少年交換委員会



委員長
清水慧子(長沼)

委員
玉木 弘孝(札幌北)
長澤 昇司(札幌東)
渡邊 哲則(札幌手稲)
加藤 康夫(札幌南)
渡邊 葉子(札幌西北)
藤野 明信(函館北)
目黒 幸隆(余市)
山内 哲郎(上磯)
馬場 信吾(北広島)
坂口 達也(千歳セントラル)

2510地区の青少年交換プログラムは、新しく始める台湾との交換を含めアメリカ、カナダ、オーストラリア、メキシコ、フィンランドの6カ国12地区と短期のスイス、アメリカの2地区である。同じ数だけ派遣しているのに、インバウンド(来日学生)、アウトバウンド(派遣学生)を合わせて年間約30名の学生を扱っている。選考試験に始まり、オリエンテーション、送り出し、来日学生の受入を含め切れ目なく1年間が過ぎていく。例えば一人の派遣候補生を送り出す迄には、書類を整え派遣するまで相当の時間と労力を費やす。来日学生も然りである。来日学生に関しては、直接お世話を頂くクラブなりホストファミリーのご苦勞は推察するに余りある。それでも、従来、英語圏が主流を占めていたが、メキシコが加わり、台湾がスタートとすると、青少年交換事業にも幅が出て楽しみである。従来のROTEXを交えたキャンプ、或いはホームページを開設する等、青少年独自のプログラムづくりに積極的に取り組みたいと思う。

地 区 委 員 会 活 動 計 画

ライラ委員会



委員長
宮崎善昭(札幌西)

委員
山本 雅昭(苫小牧北)
山田 信一(砂 川)
荒木麻美子(余 市)
鹿野 文男(函館亀田)
クリステンセン・トキル
(札幌南)

今年度のセミナーは、ジュニアクラスとシニアクラスの日程を分けました。

ジュニアクラスは、9/7～8に札幌NTTセミナーセンターで、石川淑子氏(矯正施設相談員)の基調講演、シニアクラスは9/21～22JR研修センターで宮崎幸雄氏(米山奨学会記念財団常務理事)の基調講演を中心に学びを深め、若い仲間の親睦と交流を図る予定です。

今年度のテーマは「共生」で、私たちの中にある老若男女、思想、宗教、民族、文化、障害者などによるさまざまな差異や区別をどのように考え、どんな方法で共存して生きていくのかを考えてみたいと思います。

新世代委員、米山奨学生・学友、財団奨学生・学友、交換留学関係者並びに青少年活動の関心をお持ちのロータリアンの参加も大歓迎です。

米山記念奨学委員会



委員長
戸井敏夫(札幌南)

委員
黒田 秀雄(室蘭東)
中山 裕視(札幌真駒内)
武田利兵衛(札幌南)
村上 恒明(札幌南)
内野 司(砂 川)

(活動計画)

ロータリーの奉仕の精神に基づき国際理解と親善に寄与する米山記念奨学制度の地区内における発展を期し、下記の活動を行う。

1. 米山記念奨学制度への理解を深めていただくための広報活動を行い、特別寄付金の推進を図る。
2. 10月の米山月間を中心として、地区内クラブを訪問して、卓話を行う。
3. 次年度米山奨学生の面接試験を実施する。また併せて地区内クラブに新規奨学生のカウンセラー委嘱のお願いをする。
4. 米山奨学生懇談会など奨学生相互間及び奨学生とカウンセラーとの親睦を深め、絆を強める行事や会合を実施する。
5. 米山学友委員会と連携し、奨学期間終了者の学友会への入会を推進する。

(行事予定)

委員会の開催

第1回	2002年10月26日(土)
第2回	2003年 2月22日(土)
第3回	2003年 5月17日(土)

米山奨学生懇談会	2002年10月26日(土)
米山奨学生選考試験事前打合せ会	2003年 2月 1日(土)
米山奨学生選考試験	2003年 2月 2日(日)
期間終了米山奨学生歓送会	2003年 2月22日(土)
新規米山奨学生オリエンテーション	2003年 5月17日(土)
地区米山セミナー	2003年 4月

米山学友委員会



委員長
見延庄三郎(小樽南)

委員
高橋 紀幸(札幌あけぼの)
笠原 昇一(札幌東)
工藤 徹也(札幌西北)
野沢 幸平(岩 内)
齋田 義孝(小樽南)

[I] 米山委員会の目的

米山学友会活動への支援及びこれに関連する事業を目的とする

[II] 委員会の活動計画

- ① 米山学友会の活動に対する支援
 - (イ) 米山学友の現状調査と学友会名簿の追補作業
 - (ロ) 米山学友会総会(及び総会以外の定例会)への参加支援
 - (ハ) 米山学友会役員との情報交換及び学友会への支援内容協議
- (ニ) 米山学友会賛助会員の賛助金拠出を推進
- ② 米山学友のロータリー活動への参加促進
 - (イ) 米山学友の地区大会その他ロータリーの諸活動への参加推進
 - (ロ) 財団学友会との合同シンポジウムの開催
 - (ハ) 米山奨学委員会との合同委員会の開催・共同事業の推進
- (ニ) 他地区の学友会との交流
- ③ 広報宣伝活動

学友会だより(北海道)の発行他

* 米山記念奨学委員会・ロータリー財団奨学・ロータリー財団学友会等と連携をとりながら活動の深度を深める

広報委員会



委員長
城木浩一(札幌北)

委員
丸山 淳士(札幌真駒内)
木村 照男(千 歳)
小林 俊之(札幌北)

【広報の目的】 善いことをして言いふらすのは偽善と言われます。「慈愛の種を播こう」とする今日、以上のことを十分心得た上で、それでも私達は人類への奉仕を広げるため、広報によってロータリーの旗色を鮮明にします。「町の片隅の活動」から「ポリオを駆逐する世界的運動」まで、周囲の理解と共感を得ることを目的とします。

上記の目的を達成するため、次の事業を行います。

【報道機関との関係を強化する事業】 より効果的な広報を模索するため、報道関係者との会合をもちます。

【クラブプロジェクトの連絡体制】 プロジェクトは、各クラブが地元報道機関を通じて広報します。地区広報委員会でもこれら年次及び継続プロジェクトの情報を集め、事例集を作りたい。このために情報関連委員会と横の連携をとり、情報の収集に努めます。

その他、上記の事業を達成するために、随時、奉仕の理想を鼓舞成します。

地 | 区 | 委 | 員 | 会 | 活 | 動 | 計 | 画

情報委員会



委員長
亀井敏清(函館)

委員
廣川 雄一(札幌)
長谷川振一(札幌東)
大淵 勝敏(小樽南)
中島 健(滝川)
滝本 繁(札幌手稲)

地区情報委員会は、地区内クラブ情報委員会が最も効果的にその目的を遂行されることを目的とします。

情報伝達の方法として、インターネットによるコミュニケーションが図られており、その利便性は認められ絶大な効果を果たしております。

その中で当委員会は地区IT委員会と連携を持ち発信するロータリーのあらゆる情報を提供し、地区内クラブ運営と会員のロータリー理解に寄与することに務めます。

特に情報委員会では情報伝達の方法として各クラブに対し卓話又は勉強会に参加し、直接対話による情報伝達を図ります。

改正された規定並びに手続要覧の解釈の差違によって、クラブ運営に支障の来たさないように規定並びに手続要覧の本旨を解説したいと考えております。

IC委員会



委員長
山田信夫(苫小牧北)

委員
野田 富夫(滝川)
光銭 健三(上磯)
廣瀬 保男(小樽南)
丸山 雄一(函館)

1. メールマガジンの配信

RI、RJW(ロータリー・ジャパン・ウェブ)などからインターネットを介して流通する情報および地区内の情報を、速やかにガバナーはじめ地区内のみなさんに直接電子メールで配信する。また、インターネット・コミュニケーションの傷害となるコンピュータウイルスに関する対策情報なども合わせて配信する。

他にホームページでバックナンバーのページを開設する。

2. インターネット活用の普及促進

経済性、迅速性、利便性などに優れた情報交換の一手段としてのインターネットの理解と普及に努める。特に、グループ、クラブの活動に対し積極的に協力する。

また、ホームページ、メーリングリストなどインターネット活用研究と事例調査を実施する。

3. IT化支援

次の項目について資料、情報の提供などの支援をする。

- ①ホームページ開設(作り方、各種マーク、テーマロゴ配信など)
- ②メーリングリスト(メールの相互一括配信)の構築

ロータリーの友(雑誌)委員会



委員長
佐藤 公(札幌北)

委員
斎藤 元護(札幌南)
山名 善久(札幌南)
坂井 治(千歳セントラル)

新設の機会に本来なら「雑誌委員会」とするところを、「ロータリーの友」委員会という名称に致しました。

活動方針

1. 会員に7月号よりモデルチェンジした「ロータリーの友」をいかに親しんで読んでいただくか。
2. 2510地区内のクラブに「雑誌委員会」を「ロータリー委員会」名に改称していただくようにPR活動する(年度内から改称できれば最善)
3. 地区内の雑誌(ロータリーの友)委員会委員長との情報交換、交流を図る。

具体的には

1. 各クラブ内の会員にアンケートを実施する。その結果を4月の雑誌月間に発表する。
2. 地区内の「雑誌委員長名簿」を作成する。
3. 月信を大いに活用し当委員会の活動内容を発信する。「ロータリーの友委員会便り」などのコーナーをレギュラー化できれば最善。
4. 小林ガバナーとの情報交換を密にし、地区活動内容を雑誌「ロータリーの友」への記事投稿を促進する。
5. 当委員会委員同士の交流と情報交換を図り、友好を深める。

文献資料室



委員長
塚原房樹(札幌東)

委員
小田切房之(札幌東)
舩田 雅彦(札幌南)
佐々木 敦(札幌真駒内)
藤森 敏昭(札幌モニング)
篠島 弘(滝川)

ロータリーの世界もいまやインターネットは不可欠となりました。そこで地区文献資料室は昨年より『RI2510地区』というドメインを取得して、地区のホームページを継続管理することになりました。したがって今年もガバナーのページを中心に地区委員会の活動計画とその進捗状況を掲載、また地区内各クラブの現況・ニュースをタイムリーに紹介してまいります。

今年度の重点目標

- 1 地区のIT化促進のため地区のWebサイトをPRしてアクセス数を増やす。
- 2 地区のドメインを主として、サブドメインアドレスを利用した各クラブのホームページの作成に協力する。
- 3 文献図書貸し出しのPR 例会プログラムのビデオ資料のPR。
- 4 ロータリー文献資料の拡充と資料の分類・整理 在庫の確認。

地区の組織図は、今年度、内容的にも、外見上でも、大きく変わりました。

内容の変更点は、(1) 新しく、100周年記念、IC、雑誌、家庭奉仕、友情交換、ライラ、米山学友の各委員会が設けられたこと、(2) 青少年交換委員会が、国際奉仕委員会の下から新世代委員会の下に移ったこと、(3) 趣味職業別親睦活動委員会が親睦活動委員会に名称変更されたこと、です。

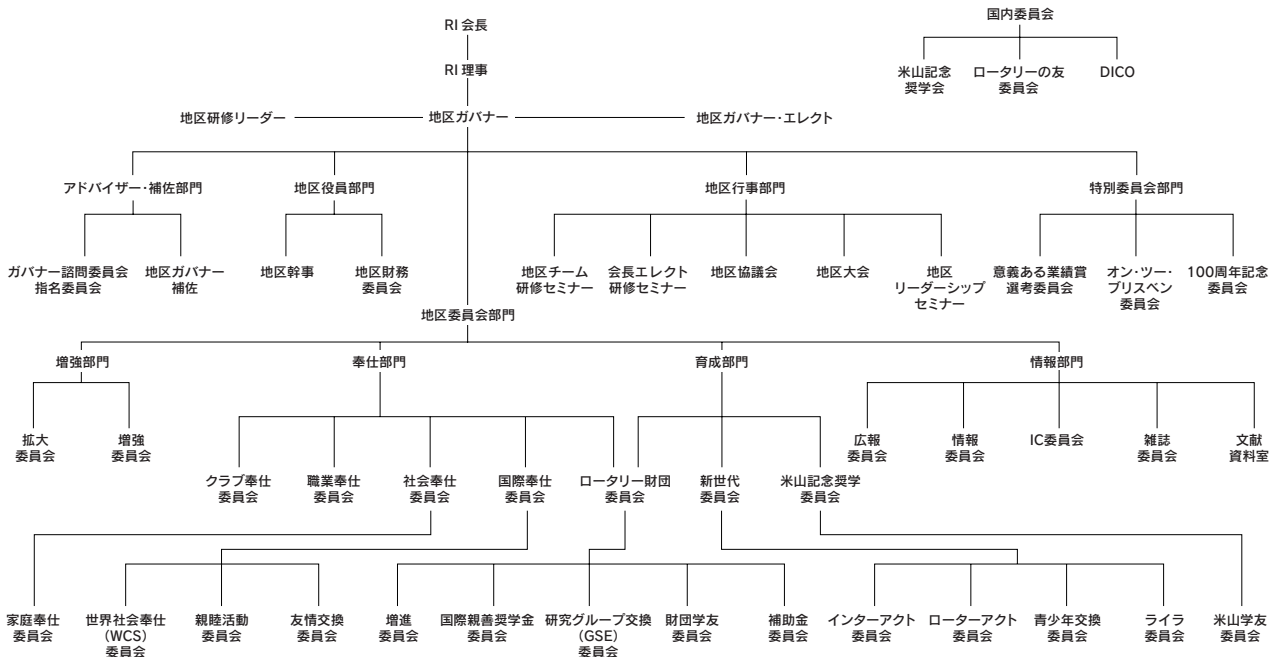
外見上の変更点は、(1) 地区選出の国内委員会委員を、地区とは切り離して図の右上に纏めたこと、(2) それ以外は、「地区ガバナー」を中心にして、上部に「RI会長と日本選出のRI理事」、左に「地区研修リーダー」、右に「地区ガバナー・エレクト」を配し、下部に、他のすべてを、「アドバイザー・補佐」「地区役員」「地区行事」「特別委員会」「地区委

員会」の5部門に整理して配置したこと、です。

「地区委員会部門」では、14の親委員会をその性格に従って、さらに、「増強」「奉仕」「育成」「情報」の4つのサブ部門に分類して、横一列に並べました。なお、ロータリー財団委員会は、奉仕と育成の両方の性格を持っているため、両者の中間に配しました。

また、14の小委員会を親委員会の下に、やはり横一列に並べました。

昨年までの組織図と比べて、少し見やすくなったと思います。しかし、これは今年度の一応の結論であって、異論もあることでしょう。次年度には一層改良された組織図が作られることを期待しています。



子どもから教わる――

ビチャイ・ラタクルRI会長の2つの話

ビチャイ・ラタクルRI会長は国際協議会（2002年1月27日-2月3日、アナハイム）の挨拶のなかで次のようなエピソードを紹介した。

「自分はある日曜日、身寄りのない子ども達に付き添うようにロータリーのクラブ会長から誘われ、嫌々ながら行くことになった。厭だなど思いながら、特に目に付いた一人の子が何となく気に入らなかった。ところがみんなが海岸に行って一日を過ごしているうちにその子が自分のところに来て離れなくなっていた。困ったなあと思っているうちに気づいたことはこの子供は身寄りが無くて、自分を父親代わりに私を慕っていたんだ。夜になってその子はついに自分の足にまわりつくようにして、『あなたが私のお父さん

だったらいいな』と言う少年の声を聞いて、自分がロータリーアンとして人様のお役に立てたことの大切さを感じた」と。

また次のようなエピソードを紹介した。

ビチャイ・ラタクルさんは政治家で、各地方をトラックに乗ってマイクを握り遊説して歩くわけだが、夜になってある辺鄙な町について、もう声もからからになった。沢山の聴衆の中から一番前にいた少年がサトウキビの入った袋包みを持ってきて「おじさん喉が渇いたでしょう。これを食べたら、喉の渇きがとれるでしょう」と言って差し出してくれた。ビチャイ・ラタクルさんは何とやさしい子だろう。この子は他人を思う心、ロータリーの心を知っている、と感激したと。

2004～2005年度

ガバナー・ノミネー候補者推薦のお願い

2004～2005年度地区ガバナー・ノミネー候補者として適格な会員があり、地区ガバナー指名委員会の審議を希望する地区内クラブは、10月10日必着にて、地区ガバナー指名委員長（地区ガバナー事務所気付）宛、文書をもってご推薦ください。

尚、地区ガバナー・ノミネー資格条件については、国際ロータリー細則第15条第7節1項～6項及び第8節の資格条件に適していることを要します。

地区ガバナー 小林 博
地区ガバナー指名委員長 伊藤長英

参 考

- 国際ロータリー細則第13条（ガバナーの指名と選挙）
- 国際ロータリー第2510地区、地区ガバナー指名委員会規定（1998～1999年度地区年次大会決議第9号）

文庫通信

178号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万8千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

興味ある文献から

- ◎「私の宣言」 アーサー・フレデリック・シェルドン（1911年8月23日全米ロータリークラブ連合会議事録：田中毅PG邦訳）4p
[申込先：ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「三つの山脈 ロータリーの百年」 津田 進 千曲川 R. C. 2002 40p
[申込先：千曲川R. C. FAX(0267)86-5925]
- ◎「ロータリーの奉仕の意義」 坂田元記 1988 8p
[申込先：ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「自問自答の採点表」 D. 365 1971 3p
（「職業奉仕の勘どころ」より抜粋）
[申込先：ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「奉仕の理想探求語録集」 長崎東R. C. 2002 60p
[申込先：長崎東R. C. FAX(095)821-5857]
- ◎「良き市民とは……その心得十カ條」 伊藤次郎左衛門 編輯 一 21p
[申込先：ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「我が国の福祉」 寛仁親王殿下 2002 9p (D. 2590地区大会講演)
[申込先：ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「本当に可愛がるとは」 川嶋 優 2002 9p (D. 2710地区大会講演)
[申込先：ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「小学校でお話する「ロータリーの綱領」[ロータリーの目的]」 佐藤千壽 2001 1p (ロータリーの友)
[申込先：ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「我々は、青少年のために何が出来るか？」 津田健三 2002 6p (D.2500地区大会講演)
[申込先：ロータリー文庫(コピー)]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary.bunko.gr.jp>
開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日

バルセロナ国際大会 報告

柏倉 慎 (札幌清田RC)

2002年6月22日から、30日まで、バルセロナ、マドリード、アムステルダム、に行きまして。何せヨーロッパに行くのは、初めてなもので、戸惑いもありました。7時間の時差にはすぐ慣れて、23日にはスペイン、バルセロナでのロータリーの国際大会に出席しました。国際大会では、全世界の人がそろい、色とりどりの国旗が、掲げられ、言語も、英語、フランス語、スペイン語、日本語、の通訳がなされていました。会場には、数え切れないくらいのロータリアンが集まり、大きなスクリーンに、キング会長の姿が写し出されていました。バルセロナと言えなんといっても、アントニオガウディーの建築物でしょう。一番有名なのが、Sagrada



国際大会の会場(オリンピック会場)には35℃の気温の中2万人が集まった。

familia churchです。今現在も建築中で新しい部分と古い部分がありました。またPark Güllと呼ばれるガウディー公園は、ガウディーの建物や、作品でいっぱいでした。その色彩感覚とどぎもを抜く外観には、バルセロナという町の歴史が感じられました。次に行ったマドリードの町は、300万人の首都で、大都会でした。ここでも歴史が脈づいており、王宮や闘牛場が印象的でした。次に行ったのが、トレドの要塞都市、とアランフェス宮殿です。そして最後にヨーロッパの中心オランダの首都アムステルダムで、観光を楽しみました。まさに国際都市で、すべての国の人に会ったと言っても過言ではないでしょう。運河と風車の国、自由が満ち溢れている国でした。また是非もういちど行きたいと思いたくなる旅行でした。



開会式前のアトラクションには、伝統芸能の竹馬人形が大勢でした。

西岡憲廣 (札幌西北RC)

6月21日(金)森本地区オンツアーバルセロナ委員長、小川委員長はじめ20名が新千歳空港から成田へ、22日(土)成田からアムステルダム、マドリード経由でバルセロナに到着しました。聞くところによればスペインではゼネストのため、あらゆる交通機関はストップしているという情報が入っていましたが、他のグループの中には後から聞いたところによれば、ロンドン、パリ、アムステルダム、フランクフルトで一泊された方、マドリードまではたどり着いたものの、長時間バスに揺られて、バルセロナに着いた方もおられたようです。空港には、ロータリー関係の出迎えはもちろん、それらしき掲示もありませんでした。



リチャード・キング会長より世界のロータリアンへの長時間に及ぶ強烈なメッセージ。

大会会場は、スペイン広場から南の広大な丘陵地帯に散在しており、登り詰めたモンジュイックの丘にあるパラオ サント ホルデイのドームが本会議場です。この丘に登る百メートル以上にもものぼる階段の両側には、屋外エスカレーターが設置されています。大会場入口の左側の建物が「登録会場」、右側が「友愛の家」になっています。ただし今までの大会と違って、「登録会場」の中に「ロータリー親睦グループ・ブース」と「ワークショップ・ブース」があり、「友愛の家」の中に「友愛の広場」以外に「RI財団ブース」や「物品販売ブース」があり、更に「ブリスベン国際大会」のブースは「友愛の家」に、「関西国際大会」のブースは「登録会場」にあるという、極めて判りにくい設営でした。

昨年度は70近くもあった「ロータリー親睦グループ・ブー



2510地区からの参加者は国際交流もさりげなくそれなりの理解でした。

ス」は、僅か22しかありませんでした。常連となっている「ROTI」「ICUFR」「ヨット」「アマチュア無線」ブースがありました。

6月23日(日) インターコンチネンタル・ホテルの地下で朝7時より恒例の日本朝食会が開かれました。630名の日本人ロータリアンが参加、ゲストとして参加したラタクル会長エレクト、マジアベ会長ノミニー、ジアイ財団管理委員長からメッセージが述べられましたが、肝心のキング会長の姿が見えませんでした。

4時半から、ドームで開会式が開催されました。それに先立って郷土芸能やアクロバットやダンスのパレードが会場を練り歩きました。

開会式は型どおりの加盟国国旗入場で始まり、キング会長は、スピーチの中で、NGOとしてのロータリーの活動の重要性について触れ、この一年間のロータリーの活動を収録した「人類が私たちの仕事」のビデオが上映されました。開会式の最後に、喜劇俳優ジェリー・ルイス氏にロータリー栄誉賞が贈られ、これに対するギャグ入りの短い謝辞が、ルイス氏より述べられました。夜には北海道ナイトが開催され、岩城ガバナー、森本PGはじめ49名が参加し、親睦を深めました。

6月24日(月) 大会2日目の本会議は、ドクターマン元RI会長より「ロータリーの公共的イメージと来るべき100周年」というスピーチがありました。引き続いて、例年の型どおり、RI元会長、RI会長、RI理事の家族紹介がありました。

RI会長とケネス・ボイドRI会員増強執行委員長から、グローバル・クエスト賞の発表があり、受賞した地区ガバナーとクラブ会長に記念品として地球儀が贈られました。なお、本年度の会員増強は72,500名とのことです。



北海道ナイトは森本委員長のごあいさつで始まり71名の出席で、親睦の輪がスペインで広がりました。

「登録会場」に設けられた「2004年関西国際大会」ブースを訪れる日本人の数も少なく、マジアベ会長ノミニー(関西国際大会開催時のRI会長は、関西大会では全期間大会参加をするようにと要請していたようです。6月25日(火)10時より本会議が開かれ、エド・フタ事務総長よりRIの現況報告に引き続いて、RI会長賞の表彰がありました。会員増強やロータリーの公共的イメージ高揚に貢献したとして、2470、5000、7930、9430地区のガバナーと4つのクラブ会長が表彰されました。残念ながら日本は入っていませんでした。

車椅子財団のケン・ベリング会長のスピーチと、同財団の活動がビデオで紹介され、寄贈を受けた30数カ国の国旗をつけた赤い車椅子が舞台を埋め尽くしました。

次いで役員選挙があり、03—04年度ガバナー、03—05年度

の理事と共に、ナイジェリアのジョナサン・マジアベ氏が2003—04年度RI会長に決定しました。同氏は受諾演説の中で、「私が住んでいる国からロータリー会長が出ることなど考えたことはありませんでした。これはポール・ハリスがザ・ロータリアン誌に書いた、人種差別廃止を証明するものであります」と述べました。

この日のハイライトは、前ソビエト大統領、ミカエル・ゴルバチョフ氏のスピーチでした。現在ロシアには70以上のロータリークラブができています。ゴルバチョフ氏の功績を称えて、キング会長から国際ロータリー奉仕賞が贈られました。



岩城ガバナーの最後の公式会とか、大変お疲れさまでした。

午後からは、青少年を対象としたインターアクト国際大会、ロータリーアクト国際大会、ライラ国際大会、青少年交換学生国際大会、ロータリアンを対象とした会員増強、リーダーシップ研修、ロータリーの公共イメージ、クラブおよび地区の改善、失明回避のワークショップが、時間をずらしながら、それぞれ別の会場で同時進行しました。

6月26日(水)ラタクル会長エレクトのスピーチがあり、会員増強や財団寄付にはほとんど触れず、「ロータリー運動の原点を考えよう」「bottom-upの重要性」「職業分類に基づいた職業奉仕の必要性」「職業倫理の高揚」「人類愛」についての精神性の高い内容でありました。

ロータリー国際理解と平和賞が、小麦の品種改良によって世界の飢餓対策に貢献した1970年のノーベル平和賞受賞者、ノーマン・ボーローク氏に贈られ、同氏の講演と共に、その活躍を記録したビデオが上映されました。それに引き続いて、アナン国連事務総長夫人のボランティアに関するスピーチが行われました。

ポール・ハリス・フェロー昼食会の後、昨日同様に青少年関係全部門の国際大会と、ロータリアンを対象とした財団情報、国際問題研究のためのロータリー・センター、ポリオ撲滅、資金開発に関するワークショップが同時開催されました。

閉会式では型どおりのセレモニーが続きましたが、最後にキング会長が閉会の辞を述べたあと夫人と共に歌い、幕を閉じました。

ホスト委員会発表によれば、大会参加国は146カ国。登録者数19,000名(内アメリカ5,663名、日本1,577名、スペイン767名)となっていますが、最終的なものではありません。

以上、国際大会の状況を資料にもとづいてまとめました。

[写真提供は大田すみ子(札幌北RC)]

米山記念奨学生 紹介

2002-2003年度



氏名	ムンガンバケン 孟根巴根
国籍	中国
大学・課程学年	北大・修士2
専攻	法学政治学
世話クラブ名	札幌大通公園



氏名	ラトナヤケ・ ナリン・プラサナ
国籍	スリランカ
大学・課程学年	北大・博士3
専攻	地球惑星科学
世話クラブ名	札幌西北



氏名	ツンスオウ 曾頌文
国籍	台湾
大学・課程学年	北大・博士3
専攻	生物資源生産学
世話クラブ名	札幌モーニング



氏名	フー・トゥー・アン
国籍	ベトナム
大学・課程学年	小樽商大・学部4
専攻	経済
世話クラブ名	小樽南



氏名	オウカイエン 王海燕
国籍	中国
大学・課程学年	北大・博士2
専攻	人間システム科学
世話クラブ名	札幌



氏名	オウリン 王麟
国籍	中国
大学・課程学年	室蘭工大・修士2
専攻	材料物性工学
世話クラブ名	室蘭東



氏名	アクデステ ルステム・ムスタファ
国籍	トルコ
大学・課程学年	北大・修士2
専攻	経済システム
世話クラブ名	札幌東



氏名	ソウシュケン 曹淑娟
国籍	中国
大学・課程学年	室蘭工大・修士2
専攻	機械システム工学
世話クラブ名	室蘭



氏名	チヨデン・ヒシ
国籍	ネパール
大学・課程学年	道工大・学部4
専攻	電気工学
世話クラブ名	札幌あけぼの



氏名	サイレイ 崔玲
国籍	中国
大学・課程学年	教育大・修士2
専攻	教科教育
世話クラブ名	函館



氏名	ボウエイ 房穎
国籍	中国
大学・課程学年	北大・修士2
専攻	国際広報メディア
世話クラブ名	札幌真駒内



氏名	ヘジャジ・ラド・ ヘサメディン
国籍	イラン
大学・課程学年	札幌大・医博4
専攻	皮膚科
世話クラブ名	札幌西



氏名	キムセウン 金世殷
国籍	韓国
大学・課程学年	北大・博士3
専攻	化学
世話クラブ名	札幌東



氏名	コウセイホン 高在弘
国籍	韓国
大学・課程学年	北大・獣博3
専攻	獣医学
世話クラブ名	札幌



氏名	リーナイユエン 李乃元
国籍	台湾
大学・課程学年	北大・博士3
専攻	生物資源生産学
世話クラブ名	札幌南



氏名	イヨンエ 李英愛
国籍	韓国
大学・課程学年	学園大・博士2
専攻	日本文化
世話クラブ名	札幌南



氏名	リーコウバイ 李紅梅
国籍	中国
大学・課程学年	北大・医博3
専攻	生体機能学
世話クラブ名	札幌北



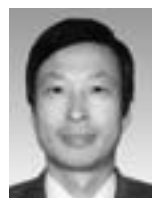
氏名	ローミンユエ 羅敏耀
国籍	マレーシア
大学・課程学年	札幌大・修士2
専攻	経営学
世話クラブ名	札幌南



氏名	オウウン 王云
国籍	中国
大学・課程学年	北星大・修士2
専攻	経済学
世話クラブ名	新札幌



氏名	シルー 西茹
国籍	中国
大学・課程学年	北大・修士2
専攻	国際広報メディア
世話クラブ名	札幌清田



氏名	チヨウショウキチ 趙松吉
国籍	中国
大学・課程学年	北大・医博4
専攻	高次診断治療学
世話クラブ名	札幌手稲



氏名	アハマド・ジャン
国籍	アフガニスタン
大学・課程学年	北大・博士4
専攻	システム情報
世話クラブ名	札幌はまなす

2002年度の地区米山奨学生は、本年2月3日に選考試験を行い、大学推薦による50名の応募者の中から18名の新規採用者を決定いたしました。これに前年よりの継続者3名とクラブ米山奨学生1名を加えた合計22名が今年度の地区米山奨学生です。

いずれも高い志を持った真面目で優秀な海外よりの留学生です。地区内行事にも積極的に参加しますので、ロータリアン各位の暖かいご理解とご支援をお願いいたします。

2002 秋キャンプ NISEKO in ROTARY

交換留学生と派遣候補学生、クラブ関係者及びホストファミリーを囲んで、国際交流、文化交流を深め語り合い、楽しいひとときを過ごしたいと考えこのキャンプを企画致しました。

このキャンプでは、来年出発予定の派遣候補学生のオリエンテーションも含んでおります（オリエンテーションの出席は候補学生の義務です）。ホストファミリーの負担軽減と、

クラブ関係者やロータリアン、家族の参加でよりいっそうの親睦を深めていただき、青少年交換事業の素晴らしさを知っていただければ幸いに思います。

ROTEX（帰国した派遣学生）も加わって思い出話しに耳を傾けよう。

皆さんの御参加をお待ちしております。

日時 平成14年9月7日(土)～8日(日)

場所 『ユニタス・ログヴィレッジ』

<http://www.unitas.co.jp/>

ログハウス(サウナ付き)ホームページ参照

倶知安町ニセコ高原ひらふ

TEL 0136-23-4111

当日の予定時間割

9月7日 11:00 現地集合場所については後日連絡

13:00 ラフティング(約3時間の川下り)

18:00 夕食(屋外)

22:00 就寝

9月8日 6:00 起床

7:00 朝食

8:00 派遣候補学生オリエンテーション

11:00 帰路

◇出欠のご返事は9月2日(月)まで、各クラブを通じて青少年交換委員会までお願いします。

(青少年交換委員会)

「ロータリーの社会奉仕に関する情報交換会」を開催します。

7月から9月にかけて地区内5カ所(滝川、札幌、余市、苫小牧、函館)でクラブ社会奉仕委員長さんを対象とした「社会奉仕に関する情報交換会」をグループ合同で開催します。

主旨と致しましては、年度始めに他のクラブの活動を知ることにより、地域社会が真に求めている奉仕活動を幅広く模索し、活動のマンネリ化を防ぐと共に、地域と

一体となったロータリー活動を社会に知ってもらうことにあります。また、会員数や予算の関係で実施が難しい事業に関してはグループ内での調整をはかる機会にもなります。

多くのクラブが参加され情報交換するとともに、親睦を深めていただければ幸いです。

(社会奉仕委員会)

2002年 第6回 障害者世界会議(DPI)を

支援しましょう

地区社会奉仕委員会は5月に開いた委員会で今年度の活動方針を決定しました。その中の一つに、資金的困難に直面し会議の規模を縮小せざるをえない「障害者国際会議」を支援することにしました。



この会議は4年に一度開催され、世界中からさまざまな障害者が集い意見交換し、障害者が生活しやすい社会づくりを健全者とともに考えるものです。会議を主催するDPIは現在120カ国以上が参加する世界最大のNGOです。

人はだれでも歳をとり、歳をとれば心身の状態は障害者と同じ状態になっていきます。障害はわれわれ健全者にとっても身近な問題です。

具体的な支援方法については、障害者国際会議事務局ともご相談し各クラブに書状をもってお願いいたします。ご理解ご協力を心からお願いいたします。

札幌大会の概要

日程 2002年10月15日(火)～18日(金)

会場 北海道立総合体育センターきたえーる

テーマ すべての障壁を取り除き、違いと権利を祝おう！

ガバナー事務所が身近になりました 地区のホームページを活用してください

文献資料室委員長 塚原房樹

ロータリーの世界もIT革命

情報技術の革新により、我々ロータリーを取り巻く環境も、特にRIと日本のガバナーの間、ガバナーとクラブの間の情報伝達環境がすっかり変わってしまいました。そこでこの変化に対応するため、地区文献資料室が『RI2510地区』という当地区のホームページを開きました。

若い会員はコンピューターを使ってどんどん新しい情報を得ているにもかかわらず、ロータリーのことは何でも熟知している年配の会員がパソコンアレルギーのために情報音痴になりつつあるという実態が訪れています。

インターネットを見るだけなら実に簡単です。会社の人やお孫さんに頼むと一瞬のうちに誰にでも新しいロータリーの世界が開けます。操作方法もごく簡単です。ホームページのアドレスは<http://www.ri2510.gr.jp>です。ぜひアクセスしてください。ホームページから得られるメリットの一部を挙げてみました。

RIや地区の動向がタイムリーに紹介されます。

RI会長のテーマを始めガバナーの活動方針や地区の委員会活動が一目で解ります。公式訪問の日程や地区大会、地区の行事日程もご覧ください。

ロータリーがより身近に生活の一部となります。

従来は人より先に情報を持つことが権威の証でした。情報は上意下達方式でRI会長→ガバナー→クラブ会長→会員と順に伝えられました。しかしいまや24時間いつでも誰でも知りたい情報が平等に提供されます。

ロータリーに関する事なら何でも解ります。

ロータリーに関するすべての資料が網羅されています。今までのように雑誌・文献・資料を探す手間が省けます。

ロータリーの輪が広がります。

国内のクラブをネット上で気軽にいつでも訪問できます。掲示板を通じて投稿も出来ます。地区のホームページ『RI2510地区』はロータリーの世界に新しく生まれた情報伝達装置です。これからはガバナー事務所からのお知らせも主にネットを通じて行われるようになります。まだ地区のホームページをご覧になっていない方はぜひ新しい体験をしてください。



ガバナー日記

運動不足と過労

私はバルセロナにおける国際大会（6月19日～29日）に出席する予定でいたが、残念ながら4月末から5月末にかけて体調がすぐれないため参加を取り止めた。

最初、医師である私にも体調不良の原因はわからなかった。ただ、振り返ると本年1月末からのアナハイムでの国際協議会に始まり、地区チーム研修セミナー、スリランカ第3220地区大会出席、会長エレクト研修セミナー、台北におけるRI会長会議出席、そして地区協議会と行事が目白押しで、これに私の専門領域の会議（冬季札幌がんセミナー、米国癌学会など）も重なって、2、3、4の3カ月間、土曜・日曜は一回の休養もとることも出来なかった。

それに私はこの数年、初心者ながら週末テニスで体を動かすことで体調を整えてきたのだが、最近はこの暇がなくなった。私の体調不良はこの過労と運動不足によるものだとようやく思い当たったのである。

身体の不調が精神的な不調にもつながる。事実、ロータリーの諸準備も大変だったし、自ら振りかざした大きな希望の前にいささか疲れが溜まってきたように思う。

原因がわかってから努めて時間的余裕を作り、そのお陰で気分的に大分楽になり、テニスなど肉体的トレーニングも再開した。また難しい仕事は地区幹事のみなさんをお願いすることで、ロータリーの7月の新年度に向けてようやく十分な体調で迎えることが出来たように思う。

みんなの意見交流の場を

みんながもっとよくロータリーを知ろう！ロータリーに関わる情報は、全会員がもっと身近に共有すべきではないだろうか。情報は、ガバナー補佐、地区委員長だけのものではないし、会長・幹事だけの独占物でもない。90%以上の一般会員がどれだけロータリーに関わる正しい情報を得ているかが活動をより高めるためにも大切なのだと思う。

クラブにはクラブ会報があるように、地区には地区会報があってもいいのではないかと。地区会報に相当するのが月信であり、これに各会員がいつも目を通し、地区内の全てのことに関心を持っていただければいいと思う。TVが普及しインターネットが重宝されても、毎朝の新聞には目を通すように、月信はロータリアンにとってそのような必需的なものでありたいと思う。

7月1日、本年度の第1号（7月号）がようやく出来、直ちに発送した。竹原編集委員長の意図は単に情報伝達のための月信ではなく、会員相互の意見交流の場にもし、さらに読み易く親しみの持てるものを作りたいと願っている。このような試みを進めることは大変な苦勞であり、傍らで見ている編

集委員のご苦勞に頭が下がる思いである。7月1日夜は月信第1号の刊行を祝って、某所で編集委員を中心に地区幹事一同揃って楽しく乾盃！



非公式の公式訪問？

ガバナー公式訪問は、各クラブの合同例会の出席が原則となったので、71クラブの個別訪問は今年は26回の訪問ですむことになる。ということは従来の個別の公式訪問を受ける機会がなくなって残念に思うクラブもあるかもしれない。

第3グループのガバナー補佐（Assistant Governor ; AG）の辻野修さん（当別RC）は、合同例会を江別RC、江別西RCとの3クラブ合同で江別で行うことにしたために、ご自分の当別クラブにガバナーを迎えることが出来なくなってしまった。

辻野AGは当別クラブにも訪問して欲しいと言う。私は即座に快諾した。7月2日（火）、新年度に入って初めて自分で車を運転して当別RC昼の例会に出席させていただいた。ちょうど、新入会員にロータリーのピンをつけさせていただく幸運にも恵まれ、クラブの明るく和やかな雰囲気が印象的だった。この訪問は既に決められたスケジュールのものでなく、いわば臨時の訪問なので「非公式の公式訪問」と言うのかもしれない。名称はともかく、時間さえ許せば私は従来通り出来るだけ多くのクラブを訪問したいと思っている（7月10日記）。



植島新会員にロータリーのピンをつける

ガバナー補佐会議

第1回ガバナー補佐会議が6月30日(日)12:00~16:00、札幌アスペンホテルにて開催された。6月30日の日付はまだ前年度であるが、日程の都合上岩城直前ガバナーのご了解を頂き、同日の開催となった。

ガバナー補佐会議は従来、年度始めと翌年1月と6月(任期交代の時)の計3回開催されている。ただ、ガバナー補佐は以前の分区代理と違って、非常に大きな責務を持つことになり激務が予想される。とくに今年度からガバナーがやらなければならない仕事の相当部分をガバナ

ー補佐にお務めいただくことになる。当日は地区運営に関し意見交換をおこなったが、とくに月信、地区会員名簿などなど新しい改革に向けてのホットな討論を基に今後の意見調整がはかられた。



手続要覧2001年の12ページには「喫煙は個人の健康に有害であることを認識し、会員ならびに来賓の各自は、国際ロータリーの名の下に開かれる会合およびその他の行事において、喫煙を控えるよう奨励される(RI細則2.040.)」。また、190ページにも「喫煙は個人の健康に有害であることを認識し、会員ならびに来賓は各自、RIの名の



のもとに開かれる会合およびその他の行事を通じ、喫煙を控えるよう奨励される」と認識されている。以上いずれも同じ文章であるが、喫煙に関してRIが一步踏み出した姿勢を示したことになる。少なくともRIの例会などにおける喫煙は、ロータリアンとして自粛するようつとめなければと思う。

向笠広次元RI会長 友人に感謝！

1982-1983年国際ロータリー会長向笠広次さんがRotary Winsom Reflections on Services (1991年)に英文で書いた文章に次のものがある。

「今から何十年前になるでありますでしょうか。私の心から敬愛してやまない眼科医の一人がロータリークラブへの入会をすすめに参りました。忙しい時間を毎週一回定期的に昼食例会に時間を捧げることは不可能だという理由で私は最初おことわりいたしました。しかしながら友人の再々なる勧誘に負け私はクラブに入会したのです。クラブに入会して、これまで私が断り続けてきた理由がなんとお粗末で愚かなことだったかを私は悔まずにはられませんでし

た。今、私はあらためて私を推薦してくれた友に心から感謝しているのです。なぜならもし私がロータリアンにならなかつたら、ちっぽけな専門の世界に身を置くだけで世界のいたる所に言葉を超え、宗教を超え、肌の色にこだわらない素晴らしい多くの友人達に出会うことが出来なかつたことだけは確信できるからです。皆様、よくお考え下さい—いまあらためて感謝するのです。私をロータリーに導いてくれた私の心の友に！！」

引用に値する言葉

「友情は、ロータリーを築く岩のように堅固な土台であり、寛容の精神は、ロータリーを結びつけるものです」

—ポール・ハリス、ロータリー創始者、
「ロータリーへの私の道」

ガバナー事務所にいろいろの質問や感想が寄せられます。その一部を紹介します(お名前、クラブ名は省略しております)。

Q. 会員の種類が2種類になることによる職業分類表の作成を、どのような分類表で行うのが1番よいのでしょうか。

A. 会員の種類が正会員と名誉会員の2種類となり、職業分類が適用されるのは正会員のみであります。在来職業分類は「アクティブメンバー、正会員」の他、職業分類を持たないシニア・アクティブ会員、パスト・サービス会員および名誉会員となっております。

2001年規定審議会で改正されたRI定款は会員の種類を正会員と名誉会員の2種類としたため、職業分類上正会員のみが職業分類の対象となりましたが、RI定款第5条第2節(b)では、クラブ会員50名までのクラブでは同一職業分類の会員を5名迄入会させることが出来、51名以上の会員を有するクラブはその会員総数の10パーセント迄入会させることができるようになりました。

クラブの職業分類表の作成には、在来のように無理した細分化は必要なくなりました。企業の相似又は関連した職業又は事務の区分を細分化する必要は無く、同一職業として5名迄または10パーセント迄入会させることができるように分類表を作製します。

Q. 2002年度より、DLPの本格的な採用と言われておりますが、DLPについて教えてください。また、DLPにより地区運営はどのように変わるのでしょうか？

A. DLPはDistrict Leadership Plan(地区リーダーシッププラン)の略称で、1997年より任意の採用でしたが、2002年度より義務採用と定められました。

DLPの採用により、ガバナーの下にガバナー補佐を置き、クラブの管理および地区委員会の管理の一部をガバナー補佐に委任することになります。

従来の地区委員会構成を見直し、委員会の新設と統廃合を実施致します。

ガバナー補佐と地区委員のリーダーシップと継続性を考慮し、3年間の留任が可能となりました。

また、ガバナーの公式訪問に関しても、クラブ例会を合同例会の開催としガバナーが出席するが、クラブ協議会の出席はガバナー補佐が出席することになりました。

各クラブの例会にもガバナー補佐は1年間に4回以上出席し、地区とクラブのコミュニケーションを円滑にし、地区運営の合理化と地区活動の活性化を図ることができま

す。

Q. メークアップについての質問ですが、地区の会議に2日間にわたって出席した場合メークアップは2回分になるのでしょうか？

A. 「ロータリークラブ定款」第8条(出席)に規定されておりますが、ガバナーの指示の下に開催された会議と解釈いたします。

2日間にわたる会議の場合、2回分のメークアップに相当します。ただし、3日以上にわたる会議においては日数に比例するのではなく、最高で2回分です。

Q. 新クラブ結成のときの入会金について教えてください。

A. 質問は創立会員(チャーターメンバー)の事案と思いますが、新クラブ結成の時の入会金、年会費、RI人頭分担当金、クラブ諸費用は、クラブ結成の設立総会の決議によって定められたクラブ細則による入会金、年会費、の定めによって支払う義務が生じます。

但し、新クラブは加盟が承認された日付後の半期まで会費支払いの義務を課せられないものとなっております。

※入会金及び会費

米国およびカナダにあるクラブで、少なくとも米貨25ドルの入会金、米貨40ドルの年会費を徴収しないクラブは、RI理事会がその加盟を認めない。

その他の国々では、ガバナーが、米国およびカナダの新クラブに対してRI理事会が決定した金額に等しい購買力のある金額によって新クラブの入会金および年会費を定めるものとする。

Q&A原稿募集

ロータリーの規則やクラブ運営についてなど、ロータリーに関するいろいろな疑問や質問をお寄せ下さい。

このコーナーを利用してお答え致します。

問い合わせは ガバナー事務所へ ファックス・Eメールでお願い致します。

“家庭奉仕について語り合いませんか”

家庭奉仕委員会 委員長
和田 壬三

1、家庭奉仕って何だろう

家庭奉仕に対する思いは、家族の構成、職業、地域、特に世代、などによって、異なるのではないかと。表面上は異なっても共通するのは、他人への思いやりの気持ちをどう家庭においても維持できるか、あるいは示すことができるかにあるのではないかと。家事を積極的に行うことが家庭奉仕か、思いやりだけで解決するのか、など様々であることが、本日の拡大家庭奉仕委員会の議論の中で明らかになりました。

この議論を踏まえて、当委員会は、外部から講師をお招きし、家庭奉仕について掘り下げて研究することにし、以下の日程でどなたでも参加していただけるオープン会議を開催します。参加者が多い場合は、ワークショップ方式で議論を集約することも企画しています。関心のある方は、事前に下記の連絡先に参加の意思をご連絡下さい。会場は第1回目は、下記会場にしますが、参加者が多数の場合は、第2回目以降は、変更するかもしれません。連絡は、月信および地区のインターネットに掲載して行いますが、下記連絡先にご確認下さい。

2、家庭奉仕勉強会

日程 第1回 8月17日(土) 午後5時

第2回 9月14日(土) 午後5時

第3回 10月24日(木) 午後6時

第1回(8月17日)の予定

- ① 場所 和田法律事務所
(札幌市中央区北4西6 毎日札幌会館
tel 281-0909 fax 271-4336)
- ② 講師 土橋信男
(前札幌市教育長、前北星大学学長)
- ③ 連絡先 和田法律事務所
(前記に同じ) 担当 伊勢

3、情報の発信

家庭奉仕に関係する注目すべき映画、ビデオ、テレビ放送、新聞、雑誌、小説などについての情報がございましたら、是非上記の連絡先にご連絡下さい。情報は、月信およびインターネットで直ちに開示します。

4、準備会参加者(平成14年7月4日開催)

小林博ガバナー、米山道男(地区幹事)、菅原剛太郎(社会奉仕委員)、大場公孝、長谷川美栄子、水野正純、高下泰三、和田壬三(以上家庭奉仕委員)

社会奉仕に関する情報交換会を開催

今年度の社会奉仕委員会の事業として、7月から9月にかけて区内5カ所(滝川、苫小牧、余市、函館、札幌)でグループ合同の社会奉仕に関する情報交換会開催を予定しており、まず、滝川IRC当番による第1、第2、第3グループ合同の情報交換会が7月13日(土)ホテルスエヒロで第2、第3グループガバナー補佐の出席のもと14クラブ33名の各クラブの会員参加で開催された。

対木地区委員長による効果的なプロジェクトの考え方や選択についての基調報告があり、参加クラブから過去3年間の奉仕活動と現況、継続事業についての意見交換が行われたが、会員数の減少と活動資金が問題点として提起されて

いた。

その解決策としては、他委員会、近隣クラブ、ボランティア団体、新世代との合同の事業が大いに検討されるべきであろう。更に活発な意見交換のなかで今年度新設された家庭奉仕委員会の活動にも多くの意見が出されていた。最後に地区委員会から10月15日~18日に開催される第6回DPI世界会議札幌大会(障害者インターナショナル)へのPRの協力と資金支援についても提案された。

なお、次回の情報交換会は8月31日(土)苫小牧で実施の予定である。

(社会奉仕委員 菅原剛太郎)



こしはサハリンから2名の女子学生

ロシアからの国際親善奨学生が到着

7月17日の朝、午前11時50分、ロビーで待っていた出迎え関係者の前に二人の明るく元気なロシアからの国際親善奨学生が到着出口のドアからにこやかに現れた。「コンニチワ!」「アリーサと申します、よろしくお願ひします」「リュエバです、ヨロシク」。

サハリン国立総合大学で日本語を専攻している二人は、既に日常会話以上に日本語を身につけているが、これから約3カ月、IAYで学んで更に日本語をレベルアップする予定。

二人のホストクラブは、アリーサが札幌真駒内クラブ（ホストファミリーは丸山淳士会員）、リュエバが札幌モーニングクラブ（同じく田中燈一および関口清会員）である。

二人により幅広い経験をしてもらえる

ように、他のクラブからの招待が期待されている。その場合には、二人の顧問ロータリアン（アリーサが上田正佳会員（電831-9977：勤）、リュエバが滝沢広忠会員（電386-8111：勤））または松下文芳会員（電382-2084：勤）へご一報を。

(国際親善奨学金委員会)



左からリュエバさん、土橋委員長、アリーサさん 仲の良い2人



クラブ活動 紹介

余市の新世代たちと再会を喜び合う！

2002年7月1日（月）小林年度がスタートした当日、5人の交換留学生は余市を訪れ、見事に民間大使の大役を果たして参りました。

皆様ご存知のように、余市町は高校生による大麻事件で町全体が重苦しい雰囲気で当該の高校の先生方のご苦労は想像を絶するものがございました。

そんな時、ロータリーとして何か出来ないだろうか考えた余市ロータリークラブ（佐々木忠男会長）は高校生同志、明るい未来を語り合うパネルディスカッションを計画し、4月24日に200名に余る参加者の熱い議論の中で新世代の持つ未来・希望・夢の素晴らしさを改めて認識した次第です。翌日、北星余市高校で交換留学生との

交歓授業が持たれ、大好評でした。アンコールの要請に応じて今回の訪問が実現しましたが、生徒達は写真のようにファミリーな間柄になり、Eメール番号を教えあったり、新しい友情が出来上がったと思えました。明るいイメージが戻り、地域の活性化に貢献した余市ロータリークラブの功績は大きく、フェアウェル昼食会に出席した安田巨新会長は地区の支援に深謝して下さり、これからも地区と手を携えて頑張ってくださいとお見送りいただいた駅頭で誓い合い、意義深く爽やかな訪問だった事を報告申し上げます。

(リポーター 新世代委員長 奥貫一之)



交換留学生達とロータリアン（右から奥貫委員長、3人目安田会長、左端荒木会員）



交歓授業風景（右から3人目がニコルさん札幌南RCホスト）



高校生達と5人の留学生（右からニコル、ナティカ、カイル、タクロウ、テニールの皆さん）

「苫小牧市クリーン町宣言」 中学1年生からの提言「〒053」

苫小牧東RC 会長
見玉 和雄

苫小牧東RCでは従来、社会奉仕委員会として環境保全をテーマに市民参加型の行事を行っております。今回は市内の中学1年生を対象に、地域における環境保全をテーマに標語を募集致しました。結果232作品が寄せられました。多くの応募作品のうち、14点が優秀作品に選ばれました。これらの優秀作品の中のことば「〒053」

を苫小牧市のシンボルマークのひとつに位置付け、標語を通して啓蒙を広めていく事を約束しました。

市民からの関心は高く、NHK胆振日高地方「いぶりDAYひだか」翌日には「おはようほっかいどう」番組に全道放送され、北海道新聞、苫小牧民報などに幅広く取り上げられました。

2002年(平成14年)7月2日(火曜日)

山下さんら14人表彰

中学生環境保全
標語表彰式 立て看板を設置

苫小牧東RC



環境保全標語で優秀作品を表彰

苫小牧東ロータリークラブは六月二十五日、市内のフジテレビホールにて、市内各中学校から約二百二十名、中学生環境保全標語の表彰式を行いました。

この表彰式は、市内各中学校から約二百二十名、中学生環境保全標語の表彰式を行いました。山下さんは、思いのままに書いた作品が、愛読者から大きな反響を呼びました。

山下さんは、思いのままに書いた作品が、愛読者から大きな反響を呼びました。山下さんは、思いのままに書いた作品が、愛読者から大きな反響を呼びました。山下さんは、思いのままに書いた作品が、愛読者から大きな反響を呼びました。

郵便番号 〒053 に いろいろなし
ゼロ ゴミ
〒053 の町 苫小牧
タバコの吸い殻
空き缶のポイ捨てやめて //

ゼロ ゴミ ゼロ ゴミ
053 053

①明野中学校 花崎 加奈
②植苗中学校 広瀬 陽輔
③弥生中学校 土居真奈美
④緑陵中学校 千葉 勇大
⑤光洋中学校 山下はるか

クリーンな町 苫小牧

苫小牧東ロータリークラブ

GSE 派遣締め切り迫る

2003～2004年度GSE派遣団員の公募締め切りは8月末日です。
2004年2月中旬から3月中旬までの35日間、フィリピン3830地区でロータリー財団の負担で研修します。募集人員は4名で25～40歳の男女。
詳細はGSE委員長(山名善久)に。
TEL011-662-5334

おにぎりに 感激

テレビのアナウンサーがある女優に次のような質問をしていた。「もう死ぬとわかったとき最後の晩餐に何を食いたいですか」。その女優は一瞬途惑った後、「私はおにぎりを食いたい」という。豪華なメニューと予想していたアナウンサーはいささかの外れの返事を意外に思ったかもしれない。でも、その女優は「おにぎりはおいしいだけでなく情がこもっているのがありがたいと思います。食するときいつも感謝の気持ちで涙が込み上げてくるのです」と。

札幌はまなすRC 創立10周年 記念式典のご案内

日 時 平成14年9月16日(月)
休日
登録開始 午後2時30分～
式典開始 午後3時30分より
場 所 札幌サンプラザ
(北24条西4丁目)
☎011-758-3111

登録料 10,000円
登録締切 8月20日(火)
札幌はまなすRC
TEL 011-736-6616
FAX 011-736-8322
実行委員長 坂田 博

亭主の社会奉仕・女房の社会奉仕

佐々木敦 (札幌真駒内RC)

今の時代のキーワードのひとつに「ボランティア」がある。私たちはロータリーを通じて奉仕活動を進めているが、一方で、少しでも生活しやすい社会への想いや、趣味の延長からなど理由は様々であるが、ボランティア活動に参加し活発に活動している人たちがいる。ボランティアの会がNPO法人になるのも珍しくない。

私の妻もいくつかのボランティア活動をしている。一つは、南区の介護老人保健施設へ週一回通っている。介護を要するお年寄りにとって大事な手先を使った作業訓練のお手伝いや、食事のお世話など。二つ目は、清田区ホタルの会、子供たちと区役所裏の池に蛍の幼虫を放流したり、山部川に蛍を甦らせる活動をしている。冬の間家で蛍の幼虫に毎日水を換えて餌（カワニナ）をやって育て、初夏に放流する。幼虫はきれいな川でないと生きられないので、山部川の清掃も大きな仕事だ。三つ目は、

バイオリンの会。プロ、アマ10人ほどの室内楽団「ブーケ」というグループで、いろいろな施設の慰問をしている。毎週の練習も結構きつい様だ。

主婦業の傍ら活動をすることは大変な様だが、施設の人たちのうれしそうな笑顔や、蒸し暑い夏の夜孵化して飛び立つ蛍の淡い光を見ると苦労も吹き飛んでしまうという。

私たちロータリアンにとって社会奉仕はおおきなテーマであり、おおきな活動をしているところではある。しかし、身近なところでいろいろ難しい状況の中、頑張っている市民や、グループがあるということ、そしてこれからの時代、共に大切な活動であるということも、よく認識したうえで、私たちロータリアンの活動も進めていくべきであろう。



光る姿 早く見たいね

■ホタルの幼虫放流

【清田区】清田区ホタルの会（田口春男会長）と同区内の平岡小児童が七日、清田区役所裏の人工池に、イケホタルの幼虫約二千八百匹を放流した。写真。

同会は一九九八年から毎年、会員が育てた幼虫を、この池に放流している。今年はこの日から来週末までに過去最多の四千三百匹を放流する計画だ。

この日、放流した約二千三百匹は、同会が昨年九月、平岡小にプレゼントし、五年生の飼育委員が育ててきた幼虫。飼育委員の七人は緑コープを使い、体長一・五センチの幼虫を静かに池の中へ、池底に沈んでいく幼虫を見ながら「光るホタルを早く見たい」と目を輝かせていた。

当別ロータリークラブ例会場（毎週火曜日12時30分）
 メーキャップお待ちいたしております



田西会館

石狩郡当別町弥生1091番地 ☎ (01332) 3-4050

“物から心へ”

相馬哲也 (小樽南RC)



2月に行われたペッツにおいて、小林ガバナーの月信に対しての考え方、すなわち月信を通じて会員相互の情報交換・意見交換の場として、従来のトップダウン方式からボトムアップ方式に切換えるとともに、質量とも充実したものにし、月信を通じ研修・研鑽の目的のもとに活用を図りたいとお話に感銘を受けました。

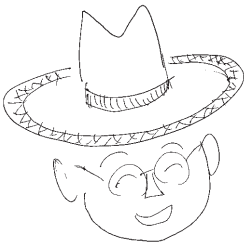
私は18年間ロータリーに在籍しておりますが、奉仕とは一体どうあるべきかを思いつづけておりました。入会当時と現在とは、時代の推移もあり、奉仕活動そのものが変わって

いるように感じます。今こそ「物・お金の奉仕」から「心の奉仕」に考え方をシフトする事が、今後のロータリーとして続けられる奉仕活動ではないかと思っております。併せて単独クラブではなく、近隣クラブと一緒に奉仕活動をする時期ではないでしょうか。一匹の魚を与えるのではなく、魚の捕り方・工夫を教えることも奉仕活動の一つと考えております。その観点から当クラブでは、母が子に子守唄代わりに本を読み聞かせる「ブックスタート」を今年度事業として行います。

物の奉仕から心の奉仕へ変換という私の私見に対し、皆様のご意見、ご感想等いただきたく投稿いたしました。月信を媒体として、ぜひ意見交換をいたしませんか。

ニコニコボックスの発表を楽しみました

阿部 弘 (札幌北RC)



2001年度の親睦活動委員会の一員として、ニコニコボックスの発表をさせていただき、多くのことを学び、楽しませていただきました。ロータリークラブ会員として新米の私ですが、感じたことを述べさせていただきます。

発表にあたって私がかつてもっとも注意したことは、福田十太郎委員長長の“御寄附をいただいた方の身になって発表すること、心から感謝の念をこめて発表すること”という教えでした。はじめは、御名前を間違えないで発表することに精一杯でしたが、そのうちに難しい字の御名前の方には、一言コメントを言いたくなり、つい余計なことを口走るようになりました。

そしてある日、佐藤千壽氏の著書「ようこそロータリーへ」を読んで、目からウロコが落ちました。それには、“ニコニコボックスは皆で楽しく笑うためにある。係りは皆を笑わせなければならない……。”とありました。それ以来、私は皆さんを楽しませるには少々ことは口走ってもよい、楽しい雰囲気の中で発表できればよい、と考えるようになりました。

以下、私が感じたことや心がけたことを述べさせていただきます。

①ニコニコボックスは皆で笑うためにあるのだから、大いに笑っていただくよう心がけました。②御寄附された方が何を言わんとしているか、その意をくんで、ときにコメントを加えさせていただきました。③拍手は、御一人ずついただくようにしました。④ほほえましい内容や楽しい内容のときには、思わず嬉しくなり、つい楽しいコメントを口走りました。⑤悲しい内容のときには、拍手をひかえさせていただきました。⑥受付では、入場する皆さんに、さりげなく御挨拶して、自然にニコニコボックスへ寄っていただく雰囲気をつくるよう努力しました（目と目があったということでニコニコボックスへ寄って下さった会員もおりました。）

ニコニコボックスにより、会員の方々の楽しい出来事がわかり、意外な(?)趣味がわかり、御家族の様子もわかり、御仕事の発展ぶりもわかります。まさに、会員の交流の場であり、情報交換の場でもあります。発表には少々時間をさいてもよいとは思っております。そして何よりも、愛嬌とユーモアをもって発表することが大切だと思います。

一年間、ニコニコボックスを発表する機会を与えていただき、ありがとうございます。一番楽しんだのは私でした。

小林博『世界が研究室だった』を読んで

宮田昭一 (苫小牧RC)



大学に入って間もない頃、右から2人目小林ガバナー、左から2人目筆者

著者の小林博会員は当地区の現ガバナーだが、かつては北大でともに学んだ仲間である。もう50数年のお付き合いとなる。卒業後小林君は癌研究を専攻したが、今回彼が今まで訪ねた外国の街での思い出や彼の地で思った日本のことなどのエッセイを纏めた文庫本サイズの本(202頁、頒価600円)を自費出版した。

いずれも歯に衣をさせない真実を述べられているが、何の高ぶりもなく、謙虚そのもので、冷静な目で坦々と述べられ、文章も気どらず読み易く書かれ彼の人柄がにじみ出ている。ロータリアンとして、ロータリーの魅力は「異った考え」をもった多種多様な人が沢山いるからという考えにも私は同感である。ロータリーにかかわる記載も多く地区ロータリアンにご一読いただければと思う。丸善札幌支店と北大生協でのみ購入できると聞く。ガバナーとしての活躍を期待している。

会員全員が増強委員長のつもりで

川田憲秀 (白老RC)



地区の為・国際ロータリークラブの為に会員増強が弛調されています。現会員でさえ、退会の申し出があり新会員の確保など大変困難な時代になっています。今年度の国際ロータリークラブの会長である、ピチャイ・ラタクル会長は「慈愛の種を播

きましょう」と云われました。播種と収穫は関係はありますが、深い意味の違いがあると思いました。いまどきの世相は、収穫の量が競われております。種を播くことをせずに、収穫ばかりが要求をされており、やがて、その畑は不毛の土地となります。元肥をしっかりと入れて、種を播き、雑草を取り、愛情をいっぱい掛けてやっと収穫が出来るのです。2002年～2003年は、クラブの会員全員が会員増強委員長のつもりで、全員が毎月一人以上の友人にロータリー

クラブの話かけることを、各クラブの目標に掲げることは、いかがかであろうかと考えます。入会をしなくても、話かけましたという報告を受け、例会で会員の拍手をもらうようにするという企画を立ててはいかがでしょうか……ロータリーの心・会員相互の信頼・地域社会に対する貢献の数々・国際的にポリオの撲滅・紛争地域の地雷撤去の問題などを語り、ロータリーの精神を伝える努力を広げることが大切だと思います。ただし、地域社会においても一般市民の方々へ眼に見える貢献も欠かすことができません。話をした会員は例会で報告をしていただき、紹介し会員の拍手を受け、プロ野球の選手のヘルメットにホームランの数のシールが貼っているように……それがロータリーや地域社会に対する貢献であり、結果として会員の増強につながっていくようにしたいと思います。収穫は結果……まずは、丁寧に種を播くことと思います。会費の負担感も減らすことが出来れば、素晴らしいと思います。

地区目標に賛同して

神部洋史 (滝川RC)



私たちのクラブは今年で創立45年になり、また会員数113名の大所帯です。ですから会長になるのも大変名誉な事だと思います。第2255回と語呂もよく本年度の第1例会は7月4日無事終えることができました。会長としての挨拶は、ラタクルRI会長紹介とテーマ、小林

ガバナーの紹介と地区重点目標を説明いたしました。特に「慈愛の種を播きましょう」というターゲットは地区の四つの柱からなる「……に慈愛の種を播きましょう」の重点目標とまったく同じ考え方から作られた事を強調させていただきました。

さらに日常の心がけとして「慣習にとらわれない運営」「例会中の禁煙」また「インターネットコミュニケーション(IC)の普及」「月信の投稿と全員購読」「地区内会員の親睦と地区の活性化のための顔写真付き地区会員名簿作成」などを話しました。

既に滝川クラブはこれらの事について会員の周知をもって、積極的に地区に賛同して実行していることは、ご承知の通りであります。

一部にこれらの目標について問題提起しているクラブがあることは誠に残念ではありますが、「ボトムアップに……」という考え方からすると、いろんな考え方があって、議論することがあって良いのかもしれません。しかし決まった目標に従わないのは如何なものでしょうか。

滝川クラブではホームページ(HP)を地区内では最初に立ち上げたクラブの一つです。今年は自分のクラブだけではなく地区のHPの作成をさせて頂く事になりました。こんな機会はめったにないことかもしれませんので、大いに仕事をさせて頂きたく所存です。

○滝川ロータリークラブ URL <http://www.rotary.gr.jp/>

○RI第2510地区 URL <http://www.ri2510.gr.jp/>

生活習慣病

生活習慣病はむかし成人病といわれ、がん、心筋梗塞、脳血管障害、糖尿病など生活習慣との係わりの深い病気をよんでいます。これらの病気は親から受け継いだ遺伝的背景によることもあります。主な原因はやはり生活環境です。ですからこれらの病気の予防には毎日の生活習慣の点検が大切です。遺伝に係わることは変えませんが、生活習慣は必ず変えられます。適切な生活習慣をとることで、生活習慣病をある程度予防し5年でも10年でも元気に長生きできたらこんな素晴らしいことはないでしょう。国際機関で推奨していることをまとめますと、要は次のことの実行です。

1. タバコは控える
2. 食べすぎ、飲みすぎない
3. 野菜・果物を欠かさない
4. ストレスをためない過労にならない
5. 身体をよく動かす(運動)
6. 医学的チェックを早目に受ける

連絡先：財団法人 札幌がんセミナー 札幌市中央区大通西6丁目6 北海道医師会館6階
TEL:011-222-1506/FAX:011-222-1526/E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
URL:<http://www.phoenix-c.or.jp/scs-hk/>

広告

事務所だより

■ガバナー公式訪問が7月21日（上磯・江差・松前クラブ合同）より開始されました。

8月には6回の公式訪問が予定されております。いずれも合同例会となっておりますのでご協力をお願い致します。

■ガバナー補佐会議（第1回）が6月30日に開催されました。ガバナーとガバナー補佐の役割分担（クラブ訪問の回数、クラブ協議会への出席など）と今年度の活動目標についての確認など活発な論議がなされました。

■地区委員会へのお願い

地区委員から地区内クラブへの通知は、ガバナー事務所が印刷・発送業務を行います。委員会内の資料作成および連絡に関しましては、委員会内で行って下さい。委員会のガバナー事務所での会議につきましては、事前に日時をご連絡下さい。なお、午後5時以降および土・日曜の開催は原則として避けて下さい。ご協力お願いします。

掲示板

例会変更

小平RC

8月16日(金) 休会*

滝川RC

8月15日(木) 休会

8月22日(木) 創立記念夜間例会

江別RC

8月 8日(木)

19:00 点鐘

20:00 「蛸を見る会」へ移動

場 所：四季の道（若草町4番地）

8月15日(木) 休会*

当別RC

8月 2日(金)12:00～

道民の森「IMリハーサル例会」

8月13日(火) 休会*

8月20日(火)→8月19日(月)

に振替

倶知安RC

8月11日(日)14日(水)の振替

(ポテトフェスティバル チャリテ

ィーバザールの協賛)

8月21日(水)

移動例会(家族参加のパークゴルフ大会)

小樽南RC

8月 9日(金)

18:00点鐘

(第3埠頭観光船乗場口ビー)

納涼食卓会：祝津青塚食堂

(会費3000円)

8月16日(金) 休会*

小樽銭函RC

8月15日(木) 休会

長沼RC

8月12日(月) 休会

室蘭東RC

8月14日(水) 特別休会(お盆の為)

8月21日(水) 18:30～ 納涼例会

会 場：市民会館

苫小牧東RC

8月 8日(木) 夜間例会

17:30 点鐘

18:00 アフリカコンサート2002・

ジャグナルin苫小牧

(18:30～21:00)

8月15日(木) 休会*

苫小牧北RC

8月13日(火) 休会*

8月27日(火) 夜間移動例会

18:00 点鐘

会 場：「金太郎の池」

～焼肉・ビールパーティー

事務局変更

上磯RC

新事務局：

函館市富岡町1丁目52-20-201

竹原力也方

Tel/Fax 0138-45-5290

* 定款第5条第1節に基づく休会



●営業時間／17:00～23:30(ラストオーダー23:00)
●定休日／毎週月曜日

〒001-0856 札幌市北区屯田6条3丁目8-4
TEL:011-770-7778 FAX:011-770-7775
http://www.gurupita.com/clients/0001094048/

中島公園と豊平川に囲まれた
四季が薫るホテル。



ホテル ライフォート札幌

〒064-0810 札幌市中央区南10条西1丁目[中島公園駅]
TEL (011) 521-5211代表 FAX (011) 521-5215

ホームページアドレス <http://hotel-liffort-sapporo.co.jp>



ROTARY
INTERNATIONAL
DISTRICT
2510
 2002~2003年度
地区大会
11/16・17
 ■記念ゴルフ大会／10月6日
 ■記念囲碁大会／11月10日

今年度の地区大会の日程が決定。
 年に一度、地区内ロータリアン
 3,600人が集います。あなたの
 11月16日・17日は実りある
 2日間となります。



慈愛の種を播きましょう

8月より登録開始!

■登録料

- 会員 ————— 13,000円
- 家族 ————— 10,000円
- 新世代 ————— 5,000円
- RI会長代理
歓迎夕食会 ——— 10,000円
- ゴルフ ————— 5,000円
- 囲碁 ————— 4,000円

■大会プログラム(予定)

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 大会1日目 11月16日(土)
〈北海道厚生年金会館〉 | 大会2日目 11月17日(日)
〈北海道厚生年金会館〉 |
| ●11:30 登録開始 | ●8:00 登録開始 |
| ●12:30 会長・幹事会 | ●9:00 大会開始 |
| ●14:30 各委員会活動報告 | ●11:00 記念講演会
(講師:アグネス・チャン) |
| ●16:00 記念フォーラム | ●13:00 記念懇親会
(15:00 終了予定) |
| ●19:00 RI会長代理ご夫妻
歓迎晩餐会 | |

表紙顔写真(第2510地区クラブ会長)紹介(敬称略)

深川RC 村中俊二	羽幌RC 榎原照夫	妹背牛RC 梅沢見堂	小平RC 新名秀雄	留萌RC 大沼哲郎	赤平RC 赤川清介	芦別RC 北 正信	砂川RC 北谷好文	滝川RC 神部洋史
美瑛RC 大竹繁夫	江別RC 西村 孚	江別西RC 品川昌典	岩見沢RC 小林弘明	岩見沢東RC 坂田知樹	栗沢RC 本田義晏	栗山RC 北川清則	当別RC 泉亭祐司	札幌RC 荒 紀男
札幌あけぼのRC 安澤正美	札幌はまなすRC 北川敏夫	札幌北RC 片岡是充	札幌エーパークRC 井野 智	札幌西RC 高下泰三	札幌西北RC 三上直彦	札幌手稲RC 中川喬雄	札幌東RC 南原康二	札幌清田RC 阿部哲夫
札幌幌南RC 砺波 寿	札幌真駒内RC 森谷明弘	札幌南RC 中島一郎	新札幌RC 五十嵐勤	札幌大通公園RC 木津敏彦	岩内RC 大橋由政	倶知安RC 西勝照平	小樽RC 丹呉幹彦	小樽南RC 相馬哲也
小樽銭函RC 長尾繁範	蘭越RC 高橋一郎	余市RC 安田 亘	千歳RC 村松克重	千歳セントラルRC 田口 廣	恵庭RC 早瀬源一	北広島RC 真木孝男	長沼RC 三輪崇穂	由仁RC 本間好道
えりもRC 荒木義広	三石RC 出口弘史	様似RC 坂本好則	静内RC 嵐 忠一	浦河RC 大山勝美	伊達RC 中井英光	室蘭RC 牧野 嵩	室蘭東RC 前田康博	室蘭北RC 村井玄乙
登別RC 高橋恒夫	洞爺湖RC 川南明則	函館RC 加藤健太郎	函館亀田RC 中村泰三	森RC 伊藤 進	七飯RC 木宮正樹	長万部RC 片山幸夫	江差RC 横内隆文	函館五稜郭RC 能戸 彰
函館東RC 吉川達也	函館北RC 小笠原孝	上磯RC 増田幸久	松前RC 本間靖夫	白老RC 高石誠次	苫小牧RC 今野陽三	苫小牧東RC 児玉和雄	苫小牧北RC 紺野誠一	

国際ロータリー第2510地区 2002-2003年度 ガバナー月信

発行人 2002-2003年度ガバナー 小林 博
 発行元 国際ロータリー第2510地区
 2002-2003年度ガバナー事務所
 発行日 毎月1日発行 年12回
 編集委員 ◎竹原 巖 (地区幹事) 委員長
 大田すみ子 (地区幹事)
 熊谷 満 (地区幹事)
 脇田 稔 (地区幹事)
 米山道男 (アドバイザー)
 松木 新 (アドバイザー)

事務局 札幌市中央区大通西6丁目
 北海道医師会館6F
 TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526
 E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp

8・9月地区カレンダー

8月 会員増強および拡大月間			9月 新世代のための月間		
日	曜日	行事	日	曜日	行事
1	木	インターアクト韓国訪問(8/1~5まで 計30名)	1	日	
2	金		2	月	札幌北RC公式訪問(12:30)
3	土		3	火	小樽RC・小樽南RC・小樽銭函RC公式訪問(12:30)
4	日	財団地域セミナー・ポリオ撲滅キャンペーンセミナー(東京)	4	水	札幌はまなすRC・札幌モーニングRC公式訪問(7:30)
5	月		5	木	江別RC・江別西RC・当別RC公式訪問(12:30、江別)
6	火	七飯RC・森RC・長万部RC公式訪問(18:30、七飯)	6	金	
7	水	白老RC訪問	7	土	余市RC・岩内RC・倶知安RC・蘭越RC公式訪問(12:30、余市) Jr.クラスライラセミナー(札幌市NTTセミナーセンター14:00~)
8	木				
9	金		8	日	Jr.クラスライラセミナー 由仁RC10周年記念式典
10	土				
11	日		9	月	
12	月		10	火	札幌西RC・札幌あけぼのRC・札幌西北RC・札幌手稲RC公式訪問(12:30)
13	火	お盆休み(13-16日)	11	水	
14	水		12	木	千歳RC・千歳セントラルRC公式訪問(12:30)
15	木		13	金	羽幌RC・小平RC・留萌RC公式訪問(18:00、羽幌)
16	金		14	土	第3グループIM(道民の森研修センター及び野外)
17	土	家庭奉仕勉強会(和田法律事務所)	15	日	
18	日		16	月	札幌はまなすRC10周年記念式典
19	月		17	火	
20	火	浦河RC・様似RC・えりもRC公式訪問(12:30、浦河)	18	水	
21	水	静内RC・三石RC公式訪問(12:30、静内)	19	木	
		札幌セントラルRC認証伝達式(札幌プリンスホテル)	20	金	
22	木		21	土	岩見沢RC・岩見沢東RC・美唄RC公式訪問
23	金		22	日	シニアクラスライラセミナー(札幌市JR研修センター) GETS(東京)
24	土	会員増強セミナー(札幌ガーデンパレス)			
25	日		23	月	
26	月		24	火	
27	火	芦別RC・赤平RC公式訪問(12:30、赤平)	25	水	
28	水	室蘭RC・室蘭東RC・室蘭北RC公式訪問(12:30)	26	木	
29	木	伊達RC・洞爺湖RC公式訪問(12:30、伊達)	27	金	
30	金	米山評議委員会(東京)	28	土	
31	土	社会奉仕に関する情報交換会(苫小牧)	29	日	
		GSE派遣団員応募締切	30	月	



小林ガバナー幸子夫人が丹精こめて育てたバラの花



国際ローター第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

2002-2003 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER No.3

ガバナー月信

9月号
September

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR 小林 博 KOBAYASHI HIROSHI

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp



新世代月間にあたって —W杯の若者に思う



小林 博

国際ロータリー（R I）に対する批判の声がある。だがその批判の声が必ずしも当を得ない、見当外れのものであることがある。それはわれわれロータリアンがR Iの先駆的な改革の試みに無関心であることが原因のようである。

かつて地区リーダーシップ・プラン（D L P）のための試験的プログラムがR Iから提案され、世界の12の地区がこの試験的プログラムを引き受けることに同意した。このとき日本のロータリーはその試験要請を受けなかった。ところが3年後、D L PはR Iの正式決定事項となったため、結局、我が国のロータリーはD L Pを受け入れざるを得なくなった。

昨年の秋から始まったロータリー・クラブのための新モデルの試験的プロジェクトも同じである。これは世界のおよそ200のロータリークラブに3つの条件（例えばロータリーの綱領を入れる、人頭分担金を払う、3年の試験期間の終了後その時点の標準クラブ定款に戻す）を認める限り、いまのR Iの細則を無視してでも自由なクラブ運営をやってみなさいというのである。つまり将来のロータリーのあるべき姿を模索したR Iの新時代への挑戦でもあった。ところが我が国でこのニューモデルを採用したクラブは世界の200のクラブのうち僅か3クラブに過ぎなかったのである。ということはR Iが新しい試みを提案しても、日本のRCは無関心な態度をとるか批判したりするだけで、その提案に乗ってこないのである。

今月は新世代月間である。新世代の人達は旧世代と違って、変化に容易に対応し、柔軟性を持っているようだ。事実、先日のW杯でもサポーター達は国旗の色を塗りつけた顔や珍妙な髪型など意表をつくスタイルで、しかも熱気にあふれて伸び伸びした応援風景を展開した。「新世代は元気がある」「日本人はまだ大丈夫」と我々も内心ホッとしたのである。

また、被爆地長崎の女子高校生が世界の核廃絶を願って署名運動を展開し、その署名はやがて広島からさらにヨーロッパへと波及し総計4万人の署名が国連本部に届ける大ごとをやったのけた。その女子高校生はテレビで言っていた。「私どもの出来ることは余りにも小さいが、何もしないでじっとしているわけにはいかず何かをやりたいと思ったのです」。若者のすがすがしさに感動した。もし彼らの熱気とかやる気をロータリーにもっていけるものであればいいな、と私は心から願った。

だが、我々は彼らのエネルギーに期待するだけの消極人間であってはなるまい。まずは我々大人のロータリアンが因習と伝統の中に埋没することなく、いつも新世代の人達に「勇気」と「自信」を与える存在でなければと思う。さらに、R Iの挑戦的な試みを先取りするぐらいに積極的にパイオニア精神を持って、新世代にむけてロータリー運動の目標と戦略を決めていかねばならないと思う。若者たちは我々の姿勢を見習っているのである。

目次

ガバナーレター	小林 博	2	クラブ活動紹介	14
9月は新世代のための月間です		3	函館RC・室蘭東RC・千歳セントラルRC・栗山RC	
ロータリーの歴史に学ぶ(1)	西條正博	4	長万部RC	
新クラブ誕生	札幌セントラルRC	5	ポリオ撲滅に募金を!	広報委員会 16
文庫通信		5	家庭奉仕勉強会のご案内	16
来年度派遣の国際親善奨学生紹介		6	会員の声	17
ロータリーQ&A		7	加藤健太郎(函館RC)・川田憲秀(白老RC)・吉澤義彦(深川RC)	
ガバナー日記		8	坂田知樹(岩見沢東RC)・高石誠次(白老RC)	
ビチャイ・ラタクルRI会長来札決定		9	広告掲載のお願い	19
ガバナーとの対話		10	ガバナー・ノミネー候補者推薦のお願い	19
『月信』は地区の友に		10	事務所だより	20
顔写真付地区会員名簿についてのお願い		10	掲示板	20
地区活動紹介		11	7月会員増減数・出席率報告	21
ローターアクト委員会・インターアクト委員会・会員増強			表紙顔写真紹介	21
委員会・財団補助金委員会			地区大会案内	22
			訃報	22
			9・10月地区カレンダー	23

9月は新世代のための月間です

かつては、インターアクトの年代以上を対象にしていたロータリーの青少年奉仕は、ジアイRI会長の時、「0～30歳」と、対象年代が拡がりました。当地区は野口ガバナーの時代で、7月に入ってからRI理事今井鎮雄先生から全国のガバナーが神戸に召集され、「新世代のためのロータリー会議」を開催する様、要請されました。野口ガバナーは予算も日程もとっていない新しいプログラムに戸惑いながらも地区内各クラブを指導され、多くのクラブが呼応して「新世代ガバナー」と言われるほどの成功を収めました。以後、石垣ガバナー時代の熟成期を経て、伊藤ガバナー時代に大輪の花を咲かせました。地区大会で開催された「新世代の未来を築くフォーラム」はRI会長代理でお見えになった中島治郎氏をして「これほど壮大なスケールで展開され、内容の豊さに於いても優れたプログラムは今だかつてどの地区でもやった事がない

が復活しました。地区内各クラブで育ってきた新世代土壌の上に咲いた花であることは言うまでもありません。岩城ガバナー年度は「ライラセミナー」「スキーマラソン」のレギュラー行事に加え、「新世代によるパネルディスカッション」がマスコミの脚光を浴び、高校生を対象にした余市ロータリークラブホストの「語り合おうよ未来のあなた」は折からの大麻事件で揺れる余市の方々に大きな自信を与え、ロータリーが地域に貢献した好事例となり「ロータリーの友」9月号に大きく取り上げていただいております。又、札幌南ロータリークラブ等のホストによる「若い心の輝く未来」は20歳以上の韓国、中国、日本の青年達と堀達也知事が語り合う画期的なフォーラムとなり、3つのテレビ局が翌日のゴールデンタイムで放映してくださり、道民にロータリーを広くアピール出来ま



パネルディスカッション ホストをしてくださるクラブがあれば4月又は5月頃を目標に計画したいと考えております (成人クラス)



スキーマラソン 2003年2月10日(日)
札幌ドーム、スタート
ゴールでロータリアンと新世代が共々楽しみます

と感動をもって語られました。森本ガバナー年度も地区大会並行プログラム「新世代の国際的な交流と地域社会への奉仕」として開催され、本会議場より多い人数だったと語り草になっております。

そして遠藤ガバナーの年度に究極の新世代プログラムとして、世界的にも評価されている「ライラセミナー」

した。小林ガバナー年度は異色のプログラムも用意されております。それは2003年6月にブリスベンで行われるRI世界大会の時にかつて当地区に留学していた娘たち、息子たちとホストファミリーが感激の対面をしようという企画で、子供の手を引いて集ってくるかつての留学生達との再会が今から楽しみです。

(レポーター 奥貫一之 新世代委員会委員長)



インターアクトの歌

作詞・作曲 藤山一郎 (東京西RC)

ここに集いしわれらは 誇りも高しインターアクト
地域社会に奉仕の理想 示せいまこそそのまこと
ほほえみをもて さしのべよ手を
世界を結ぼう インターアクトわれら

(1965年)



ローターアクトの歌

作詞・作曲 矢野一郎 (東京RC)

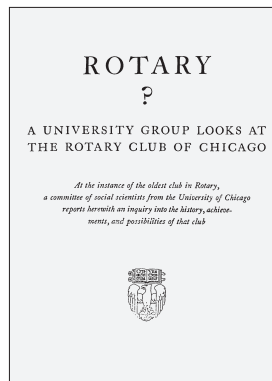
世界は広し われらは若し いのちの限り 誇りに生きん
熱き血潮を 誠と愛に そそぎつづけて 悔いあるべきや
ローターアクト ローターアクト われら若人
ローターアクト ローターアクト 若さ燃ゆるよ

(1969年)

ロータリーの歴史に学ぶ(1)

.....地区研修リーダー 西條正博 (札幌RC PG)

山頂を極めるためには色々な登山道があるように、ロータリーを理解し、これを身につけるにも、切っ掛けは沢山あります。私は、そのうち、文献を読むことが大切です。と強調しております。ロータリーも百年の歳月を閲すれば、古典と称される文献が幾つもあります。古典を何冊か読むことは、ロータリーを歴史的に考察することになり、所謂、「原点を探る」ことになります。



ポール・ハリスは、その著書「ロータリーの理想と友愛」(米山梅吉訳)のなかで、次のように記しております。

「もし、それ進んで大いにロータリーを研究せんと希望する読者は、

- ・シカゴ大学の社会学者七氏の合著になる「ロータリーとは」(Rotary?)
 - ・カリフォルニア大学前教授フランク・ラム著「実業の見たるロータリー」(Rotary A Business Man's Interpretation)
 - ・ロンドンの文筆家ヴィヴィアン・カーター著「ロータリー解説書」(The meaning of Rotary)
- 等を参照するがよい。」

今回は「ロータリーとは」をご紹介します。

シカゴ・ロータリークラブは、1923年にシカゴ・ロータリークラブ歴史委員会を設けて記録をまとめようとしたのですが、その作業は難渋するばかりでさっぱり進まず、結局、シカゴ大学の社会科学研究者の手に委ねられて1934年に到って漸く出版にこぎつけました。従って「ロータリーとは」の見出しの下に「大学グループによるシカゴ・ロータリー・クラブの展望 最も古いロータリー・クラブの要望に基づいた、シカゴ大学社会科学調査委員会によるシカゴ・クラブの歴史・業績・将来性に関する報告書」という脚注がついています。

そもそも、ロータリーが生まれたとき、その目的は会

員の相互扶助と親睦にありました。四人の発起人の一人、洋服商のハイラム・シヨーレイは、「人々が私の店に集ってきて、彼らの服を作るために、時間外勤務をしなければならないほどのたくさんの新しい友人ができるという彼らの考えは、とても素晴らしい提案として私の心を打ったので、ぜひその勘定の中に私を入れてくれるように頼んだ。」と述べています。

儲けることが第一であり、親睦は元来二次的なものでありました。会員は例会以外に定期的に会合を開いて取引をしました。1915年にクラブは265人の会員間で約1,750,000ドル相当の価値に相当する事業が交換されることを試算して、取引促進委員会を設置しました。会員の相互扶助の実態はこのようものでありました。

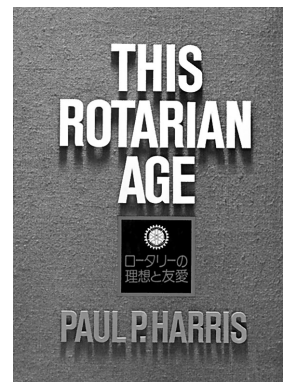
会員の年齢構成であります。1933年3月現在で、一番多いのが48歳であり、新人会員の平均年齢は、1924年には38歳、1927年41歳、1930年には45歳と、毎年、新人会員の平均年齢は確実に上がっています。

1922年から1933年の11年間の入退会者は大量であり、入会者は年間59名~113名、退会者は49名~89名で、会員身分終結は、会費の滞納、半年間において40パーセント以上の例会欠席、1カ月間の例会欠席、理事会の2/3の投票によって決定された不法行為の、4項目をその理由にあげています。

大都市の区域限界内における子クラブ設立の提案に対して、会員の73.09パーセントが反対しているのが、シカゴ・クラブの顕著な特徴であると思います。

——以下次号——

(本書を閲覧ご希望の方は、東京の「ロータリー文庫」にお申し込み下さい。原書のコピー(製本済)を私が一冊持っておりますので短期間ならお貸しします。)



● 西條正博 PG の原稿について ●

地区研修リーダーの西條パストガバナーに、2002年4月14日に開かれた「地区協議会」で、地区内各クラブ・会長・幹事・その他の役員の方々にお話しされた内容を「ガバナー月信」に掲載し、地区内全ての会員にお読み頂きたい旨お伝えしたところ、ご快諾くださり「地区協議会」でのお話しに若干筆を入れて、9月号と10月号の2回に分けて掲載することといたしました。

新クラブ誕生…札幌セントラルRC

2510地区の72番目のクラブとして札幌セントラルクラブが誕生し8月21日夜札幌プリンスホテルにて国際ロータリーとしての認証伝達式が行われた。特別代表は札幌南RCの畑中俊介会員。終って懇親会。参加者85名。

札幌セントラルクラブは毎週火曜日6:30pmからの夜間例会で、札幌プリンスホテル（新館2Fウィンザー）で行われる。ビジター料金は1,800円。現在22名の会員を以ってスタートした。会員名は以下のとおり。会長は芹田馨、幹事は上野了会員。



芹田 馨会長



上野 了幹事



認証状の伝達

1 出口 雄一	機械製造	サッポロ産機	専務取締役	12 佐々木奎子	貸事務所	エスケイ企画	代表取締役
2 日色 無人	翻訳通訳	XENEジン	代表取締役	13 芹田 馨	薬学教育	DNAソリューション	取締役
3 羽賀 俊夫	公衆衛生	北海道対がん協会	総務部長	14 高田 善宏	薬剤管理	薬局	薬剤師
4 長谷川久夫	写真家	世論調査研究所	所長	15 高橋 逸子	ファッションコンサルタント	アバン	代表取締役
5 五十嵐成夫	車輛部品	オート電装機	社長	16 田中 宏	法律	田中法律事務所	所長弁護士
6 飯沼 深雪	国際交流	北海道日豪協会	専務理事	17 内山 滋子	英語教育	高校講師	非常勤講師
7 石垣 博美	経済学教育	北海道大学	名誉教授	18 上野 了	臨床検査	第一臨床検査センター	社長
8 小坂 彰司	法律	高橋小坂法律事務所	弁護士	19 臼木 篤	建築	札幌建設	社長
9 町田莊一郎	病院	平松記念病院	理事長 医師	20 若山登美子	看護管理	札幌医大付属病院	看護部長
10 丸山 知子	看護教育	札幌医科大学	教授	21 山本 憲昭	社会開発研究機関	北海道未来総合研究所	常務理事
11 佐々木春代	国際交流	札幌国際プラザ	専務理事	22 山本 元	宗教学	天理教統北分教会	代表役員会長

文庫通信



「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

新世代の人達に聞いてほしい講話

- ◎「私の転機～ロータリーが果たした役割」
池ノ上克 他 2002 25P
(D.2730地区大会シンポジウム)
- ◎「人生の選択」 大橋巨泉 2002 14P
(D.2610地区大会講演)
- ◎「人間一人では生きられない」 高橋堯昭 2002 2P
(D.2830地区大会講演)
- ◎「21世紀に向けての新世代奉仕」
重田政信 2001 9P
(D.2500地区大会講演)
- ◎「歴史の中から見たリーダーの条件」
童門冬二 2002 8P
(D.2790地区大会講演)
- ◎「自然保護大国でなければ21世紀は生き残れないークマの棲む豊かな森を次世代へ」
森山まり子 2002 16P
(D.2680地区大会シンポジウム)

- ◎「国際宇宙ステーションの世紀 守ろう地球 めざそう宇宙」 菊山紀彦 2002 14P
(D.2680地区大会講演)
 - ◎「小説家の頭」 阿刀田高・阿刀田慶子 2002 19P
(D.2720地区大会講演)
 - ◎「人類への貢献」 奥貫一之 他 2002 33P
(D.2510地区大会フォーラム)
 - ◎「これからの日本」 竹村健一 2002 11P
(D.2820地区大会講演)
 - ◎「子どもたちは今「命を育て、心を結ぶ」」
横川遊亀壽 2002 17P
(D.2670地区大会講演)
- [上記申込先：ロータリー文庫（コピー）]
- ◎「二十一世紀の教育を考える」 2002 61P
(D.2660 IM記録誌)
- [申込先：大阪城北R.C. FAX (06) 6352-6207]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary.bunko.gr.jp>
開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日

来年度派遣の国際親善奨学生紹介

財団国際親善奨学金委員会

委員長 土橋 信男

2月に募集を開始した来年度派遣の国際親善奨学生へ、本年度は38名の応募があった。

国際親善奨学金委員会では6月はじめに書類選考によってそのうちの27名を選考し、6月29日に面接審査を行った。さらに7月20日に最終面接を行い、11名を最終合格者として選考した。以下に合格者とその推薦クラブ、留学希望国、そして合格者の喜びの声を紹介する。



内山裕子 (江別)

■オーストラリア

本当に嬉しい。酪農学園大学の海外実習でオーストラリアに行きアボジニーの人々を知ったことがオーストラリアを希望した理由。将来は小学校の教師を目指しています。



求馬久美子 (恵庭)

■ドイツ

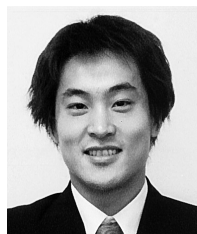
ロータリー奨学生に選ばれて光栄です。ドイツ語を学ぶとともに国際理解と平和推進というロータリーの大事業の一端を担いながら自己の成長にもつなげたいです。



星井絵里子 (札幌東)

■オーストラリア

夢に一歩近づくためにしっかりと準備をして留学を成功させたいです。今は合格の喜びを心からかみしめています。英語を学びながら看護の実際についても学ぶ予定です。



加茂実武 (札幌はまなす)

■イングランド

かねてからの夢だった留学の機会を与えていただいて心から喜んでます。留学先では小さいときから習っていたピアノを生かして交流を深めたいです。



上森奈穂美 (札幌幌南)

■タイ

選んで下さったロータリアンの皆様に感謝です。東南アジア青年の船を契機にしてタイを知るようになり、タイ語を本格的に学びたいと願っています。



今井愛実 (清田)

■フランス

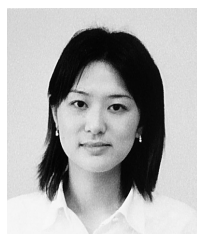
選んでいただいて嬉しさと驚きでいっぱいです。私の進路を心配してくれていた両親もとても喜んでくれました。自己の選択に迷っていた私に自信が与えられました。



小橋麻美 (深川)

■イタリア

留学はずっと私の夢でした。その夢が実現できるということに感激しています。イタリアではオペラと音楽を学ぶ予定です。ミラノかローマを希望しています。



中村理子 (札幌)

■トルコ

美しく広大な北海道のロータリー奨学生に選ばれたことは大変な名誉です。トルコでは、トルコ語を学ぶかわらで、アマシア市の伝統文化についても学ぶつもりです。



兼子 歩 (札幌はまなす)

■アメリカ

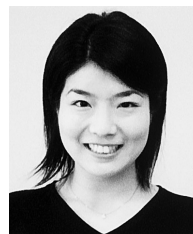
アメリカ史を研究しているものとして、そのアメリカに留学できる機会が与えられることになり深く感謝しています。親善大使としても努力して果たしてきたいと思えます。



西原明希 (札幌幌南)

■イングランド

学校での日々の仕事に追われる中でもう一度学生に戻り実力をつけるために勉強しようという意志を持ち続けることは厳しいものがありましたが、合格し心から喜んでます。



平岡美緒 (札幌幌南)

■アメリカ

合格通知をいただいた時には興奮して泣いてしまいました。奨学金をいただくということは多くのロータリアンの皆様の善意を受けることです。責任を感じて留学します。

Q. 1905年ポール・ハリスがロータリークラブを創設以来、会員構成が一業種一名の原則であったものが、昨年の規定審議会で一業種会員数の10%に改正された。
この改正に至ったいきさつを知りたい。

A. 質問の要旨は1905年ロータリーが設立されてから昨年2001年規定審議会で採択されたRI細則4.010.クラブ会員の種類に示されている正会員と名誉会員の2種類となった経緯を知りたいとの事と解釈しますが、詳しく解説すれば、96年間に亘るロータリー発生史から現代ロータリーまで述べなければなりません。

取り敢えずここでは歴史の点と点を結んでの解説とします。
先ず一業一会員制の発想はロータリー設立当時からP・Hの構想に始まります。

それは当時のシカゴ経済の荒廃の中で、親睦を旨とする仲間の中に同業を排除し、他業種のみ的高质量な会員を募るという発想でした。
一業一会員制は、ロータリーの最大の特徴で恰も専売のように言われておりますが、18世紀始めにあった「2ペニー・クラブ」更にフィラデルフィヤにフランクリンが作った「ジャンツ・クラブ」も「職業別会員制」で会員の友好を計って40年間も続いていた史実があることを知る必要もあろうかと思えます。

会員の種類

2001年まで会員は4つの種類とされておりました。

1、正会員 (Active Member)

(アディショナル会員 Additional Active Member含む)

正会員はロータリーが始まった時からであることはいうまでもないが、アディショナル正会員は1915年サンフランシスコ大会で制定されてます。

2、シニアアクティブ会員 (Senior Active Member)

1939年のクーブランド大会で採択されました。永く正会員であったが、その保有する職業分類を若い人に譲って、自分もクラブ会員に残るという場合で、始めはVeteran-Memberと称されましたが、1942年シニアアクティブ会員と改称されました。

3、パスト・サービス会員 (Past Service Member)

1930年ロータリーの25周年大会がシカゴで開催されたときに制定されました。ロータリーが25周年も経つと会員の中で職業から引退する人が多くなり、これらの会員をロータリーから失いたくないとこの制度を作ったといわれております。

4、名誉会員 (Honorary Member)

初めて設けられたのは、会員の種類の中で最も古く1912年のことです。

この年ジュールの第3回ロータリー国際大会が開かれ、全米ロータリークラブ協会が国際ロータリークラブ協会と改称され、ポール・ハリスを会長に推挙したが、ポール・ハリスは健康上の理由で辞退し、それではとポールを終身名誉会長に推戴しました。ロータリーに名誉なながしという言葉が出来たのは恐らくこの時であろう。

※名誉会員については手続要覧13頁・RI細則192頁4.050.

クラブ定款第6条・手続要覧語彙284頁を参照してください。

今回の改正では在来の一業一会員制が前記のように実際的ではなくなったこと、併せての一業種5名又は10パーセントの職業分類の入会を認めることで、会員の種類の簡明化を計ったものであります。
なお、この意図は会員の増強を計るものと考えられます。

Q. すべての会員が正会員になった場合、現在のシニア・アクティブ、パストサービス会員、第2正会員の職業分類は元に戻すのか?

A. 2001年の規定審議会は従来のシニア・アクティブ会員、パスト・サービス会員、アディショナル正会員を削除し、職業分類の原則を改正しましたが、2001年7月現在の会員である何人も改正された規定によって会員身分を失うことはありません。

このような会員は全て元の職業分類のもと正会員となります。又元の職業分類が職業分類の一般規定に適合しなくなった場合、是正または修正も出来ます。

※クラブ定款第6条第2節 手続要覧248頁下段 脚注 第7条第1節 (a) (b) 参照のこと

Q. 出席免除会員の規定が変わりロータリー歴プラス年齢が85歳以上とされた。

現在免除会員となっている者はこの改正で見直されるのか?

A. 出席規定免除の申請が会員より提出され理事会がクラブ定款第8条第2節 (b) と照合し、出席規定の適用を免除された会員は従来の規定即ちシニア・アクティブ会員で年齢とロータリー歴の和が85年以上と定められておりましたが、今回の改正で (シニア・アクティブ会員で) が削除され、単にロータリー歴と年齢の和が85でよいと規定されました。

現在の出席規定適用免除者はいずれもロータリー歴と年齢プラスが85であれば適用されます。

(例) ロータリー歴2年で年齢83歳でも適用される。

Q. ロータリーでは親睦が大切と言われてますが、お酒を飲んだり、ゴルフをしたりするのも親睦だと思いますが、ロータリーで言う親睦の意味を教えてください。

A. 厳格な一業一会員制で発足したロータリークラブ (当時世界で唯一のシカゴクラブ) は、会員の相互扶助と親睦の二本柱でした。相互扶助はやがて奉仕概念を生み出し、奉仕と親睦となり、ロータリーは奉仕を志す職業人の社交団体となって行きます。一方親睦と友愛は社交クラブでの大黒柱であり、親睦を基礎とした奉仕活動の実践につながって行きます。

さて、質問のクラブ内の親睦のあり方ですが、まずクラブの定義を考えてみますと、いかに社交クラブ的であっても、組織管理がなされております。

この管理原則の中での親睦を「組織立てられた親睦」と言います。世の中に無数あるいかなる団体でもそれぞれの組織の中に親睦・友好が存在しますが、ロータリーにおいては徳義心と奉仕の理想に燃えた人々の間の親睦と友愛を唱えるものであります。

ロータリアンは決して親睦の名をかり、善と悪との間に橋渡しするものでなく、善と悪との間に妥協を認めるものではありません。組織規定に拘束されるばかりでなく、「心の欲するところに従って矩を踰えず」の格言の中で親睦を図りたいものです。

ガバナー日記

公式訪問始まる

新指導要綱ともいべき地区リーダーシップ・プラン（DLP）でガバナーの公式訪問は原則的に合同例会への出席となった。トップバッターは7月21日（日）、上磯ロータリークラブ（RC）、松前RC、江差RCの3クラブ合同例会で、会場の江差津花館に赴いた。函館から上磯RCの方の車に便乗し松見修二ガバナー補佐（AG）、米山道男地区幹事、上磯RCの増田幸久会長、竹原力也幹事と江差に着くまでじっくり意見交換できたのがよかった。上磯RCは会員33名のほぼ全員がインターネットを駆使しているとのこと。恐らく創立5年の若いクラブで会員の年齢層も若いせいであろうか。

松前RCからも会員8名のうち本間靖夫会長ら5名の方の参加があったので感激した。女性会員の1名とともに地区最少人数の会の発展を祈った。江差RCでは横内隆文会長を中心にRI財団のお金がどの様に使われているか（この詳細についてはガバナー月信10月号に掲載の予定）を話し合った。

合同例会では質問を頂戴した。1つは「会員の減少の理由をガバナーはどう思うか」。私は会員減少の理由をいま語るよりも現実にはこれからの新しい改革的な試みの結果に期待したいとお答えした。2つめは「国際奉仕を物で済ませようという動きをどう思うか」。私は国際奉仕のあり方は基本的には物ではなく、自らの手足を動かすことであり、暖かい心の奉仕が必要であるとお答えした。

翌7月22日（月）は10、11グループにまたがる函館市内5クラブ（函館、函館東、函館北、函館五稜郭、函館亀田各RC）の合同例会であった。200名近い方がオー克蘭



函館市内5クラブの合同例会。
会長全員右ならえ

ドホテルに集まり、函館亀田RC（中村泰三会長）のホスト役で進行した。私はスピーチを15分にまとめ、残りを質疑の時間をお願いした。ところが
多人数のせい、江差の場合と違ってなかなか質問が出てこない。ようやく函館RCの亀井敏清地区情報委員長から「月信の全員購読がトップダウンで行われている状況は好ましくない。しかも広告は突如出てきたのではないか」という質問を頂戴した。私は昨年11、12月ガバナー補佐（AG）エレクト訪問の折に会長エレクトともすでに意見交換を行ったこと、月信の全員購読はお願いはしているが強制ではないこと、さらに今までのトップダウンの情報伝達の月信ではなく会員の声を結集しボトムアップの新しい月信を作ろうとしていることを説明し協力をお願いした。またそのためには会員の投稿などが必要であり、また広告についてはガバナー要覧

の記載に添って進めていることをお答えした。

次いで、函館東クラブのロータリアン（Rtm）から「女性会員のいないクラブをどう思うか」との質問であった。RIの方針は男性だけでもいけないし、女性だけでもいけない。男女共々のロータリークラブであることが推奨されているとお答えした。

翌7月23日（火）は栗山と栗沢両RCの合同例会に出席



福祉村での記念植樹（栗沢RC）左端辻野AG、小林G、右本田会長（栗沢RC）

した。会場は栗山のパラダイスヒルズ。例会終了後お訪ねした栗山の自然農園は、地味ながらもロータリー活動の一端としてほほえましく拝見させていただいた。

しかも栗山RCは月信を会員数以上に購入し、これを新会員獲得のための資料に使いたいとの説明があり感激した。また栗沢では、福祉村で記念植樹のあとそこに居住する二百数十名の重度身体障害者の施設を見学した。このような施設は地区ロータリアンに一度、是非見学していただきたいものである。

翌7月24日（水）は札幌RC。会場は札幌グランドホテル。合同例会を原則とするなかで、札幌クラブは単独訪問となった。例会は北海道で初めてのRCとしてスタートしてから通算3456回目とのこと。この記念すべきときの訪問も何かのご縁である。事前の会長幹事懇談会でも率直な意見交換があり、荒紀男会長の前向きな発言を心嬉しくお伺いしたものである。

7月26日（金）は苫小牧王子ホテルで行われた第12グループ4RC（苫小牧、苫小牧東、苫小牧北、白老RC）の合同例会であった。会長幹事懇談会も率直な意見交換ができたし、みんな一緒になって努力しようとの姿勢は頼もしかった。グループとして、月信の全員購読と地区会員名簿の全員購入もすでに決まっていた。



第12グループ4RC合同例会（苫小牧王子ホテル：左から児玉苫小牧東、紺野苫小牧北、今野苫小牧各RC会長と川田AG、小林G、高石白老RC会長、石田幹事ほかホスト役の幹事）

7月30日（火）は第1グループの深川、妹背牛RCの合同夜間例会（ホテルプラザ板倉）に出席した。ここで第12グループと同様暖かい声援を心から嬉しく思ったものである。帰り際にある会員の自家生産の蜂蜜とメロンをお土産にという。予めこのようなお心づかいはないようお知らせしてあったのだが、とっさのお申出にお断りするわけにはいかなか



深川・妹背牛合同例会の後の懇親会

った。ただ申し訳なく感謝の一語のみである。でもこれからはどうかお気使いなくお願いしたいものである。

地区委員会の活動を垣間見る

7月27日(土)夕刻は地区財団学友会の第2回総会並びに懇親会が札幌市内キタホテルにて行われた。集まるものロータリアン、元財団奨学生、元GSEの凡そ50名である。学友会のメンバーは凡そ250名とのこと。われわれは随分沢山の奨学生やGSEを送り出したもので、その成果は地区の誇りでもあろう。ただちょっと気になったのは、これらの人達がその後どのくらいロータリアンになっているかということ、いまのところ野澤幸平さん(1979年GSE、岩内RC)と岡宏幸さん(1990年GSE、札幌東RC)の2名だけとわかり、ロータリーと財団学友とくに財団奨学生との距離がまだ余りにも大きいことが残念に思われた。

7月29日(月)夕刻はロシアからの財団奨学生2名(アリーサとリュウバ)を迎えての歓迎懇親会が札幌のガーデンパレスで開催された。土橋信男財団奨学金委員長のご配慮で、決ったばかりの派遣奨学生10名も参加した。ロシアからの奨学生の受け入れは今年で4回目。4年前に地区財団委員長の富山惟夫パストガバナー(留萌RC)、石垣博美パストガバ



ロシアからの留学生と大通公園にて(左からアリーサ、小林G、リュウバ、田中・関口・丸山各ホストマザー)

ナー、そして当時の米山道男地区国際奨学金委員会委員長(札幌北RC)のご苦勞をいま改めて思い出す。このような企画は継続することに意味がある。かつてのロシアへの日本人留学生も参加し、国際的な会話は時代の大きな流れを反映させるものであった。

スリランカに夏休みをかねて

7月31日(火)から8月5日(月)は丁度公式訪問の合間に夏休みもかねて、当別RCの松田浩一会員ほかノンメンバーも加え計6名でスリランカのコロombo、キャンディなどを訪ねた。私としては8度目の訪問となる。

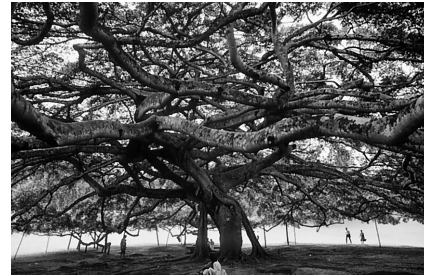
訪問の目的はいくつかあるが、1つは2510地区



後列中央松田浩一会員(当別RC)、前列の2名はJICA関係で現地で働く日本人女性。

から既に送ったベッド(約400台)などがどのように利用されているかの実状をみて、今後の計画推進の参考にすることである。すでに送ったベッドは心から喜ばれ、まだまだ送

っていただきたいとのこと。間もなくさらに100台追加発送のことをお伝えした。先方の3220地区のプロジェクトマラン直前ガバナーの話によると、昨年度の表



世界一の巨木といわれるベンガル菩提樹
キャンディ郊外の植物園にて

彰トップはこのベッドを受け取ってスリランカ各地の病院に送り届けたコロomboRCであったという。ちなみにこの地区は昨年度会員を400名増やし12の新しいクラブを作ってキング前RI会長から特別表彰されたとのこと、羨ましい限りであった。

訪問のもう1つの目的は小中学生に対する口腔衛生の健康教育によって将来の口腔がん(噛みタバコの習慣による)の予防に役立てようとして作っているテキストの進行状況を確認するためであった。これは私自身の最初からの願いで作業は思いのほか時間がかかったが、英語から現地のシンハリ語への翻訳もようやく70%ほど終了。来春には何とか完成してほしいと祈るだけだった。

スリランカから戻った翌日、8月6日(火)は長万部、森、七飯RCの夜間合同例会(大沼プリンスホテル)への公式訪問。懇親会では外の素晴らしい景色を眺めながら、調理担当のホテル支配人駒ヶ嶺孝敏会員(七飯RC)の作った特別メニューを賞味させてもらった。ホスト役の木宮正樹会長(七飯RC)によればいつもは質素な食事とのこと。送り迎えは遠藤哲二AGのお世話になり函館に一泊のあと、帰りに川田憲秀AGのおられる白老RCを「非公式の公式訪問」をした。

白老RCは例会がユニークで「ニコニコ」は一人ひとりが演壇の前でその理由を説明するので爆笑が絶えなかった。別に富くじで集めた金を抽選で当り番号の人が全部持って帰れる企画もある。抽選札の引き出しを私にやれとのこと。ところが私自身が当り番号を引いてしまい全額を頂戴してしまった。これはニコニコしてはいけないとのことなので、滅多にない幸運に感謝して帰りにジャンボ宝くじを苦小牧駅で買って帰った。(8月10日記)

ビチャイ・ラタクルRI会長来札決定!!

前川昭一ガバナー会議長からの連絡によると、ビチャイ・ラタクルRI会長が明年4月17日(木)に来日される。その後東京・札幌ほかを訪問される予定である。

元RI理事伊藤義郎PGがホスト役を務める。札幌での予定は下記のとおりであります。

- 2003年4月24日(木) 仙台空港より新千歳空港へ移動
札幌市に宿泊
- 25日(金) 札幌市にて会議出席 札幌市に宿泊
- 26日(土) 午前の便にて千歳より青森空港へ移動

ガバナーとの対話 —会長幹事懇談会メモより

- Q. 小林ガバナーは4月の地区協議会の後の会長分科会において「手続要覧を無視してもよいから頑張れ」と発言したが、それは無茶な発言ではなかったか？
- A. そのように言った記憶はないが、もし言ったとすれば手続要覧にとらわれ萎縮してはいけない。自分の信ずるロータリー活動を伸び伸びとやらなければならないという意味で言ったと思う。
- Q. 小林ガバナーはいろいろの改革を試みているが、功を焦っていることはないか？
- A. 改革に一生懸命にかかわることで、功を焦っているようにみられてもやむを得ない。だが功を考えてのことではない。いま最も大事なことはロータリーの改革ではないのだろうか。このままのロータリーは衰退するかも知れないとの危機感が前提にある。
- Q. ガバナーあるいはパストガバナーはロータリーの中で特別扱いされすぎではないか？
- A. その印象はあるかも知れない。しかしパストガバナーが特別視されようとしていることはなく、みんながパストガバナーを特別視していることにも問題はないか。時間を掛けて整理すべき問題と思う。
- Q. 地区の財政はかなり厳しいと聞くが、本当か？
- A. 本当である。詳しいことは月信7月号の予算書に書かれている。繰越金も充分ではない。ガバナー事務所経費もトータルで600万円の節減を考え、パストガバナーのロータリー研究会への出費も極力抑えた。地区の皆さんに苦難を強いて申し訳ない。
- Q. ロータリーの社会的評価が下がっているように思うがどう思うか？
- A. NGO、NPOの活動が目立つ陰になったこともあるが、基本的にロータリアンがロータリアンとしてやるべきことをやらないために、社会から評価されないことで自信を喪失したからではないか。原点に戻ったロータリー活動を実践すればロータリアンとしての自信も回復するだろう。



栗山RCの会長幹事懇談会

- Q. クラブ会長のなり手がなくて困っている。止むを得ず前年度に引き続きやらざるを得ないことになったがどうしたものか？
- A. お気の毒である。小さなクラブではこういうこともあり得る。このようなことは手続要覧によればいけないことになっているが、私個人としては止むを得ないと思う。ご努力をお願いしたい。註、いままでも三石RCの佐々木初之助会員のようにより3年連続をふくめ合計8年の会長を務められたことがある。
- Q. 例会出席のときの服装はきちっとしたものでなければというので、仕事場から直行しなければならぬとき服装が気になってつい欠席してしまうことがあるのだが？
- A. 不快感を与えるものでない限り軽装、略装で何ら差し支えないし、作業服であってもよいのではないか。
- Q. 月信の購入部数をガバナー事務所にお伝えしてあったのに、7月号をいきなり会員数分だけ送られてきた。そのときの記事を見ると、地区協議会で決まったことだから全員が買いなさいという高圧的な感じさを受けた。どうしてこういうことになったのか？
- A. 不快な印象を与えたとすれば、全て私自身の責任である。地区協議会における会長分科会でも月信の全員購入は私からのお願いであって強制ではない、ということは何度も申し上げた。ただ予算面では全員購入の前提での予算が承認された経緯はある。当日は時間不足もあって、説明が十分なされなかった為に誤解を与えたものと思う。不快の念を与えたことについては率直に陳謝する。

「月信」は地区の友に

一人ひとりの隠れた声、静かな声を大事にしていけば、これがクラブを動かし、グループを動かし、さらに地区、RIをも動かしていくだろう。これがビチャイ・ラタクルRI会長のいわれるボトムアップの狙いでもある。そうであれば月信は一人ひとりの会員のロータリーの情報源としてだけでなく、会員の胸のなかの思いを伝え合う意見交流の場としても適切なものではないだろうか。

月信はいわば地区レベルの「ロータリーの友」であり、「ロータリーの友」にもあやかって地区の全員に読んでいただけたらと思う。会員皆様には手続のうえで不行き届きの点があって申し訳なかったが、みなさまの寛容の精神で現時点で凡そ90%の会員の購読をいただいている。ご理解ご協力に心から感謝したい。

顔写真付地区会員名簿についてのお願い

地区会員名簿も11月の完成を目前に現在作成中である。予定が大幅に遅れたことは深くお詫び申し上げなければならない。

価格は1,000円。

1,000円では高いという声で、500円以下も鋭意検討したが、購入希望数が予想をはるかに下回るようなので値下げは不可能と判断した。従って皆様へのお願いは、1冊1,000円で出来るだけ多くの会員にお買い求めいただければと念ずる。

なお、購入希望部数を各クラブでお取りまとめのうえお申し込み下さるようお願い申し上げます。見本刷は各会長宛に近く送付するが、詳細は追ってご連絡。

ちなみに、「顔写真付会員名簿」は諸外国によくみられるし、北海道でもライオンズクラブが経年的に刊行している。全国的には全日本ロータリー会員名簿が毎年刊行され、全国のRC会員の名前、職業のほか勤務先、自宅の住所、電話、FAX番号が記載されている。

地区活動 紹介

ビーチに到着→夜ごはん→肝だめし→分別回収→ビーチバレー 地区キャンプ交流会

ローターアクト委員会

7月27日（土）、28日（日）2510地区イベント「キャンプ交流会」が留萌で行われました。ビーチバレー、チャンピオン焼作り、肝試しを楽しみ、地区内外のアクター、ロータリアン総勢40名弱の会員と親睦をはかりました。地域奉仕プログラムでは砂浜のゴミを拾い、留萌市の規定（8分別）に従いゴミの分別講座を留萌RACの皆さんに開いても



ビーチに到着



ゴミの分別回収

りました。実際の分別作業を通してリサイクル、ゴミの減量について考えさせられました。余計な包装は断る、リターナブルボトルを利用するなど少しの気配りでゴミを減らせるので、今回の経験は今後の買い物やクラブ活動などに生かしていきたいです。

地区ローターアクト委員会

平成14年7月6日（土）PM1：00～2：00

場 所 ホテルKKR札幌

参加委員 委員長 中塚 力（岩見沢RC）

委 員 今井義憲（函館東RC）柳 孝一（札幌幌南RC）
宇戸啓隆（赤平RC）渋谷賢治（深川RC）

中塚委員長から今年度、委員会活動の重点目標など説明があり、小林ガバナーより活動が特に優れているアクトクラブに対してガバナー賞を授与するという意向が示された。地区委員会として、また、委員会がスムーズに運営することを目的に、各担当責任委員を決めた。それを委員長が取りまとめる事を決定しました。

また、現在休止中の恵庭ローターアクトクラブの復活の働きかけや、新クラブ誕生の働きかけを、札幌市内クラブを中心に行っていく事を確認しました。

提唱クラブ委員長会議

平成14年7月6日（土）PM2：00～3：00

場 所 ホテルKKR札幌

参加委員 委員長 中塚 力（岩見沢RC）

委 員 今井義憲（函館東RC）柳 孝一（札幌幌南RC）

提唱クラブ委員長 深川RC渋谷委員長（地区委員と兼務）
留萌RC山中委員長、赤平RC若林委員長、岩見沢RC渡部副委員長、札幌北RC杉村委員長、札幌幌南RC森本新世代委員長、千歳RC喜多委員長、室蘭北RC松島委員長

中塚委員長から昨年度の活動報告から始まり、今年度の活動計画を発表致しました。その後各クラブの委員長から、各ローターアクトクラブの現状の報告や、問題点などの発言をいただきました。各クラブ、会員減少問題・例会のあり方・提唱クラブとの関わり方など様々な意見が交換されました。

がん予防のための食生活14カ条（世界がん研究財団、米国がん研究財団）

- 1 食事内容：野菜や果物、豆類、精製度の低いでんぷん質などの主食食品が豊富な食事をする。
- 2 体重：BMI（体重kg/（身長m）²）を18.5～25に維持し、成人期の体重増加は5kg未満。
- 3 身体活動：1日1時間の歩行を行い、1週間に合計1時間は強度の強い運動を行う。
- 4 野菜と果物：1日400～800gまたは5皿以上（1皿は80g相当）の野菜類や果物類を食べる。
- 5 その他の植物性食品：1日に600～800gまたは7皿以上の穀類、豆類、芋類、バナナなどを食べる。
- 6 飲酒：飲酒は勧められない。飲むなら1日男性は2杯（＝日本酒1台）、女性1杯以下。
- 7 肉類：赤身の肉を1日80g以下に抑える（赤身の肉とは、牛肉、羊肉、豚肉）。
- 8 総脂肪量：動物性脂肪を控え、植物油を使用して総エネルギーの15～30%の範囲に抑える。
- 9 塩分：塩分は1日6g以下。調味に香辛料やハーブを使用し、減塩の工夫をする（酢の使用もよい）。
- 10 かびの予防：常温で長時間放置したり、かびがはえた食物は食べないようにする。
- 11 冷蔵庫での保存：腐敗しやすい食物の保存は、冷蔵庫で冷凍か冷却する。
- 12 食品添加物と残留物：添加物、汚染物質、その他の残留物は、適切な規制下では特に心配はいらない。
- 13 調理法：黒焦げの食物を避け、直火焼きの肉や魚、塩干燻製食品は控える。
- 14 栄養補助食品：この勧告を守れば、あえてとる必要はなく、がん予防にも役立つしない。



連絡先：（財）札幌がんセミナー

札幌市中央区大通西6丁目6 北海道医師会館6階

TEL：011-222-1506/FAX：011-222-1526/E-mail：scs-hk@phoenix-c.or.jp/URL：http://www.phoenix-c.or.jp/scs-hk/

広告

インターアクト

海外研修報告

隣国、大韓民国の歴史・文化とともに
家族のマナー・平和と奉仕を学びました。

インターアクト委員会
委員長 細川好弘



明暉園園長韓工セフさんと細川委員長



福祉施設「明暉園」正面玄関前で



板門店 軍事停戦会議場で緊張の記念撮影



西大門刑務所歴史館 地下監獄前で



禹 宙利さん

柳 法朱さん



姜 松志さん

2002-03年度国際ロータリー第2510地区インターアクト海外研修旅行は、8月1日(木)より5日(月)まで4泊5日の日程で、隣国である大韓民国の歴史と近代文化が混在するエネルギー国際都市ソウル市を中心に、福祉施設、板門店、西大門刑務所歴史館他の視察、現地同世代の方々とのグループ別自主研修等、現地の食文化を体験しながら貴重な海外研修を行い総勢29名が無事に帰国しました。

■期間 2002年8月1日(木)～5日(月)4泊5日

■主な研修先

福祉施設 明暉園 (ミョンフィウォン)

日本と韓国の中を耐え抜かれた李方子(リ・マサコ)さんが初代理事長をつとめられた知的障害並びに身体障害者自立訓練施設明暉園(ミョンフィウォン)を訪問、小林博ガバナーよりのメッセージと韓国語版のガバナー著書及び金一封を贈呈、韓ヨセフ園長より謝辞と施設の説明をいただきながら、大半がボランティアで運営されている現状にインターアクターから質問が出るほど熱心に奉仕について学ばれたと思います。

◎韓ヨセフ園長語録

「努力をすれば夢はかなえられる。」「命は最後のおみやげです。」「利用者の命は神様です。利用者の幸せのために奉仕しています。」

板門店 (パン ムン ジョン)

1953年7月27日韓国動乱の休戦協定が調印された軍事停戦会議場(非武装地帯の真ん中)今なお緊張が高まっているところを視察しました。50年に及ぶ分断された国土の再統一を成就するための窓口として世界の注目を集め、世界戦史上最も長い休戦状態として記録されている現実の中で平和の大切さを学ばれたと思います。

西大門刑務所歴史館

1908年建築、韓国独立の為に戦った愛国烈士を偲び自主独立の精神を振り返る為に、国を愛し民族を愛する志を学ぶ場となればと説明を受けながら見学いたしました。日本の小泉総理も訪問した所です。

自主研修&同世代交流

「今までにない経験ができて楽しかった」、「禹さんステキでした」
「韓国学生の勉強時間一日14時間と聞いて驚いた。そのうち日本は韓国に追い越されるといった」……など、など。

米山記念奨学委員会戸井委員長紹介により韓国中央大学日本語日本文学科の禹宙利さん、柳法朱さん、姜松志さん、並びに函館ラ・サール高校IACが折衝された韓国ユネスコ協会から2名の学生が派遣され昼食を共にし、グループ別にワールドカップサッカー場、南山公園等歴史。文化を学び言葉を交わしながらの同世代交流は、それぞれ忘れられない思い出となったであろう。別れが惜しまれる光景をカメラに収めておりました。

※その他詳細につきましては参加者の感想文を含めて報告書でご紹介させていただきます。

■参加者

インターアクター18名(男子14名、女子4名) 顧問教師8名
交換留学生1名、ロータリアン2名、合計29名

■事前学習

7月6日(土)13日(土)北海高校にて・函館地区は13日(土)函館ラサール高校にて、各校個別20日(土)27日(土)実施。

この度の海外研修にご支援下さいました小林博ガバナーはじめ提唱ロータリークラブ並びに地区関連委員会の皆様のご協力に感謝申し上げます。

国際ロータリー・ゾーン1 地区会員増強委員長セミナー報告

会員増強委員会
委員長 岩城 秀晴

去る7月14日(日)、『国際ロータリー・ゾーン1 地区会員増強委員長セミナー』が東京プリンスホテルにおいて、板橋敏雄RI理事、黒田正宏RIMC外、12地区の会員増強委員長が集まり、会員増強についての意見交換と今後の会員増加の施策について協議致しました。

その中で特筆すべきことは、板橋RI理事から世界におけるRIが6月26日の時点では会員総数1,442,000名となり、このことはキングRI会長とケン・ボイド委員長の強力な努力が成功したと思われる。今年度はクラブに自主的な目標を設定して会員の増強を実行して欲しい。現在は新しい職業が出来ているので、職業分類を活かして実践して欲しい。クラブ会長のやる気を基本として、会員自身が「マッチ棒」になって燃えるような意識改革をすることが必要であり、

配偶者にもロータリーについて説明し、ロータリーの理解が入会に繋がると申されておりました。

私はガバナーの時にも皆さんに会員増加の必然性を公式訪問時においてお願い申し上げたのですが、6月末日現在では3,554名となりまして、期首会員数よりも47名の減少となりました。私どもの会員増強目標として地区内で250名増を考えていたのですが、目標を大きく下回りました事は残念に感じております。会員の皆様からはこの不況時において会員が減少するのは当然と言われる方がいらっしゃいますが、私は御自身の友人、又は知己をこのロータリアンの仲間に入れて戴くことが私どもの仕事と考えて欲しい旨をお願い致しました。どうかこの1年間の奉仕活動に会員増強を入れて、仲間を増加して戴きたいと存じます。

地域社会奉仕援助プログラム(CAP)に進んで応募を!!

財団補助金委員会
委員長 伏木 忠了

地区協議会 財団セミナーで、地域社会援助プログラム及び、同額補助金についての“授与基準”“申請手続”についてご紹介いたしました。この地区社会奉仕援助プログラム(CAP)は、各クラブの社会奉仕活動の推進のための補助金です。1プロジェクトについて、1,000ドル以上の資金を援助します。CAPに対し使用可能なDDF(地区財団活動資金)は1万ドルです。1クラブ1,000ドルの申請ですと、10クラブになります。大型プロジェクトですと、1万ドルの枠の為件数が減ることになります。皆さん、ご検討の上奮ってご応募下さい。

参考資料 地区協議会の補助金委員会の資料又は、ロータリージャパンウェブからも取得出来ます。

①申込方法

委員長から申請書を入手して、ガバナー事務所に郵送して下さい。

②申込期限

H14年9月15日～H15年4月15日迄です。

地区内での調整と、RIの審査に8週間位かかる事が想定されますので、1月末迄提出して下さい。

お問い合わせ

RI、第2510地区
財団補助金委員会 委員長 伏木忠了
TEL 011-272-3911

新しいロータリーについてのアンケート調査協力をお願い

クラブ奉仕委員会
委員長 神代 利臣

ロータリーが2005年に100周年を迎えるにあたり、いろいろな意味での見直しが求められております。皆様のロータリークラブの活動について、またロータリークラブに対するお考えをお伺い致したく合計30の質問をご用意しアンケートの形で調査いたしたいと思っております。匿名で調査結果は数字の形で表し、具体的なクラブ名を挙げて公表することはありません。

詳細は近くお送りする調査票をご覧ください。送付は各クラブでおまとめのうえガバナー事務所に9月末日必着でご協力お願い致します。新しいロータリーのあり方を模索する為の参考に、皆様の率直なご意見をご期待申し上げます。

なお本調査は2710地区、川妻二郎ガバナー(広島南RC)とタイアップして行うものであります。

2002-2003

国際RYLA大会参加者推薦のお願い

ライラ委員会
委員長 宮崎 善昭

今年度国際大会(2003年6月1日～4日)の折、オーストラリア、ブリスベンにて18歳から30歳までの若者200名が集い、国際RYLA大会が開催(5月29日夜開会、6月1日朝開会)されます。

プログラムは、参加者の豊かな国際性を十分に生かしつつ、指導力の育成に焦点が当てられたものとなります。参加者はクラブの推薦により選出されますので、詳細は各クラブに送付してあります申請書をご覧ください。

RYLAとは…

Rotary Youth Leadership Awards
ロータリー青少年指導者養成プログラム

クラブ活動 紹介

「ペリー提督、来航記念碑」三団体共同事業で見事に完成！

石田 勉（函館RC）

2001～2002年度、函館ロータリークラブ国際奉仕委員会は、年度当初から「ペリー提督、来航記念碑」の建立計画を策定し、函館日米協会、函館北斗ライオンズクラブと連携し、三団体の共同事業として位置付け函館市出身の彫刻家、小寺真知子氏に製作を依頼、イタリア・ローマで製作された銅像は空路ローマから運ばれてきた。

銅像の高さは、台座を含めると4メートル50センチという巨大なものとなり、ペリー来港日に合わせ5月17日に市立函館病院跡地で、堂々たる除幕式が開催され、地元市長を始め数々のご来賓を迎え、盛大に挙行された。

このペリー提督、来航記念碑は、函館市民の永年の懸案事項で、1854年（安政元年）5



月17日に5隻の黒船艦隊と共に当時の箱館に来航してから数えて148年もの間、実現出来ずにいた正に悲願とも言えるものであった。当時の日本全国でペリーが立ち寄ったといわれる横須賀、下田、横浜、那覇、小笠原にはそれぞれ記念碑、顕彰碑等があるにもかかわらず何故かこの函館だけは何もなかったのである。これでは函館人として恥ずかしい、何とか皆で力を合わせて実現できないものかと函館ロータリークラブが先導して各団体に対して呼びかけたことがキッカケだったのである。幸いにして函館市、日本馬主協会連合会も協賛してくれて、総費用1700万円で完成したものである。除幕式実施後も市民の皆さんから大賛辞の声が大きく、特にライトアップして欲しいという要望も強かったためこれも実現した。今後の函館の新しい観光名所の一つとして脚光を浴びることとなる。

イタンキ浜で清掃奉仕

寄木清二（室蘭東RC）



室蘭東ロータリークラブのメンバーらが6日、室蘭市東町のイタンキ浜海水浴場の清掃奉仕活動に心地よい汗を流した。

同RC社会奉仕委員会、インターアクト委員会が昭和36年のRC設立以来実施している。この日は、同RCをはじめ、室大谷インターアクトクラブ、室工大留学生のメンバーの計30人が参加した。



地区委員長 さんへの お願い

地区委員会で計画していることの概要を地区の会員の皆様にお伝えしたいと思われる情報は、努めて月信を介してお願いいたします。正式には、或いは具体的にはクラブ会長・幹事を通して行すべきものですが、一般会員に衆知徹底していただくためにも、月信を大いにご利用していただきたいと思っておりますのでご協力お願いいたします。原稿締め切りは発行月の前月初旬（例えば10月1日号としますと、9月のはじめ）までにいただければと存じます。ご協力宜しくお願い申し上げます。

新たな「絆」を求めて

和田次彦（千歳セントラルRC）

今年度子どもクラブには大きなテーマがあります。

- ・友好クラブ締結5周年記念事業 静岡県長泉RC
- ・ガバナー補佐派遣によるI・Mのホスト
- ・地区協議会のホスト
- ・米山梅吉記念館訪問

これらを今年度の事業の柱として活動を行うこととなりますが、創立12年目にして大きな事業が組み込まれ、不安なスタートをしたというのが実感であります。

その中、まず長泉RCとの友好クラブ締結5周年記念事業を去る7月8～10日の3日間で実施いたしました。

子どものクラブは毎年米山月間にちなんで10名前後で



米山記念館を訪問することになっていますが、昨年訪問の際には予定しない大きな歓迎を受けたことに感謝し、丁度今年は5周年ということからこのイベントを開くことになったわけです。その由来から18名（夫人を含む）ものロータリアンが子どものマチを訪れることになり、「千歳」を知って貰う絶好の機会を得ました。初代バスト会長の綿密な計画と現場を指揮する現会長との連携により、新たな「絆」を求め合ったものです。1、2日目ゴルフ組と観光組の2班に分かれ行動しましたが、特に観光では目玉商品として、田口廣会長の取り計らいで、おそらく日本一の規模のサラブレッドのセリ市を見ていただくことが出来ました。最高値3億円というセリ声を聞いて目を丸くしていたようです。又、千歳の名産「ハスカップ」を摘んだり試食したりもしていただき、特徴のある内容に努力したものです。この交流を通じてすっかり馴染みとなったメンバー同士、そしてこの交流に新たなモノを感じ、将来へますます発展させたいものです。

ハサンベツで植樹の体験

北川清則（栗山RC）

7月4日（木）、ハサンベツ地区にて栗山小学校5年生の「サマーキャンプ」の一環として、植樹の体験学習を行いました。

この日、栗小5年生97名が栗山ロータリークラブの皆さんの指導と協力で、ミズナラ・アズキナシ・イタヤカエデの3種を再生紙ダンボールポットを利用し植樹を行

いました。

子どもたちは、ダンボールの鉢を組み立てるのに苦労していましたが、教わりながら一生懸命作っていました。

栗小5年の長谷川結香さんは「難しかったけれどちゃんとできた。木が大きくなったらまた見に来たい」と話しました。



ありがとうは私から

作詞 堀 昭良(岩見沢東RC) 作曲 小西欣一(大坂南RC)

1. あなたに出会ったその日から 夢と希望が湧いてきた
弾む心に広がる笑顔 奉仕の理想に結ばれた
こんな素敵な仲間たち 仲間たち
ありがとうは ありがとうは 私から
2. あなたに出会ったその日から 自信と勇気が湧いてきた
ふれあう友垣仲睦まじく 平和な世界へ手をつなぐ
こんな素敵な仲間たち 仲間たち
ありがとうは ありがとうは 私から
ありがとうは ありがとうは 私から

(1991年)

高齢者を支える運動を展開

片山幸夫（長万部RC）

当町は全道でも有数の高齢率高位町村で、総人口7,497人中65歳以上2,292人（30.6%）、75歳以上910人（11.7%）となっております。当クラブとしまして、これらのことを早くから認識し、会員に社会福祉法人関係者がいたこともあり、別紙計画表のとおり1980年より9年間は年一回の施設訪問から始まり1989年より4年間は施設の行事協力を行ってきました。1991年町内の社会福祉協議会の社会福祉法人化と同時に、高齢者及び障害者の入浴サービスをスタートさせ、町営の老人センター入浴施設への送迎が開始されました。1週1回月4回ですがスタート時は1回15人前後の利用希望者がいて一定時間のため送迎車両人員不足が生じ、折角の福祉活動に支障を来していることを聞き及び、当クラブで検討協議を重ね、飽くまで自発的、無償性、奉仕性のボランティアの

精神に基づいて、会員の当番制で月1回乗用車3台、人員3名を提供し10人前後の町内高齢者の送迎を担当することとして、1993年4月より参加し、以来9年目を迎へ今日に至りました。職業奉仕の社会還元にも合い通じるものがあり、老人の喜ぶ顔を見るとき人助けの幸福を禁じえません。



ポリオ撲滅に募金を！

2002-03ポリオ撲滅募金キャンペーンの広報は地区広報委員会が担当します。

【ロータリーとポリオ】

ポリオとは、ウィルス感染によっておきる小児麻痺で、全世界に数百万人の患者さんがおられました。命が助かっても手足に麻痺がのこります。たまたまこの惨状を見たロータリアンが、ポリオをなんとかしようとして立ち上がりました。やがて、国連40周年の1985年、ロータリーは世界の子供に予防接種を行う世界的活動に1億2,000万ドルの支援を約束しました。ポリオ・プラス・キャンペーンの結果、2億4,700万ドルの善意が寄せられたのです。

1988年125カ国で350,000症例となり、2001年までには世界の20億を超える子供が予防接種を受け、10カ国で600症例まで99.8%の減少となりました。世界保健機構（WHO）やユニセフ、米国防疫センターがこの事業のパートナーです。

あと一歩まで参りましたが、完全に撲滅しなければポリオの流行が再燃する可能性があります。国際ロータリーでは100周年の2005年を迎えるまでにポリオの完全制圧を目指し、これを最優先

事項と掲げました。

【募金のお願い】一人の子供に2滴の貴重な口径ポリオ・ワクチンを届けたい。遙かな国の子供たちへ届けるために、寄付又は誓約をお願い致します。ロータリー財団は2003年6月30日までに総額で米価8,000万ドルの目標を掲げました。100ドルで1,200滴のワクチンを購入出来ます。500ドルで村中の家々に届け、1,000ドルでポリオ監視システムの研究所の装備を提供する助けとなります。

【募金の方法】ポリオ撲滅に関するパンフレットと寄付申込書等は各クラブ会長宛にお送り致します。募金は日本事務局経理室宛ですが、詳細はそのパンフレットをご覧ください。

広報委員会

委員長 城木 浩一

家庭奉仕勉強会のご案内

家庭奉仕委員会委員長 和田壬三

家庭奉仕の方法について学んでみませんか。家庭奉仕は、自然にできるものではないようです。「親業」という家庭奉仕の技術を指導する指導者がいることをご存知でしたか。親業インストラクターから、家庭奉仕の仕方について学んでみませんか。

記

- 1、日時 9月14日 pm5時00分
- 2、場所 札幌毎日会館4階会議室
(札幌市中央区北4条西6丁目毎日札幌会館4階)
- 3、講師 土橋芳美 (親業インストラクター)
- 4、演題 “家庭奉仕のための親業”
- 5、連絡先 和田法律事務所 tel 011-281-0909
fax 011-271-4336



黒く描いた10ヶ国（インド、パキスタンはじめアフリカ）が、いまでもポリオの猛威をみる。



小児へのポリオワクチンの投与

Giro della Riviera 2002に参加

加藤健太郎 (函館RC)

葉山ロータリークラブが主催して開催される「Giro della Riviera」の第2回目の大会が“海岸線で結ぶ友情の絆”というサブタイトルの下、神奈川県相模湾湘南海岸を中心に開催されました。

この事業はロータリークラブ奉仕の精神のもと“車”をイベントの核とし「古いものに敬意と愛情を…」を基本に、古き良き時代の車とそれを労して操るドライバーの有志を多くの方々にご覧いただくと共に、相模湾に連なる伝統ある美しい町や自然を内外に紹介し、走行ルートで結びつく各ロータリークラブとその会員の奉仕を通じて、自然保護や交通遺児育成等への支援の一端を担おうとするものです。

したがいまして葉山RCを中心に15に及ぶRCが協賛し、各チェックポイントでの作業はすべてロータリアンが行



愛車とポーズをとる筆者

うというもので、参加費用の一部が交通遺児育英基金に寄付されました。

さて、当日葉山RC会長のご挨拶に始まるセレモニーも終了し、午前9時より、57台の参加者が順次出発、伊豆から小田原までの間、各ポイントでは北海道より参加した

という事に加え、会長エレクトでの参加という話も伝わっており、それぞれのロータリアンから熱烈歓迎を受けました。

第2日目は宿泊地となった小田原から箱根—秦野—横須賀を経由して葉山に到着。表彰式で、各クラスの優勝者を祝福し、また参加者同士が健闘を称えあいました。

私は今回、1947年製のイタリアで作られた“FIAT ERMINI 1100 SPORT”という車で出場しましたが、一番

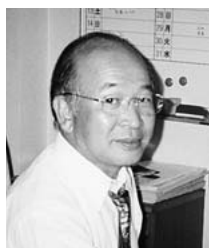


古い車では1926年製のものもありすべての車両が完璧に整備された中で、昔と変わらない走りを目のあたりにする事が出来、クラシックカーマニアとしても充実したイベントでした。

最後に、古い車との格闘という大変苦しい二日間ではありましたが、このイベントを通してロータリアンの温かい友情と奉仕の精神を実感できた素晴らしい二日間でもありました。お世話になりました葉山RCを中心としたRI第2780地区の16のクラブの皆様へ感謝と御礼を申し上げます、参加報告と致します。

例会の形式について

川田憲秀 (白老RC)



多くのクラブ例会はロータリーソング・会長挨拶・幹事報告・各委員会報告・ニコニコボックスの報告・食事・卓話という定型になっています。いつも、カナダのクラブの例会で恐縮ですが、ニコニコボックスは、名前だけを申請し内容は、各自がみ

ずから、ジョークたっぷりと発表して、会員の見ている前でボックスにお金をいれていました。例会開催前の受

付で、1ドル～2ドルを支払い、抽選で当選者にその小額の賞金を渡し、当選者はいかに自分はラッキーであるかを大げさに自慢して、この賞金で妻のダイヤモンドの指輪を買うなどと、ジョークを上手に話す文化に感動しました。したがって、卓話の時間などはほとんど取ることが出来なく、ほぼ会員の近況などを報告しあい、実にこれが、コミュニティーとを感じる例会の形式でした。我われも工夫が必要と実感しました。

初めての国際大会

吉澤義彦 (深川RC)

その日は大変暑い日でした。目的地にたどり着くまでに国内外の空港を6カ所も渡り歩いて、しかも待ち時間をいれると28時間もの間移動をしていました。

バルセロナで予約したホテルの手違いで町の中を8時間程も彷徨い途方に暮れていたところ、23日の0時がやってきたその時、なんと都合のよいことに親切なホテルのレストランの従業員が出てきて何かお困りですかと声をかけてくれたので、ホテルのアドレスを見せるとこのアドレスは此処にはないと言われ途方に暮れました。後で分かった事ですがそのホテルはこの町から100キロも離れた田舎町にあったのです。スペイン語を話せない私がこの町に来たのは準備不足のなにもものでもなく、英語をそこそこ話せればという甘い考えがこの事態を招いたことだと今になって思います。なんとかホテルをとり休むことが出来た次の朝23日時差のため早く目が覚め、世界大会の参加登録のためごそごそしているあいだに時間が過ぎ急いで会場に向かうことにしました。町の中には参加登録した印のネームプレート为首からさげたロータリアンが目にはいると何か楽しく、会場に向かう足取りも軽かった。会場に入ると世界各国から集まっているロータリアンの大群が参加登録のため長蛇の列を作っていた。その中に訳も分からずとりあえず並んでみたのですが、よく見るとみんな何か手に持っているのに気づき、近くにいた人に聞くとこの紙に必要な事項を書いて並ぶのだと教

えて貰いました。300ドルの登録料を払いネームプレートを手に入れた私はそれを身につけ会場の中を歩き始めいろいろの窓口を見て回る事にしました。しかし何も予備知識を持たないで飛び込んだ私は、後で考えるとチャレンジャーと言うか、無謀と言うか、怖い物知らずと言うか、考えさせられる事が多かったと思います。しかしこの大会の印象はすべてにおいて開かれたイメージがあり、ローターアクト、インターアクトの若い人たちが楽しそうに大会に参加していたのが印象的でした。

当然ロータリアンは誰もが友好的で、しかも気さくなことは言うまでもありません。た

だ一人で大会に参加した私にとっては少し寂しい大会参加だったのだと思います。今回の目的は大会に参加すること、そしてどの様なイメージなのか経験すること、これが目的でしたので、目的は自分なりに達成されたと思います。外国へ行って学んだことはこれからクラブの中で生かしていきたいと思っています。ロータリークラブに入って5年目、クラブがだんだん楽しくなってきました。“楽しい”が一番大切だと思いました。



メロン栽培中の筆者

グループとして禁煙例会

坂田知樹 (岩見沢東RC)

岩見沢東RCでは、小林博ガバナーの要望のひとつである「例会中は禁煙に出来ないでしょうか」に対し、第3グループ辻野修ガバナー補佐も「第3グループ全体で禁煙例会にしたい」という要請が、3月に行われた次年度第3グループ会長幹事会でありました。会員の了解もいただかないうちにその席上で、当クラブの渡辺つよし幹事と相談をして8クラブの一番最初に「岩見沢東RCは禁煙にします」と宣言をしてしまいました。その後、クラブに持ち帰り、理事役員会に諮りました。岩見沢東クラブは、現在34名会員がおりますが、約半数が愛煙家です。「愛煙家にとって食後の一服は格別なのに

～etc」と言いながら「会長が宣言してきたのなら」と会員全員の協力で禁煙例会をスムーズにスタートすることができました。スタート当日は、例会場入り口、受付、各テーブル

(1カ月経過) そのポスターも必要ありません。会員各位に深く感謝いたします。また、岩見沢RCの小林弘明会長(写真右)は、この機会に禁煙したそうです。私も愛煙家の一人です。仕事上、年数回の海外出張に出かける度に禁煙しようと思うのですが、長時間のフライト後空港に着くと喫煙場所に向かっているのです。私もこの機会にもう一度、禁煙にチャレンジしてみようかな？



岩見沢RC 小林会長(写真右)と筆者

に「例会中は禁煙」と書いたポスターを掲げましたが、今は



栗山RC例会場入口

例会に煙草持たずに出席し

佐々木実 (深川RC)

深川ロータリークラブ「会報」より

例会にガバナーを迎えました

高石誠次 (白老RC)



本日、小林ガバナーをお迎えして例会を開催いたしました。従来の例会形式がはたして、出席している会員の満足度が満たされているのだろうかとの議論をして、昨年8月国際姉妹クラブである、カナダ・ブリティッシュコロンビア州のケネルロータリー

クラブを訪問した時の例会を真似してみようとの結論に至りました。この事を小林ガバナーにお話ししたら、是非その例会に出席したいと言われ実現いたしました。前日、大沼の夜間例会に出席したあとの厳しいスケジュールでしたが、見野白老町長を表敬訪問の後、12:00よりのクラブ懇談会に出席していただきました。懇談会では、小林ガバナーのロータリークラブに対する思いを語っていただきました。12:30より例会が始まりました。

例会は出席者が全員、受付で200円を支払い抽選の用意をしました。ロータリーソング・会長挨拶・幹事報告・食事と運びました。

プログラムになり谷島前会長が司会となりました。ニコニコ・ボックスは、申告者が自ら発表し、出席者が見えるようにお金を入れました。普段の3倍くらいの申告があり、有り難いと思いました。もちろん、ガバナーが最

初に発表し、カバナー補佐が続きました。楽しいニコニコ・ボックスの発表があり、参加者が近況などを会員に伝えることが出来ました。

次に、クイズになり、最初は小林ガバナーに対して質問となり「1905年ポール・ハリスがロータリークラブを創設した時、メンバーは4人だったと言われております。後の三人の名前は？」さすがに、カバナーも降参でした。罰金の意味で、200円を徴収されました。正解者もニコニコを、100円支払っており、実に難しい質問も、楽しく笑いのうちに、クラブの収入に貢献いたしました。2メートルほどの長さの特性のスプーンを作成して、その皿の上にお金を載せて、ユーモアに溢れた演出で結局、出席者全員が、何らかの発言をして参加したという実感を味わってもらえたと思っております。

最後は、抽選です。抽選箱から、小林カバナーにカードを引いてもらいました。なんと、ご自分の番号を引いたのです。5,200円でした。このお金は、ニコニコ・ボックスに入れられないことにしていますので、旅費の一部に貢献出来た？ と思いました。ガバナーの恐縮する姿に全員大喜びでした。楽しい、楽しい例会でした。出席者が楽しく、喜んでもらえる例会を考える上で、試行錯誤の例会でした。小林ガバナー、ありがとうございました。

広告掲載のお願い

月信の広告募集しております。ビジネス用の広告だけでなく、ご自分の職業に関わる紹介も歓迎します。

月信に広告は違法ではないかとの声がありますが、そのようなことはありません。ガバナー要覧にも月信を全員講読するような場合、制作費、運送費もかかるであろうから広告をとることは差し支えない、と書かれております。会員の声などの新しい企画の部分は皆様からの広告収入に期待している現状です。

広告は1ページ大10万円ですが、9月号の内容からもご覧のようにスペースによって1万円、2万円となっております。場合によっては半コマ5千円も可能です。ちまたのビジネス用の広告とは違い、ロータリアンが作るロータリアンのための広告です。ご協力をお願いいたします。

2004～2005年度

ガバナー・ノミニー候補者推薦のお願い

地区ガバナー 小林 博
地区ガバナー指名委員長 伊藤長英

2004～2005年度地区ガバナー・ノミニー候補者として適格な会員があり、地区ガバナー指名委員会の審議を希望する地区内クラブは、**10月10日必着**にて、地区ガバナー指名委員長(地区ガバナー事務所気付)宛、文書をもってご推薦ください。

尚、地区ガバナー・ノミニー資格条件については、国際ロータリー細則第15条第7節1項～6項及び第8節の資格条件に適合していることを要します。

参 考

- 国際ロータリー細則第13条 (ガバナーの指名と選挙)
- 国際ロータリー第2510地区、地区ガバナー指名委員会規定 (1998～1999年度地区年次大会決議第9号)

誕生日おめでとうございます

ピチャライ・ラタクルRI会長
1926年9月16日

事務所だより

- 地区大会（11月16・17日）の登録が始まりました。地区会員皆様の登録をお願い致します。なお、記念ゴルフ大会は、10月6日（日）に開催されますので、ゴルフ大会参加の方々は早めにお申し込み下さい。大会登録なしのゴルフ参加はできません。
- 8月24日（土）、地区会員増強委員長会議がRI会員組織コーディネーターの黒田正宏氏を講師に開催されました。各クラブの会員増強をよろしくお願い致します。

- 地区役員名簿が完成しました。地区役員、委員会、各クラブ会長・幹事の方々を写真入りで掲載しております。地区とクラブ、委員会への問い合わせなどにご利用下さい。
- クラブの例会日変更の連絡は、早めに事務局へお知らせ下さい。

掲示板

例会変更

滝川RC

9月5日(木)→移動例会：浦臼町
21日(土)→移動例会：屋外イベント(19日(木)通常例会の振替)

江別RC

9月5日(木)G公式訪問合同例会
12日(木)江別青年会議所との合同例会
19：00～ 江別市民会館37号室

岩見沢RC

9月13日(金)→14日(土)IMに振替
20日(金)→21日(土)G公式訪問合同例会に振替

岩見沢東RC

9月17日(火)→14日(土)IMに振替
9月24日(火)→21日(土)G公式訪問合同例会に振替

当別RC

9月3日(火)→5日(木)G公式訪問合同例会に振替
17日(火)→14日(土)IMに振替
24日(火)→夜間例会18：00点鐘

小樽南RC

9月6日(金)→3日(火)G公式訪問合同例会に振替(12：30点鐘)

小樽銭函RC

9月5日(木)→3日(火)G公式訪問合同例会へ変更

伊達RC

9月10日(火)→14日(土)地区野球大会に振替

室蘭東RC

9月11日(水)→8日(日)家族同伴野外例会に振替

苫小牧RC

9月20日(金)→18日(水)に振替

お詫び

8月号29ページ地区カレンダー
8月28日(水)ガバナー公式訪問日程で登別RCが漏れておりました。深くお詫び申し上げます。



の見直しを!!

昨年、「ロータリーの友」に子供たちを甘やかしてはいけないと力説した一文があった。贅沢させてはいけない、車に乗せてはいけない、貧困に甘んじ歩かせろ、というような厳しい生活を子供たちに要求し、それが子供たちの将来に大きく役立つことを述べていた。

そう言えば昔の人はテレビもラジオも電話も冷蔵庫も何も無い時に育ったが、それは不幸せだったかということではない。物は無くとも昔の人はそれなりの生活に甘んじ、楽しい精神生活を味わったに違いない。ロータリアンの贅沢一杯の生活はいまのままでよいのか考えさせられるものであった。

理由あって旨いかの屋です

●営業時間／17:00～23:30(ラストオーダー23:00)
●年中無休

〒001-0856 札幌市北区屯田6条3丁目8-4
TEL:011-770-7778 FAX:011-770-7775
<http://www.gurupita.com/clients/0001094048/>

食改善で真の健康をお届けする

玄米のススメ
酵素のススメ

株式会社 **玄米酵素**

〒001-0012 札幌市北区北12条西1丁目1-7 第一酵素ビル
電話 (011) 736-2345 FAX (011) 736-2347
<http://www.genmaikoso.co.jp>

7月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率	
			02.7.1	02.7.31	増減	内女性		
1	深川	5	46	46	0	2	87.11	
	羽幌	4	47	45	-2	1	69.68	
	妹背牛	4	12	12	0	0	82.21	
	小平	4	15	17	2	1	77.94	
	留萌	5	69	70	1	0	82.06	
小計			189	190	1	4	79.80	
2	赤平	4	37	37	0	1	93.25	
	芦別	4	60	60	0	0	94.73	
	砂川	5	62	61	-1	0	94.83	
	滝川	4	108	112	4	2	83.00	
	小計			267	270	3	3	91.45
3	美唄	4	48	48	0	0	87.85	
	江別	4	50	50	0	2	93.36	
	江別西	5	41	42	1	3	88.04	
	岩見沢	4	97	100	3	0	96.92	
	岩見沢東	5	33	33	0	3	92.70	
	栗沢	5	35	35	0	2	86.76	
	栗山	5	34	35	1	2	92.22	
	当別	4	46	46	0	0	92.38	
	小計			384	389	5	12	91.28
	4	札幌	5	120	126	6	0	98.42
札幌あけぼの		4	19	19	0	1	100.00	
札幌はまなす		5	29	29	0	4	82.07	
札幌北		5	58	58	0	6	90.95	
札幌モーニング		5	61	63	2	0	82.68	
札幌西		5	75	78	3	2	92.10	
札幌西北		4	53	55	2	2	93.30	
札幌手稲		3	52	52	0	0	97.44	
小計				467	480	13	15	92.12
5		札幌東	4	123	125	2	0	99.56
	札幌清田	5	26	26	0	5	91.63	
	札幌幌南	4	88	88	0	0	100.00	
	札幌真駒内	4	50	50	0	2	97.34	
	札幌南	5	97	97	0	0	98.86	
	新札幌	5	42	43	1	2	97.61	
	札幌大通公園	5	17	17	0	4	86.25	
小計			443	446	3	13	95.89	
6	岩内	4	37	37	0	0	70.40	
	倶知安	5	54	54	0	4	81.60	
	小樽	5	96	95	-1	0	91.17	
	小樽南	4	86	87	1	0	92.31	
	小樽銭函	4	20	20	0	2	68.75	
	蘭越	5	18	18	0	0	72.50	
	余市	5	49	49	0	4	85.78	
小計			360	360	0	10	80.36	

クラブ数 71クラブ
 期首会員数 3,462人
 当月末会員数(女性) 3,497人(92人)
 増加会員数 35人
 当月平均出席率 85.30%

グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率	
			02.7.1	02.7.31	増減	内女性		
7	千歳	4	74	74	0	2	90.20	
	千歳セントラル	5	33	35	2	0	85.10	
	恵庭	5	50	50	0	0	85.28	
	北広島	5	16	16	0	2	84.00	
	長沼	4	18	18	0	4	88.80	
	由仁	4	18	18	0	1	90.50	
	小計			209	211	2	9	87.31
8	えりも	4	27	27	0	0	82.41	
	三石	5	20	20	0	1	94.89	
	様似	5	24	24	0	2	80.10	
	静内	5	68	68	0	0	88.31	
	浦河	5	44	42	-2	1	82.27	
	小計			183	181	-2	4	85.60
	9	伊達	5	53	56	3	0	79.84
室蘭		4	66	66	0	0	82.03	
室蘭東		5	55	56	1	1	91.77	
室蘭北		5	52	52	0	2	85.38	
登別		5	40	40	0	2	85.00	
洞爺湖		4	14	12	-2	0	77.10	
小計				280	282	2	5	83.52
10	函館	4	101	103	2	0	80.52	
	函館亀田	5	51	51	0	1	79.60	
	森	5	51	51	0	0	68.00	
	七飯	5	33	33	0	0	79.90	
	長万部	5	11	11	0	0	67.20	
	小計			247	249	2	1	75.04
	11	江差	5	20	20	0	0	66.00
函館五稜郭		4	71	73	2	0	86.51	
函館東		5	67	68	1	7	83.01	
函館北		5	46	49	3	0	80.87	
上磯		4	34	34	0	2	76.40	
松前		4	8	8	0	1	63.00	
小計				246	252	6	10	75.97
12	白老	5	34	34	0	1	80.00	
	苫小牧	4	68	68	0	0	89.53	
	苫小牧東	4	33	33	0	3	81.05	
	苫小牧北	5	52	52	0	2	90.59	
	小計			187	187	0	6	85.29
	合計			3,462	3,497	35	92	85.30

表紙顔写真(第2510地区クラブ幹事)紹介(敬称略) ○数字はグループ番号

深川 寺岡義人	羽幌 西川弘二	妹背牛 斎藤 忠	小平 川森康次郎	留萌 鈴木康伸	赤平 渡部芳己	芦別 荒川忠義	砂川 山崎義彦	滝川 松原 章
美唄 藤井 明	江別 菊田政徳	江別西 高田寛司	岩見沢 荒木敏博	岩見沢東 渡辺 劼	栗沢 高野正光	栗山 久住八郎	当別 佐藤順一	札幌 櫻井政経
札幌あけぼの 北口一靖	札幌はまなす 丹羽 肇	札幌北 前田一人	札幌モーニング 児玉芳明	札幌西 大越克己	札幌西北 大島利一	札幌手稲 中村和雄	札幌東 菊地 章	札幌清田 江口 洸
札幌幌南 前田恒雄	札幌真駒内 泉 仁史	札幌南 西川哲也	新札幌 保木茂実	札幌大通公園 長谷川美栄子	岩内 武井 優	倶知安 柳引英雄	小樽 谷内馨一	小樽南 加藤正幸
小樽銭函 安斉 博	蘭越 堀川強太郎	余市 高橋哲雄	千歳 福田武男	千歳セントラル 井上英幸	恵庭 村本満男	北広島 竹内 実	長沼 森下 伸	由仁 大坂直人
えりも 喜多 昌	三石 富永 信	様似 田中正之	静内 石垣勝英	浦河 大針道生	伊達 新井田孝	室蘭 三国雅捷	室蘭東 奇木清二	室蘭北 泉波孝幸
登別 中村 雅	洞爺湖 皆川一男	函館 藤井方雄	函館亀田 沖田 豊	森 福地隆祐	七飯 柴田晴史	長万部 角 健	江差 田畑祐士	函館五稜郭 阿彦 治
函館東 佐藤雄喜	函館北 増田定雄	上磯 竹原力也	松前 佐々木伸一	白老 石田信雄	苫小牧 阿部喜朗	苫小牧東 小笠原正男	苫小牧北 荒井捷一	

ロータリーの魅力づくり

アメリカの高校生はディベート(討論)をスポーツのように楽しむ。一つの問題をめぐって、違った立場に立って徹底して討論する。だが、どんなに激しいディベートをしても投票などで結論が出たらあとは和やかである。

日本人はもうすこし議論することに慣れていく必要はないだろうか。すぐに感情的に喧嘩になることが多いのだが、少なくとも議論(話し合いといったほうがいい)は悪ではない。問題のスマートな解決にも、また新たな発想の展開にも、議論はむしろ大いに歓迎すべきものである。

最近の日本は物質は豊かになったが、心の健康を蝕み精神的支柱の欠落によって起こる事件が余りにも多くなった。続発する政治家や警察官の不祥事にしても、言い訳とか噂のうえにさらに嘘をくり返している。真実を見失いフェアな心を忘れていく。

「倫理」とは簡単に言えば要は自らの良心に忠実に生き「恥ずかしい」という気持ちを大切にすることである。また相手に素直に「ありがとう」とか「ごめんなさい」という言葉が声で出てくればよいのだと思う。



咲かそう、
慈愛の花。

**ROTARY
INTERNATIONAL
DISTRICT
2510**

2002～2003年度

地区大会

11月16日^{SAT}・17日^{SUN}

場所／北海道厚生年金会館
記念懇親会／ロイトン札幌

- 記念ゴルフ大会／10月6日(日)
国際カントリークラブ 島松コース
- 記念囲碁大会／11月10日(日)
札幌アスティ45

ホストクラブ札幌北ロータリークラブ

今年度の地区大会の日程が決定。

年に一度、

地区内ロータリアン3,600人が集います。

あなたの11月16日・17日は

実りある2日間となります。



慈愛の種を播きましょう

8月より登録開始!

■登録料

- 会員 —— 13,000円
- 家族 —— 10,000円
- 新世代 —— 5,000円
- RI会長代理
歓迎夕食会 — 10,000円
- ゴルフ —— 5,000円
- 囲碁 —— 4,000円

■大会プログラム(予定)

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 大会1日目 11月16日(土)
(北海道厚生年金会館) | 大会2日目 11月17日(日)
(北海道厚生年金会館) |
| ●11:30 登録開始 | ●8:00 登録開始 |
| ●12:30 会長・幹事会 | ●9:00 大会開始 |
| ●13:40 本会議開始 | ●11:00 記念講演会
(講師:アグネス・チャン) |
| ●14:15 各委員会活動報告 | <ロイトン札幌> |
| ●16:15 記念フォーラム | ●13:00 記念懇親会
(15:00 終了予定) |
| ●19:00 RI会長代理ご夫妻
歓迎晩餐会 | |

親睦野球大会のご案内

今年度の親睦野球大会が下記の要領で行われます。

開催日:2002年9月14日(土) 小雨決行

場 所:伊達市営球場(開会式場)、北電長和球場

登録開始:7時20分

選手入場:7時50分

開会式:8時00分

試合開始:8時30分(市営球場) 8時45分(北電球場)

懇親会(例会):15時～ ホテル・ロイヤル (0142-23-4888)

計 報

早坂 勝美会員

(室蘭RC)
2002年7月13日ご逝去
(享年70歳)



《ロータリー歴》

昭和48年入会
1982～83年 幹事
1985～86年・1994～95年

職業分類委員長
1987～88年 職業奉仕委員長
1989～90年 会員増強委員長
1997～98年 会報委員長
2000～01年 会長(第55代)

ポールハリスフェロー
米山功労者

計 報

宮下総一郎会員

(恵庭RC)
2002年8月12日ご逝去
(享年82歳)



《ロータリー歴》

昭和45年3月24日入会
チャーターメンバー

1977～78年 会長
1992年4月 長沼RC特別代表

ポール・ハリス・フェロー
マルチ・ポール・ハリス・フェロー

**国際ロータリー第2510地区
2002-2003年度 ガバナー月信**

発行人 2002-2003年度ガバナー 小林 博

発行元 国際ロータリー第2510地区
2002-2003年度ガバナー事務所

発行日 毎月1日発行 年12回

編集委員 ◎竹原 巖 (地区幹事) 委員長
大田すみ子 (地区幹事)
熊谷 満 (地区幹事)
脇田 稔 (地区幹事)
米山道男 (アドバイザー)
松本 新 (アドバイザー)

事務局 札幌市中央区大通西6丁目

北海道医師会館6F

TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526

E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp

9・10月地区カレンダー

9月 新世代のための月間			10月 職業奉仕／米山月間		
日	曜日	行 事	日	曜日	行 事
1	日		1	火	
2	月	札幌北RC公式訪問 (12:30)	2	水	職業奉仕委員会 札幌市北9条小課外授業
3	火	小樽・小樽南・小樽銭函RC公式訪問 (12:30)	3	木	
4	水	札幌はまなす・札幌モーニングRC公式訪問 (7:30)	4	金	
5	木	江別・江別西・当別RC公式訪問 (12:30、江別)	5	土	第2500地区 地区大会 (釧路市民文化会館)
6	金	ガバナー・エレクト事務所開き (14:00~17:00、千歳)	6	日	地区大会記念ゴルフ大会 (国際カントリー島松コース、6:30)
7	土	余市・岩内・倶知安・蘭越RC公式訪問 (12:30、余市)・ 青少年交換キャンプ (ニセコ) Jr.クラス:ライラセミナー (札幌市NTTセミナーセンター14:00~)	7	月	
8	日	ライラセミナー・由仁RC10周年記念式典 (15:30) 文化交流館	8	火	
9	月		9	水	
10	火	札幌西・札幌あけほの・札幌西北・札幌手稲RC公式訪問 (12:30)	10	木	職業奉仕ロータリー市民講座 (札幌市中央区民センター、14:00~16:00)
11	水		11	金	札幌幌南・札幌清田・札幌真駒内・札幌大通公園RC会長幹事懇談会
12	木	千歳・千歳セントラルRC公式訪問 (12:30)	12	土	第3グループ研修会 (美唄)
13	金	羽幌・小平・留萌RC公式訪問 (18:00、羽幌)	13	日	GSE派遣メンバー選考委 (13:15)
14	土	第3グループIM (道民の森研修センター及び野外 12:00) 親睦野球大会 (伊達市宮球場・北電長和球場 7:20) 家庭奉仕委ワークショップ (17:00、和田事務所)	14	月	
15	日		15	火	
16	月	札幌はまなすRC10周年記念式典 (15:30、サンブラザ)	16	水	第3830地区GSEチーム来札
17	火		17	木	滝川・砂川RC公式訪問 (18:30、滝川)
18	水	職業奉仕委員会 札幌市北9条小課外授業	18	金	札幌幌南・札幌清田・札幌真駒内・札幌大通公園RC公式訪問 (12:30)
19	木		19	土	札幌清田RC5周年記念式典 (16:00)、ルネサンス
20	金		20	日	
21	土	岩見沢・岩見沢東・美唄RC公式訪問 (18:30、岩見沢)	21	月	札幌南RC公式訪問 (12:30)
22	日	シニアクラス:ライラセミナー (札幌市JR研修センター)、GETS (東京)	22	火	
23	月	シニアクラス:ライラセミナー	23	水	恵庭・北広島・長沼RC公式訪問 (18:30)
24	火		24	木	家庭奉仕委ワークショップ (18:00)
25	水	職業奉仕委員会 札幌市北9条小課外授業	25	金	
26	木		26	土	
27	金		27	日	
28	土		28	月	
29	日		29	火	
30	月		30	水	
			31	木	札幌東・新札幌RC公式訪問 (12:30)



ハリストス教会

HAKODATE City



函館の花、蝦夷山ツツジ

ペリーの来港記念銅像



ガバナー月信 10月号 October

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR **小林 博 KOBAYASHI HIROSHI**
 〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
 Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp

喜びとともに 新入会員紹介



小林 博

職業奉仕月間によせて — 職業奉仕を考えよう

自分の職業を通しての、奉仕活動について考えてみよう。

10月は職業奉仕月間である。職業奉仕は四大奉仕の一つであり、ロータリー活動の最も基軸ともなる奉仕活動である。ところが職業奉仕についての理解はロータリアンの間に必ずしも統一的なものではなかったようである。

その理由の一つは、職業奉仕を物質的なものとするか、或いは精神的なものとするかの葛藤が根底にあったからである。職業奉仕は自分の職業上のメリットを得たいという個人的、物質的な意図から始まり、その後これに職業上の道德、倫理に重きを置く考え方から、さらに精神的な奉仕へと広く発展してきて現在に及んでいる。そのいずれに力点を置くべきかをめぐっての戸惑いや混乱が現在もおお続いているように思われる。

統一的理解を欠くもう一つの理由は、職業奉仕は職場内の奉仕なのか職場外の奉仕なのかという問題である。本来の職業奉仕はロータリアンの職業、職場について言っていたことだが、次第に範囲を広げて職業を通しての社会に対する奉仕をも対象にするようになって今日に至っている。

このように100年の長い経緯の中で、その解釈に紆余曲折と試行錯誤を繰り返してきたが、1987年になってRI理事会が「職業奉仕に関する声明」を出し、次いで1989年の理事会は「職業宣言」として次のようなものを掲げた。

〈職業宣言〉

事業または専門職務に携わるロータリアンとして、私は以下の要請に応えんとするものである。

- 1) 職業は奉仕の一つの機会なりと心に銘せよ。
- 2) 職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道德的基準に対し、名実ともに忠実であれ。
- 3) 職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理的基準を推進すべく全力を尽くせ。
- 4) 雇主、従業員、同僚、同業者、顧客、公衆、その他の専門職務上関係をもつすべての人々に対し、ひとしく公正なるべし。
- 5) 社会に有用なすべての業務に対し、当然それに伴う名誉と敬意を表すべきことを知れ。
- 6) 自己の職業上の手腕を捧げて、青少年に機会を開き、他人からの、格別の要請にも応え、地域社会の生活の質を高めよ。
- 7) 広告に際し、また自己の事業または専門職務に関して、これを世に問うに当っては、正直専一なるべし。

事業または専門職務上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同僚ロータリアンに求めず、また与うることなかれ。

(1989年RI理事会)

以上の宣言から言えることは、奉仕の心とその実践があつてこそ事業の安定と発展があり適正な利潤も得られる。そして、適正な利潤が得られればこそ十分な奉仕が出来る、という前提に立って、職業奉仕は精神的にも物質的にも最高のプロフィット (profit) が得られるということである。つまり職業奉仕は物質と精神の二者択一ではなく、両方のプロフィットを求めていると考えるべきであろう。また職業奉仕は自らの職業を介する限り、その対象が職業の内外に捉われるものではないことも指摘している。

幸いビチャイ・ラタクルRI会長は今年度の重点目標の中に、「職業奉仕を見直そう」と提言し、これを何度となく強調されている。職業奉仕はRIでいままで余り強調されてこなかったが、重大な活動の一つであることは間違いない。ビチャイ会長の確固たる信念に賛同し、今改めてロータリアンとしての職業奉仕がいかに大切か、またそれがいかにあるべきかを考え、そして実践しなければならぬときにあると思う。2510地区会員の皆様のご理解と実践・行動をお願い致したい。

目次

ガバナーレター	小林 博	2	会・ライラ委員会・インターアクト委員会・社会奉仕委員会・
職業奉仕月間にちなんで	富岡公治	3	職業奉仕委員会・友情交換委員会
米山月間にちなんで	戸井敏夫	4	クラブ活動紹介
水面下の米山学友委員会活動について	見延庄三郎	4	千歳RC・札幌北ローターアクトクラブ・栗山RC・札幌モー
ロータリーの歴史に学ぶ(2)	西條正博	5	ニングRC・苫小牧東RC・江別RC・栗沢RC
2003-2004年度ガバナー・エレクト事務所開設のお知らせ		5	会員の声
今こそ職業奉仕を!	塚原房樹	6	吉本 勲(深川RC)・大竹繁夫(美唄RC)・高橋 宏(札幌
GSEチームメンバー略歴		7	清田RC)・野澤幸平(岩内RC)
ロータリーQ&A		8	事務所だより
文庫通信		8	揭示板
ガバナー日記		9	8月会員増減数・出席率報告
ガバナーとの対話		11	訃報
地区活動紹介		14	地区大会案内
ローターアクト委員会・家庭奉仕委員会・青少年交換委員			10・11月地区カレンダー
			27
			27



職業奉仕月間に ちなんで

職業奉仕委員会
委員長 富岡公治

1 職業奉仕 (Vocational Service) とは何か

職業奉仕という奉仕ジャンルがあるのはロータリーだけで、他の奉仕クラブ、例えばライオンズ、青年会議所にもキワニスにもありません。

従って、職業奉仕はロータリーを特徴付けるものであり、ロータリーの金看板ともいえます。職業奉仕はロータリーにとって大切な根幹をなすものでありロータリーアンのもの、十分な関心を持たねばならぬ分野ともいえます。

2 ロータリーにおける職業奉仕

一言でいえば職業奉仕とは、ロータリアン以外の人たちに“ロータリーの心”を分かちつことであると言われていました。

つまり自らの職業を通じて地域社会の人々や世界の人々との間に善意と友情溢れた関係を創ろうと言うのがロータリーの職業奉仕と解釈されています。

次にロータリーは実践運動であることを銘記すべきです。

ロータリーの哲学は単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に移さねばならないと提唱されています。

1905年のロータリーの草創期に当たってポール・ハリスを始めとするロータリアンたちは、一体何をしようとしたのでしょうか。

彼らもまた社会の中で生活をしなければならぬのであるから、まずその激しい商業上の競争に生きぬかなければならなかったのです。

3 VocationとServiceという言葉

Vocation (職業) という言葉は社会人の「定職、家業、事業、専門職務、あるいは業務」を指しております。

ロータリーは、職業奉仕という言葉を使用するに当たって、Service (奉仕) という文字をその一番広い意味で使っており、単に事業あるいは専門職務における取引行為や販売された商品を目指すのみでなく、仕事上の相手方のニーズと境遇に対して考慮を払い、他人に対しいつも思いやりの心を持つことも指しております。

4 職業奉仕についてのポールハリスの言葉

「ロータリーは決して宗教でもなければその代用物でもない。それは古くから存在する一道德観念の現代生活における、ことに実業職業生活における実践に他ならないのである」これはポールP.ハリスが『ロータリーの理想と友愛』の一節であります。

ハリスは、散ずるに困るほどの金銭の獲得には賛意を示しませんが、利得については否定していません。

しかし、利得に走ると社会で果たすべき義務がおろそかになることに注意を促しています。

初期のロータリーは相互扶助という会員同士の知己の追求であったことは否定できません。が、時をおくことなく、相互扶助の制度に反省がおこります。ハリスは「相互扶助の観念は一般的奉仕の観念に世を譲った」と表現しています。この相互扶助の制度にロータリーの奉仕の原点、なかならず、職業奉仕の原点があると考えられています。

ハリスをはじめとするロータリーの初期の指導者は「奉仕第一、自己第二 (Service Above Self)」を掲げ、心が物欲から

離れることの大切さを訴え、報酬はもとより付随物であることを認識すべきとしています。

5 フランク・コリンズの標語 (Service Not Self) →1921年にService Above Selfに改正された

1911年ポートランドで開催された第2回全米ロータリークラブ連合会の席上ミネアポリスクラブのコリンズの提唱した標語です。

ただし、Service Not Selfは自己を滅却した奉仕を意味するものと受け取られ、自己否定につながるという反論が強くなりました。

モットーとして採用されて半年後には、自己の存在を認めた上で、他人への奉仕を求めるという意味の修正が加えられた、Service Above Selfが広く使われ始め、1921年コリンズの死後Service Not Selfが正式に廃止されて、Service Above Selfに変更されました。

Service Above Selfは【超私の奉仕】【自己研鑽の奉仕】【奉仕第一、自己第二】などと訳されていますが、Aboveは単に上を表す前置詞としてではなく、SelfとServiceを対等に結び付ける接続詞と考える方が理解しやすいと思います。

6 シェルドンの標語 (He profits most who serves best)

フランク・コリンズの宗教的で自己犠牲の奉仕—Service Not Selfの思想を支持したアーサーF.シェルドンが「ロータリーの哲学の中で一職業の存在の本来の理由は、人類社会に奉仕することである」と述べているごとく、高い倫理的規範と道徳的規範に忠実に裏打ちされる職業観こそが、職業奉仕であると思います。

自己の利益を得ようとする欲望と、一方では他人に尽くさねばならないという義務感この二つの争いを調和させることが必要です。

このシェルドンのHe profits most who serves bestという標語はロータリーのモットーとして使用され、後に最も有名なロータリーの公式標語となり今日に至っています。

7 ロータリーの公式標語「He profits most who serves best」 「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」の最近の動向

①2001年6月米国イリノイ州エバンストンで開催されたRI理事会は、右公式標語の使用を停止しました (ロータリーの友平成13年9月号掲載)。

②2001年11月に米国イリノイ州エバンストンのRI理事会は、ロータリーの標語「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」が世界の数地域のロータリーにとり根源的な存在であることを認識し、理事会はこの標語の使用の停止を決議した2001年6月の会合における決定を撤回いたしました (『ロータリーの友』平成14年2月号掲載)。

従って、このロータリーの公式用語は今も通用性と重要性をもってあります。

8 職業奉仕月間

RI理事会は、一人ひとりのロータリアンだけでなく、クラブも、職業奉仕の理想を日常実践するように強調するために、毎年10月に特に職業奉仕に焦点をしばったプログラムを行う「職業奉仕月間」と決めました。

職業奉仕は、クラブ会員ばかりではなく各クラブの両方の責務です。(手続要覧職業奉仕月間の一節)

今月は地区内ロータリアンの皆様ロータリーの根幹である職業奉仕に思いを至していただけるようお願い致します。

米山月間にちなんで……米山奨学制度

米山記念奨学委員会
委員長

戸井 敏夫



ロータリー米山奨学制度は、1952年に東京ロータリークラブが創設者・米山梅吉氏の功績を記念して設定したもので、1967年に財団法人として認可されて以来、これまでに94カ国、10,854名の奨学生の支援をしてきた民間では最大の留学生奨学団体です。

2002年度では、40カ国1,000名の奨学生に奨学金を支給しており、国別には、中国が459名、次いで韓国218名、台湾106名、ベトナム28名、マレーシア26名、インドネシア24名、タイ22名、その他の国117名となっておりますが、全体の96%以上がアジア圏からの留学生です。2510地区の2002年度の米山奨学生は、10カ国22名ですが、大学別には、北大13名、室蘭工大2名、札幌医科大、小樽商大、道教育大、北海学園大、北星学園大、札幌大、道工大が

各1名です。

米山奨学会の財政は、ロータリアンの寄付によって成り立っています。

しかし、会員数の減少や厳しい経済環境により、96年度をピークに寄付金は減少を続け、99年度からは、寄付金だけで奨学金、補助費をまかなうことができず、過年度の特別積立金取り崩しを行って不足額に充当しております。2001年度から年の奨学生採用枠を100名減らし、1,000名としました。

10月は米山理解月間です。日本のロータリー固有の事業であり、国際理解と親善の促進に寄与する米山奨学制度に、地区内ロータリアン皆様の一層のご協力をお願いいたします。

水面下の米山学友委員会活動について

米山学友委員会
委員長

見延庄三郎



米山学友委員会は奨学期間を終えた米山学友（OB）をロータリークラブの立場から支援する目的で今年新設された委員会です。

北海道の米山学友会は1998年12月に当時の伊藤長英ガバナー、白石米山奨学会理事、堀井米山奨学委員長各位の努力で、正会員（道内在住米山学友）23名、賛助会員（当地区米山関係役員他ロータリアン）29名計52名で設立総会を開催し、2年位はいろいろと活動したのですが、その後学友会役員や会員の移転等で此の2年程は休眠状態になっていました。

其処で当委員会は（財）米山記念奨学会（本部）から学友会（北海道）の名簿66名分を入手し、内容に変化がないか、又意見提言等を頂くべく現在照会確認作業をしているのですが、残念ながら回答率が低く（現在40%）

苦戦しています。今後の活動計画は、

- ①9月26日 米山学友関係者合同会議を開催、今後の方針決定親睦を深める。
- ②9月のライラセミナーのプログラムに学友2人が発題者として登場する他8名程度参加。
- ③11月には第3回米山学友会の復活総会を開催する他、地区大会では米山地区幹事のご指導も頂いて財団学友とのシンポジウム等何らかの形で積極参加する。
- ④その他学友と現役奨学生とロータリアンによる家族会等ワイドな交流も計画中。

小林ガバナーのおっしゃるように「学友会に愛の心で、愛の種を播く」ことを心掛けようと考えています。ロータリアン各位のご理解とご協力をお願い致します。

以上

精神的なストレスとがんとの関係を動物実験でみることは可能である。ネズミの飼育条件をいろいろ変えてみる。例えばケージ（飼育箱）の中に、通常ハツカネズミを8匹入れるのだが、この小さな箱にオスだけを20匹ほど入れておくと狭い環境のもとで喧嘩となり次第にストレスがたまっていく。次にこの中にメスを1匹入れてやると、今度はメスの奪い合いによるもっと大きな喧嘩となる。このような状態ではがんの発生を見ると、喧嘩ストレスによって明らかにがんは促進される。

次のような実験もある。1つのケージに乳ばなれしたあと終生1匹だけ隔離して生活させたらどうなるか。1匹だけの孤独の淋しさがストレスになってくるのか結果的に早死にした。ところがオス1匹とメス1匹を一緒に入れておくと喧嘩もなく仲よく長生きした。不謹慎な話かもしれないが、オス1匹とメス2匹を一緒にしておくと、もっと長生きしたという。もちろん人間ではなくネズミの話である。



連絡先：（財）札幌がんセミナー

札幌市中央区大通西6丁目6 北海道医師会館6階

TEL：011-222-1506/FAX：011-222-1526/E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp/URL:http://www.phoenix-c.or.jp/scs-hk/

広告

ロータリーの歴史に学ぶ(2)

.....地区研修リーダー 西條正博 (札幌RC PG)

ロータリー史上、ロータリーが誕生した1905年以降、国際ロータリークラブ連合会が国際ロータリーと改称された1922年までの17年間、或いは、もう一年後の34号決議が採択された1923年までの18年間を、特に「初期ロータリー」と称しておりますが、思想的になかなか波乱に富んでおり、今日に到るロータリー哲学の形成期でありました。

シカゴ・ロータリークラブの定款・細則が定められたのは1906年のことでしたが、綱領として

- 第1条 会員の業務上の利益を振興すること。
- 第2条 性質として社交クラブに伴なう親睦その他望ましい諸点を振興すること。

の2カ条が定められました。

この年、第2代会長のアル・ホワイトが、その友人である弁理士のドナルド・カーターに入会をすすめたところ、綱領第1条の相互扶助の説明をきいて、カーターは、「この種の活動はクラブ内部の利益交換にすぎないのであって、対社会的な意義が欠けているから、これだけに終始するクラブには将来性がないし、また意義を認められない」といって即座に入会を断りました。

アル・ホワイトから報告をきいて、ポール・ハリスは直ちに定款改正を提案し、綱領に第3条がつけ加えられました。

- 第3条 シカゴ市の利益を推進し、その市民の中に市に対する誇りと忠誠の精神を普及すること。

このようにして、ロータリーに「奉仕」という概念が芽生えることになりました。

1911年、オレゴン州ポートランドで開催された国際大会において、経営学者であったアーサー・フレデリック・シェルドンの演説の朗読が行われ、“He Profits most who service best”という言葉が流れるや、代議員たちは感極まったのでした。

1916年のロータリー通解の発行によって職業奉仕の理念が確立し、身体障害児援助活動に代表される社会奉仕活動は、個人奉仕か団体奉仕か、精神的援助か金銭的援助か、RI主導かクラブ主導かの議論を経て、決議23-34によってその論争に終止符がうたれました。

さらに1914年にはじまった第一次世界大戦が1918年11月に終結し、国際奉仕は、1921年エンジンバラ国際大会において、国際理解と親善と世界平和という究極の目的が確定しました。

このようにして、一般奉仕概念はもちろんのこと、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の理論構築がほぼ完成しましたが、奉仕活動の実践が強く叫ばれるようになるにつれ、ロータリーの実践活動に対応した組織作りがどうしても必要になってきました。

そこで、RIBIの幹事であり、かつてロータリアン・マガジンの編集者をしてきたロンドン・ロータリー・クラブの会員、ヴィヴィアン・カーターによって、1927年ベルギーのオステンド国際大会において、ロータリーの教育を四つのカテゴリーに分け、ロータリー・クラブの委員会を四つにグループ分けする案が提出され正式に採択されました。

これによって、ロータリーの奉仕活動実践の実体と、クラブ管理運営の実体とが一致して合理的になったのであります。

英国で使用された基本文書は、後日ヴィヴィアン・カーターの手によって、「ロータリー解説書」という表題で出版されました。

—おわり—
(邦訳は少なくとも二種類ありますが、いずれも非売品で入手できません。閲覧ご希望の方は東京の「ロータリー文庫」にコピーを請求(実費負担)されるとよいでしょう。)

国際ロータリー第2510地区 2003-2004年度 ガバナー・エレクト事務所開設 のお知らせ

この度RI第2510地区ガバナー・エレクト事務所を右記の通り開設いたしました。

何卒ご指導ご協力賜りますようお願い申し上げます。

記

事務所

〒066-0064

北海道千歳市清水町4丁目8番地1
シェルヴィルビル2階(旧谷本ビル)

TEL 0123-42-2000

FAX 0123-42-2009

E-mail: d2510g@poppy.ocn.ne.jp

執務時間 09:00~17:30

(土・日・祝祭日は休ませて頂きます。)

なお、左記電話は9月末日まではエレクトに直接転送され、10月1日より通常執務となります。

また2003年7月1日よりガバナー事務所となります。

ガバナー・エレクト 佐藤秀雄
事務局 佐藤睦子

ロータリーと資本主義

ポール・ハリスが親しい友人3人と語りあって、何か社会のためになるような仕事の出来る集まりを始めようとしたのが、ロータリーの誕生となりましたが、ちょうどそれがアメリカ初期資本主義の最盛期、1905年であったことに興味があります。独占資本主義の無節操な競争により、ロータリーの生まれた頃のシカゴの街は、貧富の差の拡大によりスラム街が到るところに現れ、伝染病と犯罪の温床と化し、最も悪名高い都市でした。米山梅吉氏の三男の米山桂三氏はロータリーの誕生を次のように語っています。『ロータリー運動というものは社会経済史的に見て、資本主義の発達という歴史的必然と、資本主義の欠陥を救おうとする人物の出現という歴史的偶然との交錯したところで生まれた運動である』。シカゴ市で生まれたロータリーは、シカゴの資本主義の諸々の欠陥を救うために誕生したのでした。

職業奉仕のルーツ

職業奉仕という言葉は日本語の辞書にはありません。Vocational Serviceの邦訳で、職業は神から与えられたもの、つまり「天職であるから職業を営むには神の御心を以てしなければならぬ、神の最も喜び給う奉仕は隣人愛の実践である。したがって職業は人々を幸せにするためにある」。この職業観はピューリタンの訓えです。ポール・ハリスの家系は厳格な清教徒でした。そこでこのピューリタンの職業観がロータリーの職業奉仕として導入されました。つまり職業奉仕とは自己の発展を願うが、その前に正直、勤勉を前提として犠牲、献身、友愛を根底においた人道的な商売をしようと言うことでした。すなわち「職業奉仕とは、職業倫理的提唱運動」なのです。ロータリーが誕生した20世紀初頭は資本主義のルール無き競争が熾烈で、「相手をだますのは当然。だます人よりだまされる人が悪いのだ」ということが当然の常識でした。初期のロータリアンは、商業道徳の高揚運動に努め資本主義の暴走に手綱を掛けました。職業奉仕はロータリアンにベネフィットを与えたばかりでなく当時のシカゴの市民たちにも大きなベネフィットを与えました。現在、情報革命を経て資本主義は自らの資本の論理により巨大化し暴走しています。ロータリー創立100周年を目前にしている今また、職業倫理の高揚という同じ言葉を繰り返さねばならないのは皮肉です。

ロータリー財団の誕生とボランティア運動

かつて、ロータリーを興隆に導き、ロータリーの金看板といわれた職業奉仕という言葉は現在「死語」となりました。ポール・ハリス没後、職業奉仕が主流を外れ、代わりにもともとRIの一機構であったロータリー財団がRIの主役となりました。財団無くしてロータリー無し、RIは庇を貸して母屋を取られ財団の集金係となりました。もともとRIは各クラブの連絡調整機関であり、奉仕理念を提唱するが自ら奉仕事業を推進する団体ではありませんでした。しかしいまや財団が事業主となり、飢餓追放、貧困対策、災害救助、識字率の向上等々国連、ユニセフのお手伝いを始めました。最近のRI会長はロータリーを世界最大のNPOと位置づけ、ロータリーはボランティア団体にシフトしました。世界中のポリオを撲滅する、地球上に飢餓と貧困をなくすという壮大な企画には感動します。人類愛に基づくボランティア活動に参加することに異議はありません。しかし奉仕の心を学ぶ場であるロータリーがボランティアという利他的な金銭奉仕にのみ心が奪われると、ロータリー運動の原点である「奉仕の心の育成」が上辺だけのものとなり虚飾性が一段と強くなります。財団への寄付はロータリアンの務めですが、それが目的となれば、寄付活動に参加する前後の心の空洞化は回避できません。ロータリー運動の実情は単なる偽善的かつ断片的奉仕活動たらざるを得ません。今後、価値観の多様さによりますますロータリーは変貌して行くでしょう。生涯学習の場としてではなくロータリーを単なるボランティア団体と割り切る若い人が増えています。ボランティアを目指す団体は無数にありますが、この多様化の時代にロータリーという名のクラブに何を期待し何を求めるのでしょうか。

奉仕観の転回

RI会長は毎年、途上国の人口爆発、飢餓、貧困、ストリートチルドレン、地球環境について関心を寄せるよう呼びかけます。しかし経済先進国の倫理については何も触れません。途上国の食料、エネルギー、環境破壊問題は資本主義先進国の収奪・浪費によるものなのです。それを不問に付して救済・援助という金銭的寄付を求めるのは本末転倒ではないでしょうか。先進国の大量生産、大量消費、大量廃棄、環境破壊という社会構造を根底から作り直さなければロータリー財団のボランティア活動も先進国の免罪符に過ぎないでしょう。金銭援助に頼る「事後救済」も緊急避難として必要ですが、先見性を持った「事前予防」こそが本来のロータリーの奉仕活動の基本でした。勿論これらの問題は、ロータリアンばかりでなく国民全体の意識の問題です。しかしその意識革命の先導役として企業経営者や専門職業人の役割には大きいものがあります。先進国は資本主義経済下の企業社会です。ロータリークラブは、有益な事業又は専門職務の持ち主から構成されています。「一灯照隅 万灯照国」の言葉のように、まず足元から、それぞれのクラブの企業経営者の職業奉仕の実践により経済倫理の高揚運動が地域社会の意識を改良し、やがてそれが集まり国全体の意識が形成されることが期待されます。また一方経済先進国であるアメリカにおいても、企業倫理が欠如し、経済が危機的状況に陥っています。ブッシュ大統領はエンロンを始めワールドドットコムや大企業の相次ぐ不祥事（企業会計不正）に対して、『資本主義は経営者の良心なくしては成り立たない。倫理観無くして資本主義は無い』と厳しく糾弾しました。まさに今こそロータリーの職業奉仕を再構築する時なのです。企業倫理の提唱運動であるロータリーの職業奉仕と資本主義は車の両輪なのです。そしてまたロータリーの職業奉仕はピューリタンの職業天職論に由来しますが、資本主義の発生もまた源をたどるとピューリタンの宗教的経済活動に端を発します。

ロータリアンにふさわしい職業奉仕

ロータリーの奉仕には、クラブ、職業、社会、国際の4大奉仕部門があります。いずれもロータリーの善意を分かち、平和な世界を願う大事な奉仕部門です。しかし4大奉仕部門は並列ではなく歴史的に順序があります。ロータリーを樹に例えると、『クラブ奉仕（親睦）の根があって職業奉仕の幹が生え、社会奉仕の枝が出て国際奉仕の花が咲く』といわれます。まず、最初に親睦があって会員相互の奉仕のエネルギーを醸成します。次いで、ロータリアンは皆良き職業人ですから自らの職業を通じて社会に奉仕することは必然かつ当然で自然のことです。職業を通じて奉仕するということは、世のため人のためばかりでなく自己の企業も潤します。最初に自己の職業が栄えてこそ社会奉仕、国際奉仕、財団への奉仕が可能となります。グローバル化の今、産業構造は大きく変わり日本は大不況に見舞われています。資本主義がいかに巨大化し、猛威を振るおうともロータリーの奉仕の基本はやはり職業奉仕にあります。混沌とした海図なき時代に舵をとらねばならぬ企業経営者の孤獨な決断、正しい方向に進路をとり、足並みそろえてことに当たらなければ船は難破しかねません。トップの決断は会社の命運を担います。企業経営者の拠る所は『顧客第一の姿勢を貫き通すこと』つまり職業奉仕（He profits most who serves best）に徹することです。顧客の信頼を裏切れば手痛いダメージを受け存亡は危うくなります。牛肉の詰め替えなどはもっての外です。顧客を忘れ企業倫理を無視し、どれだけ善意の人が犠牲となったでしょうか。21世紀にロータリーが生き延びる道は、社会に大きく貢献すると共に自己の企業をも繁栄させる職業奉仕を今一度見直し、実践することでしょう。

参考文献

不易流行（佐藤千寿） 三つの山脈（津田進） ロータリークラブ（小堀憲助）

フィリピンのRI3830地区派遣 RI2510地区受入れ GSEチームメンバー 略歴

チームリーダー



氏名	EDWIN O. AFZELIUS, JR.
所属RC	ラス・ピナスRC
勤務先	ソルケム・フィリピン株式会社 社長 (有害溶液と有害廃棄物の処理と再生を 図る会社)
家族	妻と女の子2人の4人家族

GSE受け入れスケジュール

第1週 10月16日(水)~22日(火) 第7グループ 受入世話クラブ: 恵庭RC	第4週 11月5日(火)~11月11日(月) 第10グループ 受入世話クラブ: 函館RC
第2週 10月22日(火)~28日(月) 第2グループ 受入世話クラブ: 赤平・青別RC	第5週 11月11日(月)~18日(月) 第4グループ 受入世話クラブ: 札幌手稲RC
第3週 10月30日(水)~11月5日(火) 第9グループ 受入世話クラブ: 伊達RC	※10月28日(月)~30日(水)、11月18日 (月)~29日(金): 札幌にて、地区GSE 委員会担当



メンバー氏名		
Christine M. De Vera		
性別	年齢	結婚
女	26	独身
専攻及び職業		
生化学専攻 オーナー兼支配人 International Beauty Corp.		

国際的な美容会社を経営しており、環境に優しい健康、美容、福祉の促進を扱っております。事業の一部としてヘアサロンも経営しております。又、特注の化粧品も考案しており、フィリピンの自然製品を使って開発販売促進をしております。仕事のほかに有機生化学のコンサルタントもしております。それで有機農業、自然健康食品、健康、美容、福祉関係の人や機関を訪ねたいです。



メンバー氏名		
Fernando Strong Pascua		
性別	年齢	結婚
男	35	既婚
専攻及び職業		
政治学士及び文学士(英語学) 人的資源&教育訓練専門家		

ラジオ・ミンダナオのWKCでアナウンサーとして勤務を始め、その後別の放送局でも番組を持ちました。その後、教育訓練の専門家としても仕事を始めました。又、一方でコールセンターの仕事に関心を持ち、GSEでは日本のコールセンターを学びたいと思っております。



メンバー氏名		
Emerald Odessa B. Escueta		
性別	年齢	結婚
女	27	独身
専攻及び職業		
情報伝達手法専攻 ホテル宴会部門販売責任者		

大学卒業後、フィリピン日本文化学院の日本語奨学金に応募して1年間日本語集中講義を受けて、日本には二度訪問しております。一度はJICAの後援で、もう一度はJapanese Guest Activity Coordinator勤務していた時のご褒美に派遣されました。現在はマカチにある五星ホテルで、最初の二年間は日本語を話せる客室主任として、その後宴会販売部門に配置換えになりました。



メンバー氏名		
Sharon Rivera		
性別	年齢	結婚
女	28	独身
専攻及び職業		
法学士 弁護士兼教授		

フィリピン大学のマスコミ学部でジャーナリズムを専攻して優等賞を受賞、更に同大学の法学部に進み、弁護士試験に合格しました。マニラの二つの大学で教えております。法律事務所での仕事もしながら、一つの大学では会計学部で教えておりもう一つの大学では販売、代理権、寄託、組合、私企業の講義をしております。地方及び高等裁判所の見学、日本の若い弁護士との交流、法学部の講義の見学などを希望します。



メンバー氏名		
Dondon R. Edeza, Rn, Md.		
性別	年齢	結婚
男	27	独身
専攻及び職業		
医学博士 専門治療&診断病院院長		

大学では看護学で理学士の学士号を取って正看護師の資格があり、更に医学部に進んで医学博士の学位も取りました。学生時代は小学校時代から数々の優等賞をもらいました。現在は大学の医長であり、又看護学部の講師、及び神経解剖学の講師もしております。日本では色々な病院訪問をしたいです。

GSEについて

Group Study Exchange (研究グループ交換) のことで、1965年に発足したロータリー財団の国際交流プログラムです。他国においてその国民や諸施設を研究し、相互の問題や抱負を理解し、チームの歓待によってロータリアンを有意義な国際奉仕プロジェクトに参加させることが目的です。具体的には

- (1) 国を異にする2つの地区がペアを組んで行います。
- (2) ロータリアンとその家族以外で、年齢は25-40才、事業または専門職務に携わる優秀な人4名を選び、リーダーのロータリアン1人を加えてチー

ムを編成します。

- (3) チーム編成をあらかじめ男性のみ、女性のみ、男女混成と決めますと差別となるおそれがありますので、性別を決めて募集しないことです。
- (4) 派遣もしくは受け入れ期間は4-6週間。
- (5) 費用は往復旅費のみロータリー財団が負担。訪問チームの地区内に滞在中の食費・旅費・宿泊費は受け入れ地区が負担します。年齢制限があります。

Q. 「ロータリーの友」9月号に「国際ロータリー理事会の決定事項の抄録」が34ページから35ページにわたって掲載されている。

その中に次のような項目がある『理事会は「謝意の表明」として2002～03年度会長に米貨115,000ドル、会長エレクトに米貨80,000ドルおよび会長ノミニーに米貨25,000ドルを支払うことを承認いたしました。』

これは会長・エレクト・ノミニーの方々への「謝礼金」なのか？ もしくは交通費等の必要経費も含まれた金額なのか？ 教えてください。

A. 「ロータリーの友」9月号のRI理事会抄録に記載されているとおり、会長等に謝意を表明し謝礼を支払っておりますが、これは2001年の規定審議会での制定案01-465が採択されたために、下記のRI細則5.030.3が新たに追加されました。

これに従いRI理事会でその額を決定し謝礼を支払ったものであります。また、この金額の中にはRI用務に係わる交通費等の経費は含まれていないはずであります。

【5.030.3 感謝の意の表明】

理事会は、会長および会長エレクトの時間、努力および個人的犠牲を考慮し、その裁量により、会長および会長エレクトに毎年謝意の表明として謝礼を認可することができる。理事会が規定した経費弁済の方針に従い、RIの年次報告書、ロータリアン誌、またはその他世界中のロータリアンが何時でも見ることができする方法で完全に発表しなければならない。(この項目は国際ロータリー日本事務局奉仕室より回答をいただきました)

Q. 地区大会やIM等に出席し、例会欠席補填のメイクアップについて教えてください。

- ①地区大会に2日間にわたって出席した場合のメイクアップは2日間になりますか？
- ②地区大会の出席も例会出席と同様に前後2週間のメイクアップに該当しないのか？

に前後2週間のメイクアップに該当しないのか？

- ③IMへの出席もおなじことなのか？
- A. メイクアップについておこたえます。
- ①地区大会に2日間出席した場合は、メイクアップは2回分になります。
- ②③ロータリークラブ定款第8条第1節(a)(3)により、地区大会・IM何れも前後2週間のメイクアップに該当することになります。

Q. CAPとは何？

A. CAPはCommunity Assistance Program(地域社会援助プログラム)の略で、我々ロータリーの納めたお金が手元に戻ってくる最も身近なものの一つです。植林・植樹などにつき100万円の費用が提供されます。申請書受付期日は2002年9月15日から2002年12月31日までです。そのために必要な手続は、補助金委員会伏木忠了委員長(勤務先Tel 011-272-3911)にお申し出下さい。ふるって申し込まれることを希望致します。

2002-03年度RI会長氏名委員会は、2004-05年度RI会長として、アメリカ、アラバマ州Shades Valley RC会員 GLENN E. ESTESS, SR. グレン・エステス氏を指名しました。

文庫通信



「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

地区大会特別講演より

- ◎ 「いま日本、日本人を考える—欧米亜比較の中で—」
五十嵐公利 2002 14p (D.2730地区大会)
 - ◎ 「日本は再生する」
加納時男 2002 17p (D.2840地区大会)
 - ◎ 「21世紀の世界—その問題点と展望」
明石 康 2002 5p (D.2830地区大会)
 - ◎ 「『日米中ロ』四重奏の不協和音」
宮本信生 2001 9p (D.2500地区大会)
 - ◎ 「IT革命によって変わるビジネスと生活」
軽部征夫 2002 20p (D.2720地区大会)
 - ◎ 「21世紀の世界と日本—地方から見て—」
長谷川慶太郎 2002 21p (D.2760地区大会)
 - ◎ 「日本経済のゆくえ」
水谷研治 2002 16p (D.2630地区大会)
 - ◎ 「福祉はわが家から」
西川きよし 2002 7p (D.2670地区大会)
- 【上記申込先：ロータリー文庫 (コピー)】

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary.bunko.gr.jp>
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

ガバナー日記

公式訪問再開

お盆休みが終わってすぐ8月19日（月）夕刻6時20分発の道南バスで浦河町に向かう。所要時間およそ3時間半。目的は翌20日（火）の浦河、様似、えりもRCの合同例会出席のため。所要時間からいえば地区内で最も遠隔の地ということか。

翌20日朝9時半から浦河RCとの会長幹事懇談会、次いで様似、えりもと続く。人口比でいえば最もロータリアン人口の多いところ（右表）。しかも地域性によくマッチした奉仕活動で自治体との協力関係も非常にうまくいっている。

終わって郷司AGの車に便乗し静内に戻り、翌日の三石、静内RC合同例会に備える。札幌に帰るには3時間半と翌日の3時間半を考えると宿泊せざるを得ない。この時間を使って静内高校インターアクトの現場に触れる。細川好弘インターアクト地区委員長のご努力を実感。静内RCのロータリアンでもある澤田町長を表敬訪問した後、静内クラブの奉仕活動の現場を見て歩く。

翌21日は三石、静内合同例会に出席。昨日の浦河、様似、えりもと同じように自治体の発展に占めるロータリーの存在が非常に大きいことを学ぶ。

帰札してすぐにプリンスホテルでの札幌セントラルRCの認証伝達式に出席。新しいクラブの誕生は何としても嬉しい。岩城秀晴直前ガバナー、畑中俊介特別代表（札幌南RC）をはじめ、関係各位の皆さんのご努力に感謝。同時に石垣博美PG、芹田馨初代会長らのご努力に心から脱帽。

地区会員増強委員長会議

年1回の地区会員増強委員長会議が8月24日（土）ホテルガーデンパレスにおいてRI会員組織コーディネーターの黒田正宏PG（八戸南RC）をお招きし、岩城秀晴地区会員増強委員長の司会の元で行われた。会員増強は当2510地区で最も会員数の多かった1996年の4254名に比べれば2002年7月1日（今年度のスタートの時点）で3,462名で、この7年間に792人の減少を見たことになる。これは単に経済的不況のほか、何か我々の気付かない根本的な問題が秘められているのではないかと気になる。

人口比で見た会員数は郡部で高く都会で低い。特に札幌圏のロータリアンは人口比から見て明らかに低い（右上の表）。都会は郡部とは違ったロータリー活動のための新しい魅力づくりが求められるのではないのだろうか。

もう一つ「数は力なり」というが、会員増強は単に会員数のみを言うものであってはならない。増強は数の増強だけでなく質の増強も伴わなくてはならないだろう。質の増強があれば自ずと数の増強も伴ってくる筈である。

銀行の支店長が一斉に退会された打撃が特に郡部では大きい。ガバナーが直接銀行のトップに訴えてほしいとのガバナー補佐の方々のご依頼もあって、8月26日（月）北洋銀行の高

グループ別人口対会員数

グループ	クラブ	ロータリアン人口 (1,000人当り)
1	深川・羽幌・妹背牛・小平・留萌	2.67
2	赤平・芦別・砂川・滝川	2.62
3	美唄・江別・江別西・岩見沢・岩見沢東・栗山・栗沢・当別	1.43
4	札幌・札幌あけぼの・札幌はまなす・札幌北・札幌モーニング・札幌西・札幌西北・札幌手稲・札幌東・札幌清田・札幌幌南・札幌真駒内・札幌南・新札幌・札幌大通公園・札幌セントラル	0.53
6	岩内・倶知安・小樽・小樽南・小樽銭函・蘭越・余市	1.74
7	千歳・千歳セントラル・恵庭・北広島・長沼・由仁	0.97
8	えりも・三石・様似・静内・浦河	3.26
9	伊達・室蘭・室蘭東・室蘭北・登別・洞爺湖	1.43
10	函館・函館亀田・森・七飯・長万部・江差・函館五稜郭・函館	1.34
11	東・函館北・上磯・松前	1.34
12	白老・苫小牧・苫小牧東・苫小牧北	1.01

伊藤長英PGの調査による

向巖頭取、北海道銀行の藤田恒郎頭取にお会いし状況を説明し、郡部だけでも支店長のロータリーへの復活をとお願いした。成否はロータリアンの熱意次第のようである。

再び公式訪問

8月27日（火）、赤平、芦別RCを訪問。ともに野球に熱心に取り組み甲子園を目指し、近く開催の伊達大会で何としても優勝したいと。赤平クラブはローターアクトの活躍が目立ち会員のおよそ1割はローターアクト経験者とのこと。また芦別クラブではロータリー46年の今日あるのも先輩会員のお陰と、物故会員の追悼を行うべく年に1回お寺で移動例会を行っているとのこと。ニコニコはオルゴールボックスのなかに1人ひとりがお金を入れる。オルゴールの音楽もいいが、1人ひとりがニコニコの理由を述べるのも心温まるいい雰囲気である。終って赤平の親松貞義市長を表敬訪問。

札幌に戻ってすぐ、札幌はまなすRCの夜間例会に非公式の公式訪問。俳句に熱心な佐藤一、熊谷福夫両会員による俳句のご披露は長く続いているとのこと、何ともユニークで楽しい。石狩浜の清掃や福祉施設のお世話も10年に近い年中行事と。

翌8月28日（水）、室蘭、室蘭東、室蘭北、登別RCの合同例会に出席。室蘭RCはこの地区からスリランカに送る病院ベッドの口火を切ってくれた。室蘭東RCのインターアクト、室蘭北RCのローターアクトはともに長い実績をもつ。登別RCはおにぎりだけの夜間例会で貯めたお金でエチオピアの田舎にフィッテという名の小学校を作ったと。例会のあり方で斬新なのは、室蘭東RCが月初めは必ず雑誌委員長（女性会員）が「ロータリーの友」、「ガバナー月信」の紹介に当てているとのこと。工夫すれば出来る好例である。そのあと室蘭の新宮正志市長を表敬訪問（次頁写真中央が室蘭RCの牧野嵩会長）。



札幌はまなすRCバナー



伊達市長とさっくばらんに歓談する
小沢委員が中心



慈愛の心を実践

ガバナー 市長を表敬訪問

夕刻になって斎藤修弥AGのお薦めで一緒に伊達・洞爺湖RCの合同クラブ協議会に出席。各委員会の生の声を聞くので教えられることが多い。終って懇

親会。終って外に出たとき伊達RCの中井英光会長が「腰が曲がっている。背中を伸ばして、ガバナーらしく！」本当に有難い友情の言葉である。



伊達駅前に右から9グループ斎藤修弥AG、中井英光伊達RC会長、小林G、藤川康司室蘭RC会員

翌29日(木)は伊達の菊谷秀吉市長を表敬訪問のあと、会長幹事会、次いで合同例会にスピーチ。伊達と洞爺湖RCはとも

に成熟したクラブだが、両クラブの人達が一緒に例会を持ったことはないとのことで、ここでも新指導要項DLPの評判は比較的良好。

札幌ソロプチミスト(石明子会長)から札幌北、札幌はまなすRC会員との懇親の機会を持ちたいとの提案があり、8月31日(土)札幌グランドホテルにて40名が夕食とともに懇談、そのあと中国の劉鋼さんの奏でる中国琵琶の音を楽しんだ。

9月2日(月)はホームクラブ札幌北RCでの公式訪問。会員のほとんどが地区幹事、地区大会実行委員として働いている仲間なので些か照れくさかったが、クラブのサポートあつてのガバナーなので若狭吉範前会長、片岡是充現会長はじめ理事会関係のみなさんに心からの謝辞を述べた。



札幌北RC
若狭吉範前会長



札幌北RC
片岡是充現会長

9月3日(火)小樽、小樽南、小樽銭函RCの合同例会。その前に個別に会長・幹事との懇談会。小樽RCは1933年設立の全国10番目のRC。とくに素晴らしいと思っ

たのは会員企業誌の発行。会社(勤務先)の業務内容、主な取引先、社訓、モットー、PR、職業奉仕の精神を会社で活かした出来事・事例などが書かれている。小樽南RCの「ブックスタート」は読書を介して次世代の子供達の教育を考える運動、播いた種から花を咲かせるための運動といってもいい。小樽銭函RCは小人数のクラブながら地域の少年野球大会のスポンサーをはじめて19回。父母との交流もあって地域起しに貢献。

小樽の3クラブはいずれも個性的な活動が目立つ。

翌9月4日(水)は早朝7:30から札幌モーニング、札幌はまなすRCの合同例会。はまなすRCは先週非公式の公式訪問を終えてはいたが、改めての参加。上着をとって朝のラジオ体操は恐らく40年ぶり。それから点鐘。モーニングクラブは独特の方法で環境保存のための荒地の植樹を試みたり、献血にも献身的。音楽クラブといわれるくらいプロのmusicianが多くて羨ましい限り。

9月5日(木)は江別、江別西、当別RCの合同例会は江別市民会館。3つのRCはそれぞれ個性的な奉仕活動を展開している。合同例会の雰囲気も明るく楽しい。それにしても江別RCの西村孚会長が事故で脊髄損傷をおこし入院中のための欠席。代わって加藤正勝副会長が司会、西村孚会長からは次のようなお手紙をいただいた。

「折角のご訪問を楽しみにしておりましたが、小生の不注意で不慮の事故によって出席できなくなりましたこと、誠に残念でなりません。同時に大変申し訳なく深くお詫びを申し上げます。ガバナーの重点目標でございます「家庭に慈愛の種を播きましょう」に思いを致すとき、涙する日々でございますが、今後は「僕は成功よりも挫折から多くのことを学びました。失敗をおこさない人間は強い。だが、失敗から学ぶ人間はもっと強い。」を人生の糧として、静養につとめ、一日も早く復帰できますよう、人生に感謝し、反省して頑張ってみります」。西村孚会長のご快療の1日も早いことを祈る。



江別RC
西村孚会長
祈ご快癒

9月6日(金)はガバナーエレクト事務所開きに千歳。翌9月7日(土)は朝から余市、倶知安、岩内、蘭越RCの合同例会(余市水明閣)に自分の運転で出席。会長幹事との懇談会は合同で行ったがお互いRCの活動内容を知る機会ともなるので好評。この4RCはゲートボール大会を一緒に毎年やってきたせい合同例会に引き続き懇談会もお酒も入っておおいに盛りあがった。急いで帰札、夜はNTTセミナーセンターで開催のライラセミナー(Jクラス)に出席。

翌9月8日(日)も朝からライラセミナーに出席。新世代の高校生におおいに期待できるものを感じ、ライラの重要性を再認識した。顧問教師のご努力には脱帽。引き続き由仁RCの10周年に出席。

9月10日(火)札幌西、手稲、西北、あけぼのRCの合同例会に出席(後楽園ホテル)。会場に入ると既に4クラブの音楽委員会がピアノに合わせて「友達になろう」の歌を練習中。例会が始まってまずは同じ曲の全員合唱、次いで点鐘。4クラブは会長幹事も時折集まったの仲のよい関係。あけぼのRCの救命救急の訓練のタベを開催するなどリスク管理に目を向けた新しい試みも印象的。札幌西北のまずはクラブの中を固めようとの発言にも迫力あり。札幌手稲クラブの中川喬雄会長の主張する「スモール・イズ・ビューティフル」は会員増強が数だけでなく質向上の必要性を説くことにつながる。札幌西クラブの音楽によるムード作りには感激。高下泰三会長の全体司会も抜群(9月10日記)。

ガバナーとの対話 —会長幹事懇談会メモより

—会長幹事懇談会にあった実際の質疑の内容を忠実に紹介するものである

合同例会

Q. ガバナーの公式訪問は各クラブの合同例会に行う方針は今後も続くのか？

A. 地区リーダーシッププラン（DLP）の要求していることはそういうことである。ただクラブの自主性もあることなので、合同にするならどのクラブと合同にするかは、新年度で考えていただくことになる。

止むを得ぬ欠席

Q. 地域的な職業上の特性から例会に出席できないことがある。そのような人たちに出席を強制することは退会を迫ることになりかねないので、クラブとしてはやむを得ないことと判断しているが、ガバナーはどう思うか？

A. 出席そのものよりも大切なことがあるという前提で、やむを得ないことと理解する。

RIへのお金

Q. RIに拠出したお金がどのように使われているか、詳細を教えてください。

A. 同じ質問は他クラブからも出され、またその回答の一部として月信11月号の紹介記事を参考にしていただければと思う。なお、疑問の残る点についてはお申し出をいただければ、別途RI財団事務局に問合せをしたい。



ピカソの鏡の前の少女

会議多すぎないか

Q. ロータリーは会議が多すぎないか？ 遠隔地のものには迷惑なことになる。

A. 会議が多すぎではいけないので、似たような会議をまとめた形で進めるようなことを考えている。時間と経費の節減に関しては、ロータリーに係わる会員みんなが心しなくてはいけないことだと思う。

IMと公式訪問

Q. ガバナー訪問の合同例会をIMと一緒にすることを考えているのだがどうか？

A. 不可能ではない。合同例会は通常地区大会の前に済ませることになっているために、IMとの共催は7、8、9月の開催になるのではないかと。地区としては公式訪問は年度の前半、IMは年度の後半に行っていることが多いが、調整できればいつの開催でも差し支えない。

地区大会について

Q. 地区大会はとかく冗漫に思う。何とか簡素化できないか？ 特に遠方からの者は帰る時間が気になってしまう。

A. ごもったもなことで。今年度の地区大会の2日目はお昼で終わり、懇親会はその後となるので十分余裕をもって帰っていただければと思う。

事前の相談を

Q. 地区大会の特別企画などについては各クラブに事前に意向を伺うようなアンケートを出してもらえないか。

A. ごもったもなものである。そこまで気が付かずにガバナー事務所と地区幹事会、並びに実行委員会で決めてしまった。このことは次年度に参考にさせていただけたらよいと思う。

ITの現状

Q. ITは独立の事務所を持ってないで間借りしているクラブにとっては、かえって望ましくない現状なのだが？

A. 独立の事務所を持てる場所では問題はないのだが、間借りしている場合には家主に対する迷惑、気兼ねがある点で理解できる。現地では文書とITの両面並行で行かざるを得ない過渡期にあるかと思う。

大会の費用

Q. 地区大会、あるいは国際大会の経費は極端に高いように思うが？

A. 地区大会をやるとすると13,000円の登録費は必要ということになった。地区の特別予算から700万円の援助をいただくとして総計3千万円以上の経費を地区大会に使うことになる。その費用に見合っただけの地区大会かとなると内心忸怩たるものがある。国際大会については我々の意向の及ぶ範囲内ではないが、ロータリーの主催する祭典は形式的なものより、実質的なものへ移行しなければならないと思う。

寄附について

Q. 寄附の依頼が次々と来る。世界障害者大会（DPI）の寄附、ポリオ、識字率などである。困惑してしまうのだが。

A. 基本的には会員個人の自由意思である。DPIは外郭団体からの依頼であるが、識字率、ポリオはロータリーの直接係わる問題なので出来るだけのご協力をお願いしたい。

Q. お金をいくら出しても地区に戻ってくるという実感が無いのだが？

A. その実感は大学都市では国際親善奨学金、米山財団の学生を通して身近なものがある。だがその実感は郡部には少ない。ただしマッチンググラントとかCAPに対する申請を積極的に行なって、出したお金は取り戻すぐらいにしていきたい。



会員増強

Q. 会員増強に何かいい方法はないか？

A. 難しい。例会を楽しく演出する。年会費を思いきって安くする。ロータリアンとしての自信と誇りをもつことぐらいか。妙薬はないが長期の努力が大切。最初に大事なことはロータリアンとしての適確な人を慎重に選ぶこと。

Q. 地区協議会で従来RI財団と米山の担当は1人で間に合っていたが、今年は各々別の担当者のお力添えであった。小人数のクラブでは困ったことだが。

A. 日本独自の米山を盛り上げようとの願いからで、各クラブでも専任の米山担当者を決めるようにお力添えいただければと思う。

Q. 高齢化、少子化社会となればロータリーの増強だけでなく、わが国の将来にも心配。ロータリーとして何か出来るか？

A. 子育ては夫婦2人の共同責任であるとの理解から「家庭奉仕」を実践し、男性が少しでも育児に参加することで女性の負担を軽減すれば少子化の予防になるのではないかな。

広報について

Q. ロータリー活動を外に言わないことが美德とされてきたようだが、最近は広報が強調されるようになった。方針転換の根拠は何か？

A. 企業などの組織は自らの情報を開示する責任があり、また市民もそれを知る権利があるということ。医師と患者との間でも同じこと。ロータリーも例外ではない。自ら行なった活動内容を市民のためにPRすることは当然なことである。また、ロータリーの情報は会長・幹事だけでなく、一人ひとりの会員がみんなで共有することが大切。「ロータリーの友」、「月信」はそのためのものである。

超少人数クラブ

Q. 少人数のクラブだと1時間の例会が大変に思えて、36分で止めてしまうということがあるのだが？

A. ルール上許されたことではないが、各クラブの責任のもとに考えることである。

クラブ内の不協和音

Q. クラブ内の不協和音が気になって、その解決の早からんことを祈って会食などを重ねているのだが思うようにいかない。

A. 親睦レクリエーションなどは友愛の促進に大切だとは思いますが、まずはとことん話し合うことではないか。その際お酒があつての話し合いは一見効果的に見えるが、むしろ冷静な場で議論を深める努力が先決ではないか。

書類が遅すぎる

Q. ガバナー事務所から来る書類が遅くて、着いたときには締切直前だったりすることがある。もっと早目に出していただけないものか？

A. 誠にごもっともなことである。申し訳ないことだし、そのようなことがないように努力したいと思う。

ITの促進を

Q. IT化の社会の中でロータリークラブもIT促進の達成のための数値目標を示すことは出来ないか？

A. お申し出はごもっともなことである。ただ、IT化は各自の自主的な意向で進んでいくようなことに思うので、ガバナーから数値目標を出せるかどうか検討したい。私自身ITをやらないし、携帯電話もっていない位なので語る資格もない。ITを嗜む人は地区のおよそ2割見当だと思つたので、当面ITと文書連絡の並行でいかざるを得ない。



会員増強

Q. 会員増強というと上納金を出せというふうにししか聞こえないのだが如何なものか？

A. そうとられても仕方ない向きは多々ある。ただ基本的には会員増強によってロータリーの力をつけようということなのだが、このことの具体的な説明がない為に誤解が一人歩きしてしまうように思う。

米山財団

Q. 同じ寄附でもRIではなく米山財団に寄附したいと思うのだが？米山は狙いの定まった人作りなのでそちらを重視したい。

A. RIも大事だし、米山も共に大事だと思う。RIの寄附は世界中から来るが米山は日本からだけ、という違いはある。日本独自のものを育てたいという気持ちは尊重したい。

女性会員

Q. 女性会員が入会することのメリットとデメリットはどうか？

A. デメリットよりもメリットの方が明らかに大きいと思う。どのようなメリットかは女性会員の入会を見てから実感していただければと思う。

会長幹事懇談会

Q. 会長幹事懇談会は各クラブごとの他に合同でやっているケースも多いようだが、どちらが望ましいのか？

A. 基本的には個別にやるのが原則かとは思ふ。ただ、時間を充分使うことが出来るならばいくつかの合同の会長幹事懇談会で共通の問題の討論を深めていくのも一案かと思う。特定の問題があれば個別の会合は必要である。

地区大会のもち方

Q. 地区大会は従来、実質日曜日1日の会議で済んでいたものが、今度は日曜日が午前中とはいえ前日の午後を含め2日間に渡ってしまうので、宿泊など考えるとかえってマイナス面があるのではないかな？

A. 従来と違ったデメリットと同時にメリットもあると思う。メリットの主な点は遠方から来られた方もその日の夕方までにはゆっくり帰っていただけること。また、前日の会長幹事会、委員長などは従来も前日からの出席であるので、2日間になっても宿泊などの負担増があるとは思えない。ただ一般会員の中で2日に渡る出席を望まれる方の宿泊の負担増はありうる点は申し訳ない。ただ、本会議の力点は2日目においてるので、2日に渡る負担の方は日曜日午前中だけの出席ということも有り得る。試行錯誤を恐れずやってみた結果、あらためて皆様のご意向を参考にさせていただきたい。

またなぜポリオか

Q. ポリオはかつて終焉宣言をしたにも係わらず、また改めて始めることは大きな時代の流れに逆行するようなイメージさえあるのだが？

A. 終結宣言はされたことはある。でもよく調べてみるとおよ



ベルリンの壁

そ1%のポリオの伝播が世界の10ヶ国に残っている。これを放置することでポリオが再燃するかも知れない。そうすれば今までの労苦が灰に帰すこともあるので最後のとどめを刺そうということである。

RIからの脱退?

Q. クラブ員の中で日本のロータリーはRIから脱退して、日本ロータリーを独立に作るべきだという意見がでているのだが?

A. 日本のロータリアンの一部にそのような強硬な意見があることも確かなようである。RIの会計が不透明だということにも一因があるが、ロータリアンとして社会的ニーズに充分応えていないという自責の念もあるだろう。原因は1つ2つの単純なものではないと思う。謙虚に耳を傾けるべきものではないか。

ガバナー補佐

Q. ガバナー補佐が大変なのでクラブの何人かが補佐をしている。補佐の負担を軽減することは出来ないのか?

A. ガバナー補佐の仕事そのものの見直しとか効率化を考えていただきたい。具体的な工夫は各クラブでご検討いただきたい。

メーキャップ

Q. 都会のメーキャップの折、36分でぞろぞろ退出する人が目立つ。このような行為は極めて遺憾に思うがどうか?

A. ご指摘のとおりで出席義務の精神が形骸化しその弊害の見本みたいなものだと思う。

東京RC

Q. いつか東京ロータリークラブにメーキャップしたが、そのとき会員名簿を3,500円で譲ってもらった。それを見ながら会話の相手を思い出し、また文通の出来ることもある。東京クラブという重苦しい雰囲気からは想像も出来ないことだったので参考になったのだがガバナーは知っていたか?

A. 貴重なお話を有り難う。

ロータリーのイメージ

Q. 父親がロータリアンであったので子供心ながら当時のロータリアンは素晴らしかったと思ったが、今はみんな元気がない。第一若い人にとって魅力でない。困ったものでないか?

A. 現在のロータリーに対する心配の声は沢山ある。存在感が薄れてきていることも事実だろう。それでは何をしなければいけないか。

改革を1つでも2つでもやっていくことから始め、新しい社会のニーズを先取りしていくくらいではないといけないのではないか。



クラブ細則

Q. クラブ細則に従わない行為があるので困るのだが?

A. クラブ細則に従うのは当然だが、ただクラブ細則の運用と判断にあたってフェアな心と善意があるかということが大

事ではないか。目的のために策を労し、歪めた形で悪用することがあってはならないのは当然である。

職業の枠

Q. 特定の職業の人が多く固まることで、問題の原因になることがあるようだが?

A. 職業枠の基準が緩められたことの利点があるとはいえずしも好ましいことではない。むしろ選考に係わる責任者が入会時のチェックを厳重にすべきことだろう。

一般市民への開放

Q. ロータリーの活動は一般市民にもっと開放してよいのではないか。特にIMなどの機会に。

A. ごもっともである。既にそのような趣旨で開放されているグループもあるが、地区全体としてはまだのようだ。

ロータリー面白くない

Q. ロータリーが面白くない、つまらない、官僚組織化の印象である。口を開ければ金と増強だけではロータリーは墮落したとっていいのではないか?

A. 似たような質問は再三受けてきた。大事なことはお互いが率直にロータリーをどうしていくべきかを話し合うこと、例会に出席することから始めたいもの。

環境保全

Q. 植林など環境保存に関するクラブ活動を地区として組織化する必要はないか?

A. ごもっともなご指摘である。社会奉仕のなかに環境保全に力点を置いた小委員会があつてよいと思う。

ロータリーへの協力

Q. 青少年交換などの受け入れは特定のクラブの偏在する傾向がある。また受け入れロータリアンの家庭が少なく、ロータリー外の人に頼む機会が多くなった。ロータリー外の人への組織化の必要はないか?

A. ごもっともなご意見である。ホストファミリーを引き受けてくださるノン・ロータリアンの方々の組織化は今後検討してみよう。

ローマ字の文書

Q. 年次寄附その他の情報がローマ字だけで送られてくるが、なかなか馴染めないのだが何とか日本語に書きなおすようにお願いできないのか?

A. これを日本語に直すのは不可能ではないが、日本だけで12万人近くの会員がいる。日本語だけでなく、韓国語、中国語等のことを考えると、膨大な費用がかかる。多額の費用を投入する価値があるであろうか。地区によっては地区の事務局員がクラブ名などを漢字にしている。地区として取り組めないものか。(RI日本事務局財団室室長片岡暎子さんの回答)

RI本部職員のこと

Q. RI本部の職員の給料はどうなっているだろうか。最低、最高の額だけでも教えていただければ。ということは不況の下にある我々の出しているお金がどのように使われているのかという素朴な疑問からである。

A. 皆さまの寄付金を人件費には充ててはいない。皆さまの寄付金は全額プログラムに使っている。人の給料のことはわからない (RI日本事務局財団室室長片岡暎子さんの回答)。

地区活動 紹介

ローターアクト 地区セミナー報告

ローターアクト委員会
委員長 中塚 力

と き 2002年8月24日(土)・25日(日)
と ころ 函館市 金森ホール
ホ ス ト 函館ローターアクトクラブ
提 唱 ク ラ ブ 函館ロータリークラブ

本年度地区セミナーのメインテーマは「地方都市の活性化」。近年顕在化しつつある大都市一極集中に伴う地方都市の衰退について、若いローターアクターの新鮮な視点をもって議論を深め、ローターアクターの知識の高揚を図るのが狙い。

開会式では遠藤ガバナー補佐から若い世代に対する期待の言葉がかけられたとともに、古川函館市商工観光部長から来函に対する歓迎の言葉を頂戴することが出来た。

開会式に続いて行われた基調講演では、株式会社はこだてTMO代表取締役社長・渡辺良三氏から函館都心商店街（通称「大門地区」）の現状と課題、これからの若い世代に望むことを述べていただいた。

ローターアクターは基調講演で基本的な知識を身に付けた後に、約3時間にわたり大門地区を散策（フィールドワーク）し、実際の購買活動、商店主や歩行者への取材などをおとして、大門地区の実情を体験することが出来た。

フィールドワーク終了後は懇親会を実施。各クラブ紹介の場面では、ユニークな出し物を披露するクラブもあり、大いに盛り上がった。また、懇親会後には函館の観光の目玉とも言える夜景鑑賞をすべく函館山へ移動。セミナー当日の午前中は雨が降り続いたものの、フィールドワーク、



フィールドワークを行うアクター

夜景鑑賞時には天候に恵まれ、ローターアクターは函館の夜を大いに満喫した様子であった。



ユニークなクラブ紹介（室蘭北RAC）



ロータリアンと一緒に「イカ踊り」（函館RAC）

2日目はフィールドワークで得た取材の成果を分科会で集約し、各班ごとにプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションの場では、普段生活している函館市民では気づかないような名店を発掘する班もあれば、具体的に商店街活性化の一助となりうるような提言を行うクラブもあった。また会場の笑いを誘うようなユニークな発表もあり、若い世代の豊かな発想力が披露された。

閉会式では地区ローターアクト委員長の講評。次の地区行事での再会を誓いつつ、2日間のプログラムは盛大なうちに終了した。

地方都市の活性化は、そこに住む



グループディスカッション

人々の地域を愛する気持ちと、街を魅力あるものにしていきたいという強い熱意が生まれるものであり、今回のセミナーの参加者については、本セミナーで得た経験を生かし、これからの各都市の発展を担う人材となっていくことを期待するものである。

なお、本セミナーで得た取材の成果については、ホストクラブにて編集され、函館市内の月刊情報雑誌に掲載する予定であるとともに、函館市や商店街へ成果品を提出し、より良い街づくりに活かして頂く事で、現在鋭意作業中である。

セミナー出席者数 ローターアクト 59人
 ロータリアン 40人

ロータリアンによる 課外授業

みんな仲よく、家庭のこと

ロータリアンによる小学校の課外授業が始まった。初回は和田三三会員（札幌南RC、地区家庭奉仕委員長）が9月18日札幌市立北九条小学校で3、4年生を対象に「みんな仲よく、家庭のこと」と題して1時間、お互いに良いところをほめ合うことの大切さや、問題がおきたときにみんなで相談することの大切さを話し合った。



第2回

“家庭奉仕”勉強会の報告



家庭奉仕委員会

委員長 和田壬三

家庭奉仕の目的は、家庭を楽しみ円満な場にするのではないのでしょうか。

そうであれば、家庭奉仕委員会の活動は、家庭を楽しみ円満な場にするには、ロータリアンは如何にすべきかについて提言し、問題提起することにあると思います。

このような視点から、家庭生活を上手に過ごす方法、夫婦の関係、親子の関係を上手に築く方法について勉強しました。

講師は土橋信男札幌南RC会員（前札幌市教育長、前北星学園大学学長）の奥様であり、職業訓練インストラクターである土橋芳美さんをお願いして、講義や討論更に簡単な親業の訓練を受け、充実した勉強会を実施することができました。さらに終了後に懇親会にもほぼ全員参加して、勉強を深めることが出来たと思います。その概要は以下の通りです。

1. 子供や妻、夫のよいところは何だろう。良いことを見つけ褒めることが自然にできているであろうか。

とのご指摘があり、まず自分の長所を3つ上げて自己紹介してくださいと参加者全員に自己紹介をさせたのですが、日本人は自分の長所ですら人前で述べるのが如何に苦手であるか私を含め全員が思い知らされました。

2. 子供が問題を抱えているとき、親がそれを解決してはいけない。子供は自分で解決できる能力がある。親は、子供が自分で解決するのを助けるだけに留めるべきである。

我が子が部活に遅刻するのが常習であり、そのうち部員から疎外されるようになった。あるとき子供の帰りがあまり遅いので心配で学校まで車で迎えに行ったことがある。我が子だけが、部員の集団から一人だけ離れて、下校するところを見つけた。思わず我が子も仲間に入れてねと他の子に声をかけそうになったし、部員の親に電話して、指導して貰おうとも思った。しかしそれは、子供が解決すべきことを親が、横取りして解決してしまうことである。これで

は子供が、困難に出会った時自ら解決する能力が育たない。こんなときには、子供に能動的に聞いて、子ども自身にどうしたら、仲間はずれを解消できるか考えさせ見つけ出させることである。(能動的な聞き方とは、相手が悩んでいること困っていることを聞き手が繰り返すことである。例えば、いじめにあっていると聞けば、「いじめられているのと答える。」)

3. 自分自身が困難を抱えたときには、相手を非難せず、素直に相手に事実だけを伝える。

登校拒否で悩む親が、体格的には劣る子供に暴力を振るわれ続けていた。暴力を振るう子供は怪獣のように見えて何も出来なかった。親業訓練を受けてから、暴力を振るおうとする子供に対して、思い切って、「どうしてお母さんを殴るの」と声をかけてみた。お母さんを殴ると気持ちがいいのよという子供の言葉が返ってきたので、「そう、それならいいわ、いくらでも殴って頂戴。」と返したところ子供は暴力をやめて二度と暴力を振るわなくなった。

夫が不貞をし、毎日朝帰りや深夜帰りが続いて、双方離婚したいという状態となり夫婦の会話も一切途絶えたと相談された妻に、素直に夫に自分の気持ちだけを伝えなさい、夫のよいところ愛していることをつたえてみたらと指導したところ関係が良くなった。

4. 親子、夫婦が対立したときにはどうするか。

勝負なし法で解決する。どちらか一方が譲ったのでは、恨みが残る。話し合っ、納得して解決することである。

礼儀作法も言葉遣いも極めてよくきれいなお嬢さんが、結婚式の前に、両親に話したいことがあると膝詰めで、3時間に渉り、泣きながらこれまで両親の言いなりになり続けていたために彼女が、如何に我慢していたか。懇々と言い聞かされた例がある。

門限、恋人、進学、その他細かいことに至るまで全て、両親に合わせて、両親の意向に沿って決めてきた。そのため彼女が自分自身を生きてこなかったと感じてしまった。

門限の問題にしても娘が夜遅くま

で帰ってこない場合には両親は心配で眠れない。といった両親の気持ちを素直に伝え、一方娘にもお付き合いはどうしても遅くならざるを得ないことがあることを両親に理解してもらうことによって、双方納得して門限が決まれば、互いに恨みは残らない。

5. (応用編) 年頃の娘から、「お父さんどんな人が好きなの」と聞かれたときにどうすべきか。

若し優しい人とか素直な人と答えたら、それは、父親の問題にシフトしてしまう。もし娘が、このときに男の子に好かれなことを悩んでいたこの質問をしてきたら、そう答えては、娘の問題を解決することが出来ない。訓練を受けることによって、このような質問がどのような意図でされているか確かめてから、答えを出す事が出来る。

参加者 久住博、安澤正美（札幌あけぼの）松本純枝（深川）太田真琴（札幌南）池上公介ご夫妻（札幌モーニング）土橋信男、田沢泰明（札幌幌南）

(家庭奉仕委員会) 大場公孝（上磯）高下泰三（札幌西）水野正純（新札幌）長谷川美栄子（札幌大通公園）和田壬三（札幌幌南）



次回予告

1. 日時 10月24日 18時
2. 場所 和田法律事務所
(札幌市中央区北4西6毎日地札幌会館三階 電話 281-0909 Fax 271-4336)
3. テーマ “登校拒否児の指導”
4. 講師 池上公介池上学院学院長
5. なおご出席ご希望の方は、予め上記の開催場所にご連絡下さい。



最近の活動 — 歓迎会・キャンプ・勉強会

青少年交換委員会
委員長 清水 慧子

受入学生歓迎会

日時：9月1日(日)
場所：KKRホテル札幌
(北4西5 TEL 231-6711)

タイムスケジュール

12:30-14:30
派遣学生選考試験 5F ポプラ
13:00-14:30
受入学生 オリエンテーション 4F 桂
14:30-16:00
日本語説明会・ホスト別懇談会 7F 北斗
14:30-16:00
派遣学生帰国報告会 3F アカシア

16:00-18:00
受入学生歓迎会・派遣学生帰国報告会 2F 孔雀
18:00-19:30 委員会

出席委員：

- ・清水慧子・渡邊哲則・赤裏茂
- ・山内哲郎・坂口達也・目黒幸隆
- ・馬場信吾・長澤昇司・玉木弘孝
- ・加藤康雄・渡邊葉子



受入学生歓迎会・派遣学生帰国報告会

ガバナー・米山地区幹事 他 85名 出席

ガバナー出席のもと、和やかな歓迎会でした。1月にうけ入れを行っているオーストラリアからの学生によるパホームダンスと歌は会場の雰囲気をもっと盛り上げてくれました。



秋のキャンプ

日時：2002年9月7日(土)～8日(日)
場所：ニセコ ユニタス・ログビレッジ

委員参加者：

- ・清水慧子・玉木弘孝・渡邊哲則
- ・渡邊葉子・長澤昇司・目黒幸隆
- ・山内哲郎・坂口達也・馬場信吾
- ・赤裏茂・事務局：伝庄こずえ

ローテックス：6名

来日学生：13名

派遣候補生：8名

ホストファミリー：43名

総勢 70名

9月7日(土)

11:00 現地集合
13:00 ラフティング(約3時間の川くだり)
18:00 夕食(屋外にてバーベキュー)
22:00 就寝

9月8日(日)

6:00 起床
7:00 朝食
8:00 派遣候補生 オリエンテーション
11:00 解散
11:00 委員会開催

天候に恵まれ楽しいキャンプとなりました。参加者も70名と多くの方にご参加いただき親睦を深めました。今回は、テントではなくバンガローでしたので、ホストファミリーの皆様に参加いただき易かったのかと思います。ご協力有難うございました。



青少年交換委員会の勉強会

日時：10月14日(月)
場所：渡辺 淳一文学館
中央区南12条西6丁目 TEL 551-1989

対象者：ガバナー補佐・クラブ会長及び幹事・国際奉仕委員長・クラブカウンセラー・地区委員

詳細につきましては、追って各クラブにご案内申し上げます。

ライラセミナー・ジュニアクラス開催

ライラ委員会
委員長 宮崎善昭

9月7日～8日、札幌NTTセミナーセンターで2510地区9校のインターアクト・クラブと1校の高校生徒会の新世代ジュニアクラス70名、16クラブのロータリアン33名が参加して開催されました。「共生の時代に生きる」というメインテーマで、自然環境も含めてあらゆるものと共生していこうと言うものです。1日目のメインプログラムは社会奉仕活動で、豊平川、1条大橋の付近清掃とオカリナ演奏教室を行いました。

清掃奉仕は新世代が社会参加を考える機会の一つになればと考えてい

ます。夜は懇親会で相互交流、熱い話し合われました。

2日目は、基調講演に石川淑子氏によって「未来へのメッセージ……更正奉仕活動から」という側面から「共生」についての学びを深めるこ



豊平川のクリーン作戦

とができました。

セミナーはインターアクターが中心となって進行され、参加新世代が主体的、意識的にプログラムに取り組む意識変化の機会として今後に期待が寄せられます。



オカリナ演奏教室

友愛の楽しみ



インターアクト委員会
委員長 細川好弘

ロータリーのここを新世代へ

97年前の1905年に創始されたロータリーは世界で最初の奉仕団体として「超我の奉仕」をモットーに世界平和に関心が寄せられております。奉仕部門はクラブ活動を通じて地域社会と国際的ボランティア並にあらゆる職業人として、その倫理の道を極めているところであります。

160カ国を越える国々に散在する29,000以上のクラブと120万人のロータリー会員の横のつながりを通じて奉仕をするプロジェクトの一つに、新世代に取り組む機会が得られる奉仕活動があります。第2510地区ではインターアクト委員会、ロータリー委員会、青少年交換委員会、ライラ委員会が組織され、関連してロータリー財団、米山記念奨学委員会との連携が推奨されておりますが、インターアクトとはインターナショナル・アクション（国際的活動）の略で、14歳から18歳迄の青少年の奉仕と交換のためのクラブであります。世界で最初のインターアクトクラブは40年前の1962年11月5日アメリカのメルボルン高校で発足いたしました。

2001年6月30日現在では世界107カ国の455のロータリー地区に合計7,789のインターアクトクラブがあり、会員は179,130人と推定。各々がロータリークラブによってスポンサーされ、ロータリークラブは指導と激励を

与えますが、若者達のクラブはチームワークの大切さを学び、様々なリーダーシップ能力を養成する機会を会員仲間達に与えています。このことはまさにロータリーの青少年への投資であり、新世代との関係を築き、インターアクターの将来に貢献する最も報いの大きいロータリーの尊いプログラムであります。

2510地区のインターアクト活動は37年前の1965年5月7日室蘭大谷高校インターアクトクラブの発足に始まり、現在10クラブ約180名の会員が各々共同奉仕プロジェクトのみならずリーダーシップ研修行事や青少年・大人との交流も含めて自己のベストを発揮してユニークな活動を通して真剣に楽しむという、心躍る機会を発見しております。

更に当地区では新世代委員会を中心として0歳から30歳代に係る奉仕プロジェクトが着実に実施されておりますが、インターアクトクラブのホストロータリークラブが71クラブ中10クラブが提唱されています。ホストである、ないにかかわらず青少年との共同奉仕プロジェクト等を通じて新世代奉仕活動が組み込まれることによって、ロータリアン側の熱意と関心が理解され、反面ロータリアンとしての貴重な役目を果たすことにもなります。

新インターアクトクラブとして元気よく産声が聞かれるようロータリアンの愛の奉仕を新世代に伝えていただければと願っております。

インターアクターは奉仕活動を通して以下の事柄の重要性を学びます。

- ◎指導力と優れた人格の育成
- ◎他者を尊敬し進んで助ける態度
- ◎各自の責任を果たすことや一生懸命努力することの価値の理解
- ◎国際理解と親善の推進

これらの事柄は学校または地域社会さらに、国際理解を推進する奉仕プロジェクトとして、地区としても支援をさせていただき、青少年並びに高校生共々奉仕の楽しさと喜びを共有しているところであります。

2002-2003年度のRIテーマは「慈愛の種を播きましよう」であります。次代を担う新世代の若いエネルギーと共にふれあい・思いやり・よろこびの種を播き育てることが望まれています。

2002年6月スペイン、バルセロナで開催の第93回国際ロータリー年次大会では青少年に焦点を当てるという考えから「国際インターアクト大会」第1回会合が盛会裡に開催されておりますが、ロータリアンとしての知恵と理解で、意義のある新世代プログラムの展開が期待されます。

新世代関連委員長様

世界中で活躍する18万人のインターアクターをたたえて……

世界インターアクト週間を祝いましょう

期日 11月5日を含む週（11月4日～10日）
インターアクト委員会

青少年との共同奉仕プロジェクトを通じて新世代奉仕活動が組み込まれるようお願い申し上げます。

「世界インターアクト週間」は国際ロー

タリー理事会で決定され本年度が第4回目の週間になりますが、期間中の活動並びに祝賀行事をRIへ報告することになっております。

『ここは青春です』と語る小林博ガバナーは『地域社会も含めて新世代にロータリーの素晴らしい種を播き育ててほしい』と提言されました。

インターアクトを提唱されておられないロータリークラブでも新世代あるいは青少年関連委員会が中心になって世界インター

アクト週間祝賀プログラムを検討して下さい。

例えばインターアクトクラブと提唱ロータリークラブとの間の共同活動や共同奉仕プロジェクト等の企画を通じてインターアクト精神を分かち合ひましょう。又はインターアクトクラブを提唱していないロータリークラブを訪問し、インターアクトプログラムの価値について広報する事等計画実施されたプログラムをガバナー事務所・地区インターアクト委員会宛にご報告下さい。

第7.8.9.12グループ合同 「社会奉仕活動に関する 情報交換会」開催

社会奉仕委員会

委員長 対木正文

第2回情報交換会が8月31日（土）、苦小牧RC担当で苦小牧グランドホテル・ニュー王子に於て3時間をかけて行われました。

伊藤長英PG、郷司公雄第8グループ・ガバナー補佐、川田憲秀第12グループ・ガバナー補佐、和田地区家庭奉仕委員長、地区社会奉仕委員会対木委員長及び菊地委員を含め12クラブ29名が参加しました。

①、対木委員長より情報交換会開催の意義と今後の開催予定、本年10月15日～10月18日に北海道立総合体育センター「きたえーる」で開催予定の世界身障者国際会議DPIの支援について説明がありました。②、前年度地区社会奉仕委員会作成のビデオ上映、③、ロータリーがかかわる社会奉仕活動の参考例として苦小牧北RC提唱のRCC苦小牧家庭生活カウンセリング協会三島会長及び、その実践組織としての苦小牧地区カウンセラークラブ千葉代表より持参された資料をもとに説明がありました。④、本年度地区に新設された家庭奉仕委員会について和田委員長よりその概念と勉強会の予定について説明がありました。⑤、休憩後各クラブに事前に送付されていた下記の社会奉仕活動に関する設問に回答する形式で行われました。(1) 過去3年間の中で成功したプロジェクトとその理由(2) 貴クラブで社会奉仕活動を行うにあたっての問題点(3) 継続事業につ

て貴クラブの考え方をお聞かせください。

各クラブの発表は第7.8.9.12グループ順に行われましたが、(イ)問題点としては第1回情報交換会と同様に会員数減少、高齢化、それに伴う資金不足、地域内に多数の奉仕団体がある場合には新規事業を発見し、立案する事が困難、(ロ)継続事業については地域に根付き、必要と考えられる場合には躊躇せず継続してよいが、その事業主体がクラブの支援を離れて自力で活動が可能、あるいはその活動の受け皿となる団体があれば、支援活動を移譲してもさしつかえない事、しかし活動の移譲については少なくとも1年前から準備する必要がある事が述べられました。

新しい発想としては社会奉仕活動はクラブのためにあるのではなく、地域住民のために行われるのであるから、近隣クラブとの共同事業、あるいは他種の奉仕団体との共同事業とする可能性もあるのではないかという意見もありました。

⑥、総括としては対木委員長より効果的な奉仕プロジェクトの手法(選択、計画、広報、資金、結果の評価等)、が述べられ、プロジェクトの例として都市問題、環境保全、人口問題、保健、障害者奉仕等が選択され得る事が述べられました。



DPIへの寄附

第6回DPI(障害者インターナショナル)世界会議札幌大会が10月15日(火)に北海道立総合体育センター「きたえーる」で開かれます。これに先立って行ったみなさまの善意(凡そ70万円)を9月26日(木)朝、小林ガバナーと対木社会奉仕委員長がDPI事務局に持参した。

ロータリー市民講座のお知らせ

職業奉仕委員会
委員長 富岡公治

当地区職業奉仕委員会は、平井前委員長の時以来約2年間、ロータリーの根幹ともいべき職業奉仕について、毎月1回地区職業奉仕委員会会議を開催し、職業奉仕理念の研究をするとともに、地区職業奉仕委員会として、職業奉仕ないしロータリーボ

ランティアの具体的な実施活動をどのように推進するかということについて検討を続けてきました。

そのような中で今般、小林博ガバナーから地区職業奉仕委員会に対して、ロータリーは様々な業種分野に多彩な人材を有することから、各高校等にロータリアンの専門職種を活用した専門講師を派遣することを地区職業奉仕委員会において検討するよう依頼がありました。

そこで、地区職業奉仕委員会は検討の結果、各高校のみならず、各団体の後援も得て、次の通りの地区職業奉仕についての具体的な実践活動を実施することと致しました。

- 1 各団体にロータリアンの専門職種を活かした講師を派遣し、各市町村の後援も得て市民講座を開催する。
- 2 各学校のうち、とりあえず、インターアクトクラブ及び地区インターアクトクラブとも協議の上ロータリアンの専門講師をインターアクトクラブの存在する高校に派遣する。
- 3 第1回目の札幌市の市民講座の講師として北大医学部名誉教授でガンについての造詣の深い小林博ガバナーにお願いする。
- 4 第2回目以降の札幌市外の市民講座もペットの飼い方、不動産、建築、食品、衣料、法律等の各分野で順次開催する。

以上のような経過で第1回目のロータリー市民講座を下記の要領にて開催することと致しましたので、各ロータリアンの皆様も家族、知人、従業員等に御参加を呼びかけていただくと幸いです。

- | | | |
|---|-----|--|
| 1 | 日時 | 平成14年10月7日(月)
午後2時～午後4時 |
| 2 | 場所 | 札幌市中央区民センター 2階
(札幌市中央区南2条西10丁目) |
| 3 | 講師 | 北大医学部名誉教授
小林 博 (RI第2510地区ガバナー) |
| 4 | 演題 | 「がんと人間」
がん患者との対話を通して得られた教訓、がんにどのように立ち向かうべきか、そして人間に対する慈愛の心などについて解説される予定。 |
| 5 | 主催 | RI第2510地区職業奉仕委員会 |
| | 後援 | 札幌市 |
| 6 | 参加料 | 無料 |

アリゾナとの友情交換

友情交換委員会

委員長 金井重博

9月3日5490地区PGのGeorge Wheeler氏が、サハリンのコルサコフに財団の補助金制度を活用した仕事で行く途中立ち寄るとの連絡が、橋本前GSE委員長（札幌西RC）から伝えられた。本年友情交換委員会が発足して早速頼んであった、以前GSEを当地区と実施した5500地区PGのPhilips Silbers氏からの連絡であった。定刻に千歳についたWheeler氏をニドムのcottageに泊まり翌朝、早朝にもかかわらず札幌からかけつけた石垣国際奉仕のカウンセラー（札幌セントラルRC）、金井友情交換委員長（札幌南RC）と青木国際奉仕委員長（札幌東RC）と一緒に本年の友情交換プログラムについての話し合いが行われた。

アリゾナ州には5490、5500、5510の3つの地区があり、この3つの地区が一緒に対外的な活動をすすめているとのことであった。今回の友情交換プログラムもこの3つの地区ですすめると言う事で合意したので、近く文書でそれを確認する事が申しあわされた。アリゾナの2、3月はアメリカ職業野球チームのspring campがあちこちで開かれ、観光客の最も多い季節であると言う。来年から札幌に日本ハムのチームがホームチームとして決定し、そのチームと提携している昨年ワールドシリーズで優勝したアリゾナのダイヤモンドバックスなどの話題が出た。

5490地区は40のクラブで2,000人弱の規模で（アリゾナ州の北西に位置しグランドキャニオンを含む）Wheeler氏は1999—2000年のガバナーで当地区の森本年度に5500地区と行ったGSEについても良く知っていた。当地区としては

小林年度内に友情交換をしたいとの意志を伝え、その時期などについては早急に検討する事にした。また6月のブリスベンにおける国際大会においてはHokkaido Nightに多くの方々に参加して



右より、石垣パストガバナー、ジョージウイラー氏、金井友情交換委員長、青木国際奉仕委員長

くれる様要請し快諾を得た。

4年前からわが地区で行われているロシアとの交流についても話し合いが進められた。石垣PGは4年前から極東ロシアの大学生の日本語研修に『2人の大学生』を定期的に呼ぶ事を続けられ、本年度学生の現状も説明された。アリゾナとロシアの関係はアラスカの人が冬の間アリゾナに来ている人が多く、そのなかにいたアラスカのPGの影響らしい。ロシアには現在3つのクラブがあり、またその地方では天然ガスの開発が進められているが色々な問題がありスムーズにはいかないという話も出た。

日本特に北海道はロシアとは色々古くからのわだかまりがあり、大変であると言う事を言ったらWheeler氏は66歳、父親は海軍でハワイにおり、今回の真珠湾攻撃は決してforgetしないがforgiveできると言われた。北海道のロータリアンもロシアの人と交流してその現状を知り合う事が必要であろうとの意見であった。石垣PGも極東の平和における日本、ロシアとアメリカの協調の必要性を盛んに説明していた。

その他では女性会員；米国でもっとも女性会員の多いのはネバダでアリゾナは2番目に多いと言う。近い将来女性のRI理事が誕生する気運がアメリカでは出ている。すなわちその資格のある人は24人を数えると言う。韓国や日本にも女性だけのクラブが出来ておる。一方ヨーロッパではその歴史的背景からか日本同様依然女性会員は伸びていない。日米の違い；長い歴史に裏づけられた現状を変えるのには時間が必要なのだろう。その点歴史の浅い北海道はアメリカと同じではないのか、またアメリカでは50歳くらいで引退する人が多いので、引退した人だけのロータリークラブも少なくともこれらの人が余生をロータリーに全力投球しているという。

青少年交換；日本と交換しており女性会員が積極的に発言していると言う。しかしhost familyが年々少なくなっていると言う。新世代ではローターアクト、インターアクトが活発であると言う。ロータリーを精神的backgroundと考えているなど我々には理解しにくい点も少ないが交流を深めながらそのみぞを埋めて行く必要があると考えさせられた。9月5日水曜日のSAT（サハリン航空が毎週水曜日1pm出発している定期便）で千歳での再会を誓って別れた。

この会談で早朝から熱心に交渉いただいた石垣PGとアリゾナのPhilip Silbers氏と交渉のセットをしていただいた、橋本2510地区前GSE委員長、そして10回に及ぶ会見までの連絡と当日の交渉を精力的に推進いただいた青木地区国際奉仕委員長にお礼を申し上げます。今後この事業が正式に決定しましたら月信で詳細をお知らせいたします。



クラブ活動 紹介

スリランカにベッドを 寄贈



福田武男 (千歳RC)

千歳市立病院より新築移転のため
不用になった医療用ベッドを提供し
ていただき、千歳ロータリークラブ
と千歳セントラルロータリークラブ
と合同で、貧困であえいでいるスリ
ランカの国立病院へ医療用ベッド
100台を寄贈しました。これは地区
の指導のもと、WCS (世界社会奉仕)
の一環として実施されたもので、ス
リランカの旧首都・コロンボ市の国際
ロータリー3220地区 コロンボロー
タリークラブと提携して行われたもの
です。

9月4日の当日は千歳神社祭りの
清掃作業のため5時からの早朝例会
を済ませ、8時から旧市立病院に両
ロータリークラブの会員50名以上が
集まり、パラマウントベッド社から
のボランティアで来ていただいた土
屋さんの指導のもと、5階建ての各
病室から全てのベッドを搬出し、外
で解体して室蘭海陸通運 (株) から
の2台のトラックに積み込む作業を、
皆慣れない手つきで行った。千歳民
報社からの取材もしていただき、最



ベッド積み込みの後



ベッド貼付シール

後にベッドに両ロータリークラブの
自家製のクラブ名の入ったシールを
貼りつつ、遠いスリランカでベッド
がなくて廊下で寝ている数百人の患
者さんたちに思いを馳せ、予想以上
に大変な作業でしたが、金銭の奉仕
だけではなく、一人ひとりが額に汗
をながしつつ顔の見える奉仕がで
きたことに、会員皆満足そうであ
った。「人の役に立つ」ということ
がどんなに「自分が豊になれる」か、改めて認識させられた活動でした。スリランカの人々に感謝・・・。

スリランカにベッド贈ろう

千歳RC、千歳セントラルRC
分解に汗、90台荷造り

ロシアの子どもたちの絵 展示風景

岡部文佳 (札幌北ローターアクトクラブ)

- ・8月17日(土)～8月22日(木)の期間、札幌国際プラザ(中央区北1西2)の2階・交流スペースにて、「広げよう 国際交流の輪～ユジノサハリンスクの子どもたちの絵展示会」と題して、絵の展示を行いました。
- ・国際プラザ・市民交流科の方々のご好意で、無料でお借りすることができました。問合せから展示までの期間が非常に短く、宣伝活動もほとんどできませんでしたが、まず第1回目の展示を実行するこ

とができました。

- ・次回は、ちえりあ(札幌市生涯学習センター、西区宮の沢1条1丁目1-10)に展示を予定



国際プラザの展示風景



絵の展示について～共同プロジェクト

札幌北RACとロシアRACとの
交流...2002年2月、札幌北RACと
ロシアハリンスクRACが交流。札幌北RACは雪像造り、ユジノRAC
は観光で、「一緒に何かやるうじやないか!」と共同企画が
持ち上がる

活動目標 1次世代へつながらる
の地域の
3共...を継続して行う

絵の展示テーマ「身近なもの
身近なものを描くことで、お互いに理解を深める

ローターアクトとは?

ローターアクトクラブ(RAC)は、ロータリー
クラブが青少年育成活動の一環として設立しました。
テーマは「条件を越えての親睦」。地域への国際交流
および様々な活動を通して、年齢・職業の異なる人々の
出会うことで自分自身、世界の人々とよりよい関係を築きます。
年に数回の公式行事では、ロータリークラブの方々、ローターアクト
留学生などとの交流があります。

札幌北ローターアクトクラブの紹介

- ・他クラブとの共同行事
- ・キャンプ、チャリティーイベント
- ・インドカレーパーティー(大盛況)
- ・月2回の例会、1回の理事会

エイジシューター おめでとう!!

武石忠俊会員 (千歳RC) は、9
月11日 (水)、シャムロックカン
トリークラブで開催されたコンペ
で、67のエイジシューターを達成。
武石氏は67歳、来年は地区代表幹
事。ゴルフも暫くおあずけか?

第三回

栗山RC旗争奪中学校野球大会

久住八郎（栗山RC）

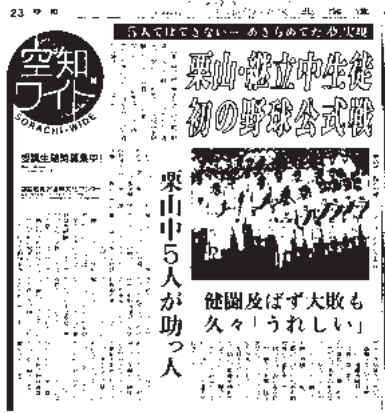
佐藤清夫会長の時に第一回目の大会が行われ、初めてのことで色々苦勞をされて開催されました。第二回目は松下留雄会長のもとで引き続き行われました。第三回目は第一回目、第二回目、の資料をもとに検討、改良して、土谷将人新世代奉仕委員



長と友成克司副委員長二人で色々苦勞され努力しました。そのひとつの考えが野球連盟推薦により推薦校が三校がはいることによって大会を盛り上げました。

学区内の異なる、江別市の江陽中学校、恵庭市の恵み野中学校との野球公式戦は中体連以外に考えられないと栗山中学校の校長先生が発言されていました。

私は感動した。閉会式、優勝、準優勝の表彰式のあとの個人賞、名前を呼ばれ、賞を受け取るときの球児の顔、顔、にこにことした、笑顔、笑顔、二日間の幹事としての苦勞が報われた瞬間でした。また私たちロータリーメンバーに新たなるエネルギーを与えてくれた笑顔でした。その証として、メンバーが来年は2510地区ガバナー杯中学野球大会を栗山で開催をと意気込んでいます。



市民参加の森づくり —「カミネッコンづくり」に挑戦

社会奉仕、新世代、環境保全委員会
(札幌モーニングRC)

知恵とマンパワーと資金、この3者がボランティア活動に求められるが、現実にはこれらが備わっていることは極めて少ない。知恵の学者のグループ、マンパワーの小中学校のPTA、そしてロータリーの資金とリーダーシップが一体になって、この



5月、6月に「市民参加の森づくり」が実現した。

平成13年8月、カミネッコンの東先生によるロータリーの例会での講演は、メンバーの多くに感銘を与え、これに応じて予算8万円弱で1,000枚のカミネッコンの作成を決定した。その後、中学校教官たちへの根回しに半年余かかったが、平成14年5月

カミネッコンとは

再生紙で作ったポットを組み立て、その中に培養土を入れて苗木や種を育て、河畔などに森をつくろうとするもので、この型枠は東先生が考案し商標登録した「カミネッコン」です。

ロータリーとカミネッコン、そして小中学校PTAの3者合同の「カミネッコンづくり」を行い、一ヶ月余の養生後、6月に「置植え」を行ったところである。この活動には第4グループ西岡前カバナー補佐も参加され、今後展開を考えたいとの抱負を述べられた。

一方、平成14年度全国国立附属学校園PTA、北海道・東北大会（7月9日、10日）でメンバーがこの試みを発表したところ、PTA役員の中に多くのロータリアンが含まれており、「これまで、PTAはPTA、ロータリーはロータリーとして別のボランティア活動と考えていたものが一体化した、目から鱗が落ちた」との評価を得た。そして現在、同中学校で来年の春の植樹にむけ、苗づくりを始めている。



市民のボランティア活動が高まり、多くの運動が輻輳しつつあり、かつそれらの参加メンバーも重複しつつあるのが現状である。ロータリーが独り自らの運動を展開する時代から、地域のリーダーとして多くの運動に指導的な役割を負うことも、今後の課題ではないだろうか。



夏を彩る三大イベント

中野孝一（苫小牧東RC）

—アフリカ音楽の世界を楽しむ

苫小牧RCと苫小牧東RCが共同で主催したアフリカンコンサート2002・ジャナグルin苫小牧が8月8日（木）午後6時半から苫小牧グランドホテルニュー王子で開催された。斉



藤英明実行委員長（苫小牧東RC国際奉仕委員長）の総司会で開会が宣言され、児玉和雄苫小牧東RC会長が日本とジンバブエの掛け橋になればと挨拶し開演した。

参加者は目のご不自由な方13名の招待を含め一般市民600名となり大盛況であった。

第一部は北海道を拠点に活動しているグループN.DANAによるケニアの伝統音楽やヨルバ民族に伝わる歌を演奏した。第二部ではアフリカ最大の音楽祭「ジャナグル」に所属するクライブ・マルンガをリーダーとするメンバー8名による伝統楽器ンビラ、ホショ、ンゴマを駆使しての熱い演奏を披露した。その軽快なリズムは聴衆を自然に踊らせ際限なく踊っているうちに閉会となった。

—子どもたちがアフリカ体験

夏休み子どもアフリカ音楽教室がジャナグル開演に先だって8月8日午後1時半から苫小牧グランドホテルニュー王子で開かれた。苫小牧RCと苫小牧東RCの主催。高校生以下を対象に無料で募集し、子どもたちと保護者合わせて250名が参加した。今

野陽三苫小牧RC会長はアフリカ音楽の世界を体験し伝統楽器にも触れて友好を深めてもらいたいと挨拶。子どもたちは元気良くメンバーの周りに集まりマラカスや太鼓と一緒に演奏したり歌を歌ったり踊ったりと、とても喜んでいました。



—苫小牧少年少女合唱団結団式開かれる

8月10日（土）午前10時より苫小牧文化交流センター（アイビープラザ）3階音楽練習室にて苫小牧少年少女合唱団の結団式が開かれた。苫小牧RC・苫小牧東RCによる「新世代のための音楽プログラム企画委員会」（委員長 今野陽三苫小牧RC会長 副委員長 児玉和雄苫小牧東RC会長）が発足し、小学生から高校生まで団員16名（登録25名）保護者10名、関係役員15名が参加しての結団式となった。



今野委員長は、一年前から準備を進めてきて色々障害はありましたが昭和34年以降実に半世紀ぶりに苫小牧に待望の子供のための合唱団が誕生しました。年齢差のある団員間の交流や音楽レベルの向上、人間形成に役立てて貰いたいと挨拶し、各団員に登録カードの授与式を行った。今後団員は毎週土曜日午前9時から

12時まで練習を行い、10月26日に開かれる第一回苫小牧市民合唱祭を目指すことになった。初練習では「さんぽ」「BELIEVE」を合唱しその美しい歌声に出席者は聞き入っていた。最後に山中保 苫小牧音楽連盟会長が大勢の子供達や市民に感動を与えさらにこの16名が30名、100名となるよう頑張ってくださいと激励の挨拶をして閉会となった。

ドジョウ7,500匹放流

江別RC

江別市内のアオサギ営巣地近くの川で6月21日、江別RCのメンバーが、アオサギの餌になるドジョウを放流した。

市内の河畔林にいるアオサギの営巣を助けるため、西村孚（現江別RC会長）昭和窯業社長の発案で、一昨年からのドジョウやカラスガイを近くの川に放流している。

西村社長をはじめ、同クラブ会員ら15人が参加。

体長8—10センチ、生後2、3年の新篠津産ドジョウ約7,500匹をクーラーボックス三つに分け川岸に持ち込み放流すると、ドジョウたちは思い思いの方向に泳いでいった。

西村社長は「アオサギの定着のため、来年以降も続けたい」と話していた。



心に残る記念植樹



高野正光 (栗沢RC)

第3グループの栗沢RCのガバナー公式訪問は7月23日に栗山RCと合同で開催しました。例会終了後、栗沢町にある重度身体障害者更正及び授産施設「北海道立福祉村」で、小林ガバナー、辻野ガバナー補佐、栗沢RC本田会長らにより、わが町の町木であるイチイの木を記念植樹いたしました。

この記念植樹は、昭和54年の「北海道立福祉村」の開村以来、20数年間毎年続いておりこの間の歴代ガバナーの植樹木が一部場所が違うもの

の、ズラリと並んでおります。この時すでに、福祉に対する慈愛の種が播かれていたのだらうと思います。

記念植樹後に小林ガバナーに思いもせぬ出来事がありました。

それは、すでに他界された友人の夫人（当施設の総合医療センター長の佐久間和子先生）が小林ガバナー



の来るのを知り玄関で待っており、二人は久々の出会いに感動していました。懐かしい出会いには、誰しもが感動を覚えるもので、心に残る一場面でした。その後、栗沢RCの会員でもある本庄施設長らの施設の説明、案内を受け本日の日程を終了いたしました。



会員の声



ロータリアンの平等性について

吉本 勲 (深川RC)

ロータリークラブでは、クラブ会長、ガバナー補佐、ガバナー、RI理事、RI会長という風にいわば「えらさ」のヒエラルキーが決まっている。

しかし「えらい」のはその任期限りであって、任期（おおむね一年間）が終わればタダの人にもどらなければならない（もっともそのキャリアと経験には一定の敬意は払われるであろうが）。

そして、ここにこそ、大中小のボスを作らぬためのロータリアンの深い知恵が潜んでいると言ってもよいのであるが、16世紀フランスの文人ラ・ボエシは「人々は自分の意志を大切にせず、それぞれのボスの言いなりになる。ボスの上にまたボスが出来て暴戾をあえてする。故に自分自身がボスを作らぬことに努め、頂上に座る大ボスには反対しなくてはいけない」という意味のことを述べ

ている。

ラ・ボエシの発言は政治の世界のことであるが、ロータリークラブでも自分自身がボスであると錯覚し、阿諛追従の徒を周囲に侍らせ、何事にまれ専制的に口を挟んでくる元RI理事、パストガバナーなどがもしあるとすれば、それは百害あって一利なく、ロータリアンの友情とか超我の奉仕とは完全に無縁の権力意志そのものの発現であることを批難されてしかるべきである。

要するにロータリーにおいては功成り名遂げた人々が専制的ボスにならぬこと、またそのようなボスを作らぬこと、このことは制度によるよりもむしろ個々のロータリアンの内面の意識にかかわる問題であるということをおわれわれは理解しなければいけない。



これの誕生



温故知新

大竹繁夫 (美唄RC)

2002年～2003年度の会長を承った時点でクラブ運営方針に「温故知新」を掲げることとした。

50数年前に旧制中学で教えられた「格言」（近頃の人々は単なる四文字熟語としか解さないことが多いが…）の中で現代を顧みるのに最も適した言葉だと思う。

ガバナー月信第12号に掲載の、札幌南RCなど主催の「堀知事と語る『若い心の輝く未来』」のパネルディスカッションで、21才の韓国留学生などから「日本は不景気で就職も大変だが、大学の図書館を見ても学習意欲が感じられない。若者に危機感がない」との留学生の辛口の評価があった。……とある。

現代は明治維新や昭和20年の終戦時などの様に、大きな変革の時代といわれて居ります。

この様なときこそ古い昔のことを

調べ尋ねて、ただ調べるだけでなく、新しい価値や、意義を、再発見して、現在に生かすという事が大切ではなからうかと存じます。

サハリンRCを訪問

高橋 宏 (札幌清田RC)

去る8月の初旬に北海道日ユ（日本ユーラシア）協会が主催するサハリン医療交流の旅に参加する機会を得た。北海道看護協会の会長で札幌北RCの大田すみ子会員も参加されていた。

サハリンRCは1997年に29人の会員で設立された新しいクラブである。この29人の設立会員の内14人が女性であることは、日本の状況との大きな違いを感じさせられた。大田会員が、自分は札幌北クラブで最初の女性会員であることを説明すると大いに興味を示していた。幸いに英語の通じる会員がかなりいたので、大田会員と私はそれぞれ何人もの人達と懇談し情報を集めると共に友好を深めることが出来た。特に会長のカスモフ氏とダシェフスキー幹事は親切に対応してくれた。

当日は例会の中でローターアクトが行ったプロジェクトの報告会が行われていた。彼らは目の見えない人達が図書館を利用出来るように、本や新聞等の印刷物をコンピュータに



読み取らせそれを音声に変える装置を図書館に寄贈した。

図書館長は今までに受けた寄贈品の中で最も素晴らしい贈り物であると感謝の言葉を述べていた。このロ

ーターアクトの活動はロシア全州で徐々に広がり、全盲者でも音声入力インターネットを活用して大学に行けるようになるとの声が語られていた。例会全体の印象としてはセ



レモニー的な部分が殆どないことだった。点鐘も会長の挨拶もなかった。札幌での例会しか知らない私には印象深い外国での初めてのメーキャップであった。

留学生はお国の“歌”一曲でも、“愛嬌一芸”持参を手土産に

野澤幸平 (岩内RC)

『GSE』での素晴らしい体験への感謝の気持ちから受け入れに参加して19年目。8月20日、今年も“暑い夏”『国際交流の集い』（11日間）に留学生がやって来た。岩内ロータークラブ例会での交流、毎年留学生の来町日程に合わせ例会日を変え歓迎してくれる岩内アサヒビール会（千葉正憲会長：岩内RC）、岩内のお母さんではなくお姉さんとなって迎えてくれる国際ソプロチミスト岩内、本年度初めて理事長主催交流プログラムを準備して頂いたJC青年会議所。いつも“優しい微笑み”茶道の先生と……。

労働交流は野澤水産にて朝早くから数の子製造手伝い。工場の岩内美人？従業員との会話で日々日本語が上手くなるGOODな交流。少しでも“浜ナマリ”も日本語バイリンガル。

是非、留学生に準備をしてもらいたい。自国の“歌”一曲か“愛嬌一



芸”を、上手な日本語カラオケよりずっと良い。あなたはお国の民間外交官だから。留学を準備されている日本の若者も、語学も大事だが芸に磨きを、どれほど交流の良き潤滑油になってくれるか。

今年はこれで終わらなかった。25日道内各地を公演したアフリカ、ジンバブエのミュージシャン8名が北海道最後の訪問地として岩内にやって来た。

子供たちとボーリング交流そしてジンギスカンパーティ。当日は我が家にホームステイ、留学生とも交流。屋外ライブを準備していたが当日は風雨が激しく急遽会場変更。直ぐに岩内ロータリアンに号外FAX案内。大橋会長、武井幹事そしてご夫婦で参加とロータリアンの顔があちこちに。

来年はまたどんな爽やかな瞳の留学生が……妻、優美子に感謝しながら今年も無事終了。

事務所だより

■地区大会（11月16・17日）が来月に迫りました。登録の追加・取消・変更届は、10月20日が締切期限です。その後の取消については、お申し出が有りましたが、登録料等はお返できませんのでご注意ください。
なお、地区大会の記念行事第1弾として、10月6日（日）に記念ゴルフ大会が開催されます。

■地区大会の会場に、地区内全クラブのバナーと会報を展示する予定です。10月20日までに、大会事務局（ガバナー事務所）へお送り下さい。
■「会員数および出席報告書」が、R Iへの報告の関係上、変わりましたので、お間違えのないようお願い致します。
■クラブ例会変更のご連絡は、早めに事務局へご連絡下さい。

掲示板

○例会変更

札幌あけぼのRC

10月の例会より、毎週金曜日12:30～13:30、但し、第1週目は定例夜間例会（18:30～19:30）にて開催

札幌はまなすRC

例会場改修工事につき、下記7回の例会をホテル札幌会館（札幌市北区北17条西4丁目 Tel 011-726-1341）で開催

10月15・22・29日（火）

11月 5・12・19・26日（火）

小樽南RC

10月11日（金） 職業例会 12:30点鐘
場 所 かま栄 本社工場

室蘭東RC

10月30日（水） 特別休会

○訂 正

①月信9月号13頁「CAPの応募について」「申込期限：平成15年4月15日迄」とご案内いたしましたが、9月6日付で前年度とは異なり、申請書受付期日が2002年9月15日から2002年12月31日までと案内が届きました。早めに計画を立てて、ご応募下さいますようお願いいたします。

〈お問合せ先〉 RI第2510地区財団補助金委員会
委員長 伏木 忠了
TEL 011-272-3911

②月信9月号 p3
中島治郎氏→治一郎氏

ピチヤイ・ラタクルR I 会長の説かれる愛。
わたしの主張するフレンドシップ。
そして、ヒトと環境の調和。

吉 本 勲 （深川RC）

神経科吉本病院

TEL 0164-22-7130（代）

広告

8月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率	
			02.7.1	02.8.31	増減	内女性		
1	深川	3	46	45	-1	2	90.49	
	羽幌	4	47	47	0	1	81.69	
	妹背牛	4	12	12	0	0	64.58	
	小平	4	15	17	2	1	64.70	
	留萌	3	69	70	1	0	82.06	
	小計			189	191	2	4	76.70
2	赤平	3	37	37	0	1	89.20	
	芦別	3	60	60	0	0	91.22	
	砂川	3	61	61	0	0	91.52	
	滝川	4	108	112	4	2	76.50	
	小計			266	270	4	3	87.11
3	美幌	4	48	48	0	0	87.22	
	江別	4	50	50	0	2	88.77	
	江別西	3	41	42	1	3	92.58	
	岩見沢	4	97	102	5	0	91.92	
	岩見沢東	3	33	34	1	3	90.20	
	栗沢	3	35	34	-1	2	90.78	
	栗山	3	34	35	1	2	93.94	
	当別	3	46	46	0	0	92.38	
	小計			384	391	7	12	90.97
	4	札幌	3	120	126	6	0	99.68
札幌あけほの		4	19	19	0	1	100.00	
札幌はまなす		3	29	29	0	4	83.91	
札幌北		3	58	58	0	7	81.06	
札幌モーニング		3	61	63	2	0	84.41	
札幌西		3	75	78	3	2	92.54	
札幌西北		4	52	54	2	2	91.43	
札幌手稲		4	52	51	-1	0	98.55	
小計				466	478	12	16	91.45
5		札幌東	4	123	125	2	0	99.34
	札幌清田	3	26	27	1	5	94.67	
	札幌幌南	4	88	86	-2	0	99.41	
	札幌真駒内	3	50	50	0	2	97.21	
	札幌南	3	97	98	1	0	98.48	
	新札幌	3	42	43	1	2	85.71	
	札幌大通公園	4	17	18	1	5	83.82	
	札幌セントラル	4	0	23	23	7	100.00	
	小計			443	470	27	21	94.83
	6	岩内	4	37	37	0	0	86.48
倶知安		4	54	54	0	4	81.00	
小樽		3	96	94	-2	0	86.78	
小樽南		4	86	88	2	0	90.74	
小樽銭函		4	20	20	0	2	85.00	
蘭越		3	18	18	0	0	72.90	
余市		3	49	49	0	4	81.46	
小計			360	360	0	10	83.48	

クラブ数 72クラブ
 期首会員数 3,461人*
 当月末会員数(女性) 3,526人(101人)
 増加会員数 65人
 当月平均出席率 84.91%
 *9月号では、期首会員数が3,462人となっておりますが、数クラブより訂正の報告があり、正しくは3,461人となっております。

グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率	
			02.7.1	02.8.31	増減	内女性		
7	千歳	4	74	74	0	2	86.80	
	千歳セントラル	3	33	36	3	0	83.30	
	恵庭	3	50	49	-1	0	71.58	
	北広島	3	16	16	0	2	91.12	
	長沼	3	18	18	0	4	80.70	
	小計			209	211	2	9	84.18
8	えりも	4	27	27	0	0	86.11	
	三石	5	20	20	0	1	94.00	
	様似	3	24	24	0	2	80.10	
	静内	3	68	68	0	0	91.66	
	浦河	3	44	41	-3	1	92.98	
	小計			183	180	-3	4	88.97
9	伊達	3	53	56	3	0	75.47	
	室蘭	4	66	68	2	0	87.73	
	室蘭東	3	56	56	0	1	91.50	
	室蘭北	3	52	52	0	2	81.41	
	登別	3	40	40	0	2	82.50	
	洞爺湖	4	14	14	0	0	100.00	
小計			281	286	5	5	86.44	
10	函館	4	101	107	6	0	78.05	
	函館亀田	3	51	52	1	1	82.10	
	七森	3	51	51	0	0	81.00	
	長万部	3	33	32	-1	0	81.00	
	小計			247	253	6	1	76.43
	11	江差	4	20	20	0	0	64.10
函館五稜郭		4	71	73	2	0	86.51	
函館東		5	67	68	1	6	81.77	
函館北		3	46	50	4	0	76.09	
上磯		4	34	34	0	3	69.10	
小計				246	253	7	10	73.43
12	白老	3	34	34	0	1	83.00	
	苫小牧	4	68	66	-2	0	87.30	
	苫小牧東	5	33	33	0	3	81.81	
	苫小牧北	3	52	50	-2	2	87.56	
	小計			187	183	-4	6	84.91
	合計			3461	3526	46	101	84.91

素敵な思い出に残るひとときをいつでも皆様に...

ご宿泊冬期割引
 (02. 10. 1~03. 5. 31)
 03. 2. 1~2. 10
 及び
 ゴールデンウィーク期間を除く

シングル 4,500円 (サービス料込・税別)
ツイン 8,400円 (サービス料込・税別)

北海道厚生年金会館

ウエルシティ札幌
 〒060-0001 札幌市中央区北1条西12丁目 TEL 011-231-9551

訃報

岡本義晴会員
 (千歳RC)
 平成14年9月2日ご逝去
 (享年57歳)



《ロータリー歴》
 平成14年7月入会

「ロータリーの特色は役員などは1年しかやれないことです。これが大前提です。自分がその役になったら精いっぱいやる。辞めたときは次の人の方針に協力すればいい。こういう体制があるからロータリーはうまくいく。いつでも自由で、民主的なことが定款細則の基本です」
 (ロータリーの友9月号より)

国際ロータリー第2510地区 2002-2003年度 ガバナー月信

発行人 2002-2003年度ガバナー 小林 博
 発行元 国際ロータリー第2510地区
 2002-2003年度ガバナー事務所
 発行日 毎月1日発行 年12回
 編集委員 ◎竹原 巖 (地区幹事) 委員長
 大田すみ子 (地区幹事)
 熊谷 満 (地区幹事)
 脇田 稔 (地区幹事)
 米山道男 (アドバイザー)
 松本 新 (アドバイザー)
 事務局 札幌市中央区大通西6丁目
 北海道医師会館6F
 TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526
 E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510
2002～2003年度
地区大会

咲かそう、慈愛の花。

11月16日^{SAT}・17日^{SUN}
場所／北海道厚生年金会館
記念懇親会／ロイトン札幌

- 記念ゴルフ大会／10月6日(日) 国際カントリークラブ 島松コース
- 記念囲碁大会／11月10日(日) 札幌アスティ45

ホストクラブ札幌北ロータリークラブ

10・11月地区カレンダー

10月 職業奉仕／米山月間		11月 ローターリー財団月間	
日	曜日	日	曜日
1	火	1	金
2	水	2	土
3	木	3	日
4	金	4	月
5	土	5	火
6	日	6	水
7	月	7	木
8	火	8	金
9	水	9	土
10	木	10	日
11	金	11	月
12	土	12	火
13	日	13	水
14	月	14	木
15	火	15	金
16	水	16	土
17	木	17	日
18	金	18	月
19	土	19	火
20	日	20	水
21	月	21	木
22	火	22	金
23	水	23	土
24	木	24	日
25	金	25	月
26	土	26	火
27	日	27	水
28	月	28	木
29	火	29	金
30	水	30	土
31	木	1	日

行事内容:

- 10月 職業奉仕委員会 札幌市北9条小課外授業
- 10月 第2500地区 地区大会(釧路市民文化会館)
- 10月 地区大会記念ゴルフ大会(国際カントリーコース、6:30)
- 10月 ローターリー市民講座「がんと人間」(札幌中央区民センター、14:00～16:00)
- 10月 札幌幌南・札幌清田・札幌真駒内・札幌大通公園RC会長幹事懇談会
- 10月 第3グループ研修会(美唄)
- 10月 GSE派遣メンバー選考委員会(13:15)
- 10月 DPI開会式
- 10月 第3830地区GSEチーム来札(JL565、19:55)
- 10月 滝川・砂川RC公式訪問(18:30、滝川スエヒロ)
- 10月 札幌幌南・札幌清田・札幌真駒内・札幌大通公園RC公式訪問(12:30) 諮問委員会、指名委員会(札幌クラッドホテル、18:00～)
- 10月 札幌清田RC5周年記念式典(16:00、ルネッサンスホテル)
- 10月 札幌南RC公式訪問(12:30)
- 10月 恵庭・北広島・長沼・由仁RC公式訪問(18:30、恵庭)
- 10月 家庭奉仕委員会ワークショップ(18:00)
- 11月 インターアクト週間(11/5を含む週)
- 11月 地区大会記念囲碁大会(日本棋院北海道本部囲碁会館、11:50)
- 11月 地区年次大会(北海道厚生年金会館、13:00～)
- 11月 地区年次大会(北海道厚生年金会館、ロイトン札幌) 9:00～
- 11月 第3830地区GSEチーム帰国(JL562、14:25)
- 11月 ローターリー研究会、ガバナー会(大阪)
- 11月 ガバナー・エレクト研修セミナー(大阪)



室蘭市の「花」……………ツツジ

室蘭港開港100年、市制施行50年の記念事業として、市民から募集、昭和47年に定められました。一般家庭で栽培され、愛好者もたくさんいます。栽培される種は、エゾムラサキ、レンゲ、クルメ、キリシマツツジなど多種ありますが、指定は特に種を定めずツツジ類全般としました。



東日本最大のつり橋……………白鳥大橋

夢の大橋とさえ言われたこの橋ですが、室蘭地域の経済の成長に伴いその必要性が強く叫ばれ、官民一体の運動が実を結び、昭和56年に事業化が決定、同60年に工事が着工、平成10年6月13日に開通しました。全長1,380m、中央径間が720mで、世界で28番目、日本で10番目、東日本では最大の吊り橋です。また、日本で初めて、環境にやさしい風力発電を利用して、橋にライトアップ、イルミネーションが施されています。橋のもとには、これまでの工事の歩みや、貴重な資料などを展示する「白鳥大橋記念館」（愛称・みたら）が建てられ、シーズンになると、観光客で賑わっています。

●白鳥大橋の代表的なビューポイント

- ①祝津公園展望台 ②潮見公園展望台
- ③八丁平展望台 ④白鳥湾展望台



国際ロータリー第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

2002-2003 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER No.5

ガバナー月信

11月号
November

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR 小林 博 KOBAYASHI HIROSHI

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp

地区内にロータリアン3,600人が集う
年に一度の地区大会 11月16日-17日



RI会長代理

佐野 康博



第2580地区ガバナー

前川 昭一



第2500地区ガバナー

小船井 修一



第2570地区ガバナー

牛窪 栄吉

財団月間に寄せて 一襟を正す勇気をもとう



小林 博

書きにくいことだが、今回は「RI会長の謝礼」の問題を考えてみたい。「ロータリーの友」9月号（The Rotarianの9月号にも）にショッキングな記事が載っていた。2002年6月のRI理事会決定事項として、理事会はRI会長に対する謝意の表明（expression of appreciation）として2002-2003年度会長に米貨11万5千ドル、会長エレクトに8万ドル、並びに会長ノミニーに2万5千ドルを支払うことを承認したというのである。これは長年の慣習として行われてきたもののようで、今回初めて一般会員にも公開されることになったようである。果たしてこの慣習を一般会員はどう受けとめるであろうか？ 日本円に換算すると毎年2,600万円以上の謝金である。

2510地区におけるガバナーの公式訪問に先立つクラブ会長幹事との懇談会などの席上でも、日本のロータリーは国際ロータリーを脱退して独立のロータリー財団を発足させるべきであるという強硬な意見さえ出てきた。その背景にはロータリーの最上位組織（国際ロータリー〈RI〉とロータリー財団〈TRF〉）に対する不透明感があるのではないかと私は思う。不透明感が年を重ねることによって、無力感から不信感に繋がってしまう危険性がある。

私はガバナーとしての立場上、RI理事の板橋敏雄さんにさきに述べたRI理事会の6月決定についてのご意見をお伺いしたところ、すでに他のガバナーからも同じ様な意見を寄せられているとのこと。板橋RI理事は皆さんの声を次回のRI理事会には率直に申し伝えるとの確約をしてくださった。

問題は謝意の表現は当然なこととして、その金額が適当かどうかということである。この世界不況の中にあって、ロータリーがまじめなボランティア組織だからである。これからもロータリーが生き伸びるために、RIの会長、会長エレクト、並びに理事会の全員がまず襟を正し、1人ひとりの会員（ボトム）の声を謙虚に聞いてほしいと思ったのである。

我々はロータリー財団を心から支持するものである。国際ロータリーに対しても全く同じである。ただ誕生して100年近い歴史を顧みるとき、自らを厳しく裁く勇気を忘れてはいけないのではなからうか。万一誤りがあれば襟を正す勇気を持ってロータリーを健全なものとして発展させていかなければならない、その責任がすべてのロータリアンにあるように思う。

最後になったが11月は財団月間である。ロータリー財団の使命は「地域レベル、全国レベル、国際レベルの人道的、教育的・文化交流プログラムを通じてロータリーの行動とロータリーの使命を遂行し、かつ世界の平和を達成しようとする国際ロータリーの努力を支持することである」となっている。

2510地区でもロータリー財団への年次寄附並びに恒久基金の総額は2001-2002年度、目標額32万ドルに対し298,736.64ドルで、1人当たりの寄附額は81.39ドルとなっている。これは全国平均の94ドルよりはすこし少ないが、世界の平均寄附額55ドルよりは明らかに高い。

2002-2003年度の地区目標額は前年度の32万ドルより下げて25万ドルとした。これは換算レートの変動、地区の経済的な背景などを考慮したものであるが、寄附額がいま不況とはいえ目標を超えることを願っている。

目次

ガバナーレター	小林 博	2	クラブ活動紹介	21
ロータリー財団月間にちなんで		3	札幌はまなすRC・七飯RC・苫小牧東RC	
文庫通信		4	骨髄バンク支援チャリティーバザー開催	竹原 巖 22
ロータリーの歴史に学ぶ(3)	西條正博	5	会員の声	23
詳しく知りたいロータリー財団	脇田 稔	6	川田憲秀(白老RC)・中川喬雄(札幌手稲RC)・	
「ポリオ撲滅キャンペーン」について	川田憲秀	7	佐々木実(深川RC)	
ロータリーQ&A		8	事務所だより	24
ガバナー日記		9	掲示板	24
ガバナーとの対話		11	ワークショップに参加しよう!!	25
地区大会が間近になってきました!		14	9月会員増減数・出席率報告	26
地区大会プログラム		14	ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます	26
地区大会記念ゴルフ大会一和やかに開催		15	訃報	26
地区活動紹介		16	11・12月地区カレンダー	27
職業奉仕委員会・家庭奉仕委員会・社会奉仕委員会・補助金委員会・国際親善奨学金委員会・友情交換委員会・GSE委員会				



財団の歴史、目標、組織の概要

国際ロータリー (RI) のロータリー (R) 財団は、6人目のRI会長アーチ・クラフ氏の提唱で1917年に基金として発足し、1928年国際大会で「ロータリー (R) 財団」と名付けられた。1931年に信託組織となり、1983年に米国イリノイ州の法令の下に非営利財団法人となった。財団の法人設立定款および細則に従って、R財団管理委員会が慈善的、教育的目的のためにのみ運営されている。

博愛、慈善、教育または人道的という特質を持つ明確かつ効果的なプログラムの促進を通じて、さまざまな国の国民のあいだに理解と友好的関係を助長することを目標としている。

R財団事務総長はRI理事会によって選ばれたRI事務総長が当たり、RI理事会の承認を得た13名の管理委員会の委員と任務を遂行する。更に、RI理事会とR財団管理委員会は、各ガバナーに就任のかなり前に、地区R財団委員会を設置し、パストガバナー (PG) を委員長に任命することなどを決定している。

RI理事会とR財団管理委員会は、毎年11月を「ロータリー月間」とし、月間中全クラブは少なくとも一つの財団プログラムを実施し、プログラムの支援、推進、参加を行うよう示唆している。関連記事 (月信11月号6~7頁)

R財団プログラムの概要

R財団のプログラムは次のようになっております。

I. 教育的プログラムとして

1. R財団国際親善奨学金：

RCの所在する他国で勉強または研修を受けるために授与されるもので、幾つかの種類が利用される。関連記事 (月信8月号7頁および22頁、9月号6頁、11月号18~19頁)。

2. 大学教員のための補助金：

低所得国での高等教育を強化しながら、国際理解と友好を推進するための補助金で、教育とボランティア奉仕とを結び合わせたものである。

3. 国際問題研究のためのロータリー・センター：

平和および紛争解決の分野における国際問題研究のため、世界の名門八大学と提携し、7つの国際問題研究のための7つのセンターを設立し、70名のR世界平和奨学生を7つの各センターにそれぞれ10名を指定し、後援する。

II. 文化交流プログラムとして

研究グループ交換 (GSE)：

関連記事 (月信8月号7頁、10月号7頁、11月号11頁および20頁)

III. 人道的プログラムとして

1. 国際人道的プロジェクトのためのマッチング・グラント (同額補助金)：

RCと地区が他国のロータリアンと協力して人道的な世界社会奉仕プロジェクトを遂行するのを援助する。

2. ヘルピング・グラント：

RCがない地域、あるいは地元RCがプロジェクト実施地に近付けない、または遠いという理由で、かなりの人数のロータリアンの参加と監督が得られない地域で国際奉仕プロジェクトを実施できるようにするための補助金支援である。

3. 災害救援補助金：

地区はRIが承認する災害を支援する目的で地区財団活動資金をしようできる補助金。

4. 保健、飢餓追放および人間性尊重 (3-H) 補助金：

国際間の理解、親善および平和を促進するための方法として人々の健康状態を改善し、飢餓を救済し、人間的、社会的向上発展を図るための補助金。

5. 3-H計画準備助成金：

RCや地区が3-Hプロジェクトを計画するにあたっての事前準備に授与する助成金。

6. ロータリー・ボランティアのための補助金：

RIロータリー・ボランティア・プログラムに登録しているロータリアン、財団学友、ローターアクターが他国で奉仕する場を見つけ4-8週間奉仕する計画をたてて申請する補助金。

7. 世界社会奉仕カール・ミラー助成金と地区財団活動資金による世界社会奉仕助成金：

当初、元会長のカールP・ミラー夫妻の寄付により設立されたもので、2カ国以上のクラブと地区の参加する大規模な協同奉仕活動になる可能性をもつ国際奉仕プログラムを支援する。また地区財団活動資金を世界社会奉仕助成金を申請することもできる。

8. プレーン地域社会予防接種補助金（試験的プログラム）：

RI第6440地区PGジャック・プレーンによる大口寄付により設置されたもので、地域社会における予防接種を改善するプロジェクトを目的とし、米国内のRCだけを対象とした補助金。

9. 新人道的補助金：

この補助金は、地区財団活動資金を通じて調達されるので、地区財団活動資金を配分した地区において、R財団の使命とロータリーの理想にかなっているが、既存の財団プログラムの補助金授与条件を満たすことが出来ない斬新な国際奉仕プロジェクトをきかく、着手するときに受けることができる補助金。

10. 地域社会援助プログラム（CAP）（試験的プログラム）：

CAPは地元地域社会あるいは自国で、プロジェクトを実施する機会をロータリアンに与えるもので、クラブ/地区という共同体を充実させ、地元地域社会におけるロータリアンの関与を増し、その地域との関係を強化するための手段として、社会奉仕プロ

ジェクトに対し、資金を提供するものである。

関連記事（月信8月号7頁および9月号13頁）

11. 人道的物資の輸送補助金（試験的プログラム）：

RCおよび地区に寄贈された人道的物資と器材を国から国へ輸送する経費を賄う資金を提供する。

12. 平和プログラム：

協力、親善、開発を推進する創意あふれる活動を支援する補助金。

13. ポリオ・プラス：

RIの特別プログラムであり、ポリオの撲滅の証明が達成されるまで、他のすべてのプログラム以上に優先される。関連記事（月信9月号16頁）

14. ポリオ・プラス・パートナー：

ポリオ発生地域のロータリアンを援助し、ポリオの撲滅に必要な用具や補給品を提供するなどポリオ撲滅が完了するために必要な資金の補足などを行う。詳細は「R財団要覧」など参照。

ロータリー財団への寄付の概要

1. 一般寄付：年次プログラム基金、ポール・ハリス・フエローなど

地区が最大限プログラムに参加できるように地区の年次プログラム基金への寄付の60%は地区財団活動資金となり、残りの40%の国際財団活動資金は、他の財団プログラムの資金となる。但し、寄付年度の3年後にプログラムに使うことになる。（シエア・システム）

2. 用途指定寄付：ポリオ・プラスとポリオ・プラス・パ

ートナー、同額補助金、冠名奨学金

3. 基金：恒久基金（遺贈など）、冠名奨学金基金、冠名基金など

尚、R財団が自発的寄付の基礎のうえに発展してきた事実を鑑み、財団への寄付は税制上の優遇措置を受けることができる場合もある。

文庫通信



「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

先輩ロータリアンの主張から

◎「ロータリーの良さ」

山本爲三郎 ロータリーの友：1954・5月 1p

◎「ロータリーは何故必要か」

絹川 清 ロータリーの友：1954・12月 1p

◎「ロータリアンになってどんな得(とく)があるか？(1)(2)(3)」

茂地 庵 ロータリーの友：1953・10・11・12月 5p

◎「会員はクラブの事業に対してどの程度の責任を負うか(シンポジウム)」

ロータリーの友：1962・6月 2p

◎「ロータリー精神の探求」

長瀬富郎 ロータリーの友：1956・4月 2p

◎「ロータリーの質と量について いまやロータリーの原石を磨くと」

直木太一郎 ロータリーの友：1960・8月 2p

◎「ロータリーの質と量について 質と量はロータリーの車の両輪」

柏原孫左衛門 ロータリーの友：1960・8月 2p

◎「‘心の温かさ’こそロータリーの推進力」

松本兼二郎 ロータリーの友：1973・6月 4p

◎「指導者道一愛はおしみなくー」

佐々木統一郎 1973 3p

◎「口あいてはらわたみせあう柘榴かな」

今田 恵 ロータリーの友：1968・3月 4p
(ききて 富永賢吉)

[上記申込先：ロータリー文庫（コピー）]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

ロータリーの歴史に学ぶ(3)

.....地区研修リーダー 西條正博 (札幌RC PG)

次の名場面を何かで読んだり、あるいは、聴いたりした記憶がありませんか？

「1908年のある夕べ、ミネアポリスの理髪店の椅子から、その組んでいた長い脚を解いて、ひょう然と戸外に現われたシェルドンの頭脳は、まさに『最もよくサービスをなす者は最も多くを利益す』の思想を鍛錬しておえていた。」

これは、ポール・ハリス著、米山梅吉訳「ロータリーの理想と友愛 (THIS ROTARIAN AGE) の、第8章天の佑 (タスケ) の5頁を割いて、ミシガン生れのアーサー・フレデリック・シェルドンの標語が生まれた経緯を詳細に記述した文章のなかの一節です。

ポール・ハリスは更に続けて

「最も善くサービスを為す者は最も多くを利益す」の標語は、世俗に過ぎはせぬかという非難もある。またシェルドンがこの思想の中に観念した報酬とは物質的なるものか、それとも精神的なるものかと問う人がある。」と、この標語に対する疑問をとり上げて、

「著者*ポール・ハリス)の信ずるところによれば、シェルドンは彼自身に関するかぎり、いわゆる精神的報酬に主眼をおくものである。ただし彼の目的は、最大多数の人々に最大限の幸福をもたらすにあって、その最大多数の人々は物質的利益に多くの関心をもつという事実を彼はよく認識していた。故に彼の目標とした人々はこの物質的利益を追求する人々であるということになる。」

と解説しております。

どのような動機によって、シェルドンは、サービスという概念に到達したのでしょうか。

「あたかも消費者のためには『消費者は自ら守れ』の原則が適用され、悪意と不信用とが実業上の競争を特質付けていた当時であり、被傭者の福祉の如きは全然顧みられなかった当時であったが、シェルドンはかかる一般の通弊の

うちに或る注目すべき異例があることを発見したのである。それは寛容を以て適正公明に経営された商店または会社の中に、最も成功しているものがあるという事実であった。ここにおいて彼はその成功の秘訣が何処にあるかを考究した結果、従来の印象を次第に打消して新たなる断定を下した。曰く永続的成功を保証する唯一の信頼すべき方法がある。よく他人のために尽すこと即ちサービスがそれであると。」

「他人が漠然と考えていたことをシェルドンは明確に把握したのである。即ち成功は無慈悲なる貪らんや我利の根性に依存するのではなく、サービスの法則が適用される所から生れる不可避の結果だと信じたのである。彼の見た所ではサービスの法則は、引力のその如く厳として誤りのない自然の法則であった。」

ポール・ハリスは、シェルドンがシカゴ・ロータリー・クラブに入会してきたことを「天の佑」と称賛したのであり、シェルドンの標語は、遂に、ロータリーのスローガンとなったのであります。

しかし、ミシガン大学の経営学の博士号を持ち、自分の考え方に信念をもっていたロータリーの哲人、シェルドンと、シカゴ法曹界の重鎮である弁護士、ロータリーの創設者であるポール・ハリスとの間には、次第に意見のくい違いを生ずるようになり、シェルドンは1930年にシカゴ・ロータリー・クラブを退会し、1935年にはこの世を去っています。シェルドンの墓碑には「経営の科学者・著述家・講演者」と刻まれているそうです。

ポール・ハリス著、「ロータリーの理想と友愛」の復刻版がロータリー文庫から発行されていますので未だ残部があるかも知れません。ご希望の方は直接文庫宛にご照会下さい。



(((詳しく知りたいロータリー財団)))



地区幹事 脇田 稔

本年4月14日の地区協議会分科会の会長部門において、横内隆文氏（江差RC会長）から、「地区財団活動資金が60%から50%に引き下がります。」という説明に関連して、次のような質問を頂いた。

質問1：経済が疲弊しており、寄附の増額を求めることも必要だが、ロータリー財団の運営に問題点はないか。

質問2：特に、米国市場における株価の乱高下は、ロータリー資産の運用に悪影響を及ぼしてはいないか。ということが骨子であった。

その場では地区から十分な回答ができなかったため、ガバナーエレクトが横内会長に改めて質問を纏めていただくよう依頼し、これを財団室長片岡暎子氏に仲介することとした。以下は、横内会長と片岡室長との間の質疑応答の概略であるが、きわめて詳細な質疑応答で、財団の運営を理解するために貴重な情報と考えられるので、財団月間に当たり、月信に掲載するものである。



江差RC会長
横内 隆文

横内会長は、上記の質問に加えて、投資収益と運営費との関連性が良く理解できないこと、それが会員の耳に届いていないと思うこと、ロータリーの財団資金がどのようなファンドを通じて投資されているか情報が開示されるべきであること、という内容を主とする詳細な質問事項と共に、会員に不安を抱かせるような運営はロータリーに相応しいだろうか、情報が日本にだけ情報が流れないのだろうかという疑問をあげておられる。この質問書は、6月17日付で、国際ロータリー日本事務局財団室にファクスにて送付された。

これに対して、財団室長片岡暎子氏は7月1日付けて、横内氏の質問に対して以下のような回答をガバナー事務局に寄せられた。これは同日横内氏に送られた。

地区財団活動資金DDFが60%から50%になるのは、2006-07年度からであり、国際財団活動資金は不足しているが、地区財団活動資金の残額が多いことが理由であること。日本

の場合、奨学金の辞退が世界平均の2倍以上であるため、どうしても地区財団活動資金の残額が増えること。財団は寄付額よりはるかに多額の支出をしていて、これは投資収益によってまかなわれていること。財団運営費が増加しているのは、1999-2000年度から増進費を運営費に繰り入れたためであること。株の投資管理ならびに投資内容については、ロータリー財団発行の年次報告をご覧ください。ロータリーの友は地域雑誌なので、詳細については、ロータリー財団の公式出版物を読んでいただきたいこと。インターネットではさらに詳しい数字を公表していること。株価の下落については、RI事務総長が来日したとき、質問したが、株は下がったが、売っていないので、ペーパーロスに過ぎないとの回答であったこと。赤字を出したのは確かであり、予備費で補填し



RI日本事務局財団室長
片岡 暎子（川口西RC）

たこと。質問1の経済が疲弊している、ということだが、ロータリー財団の希望は1人当たり100ドルの寄付なので、それほど難しいことではないのではないか。質問2の米国市場の株式乱高下はもちろんロータリー資産運用に悪影響を及ぼすが、慎重に運用するほかないのだと思う。必要なら、ロータリー財団年次報告を送る。以上が論旨であった。

これに対して、横内氏は、7月2日付で、ガバナー事務局に再度質問書を寄せられたので、ガバナー事務局はこれを財団室長片岡暎子氏あてにファクスで送付した。

横内氏の質問は、1) 疑問に答える情報が「年次報告書」のどの部分を指し示して、解釈はこの様になると、お答えいただきたかった。2) 現状がどの様なものか、また、①容認できないような投機対象に資金を提供していないか、②投資による収支が変化したとき、財団の資金運用がどのような方針で、どのような意志決定機関によって行われるのか、最終的に財団活動資金の支出が、将来どのように変化するか知りたかった。このような内容を前文としたもので主な質問事項は以下のようにになっている。

交換留学生を毎年のようにやりとりしているクラブから、「クラブにより負担が増える事にならないのか？」との質問が出ていること。財団奨学生に関する条件の緩和や、弾力的運営の可能性。2000-2001年度になり誓約金が10万ドルになっている点。事務総長はペーパーロスと言われだそうだが、株価が今後さらに下落するかもしれないこと。予備資金とは何か、ロータリーの友誌に出ている年次報告書には、記載がないこと。日本全国のロータリアンの希望寄付金額は1人当たり100ドルなのか。「慎重に運用するほかないのだと思います。」とは、財団の最高意志決定機関が、そのように述べているのか、それは、どの様にすれば確認できるのか。ロータリー財団年次報告は是非頂きたい。また、詳しい資料があったらお教えて欲しい。以上のように多岐にわたるものであった。

これに対し、片岡氏は7月2日に上記の質問に回答を寄せられた。

ロータリー財団は、読みきれないほどの情報を開示している。これは世界のロータリアンに、すべてを読めということではなく、必要な情報を引き出すことが出来るようにとの配慮である。国際ロータリーの理事会には19名のうち日本人は2名。その方針にしたがってロータリー財団管理委員会（日本人は1名）が資金を使う。財団は複数の投資会社を選んで監視している。財団が容認できないような投機対象に資金を提供するはずはないと確信している。投資収益が減れば、当然、活動を縮小せざるを得ないが、各地区が選択したDDFの用途を縮小するようなことはない。3年サイクルのシェア・システムのため、必ずしもすぐ縮小はできない。財団は3年前の寄付を使う。3年間投資に使えることが長所である。

疑問の点に関しては：交換留学生は地区のプログラムでロータリー財団のプログラムではないこと。1人の奨学生に480万円程度の寄付が必要で、貴重な寄付なので、慎重を期すに超したことはないと思う。財団は資産をインターネット他で公表しているのでいつでも確認可能である。100ドルの寄付は、各地区のロータリアン代表議員が参画した規定審議会決

定の2005年までの達成目標で、ロータリー財団の押し付けではない。予測不可能な経済の問題には答えることは難しい。地区またはロータリー・クラブが納得できるロータリー・プロジェクトを選択し、不足分を財団補助金で補うという方法もある。財団は国際奉仕と思込まれているが、地区内の社会奉仕プロジェクト（CAP——但し第2510地区では利用していない）も可能である。寄付をするだけが財団でもないし、寄付をして奨学生を派遣するだけが財団でもない、という点を理解していただきたい。

以上で質疑応答が終了している。

会員が、率直にロータリーの運営状況に質問することはロータリーの活性化につながるので良いことだと思う。今後も活発な討論が望まれる。ただし、無駄のない議論をするために、予め、ロータリーのホームページないしは公式刊行物を十分調べる必要があると思われる。

ロータリー財団は、全世界の会員からの寄付による資金を運用して、多くの大規模な財団プログラムを実施しているの

で、ともすれば全容が理解しにくくなるのはやむを得ないところである。この記事が会員の理解の一助となれば幸いである。

片岡暎子注：2001-02年度年次報告が出版される頃、2000-01年度の年次報告の話で極めて恐縮ですが、2000-01年度年次報告日本語版には誤訳があります。そのため、横内様がロータリーに不信感を抱いたのではないかと、と思います。大きな点を挙げれば、年次報告16ページの「含み損は計上できない」、は「含み損は計上しなければならない」の誤訳で、同ページの1,380億ドルの投資損益は、1,380万ドルの投資損失の誤訳です。2001-02年度の年次報告については、出版前に日本側で訳文をチェックできないだろうか、という要望を出しております。2001-02年度の年次報告英文をみたところですが、今回はかなり分かりやすく改善されています。分かりやすい日本語に翻訳されていることを望みます。但し、残念ながら赤字です。



「ポリオ撲滅キャンペーン」について

川田憲秀（白老RC）

2005年国際ロータリーの創立100年を記念して、ポリオの世界撲滅宣言をしよう……との決議がRI理事会で決議されました……とのメールが入りました。地区の諸会議では、なにかと寄付の話題が多いと日頃不満に思っていました私は、「ポリオは数年前に、終結宣言をしたのではないか……」と思いました。

8月24日札幌ガーデンパレスで、小林ガバナーを中心にガバナー補佐の会議が開催されました。小林ガバナーは「経済環境が逆風のなか、ポケットマネーで済む金額ではない……」と困惑した表情で話しておりました。その席で、ビデオテープが渡されました。RIは、乱暴だ……景気の良い国のロータリークラブが、多く負担するべきだ……と帰り道、考えながら帰宅しました。帰宅後、ビデオテープを観ました。わずか6分の映像でしたが、ソマリア・アフガニスタンその他の内戦で、ワクチンを届けることが出来なかった国々の子供たちの目が、私を見ていました。ガバナーの苦悩・子供たちの目……私は、グループの会長さんの職場を訪問し、カバナー補佐の会議の様子・ビデオテープのことを話し、クラブ内で議論をしていただきたいとお願いして歩きました。

9月15日ごろ、偶然テレビでアフガニスタンの少女に、日本の義足製作所の方が、ボランティアで義足を作って届けている「ドキュメント」が放映されていました。義足製作の勉強をしている若い女性の研修生とこのボランティアをサポートするために、2人の19歳の女子大生の4人が、直接アフガニスタンに渡航できないので、まずイランに行きイランでアフガニスタンのピザをとって入国し

ました。義足を待っていたのは、地雷や爆弾で怪我をした少女ではなく、ポリオの犠牲者で歩くことが出来ない少女でした。つけてみましたが、上手くなく持ち帰って調整して、12月に再度日本から、持って行くそうです。少女の悲しげな顔……いつまでも、忘れることは出来ないと思いました。

このボランティアが滞在しているテントに、60名ほどの義足を作ってほしいという人が集まりました。地雷で足を無くした人・爆弾で負傷した人……国際的なボランティアから、それぞれ義足が支給されていましたが、痛くて使えないという人ばかりでした。一人分の義足を作るために、40万円くらいの費用が掛かるそうです。涙が出そうなくらい感動しました。

私ごとになりますが、私の母〔82歳〕は、中国で昭和16年6月列車の事故で左足を大腿部から切断しました。新婚数カ月21歳でした。何度も何度も死にたいと考えたようです。私の子供のころは、母の義足が押し入れに入れていました。重たくて、痛くて使えないと言っていました。松葉杖で3人の子供を生き育てました。昭和28年に、新しい義足が出来て、それ以来義足の生活が出来るようになりました。時々、義足の具合が悪くなったり、切断した足の具合が悪くなったりして調整が必要でした。それでも、今も元気で一人暮らしをしております。私は、自分たちが出来ることを、今ちゃんとしなければならぬと、しみじみと考えました。アフガニスタンに義足を作って届けている方々に、感動を覚えました。まず、ポリオを撲滅しなければ……。

Q. ロータリークラブでは理事会が重要な役割を果たすと言われておりますが、その理由と理事会の決議方法について教えてください？

A. ロータリークラブが親睦を目的とし作られ、その後、奉仕が加わったことはロータリーの歴史のなかでも明らかなことです。

社交クラブとしてのロータリーに、奉仕クラブの要素が加わったことにより、親睦と奉仕という一見無関係な二つの要素を一体化して定義付けるところに、ロータリーの理論構造の難しさがあり、また面白さもあります。

いずれにせよ、親睦を第一義と考えて生まれた団体ですから、親睦を阻害するような行動や要素が一切あってはなりません。特に例会は親睦の場と言われておりますので例会運営には特に注意が必要とされます。

かつてシカゴクラブで奉仕理念の導入をめぐる意見が対立し、ポール・ハリス派とハリー・ダグラス派に分かれて、例会が論争の場と化したことがあります。

議論がエスカレートし感情的な発言がでたり派閥が生まれたりして、クラブの親睦が乱れる原因となりました。

クラブの親睦を優先することをシカゴクラブは決断し、ロータリー理念や拡大を議論する場としてRIを設立し、クラブの親睦を守ったのです。

討論の場としてフォーラムがありますが、意見を述べることは自由としても、敢えて結論を出さないというロータリーの伝統は、意見の対立によって親睦を崩すことを恐れた先達の知恵であり、さらに政治的な問題や意見の分かれるような問題を議論したり、統一見解を表明しないという慣習も親睦を守るという理由からです。

クラブの決議機関は例会と理事会ですが、例会で議決するのは定款・細則の変更と会長・役員選挙と提訴に限定されており、議決方法も定款・細則で規定されております。

ロータリークラブは理事会に先議権を持たし、理事会の決定が最終決定と定められておりますので、理事会が意志決定するに当たっては慎重な配慮が求められる事になります。

理事会での意志決定には①多数決・②コンセンサス・③コンセンスト等、各種の方法がありますが、多数決により反対意見を無視して強行すると、必ず

親睦にひびが入ります。理事会が新たな提案を行うときには、あらゆる機会を通じて会員の意見を充分聞き、賛否が分かれるようならば、例え少数意見であっても尊重し、提案を取り下げるのがロータリーの処理方法。

お互いの意見を思いやり、全員のコンセンサスを得たうえで物事を決め進めて行くのが、会員の親睦を第一に考えるロータリークラブの正しい運営方法であり、理事会はこのことをよく理解したうえで意志決定をしなければなりません。

ロータリアンの襟章

Q. ロータリーの会員でダイヤモンドやルビーまた数字の入ったバッジをつけている人をよく見かけますが、それらのバッジを佩用することは認められているのでしょうか。またそれらのバッジの意味を教えてください。

A. ロータリーの標章のなかに

「徽章」 Emblem

「襟章」 Lapel Button

「記章」 Badge の他ロータリー旗があります。

まず徽章 (Emblem) は国際ロータリーの目的と綱領を象徴するために制定された公式の徽章で1929年の国際大会で正式に採択確認されています。6本の軸と24の輪歯と一つの楔穴、Rotary Internationalの刻名入りのもので、これらの図形、寸法、色彩等は克明に規定され国際的に保護されており、その使用についても厳しく制限されています。(手続要覧第19章ロータリーの標章の使用と保護171ページ参照)

次に襟章 (Lapel Button)

金地に紺のエナメルで作られたロータリアンの襟章で、クラブの会員はこれを佩用する権利が与えられています。日本では一般にこの襟章をバッジと呼んでいますが、厳密には例会や大会等で胸につける名札がバッジです。

記章 (Badge)

例会や各種大会、会合等で会員が胸につける会章のことで氏名、職業分類、クラブ役職名が記入されたもので、ビクター・ゲストのためにも用意されています。

以上ロータリーの標章について理解されたと思いますが、通常日本のロータリアンのバッジと言われている襟章には質問の通り色々な種類のものが出回っております。ロータリーの徽章が入った製品を製造・販売する免許を持った業者のカタログには、会員章として公式な襟章の他に、ダイヤ入の現役員、会長、副会長、ダイヤ入またはルビー入の前役員、元会長・幹事、元副

会長まであります。

他に数字の入ったもの、これは100パーセントアテンダンス章として中央の10とか20とかが刻まれております。いずれにも CLUB PRESIDENT、CLUB SECRETARY また PAST……の文字が入っています。

上記いずれの襟章も公式な襟章ではありません。公式なものは唯一国際ロータリーが制定するものだけであり、各種出回っているバッジは単なる記念品であり公式な襟章ではありません。

ダイヤ入りのバッジを襟につけて俺は元会長また元ガバナーと誇示している会員がいたとすれば、あまりロータリーに通暁していない方と見られても仕方ありません。

Q. 質問の職業を持っていない人が入会する場合の職業分類は

A. RI定款第5条第2節 (a) (iii) のいかなる地位からも退職している会員は元の職業分類を維持することができます。

1998年版手続要覧「シニア・アクティブ会員またはバスト・サービス会員のバッジと職業分類」(9ページ)には、1945年度RI理事会決議で「一度も正会員であったことのないバスト・サービス会員は職業分類がない。」となっており、2001年規定審議会で改定されるまで職業分類を持たないバスト・サービス会員が存在していました。

2001年の規定改正により会員の種類が2種類となり、職業分類を持たないバスト・サービス会員は正会員として入会させることができるようになりました。(RI日本支局奉仕室の解答)

Q. 「移籍するロータリアン」とは

A. 現在在籍しているクラブを退会又は元会員がクラブの地域内またはその周辺地域で、自身が保持している職業分類で職業活動ができなくなった場合(転勤で現任地を離れる場合)新任地のクラブに移籍できます。

通常推薦される会員は、そのクラブ会員の推薦によりRI定款第5条第2節の資格条件を有するもので、職業分類を定め理事会の承認と入会金を納めることでクラブ会員に選ばれます。

移籍するロータリアン・または元ロータリアンの場合、元クラブが推薦することができ、クラブ定款第10条により入会金は納入する必要はなくなりました。

2001~2002年度ガバナー月信No.11(2002. 5. 1)号15ページ“移籍ロータリアンまたは元ロータリアン”を参照してください。

ガバナー日記

公式訪問つづく

9月12日(木)は千歳、千歳セントラルRCの合同例会に出席(千歳全日空ホテル)。例会の前に開かれた会長幹事との懇談会も両クラブ合同。共に市民のためのロータリー活動が地に付いている感じ。近在の紫明学院、少年院など収容施設における青少年との交換はロータリアンの最も気の使う所ながら既に長い実績を持つ。環境保全にも特に熱心。例会では幹事の読み上げる報告に出てくる人は全員その都度ニコニコボックス。全体の雰囲気は極めて和やかで、来年の佐藤ガバナー年度も大丈夫との印象。千歳の合同例会のあと美唄労災病院に入院中の西村孚江別RC会長のお見舞い、そのあと向田甚市前ガバナー補佐宅を弔問。

9月13日(金)は羽幌、小平、留萌RCの夜間合同例会へ。河野英夫地区幹事の車で日本海沿いに4時間かけて羽幌に到着。途中留萌市立病院に入院中の富山惟夫PGをお見舞い。会長幹事会に次ぐ合同例会が羽幌クラブ(榊原会長)のあとの懇親会は当りくじからビンゴまで大盛況。地域に根づいたロータリー活動に感銘。とくに小平RCの新名会長は最低6名まで落ち込んだ会員数を現在17名までもちあげたと。人口2,000人の小平町は人口比でもっともロータリアンの多いところではなからうか。帰宅は夜中の12時。



堀知事とならぶ辻野修AG
道民の森にて

9月14日(土)は道民の森で開催の第3グループのIM(ホストは当別RC)に出席。美唄、江別、江別西、岩見沢、岩見沢東、栗沢、栗山、当別の8RCから220名。道民の森は当別町から北へ車で約30分、初めての参加の人が大部分で全員素晴らしい自然環境に魅了される。これもロータリーの縁だが、辻野修AGの企画と実行力にはただ感服。当別中学校の吹奏楽も札幌圏での優勝校だけに立派。記念



当別中学校の吹奏楽演奏

植樹のあとジギスカンパーティ。終わってからの「手に手つないで」は芝生のうえに恐らく地区最大の輪となった。

9月16日(月)は札幌はまなすRCの10周年記念式典と祝賀会。設立に深くかかわった特別代表の村川舜一会員(札幌北RC)はお元気だが、佐藤鉄彌PG、宮沢正地区代表幹事はすでに故人である。

札幌はまなすロータリークラブは、花の名前のついた北海道でただ1つのロータリークラブ。「はまなす」は北海道の花(道花)であり、また石狩市の花(市花)でもある。

全国ロータリー会員名簿をみると花の名前のついたロータリークラブはおよそ20カ所。一番多いのは水戸さくらクラブなど「さくら」の名のついたのが3カ所、福井あじさいクラブなど「あじさい」の名のついたのも3カ所、次いでこぶし2カ所、コスモス2カ所、その他ローズ、さくらんぼ、アザミ、ひまわり、カメラア、白梅、アゼリアからメープルに至るまで結構多彩な花模様である。

ただ、花の名のついたロータリークラブはほとんど東日本。なぜか西日本に少ない。札幌市の花(市花)「すずらん」の名はつけたクラブはどうか? 万葉集に出てくる花の名を入れれば花の名の新しいクラブの余地はまだ十分。

9月21日(土)は岩見沢、岩見沢東、美唄RCの合同夜間例会。岩見沢RCの市民を巻き込んだ環境保存チャリティも17回を重ね実益も兼ねユニーク。岩見沢東RCの利根別クリーン作戦(2年)のほか少年サッカー大会、アジアへの支援づくりも活発。美唄RCは大竹会長の音頭でボトムアップの実践による美唄市の活性化に貢献。夜の懇親会には地区野球大会に優勝の岩見沢RCへ優勝旗の授与も行った。

ライラセミナー

9月22日(日)朝9時からのライラセミナー(シニア)に出席。前日のライラは岩見沢への公式訪問のため欠席。22日だけの出席だったが正味6時間、米山、ロータアクト、奨学生、学友などの率直な意見交換を聞き、昔と違ってみんな堂々と主張するようになったのは時代の流れだろう。喉に刺さった魚の骨のように、日本のアジア侵略が共通の話題になる。ロータリーが政治に係わることを避けながらも、若い世代が直面する問題に私自身も私の考えを率直に申し述べた。要は日本がかつての侵略に対する自己を厳しく裁く勇気と相手に謝る勇気の欠如していたことが基本にある。さらに日本人の財産でもある「和」というものの持つありがたみと同時に、和がもたらす「隠す」、「ごまかす」、「事勿れ」の弊害についても述べた。更に相手の人格を認めながらも各人が堂々と主張すること(討論)の必要性と大切さを述べた。

ガバナー事務所

ガバナー事務所は札幌市中央区大通西6丁目6北海道医師会館6階にある。ここは本来は財団法人札幌がんセミナー(並びに日本がん予防研究会)の事務所でもある。電話番号などロータリー独自のものを除き、その他FAX、E-mailなどは財団と共有し経費の節減をはかっている。

ロータリー専属の事務局員は阿部智子さん1人。ただしガバナー事務所の超多忙の仕事をこなすには1人では到底間に合わない。財団専任の及川智江さんのかなりの支援をいただい



地区大会の準備も大忙し

ている。地区大会に向かって超多忙の2、3カ月は臨時にさらに及川登美子さんの協力もいただいている。

事務局員は朝9時から夕刻5時半以降、ときに6時、7時、8時まで働いてくれる。その

間各クラブや委員会からの問い合わせなどの電話応答のほか、月信などの資料作成、RIからの文書に対する返答などなど、こんなに沢山の仕事があるかと驚くほどである。とにかく彼女たちの献身的な働きはまさしく脱帽である。

ロータリーの市民講座と小学校の課外授業

かねて富岡公治職業奉仕委員長は極めて意欲的に職業奉仕の実践を考えておられ、その具体的な構想としてロータリー市民講座が始まった。第1回目は10月7日(月)富岡委員長のご依頼で私自身による「がんと人間」のテーマで話させていただいた。ロータリーアンを含め約100人近い方々を前に、私はがんが現在人間社会において単に医学、生物学だけの問題



3、4年生の児童に囲まれる
和田壬三会員(中央)

ではなく文学、哲学、宗教から更に一般家庭に至る極めて身近なものであることを具体的な事例をあげながら話を進め、そのあと質疑応答を行った。

もう1つ小学校の課外授業として右表に示すような6人の演者による課外授業が行われた。3、4年生対象と5、6年生対象の同時並行の授業はなんとかうまくいったようだ。このような試みは1つの小学校にとどまらず、それぞれのRC圏内の小学校、中学校を対象にした試みがなされることが望ましいように思う。これも1つの職業奉仕であり、また社会奉仕、家庭奉仕といってもいいだろう。テーマによっては父兄の参加もあった。なお、演者には大変申し訳なかったが交通費、謝金などの支払いは一切なかったにも係わらず皆さん心よくお引き受けいただいた。深く感謝したい。

お隣りの地区大会

北海道の東半分が2500地区、西半分が2510地区である。北海道のロータリーは日高山脈を境に東西に分かれているのだが、むかしは1つの地区であった。全国35地区の地区大会のなかでお隣の2500地区だけは是非出席したいと思っていた。幸い10月4、5、6日に時間がとれた。

2500地区の小船井修一ガバナーは全国最年少ながら、大会はITをフル活用しまさにユニバーサル・スタジオにいる感じ。アトラクションも子供達の歌と踊りは感動的だった

札幌市立北九条小学校課外授業2002年

9月18日(水)

pm 1: 35~2: 35 (60分)

- 3、4年生 みんな仲良く、家庭のこと 和田壬三(札幌幌南RC、弁護士)
- 5、6年生 国際問題 在米50年の思い出ばなし 吉田 隆(在米の小児科医)

9月25日(水)

pm 1: 35~2: 35 (60分)

- 3、4年生 性教育について 熊本悦郎(元札幌西RC、札幌大名誉教授)
- 5、6年生 環境について 井上勝一(札幌北RC、北大環境研助教授)

10月2日(水)

pm 1: 35~2: 35 (60分)

- 3、4年生 食と健康、元気に生きるために 岩崎輝明(札幌北RC、食と健康財団理事長)
- 5、6年生 性教育について 熊本悦郎(元札幌西RC、札幌大名誉教授)

し、シンポジウムの内容もロータリーを深く考えさせられるものだった。最終日10月6日(日)午前のプログラムを失礼して我が地区のゴルフ大会の表彰式(島松ゴルフコース)に直行。

10月11日(金)、例会予定の1週間前に札幌幌南、札幌清田、札幌大通公園RCの会長幹事がガバナー事務所に参集。各クラブには週報とか1年のまとめの記録誌があるが、月報のようなものを出しているのは、札幌幌南クラブだけかもしれない。砺波会長の発想でこれを「ラブレター」と称し、1ヶ月何をしたかの総括を紹介している。清田RCはロータリーの原点にかえり、ロータリーの奉仕は自らの手足を動かすことを前提にDPI札幌国際大会の袋詰作業に全員が参加。お金だけ出して自らの手足を動かすことの少ない現在のロータリアンの立派な手本と見た。会員も17名から31名に増強。大通公園RCは入会金、年会費とも低額に抑え、新しいロータリーのあり方を模索。老人との対話(音楽、書道、囲碁など)を行っている。小人数ながら実のあるロータリーとしての行動を行っているようで嬉しく思う。

グループワークショップ

10月12日(土)第3グループ研修会に美唄に。辻野修AGのきも入りで9月のIMに次ぐグループ内ワークショップ。テーマは「本音で語ろうロータリー」。

辻野AGとは美唄労災病院に入院中の江別RC西村学会長のお見舞いに再度行くべく美唄駅で落ち合う予定で列車に乗る。疲れていたせいかウトウトしてしまう。駅に降りプラットフォームの駅名を見たところなんと岩見沢。しまったと思ったときドアは閉まって発車。止むなく辻野AGの携帯に電話し、見舞いをあきらめタクシーで真っ直ぐ美唄の会場に。辻野AG曰く「乗り過ぎはよくあるが、前の駅に降りるとはなんとせっかちなことか」。

「本音で語ろう」は8つのRCからの代表の5分間スピーチ。ロータリーの将来を案じての話が多い。会員増強は数を増やすことだけに捉われることなく、一人ひとりの会員の資質向上を願う努力がいま求められていると思う。この研修会の内容はIM並み。とすると第3グループはすでに2度のIMをやったことになる。

GSE

10月13日(日)はフィリピンに派遣するGSEメンバーの選考会議に出席。人物と英語力。みんな個性的で決めるのがむずかしいが、山名GSE委員長の熱意ですんなり決定。チ



GSEメンバーを囲んで後列左は
山名善久委員長

ームリーダーは戸部謙一会員（札幌西RC）。これで11月16日には先方からのGSEメンバーと地区大会と一緒に握手してもらえそう。

10月16日（水）夜、フィリピンからのG

SEメンバーが千歳空港に到着。すぐに千歳のANAホテルへ。そこでの簡単な歓迎レセプションに出席。フィリピンからのエドウィン・アフゼリウス団長をはじめ5人（男2、女3）のメンバーの来道に心からの歓迎を述べる。

公式訪問最後の追い込み

10月17日（木）は滝川、砂川両RCの夜間合同例会に出席。両クラブの息のあった協力関係は長い歴史もあり夜の懇親会はまさに絶好調、羨ましい限り。翌18日（金）は札幌幌南、札幌真駒内、札幌清田、札幌大通公園の4RCの合同例会。地区運営にいろいろお世話になっている会員が多いので感謝である。

ガバナー諮問委員会

諮問委員会はパストガバナーの集まりと聞いているが、どんなことを話するのかとの問いは古くから耳にしていた。10月18日（金）夜今年度初めての諮問委員会。本来、諮問委員会はガバナーの考えてること、行っていることに対してパ

ストガバナーから諮問を受けることである。

今回、地区予算が逼迫している折から、パストガバナーの関わる予算面についての大幅な削減をお願いした。その骨子は4月の地区協議会において既に承認を得たところである。特にロータリー研究会はパストガバナーの勉強の機会として全国からパストガバナーが集まる。これに必要な予算（旅費、宿泊、登録料）は昨年度予算180万円で実績150万円使っているが、今年度の予算はわずか100万円に圧縮していただいた。パストガバナーはこの厳しい現状をよく理解くださり、実際の配分についてはガバナーに一任するとのお申し出をいただいた。

その他今年度はRI理事選出のための指名委員の選出がゾーン1（2510地区を含む）から出すことになっている。そのため指名委員の選出についての経緯を説明した。

また地区大会についてコメントを頂戴し、またRI会長代理のエイド役として伊藤長英パストガバナーをお願いしたい旨を報告した。また、地区大会において昨年度の決算報告を行うことにしたが、決算報告に関する会計監査が今までなかったため、これを新たに遠藤パストガバナーにお願いすることとした。前向きに議論しようとの積極的な雰囲気は大変嬉しく思う。

翌19日（土）創立5周年を迎えた札幌清田RCの祝賀会に出席。清田RCは若くて小さいながらも、ロータリーの原点に戻り、しかも自ら手足を動かして立派な活動をしている。このことに自信を持って今後益々ご努力いただきたい旨のお祝いと激励の言葉を述べる。

（10月19日記）

ガバナーとの対話 —会長幹事懇談会メモより

—会長幹事懇談会におけるガバナーとの対話を出来るだけ忠実に紹介するものである

職業分類の枠

- Q. 1つの職業分野の枠に対する枠が緩められたことに対するご意見をお伺いたい。
- A. 枠が緩められたことで1つの職種の中に多くの人が参入できることでは、会員増強の面での成果はあろう。ただ特定の職種の人が1割以上占めることによる弊害はすでに前例もある。まず入会前に慎重な検討が必要ではないか。

ロータリーの規約

- Q. ロータリーの規約が次第に緩められていく傾向に対する賛否はあるとしても、毎週1回の出席と厳しい出席率はあまり変わらないようだ。これについてのご意見は？
- A. ご指摘のとおり、年4回まで休会できるようになったことに対する賛否はあるが、これがライオンズのように隔週1回夕刻開催ということにはならないと思う。例会の魅力作りを自ら工夫し毎週の例会を心待ちにするようになりたいものである。

ポリオの寄附

- Q. ポリオに対する寄附は財団の寄付の中に含めてもよいのか？

- A. ポリオの寄附は財団の年次寄附とは別枠のものである。金額についての問合せも多いが、3年間に亘って出来るだけのご理解をいただければ有り難い。

大阪大会

- Q. RIの国際大会（大阪大会）に対する寄附が年間2,000円ずつ募られているが、これで登録費が免除されるのか？
- A. この金額は日本における大会を成功させるための協力金で、参加者は別途登録費が必要になるものと理解している。

ロータリーは何をしているか

- Q. 遠い田舎にいるとロータリーは何をしているのですかと聞かれて返事に困る。田舎には青少年もGSEも誰も来ない。社会の認知も低い。困ったものだ。せめてテレビでPRしてもらえないか。
- A. 地域による実情はよく理解できるが、ロータリーが何を行なっているかについてはたとえば月信で社会の人に説明をしていただけないものか。テレビによるPRまでは現在考えていない。

規約の緩み

Q. 規約が柔らかくなってきたことは即、気の緩みに繋がらないか？ ロータリーそのものに対する懸念である。いろいろ緩めることで会員増強を考



えているのであれば、これは本末転倒で、ルールの緩いライオンズでも大きく会員減少をみているのを知るべきだ。場合によっては日本独自のルールを作ってもよいのでないか？

A. ご指摘ももっともと思う。ロータリーがライオンズに近づくことはあり得ないことと思う。ロータリーの将来に対する心配のお言葉として拝聴する。

小人数の例会のとき

Q. 欠席が多いと数人の例会になってしまうことがある。そうすると卓話どころではない。

A. 卓話に代えて例えば「ロータリーの友」をみんなで読み合うとか、「ガバナー月信」をみんなで読み合うのも一助にならないか。

ニコニコの使い方

Q. ニコニコのお金をクラブ運営に使うことについての意見は？

A. 各クラブの自己責任で決めることではないか。

禁煙について

Q. 例会中の禁煙をすすめているが、喫煙は身体にどのくらい悪いのか？

A. 手続要覧にはっきり望ましくないと書いてある。喫煙本数によって健康被害が高まり、その被害額はタバコ売却による税収入をはるかに上回る。ロータリーでいう禁煙推奨は例会とかロータリーの会合のときのことで、それ以外のプライベートに言及するものではない。[拙著、がんの予防(岩波新書)をご参考に]

地区大会の市民参加

Q. ロータリーの市民との接触の大切さがいわれているが、地区大会の記念講演(アグネス・チャン:小さな命からの伝言)をロータリアンの家族なり一般市民に公開することはあるか？

A. 実行委員会が検討してみよう(後に一般市民は難しいと決定)。

ポリオの窓口

Q. ポリオの窓口が広報委員会となっているのはおかしいのではないか？むしろロータリー財団委員会が受け持つべきではないか？

A. ごもったもな意見である。寄附をお願いする意味では財団委員会の担当だが、ポリオについて地区における余りにも情報過疎の状況をふまえ、その懸命なキャンペーンから始めたいとのことで広報委員会を窓口とした。次年度の検討課題としてほしい。

クラブを見下げる

Q. 小さな若いクラブは周辺クラブから何か見下げられる印象を受けることがあるのだが。

A. 歴史があり、会員の多いクラブが偉いと考えるのは大間違いだ。ロータリアンとしてはみんな同じで、そこに階級の違いがあるはずはない。大きいだけで何もしないクラブに比べれば、小人数ながらロータリーの活動を行っていることに大きな自信を持つべきではないか。もしロータリーに

権威主義ということがあるとしたら、これは官僚化の始まりでロータリーの衰退を意味する。

退会防止の一策

Q. クラブの中に多くの同好会を作り新会員はこの同好会に出来るだけ入ってもらうことによって人間関係を築き、退会の防止に心掛けているのだが。

A. 理念より実践を優先する一例と思い、大変参考になる情報で有り難いと思う。

月信

Q. 月信はすごくよくなったと思う。全員購入の基本方針はうまくいっているのか？

A. お褒めをいただき有り難う。編集委員も苦勞している。2、3のクラブを除いてほとんどすべてのクラブで全員購入いただいている。月信はこれからのロータリー活性化の起爆剤として、また一人ひとりの会員意識の向上、いわゆるボトムアップの一助に資したいと思う。会員からの投稿をお待ちしたい。

ガバナーとの対話

Q. 月信のなかの「ガバナーとの対話」の欄にはかなり厳しい質疑があるが、いままでの会長幹事会で実際そのような内容の話がなされていたのか？

A. 会長幹事会はクラブの活動内容をお伺い致し必要なコメントをする。その主なことは「ガバナー日記」に紹介している。残った時間をロータリーに対する提言、意見、質問として使わせていただき、その実際の会話を発言者のお名前を伏せて忠実に記録したものである。

RIへの上納金

Q. RIに出したお金がどのように使われているかわからない状態が厭だといって退会した人がいるのだが。

A. RIへの上納金の使い道についての質問は何度も受けたが、いずれは明らかになると期待している。

会員増強

Q. 会員増強についての奇策はないか？

A. 奇策はない。地味ながら①例会を楽しく魅力あるものにする努力をすること。ニコニコの進め方もマンネリ化していないか考えてみる ②新会員へのケアに責任を持つこと。役職を与えらるるとか趣味の会に入ってもらおうとかする ③クラブの入会金・年会費を少しでも安くしようとの努力をみせること ④会員増強は数だけではなく一人ひとりの会員の意識を高め質の向上を計ること。決して数だけに捉われないこと。以上のことを守れば素晴らしい友人から離れられなくなり会員増強にもなるのではないか。

新会員の地区委員

Q. 入会間もない会員が地区委員になることに対してクラブで異論が出ているのだが？少なくともクラブ会長の了解をもらってほしい。

A. 会員歴の長い人が地区委員になるケースは多いが、例外があっても差支えない。むしろ役職を与えられることでロータリー活動に献身する新会員の成長が楽しみである。クラブ会長の了解はあることが望ましいのは当然で、このことは地区の委員長さんにご留意を願いたい。

Q. ある地区委員会への出席要請がクラブ会長幹事宛にあることがあるが、そのとき「出席は義務である」と言われることがある。これは委員長の言いすぎではないか。

A. 熱心な地区委員会は勇み足ととられることがあるかも知れない。問題の内容を整理したうえで委員長と話し合ってみる。



今日も新しい自分でいこう!

ぐっすり眠って目覚めた朝は、
心も身体もリフレッシュ。
ふわふわ羽毛の優しさに包まれて
昨日の疲れにさよならしたら、
さあ、今日も新しい自分でいこう!
東洋羽毛は頑張るあなたを応援します。

G O O D
★ Good Day, ★
Good Smile!
S T U K
K E E P

北海道看護協会推薦

クリーニング、リフォームなどもお気軽にお問い合わせください。

ずっと良質
もっと良眠



TUK 東洋羽毛

札幌営業所

フリーダイヤル

〒003-0828

0120-383863

札幌市白石区菊水元町8条2-2-1

地区大会が間近になってきました！

—登録はまだ間に合います—

本年度の地区大会は今月の16日（土）17日（日）に開催されます。地区大会は地区における最大の行事で、地区内のすべてのロータリアンとその家族に解放され、旧交を温め新しい友人を作る絶好の機会といえます。

ビチャイ・ラタクルRI会長の『慈愛の種を播きましょう』のテーマのもと、地区大会テーマに『咲かそう、慈愛の花』を掲げました。

地区内ロータリアン多数が参加され、創立100年を迎えるロータリーとこれからのロータリーについて、皆さん

とともに今一度考える場にしたいと思っております。

また、本年度の地区大会の新しい試みとして、本会議を2日間に分けました。そして、遠隔地のクラブの要望を聞き、2日目の懇親会は従来の夕食会でなく昼食会とし、すべての日程を午後3時で終了するようプログラムを組みました。

これにより、時間的には若干タイトになりましたがプログラム内容をコンパクトにし、ロータリーを深く考える機会にいたしました。

◎本会議1日目 14:15~16:20 地区委員会活動報告

地区の28委員会より活動の報告や計画の発表があり、地区活動への理解を深める絶好の機会と思われま

◎記念フォーラム 16:15~18:30

フォーラムのテーマは「慈愛の種からどのような花を咲かせるか」です。日本ガバナー会の議長を含む3人の他地区ガバナーと小林ガバナーが、ロータリーの過去100年を振り返りそしてこれからの100年を見据えて、ロータリー運動の目標と戦略を真剣に討論していただきます。また、会場からご意見を頂きたいと思

◎RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会 18:40~21:00

RI会長代理として、佐野康博第2770地区バスターガバナーご夫妻をお迎えして、歓迎晩餐会が開かれます。大勢の会員の方々の参加をお待ちしております。

◎本会議2日目 9:00~10:50

佐野康博RI会長代理からRIの現況と、小林ガバナーより第2510地区の現況を詳細に報告して頂きます。現状を把握するまたとない機会でしょう。

様々な奉仕活動に大きく貢献した、個人・団体などへの表彰が行われます。活動への大きな励みになると思われま

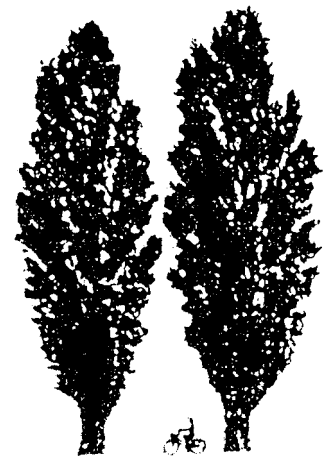
◎記念講演会 11:00~12:30

教育学博士であり目白大学・共栄大学でも教べんを取られ、日本ユニセフ大使としてもご活躍中のアグネス・チャンさんをお招きし、自らのボランティア体験を通じてのお話等もして頂

また、歌手デビュー30周年記念にあたり、『The Seeds of Love』を掲げ「愛の種をまく勇氣ある人間になりたい」と言っております。彼女の豊富で貴重な体験を通じた講演により、私たちのロータリーライフに何らかの示唆を与えてくれるものと信じております。

◎記念懇親会（ロイトン札幌） 13:00~15:00

すべての行事を終えゆったりとした気持ちで、日ごろお会いできない遠方の方々とも懇親を深めて頂きたいと思



地区大会プログラム

【第1日目】11月16日（土）

会長・幹事会

11:30～ 登録開始
12:30～ 点鐘、大会決議案・上程案審議
13:20 終了

本会議（1）

12:30～ 登録開始
13:40～ 点鐘
13:55～ 決算報告、各種報告
14:05～ 大会決議案上程案採択
14:15～ 地区委員会活動報告
16:20～ 記念フォーラム

『新世紀におけるロータリー運動の目標と戦略』

18:30 終了

RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会

18:40～ ウェルカムドリンク
19:30～ 歓迎晩餐会
21:00 閉会

【第2日目】11月17日（日）

本会議（2）

8:00～ 登録開始
8:45 着席
9:00 点鐘
9:30～ 参加者・クラブ紹介
9:55～ RI現況報告
10:20～ 地区現況報告
10:25～ 各種表彰
11:00～ 記念講演会

『小さな命からの伝言』

12:30 終了

記念懇親会

13:00～ 開始
15:00 終了

地区大会記念ゴルフ大会－和やかに開催

本年度の地区大会記念ゴルフは、地区大会に先立ち10月6日（日）に、地区内クラブ会員71名の参加を得て札幌国際カントリークラブ島松コースにて、天候にも恵まれ開催されました。

午前7時からA部門・B部門それぞれに別れてスタートし、

午後からは小林博ガバナー・小林孝夫地区大会実行委員長も出席され、懇親会並びに成績発表・表彰式が行われ、和やかで親睦の深まったゴルフ大会を終えることができました。



各賞一覧

（個人賞）

	A部門	B部門
優勝	玉田 忠 (岩見沢RC)	吉田輝雄 (岩内RC)
準優勝	佐藤清夫 (栗山RC)	瀬川五水 (北広島RC)
1位	廿日岩重春 (札幌北RC)	梅田鉄夫 (新札幌RC)
2位	中村堅次 (千歳RC)	池田清美 (岩内RC)
3位	亀田 浄 (三石RC)	荒木敏博 (岩見沢RC)
4位	阿部 修 (岩見沢RC)	泉亭祐司 (当別RC)
5位	曙 恒平 (千歳RC)	広瀬 進 (札幌MRC)
6位	金子賢一 (岩見沢東RC)	長谷川直紀 (江別西RC)
7位	菊地 章 (札幌東RC)	林 秀徳 (岩見沢RC)
8位	西川 正 (伊達RC)	三上直彦 (札幌西北RC)
9位	村田研一 (千歳RC)	平 昌夫 (札幌南RC)
10位	小笠原良 (千歳RC)	平間和弘 (千歳RC)
15位	金田省三 (岩見沢東RC)	柏倉 慎 (札幌清田RC)
20位	泉亭俊徳 (当別RC)	井上英幸 (千歳CRC)
25位	羽山昇蔵 (千歳RC)	志比川武 (蘭越RC)
30位	富岡公治 (札幌西北RC)	宍戸 昭 (江別西RC)
BB賞	辻野 修 (当別RC)	福岡英雄 (札幌西北RC)
BG1	金子賢一 (岩見沢東RC)	平 昌夫 (札幌南RC)
BG2	羽山昇蔵 (千歳RC)	朝倉正人 (札幌東RC)
BG3	桃井康夫 (札幌清田RC)	柏倉 慎 (札幌清田RC)
NP	福田武男 (千歳RC)	大公一郎 (札幌東RC)
NP	武者賢一 (伊達RC)	該当者なし
DC	佐藤秀雄 (千歳RC)	平 昌夫 (札幌南RC)

※BG1～3はグロス1位～3位・NPはニアピン・DCはドラコンを示す。

（ペアー賞）

1位	佐藤清夫 (栗山RC)	梅田鉄夫 (新札幌RC)
2位	中村堅次 (千歳RC)	長谷川直紀 (江別西RC)
3位	西川 正 (伊達RC)	荒木敏博 (岩見沢RC)
4位	菊地 章 (札幌東RC)	三上直彦 (札幌西北RC)
5位	大石春雄 (札幌はまなすRC)	泉亭俊徳 (当別RC)

（ガバナー特別賞）

中山裕視 (札幌真駒内RC) 澤田隆一 (札幌南RC)
大谷恵一 (北広島RC) 菅原耕治 (札幌北RC)

（地区大会実行委員長特別賞）

山中善夫 (札幌RC) 大島利一 (札幌西北RC)

（代表幹事特別賞）

榎本恵子 (三石RC) 太田ヒロ子 (栗山RC)



地区活動 紹介

第1回ロータリー 市民講座を開催



職業奉仕委員会
委員長 富岡公治

職業奉仕委員会主催・札幌市後援の第1回ロータリー市民講座が平成14年10月7日午後2時～午後4時、札幌市中央区民センターで小林博北大医学部名誉教授を講師に開催されました。

最初に、司会者夏井坂信幸地区職業奉仕委員（札幌南クラブ）の開催宣言と講師小林博北大医学部名誉教授の略歴の御紹介がありました。次に私から参加者にロータリークラブが多様な専門職業を有する奉仕の理想を有するロータリアンによって構成されていることを全世界的な規模の約100年の歴史を有する団体であることを紹介しました。次に今回のロータリー市民講座を開催することに至った経過と理由の説明を致しました。なお、参加者は私達職業奉仕委員会の予想を超える約70名もの市民が参加されました。



小林博ガバナーは「がんと人間」と題して約1時間20分位講演されました。小林博ガバナーは終始温容で優しく熱心に参加者に対して話をしておりました。

その講演内容は次の通りです。

- 1 今日がんは死亡原因第1位になり、現在日本で最もポピュラーな病気です。
- 2 がんになる原因は遺伝的な要素、ストレス等様々な要因によって発生しています。

3 人間は誰しも生を受けて死に至るのであり、例外となる人は当然誰一人と存在しません。

病気の面から言うと、死亡原因は心臓病、血液等の循環器系とがんの3分類に分けられます。

いずれの死に至る病もこれがベターといわれるものはなく、ことさらにがんになって死ぬことが最悪であるということではありません。

4 私はがん患者が最終的に死に至ったとしても、それは患者、家族と医学にとっての敗北ではないと考えています。

最善を尽くしてがん向き合うことが必要です。



5 患者、家族、友人は医師とも相談して治療可能ながんに対しては、「対決」して闘うべきであり、一方治療してもがんが治らない場合には、患者の体力を消耗させる無理な副作用の強い抗がん治療を行うことは必ずしも良いことではなく、むしろがんと「対話」をすることをお勧めしたいと考えています。

そして、最大の最良のがんと対決方法はがんにならないよう予防的に注意することです。

そのためにはストレスをためないような日常生活を送り、適度な運動をすることと野菜を多くとる食生活に心がけることです。

6 がんにかかった場合、家族、友人の暖かい励ましは絶対に必要であり、私の知っているがん専門病院の医師も、家族、友人が多く見舞いに来る患者は全治して早期退院する人が多く、一方孤独で見舞いに来ない患者は死亡する率が高いように思われる旨言っておりました。

その後、参加者から小林博講師に次々と質問がありました。

(質問) 小林博先生はがんについては、どのように考えますか。

(答) 私は、民間療法は実際にはあまり効果があるものは少ないとは思っていますが、何とか生き続けてがんに立ち向かいたいと考えている患者に対しては、有効有益な面もあると考えているので、民間療法を試みることに原則として賛成しています。

(質問) がん告知の是非についてどのように考えますか。

(答) 今、がんは全体を通じて50%以上は治癒可能な状況にあり、がんの種類、進行状況に応じて告知の是非を考えるべきであると考えています。

(質問) 小林先生のように優しい人が主治医なら良いが、若い医者の中には、患者の気持ちも考えず、一方的に医者の見解を述べる場合があるがどのようにしたら良いですか。

(答) やはり、患者、家族側も担当医師に自分達の考えをきちっと伝えて医者の理解も得られるようにすべきであります。

ただ、がんにも様々な種類があるので、専門病院の選択は重要であると考えます。

多数の質疑応答が続いた後、私から多数の参加者が終始熱心に小林博先生の話に耳を傾け、小林博先生の話が実に有益で唆唆に富んでいることに深い感銘を受けた旨小林博講師と参加者の市民の皆様に対して感謝のあいさつをし、夏井坂司会者の閉会宣言により第1回市民講座を終了致しました。



エピローグ

ロータリー市民講座終了後も参加市民が何人も残って、小林博講師のところに来てがんへの対応について質問したり相談をしたりしておりました。

私達地区職業奉仕委員は入口で参加市民をお見送りしたのですが、参加者の中に「私達夫婦2人ともがんにかかっています。今日はどうして

も小林先生のお話を聴くために静内町から来ました。真に今日来て良かったと思います。」と涙ながらにお話するのを聞いて、改めてがんにかかった人たちの心理的状況に思いを致すとともに、第1回ロータリー市民講座が有益に成功したことを確信しました。

改めて小林博ガバナーに第1回ロータリー市民講座の講師を快く引受け、実施していただいたことに御礼の言葉を述べさせていただきます。

家庭奉仕活動について

家庭奉仕委員会
委員長 和田壬三

委員会の開催

1、7月4日 ガバナー及び、地区社会奉仕委員菅原氏、米山地区幹事の参加を得て、活動方針を各委員の家庭奉仕に関する個人的な見解をお聞きする中で決定しました。

①四回に分けて、毎月委員会を兼ねた勉強会を開催する。

②日程は、予めガバナー月信で全ロータリアンに予告して希望者には広く参加してもらう。

③2003年2月22日の第4、第5グループのIMのテーマとして当委員会が担当して、シンポジウムを行うこと。

2、8月17日第1回学習会

土橋信男札幌南RC会員（前札幌市教育長、前北星大学学長）に講師をお願いして、家庭について様々な角度から、学ぶ。ガバナーはじめ、対木地区社会奉仕委員長、菅原地区社会奉仕委員（滝川RC）松元純枝（深川RC社会奉仕委員長）のご参加も得て開催する。

家庭は、愛情に基いて円満にすごせる時代ではなく家庭生活を円満に送るためには、技術が必要であることを学ぶ。

3、9月14日第2回学習会

講師に親業訓練インストラクターである土橋芳美氏をお願いして、初歩的な訓練の方法を学ぶとともに訓練によって実際に立ち直ったケースについて報告をえた。

久住 博、安澤正美（札幌あけぼのRC）松本（深川RC）太田真琴（札幌南RC）池上公介ご夫妻（札幌モーニングRC）土橋信男、

田沢泰明（札幌南RC）のご参加も得て実施しました。

4、次回の予定

池上公介氏を講師に招いて‘登校拒否児の指導’というテーマで、10月24日実施する予定です。

小学校に於ける課外授業の講師

9月18日に私が講師として、札幌市内の北九条小学校の課外授業、‘みんな仲良く’‘家庭の事’というテーマで、実施しました。これは道新に取り上げられました。

札幌での社会奉仕に関する情報交換会報告

社会奉仕委員会
委員 菅原剛太郎

既に、地区社会奉仕委員会による情報交換会が滝川RC、苫小牧北RC、余市RCの当番で実施されたが、第4、第5グループの情報交換会が10月5日ホテルアルファで開催された。

冒頭、対木地区社会奉仕委員長（札幌西RC）の効果的な奉仕プロジェクトについて提言があり、参加クラブから過去3年間の奉仕プロジェクトの概要と問題点、継続事業について各々発言がなされ、白熱した意見交換が行われた。

会員の減少と限られた予算の中で、汗を流し奉仕活動が展開されている様子が窺われた。

高下地区家庭奉仕委員（札幌西RC）から地区家庭奉仕委員会の事業の進捗状況の報告もあり、最後に角掛晴雄第5グループ、ガバナー補佐の講評を頂き、「真に地域社会が望んでいる事業を通してロータリーのメッセージを伝えたいものである」ことを確認し、約3時間に及ぶ意見交換会を終了した。

若者にとってより良い未来を

職業奉仕委員会 留萌RC

平成14年9月25日、留萌ロータリークラブから4名出席して地元の留萌千望高等学校の3年生を対象に、職業奉仕に関連する卓話を実施。

まず、留萌RC大沼哲郎会長と職業奉仕委員会の斎藤清蔵委員長のあいさつ、次に工業系2クラスについて

は、地区職業奉仕委員会高田潔委員の卓話。会場を変更して、留萌RC職業奉仕委員会の中出敏彦副委員長が商業系2クラスに対して卓話をした。

主な卓話の内容は今後、就職・進学する高校3年生に対して、ロータリーを理解するために、①組織の流れ、②活動の趣旨、③具体的活動の紹介、④卓話者の社会人としての実体験、⑤高校生に対する激励の言葉を添えて終了した。

なお、この卓話は、高校側としても都合の良い日程であり、しかも来月の職業奉仕月間を先取りした時期に、小林ガバナーの方針を意識しつつ、第2510地区と留萌クラブの共催で実施した。

この卓話の実施により、これから社会人となる145名の高校生に、ロータリーという組織と活動の理解、これから歩む実社会への道標として、役立ったものと思う。

人道的補助金の有効利用のおすすめ

補助金委員会
委員長 伏木忠了

当地区の人道的補助金に対する2002～2003年度の使用可能な地区財団活動資金（DDF）は35,000ドルあります。地域社会援助プログラムのための10,000ドルは次年度に繰越すことはできません。その申請期間が12月31日までです。利用されないお金は、ロータリー財団が国際奉仕プロジェクトを通して世界理解と平和推進のために寄付することになります。

2510地区で、そして各クラブでこの補助金を活用される事を願っております。

補助金に関する仕組みは、<http://www.rotary.org/foundation/grants/structure/index.htm>に掲載されており、その資料をウェブサイトからダウンロードして下さい。

尚、日本語での資料が必要な方は<http://www.rotary.org>からRotary Internationalメインページにアクセス後、日本語を選択して頂き、ダウンロードのコーナーにアクセスすると各書式等DDF形式ファイルにて配布されておりますのでご覧下さい。

奨学生の選考と派遣の変遷



国際親善奨学金委員会
委員長 土橋信男

選考の変遷

ロータリー国際親善奨学金制度は、ロータリークラブが次代を担う若い世代を相互に奨学金によって派遣し、国際的感覚を持った次の世代のリーダーを育成しようとするものです。

国際ロータリー財団が、ポール・ハリスの逝去を記念して1947年に創設された教育プログラムとしての国際親善奨学金制度は、現在毎年約1,200人もの奨学生を世界各国に送り出している世界最大の奨学制度です。

日本からも毎年約370人の奨学生がこの制度で留学をしており、1950年に派遣された緒方貞子さんから第一期生からの累積数は約7,000名に上ります。

本地区からの歴史は1962年に女性一人が奨学生として派遣されたことにさかのぼります。それ以来、最初は2-3人の派遣でしたが、徐々に増えた派遣数は、近年では10人前後になっています。累積の派遣数は、195人(1962-01年)にのぼります。当初は男子が多かったのですが、1990年代に入ってからは女子が圧倒的に多くなり、累計でも女子115人と男子の80人より多くなっており、この差はますます広がりそうです。

国際親善奨学生はスポンサーとしての各クラブの推薦を基本としており、一方留学先ではその地域のクラ

ブがホストクラブとして受け入れをするということになっています。つまり、クラブ間の連携により成り立っているプログラムなのです。

これまで最も多くの奨学生の推薦をしてきたのは、札幌北クラブで累計26名になっています。以下、札幌(25)、札幌西(19)、札幌東、札幌幌南(17)、札幌南、小樽(10)、札幌真駒内、札幌手稲(8)、札幌西北、小樽南(7)がベストテンです。

国外留学へ派遣するという性質上、どうしても都市中心、しかも大都市である札幌に推薦クラブが集中するのは止むを得ないことかもしれませんが、中小都市や町村からのクラブの推薦者も時に合格しています。

赤平(1986)、伊達('93)、江差('99)、留萌('00)の各クラブが、それぞれ括弧内の年度に推薦して合格者を出しています。また、本年度('02)は深川クラブから1名の合格者が生まれました。

この優れた制度への希望者は非常に多く、この数年は30名から50名が応募しています。

なお、奨学生の募集は、2月に始まり4月にクラブへの受付を締め切っていますので、前途有望な青年の掘り起こしを各クラブとも行っているのだと思います。

派遣国と派遣数の変遷

1962年から2001年に至る第2510地区の国際親善奨学生の派遣数は209名、そして派遣した国は23カ国になる。

これまでの最大の派遣国はなんといってもアメリカ合衆国。ダントツの一番。しかし、第1表でみられる

ように、当初は米国ばかりが多かった留学希望国も、ヨーロッパ各国や、少ないながらもアジア諸国も加わってきた。

第2表は最近10年間の派遣数を見たものであるが、米国への派遣数は相対的に減ったものの依然として最多派遣国であることには変わりなく、また派遣数による順位も殆ど変わらない。

1962年から2001年までの累計での派遣数の順位は第1表に示したとおりであるが、あらためて10位までを再掲する。

1	米 国	112
2	英 国	16
3	フ ラ ン ス	14
4	カ ナ ダ	13
5	ド イ ツ	11
6	オーストラリア	8
	イ タ リ ア	8
8	ニュージーランド	4
9	オーストリア	3
	ロ シ ア	3

なお、本委員会としては、できるだけ多くの国、しかもアジアなどの発展途上国にも派遣したいということから、そうした

願いをもっていたが、本年選考し、来年留学を予定している奨学生11人のうちの2人がそれに該当する。即ち、タイとトルコを希望しているからで、その2カ国が加わると、来年で派遣国は25カ国となる。



宮澤功行デビュー30周年記念演奏会のご案内

札幌モーニングRC会員でピアニストの宮澤功行会員が、下記の演奏会に長女むじかさんと共に出演いたします。クラシック音楽に興味のある方々に多数ご来場いただきたくご案内申し上げます。

札幌モーニングRC 会長 井野 智

日時：2002年11月6日(水) 開場：18:30 開演：19:00

場所：札幌コンサートホール KITARA (大ホール)

出演：宮澤功行/宮澤むじか/ワルシャワフィルハーモニックオーケストラ/指揮 カジュミエシ・コルド

曲目：宮澤功行 ベートーヴェンピアノ協奏曲5番「皇帝」

宮澤むじか ショパンピアノ協奏曲2番

●お問い合わせ：オフィスワン/TEL011-612-8696

<http://www.conservatoire.co.jp/>のHPからもチケットの購入ができます。

GSEチームメンバー来日

GSE委員会
委員長 山名 善久



10月16日夜に待望のRI3830地区GSEメンバーが千歳に到着いたしました。直ちに千歳ANAホテルにて、小林ガバナー、戸部次期派遣GSEチームリーダーはじめ第1週担当第7グループの関係者の皆様も交え、ウェルカムパーティーを開きました。

翌17日は10時から14時までオリエンテーションを開催し、滞在中のスケジュールと北海道の説明をいたしました。千歳RCへ引き継ぎました(写真)。

GSEホームページに多数のスナップ写真を随時更新し載せております、併せてご覧下さい。

GSEホームページアドレス
<http://www.caeser.or.jp/ri2510/GSE/framepage.html>

●滞在スケジュール●

受入世話クラブ

第1週	10月16日～10月22日	第7グループ	恵庭ロータリークラブ
第2週	10月22日～10月28日	第2グループ	赤平・芦別ロータリークラブ
第3週	10月30日～11月5日	第9グループ	伊達ロータリークラブ
第4週	11月5日～11月11日	第10グループ	函館ロータリークラブ
第4週	11月11日～11月18日	第4グループ	札幌手稲ロータリークラブ

※ 10月28日～10月30日 地区GSE委員会
11月18日～11月29日 /

第10・11グループ 合同研修会 ●●●●●

社会奉仕委員会
委員 中野 亮

テーマ：社会奉仕活動の現状と今後の課題
(社会奉仕活動に関する情報交換)

対木地区社会奉仕委員長を迎えての社会奉仕活動の情報交換会を予定していたところ、遠藤哲二、松見修二両ガバナー補佐の協力の基にグループ合同研修会として、10・11グループクラブの会長、幹事、社会奉仕委員合わせて30名の出席を得て10月12日(土)函館国際ホテルに於いて開催されました。

はじめに、遠藤ガバナー補佐から合同研修会の経緯と地区の現状説明があり、松見ガバナー補佐が今回の研修会の主点となる、①過去3年間で成功したプロジェクトとその理由、②社会奉仕活動についての問題点、③継続事業についての対応。この3点について各クラブの状況報告を要請されました。

対木委員長より社会奉仕とは『いかに地域と密着した活動が出来るか』『地域と一体となった活動』のお話があり、DPI世界会議札幌大会の協力のお礼が述べられました。

最初に、昨年度、和田委員長が製作した第2510地区の各クラブの社会奉仕活動のVTRが上映され、今一度各地域の奉仕活動



チームリーダー

エドウィン・O・アフゼルイス

ラス・ピナスRCに所属。ソルケム・フィリピン株式会社 社長(有害溶液と有害廃棄物の処理と再生を図る会社) 妻と女の子2人の4人家族



クリスティヌ・M・デベラ

国際的な美容会社、ヘアサロンを経営。有機生化学のコンサルタント。独身



フェルナンド・ストロング・パスクワ

人的資源&教育訓練専門家
ラジオ・ミンナダオのWKCでアナウンサーとして勤務。教育訓練の専門科としても活躍。既婚



エメラルド・オデッサ・B・エスクエタ

ホテル宴会部門販売責任者
フィリピン日本文化学院の日本語奨学金に応募して、1年間日本語集中講義を受けて日本には2度訪問。独身



シャロン・リベラ

法学士 弁護士兼教授
フィリピン大学のマスコミ学部でジャーナリズムを専攻、弁護士試験に合格。独身



ドンドン・R・エデサ

専門治療&診断病院院長
正看護師の資格があり、更に医学部に進んで医学博士に。現在は大学の医長であり、又看護学部の講師。独身

が認識されました。

第10グループ、第11グループ各クラブから奉仕活動の現況発表があり、全体的に①障害者、高齢者への支援と慰問、②青少年との交流、③環境に係る「巣箱づくり」「ロータリーの森」「公園、海浜の清掃」など各クラブ各様の発表がありました。

全般的には、各クラブとも継続事業の多い姿が見受けられました。

問題提起としては次の3点が挙げられました。

1. 金銭的あるいは物質的な奉仕に対する疑問
2. 会員の減少による予算的、人的奉仕の限界
3. 価値観の変化の対応した社会奉仕

結びに当たり対木委員長より。

- 1) 効果的な奉仕プロジェクトとは。
 - ・プロジェクトの選択
 - ・プロジェクトの計画
 - ・広報活動
 - ・資金計画、募金活動
 - ・結果の評価
 - ※特に継続事業については、3年周期で見直しを掛け、事業として良いとするなら継続、反するならば中止し別の事業への転換。
- 2) プロジェクトとしては、ひとつの切り口として。
 - ・都市問題・環境保全・人口問題・保健・障害者に対して奉仕
 - ※あくまでもクラブ内で地域に密着した活発な議論が大切である。
- 3) 地区委員会の今後の活動予定の説明

クラブ活動 紹介

徳物葉子
(札幌はまなすRC)

10月1日、台風本道に上陸直前の不気味な静けさの中、恒例の石狩浜清掃を実施致しました。

参加者12名でしたが、海岸を背に、横列を組み片っぱしからタバコの吸いながら、あき缶、何に使ったのか古い廃材の様なロープ、針金等をゴミ袋に手際よく集め、所定の場所へ集めました。



また、不燃、可燃の分別をし、1時間程で終了させ、爽やかな汗を流しました。

それからというもの、道に行く時少しのゴミを目にすると、拾いたくなる衝動にかられ、失笑するこの頃であります。

それから移動例会を石狩浜番屋の宿にて行い、最後にゆっくりチョコレート色のモール温泉に身を沈め、そして台風の豪雨の中、家路に着きました。

月を見ながら、 親睦の和を



柴田晴史 (七飯RC)

七飯RCの合同観月会は、第10・11グループの親睦を目的として始まったようである。

当クラブの20周年記念誌を見ると、1986年(昭和61年)9月16日に

第1回が第10分区合同例会として行われた。前年度の昭和60年9月10日に当クラブ石井鉄弥会長が同じ10グループの森RCに訪問の際、森、長万部RCとの3クラブで親睦合同例会を実施して欲しいとの要請があった。

1986～1987年度の地区ガバナーは札幌北RCの三浦祐晶で、第10分区代理は森RC村上栄一、当クラブの会長は美村文雄、幹事は西谷雅行と記されている。



第1回目の会場は、当RCの会員であった石井鉄弥会員が経営する石井観光農場で行われ、長万部RCから3名、

森RCから20名、函館RCから3名、函館亀田RCから3名、合同事務所から2名、総勢50名で行われた。

翌年、昭和62年の9月には地区大会などがあり、10月26日に月見の会合同例会として交換学生を交えて行っていた。3年目も10月末に行い郊外クラブの親睦の和が硬いことを再確認させられたのである。

1997年9月30日には10・11分区合同観月会として行われ、市内、郊外クラブの会長、幹事を始め、各会員、合同事務所の方を含め70名位の出席で行われ、他クラブではついでに移動例会も兼ね100名もの会員で行われた年もあった。



今年度は9月17日火曜日の午後6時30分から8時まで行い、遠藤哲二ガバナー補佐を始め各会長さんから一言、交換留学生からも挨拶を一言いただき、スキヤキを食べお酒を飲みながらゲームをし、最後に手に手つ

ないで終わりましたが、尚一層親睦の和が硬くなった様子を写真を見て想像してください。

当クラブは創立当時から夜間例会で行っておりますので、最高の親睦会と思っておりますし、今後も末長くつづけてまいります、当クラブの大事な行事でもありますから。

フリーマーケットに 参加



中野孝一 (苫小牧東RC)

9月8日(日)苫小牧市若草町にて開催されたフリーマーケットに苫小牧東RCの社会奉仕委員会(菅野嘉一委員長)を中心に新世代活動推進委員会(高井昌機委員長)環境保全委員会(田中彰委員長)のメンバー12名が参加した。

1カ月前から会員の善意の出品物を募集し150点に及ぶ物品を販売した。

当日は晴天に恵まれ大勢の買物客で賑いクラブが出品した販売品が飛ぶように売れ午前中のうちに完売となった。



売上金は総額で119,198円となり、その全てを苫小牧青少年少女合唱団設立資金として「新世代のための音楽プログラム企画委員会(今野陽三委員長)」の活動に役立ててもらうため寄付をすると言う。

毎度有難う御座います。

結納・法要・寿し・天ぷら・うなぎ
折詰料理・その他御注文に応じます。



寿司の松よし

札幌市西区
西野2条9丁目

☎662-6411

骨髄バンク支援チャリティーバザー開催

月信担当地区幹事 竹原 巖（札幌北RC）

札幌北RCの大西忠男会員は、骨髄バンクへの支援活動のチャリティーバザーを10月6日（日）に開催いたしました。

このチャリティーバザーは3年前からはじめ、きっかけは大西会員のご息子が大学入学直後に重い白血病にかかり、3年間の闘病生活の後無事回復し社会に復帰することが出来ました。そのとき、日本には毎年約6,000人ものが重い血液の病気になる、そのうち2,000人が骨髄の提

供を待ち続けていることを知りました。

この人たちに適合するドナーを見つけるためには、ドナー登録者30万人が必要とされています。奥さんやご家族と相談し、一人でも多くの患者さんの手助けになれば良いという思いから、大西会員は支援活動のためのチャリティーバザーを始めることにしました。知人や友人からタマネギやジャガイモなどの農産物、また地域の人達から日用品等の提供を

受け、大西会員の経営する大西電気工業(株)の駐車場や会社で、地域の広報紙を通じて呼びかけを行い販売し、売上金を骨髄バンクへ寄贈するのです。10月6日のバザー当日には元患者さん3人と、(財)骨髄移植推進団体から事務局の方もお手伝いに見えられ家族と社員も参加して、チャリティーバザーは成功しました。また骨髄バンクへの理解に役立つことが出来ました。



活動の紹介を！

ロータリークラブの会員の皆様の中には、個人の奉仕活動をされている方が大勢いらっしゃると思います。ロータリーには従来より「隠匿を美」とする習慣があるやに思われますが、『月信』や『ロ

ータリーの友』を通じて、会員に紹介することも必要なことと思います。それらの活動を知ることにより、奉仕の輪がより大きくなり、自分自身の活動のヒントや刺激になる事もあるからです。

本人から披露しにくい場合も有ると思います。その時は他の会員から『月信』に投稿いただき、ご紹介をお願いします。



ゆとりのある空間と時間をお届けいたします

- 客室292室
- ショップ
- コンベンションホール
- ウェルネスクラブ
- レストラン・バー

ロイトン札幌

TEL 011-271-2711

〒060-0001 札幌市中央区北1条西11丁目

URL <http://www.daiwaresort.co.jp/>

財団の寄付について



川田憲秀 (白老RC)

「ジャパン アズ ナンバーワン」の時代が終わったのですから、香港と首位を争う経済環境ではないと考えます。しかしながら、ガバナーの決意も国際ロータリークラブに報告済みであり、精一杯の努力は欠かせません。日本の各地区の目標は年間・一人 80ドル位ですから、一回の例会で一人当たり200円~300円となり、楽しい企画を工夫しながら出来たら素晴らしいと思います。

これも、カナダのクラブでは、財団アワーとして、たのしいクイズをつくり、それを会員に答えてもらい、正解でも2ドル・不正解は4ドルなどと、たのしく無理なく集めていたようです。なにせ、私の英語の理解力が弱く悲しいものがありますが、ジョークも絡めての設問に、出席会員が歓声を上げながら、楽しい雰囲気は伝わりました。各クラブにおいて、工夫が必要と思います。

私の所属する白老クラブで実験してみました。たいへん、好評でした。一人当たり一年間に、10,000円くらいといいますが、50名の会員だと50万円・80名だと80万円となると、クラブの財政としては高額すぎると思います。

地区として、財団に寄付をすると、三年後には60パーセントが戻ってきていました。今後は50パーセントになるそうです。国際ロータリークラブの資金の使い方も透明性を欠くものらしいと聞き及んでおります。国際ロータリークラブの職員が国連の職員のようにないことを祈るばかりです。反面、米山奨学金の制度は透明性が高く、意識を高くし

ていきたいと考えます。



He profits most who serves the best

中川喬雄 (札幌手稲RC)

私の職業分類は米穀小売業(米屋)で、ロータリー歴17年になります。

7年前、食糧管理法が廃止され、規制緩和が導入されました。米業界はスーパー、量販店の新規参入により価格競争が続いていて、通常の仕入れ価格より安く販売されています。

生産現場でも輸入米による過剰在庫で、度重なる減反にかかわらず生産者米価が大幅に下落し、25年以前の価格です。

再生産はもとより、労働費も出ない状況ですので、作れば作るほど赤字が増えます。

専業農家の多い北海道は借金をして規模を拡大した稲作農家が多く、急速に離農が続いています。少しでも赤字を減らすべく、農家は生産したお米を農協に出荷せず消費者に直接販売することで生き残りをはかっています。米穀卸も小売店も大幅な売上減と利益率の圧縮で倒産、廃業があいつぎ米穀業界は壊滅の状況です。

職業奉仕の黄金律である『最も良く奉仕する者、最も多く報いられる(He profits most who serves the best)』は一見矛盾そのものに見えます。私自身、入会時には「一番多く奉仕した者が、たくさんの利益を得て金持ちになれる」なんてまったく理解出来ませんでした。

しかし、職業奉仕の第一歩はその道の専門家でなければならない。米作りの現場をもっと勉強しよう。生産地をまわり生産者と交流することで「農業の本質は自然との共生であ

って、命を育む糧を生産する」ことだと学びました。

農薬、化学肥料多投の近代農業は土壌を死滅させ、砂漠化、環境破壊につながります。特に農薬の大量使用は、食物連鎖を繰り返し、数千万倍に濃縮され環境ホルモンとして野生生物に生殖異常を起こし、多くの種が絶滅しています。

全国各地の著名な先生の講演を聴き、本を読むことによって、環境問題、有機農業の大切さ、農業を軽視した多くの国家が減んでいる歴史を学びました。そして農業が国家の基本であること、食の基本は身土不二であること、食糧自給率を高めることが絶対に必要だと確信しました。



社会奉仕委員会担当例会での卓話—「慈愛の種を播きましよう」—
佐々木実 (深川RC)

今日は四大奉仕部門の一つ「社会奉仕委員会」の受け持ちであり、松本委員長の暖かい、優しい厳命を受け、私がお話することになり、待ちに待ったイヤな例会日であります。

昭和55年5月28日、東京日比谷公会堂での全国市議会議長会での1900名を前にしての陳情。つぎは平成11年3月10日議員としての最後の一般質問。議員生活35年間の最後の演説でありました。そして今日の卓話はベスト3に入るものであります。

去る7月13日、滝川で2510地区の第1、第2、第3グループの社会奉仕委員が召集され、15クラブ47名の出席者がありました。初めての試みであり、主旨説明、過去3年間の地区内クラブの社会奉仕のビデオ上映、各クラブの取り組み等の発表があった情報交換会でありました。ニコニコボックスを社会奉仕に使うクラブ

が出てきたという事が収穫でした。

本年度の重点目標の一つ目は「家庭に慈愛の種を播きましょう」であります。家庭に対する愛情表現はオヤジは下手であります。例会に出席するのも、家庭の理解があればこそと思って、家庭に慈愛の心を持っていきたいと思えます。最近、笑わない、活気のない、表情のないサイレントベイビーが増えているという、ショッキングな報告が出されました。笑いこそ人間に与えられた特権であります。笑いを忘れて生きていくのは、人生にとって大変なことです。子供達は、世界の未来の宝であり、大切な絆である事を思い、来年の2月4日からの一週間、「家族週間」と名付けて、家族の大切さを説き、家族に感謝をする週間ですが、一週間といわず、毎日が家族への感謝の心を持って、例会日を家族との会話と感謝する日としたいのであり

ます。

二つ目に「クラブに慈愛の種を播きましょう」であります。素直に語り合い、親睦を深めましょう。挨拶は人の心を和ませるものであります。相手を思いやり、相手の立場を考えての話や挨拶が大事であります。平成10年から、シェイクハンド＝握手をしていますが、親睦の和が広がっていくのを感じます。

三つ目に「職業を通して慈愛の種を播きましょう」です。ロータリーの心で、職場の仕事に取り組み、自身の仕事の道徳的水準を高め、業務を品位あらしめるものとあり、働く人の思いやりのある、暖かい心を示すものと言われます。素晴らしい四つのテスト、これを家庭と職場と二枚、印刷配布を今年重点目標と考え、委員長さんをお願いしたいと考えています。

四つ目は「国際社会に慈愛の種を

播きましょう」であります。地方に住んでいてもロータリー財団に貢献できるのであります。チューリッヒのホテルの下にロータリーの部屋がありました。議員バッチでは例会場に入れませんが、ロータリーのバッチがあれば入れます。こんな値のあるバッチはないと思えます。ロータリーは一生懸命やる事で自分のものになっていきます。4つのテストを家庭や職場で実践して頂きたいと思えます。私は1週間に1回例会に出る事が楽しみなのであり、孤独な中であって、ロータリーは唯一の心の安らぎなのであります。2005年のロータリー100周年までは越智会員と共に頑張ろうと思えます。初めてロータリーの例会場に足を入ってから35年が経ちましたが、更に頑張ろうと思えます。(付記：佐々木会員は35年間皆勤のロータリアンです)

事務所だより

- 今月は地区大会（16・17日）が開催されます。クラブ幹事の皆様には登録受付をよろしくお願い致します（クラブ単位で行います）。
- 地区委員会及び各クラブの催事予定がありましたら早めに事務局へご連絡下さい。
- 今月は地区大会開催月のため、事務局への問合せ、報告等は、早めをお願い致します。
- 毎月の出席報告の提出が大変遅れておりますので、最終例会終了後15日以内厳守でご提出下さい。

掲示板

○ 幹事代行について

留萌RC

鈴木幹事の健康上の理由により、行徳幸治会員が幹事代行を務めます。

行徳幹事代行連絡先：〒077-0045留萌市本町4丁目 株行徳石材

TEL (0164) 42-0847 FAX (0164) 42-8766

○ 例会変更

● 苫小牧東RC

11月14日(木)

親睦委員会夜間移動例会「そば打ち体験教室」
場所 ふれあい3・3（若草町市民活動センター）

● 小樽南RC

11月8日(金)

午前6時30分 点鐘

場所：真正寺（長橋2丁目15-8 tel 0134-22-7346）



ワークショップに参加しよう!!

今年度当初、月信8月号にも書いたように「ワークショップへの参加を地区全会員の自由参加で、特定のテーマについて議論を深めましょう」ということを申し上げた。その後、ワークショップとはどういうことなんだ。講演会と違うのか、シンポジウム、セミナーとも違うのか、といった質問を頂戴した。

ワークショップとは集まる人が同じ目線で話し合うだけでなく、そこから何か一つ新しいものを作りだしていくことをしている。中野民夫氏がワークショップと題して岩波新書に書いた次の文章を引用させていただく。

「ワークショップ」とは、まだまだ聞きなれない言葉かもしれない。もともとは「共同作業場」や「工房」を意味する英語だが、ここ数十年の間に、「先生や講師から一方的に話を聞くのではなく、参加者が主体的に論議に参加したり、言葉だけでなくからだやこころを使って体験したり、相互に刺激しあひ学びあう、グループによる学びと創造の方法」として欧米から世界中に広がってきた。

(中略)

環境、教育、社会不安、人権、平和、経済不況、どれをとっても問題が複雑かつ広く絡みあっていて、単一の原因がはっきりあるわけではない。明快な唯一の解決策もない。こんな問題を前に、ひとつの正解や確かな道を示せる専門家などありえない時代だからこそ、私たち一人ひとりが、あきらめたり、孤立したりしないで集いあひ、問いあうことが大切だ。「どうしたらいいのだろう?」「何ができるのだろう?」と、お互いにそれぞれの経験や知恵を出し合って学びあひ、身近なところから一步一步試行錯誤しながら歩いていくこと。

その時、楽しくなければ、魅力がなければ、続かない。「～すべき」「～しなければならない」などと上から倫理的に押しつけられても、反発したり、頭で納得したつもりでもからだ動かさなかったりする。説教や正論はもうたくさんだ。現代社会で何が問題なのかという「テーマ」については出尽くしている。今は、これからどう取り組んでいったらよいかという「方法」こそが求められている。人にとっての根源的な喜びを内在した魅力的な方法が求められている。

ワークショップは説教臭くない。ワークショップは楽しい。ワークショップはわくわくする。ワークショップは感動と出会いがある。ワークショップは希望と勇気を生み出す。ワークショップにはやすらぎや癒しもある。ワークショップには創造と喜びがある。



Sheraton Sapporo
HOTEL

シェラトンホテル札幌

〒004-0052 札幌市厚別区厚別中央2条5丁目 (JR・地下鉄新札幌駅となり)

TEL 011-895-8811

パソコンでも携帯でも www.sheraton-sapporo.com

感染症とがん：むかしから北アフリカ（特にエジプト）から西アジアにかけて膀胱がんが多いが、これが住血吸虫という寄生虫の感染によることが最近わかってきた。さらにタイ北部（一部シベリアでも）に多発する胆管がんはある種の肝吸虫類（ヒル）によって起こることもわかってきた。

1950年代になって、マウスなどの小動物の乳ウイルスが発見され、引き続きある種のヒトのがんのウイルス説がもっともらしくなってきた。ところが最近、今までほとんど振り向きもされなかったがんの細菌説がにわかに注目されるようになった。ヘリコバクター・ピロリ菌が発見されたからである。

このように時代の変遷とともに、次第に解明されてきたのは、がんは「ウイルス」によって起こるだけでなく、「細菌」によっても、また「寄生虫」によっても起こり得るということである。上の3つの起因体は本来お互いに無縁で、大きさも実態も全くかけ離れた存在である。それでは何がこの3つのものをがんにつなぐかということ、そこで考えられたのがそれぞれの因子によって起こる「感染」の結果としての「炎症」ではないかということである。慢性炎症を放置すると炎症性細胞から出される活性酵素が近くの細胞の遺伝子を傷つけがん化にかかわるらしいのである。



連絡先：(財)札幌がんセミナー

札幌市中央区大通西6丁目6 北海道医師会館6階

TEL：011-222-1506/FAX：011-222-1526/E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp/URL: <http://www.phoenix-c.or.jp/scs-hk/>

広告

9月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例回数	会員数				出席率
			02.7.1	02.9.31	増減	内女性	
1	深川	3	46	45	-1	2	86.31
	羽幌	4	47	47	0	1	83.69
	妹背牛	4	12	12	0	0	79.16
	小平	4	15	17	2	1	69.11
	留萌	3	69	70	1	0	90.35
	小計		189	191	2	4	81.72
2	赤平	3	37	37	0	1	89.04
	芦別	3	60	60	0	0	96.87
	砂川	3	61	61	0	0	94.09
	滝川	4	108	112	4	2	73.50
	小計		266	270	4	3	88.38
3	美幌	4	48	48	0	0	87.22
	江別	4	50	50	0	2	90.02
	江別西	3	41	42	1	3	93.90
	岩見沢	4	97	104	7	0	87.23
	岩見沢東	3	33	34	1	3	91.18
	栗沢	3	35	34	-1	2	83.56
	栗山	3	34	35	1	2	92.04
	当別	3	46	47	1	0	92.02
	小計		384	394	10	12	89.65
	札幌	3	120	126	6	0	93.36
4	札幌あけほの	4	19	19	0	1	100.00
	札幌はまなす	3	29	29	0	4	89.66
	札幌北	3	58	58	0	7	94.15
	札幌モーニング	3	61	63	2	0	77.42
	札幌西	3	75	78	3	2	90.90
	札幌西北	4	52	55	3	2	91.12
	札幌手稲	4	52	52	0	0	99.02
	小計		466	480	14	16	91.95
	札幌東	4	123	126	3	0	98.47
	札幌清田	3	26	27	1	5	94.00
	札幌幌南	4	88	86	-2	0	99.70
	札幌真駒内	3	50	51	1	2	96.90
	札幌南	3	97	98	1	0	98.87
	新札幌	3	42	43	1	2	91.07
	札幌大通公園	4	17	19	2	5	75.27
	札幌セントラル	4	0	23	23	7	93.47
小計		443	473	30	21	93.47	
6	岩内	4	37	37	0	0	62.83
	倶知安	4	54	54	0	4	81.00
	小樽	3	96	94	-2	0	90.75
	小樽南	4	86	88	2	0	82.92
	小樽銭函	4	20	20	0	2	84.00
	蘭越	3	18	18	0	0	75.00
	余市	3	49	49	0	4	86.95
	小計		360	360	0	10	80.50

クラブ数	72クラブ
期首会員数	3,461人*
当月末会員数(女性)	3,528人(101人)
増加会員数	67人
当月平均出席率	84.46%

グループ	クラブ名	例回数	会員数				出席率
			02.7.1	02.9.31	増減	内女性	
7	千歳	4	74	74	0	2	88.10
	千歳セントラル	3	33	35	2	0	81.90
	恵庭	4	50	49	-1	0	79.78
	北広島	3	16	16	0	2	90.00
	長沼	3	18	18	0	4	80.50
	小仁	4	18	18	0	1	83.30
	小計		209	210	1	9	83.93
8	えりも	4	27	27	0	0	72.22
	三石	5	20	19	-1	1	93.22
	様似	3	24	25	1	2	82.30
	静内	3	68	68	0	0	88.28
	浦河	3	44	40	-4	1	89.89
	小計		183	179	-4	4	85.18
	伊達	3	53	55	2	0	77.23
9	室蘭	4	66	68	2	0	81.68
	室蘭東	3	56	56	0	1	90.55
	室蘭北	3	52	52	0	2	78.38
	登別	3	40	40	0	2	82.50
	洞爺湖	4	14	14	0	0	100.00
	小計		281	285	4	5	85.06
	函館	4	101	105	4	0	74.52
10	函館亀田	3	51	52	1	1	80.39
	森	3	51	51	0	0	81.00
	七飯	3	33	32	-1	0	82.10
	長万部	3	11	11	0	0	75.70
	小計		247	251	4	1	78.74
	江差	4	20	20	0	0	65.00
	函館五稜郭	4	71	73	2	0	79.76
11	函館東	5	67	68	1	6	76.82
	函館北	3	46	50	4	0	76.06
	上磯	4	34	34	0	3	72.00
	小計		246	253	7	10	73.11
	白老	3	34	34	0	1	82.00
	苫小牧	4	68	65	-3	0	83.16
	苫小牧東	5	33	33	0	3	74.99
12	苫小牧北	3	52	50	-2	2	87.22
	小計		187	182	-5	6	81.84
	合計		3461	3528	67	101	84.46

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー	ポール・ハリス・フェロー
相沢 芙栄 会員(1) 6月29日 (札幌北RC)	廣瀬 保男 会員 6月29日 (小樽南RC)
山光 進 会員(1) 7月23日 (札幌東RC)	渡辺 劭 会員 8月16日 (岩見沢東RC)
坂東 宗一 会員(2) 7月23日 (札幌東RC)	小林 博 会員 6月29日 (札幌北RC)
伊藤 崇 会員(5) 8月9日 (深川RC)	小林 幸子様 6月29日 (札幌北RC)
	近藤 敦 会員 7月31日 (新札幌RC)
小笠原 孝 会員(6) 8月23日 (函館北RC)	
菊地 章 会員(1) 8月23日 (札幌東RC)	
森本 正夫 会員(4) 8月23日 (札幌西北RC)	

訃報

外川恒正 会員 (砂川RC)
2002年7月2日ご逝去 (享年75歳)

《ロータリー歴》
1970年1月13日入会
チャーターメンバー
1970～1971 ロータリー情報委員長
1975～1976 職業奉仕委員長
1982～1983 副会長
1983～1984 会長

・米山功労者
・ポールハリスフェロー

訃報

菅原俊行 会員 (室蘭東RC)
2002年9月30日ご逝去 (享年69歳)

《ロータリー歴》
1986年9月 入会
1988～1989年 親睦活動委員長
1989～1990年 副幹事
1990～1991年 幹事
1992～1993年 プログラム委員長
1993～1994年 国際奉仕委員長
1995～1996年 副会長・クラブ奉仕委員長
1996～1997年 会長
1997～1998年 ロータリー情報委員長
1999～2000年 雑誌委員長
2002～2003年 ロータリー財団委員長
1991年 ポールハリスフェロー
2002年 14年間100%出席

訃報

朝倉瑞秀 会員 (苫小牧北RC)
2002年8月22日ご逝去 (享年71歳)

《ロータリー歴》
昭和58年 入会
1986～87 出席委員会 委員長
1988～89 奨学委員会 委員長
1991～92 会員選考委員会 委員長
1993～94 会計
1994～95 会報雑誌委員会 委員長

・マルチプル・ポール・ハリス・フェロー
・ベネファクター
・米山功労者

国際ロータリー第2510地区 2002-2003年度 ガバナー月信

発行人 2002-2003年度ガバナー 小林 博
発行元 国際ロータリー第2510地区
2002-2003年度ガバナー事務所
発行日 毎月1日発行 年12回
編集委員 ◎竹原 巖 (地区幹事) 委員長
大田すみ子 (地区幹事)
熊谷 満 (地区幹事)
脇田 稔 (地区幹事)
米山道男 (アドバイザー)
松木 新 (アドバイザー)

事務局 札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館6F
TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526
E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp

11・12月地区カレンダー

11月 ローターリー財団月間行事			12月行事		
日	曜日		日	曜日	
1	金		1	日	ロータリー研究会 (大阪)
2	土		2	月	
3	日		3	火	
4	月		4	水	
5	火		5	木	
6	水	インターアクト週間 (11/5を含む週)	6	金	ロータリーの友座談会 (東京、12:20) ガバナー出席
7	木		7	土	
8	金		8	日	青少年交換委員会
9	土	ローターアクト地区協議会 (赤平) 地区大会記念囲碁大会 (日本棋院北海道本部囲碁会館、11:50)	9	月	
10	日		10	火	札幌セントラルRC公式訪問 (札幌プリンスホテル、17:00~)
11	月		11	水	
12	火		12	木	
13	水		13	金	
14	木		14	土	
15	金		15	日	
16	土	地区年次大会 (北海道厚生年金会館、13:00~)	16	月	
17	日	地区年次大会 (北海道厚生年金会館・ロイトン札幌、9:00~)	17	火	
18	月		18	水	
19	火		19	木	
20	水	GSEさよなら会 (19:00~)	20	金	
21	木	第3830地区GSEチーム帰国 (JL562、14:25)	21	土	
22	金		22	日	
23	土		23	月	
24	日	ローターアクトクラブ交流会 (釧路)	24	火	
25	月		25	水	
26	火		26	木	
27	水		27	金	
28	木		28	土	
29	金		29	日	
30	土	ロータリー研究会、ガバナー会 (大阪) ガバナー・エレクト研修セミナー (大阪)	30	月	
1	日		31	火	

ピチャイ・ラタクルRI会長の説かれる愛。
わたしの主張するフレンドシップ。
そして、ヒトと環境の調和。

吉本 勲 (深川RC)
神経科吉本病院
TEL 0164-22-7130 (代)

広告



深川市の「花」…………カタクリ

北原白秋の歌碑のある丸山公園。雪解けとともに咲くカタクリの群生はすばらしく、道内でもこれほどの大群生はめずらしいといわれる。



岩見沢市の「花」…………バラ

昭和43年に北海道開拓100年、市開基85年を記念して市民憲章が制定され、市の象徴としての市の花に「バラ」が選定されました。



国見公園

音江連山の東部にある標高154mの展望台で、深川市内を一望できる公園。



玉泉館跡地公園

明治37年から昭和54年まで温泉旅館「玉泉館」の庭園として親しまれていた跡地を市民のみなさまの憩いの場としてご利用いただけるよう改修・整備された日本庭園です。



国際ロータリー第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

2002-2003 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER No.6

ガバナー月信

12月号
December

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR 小林 博 KOBAYASHI HIROSHI

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp



改革への第一歩

— 討論をたのしもう！



小林 博

12月は特別の「～月間」ではないので、自由なテーマについて書いてみよう。改革についてである。改革といっても革命をいうのではない。とにかく変えていかねばならないとの思いからである。決して過去と現在を否定するのではない。ただ新しいものを創っていかねば世の中の動きについていけないというだけである。

ここで問題にしたいのは、「ロータリーの改革」である。だが改革と言っても言うは易しく行うは難しである。そこで今回は改革の第一歩として「きちっとものを言う」ことがいかに大切であるかを述べてみよう。

世界をざあっとみて欧米人は日本人に比べ「和の心がない」といわれる。自己主張ははっきり言うから、和の心がないようにみえるかもしれない。事実、彼らは何かを決めるのに喧嘩がくがくと議論する。この意味での和の心はない。しかし、彼らは一旦決まったことに対してはまさに和の心をもってよく協力し、一致して問題の解決に当たる。これはなまじ我々の和の精神もかなわないほどの団結ぶりである。

アメリカの高校生はディベート（討論）をスポーツのように楽しむ。一つの問題をめぐって、違った立場に立って徹底して討論する。だが、どんなに厳しいディベートをしても結論が出たらあとは和やかである。

日本人はあまり議論を好まない。まあまあと「事なかれ」ですませてしまう。曖昧にしておくことが多いのである。実際そうしておくことのメリットもある。だが、世の中はそうはいかなくなってきた。白黒をはっきりつけねばならぬ事態が多くなったし、外交問題にしても曖昧にしておくことによるトラブルが多くみられるようになったのである。

だから問題の明解な解決のためにも、また新たな展望のためにも、まず議論することに慣れていく必要がないだろうか。すぐに感情的に喧嘩になることが多いのだが、少なくとも議論（話し合いといったほうがいい）は悪ではない。問題のスマートな解決にも、また新たな発想の展開にも、議論はむしろ大いに歓迎すべきものである。

わが2510地区ではとくにワークショップが推奨されている。単なる講義でもなく、シンポジウムでもない。みんなが同じ目線で率直に討論し、討論の中から一つ新しいものを創っていこうというのがワークショップの狙いである。

繰り返すが率直な討論は事をあらだてることではなく、また喧嘩でもないし、単なる言い訳でもない。自分に正直であり誠実であることの証しであり、また堂々と勇気のあることの証しでもある。

さらなる希望を申しあげれば、ロータリアンが自分の意見をきちっと言うことの大切さを思うだけではなく、率先実践・行動していただきたいものである。ビジョンよりアクションが大切なのである。そういったことに対する勇気をもって行動していけば、「ロータリーの将来は明るい」と私は確信する。

目次

ガバナーレター	小林 博	2	札幌西RC・新札幌RC・札幌南RC	
ロータリーの歴史に学ぶ(4)	西條 正博	3	会員の声	23
ガバナー・ノミニー決定宣言		4	伊藤知佳子(札幌北RC)・米谷 龍三(札幌東RC)・	
(財)ロータリー米山記念奨学会表彰		4	山本 幸子(江別RC)・青木 功喜(札幌東RC)	
ロータリーQ&A		5	2003年度RI年次大会(94回)プリズベン大会ご案内	25
文庫通信		5	追悼 富山惟夫ガバナー	26
ガバナー日記		6	石垣 博美(札幌セントラルRC)・	
ガバナーとの対話①		7	遠藤 正之(札幌南RC)・大沼 哲郎(留萌RC)	
地区大会特集		9	10月会員増減数・出席率報告	28
ガバナーとの対話②		15	ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます	28
地区活動紹介		17	訃報	28
家庭奉仕委員会・社会奉仕委員会・			事務所だより	28
友情交換委員会・GSE委員会			掲示板	29
クラブ活動紹介		20	12・1月地区カレンダー	29
札幌東RC・栗山RC・函館亀田RC・札幌あけぼのRC・				

ロータリーの歴史に学ぶ(4)

.....地区研修リーダー 西條正博 (札幌RC PG)

日本にロータリーが入ってきた頃は、長い鎖国の時代から明治維新を経て、大正デモクラシーの時流にあったとは謂え、当時の日本人々にとっては、ロータリーの精神はもとより、組織運営についても、これを理解し、受け入れることはまことに容易ではなかったようであります。

片や東京クラブは、一等国の面目にかけて一日も早くシカゴ、ニューヨーク、ロンドンなどのクラブと肩を並べるために、その例会や運営は、それにふさわしいようにとのえることに尽力し、一方、大阪クラブはロータリーの精神やその組織をいかにして日本の当時の実状の中に調和させるかに努力をしたのであります。

昭和の初期には、当時の緊迫した日本国内の情勢に鑑み、細心の注意を払って誤解を避けるべきだという空気が強くなり、ロータリーの日本化問題が真剣に叫ばれるようになりました。

昭和3年の太平洋ロータリー大会では、大阪クラブの土屋大夢は、「ロータリー以前の偉大なロータリアン」と題して二宮尊徳の話をして、至誠、勤労、分度、推譲にふれ、その報徳の教えはロータリーと同じではないかと言って、二宮翁夜話の水車の話や湯舟のたとえを示して一同に感銘を与えました。昭和5年には日本語のロータリーソングの話が出ましたが、昭和10年の京都年次大会に於て日本語のロータリーソング応募作品の入選発表があり、入選した4作品のうち、「奉仕の理想」と「我等の生業」が今でも盛んにうたわれています。

軍部と右翼の弾圧が全国的に顕著になったのは昭和10年頃からで、その年の11月1日には国家社会党から、「ロータリーは国家思想に反するフリーメイソンの外郭団体だ。」ときめつけた書面が京都ロータリー・クラブに送られてきました。国家社会党とは、その後石川芳次郎京都クラブ会長との間で、例会に国旗を掲載し、君が代をうたうという条件で話し合いがつかしました。

昭和14年には、東京の三越で内務省および陸海軍省の後援のもと各種の秘密結社のスパイ活動の展示があった時、

その結社の中にロータリーも加えられているのを見て驚いて取り除きを求めましたが攻撃の手はゆるめられませんでした。そこで東京クラブ会員松井茂が貴族院議員として4月議会で政府にこのことを質問し、有田外相から、「ロータリーは国際親善に寄与するところ大なるものがあり、政府は巷間行われているごとき見解を有していない。」という答弁を得て辛うじて危機を逃れたのであります。

ところがその翌年、日満ロータリー連合会長米山梅吉は軍当局に呼び出され、ロータリーの組織機構は日本帝国に対する反逆であると極言せられ、さらに静岡、大阪、京都をはじめ地方のロータリー・クラブは続々と解散離脱に踏みきりつつあるとの報に接し、ここに統制はまったく乱れ、ついに日満ロータリー連合会は国際ロータリー離脱を決意し、東京クラブもまた9月11日に解散し、戦前の日本ロータリーは20年に満たない歴史の幕を閉じたのであります。

この当時のクラブ数は日満を含めて48（内地クラブ37、外地クラブ11）、会員数2,142名でありました。

戦後日本のロータリーが国際ロータリーに復帰したのは昭和24年4月のことであり、解散から9年近い空白がありましたが、この間もクラブの名称を変更し、危険をおかしながら一回も休むことなく例会を継続したクラブが、札幌、小樽を含めて全国に19クラブあり、このロータリーに対する熱情が国際ロータリーを動かして日本ロータリーの復帰を早めたことは、特記しておく必要があります。(完)

.....

毎号ご愛読を賜り厚くお礼申し上げます。

本稿は、『ロータリー日本50年史』に拠りました。5年の歳月をかけて昭和46年6月30日に発行されたもので、430頁、そのうち資料・年表に150頁を割いて充実しております。古いクラブなら事務所に必ず一冊、地区文献資料室にも保存されていて、閲覧自由です。また11年後の昭和57年10月1日には404頁に及ぶ『ロータリー日本60年史』が発行されております。以後は発刊されておられませんし、企画もないようです。



ガバナー・ノミネー決定宣言

国際ロータリー第2510地区

会員各位

2004～2005年度国際ロータリー第2510地区ガバナー・ノミネーの選出については、地区ガバナー指名委員会より、遠藤秀雄君（登別RC）が選出された旨、報告を受けました。

国際ロータリー細則第13条第2節（13.020.）に基づき、遠藤秀雄君を2004～2005年度第2510地区ガバナー・ノミネーとすることを決定し、ここに宣言致します。

2002年11月15日

ガバナー 小林 博



2004～2005年度 国際ロータリー第2510地区

ガバナー・ノミネー

会員名 遠藤 秀雄（登別RC）
 生年月日 昭和8（1933）年生まれ
 職業分類 病院
 事業所名 医療法人友愛会恵愛病院理事長
 （登別市鷺別2丁目32-1）
 入会年月日 昭和44（1969）年12月14日

【学歴】

1961年 3月 北海道大学医学部医学科卒業
 1962年 3月 北海道大学附属病院にてインターン終了
 1962年 4月 北海道大学医学部精神医学教室に入局
 1975年12月 学位取得

北海道精神病院協会副会長
 北海道精神保健協会副会長
 室蘭地区精神保健協会会長
 登別市医師協議会会長

【職歴】

1968年 3月 恵愛病院院長に就任
 1976年12月 医療法人友愛会理事長に就任
 北海道精神医療審査会会長
 日本精神科病院協会代議員及び北海道支部常任理事

【ロータリー歴】

1969年 入会（チャーターメンバー）
 1972年～73年 幹事
 1980年～81年 会長
 1993年～94年 分区代理
 ポール・ハリス・フェロー

**(財)ロータリー米山記念
 奨学会表彰**

（2001年7月1日～2002年6月30日）

米山功労者 2510区

クラブ名称	氏名	功労者回数
伊達	川岸洋一	1
恵庭	山田邦昭	1
深川	渡辺一義	1
函館	太刀川善一	1
函館五稜郭	光銭裕二	1
函館東	池垣清信	5
	小泉護太郎	2
	森元浩子	2
	鍋谷操子	3
岩見沢	横鎌田誠	1
	仲屋成裕	1
室蘭	岩田川亮	1
室蘭東	森村木一	1
	熊上谷弘	1
室蘭北	七飯野義夫	1
七飯	小樽青木真一郎	2
小樽	角江哲雄	1
小樽南	留萌北平	1
留萌		1

札幌はまなす	高田潔	1
札幌東	佐藤一郎	1
	川原宏一	1
	野村昭光	2
	奥貫一	2
	田中俊彦	2
札幌北	山崎美東	1
	相沢清次	1
札幌幌南	杉下賢一	1
	海野英爾	1
札幌真駒内	中川健	1
	指市川隆	4
札幌南	岩城秀晴	1
	市井英明	3
	岩井秀雄	1
	金川武久	1
	川崎藤幸	1
	工藤隆俊	1
札幌西	夏井信三	1
新札幌	杉山隆憲	1
静内	福沼士恭	1
砂川	梅庭泰弘	1
	伊藤徳春	1
滝川	大谷義男	1
	細田光人	1
	吉田正	3
苫小牧	横田田稔	1
苫小牧北	伊藤長	3
	山崎正寿	1

功労クラブ

クラブ名	功労クラブ回数
伊達	7
深川	9
函館	8
函館五稜郭	6
函館東	17
岩見沢	20
室蘭東	2
室蘭北	4
長沼	2
七飯	3
登別	4
小樽	5
小樽南	5
札幌はまなす	2
札幌東	24
札幌北	18
札幌幌南	12
札幌南	26
新札幌	11
砂川	8
滝川	19
苫小牧	3
苫小牧東	3
苫小牧北	9

※プログラム訂正

Q. 定款第6条第4節「現実に職業活動に従事しなくなったということ」の意味について教えてください。下記理由により退会した会員が、再度入会する場合、入会金の取り扱いはどうなりますでしょうか。

- 1、病気治療のため休職した場合
- 2、会社員が定年により会社を退職した場合
- 3、医師が病院を廃業した場合

A. 定款第6条第4節は移籍ロータリアン又は元ロータリアンの規定条文です。「現実に職業活動に従事しなくなったということ」の前文に「移籍する会員または元クラブ会員を正会員に推薦することが出来る」が、被推薦者が所属していた所在地域内またはその周辺地域で保持していた職業分類の下で職業活動に従事できなくなった場合でなければならぬということです。

(例) 全国的組織を持つ企業で転勤の場合
個人企業が他の地域に移転する場合等々

- 1、2、3の場合いずれも移籍又は元ロータリアンの部類ですので、二度目

の入会金は必要としません。

但し、入会時に諸費用徴収がクラブ細則に規定されている場合諸費用の納入義務はあります。

クラブ細則で入会金を減額しそれを諸費用に充当させる場合は、RI定款に背馳することになります。

あくまで、二度目の入会金納入の義務を免除しなければなりません。諸費用とは別個で移籍又は元ロータリアンと一般的な会員候補者の入会金納入義務との公平を欠くこととなります。

Q. 東京のクラブに入会していた会員が、転勤先の都合により札幌に転勤を命ぜられ、札幌のクラブに入会する場合について教えてください。

- 1、定款第10条「2度目の入会金の納入を要しないものとする」の意味は、一切入会金を徴収してはならないとの意味でしょうか。
- 2、東京のクラブの退会時と札幌のクラブの入会時に、隔たりがある場合期間に制約はあるのでしょうか。

普通は3カ月程度で入会の申込のなされることが多いと存じますが、1年を超えるブランクがあった場合は、どうなりましようか。

- A. 1. 定款第10条は、移籍又はロータリアンの二度目の入会金を要しないと

いうことは入会者の特典とした条文であってこの権利を剥奪することはできません。もし減額してでも徴収すれば、定款第10条を否定することになります。

2. 移籍する会員又は元ロータリアンが、クラブを退会し移籍又は他のクラブに入会するまでの期間は定められておりません。

Q. 年末年始の例会休日とメイクアップについて教えてください。年末年始に例会日が当たる場合、休会とすることができのでしょうか？ また、メイクアップの受付が必要でしょうか？

A. 年末年始の例会日を休会とする場合は、定款第5条第1節(C)により、「理事会裁量に基づき、1年に4回まで例会を取りやめることができる」を該当させることができます。

また、メイクアップの受付ですが、定款・細則等で決められておりませんが、ロータリー会員の特典の一つに「世界中どここのクラブの例会に出席することができる」ことを考慮すると、当然メイクアップの受付は必要とされるものである。しかし、受付はロータリアンと限られていないので、ホテル等のフロントで代用は可能である。

文庫通信



「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

ロータリーの奉仕活動

- ◎「新世紀のロータリー奉仕活動について〈パネルディスカッション〉」
南園義一 他 2002 4p (D.2710地区大会)
- ◎「新世紀の地域社会奉仕」
仁田一也 2002 6p (D.2710 合同IM)
- ◎「国際社会とボランティアロータリーへの期待とロータリアンの役割」
本間正明 2002 7p (D.2660地区大会)
- ◎「ロータリーは何をなすべきか〈パネルディスカッション〉」
本間正明 他 2002 7p (D.2660地区大会)
- ◎「ロータリーで今、変えることと変えてはいけないこと〈パネルディスカッション〉」
黒田正宏 他 2002 4p (D.2830地区大会)

- ◎「地域社会と地球社会をつなぐ力〈シンポジウム〉」
2002 11p (D.2810地区大会)
- ◎「新世紀のロータリー」
板橋敏雄・関場慶博・高橋福八 2002 6p (D.2570地区大会)
- ◎「新世代育成のため今なすべきロータリーの役割〈シンポジウム〉」
藤川享胤 他 2002 12p (D.2530地区大会)
- ◎「ロータリーの未来とそのあり方」
千 宗室 2002 6p (D.2650地区大会)
- ◎「ロータリー遠望」
森 三郎 2002 8p (D.2610地区大会)
[上記申込先：ロータリー文庫 (コピー)]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

ガバナー日記

公式訪問ほか

10月21日（月）**札幌南RC**を単独訪問。札幌南クラブは当地区における札幌、小樽に次ぐ伝統があるクラブで現在の会員数は当日1名増えて99名。なごやぎ（なごやかとやわらぎの造成語）をモットーとしている。

10月23日（水）は**恵庭、北広島、長沼、由仁RC**の合同例会に出席。先立って会長幹事懇談会で和田AGとともにクラブ活動の概要を聞く。特に恵庭RCは少年野球を単独スポンサーして通算23年のお世話をされた。他にも子供相撲（毎回500人参加）、ビール祭（サッポロビールと協同）、オンコ祭りなど積極的。北広島RCは北広コンサートで音楽教育、また長沼RCは国際フェスティバルで有名。長沼RCの国際フェスティバルは米山学生のお国自慢料理から餅つきまで小学生との交流に加え長沼温泉でも楽しんでもらうことすでに11年。由仁RCは青少年交換での実績のほかロータリー文庫、ロータリー農園、ロータリーの森など意欲的。いずれも小人数ながら「よくやっているな」の印象。

10月24日（木）は**家庭奉仕委員会**の勉強会。札幌モーニングRCの池上恵三会員による「不登校」について。不登校とか「引きこもり」はどうも日本特有の現象らしい。家庭奉仕にかかわる話題は来年2月22日開催の第4.5グループのIMのテーマになるとのこと。いま全国のロータリーで**青少年育成**が大きなテーマになりつつあるが、わが地区は特に家庭問題から切り込んでいったらよいのではないかと？

10月28日（月）はフィリピン3830地区からのGSEメンバーの中間報告会（ライフオートホテル）に出席。山名善久委員長はじめGSE委員会委員の心憎いばかりの行き届いた気配りに感激。二次会のカラオケで歌と踊りでGSEメンバーも大喜びだった。

10月31日（木）は**札幌東、新札幌RC**の合同例会に最後の公式訪問。合同の例会はどこも評判がよい。20年前札幌東RCから新札幌RCの初代会長になられた宇佐美名誉会員（93歳）もお元気でお顔をみせられ札幌東RCの旧友から喜ばれていた。札幌東RCは伝統のある大クラブでありながら元気一杯。その陰に全国初のインナーフォイルといわれるご夫人方の協力が大きい。



札幌東・新札幌RCの合同例会でロータリーソングを歌う
札幌東RC加藤国彦氏撮影

同日夜、第2回目の**諮問委員会**と**指名委員会**。パストガバナーのロータリーゾーン研究会のための経費削減についてご理解をいただく。地区大会についてはガバナー特別表彰について4件の団体、3件の個人表彰を説明。ガバナーノミニー指名委員会では2004-2005年度ガバナーノミニーは登別RCの遠藤秀雄氏を推薦することになる。

地区大会の準備に

10月31日（木）。この日もあわただしい1日だった。地区大会プログラム校正のほか、月信の11月号が出来あがってきた。同時に懸案の**地区会員名簿**もようやく出来あがってきた。名簿のページをめくりながら、これが思いのほかの難産だけに感無量。有効に利用されることを祈念する。



11月に入って地区大会の準備に落ち着かなくなる。私だけではない。むしろ地区幹事、実行委員、そして事務局員もみんなてんてこ舞いである。結構細かなことが沢山あるものだ。私も予定していた2つの学会出席も心おきなくキャンセル。

地区大会のプログラムの編成、校正には念には念を入

2002年(平成14年)10月22日(火曜日) 日刊

お茶の香りに「和学ふ
フィリピン研修生が茶道体験

和服姿で茶道を体験する研修生

国際RC

フィリピン研修生は、茶道体験を通じて日本の文化や伝統を学ぶ機会を得た。研修生は、和服を着用し、茶室で茶を淹め、茶を飲むという伝統的な作法を体験した。研修生は、茶道体験を通じて日本の文化や伝統を学ぶ機会を得た。

播こう 慈愛の種



RCの幹事前田恒雄さんが優勝。7段の腕前ながら次は8段とみんなに祝福される。集まる人凡そ50名。地区の囲碁熱はたいしたもの。

11月13日（水）朝になって大会プログラム完成、直ちに来賓、パストガバナー、ガバナー補佐に直送。大会前に何とか見ていただけてよかったと思う。だが、会長、幹事、一般会員は大会当日まで待っていただくことになる。

大会実行委員ほか関係者はみんな厚生年金、ロイトンの現場での打合せに懸命。一方、事務所では表彰状その他細かなことの準備に大多忙。みなさんのご協力には本当に脱帽である。

地区大会終わって

詳細は別ページにゆずるとして、大会初日の委員会報告はすべての委員長さんの簡潔なまとめで、初の試みとしてはうまくいったと思う。次の記念フォーラムも3人の現職ガバナーの熱弁と、それに引き続くフロアとの活発な質疑で大好評のようであった。

大会2日目は私の早とちりで大切な来賓の方々のお名前を飛ばしたり読み違えたりで散々。滅多にあがることのないのに、やっぱりあがっていたのだろう。それとリハーサルもない、いきなり本番で行き違いも起きたりで、

れる。限られた予算の枠内で、印刷屋さんにもえらい面倒をかけ何とか満足なものが出来たように思う。

11月10日（日）夕刻、地区大会の前哨戦としての囲碁大会の表彰式に出席。札幌幌南

厳粛であるべき大会の雰囲気がおかしくなった。堅さかとれて「かえってよかった」と慰めてくれる人もいたが、「失敗は成功のもと」ということでお許しをいただこう。

大会前日の11月15日、92-93年度のガバナー富山惟夫さんの訃報が入る。7月13日公式訪問の途次にお伺いしたときはお元気だったのに残念至極。17日の記念懇親会終了のあとホストの札幌北RCの皆さんに心から御礼を申し上げたあと一旦帰宅。着替えのあとすぐ車で留萌に。お通夜にギリギリ間に合ったが、夜は留萌RC道重幸会員の光風館のお風呂でここ数カ月の疲れをとる。大会が終わったとの実感にひたりようやくホッとす。翌朝告別式に出席のあと、札幌幌南RC金子均会員の車に便乗して帰札。

咲かそう 慈愛の花



GSEのみなさんバイバイ

フィリピンからのGSEメンバーは本当に評判よかった。各クラブのお世話も大変なことだったろう。ホストファミリーのご苦労は勿論である。5週間は短くもあり長かった。11月19日（火）、離札前夜の反省会ではGSEメンバーが涙したのを受けてわが地区GSE委員会委員ももらい涙したという。アジア人としての共感がそうさせたのであろうか、初めての経験。翌日ライフオートホテルに全員を見送る。

それにしてもGSE地区委員のみなさん本当にご苦労さん。武藤順（札幌西RC）さんと高橋宏（札幌清田RC）さんの英語には随分お世話になった。何ととっても山名善久委員長さんはじめGSE委員の全員本当にご苦労さん！！

ガバナーとの対話① —会長幹事懇談会メモより

—会長幹事懇談会におけるガバナーとの対話を出来るだけ忠実に紹介するものである

地区と会員の距離感

- Q. 地区と一般会員の間の距離が大きすぎる。あるいは両者のつながりが希薄な気がするのだが、これからどのような対処を考えているか。
- A. 両者の溝が意外と大きいという考えから、それを打開するために月信の全員購読をお願いした。月信には会員からの生の声を紹介するようにしている。またワークショップで特定のテーマについての突っ込んだ話し合いをすることもお勧めしている。

今年のビチャイ・ラタクルRI会長のいわれる「ロータリーを良くするためにはトップダウンではなくボトムアップを大事にしなければならぬ」のだが、このボトムアップの勢いが強くなれば当然、地区と会長との繋がりも深くなっていくだろう。また、公式訪問でガバナーは従来拍手で送り迎えされるという儀式的な場面が多かったが、一般会員と同じように予め入場し、一般会員との懇談の機会を増やすことも両者の距離を縮めることの一助になると考えている。

家庭奉仕に賛成

- Q. 慈愛の種は家庭から播きましようの方針は非常に賛成である。
- A. ご理解をいただき有り難い。現在家庭奉仕委員会で何をなすべきかを勉強している。こういった会にも出来るだけ沢山の方々の参加をお願いしたい。全国青少年育成委員会なるものも結成されたが、当地区としてはその育成委員会の切り口として社会奉仕や家庭奉仕から入って行きたいと思う。

ロータリーゾーン研究会とは

- Q. ロータリーゾーン研究会とはどういうものなのか、これに相当の予算が使われているようだが実態はどうか？
- A. 年一度のロータリーの勉強会で主にパストガバナーの参加によって行われる。親睦の意味もあるのでご夫人の同伴もあるが、地区予算はパストガバナー本人のみを対象としている。しかも予算が緊迫化しているので相当の自己負担をお願いしている。
- Q. (ガバナーから) GSEはご苦労様でした。お世話が大変だったでしょう。



- A. (会長幹事から) お世話が大変だったが、フィリピンからのGSEメンバーと楽しく有意義だったと思う。歌もありお酒もあり盛りあがった。

地区大会は面白くない

- Q. 地区大会は儀式ばかりで面白くない。だから欠席者が意外と多いが、高い金を出してやるだけの意味があるのか？
- A. 面白いかどうかの規準ではなく勉強になったかどうかでないか。反省すべき点は多々ある。今回は11月16日(土)は委員会報告、記念フォーラムなど主として勉強、17日(日)は主として儀式だが、ガバナー特別表彰も重々しくやりたいし、感動的なものにしたい。アグネス・チャンの記念講演にも期待したい。

財団年次寄附の使途

- Q. 年次寄付はロータリー財団本部に集められ、3年間は財団がこれを投資し3年後に60%が地域財団活動資金に40%が国際財団の活動資金になるとされている。またこの間の収益は事務局の運営費、プログラム管理費、寄付増進費に使われることになっている。2001-2002年度の年次寄付の目標額は一人当たり61ドルで計7,300万ドル(約89億円)。毎年順次投資されるので1年間の投資運用額は約260億円となる。この運用内容や結果に関する情報は我々の耳に入っていないが、ガバナーは

ご存知か? 2001年6月から国際ロータリー日本事務局と世界本部のデータベースが繋がったとの事だがその中で見る事が出来るのか?

- A. 数字として観念的には理解しているが具体的な収支はわからない。ロータリー財団については月信11月号にやや詳しく紹介されたが、実際の運用についてはこれから知るようにしたいと思う。

ITか印刷物か

- Q. インターネットが普及してきたので必要な情報はそこから入る。ガバナー月信の印刷物に代えてインターネットで月信の情報を流している地区もあると聞くのだが、わが地区ではなぜ月信の充実をはかるのか? 経費的にも問題はないか?
- A. インターネットが普及してきたことによる情報伝達の新しい動きは承知している。だが必要な情報をインターネットで受けることの出来る地区内ロータリアンは凡そ1~2割と推定している。そうすればインターネットを使わない8~9割の人への情報伝達はどうなるだろうか? 地区の全会員一人ひとりの声を十分反映、月信を読みながらロータリーを考える糧にしていきたいとの願いから月信の全員購読をおすすめしている。月信は全員購読の原則で1冊100~120円ですむ。月信は地区のロータリーの友でありたいと思う。

- Q. Bottom upが言われながら地区からのTop downが結構多いように思うのだが。

- A. 本来bottom upとtop downの区別をどこで線引きすべきかわからない。bottom upがすべてで善でtop downがすべて悪ということはないし、逆もまた真ならずである。Bottomからの声が出てこないとき、ボトムの声を大にさせていただくためにtop downでボトムに激を飛ばす事もある。あってよいのではないか。両者区別なく信頼関係を築き組織をいかに活性化するか意を尽くす点で一致していきたい。



ガバナー月信Governor's Monthly Letterのイメージも変わってきた。「ロータリーの友」が全国ロータリアンの必読書であるように、月信は地区の「ロータリーの友」でありたい。会員の声を吸収するなど内容の充実に努力中であり、地区内の全員購入をおすすめしている。

◆ 地区大会特集 ◆

11月16日～17日

地区大会は成功か

地区大会は天候にも恵まれて11月16日～17日の2日間、札幌市の北海道厚生年金会館とロイトン札幌ホテルの2会場で総計1,873名が集まり、開催された。

第1日目は、12時30分より「会長・幹事会」が行われ、各種協議・上程案件について審議された後、本年度の大会運営について報告され、13時40分からの本会議（1）に臨んだ。本会議では、前年度の決算・監査報告・大会運営について登録・信任状・選挙管理の各委員会より報告があり、大会決議案の上程・承認と続き、地区内30委員会の各委員会より活動報告並びに計画の発表が、1時間45分にわたって行われた。

その後休憩をはさみ、本大会のハイライトの一つである記念フォーラムが「慈愛の種からどのような花を咲かせるか—新世紀におけるロータリー運動の目標と戦略—」をテーマに、他地区の現職ガバナー3人をゲストスピーカーに迎えて行われた。発表後は、熱気のコもったフロアからの意見や提言が数多くあり時間が不足するほどで、ロータリーの将来に希望と夢を感じさせるものであった。

第1日目の本会議を終了し、ウェルカムドリンクでしばしのどを潤し、フォーラムの熱気をさまして晩餐会に入った。RI会長代理ご夫妻の歓迎晩餐会には、会長幹事の方々ばかりでなく、会員どなたも自由参加の開かれたアットホームな温かな雰囲気の中が行われ、アトラクションには北海道二期会メンバーによる演唱も加わり、和やかに打ち解けた交流が続けられ第1日目のスケジュール

を終えることができた。

第2日目は、会場を北海道厚生年金会館大ホールに移動し、オープニングは札幌西・手稲・西北・あけほのRCのメンバーによる合唱で始まった。会場の雰囲気はロータリーの地区大会へと一気に盛り上がった。

点鐘・国歌・ロータリーソング斉唱・挨拶・来賓紹介・追悼に続き、12グループガバナー補佐の方々より参加クラブ紹介があり、表彰・記念品贈呈があった。

記念講演会には、歌手生活30周年を迎え「The Seeds of Love」を掲げ、「小さな命からの伝言—少子高齢化社会への提言—」をテーマに、アグネス・チャン氏に、自らの豊富で貴重な体験を交えてお話をいただいた。大ホールの方々で目頭を押さえるロータリアンの姿を多く見かけるほど、感動的で示唆に富む講演であったようです。

懇親会は、函館・えりも・羽幌など遠隔地の方々の帰宅時間を考慮し昼食会として、全てのスケジュールを午後3時に終わることができた。懇親会ではGSEの紹介、7名の会員誕生祝いのほか、音楽と映像によるコンサートで会員による手作りながら心のこもったもので、出席者の興味を引き評価の高い構成だった。

RIの「慈愛の種を播きましょう」のテーマのもと、地区大会テーマに「咲かそう慈愛の花」を掲げ、ロータリーを見つめ直す機会ともなった。

第1日目

変革の地区大会

松見修二（函館北RC）

1986年8月6日、三浦G公式訪問の折、バッジを付けて頂いて以来16年の歴が経過しようとしている。出席率は100%を持続、さらに地区大会参加は11回を数えるに至った。これまでの参加歴の中で何か印象に残ったものが有ったのだろうか、大半は開催地での夜の酒宴に参加意識が強くあった。従来、地区大会は記念フォーラム、基調講演と一律のプログラムで進行し、更に地

区大会が終わると、その年度の終了を意味するものと成っていた事も否めない。

手続要覧の改定に伴って、地区大会をその期の前半に開催する事によって、この後にクラブ協議会を行なう事が意義深いものになると言える。

記念フォーラムは分科会とせずに、参加者が一堂に会し、3人のパネリストが全く違った観点からの発表、そしてフロアとの議論、これぞ小林Gの望む所であったのではないか。アグネスの基調講演は聴衆を引き込み、笑いと涙で感動を受け心が洗われる思いがした。

私が加盟する協会の全国大会が9月に開催され、この時は萱野茂氏がアイヌ民族の過去と現状に付いて講演があり、一つの民族が危害を受け衰退して行く話と考えさせられたのは記憶に新しい処であり、人類が人類を滅亡に導くことは決して有ってはならない思い

が強く残った。今回のアグネスの基調講演を一般公開、或いはネット配信が出来たなら更に大きな意義が生まれたと思われる。

終わりに一言、小林Gご苦勞様でした。そして感動を有難う御座いました。

会長・幹事会



ロータリーソング斉唱



小林ガバナー開会挨拶



進行 竹原 巖
(地区幹事)



受付

各委員会報告

地区大会初の試みとして、30委員会より活動報告と計画の発表がありました。



記念フォーラム

夜空に慈愛の光が輝いていた

斎藤修弥 (室蘭RC)

4年振りに参加した地区大会は寒風ふきすさぶ11月16日、地区内72クラブから多数の会員が参加して盛大に開会された。前半のメインである委員会活動報告は、各委員長が短い持ち時間をフルに使って、如何に創意工夫しながら情熱を持って、委員会活動を展開しているかという迫力が伝わってくる内容であった。5分間の休憩の後に始まった記念フォーラムは、小生の期待したプログラムである。テーマ-新世紀におけるロータリー運動の目標と戦略-の決定こそ、本地区大会最大の重要

事項だからである。果たせるかな2時間にわたって展開された粒よりのスピーカーとフロアーとのダイアログは、参加者を充分納得させ、考えさせそして勇気づける素晴らしい内容であった。その夜私は、歓迎晩餐会を終えて会場の外でたまたま見上げた夜空に、燦然と慈愛の光が輝いていた様な気がしてならない。それほど印象的かつ感動を覚えた本会議の初日であった。



記念フォーラムのスピーカーの方々

ロータリーの今後を真剣に論議

伊藤正敏 (岩内RC)

コーディネーターの2510地区小林ガバナーは、世界の平和への貢献のためロータリークラブは手を拱いてはいけない。124万人のロータリーアンが原点に帰って考えていく必要があるのではないかと述べられただけにゲストスピーカーの話に入った。

牛窪ガバナーは肥大化したロータリーに数多くの問題点があることを指摘され、特にロータリーが寄附団体化していること。地域に密着した活動をしているかどうか。財団並びに米山の現状の問題点(謝金の問題を含む)等を鋭く訴求された。1会員の意見を集約して地区へ、そして地区からRIへ十分反映させる必要があること。日本からは現在迄RI会長に2名が選出されているがこの点からも今後考えていく必要があるのではないかと述べられた。

なお牛窪ガバナーは今年度最年長のガバナーという事でしたが、ロータリー愛に満ちた、心打つ話でした。

次に今年度最年少の2500地区小船井ガバナーからは、2510地区と2500地区の交流・対話が不足しているのではないだろうか、今後は地区大会を合同で行っては如何かとの話があ

り、モータリーゼーションが時代を変革させたのと同様にITテクノロジーが全てを変革させることになる。テクノロジーの現状認識とそれをロータリーに生かす事が必要である。「手紙」が「メール」に、「月信」が「ホームページ」に変わることによって資金の有効な活用が可能になるのではないかと話がありました。

また前川ガバナーからは、ロータリーは日本の教育に対する具体的な



ゲストスピーカー：牛窪 栄吉ガバナー



ゲストスピーカー：小船井 修一ガバナー



ゲストスピーカー：前川 昭一ガバナー



コーディネーター：小林 博ガバナー

取り組みをすべきであるとの話があった。現在専門の知識を生かすべく青少年育成委員会を立ち上げたこと。総合学習にロータリーアンが手伝うなど、具体的にはロータリーアンが学校評議員になっていただき、教育改革のサポートをしていただければとの提案があった。これこそ小林ガバナーの提唱する家庭奉仕への具体化に違いないであろう事を述べられた。

会場は、満席となり質問も活発になされ、記念講演会終了まで途中退席する人がないなどロータリーの今後の100年について真剣に議論された。最後に「最も憂えるもの発議する義務あり」と深く感じたものであります。

インターネット時代への対応を

島田一省（様似RC）

小船井ガバナーが、地区のホームページをご自分で立ち上げていると聞き、驚いております。つい10年位前までは、趣味の世界でしかなかったパソコン通信の時代から、まるで電話のように手軽で、実用的なインターネット通信の時代となりました。私たちの住む人口6,000人程の地区でさえ、まもなくブロードバンド通信網が開通します。

これまで以上に急速に普及し、ガバナーのおっしゃる空気のような存在になるのも時間の問題かと思えます。ロータリークラブも、事務連絡等には大いに利用して行くべきかと思えます。ただ「ガバナー月信」「ロータリーの友」のようなものは、ホームページとは別に、残してゆくべきかと思えます。

前川ガバナーの教育改革への参加については、すでに活動されているクラブもあり、今後に期待しております。活動後の具体的なカリキュラム、結果、反省などを含めた情報を開示して頂きたいと思えます。

何とかこの運動の役に立ちたいと、強く考えております。



フロアー発言



フロアー発言



フロアー発言

RI会長代理ご夫妻 歓迎晩餐会

歓迎晩餐会の今後の課題

泉亭祐司（当別RC）

佐野康博RI会長代理をお迎えするプログラムとして晩餐会が本当によかったのだろうか。各クラブの会長、幹事、地区役員による歓迎でなく、地区全体で行ってもよいのではないか。今後の課題として。

今回の晩餐会は、全体的には良かったとは思いますが。交流を図る意味からは席を決める時にグループ別ではなくランダムに行っても良かったかと感じました。

バストガバナーに配慮しすぎる傾向が顕著に見受けられます。乾杯はもっとスピーディに行いましょう。

アトラクションは折角の演唱が祝宴に入ってからなので聴いている方が少なく残念でありました。

オペラ等は宴に入る前に聴いた方が良かったと感じました。

RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会 ウェルカムドリンク会場



北海道二期会のみなさん

RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会



第2日目



進行 高橋 麗秋 (大会幹事)

ロータリーソングに しばし感動

鷺尾昌法 (滝川IRC)

滝川は11月としては記録的な大雪で、式典当日も雪が降りしきり、時間通りに着けるのか心配になった。札幌に近づくにつれ雪がまったく無いのには驚いた。直線距離で80キロも変わらないのに。何だか連日の雪か

きによる疲労がどっと出てきたようだ。会場の厚生年金会館はかつてよく音楽会が行われたホールで、私もしばしばステージに立ち演奏したことがあるのでとても懐かしかった。しかし音楽会とは様相が違い、会場はロータリアンでごった返し、熱気にあふれ眠気もふっ飛ぶ。

小林ガバナーの点鐘で式典が開始された。会場いっぱいのメンバーが歌うロータリーソングにしばし感動。ガバナーのお人柄が伝わる語り口に緊張も解け、会場は暖かい空気に包まれながらも、式典は厳かに進んだ。

アグネス・チャンさんの講演会は圧巻であった。相変わらず歌は上手い。そして人を引きつける魅力。オーラが燦々と会場に降りそそぐ。それにしても少子高齢化について、その問題点が少子にあるとは気づかなかった。中国の一人っ子政策など世界的に人口問題が顕在しているし、老人、高齢、介護などの言葉が新聞やテレビに出ない日はない。少子是不安な社会を映し出すバロメーターであるとは……。なるほど今日の講演会はロータリーの精神に合致した内容なのだ。普段何気なく例会に参加している私にもロータリーが少しわかった気がした。



オープニングセレモニー：ロータリアンによる合唱

クラブ紹介

和やかな地区大会

上田英二 (滝川IRC)

1日目の委員会報告のあとのフォーラムは、3人の個性ある現役ガバナーの提言はどれも率直かつ有意義

なものであり、これに触発されてか質問タイムが大変活発で、賛成・反対・感想と小林ガバナーの期待したひらかれたロータリーの良い面が表れたと存じます。



ガバナー補佐による参加クラブ紹介

翌日も好天に恵まれ、順調なプログラムでアグネス・チャン氏の記念講演は特筆に値するもので、魅力のある笑顔で冗談を織り交ぜ、歌手らしく歌も随所に聴かせながら、その言わんとするところは人種を超えるものでありユネスコ大使に恥じない素晴らしいものでした。ロイトンの昼食会も会場に多くの会員の参加のなかで美味しくいただきました。

さて、パンフレットが小振りなのは有難かったですが、活字が小さく読みづらく、そのせいかどうかトチりがあり、まあおかげで会場の気分がほぐれ、和やかな地区大会になったと思います。また、2日目の終わりを早くしたのはアイデアですが、朝早く到着のために出発も早く、本会議を2日間にしたのがどうだったのか難しいものですね。



参加者紹介



研究グループ交換 (GSE) メンバー

表彰

ロータリー財団表彰

大口寄付者

札幌南 岩城秀晴

永年100%出席 (45年)



表彰される川守田勇一会員 (札幌西RC)

記念講演会

ロータリーの奉仕活動に通じる内容

入口博美 (千歳セントラルRC)

従来にない形にこだわらず柔らかさが出ていました。

来賓の長々としたあいさつ等、RIの超高級幹部の話の聞き続けなければならぬという「式典」から一步脱出し、表現は悪いが「もう2度と参加したくない!」という本音に、今回のガバナーが配慮した結果がずい所にでていたものと言え、あーこれでいいんだ、こんなに簡素化できるんだというのが実感しました。

また、記念講演においては、アグネス・チャンから歌手の片わら、日本ユニセフ協会大使という役目においてのボランティア活動が紹介されましたが、日本の豊かさを十分に感じることができた反面、物もない、

金もない、学問もない、医療も受けられないという世界の実態を直接目にしたアグネスからの話を聞き、涙した聴講者もたくさんいたのではないのでしょうか。ロータリーの奉仕活動と相通じる内容であり、とても良かった講演でした。

時間は短くとも有意義で感動のある大会を推奨した小林ガバナーの意図がここにあったのでしょうか。



ロータリークラブの精神を発揮する時はいま

木村弘志 (函館RC)

「バブル崩壊後の不況による混沌とした時代、若者達は自分の未来に夢を持ってなく、価値観の多様化により少子高齢社会になって来た。大人達も、もっと自信を持ち気持ちに余裕をもって自分の周りの人達・地域の人達と接してほしい。又、一人の力なら孤独感・挫折感で達成できない事も皆の力を合わせると大きな力となり達成できる」、とアグネスは話していました。ユーモアな話題や、得意の歌をおり交ぜてのあっと言う間の1時間15分の素晴らしい講演でした。

ロータリーの理念である「親睦と奉仕」、様々な分野で多くの事業に取り組み、成果を挙げてきましたが、今の時代こそロータリークラブの精神を発揮する時だと思います。函館ロータリークラブの会員として微力ながら活動してゆく所存です。Sow the Seeds of Love.

記念懇親会



No more 「立食」

小林栄一 (様似RC)

先ず開催時刻に関しては、私達、様似RCのように高速を利用して3時間30分かかかる遠隔地のクラブには、とてもありがたく、今後ともこの開催時間であればと、強く願っております。又、多少狭かったものの、着席しての食事も落ち着いて美味を堪能できテーブルの会話も大変はずむことができ、No more 「立食」という気持ちです。

ただ、残念乍ら、手間とひまとお金をかけて作った映像と音楽はいただけませんでした。アトラクションは何と言っても「生」です。

多少、グレードを落としても、生演奏、生出演に優るものはありません。

それだけが唯一、心残りでした。



音と映像によるアトラクション



新世代のRACメンバー



小林ガバナーからお祝いを受ける
この日が誕生日のロータリアン

手作り感の強い大懇親会

伊藤正敏（岩内RC）

1,800名余の会員で埋まった懇親会場は先程、開催されたアグネス・チャンさんの記念講演の話でもちきりである。すばらしい話・そして歌、いわば「ひなげしの花」が大輪を咲かせたような、さわやかな才能に触れることができた事で、会場には和やかさが広がる。

「慈愛の種を播き」「ひなげしの花」そして音楽と映像によるコンサート「花・Love」も咲いた。今年の記念懇親会は、いかにも参加者全員（ゲストの方々を含め）による手作り感の強い、大懇親会であったと思われた。開始時間の設定等地方から参加した会員に対する心配りに感謝申し上げます。



手に手をつないで

ほぼ及第点をつけることができた大会

高橋一郎（蘭越RC）

今までの年次大会と異なる処の多い大会でした。多少危惧して参加したのですが、アンに相違して、ほぼ及第点をつけることのできた大会であったと考えております。

第1日目の会長・幹事会では記念フォーラムが素晴らしかったと思います。ゲストスピーカーの積極的なお話にフロアからの活発な発言で、ロータリーに対する意識改革となり、勉強になりました。

第2日目は、記念講演に感銘を受けました。普通の話し口の中に突然大きな声を発するため、居眠りなど出来るヒマもなく、最後には会場にいた全ての人々が話の中に引き込まれていたようでした。

最後に、悲しいことに物故会員が例年よりも多かったことは残念なことです。帰路は大会の心地よい感銘に浸りながら帰りました。

地区大会記念囲碁大会 (1/10開催) 表彰一覧

A部門				
順位	氏名	クラブ名	段・級	勝敗
優勝	前田恒雄	札幌幌南	7段	4・0
準優勝	杉田弘頭	札幌モーニング	5段	3・1
1位	高島英寿	札幌幌南	6段	3・1
2位	熊谷泰隆	札幌幌南	7段	3・1
3位	小林孝夫	札幌北	4段	3・1
4位	高岩 擴	恵庭	3段	3・1
5位	安田隆義	室蘭北	4段	3・1



B部門				
順位	氏名	クラブ名	段・級	勝敗
優勝	村上 淳	恵庭	2段	4・0
準優勝	坪池栄一	札幌幌南	2段	3・1
1位	彫谷吉英	余市	4級	3・1
2位	戸部謙一	札幌西	初段	3・1
3位	中下 修	恵庭	2級	3・1
4位	砺波 寿	札幌幌南	2段	2・2
5位	伊藤 進	恵庭	初段	2・2



写真提供：長谷川久夫氏（札幌セントラルRC）・記念誌編集委員会

ガバナーとの対話② —地区大会に寄せられたコメントへの回答

地区大会の委員会報告について

- Q1. 委員長報告は素晴らしいもので、その活動内容に感心させられた。ただ委員会によって時間の長短、また内容の濃淡が多すぎて少しまとまりがなかったように思う。
- Q2. この程度の内容なら予め記録誌を作って会員に配布して済むことではなかったか？
- Q3. 質疑があってもよかったのではないかと。一方通行だけでは少しもの足りなかった。
- Q4. クラブの会長幹事のご苦勞の割に、委員会活動が目立ちすぎないか？

A. 以上の4つの質問に対し一括お答えすると、今まで地区大会で地区委員会のまとまった報告はなかったように思う。極端に言えば委員会軽視と見られてもやむを得ない。そこで短時間ながら委員会活動の報告をしてもらおうということになった。ご指摘のとおり確かに委員会活動の内容に濃淡がある。しかし特定の委員会だけを選ぶわけにもいかず一律に3分以内とした。

発表者の発表のあり方は今後工夫を重ねていただければと思う。質疑があるに越したことはないが、時間制約で割愛せざるを得なかった。なお、各委員会の報告の骨子は大会プログラムに紹介されている。また委員会活動が目立ちすぎるとのご批判の陰に、クラブの会長幹事の苦勞が大前提にあることを申し上げておきたい。

記念フォーラムについて

Q. 記念フォーラムは各ガバナーの発表、並びに質疑ともに大変よかった。特に牛窪栄吉ガバナーの率直な発言に感銘を受けた。また前川ガバナーの話からロータリーが教育に関わることの必要性についてよく理解できた。記念フォーラムのビデオあるいは記録は出るのか？

A. お褒めをいただき有り難う。記念フォーラムを介し「ロータリーはこれから」との印象を受けた。この気持ちを大事にしていこう。

記録誌は出るが、ビデオについては幹事会で検討中である。

RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会について

Q1. 佐野康博RI会長代理をお迎えするプログラムとしてあのような形式の晩餐会は本当によかったのかど

うか。出来れば各クラブの会長幹事、地区役員だけによる歓迎ではなく、地区全体として行えなかったものか？



- Q2. 今回の晩餐会は全体としてはよかったと思うが、参加者の交流をはかる意味では席を決めるのではなく、ランダムに座っていただくのも如何かと思うが？
- Q3. パスト・ガバナーに配慮しすぎる傾向が顕著に見受けられたが、これも如何なものか。乾杯はもっとスピーディーに行ってほしいものだ。
- Q4. アトラクションの演唱が晩餐中なので、聞いている方が少なく演唱者にも失礼になった。このような企画は招宴に入る前に聞くべきだろうし、あるいはデザートコースに入ってからやるのが普通ではないか？



A. 以上の4つの質問、提言を有り難く拝聴。RI会長代理の招宴は本来は全会員で行うべきであろうが、記念懇親会は別として慣習として会長幹事ら有志による招宴として行ってきた。席順の配置についても同様、その年のガバナーらの意向に従うより仕様がでないのではないかと。パストガバナーに配慮しすぎるというのも、長い慣習から脱却しきれない事例である。でも地区外からのパストガバナーは来賓であるので然るべき紹介をしたが、地区内のパストガバナーは来賓としてではなく単なる紹介にさせていただいた。アトラクションのタイミングについてはご指摘のとおりであったと思う。

決算報告について

Q. 決算報告並びに監査報告が本会議の席上で決議されたのだろうか？

A. 本会議初日に決算報告と監査報告がそれぞれなされた。今回本会議が初日と2日目の2日間に亘ったこ

とで周知しなかったかと思う。また決算の詳細はプログラムに記載されている。

表彰について

- Q. 永年表彰は45年にだけ絞ったが、なぜ従来どおり40年以下についても行わなかったのか？
- A. これについては深く反省している。大会2日目をおよそ半日のスケジュールに短縮したために、永年100%も45年だけにすることになった。ただし表彰を受けるであろう人のご心情に対する配慮の足りなかった点は大変申し訳なかった。

会員名簿

- Q. 会員名簿を大変興味深く拝見した。ただ、2つのクラブの記載が無いのが残念だったが、それはなぜなのかよくわからない。そこに短く書かれていた記載文は違和感を生むことにならないか？
- A. 掲載していただくようずいぶん努力したつもりである。だが、どうしても協力していただけなかった。その説明文は率直に書いた。何の説明もないのはおかしいし、また曖昧な印象を残すべきではないと考



メジャードナー表彰・岩城直前ガバナーに

え、率直な経緯を簡略にお伝えした。次年度の名簿はCD-ROMにて作成すること、何とか全クラブのご協力をいただければ有り難いと思う。

アグネス・チャンの記念講演

- Q. アグネス・チャンの講演は大変感銘深く聞いたが、このビデオなどの配布は予定しているか？
- A. 先日の記念フォーラムのそれと同様いずれ記録集

に出ると思うが、それ以前のビデオの録画等については早急に検討させていただく。

地区大会全体を通して

- Q. 初日の記念フォーラムは特に印象深く感動的であった。「ロータリーはこれからだ」というガバナーの言葉にも感銘を受けた。残念ながらこのような企画は会長幹事や一部の有志だけでなく全会員に聞かせてほしかった。となると従来通り2日に分けて1日で集約するほうがよかったのではないか？
- A. 試行錯誤を繰り返す中で、より理想的なスタイルに持っていくべきだと思う。ただ大事な本会議が初日からあるということも2度、3度と会長幹事にお伝えしたがみなさんに十分徹底しなかった。この地区の長い慣習が先入観としてあったためだろう。従ってすぐに1日にまとめてしまうという発想よりも、初日に大事な企画があることを十分徹底することを優先すべきでないか。次年度の検討課題としていただきたい。

記念懇親会

- Q. 記念懇親会における映像もよかったし、会員誕生日の企画もよかった。懇親会の流れが少しぎこちなかったように思うが。
- A. 1,500人の着席の大宴会がいかに難しいかということを知った。至らぬ点多々あったとは思いますが、懸命に努力してくれた関係者の労も知ってあげていただきたい。

登録料

- Q. 登録料を安くして欲しい。昨年より2,000円減ったのはよいが、まだまだ高い。せめて5,000～6,000円にならないか？
- A. 地区大会のあり方をどうするかの本質的な改革がなければ不可能である。これも次年度の検討課題である。

く(前略) がん細胞はもともと老いた細胞や傷ついた細胞を援けようとして出てきたからではなかったか。そうすれば人間は必ず老いるように、いつかは人間はがんになるのかも知れない。(後略) これは一がん学者の見解である。この言葉をうけ、作家の五木寛之さんは次のように言っている。

「老いていく自分を、私は異常とは思わない。老化は病気ではない。それが自然なのだ。とすると、老いていく過程で体内におこる変化も、決して異常ではないだろう。そこに訪れてきた不具合と対話しながら、どう折合いをつけて仲よく一緒に暮らしてゆくか。それが問題なのではなからうか。ガンを一方的に異常とみなし、それを憎み、それを叩きつぶすことだけを考えている人間は決して救われないのではないか？」



連絡先：(財)札幌がんセミナー

札幌市中央区大通西6丁目6 北海道医師会館6階

TEL: 011-222-1506 / FAX: 011-222-1526 / E-mail: scs-hk@phoenix-c.or.jp / URL: http://www.phoenix-c.or.jp/scs-hk/

広告

地区活動 紹介

パヴェナ基金訪問記



家庭奉仕委員会

委員長 和田壬三

昨年バンコックを訪問して、父親から虐待されている児童や、人身売買で苦しんでいる少女、家庭内暴力で悲惨な状態になっている妻などを救済する活動をしているパヴェナさんの活動を目の当たりにして、ぜひ支援しようと決意し、一緒に訪問した真駒内RCの佐々木敦氏、札幌西RCの佐藤裕一氏、札幌南RCの鎌田洋氏と私の4名で帰国後、同業者や、ロータリアン、ボランティア仲間などに呼びかけて、合計57万円の資金が集まりましたので、このたび11月初旬に再び4人で、バンコックを訪問して寄贈してまいりました。

ドムアンロータリークラブの例会に出席して、一昨年、地区大会に招待した、シュウイットさんの紹介で、立派な寄贈式を開催してもらいました。私は現在当地区の家庭奉仕委員長をしていますが、わが国でも16万人を超える不登校児や数十万人といわれる引きこもりの青年の問題が社会問題となり、その最大の原因は、母親が、子供をおもちゃの人形のごとく可愛がり、子供が生きていくうえで必要な様々な障害を母親が、全て自ら取り除いてしまうため、子供に生きていくのに必要な能力が育たないところにあるといわれています。その背後には、金と暇はあるが、家庭は何時も妻一人に

して相手にもされないという働き蜂の夫の家庭があるのですが、我が委員会もこのような子供や妻を救う活動に取り組み始めたところであり、方法は全く正反対ですが、共通の対象を救済する活動をしているところでもあり、互いに協力し合いながら活動しましょうと誓ってまいりました。

パヴェナさんの活動は、毎年一定の賃金が必要であることや、被害にあっている子や妻を救済する方法は全く現在のタイには無いということからこれからも継続して活動を続けざるを得ないということですから、私どもも続けて援助を呼びかけるつもりです。

今回は、34名の個人及び団体の方全員に、パヴェナさん自ら領収書を発行してくださいました。いずれ何らかの機会に、ご芳名も発表したいと思いますが、小林ガバナーはじめ、遠藤パストガバナーなど多数のロータリアンの方にご協力を頂きました。改めて感謝申し上げます。また次年度以降もよろしくお願ひ申し上げます。



中央の女性がパヴェナさん

第3回家庭奉仕 委員会勉強会



家庭奉仕委員会

委員長 和田壬三

1、10月24日に、池上学院学院長の池上公介氏を講師にお願ひし、寮

生としてお預かりしている青少年や落ちこぼれてKLMランクの青少年及び最近では、社会人になった後の引きこもりの青年などの指導を通じて、このような青少年は、本来素晴らしい能力や才能に恵まれているのに家庭や、学校教育に問題があってこのような結果になったこと、その主たる原因である家庭教育のあり方、問題点について、実際の経験を通じて、学ぶことが出来ました。

書物などを通じて、なんとなく納得していた現代の家庭が機能しなくなった姿が、最も青少年に大きな影響を与えていたことを知り、改めて、家庭奉仕について、真剣に取り組まなければならないことを痛感しました。

具体的には、池上氏（モーニングRC会員）から報告がありますので、そちらに譲りますが、父親が、家庭に不在であるため、母が、父親に対抗して父親を馬鹿にしている家庭、そこまで行かなくても子供しか相手になる人がいないため、溺愛し、子供をおもちゃにし、本来子供が成長するため自らしなければならないものを全て母親が奪って子供の成長を妨げてしまった家庭、共働きで出来合いの食べ物しか食べたことが無い子など家庭生活をおざなりにした付けが回ってきていることを痛感させられました。どうしたらこのような家庭人である父や母を教育することが出来るのか、地域（町内会）や職場で絶えず若い夫婦に対する働きかけが必要ではないか、そのためにはどのようなことをすべきかが、次の課題かなと思います。

2、今回は、11月15日（金）に第4第5グループIMのテーマとしてどのような形で取り上げたらよいのか話し合うことにしています。

3、参加者は、小林博ガバナー、角掛晴雄第5グループガバナー補佐、松本純枝深川RC社会奉仕委員長、

水野正純（新札幌RC）、長谷川美栄子（大通りRC）、大場公孝（上磯RC）（以上4名は地区家庭奉仕委員）、和田壬三（札幌南RC）

びかけた、DPI身体障害者世界大会支援のための募金に対し、深川、小平、留萌、砂川、滝川、岩見沢、岩見沢東、栗山、当別、札幌あけぼの、札幌西、札幌西北、札幌手稲、札幌南、新札幌、札幌真駒内、札幌大通公園、小樽、小樽南、千歳、千歳セントラル、北広島、由仁、えりも、三石、浦河、函館、函館亀田、長万部、函館東、函館北、苫小牧東RCの32クラブの参加をいただきました。ご協力に深く感謝申し上げます。9月

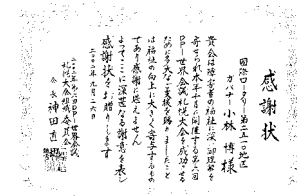
28日、小林博地区ガバナーが大会事務局を訪れ、総額80万円を西村事務局長に手渡しました。費用は大会当日の公式プログラム作成に使われました。また、すでに札幌、札幌東、札幌モーニングRCはそれぞれクラブ単独でDPI大会を支援していたとの報告が地区委員会にありました。

DPI世界会議支援 に32クラブ参加



社会奉仕委員会
委員長 対木正之

8月下旬に地区社会奉仕委員会が呼



R.I.2510地区 2001～2002年度 姉妹クラブ・友好クラブ一覧



友情交換委員会
委員長 金井重博

2002.11/20現在

ク ラ ブ	姉妹クラブ・友好クラブ				ク ラ ブ	姉妹クラブ・友好クラブ			
	先方クラブ	地区	国名	友好 姉妹		先方クラブ	地区	国名	友好 姉妹
深川	南海RC	3590	韓国	姉妹	小樽南	酒田RC(山形県酒田市)	2800	日本	姉妹
羽幌					小樽銭函	常陸大宮RC 立山RC	2820 2610	日本	友好
妹背牛					蘭越				
小平					余市	会津若松城南RC	2530	日本	姉妹
留萌	論山RC	3680	韓国	姉妹	千歳				
赤平	晋州仙鶴RC	3270	韓国	姉妹	千歳セントラル	長泉RC(静岡県)	2620	日本	友好
芦別					恵庭	パーレーヘッズRC	9640	オーストラリア	姉妹
砂川					北広島				
滝川	千倉RC	2790	日本	友好	長沼				
美唄					由仁				
江別	カトマンスRC	3290	ネパール	友好	えりも				
江別西					三石				
岩見沢					様似	馬山第一RC	3720	韓国	姉妹
岩見沢東					静内	脇野RC(徳島県) 洲本RC	2670 2680	日本	友好
栗沢	砺波(トナミ)RC(富山県)	2610	日本	友好	浦河	中堰RC	3490	台湾	姉妹
栗山	角田RC(宮城県)	2810	日本	姉妹	伊達	巨野RC(宮城県) 茅ヶ崎湖南RC	2810 2780	日本	姉妹
当別	岩出山RC	2810	日本	姉妹	室蘭				
札幌					室蘭東	ウランバートルRC	3450	モンゴル	友好
札幌あけぼの					室蘭北				
札幌はまなす	香長RC(高知県) ノカイRC	2670 3340	日本	姉妹 友好	登別				
札幌北	ウェルビーRC	9800	オーストラリア	友好	洞爺湖				
札幌モーニング	川口モーニングRC・青森モーニングRC 旭川モーニングRC・京華モーニングRC	2770 2630 2590	日本	友好	函館	京都洛中RC 澎湖RC	2650 3470	日本 台湾	姉妹
札幌西	西ダバオRC・マカティ西RC ユチカRC	3860 3820 7150	フィリピン アメリカ	姉妹	函館亀田	新発田城南RC(新潟県)	2560	日本	友好
札幌西北	ヘルシンキ北西RC	1420	フィンランド	友好	森				
札幌手稲	名古屋瑞穂RC 高尾壽山RC	2760 3510	日本 台湾	友好	七飯	森・長万部・函館北RC	2510	日本	親睦
札幌東	北ポートランドRC・鎌山東南RC ハンダニバーRC	5100 3660 3310	アメリカ 韓国 シンガポール	姉妹 友好	長万部				
札幌清田					江差	岩谷堂RC	2520	日本	姉妹
札幌幌南					函館五稜郭	東京日野RC 東京飛火野RC ライハナRC	2750 5000 2830	日本 アメリカ	友好 姉妹
札幌真駒内	東ポートランド	5100	アメリカ	姉妹	函館東	青森東RC・長崎東RC 横浜東RC	2740 2590	日本	友好
札幌南	東京東RC・金沢東RC	2580 2610	日本	姉妹 友好	函館北	千葉港RC・和歌山城南RC 台北東北RC	2790 2640 3480	日本 台湾	友好
新札幌	相模原東RC	2780	日本	姉妹	上磯				
札幌大通公園					松前				
札幌セントラル					白老	仙台西RC ケネルRC	2810 5040	日本 カナダ	姉妹
岩内	蕨江津RC ピーターズパークRC	2560 5010	日本 アメリカ	姉妹	苫小牧	相模原RC	2780	日本	姉妹
倶知安					苫小牧東	網代多賀RC	2620	日本	友好
小樽					苫小牧北	石巻RC ダラテールRC	2810 9930	日本 ニュージーランド	友好

第4回家庭奉仕 勉強会報告



家庭奉仕委員会

委員長 和田壬三

I. 大場先生の講義

- 1、 渡島コロニーの経営とゆうあい診療所の所長をされている精神科医師の大場公孝氏に障害を持つ子を見分け方とその子に対する指導方法について教えていただきました。通常学級の中にある皆と遊べない子、落ち着きが無い子、注意散漫な子などの中には、LD、ADHD、高機能自閉症の子がいる。
- 2、 LDとは、学習障害ということで、知的障害ではないが、読み・書き・計算・話す・推論などの特定の能力の習得と使用に困難をきたす子です。このような障害のために二次的にいじめにあったり、不登校になったり、チック、吃音になったりする。このような子は、好きなこと得意なことからはじめ、出来かかっている苦手なことを一つずつ出来るように指導することが大切である。
- 3、 ADHDは、注意欠陥他動性障害といい、集中して、授業が聞けない又、遊べない、忘れ物が多いなどの不注意優位型と落ち着きが無い、順番が待てない、他児への干渉など他動性衝動性優位型、と混合型があり、対策としては、教室の構造を気が散らないものに変える、教材は、目に入りやすいものを使う、場面展開を早くするなど工夫が必要である。

4、 高機能自閉症は、社会性の障害、言語発達の遅延、固執の3症状がある。原因は不明であるが、脳の障害との関連が、言われているとのこと。感情部分の機能に障害があるので社会性の欠如が認められるのである。能力的には大学教授にもなっている方がいるほどであり、指導次第では才能が開花する可能性がある。

5、 これらの子の指導に共通するところは、出来ることを褒めてやること、出来ることをさせてやり得意なことを伸ばしてやることであるということです。

それは、家庭教育における、健全な子に対する方法と共通する面があるということでした。

II. 第4、第5グループIMの打ち合わせ

当委員会が主体になって、中身を詰めることとなり、別紙のような内容で、勉強会で学んだ成果について、発表することになりました。当委員会だけの成果にするに



は惜しい内容なので是非関心のある全ロータリアンに知ってもらいたいと思っています。2月22日の午後札幌市内のルネッサンスホテルで開かれます。少なくとも地区内の社会奉仕委員長さんには、ご出席下さるようお願い申し上げます。

RI3830地区派遣GSE チームメンバーを受入れて



GSE委員会

委員長 山名善久

'02年10月16日に、当地区として初めてアジアの3830地区派遣GSEチームを受入れ、11月20日帰国の途につきました。その間受入れ事業に大変なご苦労を頂きました各グループのコーディネーター、世話クラブ、ホストファミリーの皆様はこの誌面をお借りし、心から感謝申し上げます。委員会としても、過去に例のない問題が多々ありましたが受入れ事業が終った今、心に残っているのはやり遂げた充実感と大きな感動です。チームメンバー全員が2510地区の多くの人達から、かけがえのない財産をいただいたことに心から感謝しておりました。事故もなく受入れ



事業を終えることができましたこと、重ねて皆様に感謝申し上げます。

委員 武藤 順

アジア初のフィリピンとのプログラムはすんなりと決まったが、その後の細かい詰め段階では、メンバーの決定と人数、受入れ期間、情報の収集等色々問題が発生して、メールのやり取りがかなりあって苦労をした。しかし山名委員長を始め委員全員の協力のもとに、そして何よりも1996年度米国カンサス・オクラホ

第4・第5グループのIMシンポジウムのご案内

2003年2月22日(土)午後
会場：札幌市ルネッサンスホテル

慈愛の種は家庭から—家庭生活をより豊かにする方法について

コーディネーター
家庭奉仕委員会
委員長 和田壬三

1. 基調講演

“慈愛の種は家庭から”(現代社会における家庭について)

土橋信男(前札幌市教育長、前北星大学学長)(札幌南RC)

2. パネルディスカッション

①親業訓練の方法(直接当事者間における解決法)

土橋芳美(親業訓練インストラクター)

②登校拒否児の訓練を通じて家庭のあり方を考える(第三者として解決する方法)

池上公介(池上学院学院長)(札幌モーニングRC)

③発達障害児の支援を通じて家庭奉仕を考える

大場公孝(ゆうあい会診療所所長)(上磯RC)

④親業訓練を受講して得た技術を用いて得られた成果について

松本純枝(八旺社社長)(深川RC)

マへのGSEチームリーダーだった小林ガバナーのご理解とご支援のもとに順調に進み、チームメンバー全員が各コーディネーターとホストファミリーに感謝しながら喜んでの帰国を見送ってほった。



ミリーに感謝しながら喜んでの帰国を見送ってほった。



委員会 金坂和正



GSEチームに新千歳空港出発ゲートでお別れをして無事任務終了。本当に素晴らしい地区委員

の方々にかくさんのことを教えてもらいながら充実した3830地区からの派遣チーム受入作業ができたと思う。今回は日比が一衣帯水のアジア人同士であることを強く意識したが、特に明るくすてきな3人の女性メンバーには、この5週間の経験を（反省会の時の感激のように）共に喜びと涙で語る男性と巡り会ってほしいと心から念じます。

委員 岡崎芳明

私は主にホームページを担当しておりますが、初めてのアジア圏との交流は思っていた通り、親しみやすい団員のお陰で楽しく有意義な経験となりました。又団員をお引き受け

頂いた関係者各位の温かいご協力のお陰でHPの写真を受け入れ最中にもかかわらず随時更新し、皆様にお見せ出来た事と、その写真データを帰りにお土産として団員にあげられた事が何よりの喜びでした。次年度の派遣にはHPを通して派遣中の団員の様子を随時お伝えしたく思っております。



委員 高橋 宏

フィリピン3830地区から6人の素晴らしいGSEメンバーが来道しました。この5週間で築いた善意と友情は本当に得がたい成果でした。まさに互いの心の中に慈愛の種を蒔いたものと確信しています。準備は大変でしたが、この5週間の彼らの言動がその成果をよく表しています。ホストファミリーと別れる時の涙が心からのものであったことは、最後の反省会で報告した時に、思い出ただけで涙を堪えられなかった事がよく物語っています。（私達も報われた仕事をすることが出来たのは幸いでした）

GSE委員 山内浩資

この度、2510地区ではフィリピンからの受け入れは初めてと言う事で準備段階にあらゆる打ち合わせがありました。私はGSE委員1年生でしたので先輩委員をみようみまねしながら5週間が過ぎました。担当地区は第2グループで赤平・芦別クラブさんには大変お世話になりました。この場をお借りしまして受け入れクラブやホストファミリー、そしてコーディネーターの皆様には厚く御礼申し上げます。帰国前日にGSE委員と団員による報告会がありました。各地区でお世話になった皆様の暖かいおもてなしを思い出しながらの涙の報告に我々委員も貰い泣きしながら聞き入りました。このような充実感地区幹事以来で感無量でした。ロータリーの奥の深さをさらに感じこのような事業に参加出来た事に感謝しております。有り難う御座いました。

クラブ活動紹介

秋の北海高校 IAC活動



札幌東RC
新世代委員会

■赤い羽根街頭募金参加

10月5日（土）昼、IAC部員25名が駅前通りの大通一すすきの間で4カ所に分かれ、赤い羽根共同募金の呼びかけを行い

ました。同IACではあしなが募金と共に年数回、街頭募金の呼びかけに協力しています。

■鴨々川清掃

10月6日（日）、朝9時に中島公園に集合、お昼まで「クリーン鴨々川清掃運動」に20名が参加しました。川岸には不法投棄の大型ゴミや家庭ゴミが多く、拾い甲斐のある状況でした。この清掃奉仕は毎年恒例の活動になっています。



■視覚障害者卓球大会

10月13日（日）・14日（祝）の両日、札幌市身体障害者福祉センターにおいて開催された「東北・北海道ブロック視覚障害者卓球大会」に12名が参加。点数を知らせたり、それた球を拾ったりなどのお手伝いをしました。



尚、札幌東RC新世代委員会ホームページ (<http://rotary-under30.infoseek.ne.jp>) では北海高校IACの活動状況を画像と共に紹介しております。

医療に役立つ 使用済み切手



久住八郎 (栗山RC)

平成11年から使用済み切手を回収している栗山郵便局の趣旨を前年度の松下会長同じく前年度の千田国際奉仕委員長が理解をして、ロータリーの奉仕の理念に合致する、会員皆さんの少しづつの協力で捨て去られる運命の使用済みの切手を医療に役立てることが出来る。会員の中から、使用済みの切手が何で役に立つのと疑問の声もありましたけれど、消印をつけて切り取るにより、マニアーの



方に買い取っていただき、そのお金を医療費に使っていただくのですと説明して理解をいただきました。その結果栗山郵便局とあわせて一年間で、2万6,700枚回収となりましたので、栗山郵便局大隅喜久雄局長と栗山ロータリー北川清則会長が10月24日に町社会福祉協議会を訪問して同協議会の吉田輝雄会長へ段ボール箱いっぱいの使用済み切手を届けることができました。小さいけれど慈愛の種を播くことができました。

琴の演奏で社会 奉仕活動



金沢浩幸 (函館亀田RC)

9月14日(土)、函館市内の特別養護老人ホームの敬老会に合わせ、我々、亀田ロータリークラブ、琴亀社中(琴愛好会)一同は、慰問演奏に行っていました。

当日はメンバー総勢13名の内、11名が参加し、職員さんを含め約100名を前にし、御当地ソングであります「函館の女」を始めとし、「知床旅情」「水戸黄門のテーマ」など、7曲を披露し、入所者の方とひと時をすごし少しは心を癒すことが出来たのかな?と、思っております。

我々琴亀社中は、今年の6月に開催いたしました函館亀田ロータリークラブ30周年記念式典に合わせ、会員の手で何か披露できないかとの黒川則男会員の働きかけにより、昨年9月3日に結成、当時は会の名称もなく、又、琴を弾いた事など無い13名が集まり、今年度会長エレクトであります寺田真三会員の奥様が琴の先生だったのを聞きつけ、会を結成してしまいました。



始めのうちは、琴爪の付け方、弦を弾く方向も分からないまま、30周年に間に合わせる事だけを考えて、週2回の練習を重ねて参りましたが、少しずつ、上達していく姿を感じ、どこかに慰問活動に行こう!と言う事になり、昨年12月12日に初めて老人ホームに慰問に行き、更にクリスマス家族会で会員の皆様の前での初披露、3月には、幼稚園への慰問活動をこなし、今年6月の30周年記念式典も無事終了することとなりました。

会の当初の目標も達成出来たことであり、解散しようかとの声もありましたが、我が函館亀田ロータリークラブの名物の愛好会にしようとの皆様のご支援を頂き、これからも年2回の慰問を目的に奉仕活動を続けて行こうと思っておりますので、ご支援とご注目の程宜しくお願い申し上げます。

救命救助・応急 処置訓練の夕べ



西山 秀夫 (札幌あけぼのRC)

去る9月7日、札幌あけぼのロータリークラブ主催による今年度の新世代、職業奉仕、社会奉仕3委員会合同の事業とし

て、手稲区少年消防クラブの子供達による「救命救助に対する講話と応急処置訓練の夕べ」と題し開催致しました。

札幌市手稲区長を始め、手稲消防署長、その外多くの来賓、一般市民の方々のご参加を頂き手稲区民センターの広い会場で開かれました。

この事は、私共クラブが一昨年創立10周年を迎えるにあたりその記念行事の一環として手稲消防署を通じて手稲区少年消防クラブ協議会へ、北海道で初めて導入されたというコンピューター付き最新式の緊急救助用的人形、レサシアンを寄贈いたしました。

その後一年有余に渡り子供達の訓練を見守り、指導の手伝いも致して参りました。この事からこの子供達の訓練の成果を一般市民の皆さんにも見て頂き、こんな小さな子供達にも救命救助の大切さがわかり立派な応急処置が出来る事を実感して頂こうと開かれたものでした。開会に先立ち手稲区長、手稲消防署長からそれぞれ感謝のお言葉のあと当クラブ買手哲美職業奉仕副委員長による「医師から見た応急処置」という講話を頂き、続いてスライドによる少年消防クラブ員の活動紹介がありメインである子供達による実技訓練が行われました。小学生ながら立派な訓練に入場者の皆さんから万雷の拍手を頂きました。その後一般参加の皆さんも加わっての実技訓練が行われ盛会のうちに終了する事が出来ました。

現在20名たらずの小さな私共クラブではございますが、過去にも少年達の麻薬撲滅運動では、高い評価を頂いてまいりました。今後もクラブ一丸となって青少年育成問題に力を注いで参りたいと思います。

恵まれない児童を 円山動物園へ招待



—社会奉仕、新世代委員会共同行事—

東原秀行 (札幌西RC)

10月20日(日)家庭的に恵まれない児童の養護施設—札幌育児園—の児童28名(3歳~9歳)を円山動物園に招待。この行事にはロータリアン14名とそのご夫人3名が参加しました。心配していた天気もスッキリ晴れ上がり、汗を流して奉仕をするには絶好の日和に恵まれました。

参加した皆さんすっかりおじいちゃん・おばあちゃん気分。孫と遊ぶように児童たちと手をつなぎ、動物を見たり、触れたり、子供の国(遊園地)では遊具

で一緒に遊んだりしました。

ある会員のご夫人は股関節の手術後で、痛い足を引きずりながら、児童がしっかりと手を握り締めてくる体温を感じ、いじらしいと涙を浮かべていました。

またある会員は児童の躰が良いことに感動して、施設を見学して、先生方の児童への接し方等を実際に目にしたいと言っています。



更に今年度の新入会員（女性）が奉仕に積極的に参加。クラブに解け込んでいるのが印象的でした。共に汗を流す事で連帯感が生まれるいい事例だと思います。

児童たちに接して、皆一様に、手に汗するほどしっかり手を握ってくる児童、そしてどこか寂しげな仕草、表情を見せる児童たちの心の中が垣間見れた気持ちがすると、その印象を語っています。

そして児童たちの乗ったバスが出発する時には、参加した皆さんは、この児童たちの将来はどうなるのか、一体親達はこの児童たちに何をしてやっているのか等を考え、何かしら胸を締め付けられるようなジーンと来る物を感じたと言うような表情をしていました。この児童たちの将来に幸あれと願うばかりです。

チャレンジ！ エコ・ノートの 製作について



水野正純（新札幌RC）

前社会奉仕委員長より引き続き環境問題に挑戦しました。

まず、環境問題に取り組むにあたり子供たちへの教育が効果的ではないかと考えターゲットを小学生に絞りました。それと共に当クラブだけではたいしたこと出来得ない、むしろ行政と共に考え、支援して行く事の方がその波及効果が大きいのではないかと考えました。幸い当クラブには市議会議員の原口会員がおられましたので、ご相談したところ札幌市環境活動推進課の中井課長さんのご紹介をいただき数度の打ち合せの中で福岡市で出した子供用家計簿を元に札幌版を製作して小学5年生で学ぶ環境問題の副教材として利用してもらう、とのご提案があり、すぐ当クラブに持ちかえり委員会、理事会の了承を得て白石区、厚別区の全小学5年生に配布する事が決まりました。

札幌市教育委員会とも相談しつつ製作を開始して8カ月後、『チャレンジ！エコ・ノート』として完成しました。2000年6月15日、札幌市教育委員会において贈呈式が行われ席上、教育長より感謝状が授与されました。翌年には札幌市より予算がついたので『チャレンジ！エコ・ノート』を全市の小学校に配布したいとお申し出がありましたので、無償で『チャレンジ！エコ・ノート』の版權を札幌市に寄贈しました。この製作に携わった方々に改めまして感謝申し上げます。

自慢ばなし



前田恒雄（札幌南RC）

我が、幌南RCの自慢ばなし。

世界的にロータリークラブの会員の減少が、最近とくに目立っているようである。いくつかのクラブを除いて、我がクラブもご多分にもれず、減少傾向を辿っているように見える。原因はいろいろ言われているが、経済的なものが第一であろう事は、論を待たないのであるが、そ

ればかりではない。

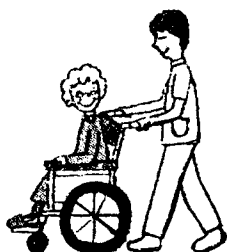
私が入会したのが、1989年、まさにバブル絶頂期、推薦者にロータリークラブとは何か、などの説明は受け、さらに知恵も授かったのだが、新人では、そんなことは頭に入ろうはずもない。だから入会した直後から、しばらく孤立無援の状態が続き、昼食会に参加するだけ。ほとんどの新入会員は、多かれ少なかれ、しばらくはこんな感じで在籍しているのではないだろうか。ここいらあたりで、退会するか、ふんばるかの、分岐点にさしかかる。

比較的物怖じしない人は、継続のコース、おとなしめの方は退会のコース、に分かれることになる。勿論、当クラブには新入会員に対して、ファイヤーサイドミーティングをしたり、各種親睦クラブの入会などを、お奨めしているのだが、それでも退会者が後をたたない。さらに私が当クラブに入会して13人の、名会長、名幹事が続いたのだが、この会員の減少傾向はどうしたものなのか。

ここで登場したのが今年度の砺波会長である。いつもクラブ運営について、会長として、人一倍苦慮していた。そんな時にいい知恵が浮かんだらしい。どうも今までは、それぞれの委員会や同好会はあっても、それに参加していないと、関心を持っている会員以外は、何をしているか全く理解できない。

そこで砺波会長は、委員会の横のつながりや親睦を深めるために、同好会など、面白いニュースを拾いあげ、毎月一回クラブ・メッセージとしてレターボックスに入れている。これが全会員に好評で、会員相互の親睦に大変役に立ち、最近では退会者も減少し、クラブの雰囲気さらに和やかになってきているように思っている。会長幹事会でも、小林ガヴァナーにお褒めの言葉をいただき、つつい自慢話として書いてしまった。他のクラブの参考になればと思います。

看護の心をみんなの心に



やさしい社会の実現を・・・

社団法人 北海道看護協会

会員の声



世界を知った “ボルシチ パーティー”

伊藤知佳子(札幌北RC)

去る10月6日(日)「札幌北ローターアクト」が主催する「ボルシチパーティー」に参加させて頂きました。「料理を通じて世界を知るフードパーティー」の第2弾として、ロシアからの財団奨学生である“リュウバ”のお別れ会も兼ねて行われました。



メニューは当然のことながらタイトル「ボルシチ」とロシア風の水餃子「ペリメニ」です。その国の文化や風土に触れるには、まずその国の料理を知るのが一番の近道と私も常日頃思っていますが、調理中には数々の驚きがありました。「ボルシチってサワークリームやザワークラフトをスープの中に入れちゃうんですね。」「ペリメニは、バターやジャムを付けて……」と等々の驚きの声。サワークリームはエビフライに付けて、ザワークラフトは漬物だから……、餃子は酢正油で。といった日本式固定概念を持ってしまっている私達にとっても、ロシアについての小さな発見をし、文化や風土に触れる事ができる大変楽しいひと時でした。



そしてそんな楽しい調理の時間を終え、いよいよパーティーが始まりました。ロシア語で自己紹介をし、(リュウバは下手なロシア語にも優しく微笑んでくれていましたが……)ロシアの音楽を聞き、デザートはウオッカを垂らしたアイスクリーム。すっかり「リトル・ロシア」が出来上がり、大変活気に満ちていました。こうした「世界を知るフードパーティー」の中で、ローターアクトを始めとする若者達も、調理等を通して「驚き」や「発見」を重ね、柔軟な発想や国際感覚を育ててほしい……。 (そして新米ロータリアンとして自分自身もこれを失いたくない……。)と強く感じた素晴らしいひと時でした。



より身近になった 「ガバナー月信」

米谷龍三(札幌東RC)

私がこの月刊誌の発行を知ったのはごく最近の事です。配布先については、前年度までは「2510地区」の各会長、及びその役員に限られ、一般会員には初めての試みと伝えられています。

この度雑誌委員として、このガバナー月信4カ月分を詳細に読み始めると、全国的な「ロータリーの友」誌と違い、かなり詳しく地区の内容が伝わってきて、私が今まで抱いていたロータリーのイメージが変わり、内容全般に、非常に情報量が豊富である点に気が付きました。具体的には、同じ2510地区のロータリアンの新入会員や、71クラブの幹事を、写真付きで紹介され、より親近感を持って拝読することが出来ました。しかも、身近に起きた問題の提供など、一般会員にまで枠を拡張して頂

いた小林博ガバナーに、深く感謝致す次第です。



感動ある40年の 歩みに学ぶ

(40周年記念に寄せられた
メッセージより抜粋)

山本幸子(江別RC)

2002年4月13日(土)江別RC創立40周年の記念式典の際に寄せられたご挨拶や式辞等のメッセージをロータリアンとして、かみしめる思いで再び読み返しての感動を是非月信にと思い、たまたま原稿依頼を頂きましたので、ご紹介する次第です。



江別RC前年度会長
林 敏昭会員

昭和37年2月3日仮クラブとし発足、2月19日加盟承認、正式誕生をみる。初代会長岩田政勝氏が努められ、歴代会長を通し岩田氏の意志は脈々と今日まで受け継がれ、「友情・信頼・奉仕」の高い理想と実践をもって年々数多くの奉仕活動となっている。



江別RC創立40周年
記念実行委員長
岩田雅明会員

クラブ発足、創立1年半後入会。職業奉仕が大事と教わる。職業倫理を重んずる精神が身に付いた企業人たれ。お金を寄付して済まさない。体を使い汗を流す奉仕を求められた。地区大会でRI会長代理のフィリピンの方の言葉は印象深い。「たとえ自分は貧しくても、豊かな人々に贈ることが出来るものがある」……。自分は世の為人の為に何が出来るかもつと考え身近な事から実行する。

平和の砦を築きたい。戦争は人の心の中で始まると言う。平和の小さな芽生えが今日この集りから育って行く事を願い私達ロータリアンの使命としたい。



米山奨学委員会
池田春男会員

米山奨学委員カウンセラー体験を経て、国境を越え「ネパール・日本友情学校」の建設開校の支援をしておりました。ネパール人Dr.ダナパティ氏に野村会頭と共に約束をし、70名が220名になり増築を計る必要が生じ、ロータリー40周年記念事業とし力を借り一棟2教室の増築をする運びとなり、日本の学校をモデルに充実を進めつつある。私を大きく動かしたものは、97-98年RI会長グリーンキンロスのスローガンと挨拶だった。「戦争のない平和な世界。皆んなに教育のある世界。特に貧困・飢餓・識字率の向上」ロータリアンは草の根運動の努力を国を越え広く力を貸して欲しい……。これからも自身の生きがいとして進みたい。



地区大会 記念フォーラムを聞いて

青木功喜(札幌東RC)

RI批判から始まったこのフォーラムでは、質問に手を上げたが、取り上げられない程の意見が出た。この事は、今のRIに多くの問題がある事を象徴している。日本人の考え方は、悪いところを直してより良くしようと言う考え方が基本にある。しかし米国人は、良い事を伸ばしていく事により悪い事は少なくなっていくと言う考えである。真の国際理解は相手のあらを探す事ではない。お互いの良いところを見合っ初めて真に理解しあえるのである。ロータリーが国際組織である限り、この違いを忘れたくない。それは組織が大きくなったための組織疲労だけでなく、国際組織が抱える宿命である。

米国人は現在を大切に、将来過去にはあまり軸足をおかない。これは開発途上国も同じである。その点我が国やヨーロッパの国は、過去将来に軸足が置かれている。そのため何か行動する際には、その理念と言う裏づけが常に強く要求される。しかし目の前に解決すべき問題が山積

している開発途上国では勿論、これを援助する場合、行動が先行する。

行動と理念、将来過去と現在の比重の違いは、年齢の違いにも強く反映してくる。最近の我が国のように、高齢者の比重が重くなるに連れ、このバランスが崩れて来る。過去にこだわること少ない若者は、将来を見据えるため過去に対する配慮は少なくなる。過去や将来に対する考えは、宗教を信じている人と信じていない人とは明らかに異なる。問題はこれらの年齢の違い、地域の違い、軸足の場所が違って、お互いが国際ロータリーとして、一つになる意義の最大公約数を忘れない事であろう。そのためにはロータリアンである前に、より良い人間性は勿論、国際ロータリアンとしての自覚が優先するのではないかと。

日本ロータリーとして独立していくばくの事ができるであろうか。日本のロータリアンが世界のロータリアンの水先案内人になる気概があるのであれば、もっと国際的センスを磨く事が必要であろう。ICなどのハードウェアがいくら発達しても、これも使う一人一人の国際性が前提としてなければ、国際ロータリーの正しい改革とその進歩は望めない。

これからのグループ別のIMの予定

グループ	月日・時間	時間	会場	担当RC	テーマ
6	2003年2月15日(土)	13:30~	余市中央公民館	余市	「こんな日本に誰がした。経済再生シナリオ」 講師：石井一二(東京北RC)
8	2003年2月16日(日)	13:00~	様似公民館	様似	未定
4・5	2003年2月22日(土)	13:00~ 18:00	札幌ルネッサンスホテル	札幌幌南	「慈愛の種は家庭から」(仮) 一家庭生活をより豊かにする方法についてー コーディネーター 角掛晴雄AG
9	2003年2月23日(日)	14:10~ 19:00	室蘭市市民会館 室蘭プリンスホテル(懇)	室蘭	①基調講演：命の尊さ「がん」に挑む、がん」学ぶ ②「がんに関する何でも相談」コーディネーター 斎藤修弥AG
7	2003年3月8日(土)	13:00~ 16:30	ホテル日航千歳	千歳セントラル	未定
10・11	2003年3月29日(土)	14:00~	函館ロイヤルホテル	函館	未定
12	2003年4月6日(日)	15:00~ 19:00	白老中央公民館	白老	未定
1・2	2003年5月24日(土)	13:00~ 17:00	赤平市文化会館	赤平	未定

*なお、第3グループは既に終了

2003年度RI年次大会 (94回) ブリスベン大会ご案内

過日の地区大会で「速報版」としてご案内申し上げましたが、今回はご案内のスケジュールとは別に年次大会参加型の短期間のスケジュールのものも企画致しましたので、両案をご検討下さい。

今回は大会に参加して感動を覚え、ロータリーを学び親睦、友好を深めるために2回の「北海道ナイト」を企画しました。

① 5月31日(土) 17:00より

開会式の前日、新世代委員会のお世話による北海道ナイト「交換留学生と交流の夕べ」です。オーストラリアへ帰国した元交換留学生だった皆さんとホストファミリーの皆さんとの感動的な再会が実現すればと期待されます。

場 所 ブリスベン市内レストラン「ピアニン」(日本領事館の隣りで眺めの良い所です)

参加費 ロータリアン **5,000円**
元交換留学生 無料

② 6月1日(日) 19:00より(開会式終了による)

開会式の終了後、国際奉仕委員会、友情交換委員会のお世話による北海道ナイト「友情交換の夕べ」です。

RI2510地区のロータリアンと2510各委員会や各ロータリークラブと交流のあった世界のロータリアンとの友情交換で、今後の2510地区の友情交換の発展を期待して行うものです。

場 所 ブリスベン市 サウスバンク ブリスベン

参加費 RI2510地区ロータリアン、地区に関係された世界のロータリアンとその家族 **5,000円**

Aコース 既発表のもの

NO	日時	都市	日程
1	5/30 金	新千歳 成田	国内線・国際線乗り継ぎにて ブリスベンへ 機中泊
2	5/31 土	ブリスベン ゴールドコースト	ゴールドコースト市内観光 『北海道ナイト』交換留学生と交流の夕べ ゴールドコースト又はブリスベン泊
3	6/1 日	ブリスベン	ブリスベン市内観光 国際ロータリー年次会『開会式』出席 『北海道ナイト』友情交換の夕べ ゴールドコースト又はブリスベン泊
4	6/2 月	ブリスベン キャンベラ	『日本人朝食会』 空路、キャンベラへ キャンベラ泊
5	6/3 火	キャンベラ メルボルン	キャンベラ市内観光 空路、メルボルンへ メルボルン泊
6	6/4 水	メルボルン	メルボルン市内観光 メルボルン泊
7	6/5 木	メルボルン シドニー	空路、シドニーへ シドニー市内観光 シドニー泊
8	6/6 金	シドニー	出発まで自由行動(夕刻まで) 国際線で帰国の途へ 機中泊
9	6/7 土	成田 羽田 新千歳	通関後、羽田へそして国内線にて 新千歳へ

Aコースみどころ

オーストラリアの代表都市、キャンベラ・メルボルン・シドニーを訪ねる見どころいっぱいコースです。

旅行代金(概算) 320,000円

- *最低催行人員 15名以上
- *利用航空会社 日本航空又はカンタス航空(エコノミークラス)
- *デラックスホテル使用
- *朝食6回 昼食6回 夕食1回
- *含まないもの
大会登録料・北海道ナイト(2回分)費用・日本人朝食会費用
渡航手続きに関する費用

☆30名以上になれば旅行代金が27万円代になります。

Bコース 大会参加型

NO	日時	都市	日程
1	5/30 金	新千歳 成田	国内線・国際線乗り継ぎにて ブリスベンへ 機中泊
2	5/31 土	ブリスベン ゴールドコースト	ゴールドコースト市内観光 『北海道ナイト』交換留学生と交流の夕べ ゴールドコースト又はブリスベン泊
3	6/1 日	ブリスベン	ブリスベン市内観光 国際ロータリー年次会『開会式』出席 『北海道ナイト』友情交換の夕べ ゴールドコースト又はブリスベン泊
4	6/2 月	ブリスベン	『日本人朝食会』 国際ロータリー年次会参加 ゴールドコースト又はブリスベン泊
5	6/3 火	ブリスベン	国際ロータリー年次会参加 ゴールドコースト又はブリスベン泊
6	6/4 水	ブリスベン	国際ロータリー年次会参加 ゴールドコースト又はブリスベン泊
7	6/5 木	ブリスベン 成田 羽田 新千歳	国際線で帰国の途へ 通関後、羽田へそして国内線にて ★新千歳へ★

※『北海道ナイト』『日本人朝食会』は自由参加です。

Bコースみどころ

オーストラリア・クィーンズランド州の州都『ブリスベン』を心ゆくまでお楽しみください。

旅行代金(概算) 280,000円

- *最低催行人員 10名以上
- *利用航空会社 日本航空又はカンタス航空(エコノミークラス)
- *デラックスホテル使用
- *朝食4回 昼食1回 夕食0回
- *含まないもの
大会登録料・北海道ナイト(2回分)費用・日本人朝食会費用
渡航手続きに関する費用

取扱旅行会社

株式会社 日本旅行北海道 札幌支店 支店長 阿部 功一 担当: 斎藤・佐藤
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 東京生命館1F TEL: 011-281-5241 FAX: 011-232-0074

企 画

オン・ツー・ブリスベン委員会 委員長 遠藤 正之PG(札幌南RC)



追悼 富山惟夫ガバナー

富山さんを悼む

パスト・ガバナー

石垣博美（札幌セントラルRC）

富山さんが亡くなり、涙が止まらない。風に涙が乾いても、この悲しみは消えない。富山さんは私より3年ほど若いので、あと5年位は頑張っただけで願う。そういう思いの友は私だけでないと思う。

亡くられる2カ月ほど前に私が病床をたずねた。そして1月前に私の妻がお見舞いをした。私の名を呼び、うれしいと叫んでおられた。

ロータリーは不思議な社交場である。普通、晩年になるともう、いろいろな会合に出ても、新しい友を得るということはあるまい。ところが、ロータリーではそれが起きる。私は富山惟夫という人の周りにいて、一緒に仕事をしているうち、「生涯の友」を得たという気分になっていた。旧制高校で寮歌を歌う気分になっていた。よい意味でロータリーのクラブ・ライフには、そういう若いオーラ、雰囲気があるのではないかな。

ところが、富山さんはロータリアンとしては、私のはるか大きな先輩であった。したがって、新しい「志」をたてるときは、まずご賛同を得るべく「志」を富山さんに伺った。次に、方法論にいろいろご心配を頂戴した。ロシアから大学生をわが地区へ毎年2人ずつ招待しているが、このプロジェクトは小林ガバナー年度で4年目に及び定着した。みんなに大変良いプロジェクトと評価されてきたことがうれしく、財団委員長として富山さんの裁断が光った。先日サハリンに帰国した2人の学生（アリーサとリュウバ）の写真を8月の病床でお見せした。富山さんは感激しつつも長い間写真を見つめていた。

このプロジェクトは、富山プログラムとして永続を願っている。次にわれわれは、もう1つ大きなプロジェクトに挑戦していた。私は長年の豪

州研究で日本、特に北海道にとっての「交流相手国」としては、豪州はいちばん良いという結論に達した。なぜなら、豪州の若者は日本を尊敬し、愛して、日本語を学んでくれるからだ。戦後50年はそうだったが、10年前の「ロシア共和国」成立以来、ロシアがトップになる勢いである。そこで、北海道の対外交渉戦略を北のロシアに重点を移すべきであろう。

このような現状認識に立ちみると、残念ながらロシアと北海道との交流は現在までのところ、断絶状態と言ってもよいのではないかな。戦後、負の遺産として受け継いだ「北方領土問題」のせいである。そこで今、われわれロータリアンがこの断絶を打破するために、「RI会長主催のアジア会議」を札幌で開催する提案をつくりあげた。富山さんは「直訴するほかなし」と私に伝えてきました。それ以来、RI会長には毎年直訴するが、勿論、無視される（丁重なお断りが2つ）。夢のような話だが、もしこれが現実のものとなったら、富山さんは必ずや天国から、舞い降りてくるであろう。そして、私たちの手を熱く握り締めるであろう。

私は富山さんの娘婿、現小樽商大の瀬戸教授からすばらしい話をお伺いし、感動した。なぜなら、富山青年は終戦の年、東京市ヶ谷の陸軍兵学校で対ソビエト戦略の特攻任務の訓練に没頭していたと言う。3月10日の東京大空襲で「われ奮戦せり」と日記に残している。このロシアの現風景が、富山さんの晩年に甦ってきたのだ。

私は、富山さんからロシア語を習うのが楽しかった。私は近年、新しいクラブの拡大に努めてきたが、これも当初より富山さんの強い支持が私の心の支えになっていたように思う。

大いなる理念、信念の人、富山さんのご冥福を祈る。

富山パスト・ガバナーと私

パスト・ガバナー

遠藤 正之（札幌南RC）

長い間のご指導に心から感謝を申

し上げながらご冥福をお祈り致します。

彫心瘦躯や、腰をまるめた富山PG。そして相手をいたわり、さとするようなゆっくりとした口調でロータリーのこと、又人としての生き方のこと等かずかずのお教えを頂きました。

私がガバナー・ノミニエの年2月アナハイムの国際協議会に出かける際には数年前のご自分の経験されたもの、メモを出し、自らその研修の受け方、そのまとめ方等を数度にわたってご教示頂いたのが、つい先日のように思い出されます。

又、ガバナー年度になっても親切にその方向性をご指導頂き、お陰で数々の小過はあったにせよ、大過なく年度を終えたのも富山PGのお教えがあったためと思っております。

富山PGは、オフィシャルな会以外には机上に常に煙草とコーヒーを準備するのが常で、これ等がないと何か落ち着かない様子で、これが卓に揃い話題がロータリーの話となれば、止むことを知らない論客と変じ、先生のまわりには、その徳を慕い、ロータリーの心に共感する人達が自然に集まり、その先見性と行動力をお教えたものでした。人間に与えられた奉仕の心を常に持ち続け、それを実行されていたことはお通夜の席でも報告されておりました。

私がガバナーになった2000年のクラブ公式訪問の1号に、7月5日に留萌クラブを訪問させて頂き、その際も不慣れた私を親切にエスコートして下さいと賛辞を頂き、先生の人間性の深さを知ることが出来ました。

以来、陰になり、陽になりご指導を頂いたのですが、2001年3月23日会議終了後、ホテルで急な発病に見舞われたと聞いております。

それから札幌に入院しておられた間数回お見舞いに伺ったのですが、常にロータリーの事を気にされ、解明にご指導を受け賜ったものでした。ただ、2000-2001年の地区大会に出席できないを残念がっておられました。

今、変らなければならないロータリー、変えてはいけないロータリーを思うとき、地区としてはまだまだ

ご指導をお願いし、私達を引っ張って頂かねば成らない時にお送りしなければならぬことは、病根の極みです。今迄のご指導に感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

富山惟夫先生を偲ぶ

留萌RC会長

大沼哲郎（葬儀委員長）

故富山惟夫先生は、院長として多忙を極める中で、ライフワークとしての、ロータリーの活動に、多くの時間を割いておられました。昨年3月、札幌で行われました、ロータリーの会議に出席、終了後ホテルに戻り、休もうとした矢先に体調の異常を来しました。

札幌中村記念病院に搬送され、救急の処置受け、快方に向かってからは、リハビリに勤め、小康を保っております。

今年9月には、地元留萌市立病院に転院し、最新の医療をうけ、また、御家族、特に奥様の愛情あふれる献身的な介護を受けておりました。安定した日々を過ごしておりましたが、今月、

11月に入り寒波がこの留萌を襲う時期、季節の変わり目になのでしょうか、チョットしたすきを襲われた形で、容態がにわか急変し、15日午後0時10分、黄泉へと、旅立たれたのであります。享年78歳でございました。人生80年という時代を考えると、今しばらく先生の御指導を、賜りたかったと思うのは、私だけではないと思っております。

故人は、大正14年8月17日、増毛町にて、富山鑄四郎・スエ様の二男として生まれました。旧制留萌中学校から、当時、成績優秀のみならず、健康で思想的にも安定した、きわめて優秀な青年のみが、入学を許された、陸軍士官学校へ進みました。卒業目前で、終戦となりその後は、北大医学部へと進まれたのでございます。

同大学で、医学博士号を取得、昭和26年医師試験に合格し、整形外科を専攻いたしました。大学では、医局長から、講師になり、その後は、教授への選択肢もあったようですが、父鑄四郎さんの気持ちを察してか、開業医の道を選びました。

昭和37年現在地で、整形外科医院を開業され、現在にいたっております。

この間、昭和29年にご夫人、好子様と結婚され、一男二女がおり、長男有一さんが、現在院長を勤められております。

これまでに、留萌医師会会長、留萌市環境審議会会長、北海道ゲートボール連合会会長等の要職を勤められました。とりわけ、ゲートボールの普及と発展に貢献したことで、日本連合功労賞、留萌市文化奨励賞を受賞され、その活動は高く評価されております。

また、留萌ロータリークラブ、第14代会長として、地域の奉仕活動に積極的に参加され、平成5年7月から、一年間、国際ロータリー第2510地区ガバナーとして国際的に活躍されておりました。

その後、パストガバナーに就任されてからは、隣国、ロシアに、ロータリークラブを拡大すべく奔走されておりました。このように、まだまだ活躍して欲しかった先生ですが、近代医学をもってしても、適えられず、ここに78歳の意義ある生涯を終えられたのであります。皆様とともに心より、ご冥福をお祈り申し上げたいと思います。



癒されたい…

リラックスしたい…

自分自身への贈り物。

パラマウントベッド。
あなたの新しい居心地。

Club Paramount



ベッド：クラブパラマウント 5121WR

深く眠るためのクオリティ。もうそれだけではありません。インテリアとしての美意識やアイテムの広がり、リクライニングを始めとするベッドを超えたファンクション。知性を磨き、エンタテイメントに触れ、家族と語らう。「クラブパラマウント」。個のあなたをみつめた真新しい価値から、ベッドルームはもっと自由な空間に生まれ変わります。プライベートはもっと豊かな時間に高まります。

「頭」「背」「足」をそれぞれ
やさしくワンボタンでセットできます。

快眠はもちろん、「テレビ鑑賞」「読書」
「リラックス」などに最適。

あなたの大切なひとときを、
最適なポジションで…。

- シングルサイズ（マットレス付） ￥520,000
 - ワイドシングルサイズ（マットレス付） ￥580,000
- ※ボード色：レッドメイプルとホワイトメイプルの2色。
※ベッド全体が上下に動く高さ調節タイプもあります。

パラマウントベッド株式会社 札幌支店

URL: <http://www.paramount.co.jp/5121>

〒060-0062 札幌市中央区南2条13丁目318番地11 TEL.011-271-1181 ☎0120-03-3648

ショールームがございます。ぜひお立ち寄り下さい。

10月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率
			02.7.1	02.10.31	増減	内女性	
1	深川	3	46	45	-1	2	88.69
	羽幌	5	47	48	1	1	70.95
	妹背牛	4	12	12	0	0	77.10
	小平	4	15	17	2	1	63.23
	留萌	3	69	69	1	0	83.94
小計		189	191	2	4	76.78	
2	赤平	3	37	37	0	1	89.99
	芦別	3	60	59	-1	0	95.45
	砂川	3	61	61	0	0	93.45
	滝川	4	108	112	4	2	78.00
小計		266	269	3	3	89.22	
3	美幌	4	48	48	0	0	84.00
	江別	4	50	50	0	2	86.93
	江別西	3	41	42	1	3	90.72
	岩見沢	4	97	104	7	0	92.41
	岩見沢東	3	33	34	1	3	85.23
	栗沢	3	35	33	-2	2	91.14
	栗山	3	34	35	1	2	88.59
	当別	3	46	47	1	0	86.39
	小計		384	393	9	12	88.18
	札幌	3	120	128	8	0	98.83
4	札幌あけぼの	4	19	19	0	1	98.68
	札幌はまなす	3	29	29	0	4	77.93
	札幌北	3	58	58	0	7	86.55
	札幌モーニング	3	61	63	2	0	77.10
	札幌西	3	75	79	4	2	92.47
	札幌西北	4	52	55	3	2	89.38
	札幌手稲	4	52	52	0	0	98.56
	小計		466	483	17	16	89.94
	札幌東	4	123	126	3	0	98.77
	札幌清田	3	26	27	1	5	100.00
5	札幌幌南	4	88	85	-3	0	100.00
	札幌真駒内	3	50	51	1	2	98.35
	札幌南	3	97	99	2	0	98.48
	新札幌	3	42	43	1	2	91.91
	札幌大通公園	4	17	18	1	5	79.41
	札幌セントラル	4	0	23	23	7	90.21
	小計		443	472	29	21	94.64
	岩内	4	37	37	0	0	81.74
	倶知安	4	54	53	-1	4	81.00
	小樽	3	96	94	-2	0	89.33
6	小樽南	4	86	88	2	0	94.81
	小樽銭函	4	20	20	0	2	82.00
	蘭越	3	18	18	0	0	66.25
	余市	3	49	49	0	4	85.62
	小計		360	359	-1	10	82.96

クラブ数 72クラブ
 期首会員数 3,461人*
 当月末会員数(女性) 3,531人(101人)
 増加会員数 70人
 当月平均出席率 82.95%

グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率
			02.7.1	02.10.31	増減	内女性	
7	千歳	4	74	74	0	2	88.50
	千歳セントラル	3	33	35	2	0	78.00
	恵庭	4	50	49	0	0	84.50
	北広島	3	16	16	0	2	89.33
	長沼	3	18	18	0	4	78.00
8	小計		209	210	1	9	80.84
	えりも	4	27	27	0	0	83.33
	三石	5	20	19	-1	1	92.98
	様似	3	24	25	1	2	74.20
	静内	3	68	68	0	0	85.07
	浦河	3	44	39	-5	1	83.02
	小計		183	178	-5	4	83.72
	伊達	3	53	56	3	0	78.24
	室蘭	4	66	68	2	0	62.73
	室蘭東	3	56	55	-1	1	85.00
9	室蘭北	3	52	52	0	2	77.31
	登別	3	40	40	0	2	85.00
	洞爺湖	4	14	14	0	0	100.00
	小計		281	285	4	5	81.38
	函館	4	101	105	4	0	76.00
	函館亀田	3	51	54	3	1	75.80
	森	3	51	51	0	0	78.00
	七飯	3	33	32	-1	0	81.00
	長万部	3	11	11	0	0	54.50
	小計		247	253	6	1	73.06
10	江差	4	20	20	0	0	67.90
	函館五稜郭	4	71	73	2	0	85.18
	函館東	5	67	67	0	6	77.87
	函館北	3	46	51	5	0	72.78
	上磯	4	34	34	0	3	67.60
	松前	4	8	8	0	1	63.00
	小計		246	253	7	10	72.39
	白老	3	34	34	0	1	82.00
	苫小牧	4	68	67	-1	0	79.35
	苫小牧東	5	33	33	0	3	78.02
11	苫小牧北	3	52	51	-1	2	89.78
	小計		187	185	-2	6	82.29
	合計		3461	3531	70	101	82.95

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー	ポール・ハリス・フェロー
紺野 誠一 会員(3) 9月13日 (苫小牧北RC)	山田 一孝 会員(1) 10月25日 (静内RC)
神部 洋史 会員(3) 9月27日 (滝川IRC)	吉本 勲 会員(1) 10月31日 (静内RC)
坪谷 六郎 会員(1) 9月27日 (滝川IRC)	
武岡 大信 会員(1) 10月25日 (静内RC)	
長浜 和也 会員(1) 10月25日 (静内RC)	
	高橋 徹 会員 10月11日 (札幌東RC)
	安田 憲也 会員 10月25日 (深川IRC)
	大橋 由政 会員 10月25日 (岩内RC)
	黒坂 清一 会員 10月25日 (森RC)
	石垣 勝英 会員 10月25日 (静内RC)
	市毛 満 会員 10月25日 (静内RC)
	小野寺道春 会員 10月25日 (静内RC)
	福嶋 尚人 会員 10月25日 (静内RC)
	棚橋 直登 会員 10月31日 (深川IRC)
	阿部 喜朗 会員 10月31日 (苫小牧RC)

事務所だより

■地区大会への多くのご参加ありがとうございました。皆様のお陰で、無事終了することができました。

■毎月の会員数および出席率の報告は、最終例会終了後15日以内ですので、早めのご提出をお願い致します。

■月信への原稿をお寄せ下さい。特にクラブ活動、会員の声をお待ち致します。投稿の際には、スナップ写真も添えて下さい。

■12月のロータリーレートは120円です。

計 報

倉地孝男 会員 (森RC)

平成14年11月9日 逝去(享年74歳)

《ロータリー歴》
 第11代会長・各委員長歴任
 第10分区分代理歴任
 昭和63年6月 ポールハリスフェロー受賞



国際ロータリー第2510地区
 2002-2003年度 ガバナー月信

発行人 2002-2003年度ガバナー 小林 博
 発行元 国際ロータリー第2510地区
 2002-2003年度ガバナー事務所
 発行日 毎月1日発行 年12回
 編集委員 ◎竹原 巖 (地区幹事) 委員長
 大田すみ子 (地区幹事)
 熊谷 満 (地区幹事)
 脇田 稔 (地区幹事)
 米山 道男 (アドバイザー)
 松本 新 (アドバイザー)

事務局 札幌市中央区大通西6丁目
 北海道医師会館6F
 TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526
 E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp

掲示板

〇例会変更

- 留萌RC
12月18日(水)→12月14日(土)「年忘れ家族会」18:00
平成15年1月13日(月) 休会
- 芦別RC
12月23日(月) クリスマス家族会により、夜間例会
場所 北の京芦別
時間 17:30
- 小樽RC
12月17日(火) 12:30~小樽グランドホテル
↓
12月17日(火) 17:30~ヒルトンホテル
- 江別RC
12月19日(木) 12:30~
" 18:00~
12月26日(木) 定款第5条第1節により休会
1月2日(木) "
- 滝川RC
12月12日(木) 忘年会(夫人同伴)
場所 三浦華園 18:00~
12月26日(木) 定款第5条第1節により休会
1月9日(木) 12:30~
↓
1月9日(木) 18:00~
- 岩見沢RC
12月21日(土) 家族忘年例会 18:00~
※ 事務所の休業 12月28日(土)~1月5日(日)
- 当別RC
12月10日(火)→12月11日(水)「年忘れ会」18:00~
12月31日(火) 休会*
- 岩内RC
12月12日(木) 18:00点鐘

- クラブ総会と夫人同伴年忘れ親睦パーティー
- 長沼RC
12月9日(月)→振替休会(12月6日)新世代会議
23日(月) 法定休会
30日(月) 特別休会
 - 苫小牧RC
12月27日(金) 休会*
*定款第5条第1節に基づく休会
 - 室蘭東RC
12月25日(水) 12:30~
↓
12月25日(水) 18:30~
 - 小樽南RC
12月20日(金) 12:30~
↓
12月20日(金) 18:30~

〇お詫び・訂正

月信11月号p26のR財団寄付者一覧で、一部表記が誤っておりましたので、お詫び申し上げます。正しくは下記のとおりです。

- ポール・ハリス・フェロー
- 北村祐治会員(函館北RC) 9月5日
 - 石田茂夫会員(新札幌RC) 9月6日
 - 舟谷絹子会員(深川RC) 9月17日
 - 川角晃会員(室蘭東RC) 9月27日

12・1月地区カレンダー

12月			1月 ロータリー財団月間		
日	曜日	行事	日	曜日	行事
1	日	ロータリー研究会(大阪)11月28日から	1	水	
2	月		2	木	
3	火		3	金	
4	水		4	土	
5	木		5	日	
6	金	ロータリーの友座談会(東京、12:20)ガバナー出席	6	月	ガバナー事務所オープン
7	土		7	火	
8	日	青少年交換委員会、第2回全国青少年交換委員長会議(東京)	8	水	
9	月		9	木	
10	火	札幌セントラルRC公式訪問(札幌プリンスホテル、17:00~)	10	金	
11	水		11	土	
12	木		12	日	
13	金		13	月	
14	土		14	火	
15	日		15	水	
16	月	青少年育成準備委員会(ガバナー事務所、13:00~)	16	木	
17	火		17	金	ガバナー諮問・指名委員会(札幌グランドホテル、18:00~)
18	水		18	土	
19	木		19	日	
20	金		20	月	
21	土		21	火	
22	日		22	水	
23	月		23	木	
24	火		24	金	
25	水		25	土	
26	木		26	日	
27	金		27	月	追悼記念週間(1/27を含む週;2/1まで)
28	土		28	火	
29	日		29	水	
30	月		30	木	
31	火		31	金	半期報告、人頭分担金送金締切



赤平市の「花」……コチヨウラン

市の「フラワーパークタウン構想」及び「花のまちづくり事業」として、平成6年「ポスト石炭」の期待を担って登場したのが花の貴婦人と呼ばれるコチヨウラン。バイオ技術でクローン苗の生産から鉢花の出荷・販売まで行っております。



あかびら火まつり

夏の宵、市内三方から集められた松明の火によってズリ山に点火され、暗闇の中に炎で描かれた「火」の文字がくっきりと浮かび上がり、赤フンの若者たちによる火神輿、火よつとこ踊りでまち全体が熱気に包まれます。



国際ロータリー第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

2002-2003 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER No.7

ガバナー月信

1月号
January

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR 小林 博 KOBAYASHI HIROSHI

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp





小林 博

ロータリーとは何かをもっと知ろう

「ロータリーとは何ですか？」と聞かれて、満足な答えの言えるロータリアンはどれだけいるであろうか。折角ロータリークラブに入会したが、ロータリーがさっぱりわからず、馴染めず、やがて去っていくロータリアンも少なくない。こうした会員は本当にお気の毒である。何よりもまずロータリーは何たるかを知っていただきたいかった。

ロータリーを知らないのは、その人の責任であろうか？ 私は必ずしもそうは思わない。むしろ入会を勧めた人の責任であり、また新入会員を迎えたクラブの会長以下みんなの責任ではないだろうか。

一般市民もロータリーについてあまり知らない。「ロータリーって何？」という質問に、ある少女は「札幌のすすきのロータリーのこと」と答えたという本当の話もある。それは知らないのが悪いのではなくて、正しいロータリーの情報を伝えない方の責任ではないか。

ロータリーが親睦の団体として、また奉仕の団体として、とくに次世代の人づくりのための素晴らしい団体であることを一般市民に十分知ってもらいたい。陰徳の美と言っていたのは昔のことで、自分達のやっていることに自信と誇りを持って社会に伝える責任があり、また社会の人たちもそれを聞きたいと思っているのである。

毎年1月はロータリーの理解推進月間（The Rotary Awareness Month）である。国際ロータリーの理事会のとり決めにより1988年から実施されている。クラブ会員には自らロータリーについて知識と理解を一層深めてもらい、対外的には広報活動を通じて一般市民にも我々の活動についてよく理解してもらうためのプログラムを実施、推進する月間である。

最後に強調しておきたいことがある。ロータリーでは常日ごろ会員増強が謳われているのだが、私は会員の数を増やすよりも真にロータリアンらしいロータリアンを作っていく努力をこそ何よりも優先すべきではないかと思っている。品格と実行力のあるロータリアンを見て社会の人がそれなら自分もロータリーに入ろうという気を起こさせるようなロータリアンになることである。無理やり入会を勧め、無言のうちに退会していく会員を見るにつけ、今改めて真の会員増強とは何かを考えさせられる。増強は数にこだわるのではなく、質にこそこだわるべきではないか、そして自らを磨くことではないか。このことがロータリーの理解推進に一番大切な基本ではないかと思う。

目次

ガバナーレター	小林 博	2	年次寄付などのお願い	22
ロータリーの歴史に学ぶ（補）	西條 正博	3	クラブ活動紹介	23
ワークショップ開催		4	浦河RC・栗山RC・江別西RC・札幌幌南RC・苫小牧東RC	
文庫通信		4	会員の声	26
ロータリーQ&A		5	高塚信和（千歳セントラルRC）	
ガバナー日記		6	クラブ年会費など一覧表	27
第31回ロータリー・ゾーン研究会		10	ロータリー財団寄付 年次プログラム自主申告額と実績額	28
石垣博美（札幌セントラルRC）・伊藤長英（苫小牧北RC）			米山記念奨学会寄付金納入明細表	29
遠藤正之（札幌幌南RC）・岩城秀晴（札幌南RC）			11月会員増減数・出席率報告	30
佐藤秀雄（千歳RC）			ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます	30
ロータリーと教育改革		14	訃報	30
好評『地区会員名簿』		18	事務所だより	30
地区活動紹介		19	掲示板	31
補助金委員会・米山学友委員会・財団学友委員会			1・2月地区カレンダー	31
青少年交換委員会				

ロータリーの歴史に学ぶ(補)

.....地区研修リーダー 西條正博 (札幌RC PG)

今回は趣向を少し変えまして、「徽章」と「歯車」の知識について述べて見ます。

『2001年版手続要覧』(P.286)には「ロータリー徽章」として、「国際ロータリーの象徴。6本の輻と24の輪歯と楔穴を備えた歯車から成る。色はロイヤルブルーと金色で、ロータリアンが襟ピンとして誇りをもって着用するものである」と規定し、P.172では、「ロータリー標章は、必ず、全体が複製されていなければならない。ロータリー徽章の改造、修正および変形は一切許されない」とあり、パンフレット等で、歯車の半分だけを使って図案化するようなことも禁じられております。

松本兼二郎著『改訂版ロータリー問答』(1970年発行第4版)から該当事項を引用します。

〔問〕

近頃ロータリーの徽章にはいろいろと加工されたものが佩用されておりますが、差支えないですか。

〔答〕

理事会は、ロータリーの役員地位を示す特殊徽章、宝石、リボンを用いることは職業人の組織と調和するものでないと信ずるので、このような徽章の使用は、その国の習慣がその佩用を指令する場合を除いては、それを承認し難いといっています。ただしロータリー国際大会とか地区その他の大会等において簡単な一時的名札とかリボン襟章はこの非承認事項の中に含まないものとしています。

また国際ロータリー理事会は、徽章の製造業者を含めて関係者全員に対し、この徽章は正規のものに何等変更を加えないで使用することを強調しております。

また名刺についても「徽章の流用」というところに問答があります。

〔問〕

この度、私のクラブでクラブ用の名刺を作成する事になり、これに際しロータリーの徽章を使用致したく存じます。

(中略)

徽章の方がロータリークラブの存在よりもよりよく理解されている場合が多く、万事好都合であります。この場合

の徽章の使用は可でしょうか、不可でしょうか。

〔答〕

特別にクラブ奉仕のため、クラブ用の名刺とかクラブ会長の名刺が必要であれば、それにロータリーの徽章を用いることは差支えないと思います。(中略)

個人のロータリアンがその業務用の名刺に、ロータリーの徽章を用いることは禁じられております。従ってクラブそのものの名刺に徽章をつけることは差支えありませんが、その名刺はどこまでもクラブの奉仕に必要な時のみに使用し、会員が個人の用に流用してはならないのであります。また会長用の名刺に徽章を用いることも差支えありませんが、その名刺には必ず「会長」という肩書を書く必要があり、会長が変れば、その名刺は破棄して新会長の名刺にすべきであります。

ついでに、歯車の知識についてもふれておきます。『ロータリーの友』1968(昭和43)年10月号に掲載された「歯車について」、歯車の権威者として著名であった成瀬政男工学博士の執筆になるものです。

ロータリーの歯車

ロータリーのバッジをみると歯車の歯数が24枚になっている。ロータリーはアメリカで創立されたものだが、当時まだ歯車理論の確立されていない時代ではなかったかと思う。そのころにあって24枚の歯数をここに採用した人は、よほど機械工業に造詣の深い人だったものと驚いている。またアイデアとしても実にすぐれていると思う。歯車は単体として作られるが、相手があって活動するもので、誠に意味深いものがあるからである。

そもそも歯車の歯数は何枚が最少可能か、100年このかた、これが問題になっているところであった。いまから50年ほど前までは24枚が最少であるということがわかっていった。

成瀬先生は、この時既に、インボリウト歯車の一般式によって3枚が可能という説を出しており、ハスバ歯車にすると、2枚でも可能であり、1枚でさえも可能である、とうとう歯数の枚数は1枚以上、何枚でもいいということが日本で判明したのである、と説明しております。



ワークショップ開催

ガバナー事務所

ワークショップとは？

ロータリアン有志が集まって、特定のテーマについてじっくり話し合おうという企画です。話し合った内容は、『ガバナー月信』誌上などで地区内会員にお知らせして、話し合いの輪を広げます。

主催者は誰？

各クラブ(または、数クラブ合同)、会員個人(または、クラブ内会員グループやクラブ横断的会員グループ)、地区委員会など、ロータリアンならどなたでも、どのようなグループでも歓迎です。地区ガバナー事務所・地区幹事がお手伝いします。

提供していただく実施案の内容は？

(a)主催者、(b)テーマ、(c)趣旨、(d)日時(3月下旬から6月上旬の範囲内)、(e)場所(札幌以外も大歓迎)、(f)プログラム内容概略、(g)必要経費概算、(h)経費支弁方法。

経費支弁はどうしたらいいの？

参加者には実費を負担していただきたいと思いますが、地区予算からの支出についても御相談に応じます。

実施案の提出先と第1回締切日は？

ガバナー事務所あてに、2003年1月31日(金)までに提出して下さい。その後も、案がまとまり次第、実施予定日の1か月以上前までに実施案を提出して下さい。4月末

頃までは随時受け付けます。

実施のスケジュールはいつ発表されるの？

1月31日締切分については、『ガバナー月信』3月号(3月1日発行予定)誌上で発表します。その後も、決まり次第、『ガバナー月信』誌上で発表します。

実施の回数と開催日のめやすは？

一応下記のように考えていますが、多くの案が提案された場合、回数を増やすことも考えられます。

第1回：3月下旬、第2回：4月下旬、第3回：5月下旬。

実施案の例

(a)主催者：地区幹事会。(b)テーマ：「資源とエネルギーの消費抑制に関して、ロータリアンは何ができるか」。(c)趣旨：……。 (d)日時：2003年3月29日(土)午後2時から5時(引続き、懇親会)。(e)場所：洞爺湖温泉Xホテル。(f)プログラム内容概略：初めに話題提供者PQR3氏に20分ずつ話していただく。残り2時間は、話題提供者を含め参加者の自由討論とする。(g)必要経費概算：会場使用料Y万円。(h)経費支弁方法：参加者から参加費Z円を徴収し、また、地区に対しW円の支出を要請する。懇親会費は別途徴収する。

『日本語大辞典』(講談社)によれば、「ワークショップ(workshop)」とは、①作業場。②参加者が自主的に運営・活動する方式の研究集会。

文庫通信



このたびは昨年度の会計報告をさせていただきます。今後ともロータリー文庫をご活用くださるようお願い致します。

ロータリー文庫 2001～2002年度会計報告

(貸借対照表)

資 産		負 債	
現金	144,223	雇用保険料預り金	10,962
普通預金	10,935,935	社会保険料預り金	117,711
定期預金	5,000,000	負債合計	128,673
仮払金	235,796	正 味 財 産	
現金預金計	16,315,954	次期繰越剰余金	16,187,281
合計	16,315,954	合計	16,315,954

(収支計算書)

資 産		負 債	
会費収入	34,449,900	委員会費	2,189,597
雑収入	327,176	業務費	6,042,439
		賃貸管理費	13,894,392
		人件費	15,419,528
		予備費	376,278
当期合計	34,777,076	当期合計	37,922,234
前期繰越収支差額	19,332,439	当期収支差額	△3,145,158
収入合計	54,109,515	次期繰越収支差	16,187,281

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
 TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
 開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

Q. RI定款第5条第2節 (a) (iii) に挙げた、「いかなる地位からも退職している」人が入会する場合の職業分類については、どのように処理すればよいのでしょうか。これも退職前の職業を該当させると言う解釈なのでしょうか。

A. 会員身分はシニア・アクティブ会員が廃止され、会員は名誉会員と正会員のみとされ、名誉会員以外は職業分類が必要となりました。またRI定款第5条第2節 (a) (iii) により退職者も会員となれる道が開き、また「会員が引退した場合……クラブは、同会員の会員身分をそのままの職業分類で維持することができる」となりました。つまりクラブは退職した会員を、在職中の職業分類で会員身分を継続させることになったわけです。

Q. 一度も正会員であったことのないパスト・サービス会員には前職業分類がない。元正会員であった人の入会と一度も正会員であったことのない人の入会をはっきり峻別して、入会手続をとる必要があるのではないかと。

A. 職業を持ってない人の入会の件については、1945年RI理事会決議があります。

シニア・アクティブ会員又はパスト・サービス会員のバッジと職業分類シニア・アクティブ会員及びパスト・サービス会員両会員のバッジには「シニア・アクティブ」又は「パスト・サービス」の文字の下に括弧で囲んだ（前職業分類……●●）という欄を設けておくようにすることが望ましい。

「いかなる地位からも退職している」元正会員でなかった人が

入会する場合の職業分類は有りません。

職業分類のない人でも入会することが出来ると解釈されています。

Q. 通常に推薦される会員候補者とのような違いがあるのでしょうか。また推薦した後の会員選挙の方法（推奨クラブ細則第11条）に、通常の推薦との違いが発生するのでしょうか？ お尋ねします。

A. 標準クラブ定款第6条第4節という「移籍ロータリアン」について、「会員は、移籍する会員又は元クラブ会員を正会員に推薦することが出来る」とありますが、「移籍ロータリアン」の概念がわかりません。

Q. 「あるロータリー・クラブの会員が他の別のクラブに当然に移籍できる」というような規定は存在しない」とありますが、これはどのようなことですか。

A. 2001年の規定審議会で改正されるまでは1938、61年のRI理事会決議で「会員身分の移籍」（1998年手続要覧14ページ）では他のクラブに移籍することは出来なく、他のクラブに入会するには在籍しているクラブを退会し、新たなクラブ会員の推薦を受け、総ての入会条件を満たした後、入会を承認されておりました。

これが2001年の規定審議会の制定案01-160（規定を改正される案件）でRI細則4.303が改正され「移籍ロータリアン又はロータリアン（2001年手続要覧

13ページ）会員は移籍する会員または元クラブ会員を正会員に推薦することが出来る」と改正され、この被推薦者がかつて属していたクラブを退会する理由又は退会した理由が、本人がそのクラブの地域又はその周辺地域でそのクラブにおいて本人が貸与されていた職業分類の下に現実に職業活動に従事しなくなったということではなければならない。と条件はありますが、会員の移籍は認められることに規定が改正されました。

質問の中の、通常に推薦される会員候補者との違いは、元所属していたクラブからの推薦ができること、又移籍が認められ入会する場合クラブ細則に定められている入会金が免除される特典があります。又被推薦者が職業活動から引退している場合、元の職業分類が貸与されます。

推奨クラブ細則第11条の会員選挙の方法の第1節から第6節の条文を摘要させ、なんの違いも生じません。

会員の移籍については、前段示したように元のクラブを退会する又は退会した理由と元クラブからも推薦できること、特典として二度目の入会金が免除されることで、クラブでの会員選挙とその承認についてはクラブ細則を遵守すべきです。

GOOD DESIGN = ING

Image Making
&
Business Design

ing
Image Making and Business Design

株式会社 アイ・エヌ・ジー
札幌市北区北14条西4丁目INGビル2F 〒001-0014
TEL 011-747-7928
FAX 011-747-1918

ガバナー日記

全国の財団委員会

地区大会が終わって息つく暇もなくロータリー・ゾーン研究会が大阪で開かれた。この会はパストガバナーの勉強会と言っていい。第2510地区からも11名のパストガバナー並びに現、次期ガバナーが出席した。このロータリー・ゾーン研究会の前2日間にわたり、財団委員会、会員増強委員会など関連の委員会が開かれた。

財団委員会はお金を集めるだけでなく、それを如何に効率よく使うかという両方の役目を持っている。ただ、従来は集めたお金をRI本部に送り、3年経ってから60%は戻されるという仕組みである。この比率はいずれ50%に下げられる。大事なことはお金の配分についてこれからはRI本部で決めるのではなく、地区において財団委員長が中心となって決めるようにルールが変わってきた。従って財団委員長になる方の責任は益々重大となる。これを補佐するのが補助金委員長であり、またガバナーも財団委員の一人として協力を要請されている。

特に今、年次寄付の他にポリオに対する募金が問題になっている。この募金を「誓約 (pledge)」せよというアメリカ流の要請に反発の声もあって、日本語で「目標(target)」という言葉に改められた。内容は3年間に1人当たり100～150ドルのポリオ募金をお願いしたいというのである。

ポリオは終焉宣言があったのに何をいまさらとの感も否定できないが、インド北部などアフリカ、アジアの一部地域に患者がまだ残っていることがわかった。もしポリオの再燃、大流行という事態が起これば、今までの努力は水泡に帰してしまう。ロータリーの100年にあたる2005年までに名実ともにポリオ撲滅を宣言したいというのが我々の目標である。

株価の低迷とともに財団の基金も逼迫している。このような状況を打開する1つの手段として、ロータリー財団はマスターカードを使う事で使用金額の0.3%が自動的にロータリー財団に入金する仕組みが出来あがった。入会のための書類は別送されるはずだが、年会費は1万円である。マスターカードを使うだけで自動的にロータリー財団に貢献できることになる。



11月29日(金)昼、大口寄附者(メジャードナー)の午餐会があった。メジャードナーとは1万ドル(120万円)以上寄附した人のことで、私もガバナー責任の一端として、というより私自身、財団には厳しい注文をつけてい

る以上は責任があると考え、寄附したのである。午餐会には会費5,000円を払って参加したところ集まる人およそ200人。司会者は「今日は5人の人を紹介する」と言い、はじめに50万ドルの人、40万ドルの人と超大口寄附者の紹介につづいて、最後に「今年メジャードナーになったガバナーを代表して1万ドル寄附の小林さん」と名前を呼んだ。一瞬人違いかと思ったし、また50万、40万ドルの人の中に僅か1万ドルで恥ずかしい気持ちもあったが、周りの人に促され壇上にあがった(写真)。



キンロス財団委員長(左)、ビチャイ・ラタクルRI会長(右)から記念のメダルをうける

メジャードナーは1万ドル以上寄附すれば誰でもなれる。現在世界で3000人、日本ではおよそ400人とのこと。岩城秀晴パストガバナーも昨年メジャードナーになられたし、2510地区からすでに10名ほどおられる。

識字率

識字率といっても日本人にはピンとこない。わが国は識字率100%だからである。ところが字の読めない非識字者は世界でおよそ10億人といわれ、その4分の3はアジアにいてという。しかもこの低い識字率の陰には過剰な人口とか環境破壊、戦争、貧困、エイズなどが絡んでいる。しかもポリオならポリオワクチンを投与することですむのに比べ、識字率の問題はその国の文化にもかかわる極めて難しい問題を孕む。

今年のビチャイ・ラタクルRI会長は識字率の向上を重点項目の1つに登場させた。このために差し当り各ロータリークラブが1,000ドル、各地区が10,000ドルを目標にしていたきたいとのこと。

識字率を上げるといっても具体的にどうすればよいか難しい問題だが、オーストラリアのパストガバナーのRichard Walkerさんという方がConcentrated Language Encounter (CLE) という非識字者のための新しい語学研修計画を作成し、その実地の効果はかつての3Hプログラ

ムの支援によってタイ国において確認された。その成果を踏まえ今バンコクにCLEを教える教師のためのセンターが作られているとのことである。

アジア・太平洋19カ国の識字率の比較 各国の成人識字率（2000年）

国名	識字率	国名	識字率
1 モンゴル	98.9%	11 イラン	76.3%
2 モルジブ	96.7%	12 パプアニューギニア	63.9%
3 タイ	95.5%	13 インド	57.2%
4 フィリピン	95.3%	14 ラオス	48.7%
5 ベトナム	93.4%	15 パキスタン	43.2%
6 スリランカ	91.6%	16 ネパール	41.8%
7 マレーシア	87.5%	17 バングラデシュ	41.3%
8 インドネシア	86.9%	18 ブータン	28.1%*
9 ミャンマー	84.7%	19 アフガニスタン	16.0%*
10 中国	84.1%	平均	67.7%

注1) 識字率はユネスコ統計年鑑（2002年）に基づく。

注2) ブータンとアフガニスタンは、2000年のデータがないため、1995年のデータ。

国際親善奨学金委員会

国際親善奨学生に対する奨学金はロータリー財団の経費の中でもっとも多額であることから、ロータリーの人づくりへの熱意がわかる。国際親善奨学生に加え、昨年からは新たに世界平和奨学生が登場してきた。両者はともに国際親善奨学金委員会の担当だが、基本的に何か違うかという出資される金額の違いは別として、国際親善奨学生がロータリーの親善大使の役目を重視するのに対し、世界平和奨学生は世界の戦争解決を狙いとしたものである。世界平和はポリオの撲滅に次ぐ国際ロータリーの主要テーマの1つである。第2510地区は国際平和奨学金に5万ドルを負担し、パイオニア地区として認定された。国際平和奨学生への応募者はかつての親善奨学生であった人でもよいとのこと。とにかく積極的な応募を期待したい。

世界平和奨学生が成績優秀という理由だけで先進国だけから選ばれる傾向があるとの指摘があったが、そうであってはいけない。むしろ極貧の国の優秀なものを選出したほうが平和により多く貢献するのではないかとの意見が強かった。奨学生の採否の決定権は現在のところ受け入れ大学側にある。選考基準と選考法については今後の検討が必要のようである。



RI会長・RI理事・ガバナー

RI会長の指名委員17名の1人である丸山宏パストガバナー（東京銀座RC）によると、2004-05年度のRI会長はアラバマ州のシェードバレーRCのグレンモエステス・シニア元RI副会長に決まった。この人は1927年生まれ、ニューオーリンズのチューレン大学で化学を専攻された方とのこと。ロータリーの100年記念の責任者でもある。日本からは候補の1人として千宗室氏が推薦された。いずれも雲の上の人事ではある。

RI理事の選出は今回は第1ゾーンの各地区から選出された指名委員にゆだねられている。当地区からは野口信夫パストガバナーが指名委員として選出されたが、その結果はいずれわれわれの耳に入るであろう。

ガバナーとかガバナー補佐が単に持ちまわりの順番でやっている現実を変えなければいけないのではないかと意見もあった。やりたい人が出れないとか、逆にやりたくない人が出ざるを得ない状況はいけないのであって、自分から手を挙げる仕組みをどうやって作ったらよいかとの質問に対し、誰も明確な回答が出せなかった。

（以上、ロータリー・ゾーン研究会の報告）

学校改革を支援しよう！

全国35地区のガバナーがガバナー会を作り、その議長が先日第2510地区大会の記念フォーラムに参加いただいた前川昭一氏（東京豊島東RC）である。前川議長は特にこれからのロータリーは教育問題に取り組むべきと述べられ、全国レベルでの青少年育成委員会（小・中学生対象）の結成を呼びかけている。

これより先に当地区では札幌北RC、札幌南RCの会員有志が札幌市立北九条小学校の課外授業を行い大変好評をいただいた。その報告は2002年の『月信』10、11月号で紹介済みであるが、このような課外授業なるものがたまたま全国青少年育成委員会の最初に取り組むべき課題として提案されている。

当地区では11月25日（月）、青少年育成に関する新世代関係の各委員長さんと四大奉仕のうち職業、社会、家庭奉仕の委員長さん、並びに地区幹事の出席をいただき、我が地区として今後いかにあるべきかについて話し合う準備会を開いた。

12月9日（月）、北九条小学校高橋敏憲校長（前市教委指導主事）のアドバイスをいただき北九条小学校の嶋田肇教頭、松田昌樹教務主任、幌北小学校野田孝夫校長、北辰中学校渡辺哲也教頭をお招きいたし、内閣総理大臣の諮問機関として教育改革国民会議の討論内容につき意見交換を行った。さすが学校教育の専門家の方々から教わることが多かった。

さらに12月16日（月）同様の検討を重ねた結果、今後の努力目標は課外授業を、いま紹介した北九条小学校は

じめ、幌北小学校、北辰中学校の札幌市立3校をモデル校として実施し、またそのために必要なロータリアンの選出を行うこととした。その成果を踏まえ職場訪問、さらには学校評議員などに関わっていったらよかろうとのことである。

いずれにしてもロータリーが学校教育の現場に関係することの是非、またその方法論についての議論の余地は残されているが、出来る範囲内のことを無理でない形でやっていくべきであるとの考えである。担当の委員会を新設すべきかどうか、新設するとしたらどの位置付けで考えるかなどの論議はこれからの動きをみて、恐らく次年度で決めていただいたほうがよさそうである。それまでは仮設のワーキンググループとして、作業は当面ガバナーを中心に担当することとした。

年の瀬も迫って12月24日（火）、ワーキングのメンバーとして和田家庭奉仕委員長、奥貫新世代委員長、土橋国際親善奨学金委員長（前市教育長）、米山地区幹事、木村幹事エレクトにお集まりいただき子供奉仕委員会（仮称）を社会奉仕の小委員会として家庭奉仕委員会と2人3脚でもっていくことがいいのではないか、そのための今後の具体的作業手順を話し合った。

なお地区大会の記念フォーラムのうち教育にかかわることの紹介（14ページ「ロータリーと教育改革」をご参考いただきたい。

女性会員に期待

「女性委員会」を持っている地区は全国でただ1つ第2750地区（東京都・マリアナ諸島・ミクロネシア連邦）である。この女性委員会の中心的役割を果す東京神宮クラブの杉本由子氏の来札の機会に、ガバナーと杉本さんを含めた懇談会を開きたいとの要望が札幌幌南クラブの高島英寿会員からあった。

2750地区は会員数5,440人に対し女性会員は303人（5.6%）で、女性の比率は全国トップである。ちなみに我々2510地区は3,497人に対し92人で2.6%であり、およそ全国平均の中位にある。

我が地区の中でも女性会員のいないクラブは72クラブのうち30クラブある。アンケートの結果、大部分のクラブは機会を見て女性会員を持っていいという返答であったが、女性会員は持たないと明言されたクラブも2つあった。適当な人材がある限り、女性の入会は世界の流れであろう。アメリカの例に見習えば、わが国でも女性のガバナーの出現はいずれ期待してよろしいのではないか。

杉本由子さんを囲む懇談会は12月5日夜、札幌幌南クラブ、札幌清田クラブ合同の有志で行われた。札幌幌南はまだ女性会員の

いないクラブであるが、女性会員の獲得にゴーサインが出たようである。（P24参照）

ロータリーの友

12月6日（金）東京プリンスホテルで行われた『ロータリーの友』をテーマにしての座談会に出席した。小池英輔PG（行田RC）の司会で 1) 『ロータリーの友』がこの7月から新しくなったことの感想 2) この雑誌の今後に求めるもの 3) 地区の雑誌月間の取り組みについて話し合った。その要旨は雑誌月間にあたる4月号の『ロータリーの友』に掲載される予定である。

新しい『ロータリーの友』の出来映えは何点くらいかとの司会者の質問に私は85点と答えた。装丁、内容とも十分立派になったからである。今後に求めるものとして、ボトムアップの心を活かし辛口のコメントも積極的にとり入れたらよいのではないかと述べた。

『ロータリーの友』があまり読まれていない現状を打開するためにどうしたらよいかという質問には、ここでも私は自画自賛的な甘口の記事だけでなく、会員の胸に秘める辛口の論評などが欲しいと繰り返し述べた。

『ガバナー月信』は「地区におけるロータリーの友」と考えたい。まず、地区内の『ロータリーの友』委員と地区の『月信』の編集委員会が今までのような全く別々の存在ではなく、両委員会がもっと緊密な協力関係があってよいのではないか。そうすることによって双方がもっと充実していくのではないかと強調した。

最後に、地区の雑誌委員会をロータリーの友委員会と改称したらどうかとの提案には一人の反対もなかった。各地区の裁量で決めていいことであろう。

札幌セントラルRC

12月10日（火）夜、名実ともに最後のガバナー公式訪問となった。札幌セントラルRCは出来たばかりのRCである。そのこともあって公式訪問は地区大会が終わってからにしてほしいとの希望があったからで、丁度30回目の例会にあたり2名の新会員を迎えた。石垣博美PG、芹田馨



会長の魅力に引かれ、これからもさらに新入会員が増える見通しとのこと。芹田会長は会員数を早く30名に持っていきたいとの強いご希望であった。私は敢えて数にこだわることなく、ロータリーにふさわしい人を選ぶことと、会員の資質向上をお願いしたいとの希望を述べた。

私はセントラルRCのみなさんに「ロータリーの心」とは何だろうかと問いかけ、手続要覧をいくら読んでも解けてこない代わりに、『ロータリーの友』や『ガバナー月信』をよく読んでいただきたいと要望した。要は貧者、弱者に対する慈愛の心がロータリーの心であり、これがまた「奉仕」の心である。しかもロータリーは今の世代の人達に対する奉仕だけでなく、次の世代の人達に対する奉仕も考えている。これはロータリーだけの奉仕であり、みなさん自信を持って欲しいと結んだ。



寄贈

札幌セントラルRC
平成14年12月10日
(地区大会時長谷川久夫会員撮影)

終わって長谷川久夫会員の撮影したアグネス・チャンと一緒に撮った額入りの写真を芹田会長からプレゼントされた。

終わって長谷川久夫会員の撮影したアグネス・チャンと一緒に撮った額入りの写真を芹田会長からプレゼントされた。

地区財団委員会

12月14日(土)4時から北海学園大学理事長室で地区財団委員会(委員長森本正夫PG)が開かれた。財団委員の他に集まった人はポリオ担当の城木広報委員長(札幌北RC)と私を含め計8名。

新しいシェアシステムは次年度2003-04年度から始まる。これは当年度に収めた年次寄附の50%がその3年後に戻ってくるということで、そのときまでは従来通り60%が戻されDDFとして使えることになる。DDFとは地区財団の活動資金のことである。このDDFは地区財団委員長の裁量で決められることとなり、DDFは大変身近なものになってきた。

ちなみに年次寄附は3年後にDDF以外の50%は国際財団活動資金(WF)として使われる。これは主に2年に1回の研究グループ交換(GSE)などに使われる。残り

半分は地区活動資金(DDF)として主として教育分野、特に国際親善奨学金や国際問題研究ロータリーセンターに使われる。またDDFは人道的分野のポリオプラスほかマッチンググラウンドにも使われる。

いまポリオの募金が始まっている。DDFをポリオに使うことも可能であり、そのようにしている地区もある。だが出来ればポリオとして独自の募金を行い、どうしても不足と思われたときやむを得ずDDFを使うのがよいのではないか。

今年度のDDFは3年前(森本年度)のときの年次寄附の60%が使えるから、凡そ18万ドル使えるという恵まれた状況下にある。うち5万ドルはバイオニア地区として認定された国際平和奨学生に出すことになっている。また人道的には凡そ3万7千ドルの余地がある。

地区財団委員会は金を集めるだけでなく、受け入れた50%の年次寄附をいかに効率よく使うかということにも知恵を絞るべき新たな責務がある。会が終わって理事長室隣の国際交流室(和室)にてご馳走になる。

青少年交換委員会 留学生の送別会

12月15日(日)4時から渡辺淳一文学館においてオーストラリアから来ていた6人の交換留学生の送別会が行われた。1月にはそれぞれオーストラリアに帰国するはずである。

学生を受け入れていた函館東RC、恵庭RC、札幌南RC、由仁RC、札幌モーニングRC、札幌手稲RCの各クラブ会長以下ホストファミリー並びにホスト高校の関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

学生も喜色満面、予め準備した余興の芝居をやったりお茶のお手前をみせてくれ本当に楽しんだという実感を吐露してくれた。これがいつまでも続く両国の友好につながっていただければと願う。

いま改めて青少年交換委員会の清水慧子委員長ほかみなさんの並々ならぬご努力に心から厚く謝意を申し上げます。

(22頁参照)

後半への折り返し点に

7月からで半年を経、年度後半への折り返し点を過ぎた。前半はいささか頑張りすぎたようで、公式訪問の合同例会から『月信』の全員購読、『会員名簿』の作製、地区大会の合理化など、少し無理もあったようで反省点も少なくない。これからは比較的ゆっくりしたスケジュールで済みそうに思う。

とはいっても各グループのIMのほか、子供奉仕委員会の立ち上げやワークショップの開催など気のぬけないプログラムが待っている。また次年度の会長幹事懇談会(PETS)(3月15、16日)、地区協議会(4月19日)など、継続性の必要な案件についての引き継ぎは非常に大事なことと思う。重要案件は常に佐藤秀雄ガバナーエレクトに相談しながらすすめてきた。



ガバナー月信新春号の表紙はご覧いただいたとおりで、今までの趣向を大きく変えた。この表紙に決まるまでに2、3の候補作品の中から最終的にこれに落ち着いたものである。佳作として左のものが選ばれた。いささか漫画っぽくふざけたイメージが気になるということでボツにされた。若手グループはむしろ佳作の方が面白いといって強く勧めるのだが、大勢はおとなしい表紙のイメージに落ち着いた。

2002～2003年度
国際ロータリー・ゾーン1,2,3,4 (A)
第31回ロータリー・ゾーン研究会

11月28日(木)～12月1日(日)

於：大阪国際会議場

リーガロイヤルホテル

分科討論会

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|--------------------------------|
| 第1テーマ | クラブ組織・会員教育・職業倫理の遵守等 | 第4テーマ | 平和と紛争解決に関する国際問題研究のためのロータリーセンター |
| 第2テーマ | 会員増強と退会防止について | 第5テーマ | 識字率向上運動について |
| 第3テーマ | ポリオ撲滅と募金キャンペーン | 第6テーマ | 米山記念奨学会について |

ロータリー・ゾーンの研究会には、地区からは小林ガバナー、佐藤秀雄ガバナー・エレクトの他、伊藤義郎、竹山涼一、大橋康次、富原薫、石垣博美、伊藤長英、森本正夫、遠藤正之、岩城秀晴の各パストガバナーが出席致しました。

ロータリー・ゾーン研究会 (Rotary Institutes)

ロータリー・ゾーン研究会はロータリー研究者といわれていたものである。研究会の対象範囲の地域に居住しているRIの元、現、次期役員の出席と参加を目的とする会合である会長とRI理事会と事務総長は、この人たちの理解ある完全な支援と協力を必要としている。

RI理事会は、このような支援、協力、理解のための重要で有益な伝達手段としてロータリー研究会の意義を大いに認めている。ロータリー研究会は、管理面の責務または権限をもたない、情報提供のための会合である(『ロータリー章典』60.050)。

RI理事会は、ロータリー世界の様々なゾーンで、または、複数のゾーン合同で研究会を開くことを承認している。特別な事情があれば、一つのゾーン内で二つ以上の研究会を開催できる。開催予定地は、出席を希望する全ロータリアンが国籍、人種または宗教にかかわらず出席できる場所であればならない(『RI細則』19.020.1)。

研究会の目的は：

- 1) 財団も含め、RIの方針やプログラムを現および元RI役員に正確に報告する
- 2) こうした方針やプログラムについての一層の支援を奨励し、同時に改善

や刷新についての意見を求める

- 3) ゾーン・レベルで成功を収めたプログラムで、RI理事会がより発展させたいと考えるようなプログラムの進展をRI理事会に報告する
- 4) ガバナーが指導力を発揮できるよう励まし、やる気を起こし、情報を伝える
- 5) 学び、討論し、勇気づけられるような場を提供する。このことによって、すべての参加者に親睦の心とチームの一員という意識が芽生える(『ロータリー章典』60.050)。

ロータリーは前進する
—大阪ゾーン研究会の成果

石垣博美 (札幌セントラルRC)



①ロータリー・日本スタイルの快挙

“He profits most who serve the beat” という第2モットーがある。2、

3年前からRIでは、このモットーをやめようという気運が出て、一旦抹

消しようということに決まった。しかし、日本のRI理事たちは、抹消に反対、ついにそのものを撤回させることに成功した。ただ、HeをOneにするかどうかで目下思案中だという。

われわれは、これが最近のRIが無原則的な規制緩和指向に流れることをいましめたものとして、大いなる拍手を送りたい。のみならず、日本代表の理事の方々が、悲壮な決意を

もって、「日本の立場」を守り、反対論を主張したことは、これまでにないロータリー日本スタイルの壮挙ではないだろうか。

どうもゾーン会議で、いろいろな論者から海外情報を伺っていると、世界中で「ライオンズ化(Lionization)」への動きが進行しているようだ。たしかに今は、「大転換の時代(ドラッカー)」である。しかし、こういう時にこそ、ロータリーの「古典的

ロータリー哲学」(下記参照)は死守せねばならない。日本型ロータリーは、世界に対してロータリーの古典的モデルとしての存在をアピールしてゆかねばならない。

②東洋哲学

以上のような「ロータリー日本スタイル」という考え方は、今回の会議で議論された他のトピックス、例えば国際平和奨学生(あるいはロータリーセンター)プロジェクト、識字率問題、米山奨学生や会員増強問題などの議論においても、色濃く反映されていたように思われる。随所に、日本の立場が強調されていた。

そういう会議の雰囲気の中で、ポリオ・プラスの議論や増強の話が行われたからであろう。今回のゾーン会議は、出席者全員にとってわかりやすい議論が展開されたのであった。米山問題など、初めてゾーン会議に登場したが、これも「ロータリー日本スタイル」の自己主張のあらわれであろう。

私自身は、第31回ゾーン会議は歴史に残る大成功を納めたと思ひ、この感動を十分に伝えられないのが残念である。成功の背景には、ラタクル会長の存在、およびキンロス財団委員長の努力が、「黄金のコンビ」となって会議の基調を形作ったのではないか。そして、それが会場全体を包む熱気と化し、われわれを元氣付け(inspire)るものとなったのである。というのも、お二方のスピーチのあちこちに私達は、冒頭に述べた「RI日本スタイル」の第2モットーに対する日本のスタンス、強い支援、それへの理解を示す言葉があらわれていた。

とくに印象的だったのは、キンロス委員長のスピーチに繰り返し日本の立場に対する共感の言葉が多かったことである。「豪州はアジアとともに生きる」という言葉は、この8月のクアラランプールのRI会長主催アジア会議でも強調されたものであった。お二人は、アジア的価値観と

もいべき「東洋哲学」に対する深い理解者である。

③国際平和奨学生

今度の会議のハイライトは、勿論このプロジェクトの発足であった。50年遅れたという。(玉村文夫)たしかに遅きに失したが、今の国際社会が求めているものは、これである。日本文明はとくに役割が大きいように思われる。

私ども参加者は、ロータリーが生誕100年にして、次の100年に向けて新しい第1歩を踏み出したような感動にひたった。ロータリーに対するメディアたちのイメージも「金持ちの遊び」とかいう偏見から「平和探求のロータリー」へと変わってゆくであろう。

高く評価された米山記念奨学会

伊藤長英(苫小牧北RC)



1997年に札幌において開催されたロータリー研究会(今年からロータリー・ゾーン研究会という)に初めて参加してから、連続6回目の参加となりましたが、全体の印象としては、この研究会も年々運営方法が改善され、内容も変化し、充実してきた感じが致します。

今回の研究会において特筆すべきことは、米山記念奨学会が初めて議題として取り上げられたことです。

これはRI会長ビチャイ・ラタクルさんがタイのご出身であり、米山奨学生の第1号がタイからのトム・チャード君だったということも関係していると思いますが、何よりも米山記念奨学会が高く評価されていることと、この研究会の招集者である板橋理事のご理解によるものであると思います。

ビチャイ・ラタクルRI会長は研究会の前に、静岡県三島市にある米山

梅吉記念館を訪問されました。日本のロータリーの創設者である米山梅吉氏に対し深く敬意を表されていることに感激致しました。

今回の研究会においては、全体会議の他6つのテーマについて分科討論会が行われました。私は、米山記念奨学会グループに参加しましたので、その内容について簡単にご報告致します。

ご承知のようにこの事業は日本の全ロータリアンからの寄付金を財源として運営されております。最近会員数の減少及び経済的不況の影響により、1996年をピークとして寄付金が徐々に減少しており、奨学生の数を1,100人から1,000人に減少しましたが、それでも特別積立財産を取り崩して運営している状態です。その対策を考えなければなりません。

喜ばしいニュースとしては、今年度米山と国費奨学生の試験に両方とも合格した人で米山奨学生を選出した人がいました。国費奨学金は月に18万4,000円で米山より高いので、両方受ければ国費奨学生のほうを選択するのが普通ですが、米山を選出した人がいました。その理由は、米山の方が金額は少ないが、世話クラブとカウンセラー制度があってロータリアンの心をもって支援してくれるからということです。そういう評価を受けるのは大変嬉しいことです。

尚、板橋理事のご配慮により、韓国米山校友会の会長である安熙道さんが特別参加されており韓国校友会の現状を紹介されました。会員は2,000名以上おり、その中には僚僚になった人が2名、前駐日韓国大使も居られ、その他大学教授多数、ロータリアンになった方も多く韓国の各界・各層において活躍しておられるとのことです。米山記念奨学会に大変感謝しており、今後益々の発展を祈念しているのご挨拶がありました。

米山記念奨学会以外のグループについては、パネリスト兼リポーター

から全体会議において夫々発表があり、すべて理解することが出来ました。

ビチャイ・ラタクルRI会長が最も強調されたことは、①会員増強と退会防止 および②ポリオの撲滅 でありました。特にポリオの撲滅については多くの方々から詳細に説明があり、ロータリーが国際社会に約束したことで、何としても達成したいのでは非ご協力をお願いしたいということでした。

多くのことを学んだ研究会

遠藤正之 (札幌南RC)



今回を含めてこの研究会への出席は4回目となり、その都度ロータリーについて多くのことを学び、その思いを募らせております。

会の前日のRI会長、R財団管理委員長歓迎晩餐会、第1回目の8:00から始まる開会式は例年の如く行われた。その中で、板橋理事は職業奉仕を取り上げ、地域社会に根ざした活動をし、ロータリーも原点に戻るべきであると説いた。

1日目

第1セッション

板橋理事がRIの近況報告、玉村ロータリー財団委員長が財団の近況を報告した後、ロータリーセンター報告として、国際キリスト教大学絹川学長より近況報告、平和奨学生の台湾出身の王振瑜さんから現在の心境についての報告がなされた。

第2セッション

午後の部に移り、各提言者が30分の提言を次の6部門について行った。

- 1) 社会の変化に対するクラブの対応について 岡本徳彌
- 2) 会員増強と退会防止について 黒田正宏
- 3) ポリオ撲滅最終状況の報告と募金活動 中島治一郎

4) 平和と紛争解決に関する国際問題研究のためのロータリーセンター 田中作次

5) 識字率向上について 重田政信

6) 米山記念奨学会について 島津久厚

以上、6つの課題について各提言がなされた。

2日目

第3セッション

朝8:00より昨日の提言に基づいて各分科会が開催された。この分科会は、あらかじめ参加者の興味ある分科会への出席が認められ、十分なディベートなされるように計画されたものであり、今までのロータリー研究会にはなかった企画であった。私は最初、第1テーマのクラブ組織・会員教育・職業倫理の遵守に出席する予定でいたが、ガバナー同期の2670地区大田英章氏が第3テーマ「ポリオ撲滅と募金キャンペーン」のパネリストになったので、エールを送るべく急遽変更した。このキャンペーンとは、千宗室委員長以下11名のパスト・ガバナーで構成され、2002年7月から2003年6月までの間に日本で1,600万ドル（全世界で8,000ドル）の募金を集めようというものがある。

—ロータリーの

ポリオ撲滅運動の経緯—

- 1979年 ポリオ撲滅のプロジェクトに参加
- 1980年 全世界の児童にポリオの予防が出来るようになった
- 1985年 セービン博士の助言でポリオ・プラス開始1億2,000万ドル集める目標が3年間で2億4,700万ドル集まる

2000年までにポリオ撲滅を宣言したが、実現できなかった。しかし、125カ国40万件発生したポリオも7カ国211件と減少したが、サーベイランスの精度の向上のせい、最近1年間の間にインド北部、パキスタン、ソマリア等9カ国で1,100件の発生を

みている。勿論これらの地区は、内戦があつたり宗教的な対立、保健体制の弱さ等があり、撲滅には大変であると思うが、ロータリー創立100周年のTop Priorityとして達成したいと考えている。

—ポリオ撲滅キャンペーン—

これは『お金を集めるという具体的な話です』。WHOによると、ポリオ撲滅には10億ドルが必要で、6億ドルについては調達の見途がついているが、残りの4億ドルが不足しているそうである。その4億ドルの資金を世界銀行から借入し、その40%にあたる1億6,000万ドルを返済すれば、全額返済という取り決めがなされているそうです。

その内訳は、

ビルアンドメリンダゲイツ財団 2,500万ドル
ロータリー財団ポリオ・プラス 5,500万ドル
ロータリー（全世界で） 8,000万ドル

計1,600万ドルになるという計算です。日本のロータリーが、先述したようにその20%（1,600万ドル=20億円）を寄付する。1人当りにすると16,000円（135ドル）です。これは大変なことです。ポリオ撲滅募金をぜひ達成して欲しいと懇願し、その方法について色々と説明がありました。

—フロアからの発言、一つ二つ—

1. ロータリーが世界に対して約束したことなので、全会員に理解してもらい、現ガバナーが強力に行動し目標を達成して欲しい。
2. 2005年までと約束したが、撲滅は不可能ではないか。
3. 宗教的問題があれば、ワクチン投与は不可能ではないのか。所謂アレルギーが存在するのではないか。
4. この不況の時、16,000円は無理だと思う。
5. 募金達成のノウハウ、例えばニコニコBOXの活用とか。
6. 大口寄付をお願いしてはどうか。など色々な質問が出ました。

会員増強にはやる気が大事

岩城秀晴（札幌南RC）



第31回ロータリー・ゾーン研究会（以下研究会と言う）は11月28日（木）のロータリー財団地域セミナーから始まって、12月1日（日）の15時までの4日間に亘って各セッションにより開催されたが、私はそのうちの並行プログラムの会員増強委員長会議が11月29日（金）に参加した。開催場所についてはガバナーから紹介されると思うので省略する。

会員増強においては、どの地区も会員の減少で苦勞しているようである。その際に、特に会員の増強には女性に力を入れていることが大事であり、メンバーの退会防止についてもクラブに魅力がないとか、職務多忙という理由での退会が多いということである。クラブに与える地域社会への奉仕は、やはり人生の生き甲斐にもなり退会の防止策としては有効ではないだろうかとの参加者の意見があった。

また、翌11月30日（土）の第1日目のセッションにおいても会員増強と退会防止について、黒田会員組織コーディネーター（八戸南）によってロータリー世界での探求、職業分類の点検として会議が進められ、その中でも会員を維持するためにはどうすれば良いかを考えてみるとPR不足とか、地場産業の活性化とか不可欠の要素があるとの意見もあった。

第2日目は、分科会においても参加者の意見としては、会員の増強は難しいことが述べられていた。モデレーター黒田さんより第2510地区における会員増強の策について意見を求められたので、その実例として札幌セントラルRCの拡大の経過とその成果について簡単ではあったが申し上げたので、参加者とは違った雰囲気を感じました。

会員増強は不可能ではなく、ここ

を何とかやってみる、やる気が大事な点であることを申し上げた。やはり、増強は難しいとは云わずにやるのが大事である。皆様にも今年は1名の推薦をお願いしたい。以上が今回の研究会の1部分であるが、お互いに100周年に向かって精進願う。

「質の良い会員」について討論

佐藤秀雄（千歳RC）



今年のゾーン研究会は2002年11月28日から同年12月1日までの4日間にわたり大阪国際会議場をメイン会場にして開催されました。

当地区からはガバナー夫妻、ガバナー・エレクト夫妻、パストガバナー9名とその御夫人4名、それに伏木地区補助金委員長の計18名が参加されました。

この研究会は第1日目がロータリー財団地域研修セミナー、第2日目がガバナーエレクト研修セミナー、第3日と第4日目がゾーン研究会の構成となっています。私は4日間全会議に出席して来ましたが、他の参加者からそれぞれご報告が有ろうかと思しますのでエレクト研修セミナーを中心に報告します。

本研究会の招集者はRI理事板橋敏雄、同菅生浩三氏であります。セミナーは8：30から17：00まで午前、午後それぞれ10分間のコーヒープレイクタイムを除きびっしり行われました。研修の内容は、午前の部（1）ロータリーの会員基盤と維持増大をRI研修リーダーであり且つ02-04年度第2ゾーンRRFC（ロータリー財団地域コーディネーター）である岡本徳弥氏に、（2）効果的な指導者の開発についてをRI研修リーダーであり02-04年度第1ゾーンのRRFCであります藤川享胤氏の研修があり、50分の昼食をはさみ午後の部として（3）国際ロータリーの管理運営用件（事

務局の役割）を天野肇RI研修リーダーに、（4）国際協議会の予備知識を藤川享胤RI研修リーダーに、（5）最後の30分は講演で「会員増強の必要性について」仲谷RIMC（国際ロータリー会員組織コーディネーター）に頂き終了した。またこれと同時に進行で別会場に配偶者懇談会が開催されました。

講演以外の全会議はフォーラム形式で行われ、例えば（1）の演題について言えばコーディネーターから会員基盤の維持と会員増大について20分位のレクチャーがあり、その後会場に「会員増強について」3人から4人位のエレクトから、考え方を引き出していき、次に「会員は何故退会するか」について問題提起し、会場から意見を聴取し会員の退会防止について考えさせる、このような形式で研修会が進行されました。

本研修会で印象に残った討論は会場から「質の良い会員」を入会させねばならない、とよく言われるが「質の良い会員」とはどういう会員を言うのか、との提言があり頭の良い人を指すのか、社会的地位があり高学歴の人を言うのか、それとも一流企業の人たちのことを「質の良い会員」と定義するののかとの提言に対し、コーディネーターは、私個人的には質、量どちらかといわれれば量でよろしい。ロータリー会員の一般的基準に照らし低いと感ずれば、クラブ会員の力によって高いところまで引き上げればよいのではないかと答えていました。

私も、質量どちらだと言われれば量と答えます。質の良い会員と言われますといつも自問自答しますが、奉仕の世界に質の良い会員の定義等存在するのでしょうか。私はどうしても言えというので有れば、毎例会に出席し会費を納入してくれる人が質の良い会員と言えるというふうと考えています。

以上報告とします。

ロータリーと教育改革*

* 去る2002年11月16日（土）に行われた地区大会記念フォーラムの中から教育問題についてのみの要約です。フォーラムの全文は、いずれ『地区大会記録集』に掲載します。

A. スピーチ



前川昭一
(2580地区ガバナー・
ガバナー会議長)

今日のテーマはロータリークラブと教育改革ということですが、これは是非ご協力願いたいのであります。

ビチャイ・ラタクル会長

アナハイムでは久しぶりにすばらしいRIの会長が出たなという印象を受けました。今までのRIの会長はできもしないことを言ったりしていましたが、ビチャイ・ラタクルさんはそんなことはないですね。ビチャイさんはタイのバンコクのロータリアンですが、もともと製薬会社の経営者で、タイの製薬業界の会長をされたり、政界に転じられて副総理までなされたという国際派の方です。しかしそんな輝かしい経歴をおもちでも非常に謙虚なのです。いままでのアメリカ、ヨーロッパの人とは違うんですね。しかも、やさしい言葉でおっしゃるのです。そのやさしさの中に極めて深い思想を秘めています。しかしその言葉をよくかみ締めると荒っぽいのです。そんなことを言ってもいいのかと思うようなことをズバリとおっしゃいます。私はその謙虚な人柄と、深い思想と、荒っぽさにすっかりほれ込んだわけです。

種をまく順序

「慈愛の種をまきましょう」というのは、いかにも東洋らしいテーマですよ。その中で一番感心したのが、順序があるということでした。最初はまずクラブに蒔けということです。ロータリークラブの活動というのはRI会長でもなければガバナーでもないのです。ロータリークラブですよ。クラブで会長さんが決められたことはそれがファイナルでいい

わけでありませぬ。ビチャイさんの話で今でも印象に残っているのは、会員増強を強調することは崩しませんが、それ以外の4大奉仕は自由によってくださいということです。次には自分の職場に種を蒔けとおっしゃっています。ロータリークラブの原点は職業奉仕ですよ。職業奉仕の原点は何かと言えば、それは職業倫理です。こういう大事なことを歴代のRI会長はおっしゃいませんでした。3番目は地域社会に種を蒔けということです。地域社会（社会奉仕、新世代）に対しては野心的にと発破をかけています。そこで35人のガバナーが合意したことは日本の教育改革にかかろうということでした。

教育の荒廃

私は、今くらい日本の教育が荒れていることはないと思います。とにかく約14万人の子供達が不登校になっているのです。今までこんなことはなかったですよ。無理やり登校させたところが子供達は落ち着きがなく、いわゆる学級崩壊につながってしまったのです。私達が子供のころは学級崩壊なんていう言葉すらありませんでした。今教育改革をしておかなければ大変なことになると思うわけでありませぬ。日本という国は政治のシステムが変わろうが、経済の機構が変わろうが、エネルギーと原材料を輸入して世界のどこよりも安くいいものを作って輸出して儲けることは変わらないと思います。そしてその分で我々の繁栄や贅沢があるわけです。しかし14年、15年後にこの繁栄は続くのだろうか心配です。これからの子供達は大丈夫でしょうか。すでに世界のどこよりも安いものは中国が作っています。日本はよほどいいものを作らなければエネルギーと原材料を買った決済はで

きませぬよ。

人間性豊かな人づくり

歴代の日本の総理大臣も教育は大事な問題とっておられるが成果は上がっていません。内閣総理大臣の諮問機関として教育改革国民会議ができたわけです。26名の日本のあらゆる階層の識者が集まって日本の教育をどのようにするかということ議論したわけです。人間性豊かな日本人を作ろうというのがコンセプトです。今の若い母親は勉強なさい、塾へ行きなさい、英語の勉強をなさい。そして一流大学に入りなさいばかりです。一流大学に入ることはそれほど大事ではないのですよ。財団法人和敬塾は50年間そういうことをやって、4,000人以上の人をつくらせてきたのです。勉強は大事ですが、もっと大事なことは人間性豊かであることや体作りなのです。知徳体がバランスとれた人になってほしいのです。どうしたらよいのでしょうか。



教育改革

教育改革は5つのことを言っています。まず1つは、教育は家庭であるということをお自覚してくださいということです。2つ目は道徳を知ることのためらうなということです。先生の道徳の話にはなかなか耳を傾けないのですね。

3つ目は奉仕活動をすることです。曾野綾子さんに言わせれば18才になったら学校を休ませてボランティアさせろとまで言っています。いろいろな奉仕があります。本人も成長する

し、社会のためになる。一石三鳥になります。これは否決されましたが、小中学校のボランティアが折衷案で決まりました。

4つ目は問題を起こす子を曖昧にするなどということです。いじめっ子がいると周りにいる子供がかわいそうなので、その子だけ別に教育をしましょうということ。最後5つ目は、有害情報から子供を守ろうです。これらは人間性豊かな日本人を作ろうという具体的な提言であります。

行動こそ大前提

これを誰がやるのかというと学校ではなく、地域であり家庭であります。これができるのはロータリークラブではないかと思えます。実は教育改革国民会議というのは長い間まとまらなかったのですが、これをまとめたのが東京クラブの牛尾会長でした。しかし、言うだけでは駄目なんです。牛尾さんは実際に行動を起こしていました。40名のチャンピオンを同友会で決めて講師として学校に派遣して議論したり、話をしたりしてとても好評だそうです。ロータリークラブが地域社会で教育委員長さんと相談してそういうことができたならこんなにいいことはないと思えます。そこで同期のガバナーが集まってこれをしようということになったのです。そして文部科学省の生涯学習政策局を訪ねロータリークラブと組んでやりましょうという話をしてきましたら、是非やってくれとのことでした。そしてガバナー会の中に青少年育成委員会を立ち上げました。

ところが、埼玉県でも津田さんというパスト・ガバナーがすでにやっているのです。そこで、課外授業に行く人のリストが出来ていて、その人の職業から何を話せるかを書いてあるのです。人材はたくさんいます。私共2580地区を中心として、東京と沖縄で地区の青少年育成委員会を立ち上げました。

具体的なタスクフォース

ガバナー会の中で4つのテーマを決めました。1つは学校へ講師のリストを出すということです。2つ目は子

供達に職場体験をしてもらうよう職場のリスト出すことです。働く喜びを教えることです。3つ目は前述の2つ以外で地域で活動していることをそのまましようということ。スキーの好きな子とか野球の好きな子は放っておいてもやるのです。

学校へ橋渡しをする役をロータリアンにやってほしいのです。学校評議員制度にも入っていこう。今年から週5日制になったことから、学校は地域と協力しようという感じになってきました。それと総合学習という制度になりました。それは今まで教科別に教えていたのがひとつのテーマで勉強しようというものです。例えば英語の先生が社会や科学を教えるというのは難しいですね。そこへロータリアンが色々なお手伝いをするというわけです。このような活動を来年の新学期には間に合うようにしたいと思っています。近く文部科学大臣にお会いしてロータリークラブとしては12万人のロータリアンがしっかりと教育改革をサポートしますよと言ってこようと思っています。それから記者会見をしてロータリークラブをアピールしようと思っています。

いままでアピールしてこなかったが、第一アピールするようなことをやってこなかった。ニュースになるようなこともやってこなかったが、育成問題については、期待しています。付け加えれば、若いお母さんを指導してもらえないか。これは家庭の問題なわけですが、小林さんは家庭奉仕委員会を作っただけでやっているんです。是非伸ばしてやって下さい。



B. 質疑

小林 ありがとうございます。質問はありますでしょうか。

食の教育を



中川 札幌手稲クラブの中川と申します。私は今年から始まった中学校の総合学習で食の安全について、計6回の講演を頼まれました。そこで私は命の教育をしてきました。一番大切なのは命なんだと。その命を育むのが食なのだということを話しました。化学物質や添加物のことも話しました。すると問題があるといわれる子供達が目を輝かせて聞いてくれました。「食の教育」を是非ロータリーでして頂きたいと思えますがいかがでしょうか。

前川 講師をしていただける立派な方はいっぱいいらっしゃると思いますので、派遣するように、是非ご協力頂きたいと思えます。

クラブの自主性との関係



斎藤 室蘭クラブの斎藤でございます。前川ガバナーのお話大変感銘を受けてお聞きしました。ただ、ロータリーのガバナー会で教育改革をしよう決めて全国のロータリーに流すという、トップダウンの発想はボトムアップとちょっと違うのではないかと思います。教育改革は私も必要だと思いますが、それは各地のクラブが自主的に考えてやろうというのが筋であって、日本のロータリークラブのガバナー会で決まったから教育改革をやろうというのはいかがかと思えます。もうひとつは、ロータ

リークラブというのは教育改革の問題も含めましてあまり社会改革に団体としてあつた経緯はないと記憶しております。そういった点では教育改革は10年、20年またはそれ以上に長くかかる問題だと思いますので失礼ではございますが、社会改革をやったことがない組織体がこういった問題に取り組むのはちょっとやり過ぎではないかと感じております。もし本気でやるのであれば、もっと専門的な組織あるいは団体を作って基本的にきちっと考えてやるべきではないでしょうか。従来のようなロータリーではいかがでしょうか。

前川 では具体的にどのようにしたらよいのでしょうか。このままほっておいていいのでしょうか。

斎藤 ほっておくというわけではなく、もっと真剣に教育改革を考える人達が地域で立ち上がってそれぞれの組織を作りその連合体を作るといういわゆるボトムアップをしていかなければ本当の意味で教育改革にはならないし、ロータリーの精神であります職業奉仕といいますが、それぞれの会員が自分の背中を見せることによってまず子供達を立派にしていくという努力を会員がそれぞれにしていくべきだと考えます。

前川 誰がやるのでしょうか。

斎藤 それはロータリーの会員がやるべきだと思います。

前川 会員はほっといてもやりますか。

斎藤 ほっといてというかそういう自覚がなければとてもロータリークラブとしてのエネルギーにはならないと思います。

前川 理想論だと思います。まず現実から離れていると思います。ガバナー会で相談をし、それから各ロータリークラブの会長さんに相談をし、皆さんの賛同を得てからスタートしようとしています。ですからおっしゃっていることと似ていると思うのですけれども、会長さんの賛同があってやっているということです。

適切な人材の発掘を

富岡 札幌西北クラブの富岡と言います。今の論議についての感想です



が。職業奉仕とはロータリー以外の人にロータリーの心を分かつことであると解説されています。私のクラブは50名ほどのクラブであり、RIは雲の上の存在です。ですから一般会員の私には何もわからないのです。それが現実であると思います。ロータリー以外の人達にロータリーの心を分かつというけれども、RIがロータリー内部にロータリーの心を分かち合っしてほしいというのが最初の願いです。ポリオについても今改めて言われても124万人の会員にはわかりません。しかし、寄付について誓約せよとはどういうことでしょうか。

前川ガバナーの教育についてのお話に啓発を受けました。教育の現場に多種多様な専門業種の人達を派遣してはどうかということを検討しております。たくさんの名簿を作って市民に役立つようなことをしていきたいと思っています。室蘭クラブの方のお話も良くわかります。教育というのは特殊なそして我々にとって難しい分野であると思いますので、教育分野に派遣するにはまず第一歩として教育界の方々がロータリアンに何を求めているかを調査しようと言っています。

前川 ものを頼んでおいて誓約とはとんでもない話でした。人材はたくさんいますが、ただ講師を派遣すればよいわけではなく、選出するときも充分検討する必要があると思っています。また、学校との橋渡しをしてもらう評議員も充分検討して選出すればすばらしいものになるのではないかと思います。

祖国愛の育成を



吉本 深川クラブの吉本でございます。前川ガバナーが提言された教育問題はすべてその通りだと思います。ただ、ひとつだけ付け加えたいことがございます。我々のロータリークラブは国際ロータリーの一員であると同時に日本のロータリークラブであるわけですが、「御国に捧げよ我ら

の生業」のようにの気持ちを大切にしたいと思います。日本は国際社会におきまして犯すことなく、また犯されることなく独立国として毅然として立たなくてはなりません。そのためにはどんな日本国ではならないのか、どんな日本国を作らなければならないのかということに関心が寄せられてしかるべきだと思います。日本国のありようを考えると、臆病であってははいけません。次の世代にもこのことが教えられ、伝えられなければならないと思います。先に掲げられました5つの教育目標に加えまして6つ目にこのことを掲げたいのですがいかがでしょうか。

前川 貴重なご意見だと思います。いまご指摘のことが日本の教育に欠けています。日本の教育基本法は昭和22年に作られたものです。明らかにGHQが日本が二度と立ちあがらないようにと作ったものです。これはアメリカにもっていてもヨーロッパにもっていても通用します。しかし日本の味がしないのです。日本人には日本のメンタリティーがあるわけで、日本の伝統がなくなったらだめなのです。教育基本法を考え直し、これをナショナリズムと言わないで、まず自分の地域、自分の職場、自分の郷土、自分の会社を愛する気持ちをもとうと言いたいのです。

小林 ほかにありますか

自らの経験から



谷口 札幌東クラブの谷口でございます。総合学習を経験いたしましたのでそれをお話したいと思います。昨年からは日本全国、北海道を除いたところでエネルギー、環境に関する総合学習をして下さる方を募りました。約20名が集まって小、中、高校ですべてにおいて学習をするという方が集まりました。事前に全員が集まりまして3日間講習をいたしました。どういことをやろうかと話し合い、ご自分がすることをリハーサルし、専門化のアドバイスを受けました。私自身大学で教えた経験はありますが、高校には初めてでした。やはり

その内容も大切ですが、人選も大切だと思えます。私どもの方では講師の名簿もすでに出来ております。

家庭からみつめよう



和田 札幌南クラブの和田と申します。家庭教育におきましてはロータリアン自身が手をつけてもいいのではないかと確信を持ちつつあります。まず、われわれは家庭教育のあり方について勉強してまいりましたが、家庭内のコミュニケーションの取り方について特に勉強してまいりました。コミュニケーションの方法によって実際に不登校になった子供達が僅か1~2カ月の間の勉強で立ち直っていくという例をたくさん聞きました。やり方次第では効果的なことができるのだと確信をもちました。

私自身の経験でも小学3、4年生の講義をガバナーから頼まれ、「皆んな仲良く家庭のこと」というテーマで不安に思っやってみたが、家庭奉仕委員会でのほんの僅かの勉強が役立ったのか、子供達も真剣に聞いてくれ、大きな喜びを得ました。



評議員にロータリアンを



奥貫 札幌東ローターの奥貫でございます。北海道の教育の現状を聞くために北海道教育委員会へ行ってきました。学校評議員ですが、212ある市町村の中ですでに実施しているところは53市町村でした。小中学校は2,202ありますがそのうち426校が実施しておりました。まだまだこれからだとおっしゃっておいりました。評議員は1,887名いらっしゃるそうです。その中でロータリアンとして登録されている方はいらっしゃらないようです。自治会関係者が20%、

社会福祉法人関係者が18%、保護者が17.6%でした。小中学校を担当する組織がこの地区で現存していません。全国でもそういう地区が多いと思いますが、そういう問題をどうクリアしたらよいかお聞きしたいのです。

小林 最初に質問を受けて後で一括してお答え頂きましょう。次の質問をどうぞ。

ロータリアンこそ協力を



土橋 札幌南クラブの土橋です。実は私は札幌の教育長をしておりました。今年の7月に辞めたのですが。前

川ガバナーのお話をお聞きして感銘を受けました。ロータリークラブが連携をして全国的に教育改革の国の動きに協力をしようということ非常に力強く思います。問題はそれを教育委員会がどう受けるかということだろうと思います。そのためには、ロータリーにこういった人がいることを示すのが1つ大切なことでしょう。

21世紀教育プランという非常に具体的な国の方針を決めたものが新聞にでましたがなかなか国民には浸透しません。しかしロータリークラブがバックアップするということになれば大きな力になると思います。国を思う心、郷土愛といいましょうか、そういう心で子供達が育てられなければ日本の将来は心配です。

小林 では前川ガバナーお願いします。

前川 学校評議員会については確かに人選が大事です。準備をしておられたというのを聞いて感心いたしました。誰を派遣するかというリストを作ることが大変で、誰が見てもこの人ならという人を推薦することです。変な人を入れたことによるトラブルが起こるようではいけないのです。学校は地域の協力を得なければならぬということは学校もよくわかっています。ところが困ったときの受け皿がないということです。学校評議員をロータリークラブの会員としてさっきの2つのリスト（講師、

職場）をもって、こういうことをしているのだと示して頂ければいいのではないのでしょうか。

学校評議員は、現実にはPTAとか、町内会長とか単に地元の有力者というだけに入っているようですが、そうではなく、ロータリークラブをバックにした人に入ってもらう方がいいのではないのでしょうか。好意的なコメント有難うございました。

小林 研修リーダーの西條バスターガバナーに最後にしめのお言葉をいただけませんか。

西條 私の話したいことは、みなさんのお話で充分でしたので勘弁してください。

ロータリアンはこれから



小林 今日のフォーラムをお聞きいたし、アメリカ式のエキサイティングな討論を彷彿としました。有難うございました。それと、トップダウンも大切ですし、ボトムアップも大切ですが、ケースバイケースでうまくあわせてやっていきましょう。

それと言うだけでなく実行しましょう。出来ることから行動しようではありませんか。ビジョンよりアクションです。できることからやって下さい。

今日の皆さんの非常に熱心な討論を拝聴いたしまして、ロータリーは変わってきた、変りつつある、「ロータリーはこれからだ」という印象を強く受けました。本日はありがとうございました。



米山（地区幹事） 今日のお話はみなさん各クラブに帰って会員のみなさんにお伝え下さり、論議していただければ幸いです。

※参考：本誌P7・8のガバナー日記「学校教育を支援しよう」を参考にして下さい。

好評

『地区会員名簿』一早くも増刷



『第2510地区会員名簿』が完成し、すでにお手元に着いているかと思えます。当初、2200部印刷いたしましたでしたが、購入希望が予想より多く、結局300部増刷いたしました。みなさまのご理解、ご協力本当に有難うございました。

ただ、初めての『会員名簿』ということもあり不備なところもあるように思われますが、次年度により良いものを作っていただけと考えております。なお、増刷分に若干の残部がありますので、ご購入ご希望の会員はクラブを通じてガバナー事務所までお申し込み下さい。

地区の活性化につながる『名簿』

加藤國彦（札幌東RC）

ガバナーの強い方針で発行された『地区会員名簿』は、当クラブに於いても数回の理事会を開いて検討し協議したところであったが、最終的には地区内全体の動向、役員メンバーの意志を十分尊重する形で会長一任を決定し、自宅住所を入れない条件で賛成したものでした。

結果的には地区内の圧倒的多数クラブが賛成に廻り、踏切ったものと思います。ただ地区内の大手2クラブが、会員の同意が得られないとして掲載できなかった事は残念でありました。顔写真付きの『会員名簿』は、会員同士の親睦に寄与するだけでなく、地区内会員の結束をすすめ、それがきっかけとなって活性化につながると思うし、地区内の3,000人を超える会員ができるだけ知り合いを深めるための手段として、大いに活用すべきものと思います。

プライバシー侵害の件は、全国版『全日本ロータリー会員名簿』の例もあり、ロータリアン相互の親睦と活動促進のために資することで、その保管管理は慎重にし、自己責任を尽く

すことにより取り除かれるものと判断します。

いずれにしてもロータリー活動を通して、趣味のロータリアンを題材として写真の奉仕活動に専念している私にとっては、この上ない『名簿』であり大切にしたいに活用させていただく所存です。



地区活動 紹介

ロータリー財団地域 セミナーに参加して



補助金委員会

委員長 伏木忠了

11月28日大阪国際会議場12階でロータリー財団地域セミナー（Zone1、2、3、4A）が開催されました。全国から150余名の方々が参加され、R1、2510地区からは、小林ガバナー、佐藤ガバナー・エレクト、森本地区財団委員長、それに地区補助金委員長は、補助金制度が改正されますので必ず出席するようにとのことで私も出席致しました。

ロータリー財団管理委員長グレン・キンロス氏は挨拶でロータリー財団は、活動する資金が不足して危機的な状態であるが、世界中の貧困や飢餓を減少させなければ世界平和は達成されず、教育こそ繁栄のものであり、世界平和は教育を通じてもたらせると財団への寄付を要請されました。

玉村ロータリー財団管理委員の基調講演、RRFC（ロータリー財団地域コーディネーター）の方々から、ロータリー日本財団の設立とポリオ撲滅キャンペーン、ロータリー財団の現状等が説明されました。

補助金関係は次の通りです。

- ① 奉仕活動を充実させる為には、その資金面での援助も必要となります。奉仕活動と資金調達は車の車輪である。
- ② DDF（地区財団活動資金）の趣

旨をふまえ無駄なく使い切る事をお勧めします。地域社会奉仕や国際社会奉仕の強化の為

③ 補助金の複雑な申請や手続きが簡素化されます。ロータリー財団主要なルールの変更と留意点として

1) DDFの用途を決定するには、現在は5人の地区指導者で行っていましたが2003年7月1日より地区財団委員長一人の署名でよくなります。

2) ロータリー財団補助金は、その趣旨に沿って効果的に使われるものと信頼されますので補助金委員会の責務は重いと感じたセミナーでした。

～お問い合わせ～

R1 第2510地区
財団補助金委員会 委員長 伏木忠了
TEL 011-272-3911
FAX 011-272-3912

人道的補助金プログラム

2003-04年度から新しい補助金制度がスタートします。大きく分けて下記の3種類となり、従来のプログラムは廃止されます。

ヘルピング・گران

新制度	地区補助金	個人向け補助金	マッチング・グラント
旧制度	地域社会援助プログラム（CAP） ヘルピング・グラント 輸送補助金 新人道的補助金	ロータリーボランティア補助金 世界社会奉仕助成金	マッチング・グラント 輸送補助金

2002-03年度は満度期になるため、少し複雑ですので締切日を挙げます。

2002年12月31日まで	ロータリー・ボランティア補助金、輸送補助金、新人道的補助金、CAP、 トの申請受理最終日
2003年1月1日	地区補助金の受け付けが始まります
2003年4月1日	個人向け補助金申請の受け付けが始まります
2003年7月1日	新しい補助金制度がスタートします 承認された地区補助金の支払が始まります 個人向け補助金の承認が始まります マッチング・グラントの申請の受付を開始します

当地区の2003-04年度の人道的補助金は37,000ドルの枠があります。今までの複雑な申請ではなく簡単な要請書でしかも、地区の裁量で決められます。この補助金を有効に使って有益なプログラムを計画して下さい。

がん患者の多くは医学の素人である。医師からインフォームドコンセントがつくされ、「いずれの治療法をとりますか？」と聞かれても患者はすぐには答えられなかったり、さればとて「医師におまかせ」ともいえないことがある。主治医以外の医師からセカンドオピニオンを聞ける状況があればよいのだが、多くはどうしたらよいかわからずただ迷ってしまう。むしろ医師の方で決めてほしいともいいたいくなるだろう。こういうことを考えるとふだんから気軽に聞ける親しい医師がいたらよいと思う。がんに関していえば財団法人札幌がんセミナーの専門医は面接によるがん相談（予約電話011-222-1506）を無料にて行っているのが、がんのことなら主治医に尋ねにくいようなことなど、どんなことでも気軽にご利用いただければと思う。秘密厳守。



連絡先：（財）札幌がんセミナー

札幌市中央区大通西6丁目6 北海道医師会館6階

TEL：011-222-1506/FAX：011-222-1526/E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp/URL:http://www.phoenix-c.or.jp/scs-hk/

広告

米山奨学生 学友会総会を開催



米山学友委員会

委員長 見延庄三郎

今年度米山奨学生学友会（北海道）総会が12月7日（土）午後6時より札幌ロイヤルホテルにおいて開催されました。

当日は米山奨学生学友会より陳省仁会長他21名の正会員、そして伊藤長英（財）ロータリー米山記念奨学会理事以下6名の地区ロータリアン（賛助会員）合計27名の参加を得て、2年ぶりの総会、懇親会となりました。



今年度小林ガバナーのもと新設された地区米山学友委員会（見延庄三郎委員長）が、2002年度北海道米山学友名簿の追補作業を進めながら、学友会役員と今年度の学友会活動計画を討議策定し、総会開催の運びとなりました。

総会は齋田地区学友委員の司会により進められ、まず見延地区米山学友委員長より地区米山学友委員会新

設の主旨と委員会活動の内容、計画を含めた経過報告がなされ、地区の米山学友をサポートしていく米山学友委員会活動の理解と協力を求めました。続いて陳会長を議長に選出して議案の審議に入り、2002年度事業計画及び予算案を決定し、今期の役員改選を行い新役員を選出しました。

新役員は以下の通りです。

（会長）

陳 省仁（再任）台湾・北大教授

（副会長）

ゴールマン・ボリス（再任）

ウクライナ・北大助手

黄 真恵（再任）

日本（元中国）・札医大・医局

（幹事）

汪 志平（再任）中国・札大・教授

石 龍潭（新任）中国・北大院生

（監事）

王 秀峰（再任）

日本（元中国）・北大講師

総会終了後、懇親会に入り高橋米山学友副委員長の司会進行により楽しい懇親交流のひとつきを過ごしました。伊藤米山記念奨学会理事と米山地区幹事の祝辞の後、宴に入り出席者の自己紹介があり、美味しい料理に舌鼓を打ち、高橋名司会者による軽妙なクイズタイムに頭をひねったり、爆笑したりと交流懇談の時間もあっという間に過ぎ実のある懇親会となりました。次回5月の小樽での親睦会での再会を約束し散会しました。



第3回 委員会報告



財団学友委員会

日 時：平成14年12月6日

午後6時～

場 所：札幌市豊平区

豊平4条西1丁目

札幌ルネッサンスホテル

参加者：鍋谷、橋本、山崎、桃井、中島、

ガバナー事務所：米山地区幹事

オブザーバー：財団学友会の役員

（岡、白畑）

I. 委員長の挨拶

地区大会へのご協力に感謝いたします。今日は新年1月25日に予定されている帰国学友報告会について、具体的にご審議を御願いたします。

II. 報告事項

- 1) 地区大会への学友参加とパネル展示の実施。学友会の努力に感謝
- 2) 帰国学友報告会に関する学友会との非公式打ち合わせ。一地区大会に参加した学友委員会の委員と財団学友は帰国報告会について、意見交換を行った。
- 3) 学友会賛助金の払い込み状況について学友会から報告があった。

III. 審議事項

- 1) 帰国学友報告会の詳細について
 - a. 式次第（プログラム）の打ち合わせで以下のプログラムを決定した。

報告会の部（午後4：00～5：50）

司会進行係……財団学友委員会
中島委員が担当する。

1. 開会の挨拶
…財団学友委員長 鍋谷 操子
2. 帰国学友の報告…第一部（個人報告）
3. 帰国学友の報告…第二部（座談会形式での報告）
4. 帰国学友の報告…第三部（GSEチーム報告）
5. 講 評…

ガバナー 小林 博

- 6. 閉会の挨拶…地区ロータリー
財団委員長 森本 正夫
- 懇親会の部 (午後6:00~7:30)**
司会進行係…財団学友会で担当する。

1. 開宴の挨拶…
財団学友会 会長 岡 宏幸
2. 記念品の贈呈…
学友会から報告会発表者へ
3. 乾 杯…
地区国際親善奨学金委員長
土橋 信男
4. 会 食
5. テーブルスピーチ…
参加者の皆さんから
6. 閉会の辞…
地区GSE委員長 山名 善久

b. 報告する新学友名の確認

国際親善奨学生学友は現在まで5名が確定+αを折衝中。GSE学友についてはチームリーダーの星野さんから3名でCDによるチーム発表を用意しているとの報告を受けている。

c. 報告会開催案内書の作成と送付

12月20日を目途に案内を送付する。送付をガバナー事務所へ御願います。

又、出欠についての連絡先はガバナー事務所とする。

送付先：*地区内全クラブのロータリー財団委員長宛 *地区財団関係委員会委員長宛 *米山学友委員長宛 *ガバナー・エレクト事務所宛 *ガバナー・ノミニー宛 *報告する財団学友のスポンサークラブ会長宛 (学友については学友会がとりまとめる)

d. 懇親会のメニューについてホテル側から説明を受け、承諾をした。又、当日の会費を5,000円に決定した。

e. 報告会・懇親会の会場、テーブル配置などを確認した。

楽しみました Rotex企画 クリスマス パーティー



青少年交換委員会

委員長 清水 慧子

12月17日(火)に札幌東RC齋藤・札幌南RC阿部、両Rotexの企画によるクリスマスパーティーを開催しました。このようにロータリークラブではなくRotexによる企画・運営のイベントは今までなかったそうなの



で、これからもロータリーから与えられるばかりのRotexではなく、自ら動くRotexになりたいと思います。

パーティーは帰国の迫ったオーストラリアからの留学生へのプレゼント、派遣候補生への現地でのパーティー慣れを趣旨に行いましたが、候補生は少し戸惑うのではと思っていたのですが、留学生に負けず劣らずダンスまでして楽しんでいました、頼もしいものです。

開催にあたりまして、キクヤ楽器菊池様、青少年交換委員会様をはじめ皆様多大なご協力ありがとうございました。

お知らせ

国際ロータリー第2510地区 帰国財団学友報告会の御案内

平成14年12月吉日

地区財団学友委員会 委員長 鍋谷 操子
地区財団学友会 会長 岡 宏幸

記

日 時：平成15年1月25日(土)
午後4:00~

場 所：札幌市豊平区豊平4条1丁目
札幌ルネッサンスホテル
3Fオリエンタル

会 費：5,000円(当日申し受けます)

報告会の部 (午後4:00~5:50)

1. 開会の挨拶…
財団学友委員長 鍋谷 操子
2. 帰国学友の報告…第一部
(個人報告)
3. 帰国学友の報告…第二部
(座談会形式での報告)

4. 帰国学友の報告…第三部
(GSEチーム報告)

5. 講 評…

ガバナー 小林 博

6. 閉会の挨拶…地区ロータリー
財団委員長 森本 正夫

懇親会の部 (午後6:00~7:30)

1. 開宴の挨拶…
財団学友会 会長 岡 宏幸
2. 記念品の贈呈…
学友会から報告会発表者へ
3. 乾 杯…
地区国際親善奨学金委員長
土橋 信男
4. 会 食
5. テーブルスピーチ…
参加者の皆さんから
6. 閉会の辞…
地区GSE委員長 山名 善久

思い出つくれた 交換留学生送別会

青少年交換委員会

委員 山内哲郎 (上磯RC)



12月15日(日)午後4時から渡辺淳一文学館で、交換留学生の送別会を開きました。挨拶につづいて、学生のスピーチ、パフォーマンスなど盛り沢山の内容でした。

帰国学生のパフォーマンスは、一年間に日本で学んだ得意なもの、習字・茶道・カラオケ・着付け等々、日本人顔負けのお手並みでご披露され、なおかつ全員参加のストーリーもあるという素晴らしいものでし

た。子供たちにとって、有意義な一年間であったことと思います。

受入クラブ・ホストファミリーの皆様が支援があつての事でございます。大変ありがとうございます。残り僅かになりました日本での生活、楽しく過ごされますように！



年次寄付などのお願い

ガバナー 小林 博
ロータリー財団委員会委員長 森本 正夫
財団増進委員会委員長 若狭 吉範

明けましておめでとうございます。本年も何卒ご厚誼の程よろしくお願い申し上げます。

新年早々早速ではございますが、先に貴クラブから申告いただきました財団への年次寄付・恒久基金・使途指定寄付(ポリオ撲滅募金を含む)の昨年12月末までの申告額一覧表は別紙にてお知らせの通りです。すでに相当額お納め下さったクラブもありますが、まだご納付いただけないクラブもあります。クラブによっていろいろのご事情があることは承知しておりますが、何卒ご理解とご協力をいただきたくよろしくお願い申し上げます。

財団に寄付したものがどのように使われているか教えてほしいとの質問が会員の方からありました。これにつき

ましては、本誌にて何度かご紹介してまいりましたが、まだ必ずしも全ての会員に周知徹底できたとは考えておりません。私たちは今まで従来クラブ内で寄付を募り、これをRIのロータリー財団に送金することで我々の役割が終了したと思いがちなのですが、この寄付された浄財がロータリー財団に入金された後にどのように実際の奉仕活動に役立てられるのか、ということを知ることが確かに大切なことであると思われま

す。ご存じかとは思いますが、今年度寄付されたお金は3年間RIの方で利殖のために運用された後、50%はRIの主宰する国際的奉仕に利用され(WF)、残り50%は寄付された各地区に還元されて、地区及び地区内各クラブの自主的

な奉仕活動に役立てられることになっております(DDF)。従つてわれわれの年次寄付も、各クラブは寄付することで終わりではなく、還元されたお金をいかに有効に使うかに目を向けていく必要があると思います。われわれロータリアンはこの浄財を有効に活用して人類のために奉仕する権利と義務を持っているといえるでしょう。そのための詳細なプログラムやルールについては別途説明申し上げるとして、是非このようなロータリー財団の仕組みを会員のみならずPRして頂き、年次寄付へのご協力を切にお願いする次第であります。

格段のご配慮をよろしくお願い申し上げます。

お問い合わせは... カーメンテナンスのトータルショップ

カーコンビニ倶楽部

(株) 北大モータース

〒001-0018 北海道札幌市北区北18条西5丁目20番地
営業時間 8:30~20:00 日曜日営業

Tel.011-747-1190
Fax.011-737-3329

■もちろん、カーコンビニ倶楽部の当店で整備・保険も受付けております。

★ご注意★
1. 最高空高を伸上げる際は、最高空高に達する時間が必要になります。2. ABS付一級金庫は、1ヶ所のみで最大20cm×20cmの内部の寸法・へこみに対する修理費等から延長したまでの目安時間です。修理費用の額率等によっては、これ以上の時間がかかることがあります。3. 取壊車・特殊車種・特殊な塗装等は別途で決まらなければなりません。4. 内装塗装・フレームなどの修理が必要な大きな事故車の修理は、48時間金庫の範囲を超えるので別途見積りさせていただきます。



CK-2011-1-30000-0210-HO

クラブ活動 紹介

青少年健全育成 啓発の看板寄贈

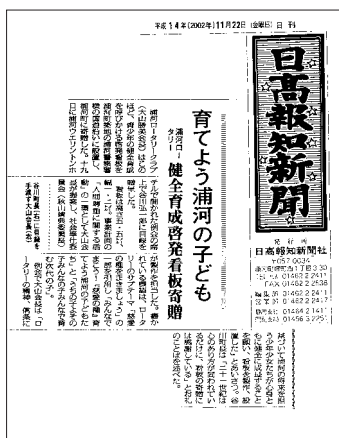


大山勝美（浦河RC）

人間形成の基本である知育、徳育、体育、この事に親も子も又、日本全体が大きく目を見開かなければならないほどの危機的な時代に変貌してしまいました。

私達はその事を重大に受けとめて、次代を担う少年少女達が心身ともに健全に成長する事を願いそれに係わる、啓蒙看板塔を作成し、浦河町内の国道沿いに設置致しました。

この行為が目的の一助に成れば幸いです。



粗食デーから マウスパット



久住八郎（栗山RC）

10月29日会員から、学童の自転車通学用ヘルメットの数が不足しているのではないのか、問い合わせがあり、いぜんにロータリーで児童の安全のために、ヘルメットを寄贈していましたので、教育委員会に確認に行きまして、お話をお聞きしましたら、現在は児童の減少とスクールバスの利用でヘルメットの数はたりていますとのことでした。



出来れば、今年小中学校に150台のパソコンを導入しましたが、マウスパットがないとのことでした。150枚のマウスパットとなると、予算がないので、色々と思案をしまして、土谷新世代委員長に相談しましたら、毎月1回やっている、粗食デーのお金を使用できないだろうか、さっそく理事会に審議していただき、快く承諾をいただき、業者の協力もあり、11月11日に教育委員会に寄贈できました。ロータリーのメンバーが食事を節約して、買ったマウスパットなので大事に使用してくださいとお願いしてきました。町内の5校から感謝の手紙が届いております。150粒の慈愛の種がまかれ、やがて一輪、一輪、と花が咲くことをねがっています。

栗山ロータリーメンバー そば打ちに挑戦

11月26日午後5時すぎ北海道電力栗山営業所二階に前掛け姿なんとふつりあいなスタイル、粉を練る姿、



お互いに、見て、……でもそば打ち名人葛西雅洋氏の指導がよく皆さん段々と気合いが入って、一生懸命そば粉をこねあげ今度、のばす時は思うように、ゆきませんが、あだこうだといいながら何とか、切る段階に自分の分は自分で切るように太いのやら細いのやら、何とかゆでるまでに、200ボルトのクッキングヒーターの威力はたいしたもの、すぐにゆであがる。冷たいそばには冷たいそば用のタレ、あついそばには熱いそば用タレが用意され、女性会員のきざんだ栗山ネギをたっぷりかけて、また色々の話しをしながら、そこへ川崎ロータリークラブから白井勇会員がメイクアップに来られ、また話しの輪が広がって、楽しい、楽しい、移動例会でしたが、おいしいので食べ過ぎた会員もいて大笑いでした。来年は男の料理教室を考えているかも？



栗山のロータリーメンバーは色々と考えて、いろんなことを実行しています。これがボトムアップかもしれません。会員一人ひとりが考え行動する。これも小林ガバナーの指導力のお陰様と思っております。

創立10周年記念事業 ふれあい親子収穫祭 & 一日体験学習・ 交流会



大森和子（江別西RC）

江別西RC創立10周年記念事業の一環として、平成14年9月1日、透き通った青空の中、市内の幼稚園児を中心に「ふれあい親子収穫祭&一日体験学習交流会」が開催されました。一般募集した子供たち、お父さん・お母さん、高校生ボランティアそして、会員の総勢170名が、当クラブ会員でもある「徳永農場」へ向かいました。

農場では、とうきび、ジャガイモ、大根などの収穫を、会員とともに顔も手も土だらけになりながら、一生



懸命に掘り起こし、汗だくになりながら、用意した袋いっぱい感動と一緒に詰め込み収穫致しました。

収穫後、町村牧場（農場）へ場所を移動、ジンギスカンとともに収穫してきたとうきびなどの野菜を焼き、みんなで楽しい昼食をとりました。



昼食後、体験学習・交流会では「親子で作るアクセサリ、凧作り」

等などを行い会員そして、会員の奥様なども手伝っていただき、子供たちにアクセサリや凧の作り方等を指導して頂き、楽しい一時を過ごしました。交流会、最後のイベント「親子丸太切り競争」ではお父さんと（中にはお母さんもいました）チームを作りまるで運動会のリレー競技のように応援も盛り上がり勝っても負けても汗いっぱい、大満足のゲームを行いました。



次世代を担う幼児たちに作物を慈しむ優しい心の育成、そして、郷土愛を育む記念事業と成ってくれたことを会員一同共感し、感動の一日をおえました。

「ロータリーとは」 を全戸配布



大針道生（浦河RC）

浦河RC広報委員会はこのほど「ロータリーとは」を作成しました。これは12月5日、町「広報」と一緒に浦河町全戸6,800世帯に配付されます。



女性へのさらなる 門戸開放を



杉本由子さん（第2750地区女性委員会元委員長）を囲む会より
土橋信男（札幌南RC）

東京神宮ロータリークラブの第4代会長を務め、第2750地区の女性委員会の初代委員長として、ロータリー女性会員の増強のために活躍されてきた杉本由子さんが、12月初めに札幌を訪れるという杉本さんと知人である高島英寿会員からの紹介による耳寄りの情報に、このことに興味を持つ有志の方々に集まっていただき、またガバナーにも参加をさせていただいて、活動の内容についてのお話をうかがった。

全国でも初めての委員会である女性委員会は、1998年度の国際ロータリー理事会が採択した「女性のニーズとその向上に関する7項目の声明」（1998年度手続き要覧p.72）を受けて、女性の地位向上と女性会員の増強を二大目標にして2000年度に設置され、これまでの活動を行ってきたとのことでした。



東京神宮RCの杉本由子さんを囲んで
前列左 大田すみ子（札幌北RC）
前列右 戸部アナマリア（札幌はまなすRC）
後列左から 米山道男（札幌北RC）、
高島英寿（札幌南RC）、角掛晴雄AG、
小林博G、土橋信男（札幌南RC）

最初に行ったのは、小冊子を作成して女性会員不在クラブへのPR、次に全クラブに対して女性会員に関するアンケート調査、「女性会員の集い」の発足、また積極的に女性会員不在のクラブを訪問して卓話や対話などにより広報活動を行って、会員増強活動に努力されてきたとのことでした。

そうした活動により、女性に対する偏見が少しずつなくなり、大反対をしていた会員が逆に女性会員の強力な味方になったりなど、成果があったとのことでした。

その結果、女性委員会発足時には2750地区の女性会員は163名（会員の3%）であったのに、次年度には262名（4.6%）に増え、本年度は303名（5.6%）と全国で最高の女性参加率となったとのこと（ちなみに、全国平均は2.5%、そしてわが2510地区は2.6%）。

女性会員についてのアンケートの結果は興味のあるもので、第2年次のレポートにその詳細な結果が示されており、紙幅の制限からここで紹介できないのは残念ですが、興味のある方は地区のホームページに全国の女性会員の加入状況一覧表と併せて掲載を依頼しますので、そちらをご覧ください。

本業は130年続いた芳翠園（銘茶販売）の代表取締役という杉本さんは、極めて歯切れよく明快に女性会員の問題について語られ、女性だから入会を勧めるのではなく、そのクラブに相応しい人であれば性別を問わないというのが男女共同参画社会のあり方ではないかと問題提起をされ、日本の女性会員の参加率は世界ではまだ41位と発展途上国並で、これからも地区としての女性会員率の目標（10%）の達成に向けて努力をしたいけれども、本当は女性委員会が無くなるのが理想ですと、翌日の札幌幌南クラブの例会の卓話でも語っておられました。

広げよう 053のまち



中野孝一（苫小牧東RC）

苫小牧東RC（児玉和雄会長）が環境保全標語として市内中学生13校から募集した232作品の中に、「かんばんにいつわりなし053（ゼロごみ）」



の町」と郵便番号を取り入れた標語があり、このアイデアを全国に広めようと、苫小牧市環境衛生部と共同で市内5カ所の公園に看板を設置した。その除幕式が11月23日に開かれた。〒053は全国でも苫小牧市だけ。「ゼロごみ」の町として全国に発信しようと、市をはじめ郵便局もこれからの啓蒙活動にいろいろと企画を考えるとのこと。当時はNHKや新聞各社の報道陣も大きくとらえ、優秀賞受賞者14名の中学生たちも鼻高だかであった。



野口光二さん 「エベレストの 思い出」語る



中野孝一（苫小牧東RC）

隣町鶴川町でたんぼぼクリニックの院長で54歳で今年5月末に世界最高峰のチョモランマ（エベレスト8848m）登頂に成功した野口光二さんによる帰町後初の講演「エベレス



トの思い出」が12月12日開催された。苫小牧RC（児玉和雄会長）が例会500回目（当日）を記念しての企画で、一般市民に無料で開放した。会場のグランドホテルニュー王子にはほぼ満席の200名の市民が来場。野口光二さんは当時着ていた登山服や



道具をもったの登場、登山ルートなどスライドを用いながらユーモアタップリに説明した。



会員の声



心の支え—— 米山記念館に思う 高塚信和(千歳セントラルRC)

米山記念館との出会いは91.10米山月間を迎えるにあたり、8月ごろより「米山って何だろう？」と言う疑問から出発した。我クラブは90.11.19創立され、たまたま私が初代会長に推挙されたことに帰依する。たまさかTVで米山梅吉物語が放送され、会員の一人がダビングをしたことでクラブ例会に持ち込み放映。誰ともなく『日本のロータリーの父』と言われる米山記念館を訪ね、検証、研鑽しようではないか。と言うことでチームワークよく所管の長泉クラブに手続きを行い、まさに時は熟しました。(第1回14名の訪問団)

初めて訪れたとき、長泉クラブ米山晴雄氏(故人)石垣恭弘氏ほか多数の会員のお世話をいただき米山翁の墓所で線香を差し上げ深い感銘を覚えました。以来毎年10月になると訪問することが習慣化され恒例行事となりました。私が最初に訪れたときの印象のメモがあったので、その感想をみると、入口の側にある米山

翁が作られた俳句の石碑「いさかいもなき漫々の青田かな」に驚き、記念館に隣接している「田んぼ」は漫々と水を張りあたり一面黄金色の稲穂が漂い、いにしえを感じ得ました。ついで記念館の中に入ると「会館が狭い」「文献が整理不備で、汚損、破損して展示室が見づらい」このときにいずれ規模を大きくして見易い展示室が必要と痛感した。記念館の前庭に米山翁が大変好んだ「亀舌蘭」の葎が100年に一度咲くと聞き又々驚きました。訪問回数を重ねて94.9.17財団法人米山梅吉記念開館25周年記念式典に我クラブ20名の会員の出席。その宴席で「東遊吟情」を謳ったのが懐かしくも思い出の一ページを飾ることが出来、その席上で新記念館着工に向けての100万円の寄付を行い、東京RCをはじめ一同に驚きを与え、後の新記念館完成への火付け役を演じた分です。

米山翁の好きな木に、名前の如く「梅」の木であることを長泉クラブの皆さんに伺い、石垣恭弘氏のお世話で庭園に植樹し、今や新館玄関横に植え直しを行い今年も沢山の梅が取れたことでしょう。記念館は昭和44年に開館し米山翁ゆかりの人々や沼津北、沼津、三島、伊豆長岡の各クラブ会員有志を中心とした近隣11ク

ラブの協力や地区内外の方々のご支援あって維持運営されたと聞かすが、昭和59年長泉RCが結成され地元クラブとして積極的な努力の結晶で今日に及んでいます。地元クラブとはいえ長泉クラブ会員諸氏にその偉業をたたえ衷心より感謝する意を表するものであります。我クラブも6年前に長泉クラブとの間に友好締結をし、現在も相互訪問を行い友好の輪が続いております。ロータリーの友情を確認するとともに深い親睦のきづなを21世紀に向けて発信しております。

新記念館も完成した今日、国内外ロータリアン、米山奨学生等沢山来館され、米山梅吉翁の遺徳をしのび後々までその偉業を顕彰していきたいものです。私は今、静かに筆を終えるにあたり、やはり私にとって米山梅吉記念館は心の支えであり、故郷であると実感するものであります。



ビチャイ・ラタクル R I 会長の説かれる愛。
わたしの主張するフレンドシップ。
そして、ヒトと環境の調和。

吉本 勲 (深川RC)
神経科 吉本 病院
TEL 0164-22-7130 (代)

広告

クラブ年会費など一覧表

クラブ毎の入会金、年会費、ビジター料金がどうなっているかを知りたいと要望があり、各クラブのご協力をいただき一覧表を作ってみた。このような資料を公表することの是非が問われると思うが、寛容の精神でお許しいただきたい。年会金など出来るだけ低額であることに越したことはない。(編集委員会)

G	クラブ名	入会金	年会金	ビジター料金	G	クラブ名	入会金	年会金	ビジター料金	
1	深川	30,000	161,000	1,500	6	小樽南	80,000	170,000	2,700	
	羽幌	20,000	140,000	2,000		小樽銭函	30,000	180,000	2,500	
	妹背牛	20,000	120,000	1,500		蘭越	10,000	120,000	1,500	
	小平	10,000	120,000	1,500		余市	20,000	130,000	2,000	
	留萌	20,000	140,000	1,500		千歳	70,000	160,000	昼 2,500 夜 4,000	
2	赤平	20,000	140,000	1,200	7	千歳セントラル	70,000	160,000	昼 2,500 夜 5,000	
	芦別	20,000	140,000	1,200		恵庭	70,000	160,000	昼 1,500 夜 3,500	
	砂川	50,000	140,000	2,000		北広島	70,000	180,000	2,500	
	滝川	70,000	140,000	2,000		長沼	30,000	132,000	1,500	
3	美唄	30,000	160,000	2,000	8	由仁	20,000	140,000	2,000	
	江別	50,000	150,000	2,000		えりも	10,000	120,000	1,500	
	江別西	30,000	150,000	2,000		三石	10,000	90,000	1,500	
	岩見沢	30,000	150,000	2,000		様似	20,000	120,000	1,500	
	岩見沢東	30,000	150,000	2,000		静内	20,000	150,000	1,500	
	栗沢	20,000	150,000	2,000		浦河	20,000	100,000	1,500	
	栗山	15,000	160,000	2,000		伊達	35,000	170,000	2,000	
	当別	50,000	150,000	2,000		室蘭	30,000	177,000	2,000	
4	札幌	150,000	220,000	3,800 軽食 2,800	9	室蘭東	30,000	149,000	2,000	
	札幌あけぼの	100,000	170,000	1,800		室蘭北	65,000	170,000	2,000	
	札幌はまなす	50,000	192,000	2,800		登別	30,000	150,000	2,000	
	札幌北	100,000	222,000	2,500		洞爺湖	20,000	120,000	2,500	
	札幌モーニング	70,000	230,000	3,000		10	函館	50,000	192,000	2,000
	札幌西	100,000	210,000	2,700			函館亀田	20,000	140,000	2,000
	札幌西北	50,000	190,000	2,700			森	20,000	150,000	1,000
	札幌手稲	100,000	192,000	2,700			七飯	30,000	160,000	2,000
5	札幌東	100,000	190,000	3,200	11		長万部	20,000	150,000	1,500
	札幌清田	100,000	200,000	3,200			江差	10,000	140,000	2,000
	札幌幌南	100,000	200,000	2,900			函館五稜郭	50,000	182,000	2,000
	札幌真駒内	100,000	184,000	2,800			函館東	50,000	192,000	2,000
	札幌南	100,000	220,000	3,500		函館北	50,000	182,000	2,000	
	新札幌	100,000	222,000	3,000		上磯	30,000	160,000	2,000	
	札幌大通公園	30,000	96,000	1,000		松前	0	120,000	0	
	札幌セントラル	80,000	120,000	1,800		12	白老	20,000	140,000	1,700
6	岩内	30,000	130,000	2,000	苫小牧		80,000	180,000	2,200	
	倶知安	20,000	120,000	2,000	苫小牧東		30,000	160,000	2,200	
	小樽	80,000	170,000	2,700	苫小牧北		30,000	160,000	2,200	

ロータリー財団寄付 年次プログラム自主申告額と実績額

2002年11月30日現在 (単位:米ドル)

	クラブ名	会員数 (7/1現在)	申告額	7/1~11/30寄付額*	達成率	グループ	クラブ名	会員数 (7/1現在)	申告額	7/1~11/30寄付額*	達成率
1	深川	46	5,100.00	8,353.50	61.05%	6	蘭越	18	1,600.00	0.00	0.00%
	羽幌	47	2,400.00	0.00	0.00%		余市	49	4,900.00	0.00	0.00%
	妹背牛	12	1,200.00	0.00	0.00%		小計	360	24,400.00	2,400.00	20.78%
	小平	15	1,300.00	800.00	61.54%		千歳	74	5,500.00	0.00	0.00%
	留萌	69	5,900.00	690.00	11.69%		千歳セントラル	33	2,600.00	0.00	0.00%
	小計	189	15,900.00	9,843.50	26.86%		恵庭	50	3,600.00	0.00	0.00%
2	赤平	37	1,800.00	0.00	0.00%	7	北広島	16	1,000.00	0.00	0.00%
	芦別	60	5,800.00	1,500.00	25.86%		長沼	18	2,400.00	0.00	0.00%
	砂川	61	4,100.00	0.00	0.00%		由仁	18	1,800.00	0.00	0.00%
	滝川	108	8,500.00	3,300.00	38.82%		小計	209	16,900.00	0.00	2.97%
	小計	266	20,200.00	4,800.00	16.17%		えりも	27	1,700.00	1,700.00	100.00%
3	美唄	48	2,500.00	0.00	0.00%	8	三石	20	2,000.00	0.00	0.00%
	江別	50	5,500.00	50.00	0.91%		様似	24	2,000.00	2,000.00	100.00%
	江別西	41	4,300.00	100.00	2.33%		静内	68	5,500.00	6,004.00	109.16%
	岩見沢	97	8,000.00	101.85	1.27%		浦河	41	2,500.00	0.00	0.00%
	岩見沢東	33	3,400.00	1,458.00	42.88%		小計	183	13,700.00	9,704.00	61.83%
	栗沢	35	3,500.00	0.00	0.00%		伊達	53	5,600.00	0.00	0.00%
	栗山	34	3,500.00	416.66	11.90%		室蘭	66	2,800.00	0.00	0.00%
	当別	46	4,500.00	46.00	1.02%		室蘭東	56	5,700.00	500.00	8.77%
小計	384	35,200.00	2,172.51	7.54%	室蘭北	52	5,200.00	0.00	0.00%		
4	札幌	120	10,000.00	0.00	0.00%	9	登別	40	4,000.00	2,940.00	73.50%
	札幌あけぼの	19	1,700.00	500.00	29.41%		洞爺湖	14	700.00	0.00	0.00%
	札幌はまなす	29	3,000.00	0.00	0.00%		小計	281	24,000.00	3,440.00	13.71%
	札幌北	58	6,100.00	10,116.00	165.84%		函館	101	6,300.00	0.00	0.00%
	札幌モーニング	61	5,000.00	1,000.00	20.00%		函館亀田	51	2,700.00	0.00	0.00%
	札幌西	75	5,700.00	0.00	0.00%		森	51	3,400.00	1,000.00	29.41%
	札幌西北	52	5,800.00	1,798.22	31.00%		七飯	33	2,600.00	0.00	0.00%
	札幌手稲	52	5,900.00	0.00	0.00%		長万部	11	750.00	550.00	73.33%
小計	466	43,200.00	13,414.22	30.78%	小計	247	15,750.00	1,550.00	20.55%		
5	札幌東	123	13,000.00	3,663.00	28.18%	10	江差	20	1,300.00	1,050.00	80.77%
	札幌清田	26	2,800.00	0.00	0.00%		函館五稜郭	71	5,100.00	271.00	5.31%
	札幌幌南	88	7,500.00	0.00	0.00%		函館東	67	4,200.00	0.00	0.00%
	札幌真駒内	50	5,000.00	0.00	0.00%		函館北	46	3,700.00	1,046.00	28.27%
	札幌南	97	10,000.00	4,794.00	47.94%		上磯	34	2,400.00	0.00	0.00%
	新札幌	42	4,500.00	1,100.00	24.44%		松前	8	400.00	0.00	0.00%
	札幌大通公園	17	0.00	0.00	0.00%		小計	246	17,100.00	2,367.00	19.06%
	札幌セントラル	0	0.00	0.00	0.00%		白老	34	1,500.00	0.00	0.00%
小計	443	42,800.00	9,557.00	12.57%	苫小牧	68	5,000.00	1,842.86	36.86%		
6	岩内	37	2,200.00	1,000.00	45.45%	12	苫小牧東	33	3,500.00	0.00	0.00%
	倶知安	54	2,100.00	0.00	0.00%		苫小牧北	52	5,500.00	1,116.66	20.30%
	小樽	96	6,000.00	0.00	0.00%		小計	187	15,500.00	2,959.52	14.29%
	小樽南	86	6,200.00	0.00	0.00%		合計	3,461	284,650.00	62,207.75	20.59%
	小樽銭函	20	1,400.00	1,400.00	100.00%						

注) 7/1~11/30寄付額は、年次・使途指定・恒久基金の各寄付の合計金額です。
11月はロータリー特別月間です。各クラブの年度当初の自主申告額と7月から11月までの寄付額ならびに達成率を掲載いたしました。皆様のご協力をお願いします。

掲示板

例会変更

- 小平RC
1月 3日 (金) 休会*
- 留萌RC
1月 1日 (水) 法定休会
1月 8日 (水) 新年例会・撮影会18:30~
1月15日 (水) 休会*
- 芦別RC
1月 3日 (金) 休会*
1月10日 (金) 新年交礼会
- 滝川IRC
1月 9日 (木) 新年交礼会18:00~三浦華園
- 美唄RC
1月 2日 (木) 休会*
1月 9日 (木) 新年夜間例会18:30~
- 岩見沢東RC
1月14日 (火)
新年合同交歓会の振替休会
- 当別RC
1月 7日 (火) 早朝例会「新年交礼会」8:00~
1月28日 (火) 夜間例会「新年会」18:00~
- 岩内RC
1月 2日 (木) 法定休会
1月 9日 (木) 18:00点鐘
- 伊達RC
1月 7日 (火) 新年交例会18:00~

- 室蘭東RC
1月 1日 (水) 法定休会
1月29日 (水) 創立記念家族同伴夜間例会18:30~
- 白老RC
1月 1日 (水) 法定休会
1月 8日 (水) 休会*
1月15日 (水) 新年家族例会18:00~
しらおい創造空間『蔵』
- 苫小牧RC
1月 3日 (金) 休会*
1月17日 (金) 夜間例会「新年家族会」18:00~
- 苫小牧東RC
1月 2日 (木) 休会*
1月 9日 (木) 夜間例会「家族同伴新年会」18:00~
1月16日 (木) 夜間例会「会員卓話」18:00~
- 苫小牧北RC
1月14日 (火) 休会*
1月28日 (火) 新年家族会18:00~20:00

注) *定款第5条第1節に基づく休会

お詫び・訂正

12月号p28のR財団寄付者吉本勲会員の所属クラブは深川IRCです。お詫びして訂正致します。

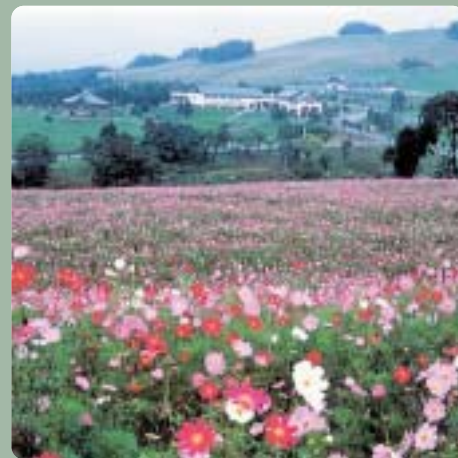
1・2月地区カレンダー

1月 ロータリー理解推進月間			2月 世界理解月間		
日	曜日	行事	日	曜日	行事
1	水		1	土	} 米山記念奨学生選考試験 (札幌パークホテル)
2	木		2	日	
3	金		3	月	
4	土		4	火	
5	日		5	水	
6	月		6	木	
7	火		7	金	
8	水		8	土	
9	木		9	日	} 家族週間 (第2週)
10	金		10	月	
11	土		11	火	
12	日		12	水	
13	月		13	木	
14	火		14	金	
15	水		15	土	} 第6グループIM (余市町公民館、13:30~) 第8グループIM (様似町公民館、13:00~)
16	木		16	日	
17	金	第3回ガバナー諮問委員会 (札幌グランドホテル、18:00~)	17	月	
18	土	第2回ガバナー補佐会議 (ホテルライフオート札幌、11:00~)	18	火	
19	日		19	水	
20	月		20	木	
21	火		21	金	
22	水		22	土	} 第4・5グループIM (札幌ルネッサンスホテル、13:00~) ロータリー創立記念日、世界理解と平和の日
23	木	} オーストラリア受入学生オリエンテーション、日本語説明会、歓迎会 (エリエールスクエア札幌 渡辺淳一文学館)	23	日	
24	金			24	月
25	土	} R財団国際親善奨学生・GSE帰国報告会 (札幌ルネッサンスホテル、16:00~)	25	火	} 第3グループ会長・幹事会 栗山RC (18:00~) 世界理解と平和週間 (2/23~3/1)
26	日			26	
27	月	} 追悼記念週間 (1/27を含む週; 2/1まで)	27	木	
28	火		28	金	
29	水		1	土	
30	木		2	日	
31	金	半期報告、人頭分担金送金締切			



ロータリー会員地域紹介

滝川市



滝川市の「花」……コスモス

丸加高原の道路沿いに咲くコスモス。導かれながらたどり着くと、そこはあたり一面のコスモス畑。約3ヘクタールに咲き乱れるコスモスはまるでピンクの絨毯のようです。見頃は9月から10月頃。秋桜フェスタin丸加も開催され、華やかな世界が広がります。



グライダー：どこまでも続く北海道の青い空

大空にははたたく滝川。21世紀の明るいまちづくりをめざしています。全国初の滝川スカイパーク（航空公園）では飛行機に関するあらゆる知識を学ぶことができ、実際に搭乗し、大空散歩の醍醐味を味わうこともできます。

TAKIKAWA

ご意見・投稿募集

『ガバナー月信』では、より会員の皆様の声を反映させた誌面づくりを行いたいと考えております。『月信』に関するご意見・投稿などございましたら下記事務局へ。

事務局 札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館6F

TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526

E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp



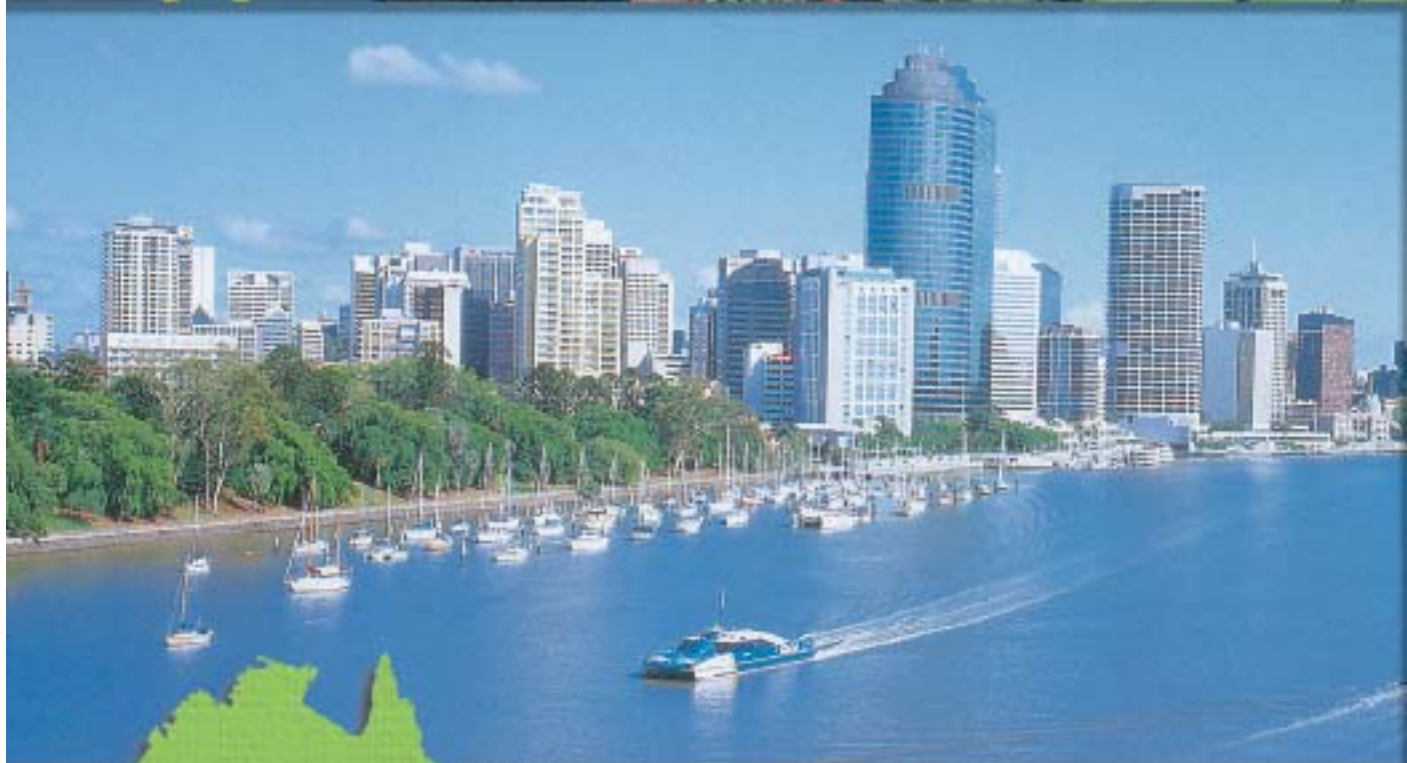
国際ロータリー第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

2002-2003 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER No.8

ガバナー月信

2月号
February

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR 小林 博 KOBAYASHI HIROSHI
〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp



2002-2003年度RI年次大会(第94回)

ブリスベン国際大会

2003年6月1日~4日

ガバナーレター



小林 博

世界をよく理解しよう!!

2月は世界理解月間 (World Understanding Month) である。1905年2月23日はロータリークラブの創始者であるポール・ハリスとガスターバス・ローア、シルベスター・シール、ハイラム・ショーレーの4人がシカゴで初めて会合を開いた日である。そこで2月を「世界理解月間」として、ロータリークラブは理解と親善のためのプログラムを行うことを決めた。また2月23日の創立記念日を世界理解と平和の日 (World Understanding and Peace Day) と定め、各クラブは国際理解と友情と平和にむかって献身するようにすすめている。

だが、この標題をただ鵜呑みにするだけでよいのだろうか？ ロータリーは組織として肥大化し、ゆるぎない基盤を作った。だが、世界は激しく変わり、この変化にロータリーがついていけないという現実があるのではないか。とすると世界理解にも新たな視点が必要と思う。

現代の世界を理解するに際して何が基本かという、それは南北問題でないか。先進国と発展途上国との葛藤といってもよい。つまり、世界は爛熟しきった国々と、いまだに貧困のどん底にあえぐ人達との間の格差が際立って、その格差は縮まるどころかますます広がっていく。世界の情報化と交通手段の進歩によって富あるものと貧しいものが直に隣り合うことになり、貧者は富者との比較のうえでいかに自分がみじめな存在であるかを悟るようになった。しかもそういう人たちは自分たちが長い間変わることなく先進国の犠牲になってきたという認識から、やがてその反発がアメリカの9月11日のテロへと繋がっていく。こういう背景をロータリアンとして目をそむけることなく直視し、そのうえでロータリアンが何をすべきか考えなければならないかを考えることが新しい世界理解の原点なのではないかと私は考えている。

もちろんロータリアンの出来ることの限界がある。世の中の良心的な政治家をもってしても難しいことに我々市民組織が立ち向かったとしても、その成果は知れたものかもしれない。それでもわれわれロータリアンは世界の経済的な貧困者、人権上の弱者、苦しみ悩む人たちのことを片時も忘れてはならないし、常に世の改革のためのリーダー的な集団でなければならないと思う。

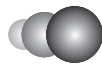
大切なことは、世界の現状を嘆くだけでなく、やはり出来ることから順番にやっていくことではないか。われわれのやろうとしていることは大河の一滴かもしれないし、無力感におそわれることもある。でも、どんな小さなことでもいい。すべて千里の道も一歩からである。とにかく歩み出そうではないか。

目次

ガバナーレター	小林 博	2	クラブ活動紹介	20
世界理解月間に因んで	青木 功喜	3	函館北RC・栗山RC・札幌東RC	
第2回ガバナー補佐会議報告		4	お詫びと訂正	21
ロータリーQ&A		9	会員の声	22
これからのIMの予定		9	奥貫一之(札幌東RC)・戸部アナマリア(札幌はまなすRC)	
竹山元RI理事、RI会長指名委員に		9	「ロータリアン宣言」試案	23
あらためてポリオ撲滅のための募金のお願い		10	ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます	24
文庫通信		10	米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます	24
ガバナー日記		11	残念ながらCAPの申請ゼロ	25
地区活動紹介		14	12月会員増減数・出席率報告	26
家庭奉仕委員会・ローターアクト委員会・地区幹事			訃報	26
ビチャイ・ラタクルRI会長歓迎会のご案内		15	掲示板	27
新入会員紹介		16	2・3月地区カレンダー	27
2002-03年度 ロータリークラブ会員調査		17	事務所日より	27



世界理解月間に因んで



国際奉仕委員会
委員長 青木功喜



ロータリアンは人間性を基本に。

ロータリアンはロータリーと言う普遍性の中で個性を生かす事が大切である。私は真理を大切に、その枠のなかで考え行動したい。枠が無い言い方や行動はそれはそれで良い。しかし自分の考えを押し通すためには、手段を選ばないことには同意できない。このことはロータリーの金看板の職業倫理以前の問題である。ロータリーの4つのテスト 1. 真実かどうか、2. 皆に公平か、3. 好意と友情を深めるか、4. 皆のためになるかどうか、をロータリアンは行動の規範としている。ロータリーは広い世代の会員を受け入れている。最近会員数が増えないと言う事が話題になっているが、出生数が年々減少している限り、その分母が減っているの、限り無く会員数を増やしていけば、ロータリアンの質がかわっていく宿命を抱えている。

人間の歴史の中でロータリーを考える。

生物は生き残っていくために絶えまなく変異する。ロータリーも原理原則にこだわって純培養していくと、脆弱になり異分子が入ってくると抵抗できなくなる。歴史上は優秀な民族が生き残っていくとはかぎらない事を証明している。勝ち残れるのは持っている能力を徹底して使わないと気がすまない民族である。ヨーロッパ文明の産物である自由、平等、博愛は現在自家中毒を起こしているという歴史学者もいる。すなわちすべての国は平等な権利があると言う理想とすべての国は平等な能力を持っていないと言う現実がある。ローマ人は根に持たず、被害者意識を持たなかった。長い歴史のヨーロッパと日本との違いは、社会一般で通用する判断基準は常に前の世代の物であると言う事を自覚しているか否かである。日本的な団体主義は、高度成長時代に生まれた日本の代表的価値観であり、現在、制度疲労を起こしている。これまでは調和が重んじられてきたが、今は人と違う事が言える人も必要となっている。

ロータリアンの国際性

討論を楽しもうと言う小林ガバナーの意見に賛同する。そのためにはtop downだけでなく、down upの意見との調和が必要となる。まして国が違えば意見が違って当然である。日本人の考え方は、悪いところを直してより良くしようと言う考え方が基本にある。しかし米国人は、良い事を伸ばしていく事により悪い事は少なくなっていくと言う考えである。

真の国際理解は相手のあらを探す事ではない。お互いの良いところを見合って、始めて真に理解しあえるのである。ロータリーが国際組織である限り、この違いを忘れたくない。それは組織が大きくなったための組織疲労だけでなく、国際組織が抱える宿命である。歴史の短い米国は現在を大切に、将来過去にはあまり軸足をおかない。これは開発途上国も同じである。その点我が国やヨーロッパの国は、過去将来に軸足が置かれている。そのため何か行動する際には、その理念と言う裏づけが常に強く要求される。しかし眼の前に解決すべき問題が山積している開発途上国では勿論、これを援助する場合にも行動が先行する。

日本のロータリアンとしての課題

行動と理念、将来過去と現在の比重の違いは、年齢の違いにも強く反映してくる。最近の我が国のように、高齢者の比重が重くなるにつれ、このバランスが崩れて来る。過去にこだわる事の少ない若者は、将来を見据えるため過去に対する配慮は少なくなる。過去や将来に対する考えは、宗教を信じている人と信じていない人とは明らかに異なる。問題はこれらの年齢の違い、地域の違い、軸足の場所が違っても、お互いが国際ロータリーとして、一つになる意義の最大公約数を忘れない事であろう。そのためにはロータリアンである前に、より良い人間性は勿論、国際ロータリアンとしての自覚が優先するのではないか。

日本ロータリーとして独立した場合、日本のロータリアンだけでいくばくの事ができるであろうか。日本のロータリアンが世界のロータリアンの水先案内人になる気概で、もっと国際的センスを磨く事が必要である。ICなどのハードウェアがいくら発達しても、これも使う一人ひとりの国際性が育たなければ、国際ロータリーの正しい改革とその進歩は望めない。

ロータリー国際奉仕の歴史

- 1905年：ロータリークラブ発足
- 1917年：アーチ・クラフ基金創立（ロータリー財団の前身）
- 1917年：ルーズベルト大統領RIの意義強調。
- 1921年：エジンバラ大会で国際奉仕理念提唱。
- 1922年：ロサンゼルス大会でRI綱領として国際奉仕理念正式採択
- 1945年：国連憲章の制定にRIからも参画。
- 1962年：ニッティシ・ラハリーが世界社会奉仕の概念提唱。
- 1966年：財政援助の制限条項解除
- 1967年：ロータリー-WCS杞憂論争
- 1968年：RI世界社会奉仕活動開始。
- 1974年：青少年交換プログラムRI理事会で決定
- 1988年：ロータリー-友情交換プログラム採択
- 1993年：国際職業連絡グループ（IVCG）と世界親睦活動（WFA）が統合し趣味職業別親睦活動（RRVF）に統合される。

現在の国際奉仕：

- 1) 世界社会奉仕活動、2) 原物抛出情報ネットワーク、3) 災害救援、
- 4) 人道援助、5) 飢餓救済、6) 国際レベルの教育及び文化活動、7) 世界理解月間と催し

第2回 ガバナー補佐会議報告



各グループガバナー補佐、左から吉本勲、藤原税、辻野修、村山正、角掛晴雄、和田次彦、郷司公雄、斉藤修弥、遠藤哲二、松見修二、川田憲秀の各氏

本年度第2回目のガバナー補佐会議が、2003年1月18日に下記の議題で開催されました。

【議題】

1. 前半期を省みて
財務報告(地区および地区大会)
2. ロータリー財団について
3. 後半期のスケジュール
IM
ワークショップ(案)
子ども奉仕委員会(仮称)案
ロータリアン宣言(案)
国際大会(プリズベン)、
新旧AG引継ぎ会日程など
4. その他
 - 1) 会員名簿について
 - 2) ガバナー月信について
 - 3) RI会長歓迎例会について
 - 4) 会員調査アンケートについて
 - 5) その他

以下は「前半期を省みて」に関するガバナー補佐の発言要旨です。



第1グループガバナー補佐 吉本 勲

羽幌町は人口1万にも充たぬ小さな町であるが、RC会員数は47名を数える。

連帯意識も強く、青少年支援(青少年野球大会)や社会奉仕、中でも献血車巡回に積極的に参加協力し、更に、職業奉仕賞(今年度は羽幌高校生とのボランティア活動)など見るべき成果を挙げつつある。

小平RCは会員数減少のため、一時は解散の危機に立たされたが、今年度前半において会員数17名まで回復、その努力に対して同クラブ新名会長が地区大会において、ガバナー特別表彰を受けられたのはわれわれの記憶に新しいところである。

留萌RCのモットーは「火付け、強盗以外は入会を認め、良きロータリアンとなすべく善導教育する」のだそうである。留萌RCには言葉の最良の意味で、庶民的かつ大らかなユーモアがある。今年度前半において、市民海水浴場クリーンアップ作戦、また市民参加の呑濤(どんと)まつりにクラブ製作の大あんどんを以て参加した。更に秋には小平RCとの共催で青少年スポーツ大会(剣道)を実施、参加小中学生剣士は100名を越える盛況であった。

妹背牛RCは第2510地区72クラブ中、長万部RCの次に小さい会員数12名のミニクラブであるが、訪問してみると素朴で暖かい心情の方々がロータリーの灯を消さぬよう懸命の努力を続けておられた。

私の所属する深川RCは米山奨学金及び財団寄付において、すでに顕著な業績を挙げつつある。お金を出すばかりがロータリーではないが、お金を出すのもまたロータリーにとって必要不可欠のことであろう。悩みは会員数が増加しないこと。留萌RCなどと違って、少々古くさいエリート意識が残っているのも一因かと反省している。



第2グループガバナー補佐 藤原 税

今年度から新たに始まった合同例会方式によるガバナー公式訪問、それに先立ってのグループ内、各クラブのクラブ協議会への出席と、ガバナー補佐としても初めての試みが多く採り入れられスタートした今年度ではありましたが、グループ内各クラブのご協力を頂きながらなんとか前半を終えることが出来ました。というのも年度前から始まったガバナーエレクト・地区幹事と各クラブ会長・幹事との打合せ等の事前準備がよかった為なのか、とにかく、大きな混乱もなく折り返し地点までくることが出来ました。

前半期の大きなイベントの一つでもあったGSEの受入れは第2グループ芦別・赤平クラブが第二週目10月22日より一週間の受入れでありました。当初チームメンバーの情報がなかなか入らなかったこともあり担当コーディネーターの方も苦勞されたことだと思いますが二つのクラブがよく協力し同じグループ内の滝川・砂川両クラブの協力も得て、GSEメンバーの人柄の良さにも助けられ共に友好的な一週間を過ごすことが出来、充分その目的は達せられた事と思います。また、情報伝達の手段として地区ホームページによるGSEチームの状況を逐次写真掲載で知ることができたことはGSE受入れが自分たちの一週間だけで終わらなく、地区大会へ

と繋がる事が出来たと思います。その地区大会も登録数等で心配を致しましたが終わってみれば概ね好評判であったように思われます。グループ内クラブの会長幹事に於いても新しい形のガバナー月信、地区会員名簿についても第二グループ内ではそれなりの理解は得られたと感じています。各クラブとも人口減に不況の追い討ちがかかった地方クラブとしての悩みを抱えながら地元のニーズに応えようと努力しているのが感じられた前半期でした。



**第3グループガバナー補佐
辻野 修**
とにかく慌しい一年間だった。

補佐の仕事は来年の7月からだと多少タカをくくって2001年の12月の初めに当時の前田会長と福井幹事に次年度の補佐を引き受ける返事をした。

手元の記録によるとその年も押し迫った、12月22日に小林ガバナーエレクトが態々当別まで足を運んで下さり、第3グループの各クラブの会長、幹事エレクト全員集合の元に初めての会合が持たれました。

会の始まりにどなたが司会、進行するのですかと伺いましたら「当然、貴方です。」とのつれない返事に目の前が真っ暗になり頭の中が真っ白になった事を思い出します。

しかし、そこは大教授、会の進行を上手に誘導下さり、次期R・Iビチャイ・ラタクル会長のテーマの「慈愛の種を播きましょう」の本質的な説明と小林ガバナーエレクトの来期に対するの抱負と決意を述べられ、補佐は勿論、各会長、幹事の協力を強く要請されました。

したがって、任期の6カ月も前から補佐としての重圧に耐えることになりました。

明けて2月のチーム研修セミナーからクラブ会長エレクト研修セミナー、地区協議会、補佐エレクト会議、新旧補佐会議等、矢継ぎ早の研修、会議で7月の補佐就任時には、既に疲労困憊の状態でした。しかし、グループ

内各会長、幹事の皆さんに助けられ「例会中の禁煙」をグループとして宣言したり、I・Mを9月14日に道民の森での野外開催にしたり、又10月12日にグループ研修会を美唄クラブのホストで成功させたりと本当に充実した活動が出来たと会員一同に対し深く感謝している次第です。

残る半期につきましても皆様のご支援を頂きまして小林ガバナーの提唱するロータリーの改革に微力を尽くし度いと思っております。



**第4グループガバナー補佐
村山 正**
ガバナー補佐としての半年が何とか無事に過ぎた所です。公式訪問に備えての

クラブアッセンブリー、ガバナーに随行しての会長・幹事会、公式訪問などで、8月9日にはかなり頻繁に各クラブにお邪魔しましたが、その後もはまなすクラブの10周年式典、あけぼのクラブでの卓話、自発的に行った何回かのメークアップなどを通してグループ内各クラブの皆様と親しくなれたのは感謝すべき事でありました。

なお、9月18日には第1回の会長・幹事会を行いました。2月19日に第2回を開催し、グループ内各クラブの情報を交換して意志の疎通を図ることを考えて居ります。

2月22日には第5グループと協力してIMを行いますので、1月には各クラブを訪問して協力をお願いして歩いたのですが、3クラブでは全員登録をして下さるなど、どこのクラブでも温かく対応して頂き有難い事でした。

深刻な不況の中、各クラブとも会員増強にはかなりの力を入れて居られるのですが、会員数は現状維持か、若干の増と言った所かと思えます。

地域に密着した各種の社会奉仕、植樹、海浜清掃、育児園児の動物園見学、中学校スポーツ大会、中学生夢会議などが各クラブで積極的に行われて居ます。

また、3月13日には札幌西、手稲、あけぼの、西北の4クラブ合同例会が計画されて居ります。更に西クラブ

を中心として市内6クラブの音楽委員研修会、4クラブ合同例会における合唱なども計画されて居りますが、先の地区大会では札幌西部4クラブの有志によるオープンコーラスが好評を博しました。

なお、札幌クラブでは12月4日に創立70周年記念例会、北クラブでは1月27日に1,500回記念例会を行いました。札幌モーニングクラブでは3月6日に創立15周年記念式典、祝賀会が予定されて居ります。



**第5グループガバナー補佐
角掛晴雄**
平成14年4月の札幌東RCの年度当初のクラブ協議会に始まり、12月の札幌セントラルRC迄、全8クラブの協議会に出席してクラブの方針、並びに運営方法をつぶさに拝聴したが、総じて健全な運営を心掛け共通して会員増強に力を入れている印象を得た。どのクラブも増強には苦勞しているようで、現今の経済不況もあいまって一人入会すると一人退会という状態で、なかなかうまく増強出来ないでいる現状のようである。

前期は地区の会員増強委員会、第4・第5グループ合同社会奉仕委員会、地区青少年交換事業説明会等に出席した。また、12月には、東京神宮RC前女性委員会委員長の杉本女史をお呼びして女性会員についての講話をいただいて女性会員入会のため大変参考になった。10月は各クラブのガバナー公式訪問が一斉に行われ、概ね好評だった。

前期は地区の会員増強委員会、第4・第5グループ合同社会奉仕委員会、地区青少年交換事業説明会等に出席した。また、12月には、東京神宮RC前女性委員会委員長の杉本女史をお呼びして女性会員についての講話をいただいて女性会員入会のため大変参考になった。10月は各クラブのガバナー公式訪問が一斉に行われ、概ね好評だった。

今期より地区に家庭奉仕委員会が発足し、その勉強会が和田三委員長が発案により毎月1回行われて参加。今年度の第4・第5グループ合同のIMは第5グループが当番幹事で、テーマを「家庭奉仕」について実行することになり、実行委員会を設立し立案して、既に各クラブに案内を配布済みである。8月にはグループ研修会を開催して各クラブの会長・幹事さんへ出席していただき、クラブの現在の進捗状況、問題点等を検

討した。

以上であるが、9月には私事、家庭内にアクシデントがあり、まだまだ活動を考えていたが、思うように活動、行動が出来ずガバナー、地区役員、会員の皆様に多大のご迷惑をお掛けしたことを心よりお詫び致します。後期は頑張りたいと思います。



第6グループガバナー補佐
近藤徹哉

——所感——はじめての補佐として、当初は、混乱して、どのように計画書をつくるかわかりませんでした。5月になってから大体の輪郭が見えてきました。ガバナー補佐の出身クラブの理解が絶対条件でした。また事務局体制を作らなくては、個人一人では困難を伴う事がハッキリしていました。

各クラブ訪問、会長・幹事会に参加出席いたしまして、事務局体制の応援の下、スムーズに運営されたと思います。

自己研鑽、再度のロータリ関係に対する勉強の機会をいただきまして、幸せでした。感謝しています。人とのめぐり合わせが、自分の財産になり、自分の経験をなにかの機会に後輩に伝達する事、参考になるのであれば、と考えています。

D. L. P計画は、良いシステムで、沢山の会員が経験すると、ロータリ活動が活発になると考えます。

1・出席——例会時 80%をきっているクラブ数—4<蘭越、倶知安、岩内、銭函>

原因——経済状況、地方都市では、このデフレ経済で経済活動が低迷して、ロータリ活動への<例会参加>ボイコットと事業への専念、社員への気配り、と思います。

——例会が楽しくなければ、自然と足が向かわない。

改善策——年間例会計画書作成時には、会長・幹事同席して、時代背景、会員動向、会長の力をいれる例会は？

プログラム委員会と連携を密にして作成、新入会員の目標月は？案を出し合うコミュニケーションを多くとる事。

2・親睦活動——各クラブからは、補佐、事務局会員にたいして、暖かい歓迎をうけました。感謝申し上げます。

会員同士の親睦は、各クラブが本当に和やかで良かったという印象が深かったです。

3・会員増強——女性会員数は、現在10名<倶知安4名、余市4名、銭函2名>で企業活動家で女性の方を、勧誘策として計画する事が急務と考えます。例会の雰囲気もやわらかくなりますし、夜間例会は、大変楽しくよい傾向になる事請け合いです。

4・活動計画——特記しますと、小樽南クラブ(相馬会長)の「ブック・スタートの運動展開」

第6グループでは、最初の運動、時代の流れと、今後の日本の幼児教育「教育問題」に対する参考になる運動で、北海道新聞の新年号に詳しく記事として載っていました。

この輪がどんどんと2510地区に拡大されますと、大変よいと考えています。期待しております。

本は、想像力の宝庫、テレビから解放することが、幼児にたいする大人の責任です。

自然環境保護運動——銭函クラブの螢のいる自然郷建設で子供達への自然回帰への理解度運動。

ガバナー補佐選出方法について

今回は、大変困難でした。過去の会長幹事会で周り当番を決めたので、そのように事を進めましたが、不可能でした。

一やはり、会長・幹事会で討議して、その意見をガバナー事務所へ報告し、当番補佐と三者で協議して、確定する事が、大切と考えます。

6カ月くらいで、補佐を決める事は、不可能でした。私の力不足でした。一年に2回程度、各委員会委員長のグループ内の交流をしてはどうか？1月18日の会長幹事会で提案する予定です。情報交換する事で、例会運営の仕方が、変わると思います。

国際大会への参加依頼について

今年は、オーストラリア・ブリスベ

ーン(クインズランド州)大会ですが、各グループから出席会員の把握を事務局で指示をだしたら、いかがでしょうか？参加して、ロータリクラブの会員でよかったとの印象を経験すると思います。費用の点で少し割り高です。もう少し安い費用を検討しては、どうでしょうか？

地区大会について

今回の大会は、非常に良かったと思います。費用の面を安く<会費金額を10,000円以内>ですと負担がなくなるので、検討する余地が大いにあると考えます。講師の選定が、よかったです。との反応が各クラブからありました。

感動のある大会は、やはり昔と違って、印象に残る事がよいと思います。

会員同志のコミュニケーションについて

年1度は時間が少ないので、宿泊例会でもっとお互いが理解する機会をもつための政策として、いかがなものか？青年会議所時代は、宿泊例会がありました。心に残っています。いろんな話題をぶつけあって、考え方の相違を発見しました。



第7グループガバナー補佐
和田次彦

「早いものです。任期もあと半年となり……」と普通ははじめるところであるが、「やっと半分が終わり、あと半年もある」と言うのが本音であります。

又、ガバナー補佐にとっては大仕事のインターシティ・ミーティングがこれからであります。

年度頭初に、小林ガバナーより「冗漫なI・Mなどしなくても良い」と言われ、何とかこれまでとは違ったI・Mを考えましたが、しかし、やはり変わりばえのしないものと成りそうです。

もっとも、その理由はあるのですが、結果として冗漫と言われそうです。

1. 上半期の主なスケジュール

会長・幹事会：2回

クラブ例会訪問：各クラブ1回

クラブ協議会訪問：各クラブ1回

GSEメンバー同行による夜間例会

訪問：千歳・恵庭・長沼・由仁の各クラブ

ガバナー公式訪問例会：2回

由仁ロータリークラブ創立10周年式典

2. 所見

〈会員の減少及び拡大に関して〉

各クラブ共通の問題として会員の減少と拡大の困難さが挙げられる訳ですが、言うまでもなくこのことに関する特效薬など存在いたしません。只、減少及び拡大とも言えることはクラブの活動をより活発にすることであり、さらにその活動が地域作りに確かに貢献していると認識されるものであることが非常に大事なことであります。そのためにも活動テーマは、より検討されたものでなければなりません。特に、今日のように私たちを取り巻く諸環境が非常に厳しい時代にあっては、取り組む課題が「何か」によって、地域社会から受ける認知の度合いが大きく違うということなのであります。そうでなければ私たちの活動は、単なる慈善団体のそれと同じとしか受け取られないからであります。

〈青少年交換留学生に関して〉

各クラブとも、このテーマに関してこれまで積極的に取り組んできた経緯がありますが、会員の減少などに伴うクラブ運営上・財政上の問題で、今後とも継続的にこの事業に取り組むことが、非常に困難となっております。

各クラブとも、数年に1度の割合でしか、この事業に取り組めないというのが実情であるといえます。

よって、このような状況を踏まえ、今後は複数クラブで、またはグループ内事業として捉えられないであろうか、グループ内協議を要する案件といえます。



第8グループガバナー補佐
郷司公雄

1 地区活動について

(1)ガバナー公式訪問について

初めての合同公式訪問の開催は、本来の趣旨が実行されるか心配しておりましたが、各クラブ会長さんの計らいで、事前に十分打ち合わせをするという新しい試みが功を奏し、初期の目的が十分発揮され、各クラブの交流と言うプラスアルファーもあり好評でした。

(2)地区大会について

当初参加人員の減少を心配しましたが、決まったあとでの無理な要請にも答えていただき、グループ内会員の皆様に感謝申し上げます。

2 グループ内の活動について

(1)グループ連携施策

静内クラブの交換留学生受け入れに際し、グループ内各クラブが、資金面の応援をすることとしたことは、今後も継続したい事業です。

(2)地域連携事業

植樹、清掃などはグループ内全クラブが実行している事業で、継続されています。

(3)啓蒙施策

今年は浦河クラブが啓蒙看板塔を設置し、町に寄贈するなど、各クラブが力を入れている事業で、PR活動に役立っております。

(4)記念事業

えりもクラブは、30周年を迎えて、当該クラブだけの式典とし、町へ寄贈の記念品に力を入れています。新しい型になるかもしれません。

(5)クラブ間交流事業

様似クラブとえりもクラブは、永年クラブ間交流を実施しておりますが、今年はパークゴルフと懇親会で交流を深めました。

(6)例会の工夫

各クラブは、出席率の向上と、クラブ内親睦を図るため、夜間例会、忘年会、家族との新年会等例会の持ち方を工夫し実施しています。



第9グループガバナー補佐
斎藤修弥

新年度最初に発刊さ

れたガバナー月信7月

号において、私は今期の目標を「ガバナーと各クラブとの意思疎通の強化」と定め、具体的にはロータリー年度の四半期に最低一回は各クラブを訪問すると発言しました。幸い前半期を終えた今、その約束は各クラブのご協力により何とか履行されております。振り返るとこれまで三つの印象深い事業がありました。第一は合同公式訪問例会です。第9グループを二つに分け、合同クラブ協議会とセットで開催しましたが、各クラブの友情あふれるご協力と、小林博ガバナーのお人柄が滲み出た感動的なスピーチにより、大成功裏に終えたものと確信しています。第二はRI-3830地区からのGSEチームの受け入れです。当初メンバーははじめ内容が不明で心配していましたが、滞在は思いのほかスムーズに終了しました。これにはホストクラブをお願いした伊達ロータリークラブの献身的活動のお陰によることは論をまちませんが、第9グループ全体が密接な連携のもと、チームワークをいかに発揮して対応したことが、好結果につながったと心から感謝しています。来道した6人の男女は何れも素晴らしいメンバーで、彼等が示した明るさ、正直さ、ひたむきさにあふれた言動は、現在の日本人がとすれば忘れがちな大事な何かを思い出させてくれた、という印象が残っています。第三の事業は地区大会です。従来手法とは異なり、簡略化された日程の中にも、ロータリー活動を深く省みる工夫が随所に散見された大会を、企画運営された事務局の皆さんに心から敬意を表します。その中でも初日に開催された記念フォーラムは圧巻で、「新世紀におけるロータリー運動の目標と戦略の決定」こそ、全てのロータリアンと協議したい意義深いものであったと感謝しています。確かに「慈愛の種がまかれた」前半期だけに、これから心して後半そ

の成長を育んでいきたいと張り切っております。



**第10グループガバナー補佐
遠藤 哲二**

10グループ担当ガバナー補佐に就任して半年、いろんな勉強をさせていただきました。

『2510地区について』 なんとと言っても小林ガバナーのロータリーに対する改革、情熱を地区幹事、地区委員会が敏感に感じ取り、一つになって夫々が熱心な地区活動を展開し今までになかった活発な動きをみせていることです。

その一つの表れとしてのガバナー月信は素晴らしい内容となりました。いままでの月信はRI、地区からの一方的なお知らせだけだったのが地区と各クラブ、各会員との交流の場になっているし、読んで楽しい、ガバナーが積極的に会員と語り合おう、意見交換しよう、討論しよう、との姿勢が見えて豊かな明日のロータリーが見えてくる。そんな感じがいたします。

『10グループについて』 各クラブの例会、アッセンブリーに出席させていただいて感じたことは、夫々のクラブがその地域地域に根ざしたロータリー活動、奉仕活動を行っているという事です。会員はこの不況下、非常に忙しいところ、時間を割き仕事着のまま例会に駆けつけ会員同士の親睦を深め、それぞれのクラブはその地域が一番求めているものを感じ取り行動に移す。ロータリーの原点でありロータリーの心であります。思い知らされました。

また地区リーダーシッププランの第一歩としてのガバナーの公式訪問を10グループは郊外3クラブと一緒に、函館市内の2クラブは11グループの3クラブと一緒にうけました。2つのグループが合同での公式訪問だった訳ですが現状ではベターである、と思います。

又、10、11グループ合同のグループ研修会が10月12日、地区社会奉仕委員会の「社会奉仕活動に関する情報

交換」と一緒に開催しました。中身の濃い有益な社会奉仕に関する研修会でした。



**第11グループガバナー補佐
松見 修二**

始めに担当グループ内の各クラブ奉仕活動報告を紹介します。

○函館東RC(吉川達也会長)

新世代委員会活動として、地域の授産施設『かいせい』にスチール棚を寄贈し作業の手伝いをしました。更に社会奉仕活動では市内の使用されていない中古ピアノ2台を発掘し、市内の保育園と渡島支庁の道民ホールへ寄贈し、コンサートを開催して好評を得ました。

○函館北RC(小笠原孝会長)

社会奉仕活動として毎年行われる奉仕事業で、ハワイアンバンド(ノース・アイランダーズ)が老人ホーム『こうじゅ(鴻寿)』へ慰問を行いました。この奉仕活動は上期と下期の2回行われ地域の施設から好評を得ています。

○上磯RC(増田幸久会長)

新世代委員会の活動として、交換留学生ガブリエル・マクミラン(ニューヨーク州)の受入、薬物乱用防止募金活動を行い地域の理解を得る活動を行いました。クラブとしては新世代に力を入れた活動をしています。

○函館五稜郭RC(能戸彰会長)

地域交流委員会活動として五稜郭公園で例年夏に開催される函館野外劇に出演参加し地域との交流を密にしています。更に、GSEが来函した時期にあわせ、五稜郭RC合唱団『DAM』によるチャリティーコンサートを開催し、益金を財団へ寄付いたしました。

○江差RC(横内隆文会長)

公立はこだて未来大学 鈴木克也教授を招いて、『地域の現状と取り組み』をテーマに江差地域勉強会が開催されました。参加者は江差RC会員、江差経済界、江差産業界さらに江差町行政と各方面の方々の出席を得て十分な成果を収めました。

○松前RC(本間靖夫会長)

クラブの課題は会員の増強であって期首7名が1名増の8名と成っています。奉仕活動については地域に密着したものが後期に期待されます。

以上が各クラブの活動報告と成ります。

ガバナー公式訪問を函館市内クラブの10・11グループ合同で行ったことについて、結果的に一部から批判的声がありました。時間の節約経費の節減などDLPの完全実施を行うについては何ら不足は無いものと理解します。郊外クラブ(上磯、江差、松前)は少ない会員で公式訪問を受けるより、複数のクラブ合同の方が新しい絆が生まれると歓迎されました。

10月12日に『社会奉仕活動の現状と今後の課題』をテーマに対木地区社会奉仕委員長をお招きしてグループ研修会を10・11グループ合同で開催致しましたが、成果としては必ずしも良かったとは言えるものにありませんでした。

継続事業の報告が優先され、目新しいプログラムと今後の課題の部分が不発に終わったことに不満が残りました。グループ研修会は各クラブ協議会でテーマに沿った議論を充分なされた上で問題点を抽出し、本音で発表して頂く方法を取るべきものであったと反省しています。

会員の減少で奉仕活動が停滞しているクラブは、複数クラブ合同で奉仕活動を行う事によって温度差を無くする方策が生まれ、会員減少の問題を解決し、増強に繋がる成果となる事が期待されます。

これらの反省点を踏まえて後期は、RC歴の若い会員、新会員を対象に奉仕活動の原点を探ってワークショップを計画します。

テーマについてもグループ内から抽出していただき、奉仕の種を如何に播くかを探り、ボトム・アップを実践したいと思います。

DLPの完全実施によって、会員とガバナーの距離が遠くなるのではないかと懸念されましたが、ガバナー月信の充実により地区の情報伝達とガバナーの活動がつぶさに何うこと

が出来、地区と各グループが身近なものに成りました。



第12グループガバナー補佐
川田憲秀

2002年～2003年が始まり、8月にガバナー公式訪問という日程でした。公式訪問の前に、各クラブを訪問しなければならないとのことで、日程の上で厳しい日が続きました。会長・幹事会の開催・クラブ協議会・例会訪問と各クラブの特徴を感じました。国際ロータリー会長のピチャイ・ラタクルさんの「慈愛の種を蒔きましょう」を話に行った時には、既に各クラブの活動計画が出来上がっていました。も

ちろん、継続の事業もあります。私は種を蒔くということは、床をしっかり作り、どんな花を咲かせるために、どんな種をどこに蒔くか……という検討が大切と考えました。それも、クラブ全員で意見の交換をして合意の上で実施しなければならないものだと認識でした。しかしながら、年度の事業計画には、ほとんど間に合わずに、今後の事業計画に活かされていくものではないのかと考えました。そんな中で、地区大会では「種を蒔いて、どんな花を咲かせたの……」という意見が言われるようになりました。どんな組織でも、方針を掲げて意識を共有するまでに、相当な時間がかかります。会員それぞれのロー

タリーの経験の差もあり、世代の差もあります。たいへん難しい課題です。少し強く説明をしようとすれば、「そんなめんどうくさいことなら、俺はやめる……」と言われてそうなのです。今まで、やってきたことをそのままやるんだったら……という雰囲気なのです。単年度の事業の最大の欠陥でもあります。ロータリークラブは、奉仕活動の団体であります。地域の奉仕活動と国際的な奉仕活動がバランスよく行われなければなりません。地域の奉仕活動が疎かになれば、会員のコンセンサスが得られず、会員の確保が困難になるからです。後半期は、アイエムなどでこの事を訴えていきたいと考えております。



回答
・情報委員会委員長
亀井敏清
・ガバナー事務所

Q: クラブ予算には「一般(通常)会計」と「特別会計」の2つの会計予算がありますが、理事会で検討し特別会計から一般会計に取り崩し使用しても良いでしょうか?

A: 一般会計は会員の会費収入によって例会費・事務費・委員会費等の支出

が賄われ、特別会計はニコニコボックスからの収入で奉仕活動の支出に当てられるのが原則です。その支出は厳密に区分されるべきと思われるのですが、一般会計に支障を来たした場合の特別避難的な処置としての問い合わせとしてお答え致しますが、臨時総会を開催し会員の総意により決定するのが至当と思われます。理事会は管理主体であります。役員承認や予算・決算等金銭に関する事項は理事会で審議された後、総会の

決定に従うのが良いと思います。

Q: IMについて教えてください。

A: IM=Intercity Meetingの略称ですが、複数のクラブが集まり、ロータリーの特徴と計画について検討するもので、その目的は会員相互の親睦と面識を広め、会員にロータリーの情報を伝えるものであります。一般的にはグループ単位で開催されますが、複数のグループで共催されることもあります。

これからの IMの予定

月日	時間	グループ	テーマ	会場	担当RC
2003年 2月15日(土)	13:30～	6	「こんな日本に誰がした。経済再生シナリオ」	余市中央公民館	余市
2003年 2月16日(日)	13:00～	8	「ロータリーの未来・夢を語ろう」	様似公民館	様似
2003年 2月22日(土)	13:00～ 18:00	4・5	「慈愛の種は家庭から」 一家庭生活をより豊かにする方法について	札幌ルネッサンスホテル	札幌幌南
2003年 2月23日(日)	14:10～ 19:00	9	①基調講演:命の尊さ「がん」に挑む、がん学ぶ ②「がんに関する何でも相談」	室蘭市市民会館 室蘭プリンスホテル(懇)	室蘭
2003年 3月 8日(土)	13:00～ 16:30	7	「まちに豊かさ楽しさ ・やすらぎをデザインする」	ホテル日航千歳	千歳セントラル
2003年 3月29日(土)	14:00～	10・11	「奉仕の理想 一ロータリーが失ってはいけないものとは一」 NPOを通してみる奉仕の比較	函館ロイヤルホテル	函館
2003年 4月 6日(日)	15:00～ 19:00	12	「慈愛の種を蒔きましょう」(仮)	白老中央公民館	白老
2003年 5月24日(土)	13:00～ 17:00	1・2	ポリオ撲滅について(仮)	赤平市文化会館	赤平

*なお、第3グループは昨年9月14日に終了

竹山元RI理事、RI会長指名委員に

2005～2006年のRI会長を選出委員8人のうちの1人に、第1ゾーンの竹山涼一元RI理事(札幌南RC)が任命された旨、ピチャイ・ラタクルRI会長から1月10日付けで連絡があった。

あらためてポリオ撲滅のための募金のお願い

国際ロータリー第2510地区
ガバナー 小林 博
ロータリー財団委員会委員長 森本 正夫
広報委員会委員長(ポリオ担当) 城木 浩一

【ポリオとは】ポリオウィルスの経口感染によっておこる幼児の小児麻痺poliomyelitisともいわれるものですが、死を免れた子供でも四肢の麻痺を残す悲惨な病気です。

【なぜいま募金なのか】1988年(日本では1991年)、ロータリーはポリオの募金を成功裡に終了しました。また、2000年10月、WHOは西太平洋地域におけるポリオ撲滅の勝利宣言をいたしました。しかし、それでポリオが地球上から消えたわけではありません。その後、世界の一部(アフリカとアジア一部)になおこの病気の発生が見られるため、このまま放置するとポリオが再び世界的に大流行するかもしれないとの危機感があります。いまこそポリオの完全撲滅を目指し最後のとどめをさす必要があります。

【募金目標8,000万ドルの根拠】1985年にロータリーがポリオの撲滅のキャンペーンを起こし、その後国連、WHO、ユニセフとの協力でポリオ撲滅に努力してまいりました。今回、国連、WHOやユニセフとの話し合いで、ロータリーの分担分として8,000万ドルの支援が求められています。他にも悲惨な病気はありますが、国際ロータリーは発足100周年の2005年までにポリオの撲滅を果たすべく、これをロータリーの最優先事項と決定しました。ちなみにロータリアンはじめ関係者の協力によってこれまで400万人の子供をポリオの発症から守ることができました。このことはロータリーとしての誇りでもあり、WHOからも高く称

賛されております。

【何故そんなに金がかかるのか】ポリオを予防するためにはポリオワクチンが必要です。ポリオワクチンは常温で活性を失いますので、常に低温保存しなければなりません。ポリオの流行は低開発国の山間僻地ですが、そのような地域に冷凍のワクチンを運ぶ人材、資材だけでも多額の費用が必要です。

【送金明細書と誓約用紙】募金分担額を日本のロータリアン1人当たりで計算しますと、100ドル～150ドルとなります。3年間の間に達成できれば良いのですが、「善は急げ」です。

「ロータリー財団への寄付・送金明細書」に記載してある所定の銀行口座に振り込むと共に、明細書は寄付分類③のポリオ・プラスの項を○で囲み、国際ロータリー日本事務局財団室へ送っていただきます。送金は各クラブでまとめていただくと、より効果的です。

なお、先にクラブ会長様宛にお送りした資料の中に「ロータリークラブ誓約用紙に記載して下さい」という記述がありますが、善意の寄付に対して誓約(Pledge)と云う言葉は不適当なので目標(Target)に変更になっています。善意の種子をよろしくお願い申し上げます。

募金は本来、財団委員会の仕事ですが、久しぶりのポリオ募金への会員各位への戸惑いを解くために、広報委員会にもポリオキャンペーンへの協力をお願いしたことをご報告しておきます。

国内地区別ポリオ・プラス寄付額一覧 (2002年7月～12月末)

単位：ドル

地区	ポリオ・プラス寄付額
2500	94,933
2510	7,842
2520	12,330
2530	30,999
2540	38,906
2550	49,203
2560	567
2570	55,348
2580	26,033
2590	68,824
2600	13,395
2610	26,953
2620	1,931
2630	93,334
2640	319,748
2650	128,072
2660	146,610
2670	88,134
2680	112,707
2690	180,336
2700	17,292
2710	98,558
2720	24,387
2730	4,120
2740	15,650
2750	28,120
2760	136,001
2770	50,965
2780	42,808
2790	4,050
2800	10,975
2810	5,692
2820	190,317
2830	1,140
2840	13,256
日本の合計	2,509,070
世界の合計	19,504,712

文庫通信



「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

ようこそロータリーへ

- ◎「ようこそロータリーへ 新会員へのオリエンテーション」 D.2650 2002 24p [申込先: 淵上勝夫 FAX (0779) 87-2560]
- ◎「ようこそロータリーへ」 D.2790 2002 27p [申込先: D.2790 FAX (047) 410-0776]
- ◎「ロータリー100年の歩み」 D.2700 2002 19p [申込先: ロータリー文庫]
- ◎「ロータリーに憶う一言・一句」 田中 弘 1999 6p [申込先: ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「ロータリーの道しるべ」 長崎南R.C. 1987 128p [申込先: 長崎南R.C. FAX (095) 826-4756]
- ◎「ロータリー雑学のすすめ」 長崎南R.C. 1996 86p [申込先: 長崎南R.C. FAX (095) 826-4756]
- ◎「ロータリーの心をあなたも一入会のお誘い」 D.2650 2001 24p [申込先: D.2650 FAX (0742) 25-2651]
- ◎「アイウエオ!!—ロータリーの心と人生のイロハ—」 小林 博 2002 4p [申込先: D.2510 FAX (011) 222-1526]
- ◎「ロータリー情報集」 熊本グリーンR.C. 2002 317p [申込先: 熊本グリーンR.C. FAX (096) 354-4053]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

ガバナー日記

またスリランカに

年明けてすぐ、1月7日から13日まで息抜きを兼ねてスリランカに行った。医学生になって間もない孫との2人旅である。病院見学とともに遠藤年度以降に2510地区からプレゼントした凡そ1000台のベッドなどの医療器具がどのように使われているかを見るため、また現地の子供達への衛生教育にかかわる教科書の翻訳の進み具合を確認するためでもあった。

スリランカはこれで9回目になる。あまりしばしば行くので、ある人から「現地に彼女が出来たのでないか」と言われてびっくりしたことがある。そのあと同じような質問を受けると「ええ、彼女に会いに行くんですよ」と笑いながら答えられるようになった。

ロータリーで言うと、スリランカは一つの国が一つの地区(3220地区)で、現ガバナーのパスナマサンさんや直前ガバナーのビジェクマランさんとも会う機会があった。先方からまずベッドのお礼を言われた。さらにマッチンググラントを一緒に出来ないかとの打診があり、またGSEの交換希望などいろいろ前向きな会話が絶えなかった。

現地に多い口腔がんの予防など健康教育にかかわる教科書づくりの準備が始まってから2~3年になる。昨年の8月訪問のときに英語からシンハリ語への翻訳は60%出来たと言っていたが、今回もまだ60%とのこと。ということは作業はこの数か月何も進んでいないということである。昨年4月にテキスト完成の予定であったのに、余りにもゆっくりペースである。せっかちな性格の私には到底考えられないことだが、この際は我慢して相手側のペースに乗ってみることにした。鳴くまで待とうホトトギスである。

余談になるが、今回初めてヌアラエリアという観光地を訪ねた。スリランカ中央の一番の高地なので1年を通して快適な気温と晴天に恵まれ、この地域一帯で出来るセイロン茶が一番人気が高い。この一角に特に際立った欧風の「ヒル

クラブ」という建物がある。ここにイギリスの植民地時代に作った社交クラブがあって、玄関横のボードを見ると1800年



わが地区から送られたベッドには世話クラブの名前が入っている。



コロomboの総合病院でみかけた看護学生。
この病院はスリランカでもっとも施設のゆきといたところ。

代から毎年のクラブ会長の名が刻まれている。私どもの生まれるずっと前で、日本でいうと江戸時代になる。こんな遠い昔にイギリスはすでにアジアに目を向けていた。それ以前はポルトガル、オランダによる800年に近い植民地支配があった。私はこのヒルクラブで昼食を取りながらスリランカの被植民の苦悩の歴史を思い描くのだった。

子ども奉仕委員会の設立に向けて

ロータリーの目ざすものを私は2つに大別して考えたいと思う。1つはロータリーに入ったことで思いがけない人達との「出会いの縁」を持つことが出来ることである。これが親睦に繋がっている。もう1つは周辺に対する奉仕の心(慈愛の心)の実践である。この後者に関連しての話だが、現代社会だけでなく次世代への奉仕をということで、前号にも書いたように子ども奉仕委員会を設置し、これに米山道男氏(札幌北RC、地区幹事)が委員長に推挙されている。恐らく家庭奉仕委員会(和田壬三委員長)と二人三脚でうまくやっていただけそうである。これは既に佐藤秀雄ガバナーエレクトほか関係者との十分な話し合いの元で得られた了解事項である。

ちなみに札幌市内の3校(北九条小学校、幌北小学校、北辰中学校)をとりあえずのモデル校とし、学校教育の現場(たとえば課外授業)に關つていただけるロータリアンの名簿を作成することとした。いずれにしても子ども奉仕委員会は関連する各種委員会、とくに家庭奉仕、職業奉仕、新世代などとの横の連絡を十分保ちながら進めていく必要がある。今後、子ども奉仕はロータリー活動の大きな柱になっていくことは間違いない。

9640地区ガバナーノミニーを迎えて

清水慧子青少年交換委員会委員長から9640地区(オーストラリアのクイーンズランドからニューサウスウェール



9640地区GNを迎えて。
むかって右が佐藤GEと木村幹事エレクト、左が遠藤GNのご家族

ズにかけての地区)のガバナーノミニーのマーガレット・ヘイズさんがお孫さんを連れてご家族で雪の札幌を楽しみにくるとのこと。そこで我が地区でも決まって間もない遠藤秀雄ガバナーノミニーにも声をお掛けしようとなり、結局遠藤ノミニーもお孫さんらご家族の出席をいただいた。お二人のノミニーの間で親交をもっていたら何よりである。お世話役は青少年交換委員、恵庭RC(早瀬源一会長)など関係者十数人で、1月15日夜には歓迎晩餐会を日本料理店で行なった。最後に佐藤秀雄ガバナーエレクトの一本締めで閉会とした。

9640地区の青少年交換はいろいろの国と進めているが、日本との間では我が2510地区とだけ行なってきたことで、我が地区に対する彼地の大きな親近感が今回の訪問に繋がったようだ。ときあたかも9640地区からの交換留学生ティーガン・レイノルズさんが札幌に到着し(1月18日)、札幌北RCがホストにあたっている。

ガバナー諮問委員会

1月17日(金)ガバナー諮問委員会が札幌グランドホテルで開かれた。前期決算と後期予算案についてはほぼ順調な経緯を説明した。また地区大会は関係者の努力によって予期以上の余剰金が出たことと、これの取扱いについてご意見をいただいた。

ついで、家庭奉仕委員会(和田壬三委員長)の活動の現況を説明し、また新たに「子ども奉仕委員会」(仮称、米山道男委員長)を作ろうとしている理由とその経緯を説明した。これは全国青少年育成委員会の動きに呼応し、既に佐藤ガバナーエレクト始め関係の委員会(新世代奥貫委員長、職業奉仕富岡委員長、社会奉仕対木委員長、国際親善奨学金土橋委員長ら)との数回の話し合いのもとに進められたものであることを説明した。

新しい委員会が増えることを予算面など心配するむきがある。しかし心配はない。委員会の数の増加には仕事の担当分野を明確にすることで責任の所在がはっきりする利点がある。さらに各委員会ごとの予算を削減しながらも

関連の委員会との合同会議など横の連絡を緊密にすることで効率的な運用が出来るであろうことを説明し了解をいただいた。

なお「ロータリアン宣言案」を初めて紹介した。これは米山道男地区幹事が中心になって作った原案だが、ロータリアンは何を求めているかのグローバルな夢をまとめたものである。当面の目標は提案の4項目について会員間の関心と議論を喚起することである。詳細は23ページに記載されている。



佐藤GEにアナハイムの饌別をさしあげる

ガバナー諮問委員会終了後、佐藤秀雄ガバナーエレクトご夫妻の国際協議会(カリフォルニア州アナハイム)出席の壮行懇親会を行なった。

ガバナー補佐会議

第2回ガバナー補佐会議は1月18日(土)11時から16時まで札幌市内のホテルライフオフトで行われた。その中で会議の内容に関して私自身が書き残したメモを紹介したい。



左から木村幹事エレクト、佐藤GE、小林G

青少年交換はロータリー活動の1つの柱になっているが、従来のように1つのクラブで行うのは大変なことである。そこで第7、第8グループの提案のように個々のクラブとしてではなく、グループとしてやると意外と円滑に進むようだ。少なくともいくつかのグループ内で共同でやることでの負担軽減の効果は大きい。



左から角掛、和田、郷司、斉藤、遠藤各AG

新入会員に対するワークショップもあった方がよいのではないかと思った。せっかくの会員増強の努力で新入会員が入っても、何のフォローもなく彼らを放置しておくことでやがて退会してしまうケースが少なくない。新入会員に対する系統的な教育があまり行われていない反省に基づき、地区内で彼らがグループごとにでも集まり、あるいは宿泊を



伏木補助金委員長、若狹財団増進委員長

兼ねてロータリアンとの交流を深める機会があってもいい。したがってこれをワークショップとして位置付けることが出来れば、地区からの若干の資金援助を期待してもよいのではないかと。

年度後半のIMが目白押しだが、第3グループのように既にIM終了のグループもある。IMはガバナー補佐が必ずしもやらなければならないことではないが、IMが負担になっている向きも少なくない。この際、IMなるものの開催の是非について、また開催するとしてもガバナー補佐自身が担当しなければならないのかどうか、またテーマによってはワークショップとして切り換え開催できないものかなどの意見があった。いずれも傾聴に値する見解と理解した。

ガバナー公式訪問を合同例会にしたことによってガバナーとクラブ会長、会員との関係が疎遠になるとの危惧の声も聞かれた。公式訪問を合同例会にすることのメリットが強調され評判も良かったようであるが、マイナス面を無視してはいけ



左から辻野、村山、和田、郷司、斉藤の各AG

ない。そこで私は後半のIMの前後でも良し、また独自の時

でも良し、ご希望があれば個別のクラブ訪問をガバナーの準公式訪問とすることに何らやぶさかでないとし、ガバナー補佐あるいはクラブ会長からのお申し出を歓迎する旨をお伝えした。

子ども奉仕委員会について米山幹事から紹介があった。その経緯は既に書いたとおりであるが、子どもという名称を検討したらよいとの意見もあった。また、小中学生に対する授業への参加などは苦小牧RC(第12グループ)で10数年前に既に実施済みとの紹介もあった。

組織のスリム化にも話が及んだ。今年度は地区内にいくつかの委員会を新設した。これによって予算が大きく膨らむとの心配の声が大きいのである。だが委員会の数を増やすことによる予算増は誤解であることをここでも強調しておきたい。委員会を増やした理由はそれぞれの委員会活動の責任分担を明確にするためのものであり、しかも個々の委員会の予算は大幅に削減している。さらに関連する委員会の横の連絡を緊密にすることで、委員会開催を共同で行うなど効率化を心掛けることによって、予算削減以上の成果も期待できると考えている。従って委員会増イコール予算増ではないことを十分ご承知いただきたいと思う。

地区大会は無事に終了し大方の会員からは好評のようで

心から嬉しく思っている。また地区大会幹事の大変なご努力によって、概算ではあるが岩城年度から繰り越された98万円とは別に、4百数十万円の余剰金を出せる見通しになってきた。地区大会は赤字になるかもしれないという危機感から各クラブから会員の登録促進をお願いしてきたが、幸いなことに思いがけない余剰金が出たのである。これは大会運営の努力と工夫によって、また個人的な経費の節減によって生み出されたものと理解していただきたい。いずれにしてもこの余剰金をどのように使ったら良いかの意見をガバナー補佐の皆さんにお願いしたが議論百出で結論には至らなかった。最終的にガバナーに一任ということになったが、恐らく地区の一般会計に組みこむことになると思う。

余暇を沖縄に

ガバナーになって家内をほっぽり投げたままだった。プライベートと一緒に一度もどこにも行っていない。「家庭奉仕委員会を作って、何が家庭奉仕なのか？」と家内に皮肉られたこともある。

地区大会も終わり、少し気持ちの余裕も出来てきたので、1月19日から22日まで沖縄のゴルフ旅行に出掛けた。厳寒の北海道から遠く常夏の沖縄、彼岸桜も咲き、まさに別天地。これでちょっとばかりの家庭奉仕になったかと思う。

ただ残念ながら20日午後、ガバナー事務所からの電話で当別RCの松田浩一会員が急逝されたとのこと。昨年8月にスリランカの医療事情の視察に出掛けたとき大変お元気であっただけに何とも言いようのない辛い気持ちになった。帰札后ご自宅に弔問した。心からご冥福を祈るだけである。

1月27日(月)は大通公園RCにてポリオの話をする。幹事の長谷川美栄子会員からポリオの資料を欲しいとのご依頼であったが、資料提供の代わりに私の方から出向くことを申し出たのである。幸い遠藤正之パストガバナーら幌南RCのお3人の参加があった。遠藤先生は小児科の専門であり、私のポリオの話の足りないところを専門的視野で補足して下さりおおいに助かった。



石田誠会員(札幌手稲RC)の叙勲の祝には多数のロータリアンが出席。石田会員から国際ロータリーへの寄付もいただいた。石田夫人と握手。

地区活動 紹介

家庭奉仕に関する 参考図書のご紹介



家庭奉仕委員会

委員長 和田壬三(札幌南RC)

家庭奉仕について、バイブル的な図書は、現在のところ存在しませんので、様々な切り口で、家庭奉仕に関する図書に当たるしかありませんが、今回は、参考になりそうな図書数点を紹介します。

『子育て崩壊!』(宝島社文庫)

現在における家庭の状況について、様々な視点から、ルポルタージュ風に切り込んでいます。多数のライターが、多数の社会現象について、記述しているため、矛盾する記述もありますが、じっくりお読みいただければ、それなりに納得できる書です。新聞報道では得られない、真実に迫った書です。

『新親孝行術』みうらじゅん著(宝島社文庫)

親孝行をプレイと考える奇抜な書であるが、家族の本質を鋭く洞察して、対処方を分かりやすく提示しています。論理が一貫している大変読みやすい有意義な書です。

『小学校絶体絶命』(宝島社文庫)

現在進行している、新教育課程の中で、成功している事例や問題点などについて、具体的なケースを取り上げて、各作者が執筆しています。

小学生に徹底的に読み書きそろばんの基礎学力を身につけさせることにより、小学生の学力が、奇跡的に伸び、多くの優秀な生徒を、医学部や有名大学の優秀な学部に進学させているばかりか、かえって、ゆとりの時間が生まれて、十分新教育過程(学習時間を削って、生徒の個性を伸ばす、自由時間を増やす)をこなしている兵庫県朝来町立山口小学校の例。(ちなみに同小学校は、もともと町内でも最も学力の低い農村地帯の小学校であった。)

東京都品川区における初めての試みである、学校選択性の試みについて、その目的と、現状について、問題点を指摘している。

「ゆとり教育」が、現実には、学力低下と教育の階層化(私学と公立の学力格差)をもたらすと共に、それでも学力の低い

生徒には、現実肯定が認められるといった現在教育現場で進行している問題点について指摘している。

『親業』(子供の考える力を伸ばす親子関係の作り方) トーマスゴードン著近藤千恵訳(大和書房)

親子のコミュニケーションの本質を分析した上で、正しいコミュニケーションを指導することにより、子供の成長する力を助けるばかりではなく、ほとんど全て間違っていた、子供に対する接し方を直すことにより、歪んだ家庭内の問題を解決することができることを、実践例を通して、紹介すると同時に、この書を訓練の道具として使用することも可能な教材でもあります。何度も繰り返し読み実践することをお勧めします。親子の関係で記述していますが、コミュニケーションの技術ですから、夫婦、や対人関係の改善のためにも応用できます。

などですが、2000年12月に出された、教育改革国民会議の最終報告には、「教育の原点は家庭である」ということが真っ先に指摘されています。家庭の教育機能について、もう一度見直すべきではないかと思えます。

なお当委員会は、4月から、全ロータリーを対象に家庭奉仕に関するワークショップを行う予定です。関心のある方は、下記にご連絡下さい。

4月は、12日(土)に、「子育てに影響する食品」について、拓殖大学深川校の教授である相馬先生を講師にお願いして実行する予定です。

北海道で再会。 香港キングスパークRAC



ローターアクト委員会

柳 孝一(札幌南RC)

昨年3月7日(木)～10日(日)3泊4日の日程でローターアクトクラブ10名、地区委員2名(函館東RC今井、札幌南RC柳)の合計12名で香港へ海外研修旅行に出掛けました。目的は、香港のローターアクトとの交流と麻薬治療施設の慰問でした。日程の3カ月前から、E-mailで香港のアクトと打合せをし、セッティングしました。香港の空港で予定外に地元アクターの出迎えを受け、驚きました。翌日はアクトの案



新生園の皆さん、香港のRACと日本食調理中(2002年)



雪の中で記念撮影キングスパークRAC

内で夜遅くまで市内観光です。仕事や学校の都合をやりくりして、我々をもてなしてくれる行動に感動し、感謝しました。

3月9日、地元アクター6名と香港郊外の麻薬中毒患者治療施設「愛育園」へ伺い、入所者13名スタッフ2名の人員で入所者の方から園の説明を受け、入所した経緯や今の思いを披露していただきました。2510地区からも日本の麻薬患者について赤平RAC竹村君(看護師)が、日本の病院での対応などを説明、また質問を受けるなど活発に展開しました。また我々から日本食のプレゼント、用意した食材で天ぷらとお好み焼きをみんなで作り、テーブルを囲みお互いがうち解けた感がありました。我々が訪れた証と融和を願う気持ちで、植樹を行いました。全員が土をかけ、2510地区のプレートをかけ、最後に日本から携えたお土産をプレゼント。限られた時間で言葉も満足に通じない中、そこに滞在中にいろいろのことを気づかせてくれました。そのようにセッティングしてくれた地元アクターに感謝しました。翌日、最後までつき合ってくれたアクトの見送りを受け帰路へ。



バナー交換、右端が中塚委員長

この旅行で地区内アクトの結束がなされたこと、香港のアクトの熱い歓迎を受け、4日間ともに行動をし、また会うことを約束し別れたことは、今後のアクト活動のみならず、日々の生活にも良い影響があるものと信じ、研修旅行が終わりました。

その後、アクト同士メールのやりとりをしているのは聞いていましたが、その1年後約束通り、北海道で再会できる事は本当に嬉しい出来事でした。1月15日、北海道にやってきた彼らは、札幌でスキーを体験し、ススキノで歓迎会で盛り上がり、小樽で観光と温泉を楽しみ、富良野ではコテージを借り切り、地区のアクト15

名、中塚ローターアクト委員長(岩見沢RC)も参加し、総勢26名で交流会を開催。スキーや温泉、ゲームなどで夜遅くまで親睦を深めました。19日には札幌でアクト(札幌北RAC尾形君)の自宅でホームステイ、日本の家庭も体験いたしました。1月20日無事全行程を終え、帰路へ。

昨年、の熱烈で終わりのない歓迎を香港のローターアクトに受け、「来年は北海道で」という約束を果たしてくれた香港キングスパークローターアクトの皆さんには本当に感謝です。札幌の雪をも溶かす彼らのエネルギーを十分に感じました。ロータリーという共通の価値観は、多少の差はあるにせよ世界共通であるということを確認した1年越の出来事でした。今まで、国際交流を目的に海外研修へ出掛けていますが、昨年香港で観光ではなかなか味わえない、現地の人々と触れ合う一つの行程は、感動と感謝の研修旅行でした。我々の感動や感謝の気持ちが伝わったのか、彼らは1年後、クラブの海外研修に北海道を選び、再会することが出来ました。私の知る限り、海外研修で訪れたところのアクトが公式な行事で、訪問してくれるのは非常に珍しい事でしょう。再々会があれば、もっと素晴らしい事です。期待したいです。今回フル活動の尾形君(札幌北RAC)に感謝します。



スキーを楽しむ両地区のアクト

“国別部会”への御協力を

地区幹事

米山道男(札幌北RC)

ロータリーの活動の大きい柱の一つは、国際的な相互理解と相互支援の促進です。一方、多くのロータリアンは、ロータリー活動とは別に、それぞれ、縁のある国、思い入れのある国があって、様々な国際交流に関わっています。しかし、一人が交流できる時間とエネルギーは限られています。そこで、それぞれの国について、関心のあるロータリアン同士が集まって活動すれば、第2510地区全体としては、様々な国と深い交流ができるのではないかと考えました。

この活動は、ロータリアン(および一般市民)が、外国に関心を持つことを促し、

それぞれ関心を持っている外国に関して一層の知識と理解を深める事を促し、また、その国の人達との交流やその国の人達への支援を通じて、一層豊かな友好親善と貢献の実を上げることを目指すものです。

現在、地区の友情交換委員会がこの企画の纏め役として活動を開始しています。まず、地区内の何人かのロータリアンに呼びかけて、世界の国別の部会(例、タイ部会など)の責任者になっていただきます。次に、部会の責任者は、ガバナー月信などを通じて、広く地区内ロータリアンに呼びかけて同好の士を募り、部会を開催します。

各部会は、それぞれ自由に活動案を練り、自由に活動します。例えば、

- (a) その国に関する知識と理解を深める。
 - ・定期的にその国に関するロータリアンどうしの勉強会を開く。
 - ・北海道在住のその国の人を講師に招いて勉強会を開く。
 - ・その国への観光や調査の旅をする。
- (b) その国の人々と交流する。
 - ・北海道在住の、その国の人達との交流会を開く。
 - ・その国の人達を北海道に招いて、あるいはこちらから出向いて交流する。

- ・その国に関するロータリー以外の会(例、日豪協会)との交流会を開く。
- (c) その国の人々を支援する。
 - ・北海道在住の、その国の人達への支援活動を行う。
 - ・その国に在住する人達への支援活動を行う。

手初めに実行可能な具体的な活動として、上記(b)の第1項について1例を挙げれば、「モンゴリアン・ナイト」などと名付けた交流の夕べを、土曜日の午後5時から8時までで開催することなどが考えられます。ロータリアンへはガバナー月信などで、一般市民へは新聞などで、留学生へは大学の事務室やポスター掲示などを通して、広く参加を呼びかけます。前半はモンゴル人によるモンゴルの話(国の概況、社会問題など)、後半は交流パーティー(この中で、モンゴル人によるモンゴル文化の紹介—踊り、歌、遊び、衣食住など)、などとしてはいかがでしょうか。

地区内のロータリアンは皆、様々な知識・経験・能力を持つ優れた人達です。将来は、多くのロータリアンに国別部会に会員登録(複数の部会への登録も可)をしていただき、その人達を中心にして、交流の夕べのようなものだけでなく、上記の種々の活動などを継続発展させていけば、素晴らしい、有益な事業になることと思います。

ビチャイ・ラタクルRI会長歓迎会のご案内

ビチャイ・ラタクル国際ロータリー会長が4月24日～26日札幌を訪問されることになりました。現職の国際ロータリー会長の北海道訪問は、1988年度のケラー会長以来のこととなります。

伊藤義郎RI元理事と竹山涼一RI元理事が招集者となり、下記により札幌、札幌南RCがホストとなり歓迎会を開催いたします。

歓迎会の持ち方につきましては現在検討中でありますので、参加人数などの取りまとめのお願いなどは後日改めて正式にご案内をいたしますが、多くの会員の皆様にご参加下さいようお願い申し上げます。

記

日時	平成15年4月25日(金) 12:00～14:00
場所	札幌パークホテル (札幌市中央区南10西3 TEL011-511-3131)
登録料	5,000円

尚、歓迎会のホストを札幌、札幌南RCが担当いたしますが、札幌市内で金曜日を例会日としている札幌幌南、札幌あけほのRCとの合同例会として歓迎会を運営いたします。ご参加いただく会員の皆様はメイクアップになりますので、多くのご参加をお待ち申し上げます。

札幌ロータリークラブ会長 荒 紀男
札幌南ロータリークラブ会長 中島一郎

喜びをともに ❖新入会員紹介

							
吉田健司 (羽幌)	村田 武 (赤平)	佐野鉄男 (赤平)	山田賢司 (砂川)	大下敏夫 (砂川)	松原重俊 (砂川)	川合克彦 (岩見沢)	沢田慎一 (岩見沢)
							
森山英次 (岩見沢)	本庄昭良 (栗沢)	桃井正昭 (栗沢)	藤井利一 (栗沢)	橋本肇丘 (当別)	宮松 忍 (札幌西)	浜松義弘 (札幌西)	乙黒千秋 (札幌手稲)
							
小泉純二 (札幌東)	遠藤敏哉 (札幌清田)	関 肇吉 (札幌南)	五十嵐成夫 (札幌セントラル)	石垣博美 (札幌セントラル)	上野 了 (札幌セントラル)	臼木 篤 (札幌セントラル)	内山滋子 (札幌セントラル)
							
小坂祥司 (札幌セントラル)	五木和香 (札幌セントラル)	佐々木圭子 (札幌セントラル)	佐々木春代 (札幌セントラル)	芹田 馨 (札幌セントラル)	高田善宏 (札幌セントラル)	高橋逸子 (札幌セントラル)	田中 宏 (札幌セントラル)
							
出口雄一 (札幌セントラル)	羽賀俊夫 (札幌セントラル)	長谷川久夫 (札幌セントラル)	日色無人 (札幌セントラル)	町田莊一郎 (札幌セントラル)	丸山知子 (札幌セントラル)	山本憲昭 (札幌セントラル)	山本 元 (札幌セントラル)
							
若山登美子 (札幌セントラル)	マイケル・パンバーグ (小樽)	堀岡秀之 (小樽)	泉 侑 (小樽)	山本克郎 (千歳)	阿部 悟 (千歳)	角 哲雄 (登別)	井上 司 (函館亀田)
							
酒谷裕幸 (函館亀田)	鷺山宣裕 (函館亀田)	鈴谷逸男 (江差)	三川明治 (江差)	渡部二康 (函館北)	木戸正彦 (白老)	堀田仁史 (白老)	高柳直己 (苫小牧東)
		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>国際ゴルフ大会のご案内</p> <p>バンコック東RCより、国際ゴルフ大会を5月7日、バンコックのゴルフコースで開催するとの案内が来ております。出席希望のお問い合わせは、ガバナー事務所 (Tel. 011-219-2510) をお願いいたします。</p> </div>					
櫻井謙二 (苫小牧北)	鶴岡武司 (苫小牧北)						

『会員名簿』増刷のお知らせ

前号にお知らせしましたように初版の第1刷は好評につき第2刷を増刷致しました。第2刷では第1刷の不鮮明であった深川RCの顔写真は第2刷で修正されております。その他若干の手直しがあります。購入ご希望の方はクラブを通してお申し込み下さい (送料込み1冊1000円)。

2002-03年度 ロータリークラブ会員調査

さきに地区内全クラブ会員を対象に行ったアンケート調査の集計が終わりました。ご協力大変有難うございました。集計結果は別表に示す通りですが、その分析結果についてはクラブ奉仕委員会で行ったあと、改めて『月信』でご紹介いたします。

個別の自由意見については、次号の『月信』3月号にて出来るだけガバナーの「回答」を添えて掲載を考えております。

また、クラブ毎の集計も終えておりますので、「地区」「グループ」「クラブ」の集計を各クラブにお送りさせていただきます。クラブ奉仕委員会・理事会等で分析下さりご活用下さい。 ガバナー事務所

- | | | |
|--|---|---|
| <p>問1 地区大会にはどの程度参加しておりますか</p> <p>問2 青少年交換・ホームステイ・留学生カウンセラー、植樹作業など、クラブの奉仕事業への参加（寄付だけの参加は除く）はいかがですか</p> <p>問3 クラブのインフォーマルミーティングへの参加はいかがですか</p> <p>問4 クラブ会報、ガバナー月信、ロータリーの友をどの程度読まれますか</p> <p>問5 メーキャップの経験はありますか</p> <p>問6 クラブの会員増強のための活動にどの程度協力しておりますか</p> <p>問7 クラブの各種同好会への参加はいかがですか</p> <p>問8 ロータリー財団への寄附についてお聞きします</p> <p>問9 米山奨学会への寄附はいかがですか</p> <p>問10 あなたはどのようにしてロータリークラブへ入会しましたか</p> <p>問11 クラブに入会を決意するとき、つぎのどの点を最も重視しましたか</p> <p>問12 今日までのロータリーライフを振り返ってみて、あなたのお考えはどちらに近いですか</p> <p>問13 ロータリーに入っていることを誇りに</p> | <p>に思いますか</p> <p>問14 あなたはこれからもロータリー活動を続けたいと思いますか</p> <p>問15 ところで、クラブからのロータリー情報はどのように得られていますか</p> <p>問16 ロータリー活動で得た考え方や習慣を、他団体の活動などに応用したことがありますか</p> <p>問17 あなたのクラブはまとまりがある方ですか</p> <p>問18 クラブの例会は楽しいですか</p> <p>問19 クラブの奉仕活動についてお尋ねします</p> <p>問20 あなたのクラブの財団寄附はどの程度だと思えますか</p> <p>問21 新会員に対して、クラブとしてロータリー情報が提供されていると思えますか</p> <p>問22 ロータリーは理念だけではなく理念に立脚した行動を求めています、あなたはどう思えますか</p> <p>問23 ロータリーの将来展望について、あなたのお考えをお聞かせください</p> <p>問24 これからの会員増強についてあなたはどのようにお考えですか</p> <p>問25 女性会員の入会についてあなたのお</p> | <p>考えをお聞かせください</p> <p>問26 ロータリーは社会から認知されていると思えますか</p> <p>問27 最後に、あなたご自身の日頃の生き方についてお尋ねします
人間にはいろいろな生き方がありますが、あなたの生き方に一番近いものはどれですか。次にあげるものの中からひとつだけ○をつけてください。</p> <p>問28 あなたの生き方は次の [甲] ・ [乙] どちらの生き方に近いですか
[甲] 他人の面倒をみてあげることが多く、他人から頼られる方
[乙] リーダーになって苦労するよりは、気楽に従う方が多い</p> <p>問29 では、生き方はどうでしょうか
[甲] 古いものは、長い間ずっと受け継がれ残ってきたので、できるだけ残そうとする方
[乙] できるだけ新しいものを取り入れて、どんどん改革していくほうだ</p> <p>問30 ところで、これからも定期的に継続して、このようなアンケートを実施することについて、どのようにお考えですか</p> |
|--|---|---|

アンケート結果集計報告

(上段：人数、下段：%)

質 問	回答項目	グ ル ー プ													
		地 区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
回答率	会 員 数	3,484	189	266	384	466	466	360	209	183	281	247	246	187	
	回 答 者 数	1,758	113	133	218	200	209	168	130	98	127	111	139	112	
	回 答 率	50	60	50	57	43	45	47	62	54	45	45	57	60	
クラブ活動について	1. 地区大会への参加	いつも参加	857	63	69	125	81	89	81	74	61	66	36	52	60
		ときどき参加	49	56	52	57	41	43	48	57	62	52	32	37	54
		未参加	613	26	36	55	74	87	61	60	29	39	48	58	40
	2. 奉仕事業への参加	よく参加	35	23	27	25	37	42	36	46	30	31	43	42	36
		参加経験あり	270	9	26	32	37	33	25	15	7	22	27	27	10
		未参加	15	8	20	15	19	16	15	12	7	17	24	19	9
	3. インフォーマルミーティングへの参加	よく参加	488	28	37	56	48	31	41	64	46	36	29	36	36
		参加経験あり	28	25	28	26	24	15	24	49	47	28	26	26	32
		未参加	769	37	56	87	88	99	79	47	35	68	47	69	57
	4. 会報・月信・友の購読頻度	原則参加	44	33	42	40	44	47	47	36	36	54	42	50	51
		ときどき参加	461	32	38	71	58	79	44	18	16	23	35	31	16
		参加しない	26	28	29	33	29	38	26	14	16	18	32	22	14
5. 会報・月信・友の購読頻度	よく読む	785	54	57	93	113	108	78	6	55	53	43	68	57	
	ときどき読む	45	48	43	43	57	52	46	5	56	42	39	49	51	
	未参加	596	27	48	72	66	73	65	43	26	52	42	45	37	
6. 会報・月信・友の購読頻度	よく読む	34	24	36	33	33	35	39	33	27	41	38	32	33	
	ときどき読む	217	13	20	37	15	25	15	20	3	15	23	18	13	
	未参加	12	12	15	17	8	12	9	15	3	12	21	13	12	
7. 会報・月信・友の購読頻度	よく読む	621	32	48	89	68	59	64	61	27	51	35	47	40	
	ときどき読む	35	28	36	41	34	28	38	47	28	40	32	34	36	
	未参加	957	59	81	116	104	125	92	59	60	64	59	73	65	
8. 会報・月信・友の購読頻度	よく読む	54	52	61	53	52	60	55	45	61	50	53	53	58	
	ときどき読む														
	未参加														

クラブ活動 紹介

ハワイアンバンド 老人ホームを慰問



中川洲平（函館北RC）

函館北RCには音楽同好会のハワイアンバンド（ノース・アイランダーズ）があります。このバンドの結成は10年前、創立30周年のアトラクションを手作りで何か出来ないかと言う発想から音楽を職業とする会員の指導の基に結成したものです。その腕前の程は2年前の地区大会の懇親会で皆様にご披露したことはまだ記憶に新しい処だと思います。

当バンドは社会奉仕活動の一環として年2回、渡島、檜山管内の老人ホームを訪問して演奏活動慰問をしています。



今年度第1回目は12月8日に函館市内の老人ホームこうじゅ（鴻寿）園を訪問しました。時節柄、会員が扮するサンタが登場、ミカンのプレゼント、放送機材の寄贈を行い、さらに従業員のフラダンス競演など楽しいひと時を過ごして頂きました。次回の予定は未だ決定していませんが多数の出演要請がありメンバー一同は嬉しい悲鳴を上げています。



5人ではできない野球の試合。 でもやりたい… ユニホームを贈呈



久住八郎（栗山RC）

栗山シニアーズのチームは栗山町継立中学校5名と栗山中学校の助っ人5名の混成チーム。継立中学校は全校生徒数60名ほどでメンバーが集まりません。野球部

は10年前くらいに廃部、少年団で野球を経験しても好きな野球ができない、あきらめかけていた子供達を見かねた父母らが、町野球連盟理事長友成克司さんに相談し、町教委や栗山中学校の協力で、平成14年5月に出来たチームです。平成14年8月10日、11日に行われた第3回栗山ロータリークラブ旗争奪中学校野球大会において「栗山シニアーズ」10対0のスコア負け。でも彼らは町内の40歳代でつくるチームから借りてきた赤い縦じまのユニホーム、背中には他人の名前、サイズもぶかぶかの姿で選手になった子供達は一生懸命にやりました。3塁側のスタンドでは、親たちが「勝つ約束しただろう、あきらめるな!」、「元気がいよう、何やってんのさ」、声をはりあげての声援。中村淑町教育長も心配で駆けつけてくれた。試合後、監督を務めた、町野球連盟理事長友成克司さん子供達はよくやってくれた。

「久しぶりの試合、うれしかった」と八田君、中学最初で最後の公式試合となった3年生千葉くん、彼らの姿が栗山ロータリークラブのメンバーの心を動かしたのでしょ。

なんとかして、ユニホームを贈りたい、との声が多くなり、予算的には無理なので、会員からの特別寄付をお願いいたしました。結果、一月のお年玉プレゼントに出来ました。



平成15年1月14日の例会に八田佳紀君、遠藤藤輔君、鶴川勇樹君、小倉大樹君、福士雄大君ら5名と父母代表渡部晃一氏を招き、新世代委員長土谷将人の司会進行で贈呈式がおこなわれました。5名の中学生が例会の席に着くと、若いエネルギーが発散されたのか、例会の雰囲気が変わっているように感じました。第2例会は粗食デーですが、今日は特別にと利国奈美子会員の手作りのぶた汁が用意され、皆さんでおいしく楽しくいただきました。一月はロータリー理解推進月間、子供達に少しでもロータリーを理解していただいたのでないかと思います。また小林ガバナーの言われ



る、ビジョンよりアクション、を感じさせていただきました。



札幌インナーホイル クラブについて



名塩 都（名塩良一郎（札幌東RC）会員夫人）

恐らく大多数の皆様には、はて「インナーホイルクラブ」とは、何ぞやとお思いになられるでしょう。かく言う私達会員にしてもクラブを設立する迄一度なりとも聞いた事がありませんでした。

それが今から4年前当時札幌東ロータリークラブの青木会長が外国でこのインナーホイルクラブの存在を知り私達に紹介下さいました。さすればと規約書を取り寄せ翻訳し、これならと確信し約10カ月の準備期間を経て本部から設立の認証を受けました。インナーホイルクラブは、国際的な組織であり、本部はイギリスにあり現在世界中におよそ百のクラブが存在しております。クラブの基本的精神はロータリークラブに類似し、「真の友情を推進する」「個人の奉仕の理想を奨励する」「国際理解を育成する」と言う3つの綱領があります。会員の資格はロータリアンもしくは元ロータリアンの妻（現在その資格範囲はもっと拡がっております）で月1回の例会を開催する事、そしてチャリティー基金を作る事業を行なう事になっております。

最初はロータリークラブの大きな支えを頂き運営も手探り状態で発足致しましたが、現在どうにか一人歩きができるようになりました。1年に3回例会報も発行



札幌インナーホイルクラブの認証式。
後列右から3人目がインターナショナルIWCリチャードソン会長(中央)

しておりクラブの成長の足跡を残す資料ともなっております。チャリティー基金作りはロータリークラブのクリスマス家族会の会場を利用させて頂き、バザーを開催致しております。販売品の中に、会員



ロータリークラブのクリスマス家族会でのバザー風景

の主婦である能力を発揮した手作りの数々、例えば刺子の布巾、ビーズで編んだアームバンド、押花のハガキ、数種類のケーキ等を提供し好評を頂いております。そこで得た収益がチャリティー基金となり毎年世界、そして地域の幸少ない人々の為に役立てさせて頂いております。

月例会ですが、いろいろな分野で活躍しているゲストスピーカーを招き講演会を開いたり、或いはアートクラフト・料理等の講習会、時には親睦の為に音楽鑑賞、バスでの小旅行・施設見学等楽しい実りあるものにしております。又諸外国のクラブとの文通も盛んで殊にクリスマスカードや会報等も沢山送られて参り月例会でこれ等を紹介し国際理解を深めております。

このクラブの会員になって本当に良かったと思う事は、社会を広く見る視点ができボランティア精神が大きく育った事、そして会員同志の友情も深まり月

例会の出席が楽しみになりました。

札幌インナーホイルクラブの誕生は他ならぬ札幌東ロータリークラブと言う母体があったらこそ深く感謝致しております。日本国内にはまだ私達のクラブが唯一で会員一同他のクラブの誕生を待ち望んでおります。どうぞこれをお読み下さったロータリアンの方々がご自分のクラブにインナーホイルクラブの設立にご尽力下さればと心から願っております。(インナーホイルクラブの規約書、資料等はいつでも提供申し上げます。)



親睦のための茶会

プロバスクラブとは

ロータリークラブが、社会奉仕活動の一環として提唱するもので、国際ロータリーの公式プログラムではありませんが、推奨をしている組織に「プロバスクラブ」があります。

「プロバスクラブ」は、リタイア、又はセミ・リタイアした自立的な男女が組織する全世界に広がるクラブです。ロータリーからは独立した自主・自律のクラブです。「プロバスPROBUS」の語源は、PROfessional(専門職業家)とBUSiness person(実業家)を短縮した言葉です。しかし、会員は、この二つの言葉に限定されずに、行政や他の団体組織の元役員・管理者や、尽力した分野で責任ある仕事をされた

方も含むものです。

プロバスクラブの目的は、リタイアした活動する能力のある人々が少なくとも月1回以上会合し、ゲスト・スピーカーや会員の卓話を聞き、同様な環境や興味を持つ会員との交流と親交により、喜びや価値ある活動の機会を提供し、意義ある生活を推進することにあります。

現在、世界では約4,000クラブ、30万人以上の会員と推定されています。会員のうち、元ロータリアンは約10%以上と推定されます。

Probusには、ラテン語で、忠誠・誠実・信頼の意味があります。会員をお互いにProbian(プロビアン)と呼びあっています。

地区別プロバスクラブ(プロバスクラブ協議会) (2002年9月)

県名	地区	クラブ数	会員数	県名	地区	クラブ数	会員数
北海道	2510	1	19	兵庫	2680	18	461
群馬	2840	5	159	岡山	2690	1	6+
新潟	2560	4	96	鳥取	2690	1	17
東京	2750	2	98	広島	2710	1	13
神奈川	2780	1	37	山口	2710	1	18
神奈川	2590	2	67	福岡	2700	5	129
三重	2630	2	56	長崎	2700	1	19
京都	2650	1	57	熊本	2720	1	29
大阪	2660	1	46	宮崎	2730	12	204
大阪	2640	1	31	鹿児島	2730	17	292+
和歌山	2640	1	30	合計		79	1884+

この地区では、札幌東RCの社会奉仕活動の新たな展開として、1992(平成4)年、全国11番目のプロバスクラブで、会員20名をもって設立された。現会長は、仲村参郎氏である。

お詫びと訂正

『ガバナー月信』1月号に掲載しました、地区大会フォーラム「ロータリーと教育改革」の吉本勲第1グループガバナー補佐よりの発言要旨(16ページ2列目下段11行目より3列目上段16行目まで)に、誤りがありましたので謹んでお詫び申し上げます、下記のように訂正をお願い致します。

次世代に毅然とした日本を

吉本 深川クラブの吉本でございます。前川ガバナーが提唱された教育問題はその通りだと思います。ただ、ひとつだけ付け加えたいことがございます。我々のロータリークラブは国際ロータリーの一員であると同時に日本のロータリークラブであるわけです。「御国に捧げよ我らの生業」というロータリーソングはあまりにも古めかしくて、さすがに私もついて行けません、日本は国際社会において侵すことなく、また侵

されることなく独立国として毅然として立たなくてはなりません。そのためにはどんな日本国でなければならないのか、どんな日本国を作らなければならないのかということに関心を寄せられてしかるべきだと思います。日本国のありようを考えると、臆病であってはいけません。次の世代にもこのことが教えられ、伝えられなければいけません。先に掲げられました5つの教育目標に加えまして6つ目にこのことを掲げたいのですがいかがでしょうか。

会員の声

ガバナー公式訪問 スピーチに乾杯！

奥貫一之(札幌東RC)



今年度小林ガバナーの最後の公式訪問は10月31日(木)札幌東ロータリークラブと新札幌ロータリークラブの合同例会の時に行われました。数々のハードルを乗り越え、上半期最後のイベントという事で肩に力が入った豪速球が飛んでくるのかなと思っていました所、地区大会冊子に詳しく紹介されている「健康・お金・愛」のソフトなお話でした。

RIラタクル会長の「慈愛の種を播きましょう」というフレーズに帰結させる、そして聴衆をうっとりさせる魅力的なスピーチでしたが、私がかくい入る様な気持ちで聞き入ったのは、ガバナーのお話の巧さもさる事ながら全く異なる切口からでした。それは同じ発想をスペイン人が日夜乾杯に託して口にしてしているからです。

私はスペイン大好き人間でバルセロナ大会参加時でスペイン訪問は実に12度目を数えております。そして北海道スペイン協会の副会長を拝命しておりますが、副会長の役目は宴会の乾杯役を勤める事が多いようで、その時私のスペイン語の先生から教わったスペインでの乾杯をいたします。乾杯の仕方が三通りあるのも珍しいのですが、人生にとって大切な事を乾杯に託しているのです。一番多いのは「サルー(健康のために)」です。二番目は「デ・ネロ」で健康も大切だけど人生お金がなくっちゃねえという本音が出ています。しかし本当の乾杯は「アモール(愛のために)」とされています。恋人同志や親しい人同志は、人生、健康も、お金も大切だけど一番大切なのは愛だとスペイン人は信じています。恋人同志は杯を重ねる度に「シエンプレ・アモール(心から愛しているよ)」とささやき合おうと言います。

私はある年マドリッドで美貌のフラメンコ・ダンサーに魅了され彼女に直接、

話をしたい思いにかられスペイン語を習いはじめました。動機が不純ね！と言いながら思いをとげたツーショットのシャッターを快よく押してくれた家内に感謝した事を思い出しながらガバナー公式訪問のスピーチを感激しながら聞かせていただいたレポートをさせていただきます。



すばらしい 若者たち

戸部アナマリア
(札幌はまなすRC)

私は昨年11月23日に釧路市で開催されたRI2500と2510地区合同の第1回北海道ロータリーアクト交流会に出席する機会を持ちました。参加申込みに当り、地区RA委員長の中塚力さんから何故参加する気になったかを聞かれましたが、私は現代のロータリーアクトの若者がどの様な考えか、えがいている夢や将来への希望を持っているかを直接聞き、知りたいからと答えました。

当日の釧路はとても寒い日でしたが、会場は熱気と活力に溢れており寒さを感じる間もありませんでした。会の運営、プログラムは全て彼等が作り、司会者は歯切れ良く、早いテンポで無駄なく会が進行したのには感心しました。

プログラムのそれぞれのお話を聞いているうちに、私は大きな感動を受けて



いる自分を発見しました。そして私達ロータリアンのローターアクトや現代の若者に対する役割は何人であるかを考えさせられて来ました。



二日間にわたり参加したローターアクト達と話し合う機会がありました。お陰で金髪や茶髪、そして現在のファッションを着こなしている若者達はとてもしっかりした自分を持っているという事がひしひしと伝わって来るのが感じられました。

RIは毎年の様に会員増強を大きな目標にかかっています。そして当地区でも次々と新クラブが生まれていますが、この様に素晴らしいローターアクトの人達が将来もロータリーの精神を忘れることなく活躍出来る場所を作りあげておく事が出来れば良いと思いました。



我々ロータリアンもこの様な社会状況の中で、あらためてロータリーの創立時の原点に立ち帰り、人や金だけが目標ではなく、四つのテストを想い出し、奉仕とは何かをもう一度考える必要があるのではないかと思います。ロータリアンには性別や年齢による差別はありません。明るく、楽しく、そして全員が平等であるというスピリットのもとで初めて本来のロータリー活動が出来るのではないかと思います。この交流会に参加してローターアクトの会員の方々から教えられたと思っております。

「ロータリアン宣言」試案

米山道男（札幌北RC）



最終講義を終えて（2002年3月8日）

昨秋の地区大会の記念フォーラムのタイトルは、「慈愛の種からどのような花を咲かせるか—新世紀におけるロータリー運動の目標と戦略—」でしたが、これは、ロータリーの大きな目標であった「ポリオ撲滅」もその達成が目前に迫り、ロータリーの第2の世紀が新しく始まろうとしている今こそ、過去100年のロータリーの歴史を振り返り、現状を分析した上で、来る100年のロータリー運動は何を目標に進んでいったら

よいのか、また、その目標を達成するためにはどのような戦略を描いたらよいのかを真剣に考える時期である、との思いから企画されたものです。

この企画を契機に、ロータリアンが考えていること、目指していることを簡潔に表現してみたいと思い、下記のような宣言文を考えてみました。これは、小林ガバナーとの対話の中から生まれたものです。内容・表現・取扱いなどについての御意見を、ガバナーま

たは小生あてにいただければ幸いです。

私達は、このような宣言によって私達の考えを広くアピールする必要があると思いますが、それに留まることなく、具体的な行動計画を立て、それを着実に実行していかなければならないと思います。

ロータリアン宣言(案)

1. 我ら、平和を愛するロータリアンは、戦争を含むあらゆる暴力行為に反対し、問題は話し合いによって解決しなければならないと考えます。
2. 我ら、自然を畏敬するロータリアンは、地上のあらゆる存在と共存していくため、率先して資源とエネルギーの浪費を抑制しなければならないと考えます。
3. 我ら、慈愛を目指すロータリアンは、不遇あるいは不当な境遇にあるあらゆる人々への共感と支援を惜しんではならないと考えます。
4. 我ら、未来に希望を抱くロータリアンは、次代を担う子ども達を尊重して、共に考え共に歩み、子ども達の自立を支援することを誓います。

ROTARIAN DECLARATION (draft)

1. We, Rotarians, who love peace, think that all violent acts including wars should not be allowed and that problems should be resolved by negotiations.
2. We, Rotarians, who respect nature, think that we should live in harmony with all beings on the earth and that we should take the initiative to reduce the wasteful use of natural resources and energy.
3. We, Rotarians, who try to sow the seed of love, think that we should have sympathy with and offer support to all the people who suffer from serious situations.
4. We, Rotarians, who hope for a better future, respect children, share problems with them and support them to stand on their own feet.

人類は、賢い面もあるが、多くの過ちも犯してきました。特に重大な過ちを3つ挙げるとすれば、「戦争をしたこと」「環境を破壊したこと」「弱者を抑圧したこと」でしょう。残念でないことに、これらの過ちは今なお続いています。このような問題を一歩ずつ解決し、すこしでも住みやすい社会にしていきたいというのが、私達ロータリアンの切なる願いだと思います。

宣言1について ロータリーが実施している様々な国際的な交流と支援の事業は、相互理解の促進と発展途上国の水準向上に大きく貢献しています。このような事業は、戦争を回避し平和に近付くために極めて有効であると思われまので、今後も一層推進していくべきものと思います。しかし現在、事態は切迫しています。日本の最大の誇りは、経済や技術ではなく、「過去半世紀、いわゆる大国の中で、戦争を(表立って)しなかった唯一の国である」ということです。平和主義こそが日本外交の立脚点であるべきだと思います。

日本は、東洋の偉人ガンジーの非暴力主義に倣い、戦争と暴力に反対し、話し合いによる解決でイニシアティブをとるべきだと思います。

宣言2について 人類は、地球46億年の歴史の中で最も遅れてきた存在、さらに言えば、地球に害を及ぼす癌のような存在ですらあると思います。従ってもっと謙虚に生きなければならないと思います。その点から考えてみても、いわゆる先進国による資源とエネルギーの浪費は目に余るものがあります。ロータリアンも贅沢な生活をしている人が少なくありません。私達自身も含めて、先進国における資源とエネルギーの浪費抑制が今後のロータリーの大きな目標の一つにならないといけないと思います。

宣言3について 子ども、ある場合には女性、さらには高齢者、病者・障害者、労働者、庶民、先住民・外国人のようなマイノリティー、難民、受刑者など、世の中には、恵まれない人達、不当な扱いを受けている人達が多

くいます。ロータリーは、過去100年、ポリオワクチンの普及、識字率の向上、子ども達への支援など、様々な実績を積み重ねてきました。今後も一層、すべての弱い人達への共感と支援を惜しんではならないと思います。

宣言4について 宣言3で挙げた人達の中でも、人類の未来を託す「子ども」は特別です。子どもは多くの可能性を秘めた素晴らしい存在です。しかし、子ども達は自分を確率しようと悩んでいて、それを様々な形で発信しています。私達は発信されたものを子どもの立場に立って受けとめなければならないと思います。一方、子ども達は澄んだ眼で世の中をしっかりと見ています。子どもは、単なる保護の対象ではなく、一緒に考え行動する強力なパートナーです。そして私達がいなくなった後も、子ども達には、そのまた子ども達のためにも、遅しく、正しく、生きていってほしいと思います。そんな願いを込めて、今、私達にできることをしたいと思います。

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

マルチプル・ボール・ハリス・フェロー					
今井國雄会員	(札幌南RC)	(1) 11月 8日	伊藤長英会員	(苫小牧北RC)	(7) 11月29日
佐々木実会員	(深川RC)	(2) 11月15日	伊藤竹雄会員	(静内RC)	(2) 11月29日
篠原達雄会員	(札幌モーニングRC)	(2) 11月15日	ボール・ハリス・フェロー		
村中俊二会員	(深川RC)	(1) 11月22日	松本純枝会員	(深川RC)	11月27日
近藤重明会員	(苫小牧RC)	(2) 11月29日	荻野秀明会員	(美唄RC)	11月29日
			三川秀樹会員	(美唄RC)	11月29日

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

米山功労者								
當摩浩平会員	(函館五稜郭RC)	7月 8日	大針道生会員	(浦河RC)	10月31日	嶋崎 映会員	(静内RC)	11月13日 (1回)
山科幸一会員	(えりもRC)	7月 9日 (1回)	砂原 肇会員	(浦河RC)	10月31日	高橋正亘会員	(静内RC)	11月13日 (1回)
伊部正弘会員	(函館五稜郭RC)	7月12日	福山恵太郎会員	(札幌南RC)	11月 1日	安原 實会員	(浦河RC)	11月13日
清藤堯士会員	(函館五稜郭RC)	7月12日	畑中俊介会員	(札幌南RC)	11月 1日 (1回)	福嶋 貢会員	(函館東RC)	11月19日
松本脩三会員	(札幌RC)	7月18日	今井國雄会員	(札幌南RC)	11月 1日	古田清一会員	(函館東RC)	11月19日
小樽南RC様		7月26日	金川一男会員	(札幌南RC)	11月 1日	長谷川幸央会員	(深川RC)	11月20日
丸福塗料株様	(札幌手稲RC)	7月30日	小林昌志会員	(札幌南RC)	11月 1日	板倉克宏会員	(深川RC)	11月20日
原口伸一会員	(新札幌RC)	7月31日	後藤由春会員	(札幌南RC)	11月 1日	北村幸雄会員	(深川RC)	11月20日
保木茂実会員	(新札幌RC)	7月31日	クリステンセンターキル会員	(札幌南RC)	11月 1日 (1回)	児島俊一会員	(深川RC)	11月20日
井原敏男会員	(新札幌RC)	7月31日	中井孝光会員	(札幌南RC)	11月 1日	松本純枝会員	(深川RC)	11月20日
池田 真会員	(新札幌RC)	7月31日	杉日幹雄会員	(札幌南RC)	11月 1日	松本佳巳会員	(深川RC)	11月20日
千秋 亨会員	(新札幌RC)	7月31日	平 昌夫会員	(札幌南RC)	11月 1日	村中俊二会員	(深川RC)	11月20日
白石正勝会員	(札幌東RC)	8月 9日 (5回)	武田利兵衛会員	(札幌南RC)	11月 1日	永井久之会員	(深川RC)	11月20日
福嶋 貢会員	(函館東RC)	8月27日	富樫英樹会員	(札幌南RC)	11月 1日	中澤 清会員	(深川RC)	11月20日
石田茂夫会員	(新札幌RC)	8月30日	中西泰司会員	(新札幌RC)	11月 5日	成田雅敏会員	(深川RC)	11月20日
紺野克彦会員	(新札幌RC)	8月30日	三上直彦会員	(札幌西北RC)	11月 7日 (2回)	小田幸晴会員	(深川RC)	11月20日
東海林義男会員	(新札幌RC)	8月30日	谷口二郎会員	(札幌西北RC)	11月 7日 (1回)	杉村 修会員	(深川RC)	11月20日
藤田安男会員	(赤平RC)	9月13日 (1回)	金坂和正会員	(札幌真駒内RC)	11月 7日 (1回)	寺岡義人会員	(札幌南RC)	11月20日
三箇一弘会員	(小樽RC)	9月19日	深見 浩会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	寺内輝夫会員	(深川RC)	11月20日
北大寺様	(札幌モーニングRC)	9月25日	藤本治康会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	山田圭二会員	(深川RC)	11月20日
山崎満晴会員	(伊達RC)	9月25日 (1回)	羽芝涼一会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	若狭幸藏会員	(洞爺湖RC)	11月25日 (2回)
天谷富雄会員	(室蘭東RC)	9月26日	原 明会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	宮崎あけみ会員	(函館東RC)	11月26日
川角 晃会員	(室蘭東RC)	9月26日	羽生有三会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	海老名元会員	(美唄RC)	11月29日
児玉直彦会員	(室蘭東RC)	9月26日	富士原勝三会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	池田康治会員	(美唄RC)	11月29日
前田康博会員	(室蘭東RC)	9月26日 (1回)	入口博美会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	荒木敏博会員	(岩見沢RC)	11月29日
鈴木久雄会員	(室蘭東RC)	9月26日 (1回)	井上英幸会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	五十嵐閣会員	(岩見沢RC)	11月29日
富田孝夫会員	(室蘭東RC)	9月26日	茅野政士会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	石田豊明会員	(岩見沢RC)	11月29日
矢萩富士雄会員	(室蘭東RC)	9月26日	汲田信夫会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	亀井信彰会員	(岩見沢RC)	11月29日
前川雅彦会員	(函館東RC)	10月 3日	松坂敏之会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	北市宗三会員	(岩見沢RC)	11月29日
大橋由政会員	(岩内RC)	10月 3日	村山順助会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	北澤治雄会員	(岩見沢RC)	11月29日
北嶋静雄会員	(新札幌RC)	10月 8日	長手英記会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	木元久嗣会員	(岩見沢RC)	11月29日
小林 博会員	(札幌北RC)	10月15日 (2回)	西野文雄会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	小林弘明会員	(岩見沢RC)	11月29日
小樽RC様		10月15日	沼田常好会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	三嶋 顕会員	(岩見沢RC)	11月29日
森谷明弘会員	(札幌真駒内RC)	10月17日 (1回)	大野 馮会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	森居 清会員	(岩見沢RC)	11月29日
大野義雄会員	(札幌西北RC)	10月17日 (1回)	大井綱雄会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	武蔵輝彦会員	(岩見沢RC)	11月29日
青木 司会員	(岩見沢RC)	10月18日	大屋建一会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	西村芳徳会員	(岩見沢RC)	11月29日
江島俊昭会員	(岩見沢RC)	10月18日	大塚知明会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	納谷輝雄会員	(岩見沢RC)	11月29日
長谷川暢一会員	(岩見沢RC)	10月18日	坂井 治会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	越智康博会員	(岩見沢RC)	11月29日
菊谷 悟会員	(岩見沢RC)	10月18日	佐藤文雄会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	佐藤紀征会員	(岩見沢RC)	11月29日
五本日出夫会員	(岩見沢RC)	10月18日	斎藤博司会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	佐々木啓司会員	(岩見沢RC)	11月29日
倉増秀昭会員	(岩見沢RC)	10月18日	佐々木俊英会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	千田一彦会員	(岩見沢RC)	11月29日
向田甚市会員	(岩見沢RC)	10月18日	坂口達也会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	谷 勲会員	(岩見沢RC)	11月29日
岡本 等会員	(岩見沢RC)	10月18日	白木松敏会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	山本公彦会員	(岩見沢RC)	11月29日
児玉和雄会員	(苫小牧東RC)	10月25日 (1回)	須藤 丈会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	山本辰男会員	(岩見沢RC)	11月29日
安田真也会員	(深川RC)	10月23日 (1回)	鈴木昭広会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	山根良隆会員	(岩見沢RC)	11月29日
伊藤栄一会員	(札幌東RC)	10月28日	多賀 勲会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	朝倉正人会員	(札幌東RC)	11月29日
谷口 博会員	(札幌東RC)	10月28日	田口 廣会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	星野恭亮会員	(札幌東RC)	11月29日 (1回)
吉山八郎会員	(札幌東RC)	10月28日	竹原 孝会員	(千歳セントラルRC)	11月11日			
荒川 敏会員	(深川RC)	10月30日	高塚信和会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	米山ファンフェロー		
伊藤 崇会員	(深川RC)	10月30日	千葉順吾会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	佐野文男会員	(新札幌RC)	7月31日
宮岸徹二会員	(深川RC)	10月30日	土居栄治会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	横路朋己会員	(新札幌RC)	7月31日
棚橋直登会員	(深川RC)	10月30日	和田次彦会員	(千歳セントラルRC)	11月11日	松井久男会員	(函館東RC)	9月 3日
渡辺一義会員	(深川RC)	10月30日	荒谷壽八会員	(深川RC)	11月13日	石田 実会員	(室蘭東RC)	9月26日
山腋一範会員	(深川RC)	10月30日	後藤田隆雄会員	(深川RC)	11月13日	川端武男会員	(三石RC)	10月 8日
伊藤長英会員	(苫小牧北RC)	10月31日 (4回)	成田昭彦会員	(深川RC)	11月13日	伊藤竹雄会員	(苫小牧北RC)	10月31日
福士幹也会員	(浦河RC)	10月31日	中谷一郎会員	(深川RC)	11月13日	円子 保会員	(美唄RC)	11月29日
小林忠雄会員	(浦河RC)	10月31日	大西道祥会員	(深川RC)	11月13日	下村寿太郎会員	(深川RC)	11月13日
三枝 實会員	(浦河RC)	10月31日	渋谷賢治会員	(深川RC)	11月13日	橋本耕二会員	(札幌南RC)	11月 1日
			杉澤健司会員	(深川RC)	11月13日			

残念ながらCAPの申請ゼロ

CAPとはCommunity Assistance Program（地域社会援助プログラム）の略で、その申請は昨年12月末で終了しました。全国35地区から126件の申請がありましたが、残念ながら我が2510地区からの申請はゼロでした。

次年度はCAPへの積極的な申請をお待ち致します。お隣りの2500地区からも数件の申請が出ています。どんな申請が採択されるかといいますと、そのいくつかを紹介致します。いずれも1,000ドルから3,000ドルまで出ております。

地区	クラブ名	プロジェクト	補助金(米貨)	地区	クラブ名	プロジェクト	補助金(米貨)
2540	大曲	介護用エアー・マット	2,000.00	2760	知立	高齢者と児童の交流の場へ備品の提供	1,340.00
2540	秋田南	食卓と椅子を障害者施設に提供	1,000.00	2690	倉敷	麻疹予防接種推進の広告	2,000.00
2540	ニツ井	採卵箱の設置	1,000.00	2690	児島	防犯カメラ設置	4,500.00
2540	大曲仙北	福祉作業所にロッカーを贈呈	1,000.00	2630	上野	高齢者に寄席を提供	1,000.00
2540	花輪	植林	1,200.00	2690	倉敷東	難聴幼児通園施設にエレクトーンとテント	1,000.00
2580	東京東大和	救急ハウス	1,000.00	2690	倉敷南	紙芝居	1,000.00
2580	東京後楽	親子ふれあいコンサート	2,000.00	2520	岩谷堂	図書館の寄贈	1,000.00
2540	横手東	文化琴とカヤックを孤児院に贈呈	1,294.00	2520	盛岡中央	ジュニア・サッカー・クラブへ試用テントの寄贈	1,000.00
2540	本荘南	ボーリング・セット、ドラム、タンバリンを障害者施設に贈呈	1,000.00	2520	宮古西	不登校を考える父母の会に備品を提供	1,000.00
2570	秩父	警察署内広告塔の塗り替え	2,135.00	2730	宮崎西	知的障害者施設にカラオケの贈呈	1,000.00
2540	秋田北	障害者の共同作業所に調理器具を贈呈	1,000.00	2630	志摩	学校荒廃から再生までの映画上映	1,000.00
2820	ひたちなか	外国人妻のための漢字教科書作成	1,500.00	2660	大阪梅田東	PCの贈呈	1,000.00
2820	古河東	植樹	1,000.00	2530	福島南	空き缶、ペットボトル回収機	
2820	常陸太田	植林	3,000.00	2530	郡山南	標識の設置	
2820	日立	障害者施設に器具の贈呈	2,336.00	2530	会津若松西	介助講習会	
2770	栗橋	公園のゲートと遊具のペンキ塗り替えと非常食づくり	1,583.33	2740	多久	車椅子贈呈	1,000.00
2770	桶川イブニング	熱気球体験	1,500.00	2690	米子東	作文コンテスト	1,500.00
2710	小野田	麻薬撲滅の立て看板	1,000.00	2500	帯広東	児童養護施設に自転車の寄贈	1,400.00
2660	大阪中央	和太鼓を情緒障害児治療施設に贈呈	1,858.30	2500	旭川西	旭山公園に桜を植える	1,400.00
2710	山口南	介護を求める方の送迎バスにステッカー	1,000.00	2500	雄武	老人ホームの境界に桜を植える	1,500.00
2750	東京立川	小学生写真展	2,000.00	2710	尾道	千光寺公園に桜を植える	1,000.00
2790	成田コスモポリタン	介護用品の使い方を説明するためのビデオの贈呈	1,048.00	2710	広島中央	福祉法人設立準備のための喫茶コーナーに備品提供	1,000.00
2730	鹿児島西南	少年野球	1,500.00	2710	福山	植樹	1,000.00
2650	京都洛西	コンサートの主催	1,000.00	2500	釧路	アイスホッケー選手養成トレーニング会	1,443.00
2650	長浜東	ジュニア・オリジナル・コンサートの主催	1,000.00	2630	四日市東	知的障害者に海の素晴らしさを体験してもらう	1,000.00
2570	坂戸さつき	バス停にベンチの提供	2,500.00	2630	鈴鹿シティー	自然の再生	1,000.00
2650	福井南	一乗城山に案内板の設置	1,000.00	2810	仙台青葉	四ツ谷用水カルタ配布プロジェクト	1,000.00
2650	滋賀湖北	クッションチェアへの贈呈	1,000.00	2710	広島空港	絵本の贈呈	1,000.00
2650	桜井	望遠鏡の設置	1,000.00	2570	吹上	サマーキャンプ	2,000.00
2650	宇治	中国残留孤児に日本語の教材を提供	1,000.00	2720	熊本水前寺	時計台の贈呈	9,800.00
2650	彦根	四つのテストのパネル作成	1,000.00	2520	軽米	車椅子と長いソファへの贈呈	1,000.00
2650	野洲	時計台の贈呈	1,000.00	2770	浦和東	河津桜の植樹	3,500.00
2650	京都朱雀	知的障害者による野外活動の絵画	1,000.00	2680	宝塚	プロジェクトとトランポリンの贈呈	2,521.00
2730	鹿児島サザンランド	紫外線防止用ハットの贈呈	2,000.00	2680	上郡	パソコンとプリンターの贈呈	1,858.00
2570	羽生	サッカー	1,000.00	2630	松阪山桜	環境保全カレンダーの作成	1,000.00
2750	東京広尾	児童虐待防止キャンペーン・ビデオ	8,000.00	2590	川崎大師	公園遊具の贈呈	10,000.00
2760	尾張旭	音楽会の開催	2,300.00	2740	長崎北東	聴覚障害生徒に楽器の贈呈	1,100.00
2760	豊川	植樹	1,500.00	2740	伊万里	防犯カメラ設置	1,000.00
2760	春日井、名古屋空港、豊山-城北	新世代に思いやりの心をセミナー	4,859.00	2740	ハウステンボス佐世保	車椅子の贈呈	3,816.67
2730	日南中央	四つのテストの看板設置	1,260.00	2710	岩国中央	日本語教室	1,000.00
2550	馬頭小川	楷の木の植樹	1,000.00	2680	香住	植樹	2,585.00
2650	八日市南	生徒会役員会議	1,000.00	2680	芦屋川	さおり織機とミシン	3,036.00
2730	鹿児島城西	新世代剣道大会	1,325.00	2840	桐生赤城	アイスホッケーの防具の寄贈	5,250.00
2730	出水	ツルの調査のための測定器具を贈呈	1,080.00	2840	館林	楽器の寄贈	2,336.25
2520	山田	作文コンテスト	1,000.00	2570	行田さくら	図書館の寄贈	2,000.00
2710	三次中央	街路樹	1,000.00	2830	弘前西	冷凍冷蔵庫の寄贈	1,000.00
2500	斜里	介護ベッドの寄贈	1,300.00	2830	青森	除雪道具の寄贈	1,000.00
2630	中津川	デジタルカメラの贈呈	1,000.00	2800	鶴岡	知的障害者施設にカラオケセット	1,000.00
2630	羽島	河川美化カレンダー	1,000.00	2800	かみのやまZAO	発電機の寄贈	2,000.00
2520	盛岡北	知的障害者施設にパソコンの贈呈	1,000.00	2740	諫早多良見	養護学校にテントの寄贈	1,000.00
2520	盛岡南	図書館の寄贈	1,000.00	2770	大宮北東	障害者の観緑会	1,000.00
2520	宮古東	ゴミゼロ運動	1,000.00	2710	防府	子育て支援講演会	1,000.00
2550	真岡西	ヒマラヤ桜の植樹	1,000.00	2810	仙台平成	リフティングテーブルの贈呈	6,700.00
2550	矢板	バス停にベンチ	1,000.00	2800	天童	老人ホームに掃除機	1,000.00
2550	鹿沼東	花一杯運動	1,000.00	2800	天童東	知的障害者にグラウンド・ゴルフ	1,178.95
2550	鹿沼中央	外国人を招いての餅つき大会	1,000.00	2800	鶴岡東	青少年の育成	1,974.00
2550	佐野	マットと大型整理台車を社会福祉協議会に贈呈	1,000.00	2830	八戸東	草刈機の寄贈	1,000.00
2550	栃木西	花一杯運動	1,000.00	2830	青森	LD児童の親の会への援助	1,000.00
2550	足利わたらせ	障害者施設にユニフォームを贈呈	1,000.00	2730	鹿児島中央	捨て猫と捨て犬の里親探し	1,080.00
2550	岩舟	ガールスカウト団にテントを贈呈	1,000.00	2740	佐世保中央	盲導犬のドライバー	1,000.00
2550	栃木	ハナミズキの植樹	1,000.00	2580	久米島	児童・生徒表彰	2,000.00
2740	佐賀北	車椅子用体重計	1,083.33	2660	豊中千里	点字子供図書室の普及	3,333.00
2710	防府北	知的障害者施設にテントを贈呈	1,000.00	2580	東京豊島東	自然ふれあい教室	5,000.00

12月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			02.7.1	02.12.31	増減	内女性	
1	深川	4	46	44	-2	2	88.62
	羽幌	3	47	48	1	1	82.64
	妹背牛	4	12	12	0	0	81.25
	小平	4	15	17	2	1	72.06
	留萌	4	69	66	-3	0	87.94
	小計		189	187	-2	4	82.50
2	赤平	4	37	37	0	1	91.22
	芦別	4	60	58	-2	0	94.46
	砂川	3	61	56	-5	0	92.73
	滝川	3	108	112	4	2	80.00
小計		266	263	-3	3	89.60	
3	美唄	4	48	47	-1	0	86.11
	江別	3	50	49	-1	2	91.83
	江別西	3	41	41	0	3	90.24
	岩見沢	3	97	102	5	0	91.75
	岩見沢東	4	33	34	1	3	92.68
	栗沢	4	35	35	0	2	89.00
	栗山	4	34	33	-1	2	91.93
	当別	4	46	46	0	0	91.49
	小計		384	387	3	12	90.63
	札幌	3	120	128	8	0	98.46
4	札幌あけぼの	3	19	18	-1	1	100.00
	札幌はまなす	4	29	29	0	4	85.35
	札幌北	3	58	57	-1	7	92.26
	札幌モーニング	3	61	62	1	0	75.81
	札幌西	4	75	80	5	2	91.20
	札幌西北	4	52	55	3	2	91.73
	札幌手稲	3	52	52	0	0	98.72
	小計		466	481	15	16	91.69
	札幌東	4	123	123	0	0	99.33
	札幌清田	4	26	28	2	5	97.12
5	札幌幌南	3	88	83	-5	0	100.00
	札幌真駒内	4	50	49	-1	2	97.18
	札幌南	3	97	99	2	0	97.32
	新札幌	4	42	40	-2	2	85.12
	札幌大通公園	3	17	18	1	5	82.35
	札幌セントラル	4	0	24	24	7	89.60
	小計		443	464	21	21	93.50
	岩内	3	37	37	0	0	72.97
6	倶知安	4	54	53	-1	4	81.00
	小樽	4	96	95	-1	0	91.35
	小樽南	4	86	87	1	0	88.58
	小樽銭函	3	20	20	0	2	90.00
	蘭越	5	18	18	0	0	62.50
	余市	3	49	49	0	4	89.56
	小計		360	359	-1	10	82.28

クラブ数	72クラブ
期首会員数	3,458人
当月末会員数(女性)	3,486人(101人)
増加会員数	28人
当月平均出席率	85.21%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			02.7.1	02.12.31	増減	内女性	
7	千歳	4	74	74	0	2	88.30
	千歳セントラル	3	33	34	1	0	86.70
	恵庭	4	50	49	-1	0	81.63
	北広島	3	16	16	0	2	91.11
	長沼	2	18	18	0	4	80.50
	由仁	4	18	17	-1	1	80.56
	小計		209	208	-1	9	84.80
8	えりも	4	27	27	0	0	87.04
	三石	3	20	19	-1	1	74.73
	様似	4	24	25	1	2	88.50
	静内	4	68	68	0	0	87.88
	浦河	4	41	36	-5	1	88.64
	小計		180	175	-5	4	85.36
	伊達	3	53	56	3	0	80.33
9	室蘭	3	66	64	-2	0	94.27
	室蘭東	4	56	55	-1	1	94.00
	室蘭北	5	52	51	-1	2	77.25
	登別	3	40	39	-1	2	85.00
	洞爺湖	4	14	14	0	0	89.60
	小計		281	279	-2	5	86.74
	函館	4	101	105	4	0	74.44
10	函館亀田	3	51	53	2	1	78.52
	森	4	51	49	-2	0	72.00
	七飯	4	33	32	-1	0	85.00
	長万部	3	11	11	0	0	69.60
	小計		247	250	3	1	75.91
	江差	4	20	20	0	0	62.50
	函館五稜郭	3	71	71	0	0	89.62
11	函館東	4	67	66	-1	6	82.66
	函館北	4	46	47	1	0	81.04
	上磯	4	34	34	0	3	62.50
	松前	4	8	8	0	1	63.00
	小計		246	246	0	10	73.55
	白老	3	34	34	0	1	81.00
	苫小牧	3	68	69	1	0	83.95
12	苫小牧東	4	33	34	1	3	91.17
	苫小牧北	4	52	50	-2	2	87.78
	小計		187	187	0	6	85.98
	合計		3,458	3,486	28	101	85.21

計 報

松本 守 会員
(俱知安RC)
平成14年11月3日
ご逝去(享年77歳)



《ロータリー歴》
1983年 入会・出席委員
1985-86 幹事
1990-91 副会長
1993-94 会長
1998-99 職業奉仕委員長
2002-03 マゴコロ箱委員長
会報雑誌委員

計 報

黒田 泰 会員
(札幌東RC)
平成14年12月7日
ご逝去(享年89歳)



《ロータリー歴》
1972年7月6日入会
米山功労者
1977-78 出席副委員長
1979-80 SAA
1981-82 親睦活動副委員長
1984-85 雑誌委員長
1988-89 プログラム副委員長
1992-93 副SAA
マルチプルボールハリスフェロー

計 報

山本智雲 会員
(札幌西RC)
平成15年1月4日
ご逝去(享年80歳)



《ロータリー歴》
1969年2月18日 入会
1970-71、78-79 クラブ会報委員長
1973-74、83-84 職業奉仕委員長
1975-76 音楽委員長
1980-81、86-87 社会奉仕委員長
1990-91 雑誌委員長
1992-93 副会長
1995-96、97-98 職業分類委員長
マルチプルボールハリスフェロー

計 報

松田浩一 会員
(当別RC)
平成15年1月18日
ご逝去
(享年62歳)



《ロータリー歴》
2000年1月11日 入会

掲 示 板

○ 幹事変更

札幌真駒内RC

泉仁史会員が都合により退会のため、南部昭憲副幹事が代行を務めます。

○ 例会変更

美唄RC 2月13日(木) 夜間例会18:30~

江別RC

2月6日(木) 創立記念例会19:00 場所:花寿し
2月13日(木) 12:30 場所:セレモニーホールはやし大森会場

札幌セントラルRC

2月4日(火) 移動例会

2月11日(火) 休会*

岩見沢RC

2月14日(金) バレンタイン休会*

2月28日(金) 夜間例会

岩内RC 2月20日(木) 夜間例会12:00~ 場所:あづま鮎

小樽・小樽南・小樽銭函 RC

2月22日(土) ロータリークラブ創立記念小樽3クラブ合同例会

17:15~ 小樽グランドホテル

岩内RC 2月20日(木) 夜間例会18:00 場所:あづま鮎

室蘭東RC 2月12日(水) 休会*

注) *定款第5条第1節に基づく休会

○ お詫び・訂正

1月号の中で誤りがありましたので訂正致します。ご迷惑をお掛け致しました。各クラブの皆様には、深くお詫び申し上げます。

P27 年会金について

浦河RC 140,000円、入会金30,000円

函館RC 190,000円

函館亀田RC 170,000円、入会金50,000円

函館五稜郭RC 180,000円

函館東RC 190,000円

函館北RC 180,000円

P28 ロータリー財団への寄付

深川RC 7/1~11/30までの達成率

163.79%

※地区内第2位となっております。

2・3 月地区カレンダー

2月 世界理解月間			3月		
日	曜日	行事	日	曜日	行事
1	土	} 米山記念奨学生選考試験(札幌パークホテル) 国際親善奨学生研修会(当別道新研修センター)	1	土	
2	日		2	日	チーム研修セミナー(千歳全日空ホテル、10:00~)
3	月		3	月	
4	火		4	火	
5	水		5	水	
6	木		6	木	
7	金		7	金	
8	土		8	土	第7グループIM(ホテル日航千歳、13:00~)
9	日	} 第23回札幌国際スキーマラソン(札幌ドーム、9:00~)	9	日	
10	月		10	月	
11	火		11	火	
12	水	} 家族週間(第2週)	12	水	} 世界ローターアクト週間(3/13を含む週) 札幌西北・西・北、手稲RC合同例会(後楽園ホテル、18:00~)
13	木		13	木	
14	金		14	金	
15	土	} 第6グループIM(余市町公民館、13:30~) 第8グループIM(様似町公民館、12:30~)	15	土	} 財団セミナー・米山セミナー(千歳全日空ホテル、13:00~) 会長エレクト研修セミナー(PETS) (千歳全日空ホテル、10:00~ 16日9:30~)
16	日		16	日	
17	月		17	月	
18	火		18	火	
19	水		19	水	
20	木		20	木	
21	金		21	金	
22	土	} 第4・5グループIM(札幌ルネッサンスホテル、13:00~) 米山奨学生歓送会(パークホテル、17:30) ロータリー創立記念小樽3クラブ合同例会(小樽グランドホテル、17:15~)	22	土	
23	日		23	日	
24	月	} ロータリー創立記念日、世界理解と平和の日 第9グループIM(室蘭市市民会館ほか、14:10~)	24	月	
25	火		25	火	
26	水	} 第3グループ会長・幹事会・職場訪問例会(小林酒造㈱、17:00~)	26	水	
27	木		27	木	
28	金	} 世界理解と平和週間(2/23~3/1)	28	金	
29	土		29	土	第10、11グループIM(函館ロイヤルホテル、14:00~)
30	日		30	日	
31	月		31	月	

事務所だより

- 毎月の会員数および出席率の報告は、最終例会終了後15日以内ですので、期日の厳守をお願い致します。
- 月信への原稿をお寄せ下さい。特にクラブ活動、会員の声へのご投稿をお待ち致します。投稿の際には、スナップ写真も添えてください。
- 2月のロータリーレートは、122円です。

国際ロータリー第2510地区 2002-2003年度 ガバナー月信

発行人 2002-2003年度ガバナー 小林 博

発行元 国際ロータリー第2510地区 2002-2003年度ガバナー事務所

発行日 毎月1日発行 年12回

編集委員 ◎竹原 巖 (地区幹事) 委員長 大田すみ子 (地区幹事)

熊谷 満 (地区幹事) 脇田 稔 (地区幹事)

アドバイザー 米山 道男 (地区幹事) 松木 新 (アイワード)

事務局 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会館6F

TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526 E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp

印刷:(株)アイワード TEL241-9341



ロータリー会員地域紹介

余市町



余市町の「花」………りんごの花

余市の果樹栽培は、アメリカ産のりんごの苗木から始まり、日本で初めてりんごを実らせた。余市もいまでは果樹栽培の広がりを見せ、フルーツ王国の名にふさわしい実績をあげています。

りんごの品種「緋之衣」が会津藩の入植地である余市町山田で明治12年に最初に実り、札幌博覧会では大好評を得た。



えびす岩・大黒岩

この岩はえびす・大黒という日本の神様によく似ていることから、その名で呼ばれています。

「えびす」「大黒」は七福神の中で商売繁盛の神様と言われ、昔商人たちは自分の店にこの神様をまつり、商売繁盛を願って毎朝拜んでいました。



ご意見・投稿募集

『ガバナー月信』では、より会員の皆様の声を反映させた誌面づくりを行いたいと考えております。『月信』に関するご意見・投稿などございましたら下記事務局へ。

事務局 札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館6F

TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526

E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp



国際ロータリー第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

2002-2003 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER No.9

ガバナー月信

3月号
March

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR 小林 博 KOBAYASHI HIROSHI

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp





小林 博

上に立つものの責任

上に立つものの責任とは何だろうか？ まず柔軟な発想と改革の意識を持つことではないか。京セラ会長の稲盛和夫氏はある本で次のように述べている。「意識改革なくして構造改革なし。いまこそ勇気と知恵を持って真の改革をすすめなければ日本は没落してしまう……大きな痛みを伴うかもしれない。そうであったとしても、変化を恐れることなく、困難を避けることなく、我々の未来のために行動を起こさなくてはならない。しがらみを断ち切り、既得権益を投げ捨て新しい社会をつくり上げる勇気を持たなければならない」。

小泉改革を支持する立場の日本経団連の奥田碩会長は最近、日本記者クラブで要旨次のような講演をしたと新聞が報じている。奥田会長はリーダーの条件として①改革に取り組む信念を、真先に指摘し、次いで ②説得あるビジョンの提示 ③敗者への配慮を欠かさない責任感 ④率先して行動すること—を挙げ、小泉首相については「完べきとはいえないが、これらの資質を十分持っている。改革を応援したい」と述べている。

我々ロータリアンは各々が一つの組織のリーダーであることが多い。先の稲盛さんや奥田さんの言葉をすぐあてはめるわけにはいかないにしても、その基本的なことは十分な理解と共感をもって受け入れられるのではないかと思う。

さらに指導者の人柄とか人間性という点については、地区幹事の米山道男会員（札幌北RC）は次の三つがリーダーの条件として大切ではないかといっている。一つは人間としての明るさ、人柄とか包容力。二番目は人間としての賢さで、物事の進むべき方向づけをする判断力。三つ目は人間としての強さ。失敗しても反対があっても恐れずやりぬく実行力のことである。

いまロータリーは大きく変わろうとしている。変えるべきものは変えなければいけないし、そのための改革の勇気も大切である。また各職場にあってはロータリアンは組織牽引のリーダーとして、人間一人ひとりがおかれる状況の違いを超えて、自らの属する組織（その大小に関係なく）で心して最善をつくさなければと思う。それは職業奉仕の心であり、また社会奉仕、国際奉仕から家庭奉仕に至る周辺のすべての人達に対する「慈愛の心」の実践に他ならない。

慈愛の心を上に立つものが率先実践することが即ロータリーという組織をよくし、また自らの属する組織をよくすることにつながる。自戒をこめて言うのだが、上に立つものの責任を考えてみるのが、まず上に立つものの責任と心得たい。

目次

ガバナーレター	小林 博	2	ブリスベン国際大会と「日本人親善朝食会」へのお誘い	23
地区委員会前期活動報告		3	クラブ活動紹介	24
ガバナー日記		7	えりもRC・札幌北RC・函館大谷高校インターアクトクラブ・室蘭東RC	
ロータリーQ&A		12	会員の声	26
追悼 富田嘉市バスターガバナー		13	今川徳郎(江差RC)・佐藤順一(当別RC)・大橋由政(岩内RC)・中村和雄(札幌手稲RC)・喜多 昌(えりもRC)	
竹山涼一・大橋康次・牧野 嵩			掲示板	28
文庫通信		14	ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます	28
ガバナーとの対話		15	JGFR北海道大会へのお誘い	28
地区活動紹介		18	ロータリー財団国際親善奨学生募集	28
国際親善奨学金委員会・新世代委員会・広報委員会			事務所だより	28
小中学校で講義をしてみませんか	米山道男	19	1月会員増減数・出席率報告	29
ワークショップのご案内		20	3・4月地区カレンダー	29
アンケート調査の結果と分析		21		
オーストラリアからの受け入れ学生紹介		23		
2003年冬季キャンプ		23		

地区委員会前期活動報告

2002.7~2002.12



クラブ奉仕委員会 委員長 神代利臣(札幌幌南)

- ①当地区では恐らく初めてであろう、地区内全会員に対する「ロータリー意識調査」を行った。
- ②12月末現在の回収率は50%であるが、ガバナースタッフ・事務局員の協力により集計作業を行った。



職業奉仕委員会 委員長 富岡公治(札幌西北)

- ①地区委員会においてロータリー創立以来の職業奉仕理念の誕生及びその後の経過と現状に対する勉強会を開催した。
- ②10月の職業奉仕月間を中心として地区内クラブから卓話の要請があった場合、地区委員会により各委員が分担して派遣実施した。
- ③平成14年10月7日、札幌市中央区民センターにおいて、小林博ガバナーを講師として、第1回ロータリー市民講座を開催し、約80名の市民が全道から聴衆として参集した。

小林博講師の「がんと人間」というテーマの話は、自分及び家族の身近にがんの患者がいる人もおり、深い感銘を与えた。



ロータリアンによる小学校の課外授業
“みんな仲良く、家庭のこと”

3.4年生の児童に囲まれる和田壬三会員(中央)



社会奉仕委員会 委員長 対木正文(札幌西)

- ①地区内5カ所(滝川、余市、苫小牧、函館、札幌)で7月から10月にかけて、地区社会奉仕委員会が主催し、クラブの社会奉仕委員長さんを対象とした意見交換会を開催。事業のマンネリ化を防ぎ、真に地域社会が求め時代にあったプロジェクトについて情報交換した。
- ②札幌で昨年10月に開催された身体障害者の世界大会の意義をクラブに伝え、クラブから拠出された80万円を大会事務局に手渡した。
- ③地区委員会を地区内各地で7回開催した。



家庭奉仕委員会 委員長 和田壬三(札幌幌南)

- ①6月1日、7月4日委員会を開催し、各委員の家庭奉仕観について、地区幹事、ガバナー、地区社会奉仕委員などを交えて、お聞きしましたが、単なる家事手伝いが社会奉仕ではないことに気づき、勉強会をすることにしました。
- ②8月17日(土)土橋信夫会員から、家庭とは、どのような集団であり、現代においては、愛情だけでは、幸な家庭を築くことが難しいとして、「親業訓練」という方法があることを教えていただきました。
- ③9月14日(土)土橋会員の奥様の芳美さんから、「親業訓練」とは、どのようなもので、その効果について具体的事例を交えてお話をいただきました。尚この時には、オープン参加とし、約10名のロータリアンが参加しました。
- ④10月24日(土)池上公介氏を講師に招き、登校拒否児や引き込みりの青年の問題点及びこれらの児に対する具体的な指導方法について学びました。
- ⑤11月15日(金)大場公孝氏から、知的障害児への指導法について学びました。



友情交換委員会 委員長 金井重博(札幌南)

- ①地区内、姉妹、友好クラブ調査と、11月号の月信で詳細発表。
- ②札幌地区国際関連団体の図書と、姉妹、友好調査、詳細を地区内72クラブに郵送
- ③地区対地区の交流として、以前、当地区とアメリカのアリゾナ州との交流を企画、第一回目の会談を、苫小牧で石垣パストガバナー、青木国際奉仕委員長とでアリゾナのRI5490地区パストガバナーWheeler氏と懇談した。
- ④プリズペンでの北海道ナイトを企画、特に会場予約。招待状企画印刷。



国際奉仕委員会 委員長 青木功喜(札幌東)

申告した活動計画に沿って、予定通りに進め、その一部はガバナー月信にても公表しました。
会計の報告は金井委員長から行われる。



情報委員会 委員長 亀井敏清(函館)

地区情報委員会は、各クラブ、各会員よりG事務所、当委員会に寄せられた定款・細則、クラブ運営に関しての質問に対し、G月信にQ&A方式をもって解答若しくは条文の解釈を、月信1号より6号迄掲載した。Qの件数19件。

委員会開催2002年9月24日、札幌にて、文献・IC、情報3委員会合同委員会を開催した。



文献資料室委員会 委員長 塚原房樹(札幌東)

- ・岩城G年度の地区ホームページをベースにして、7月1日付けにて、現小林Gのホームページを立ち上げました。IC委員会をはじめ滝川RCの有志のかたがたのお骨折りで、日本全地区の中でも、トップレベルの豊富な内容を持ったホームページとなりました。
- ・地区協議会において各クラブに地区のIT化のPRとお願いをした。
- ・IC委員会と提携して、各クラブのインターネット連絡の受け皿整備。



IC委員会 委員長 山田信夫(苫小牧)

(1) メールマガジンの配信

配信数 28
配信先数 267
地区役員へのDM 67

バックナンバーのページの開設

(2) インターネット活用の普及促進

卓話でIC委員会活動の紹介 1件
ウイルス対策支援 5件
2500地区情報セミナーへ講師として参加しメールマガジンを紹介

(3) IT化支援

ホームページ作成支援 2件



新世代委員会 委員長 奥貫一之(札幌東)

ロータリープログラム内の新世代関連委員会の横のつながりを模索する諸活動

- ・組織的な活動の代表的行事は9月のライラセミナー

- ・個別に少人数による各新世代の交流多数
- ・全国ガバナー会による青少年育成委員会に出席 (10月)



「新世代達の交流風景」

右から
インターアクト顧問 岡部先生(札幌北ローターアクト会長)
一般新世代
JALパイロット 訓練生 松下君、財団奨学生 星井さん(ニュージーランド)、米山奨学生 ルステム君(トルコ)、ROTEX小砂君(アメリカ)、ホストファミリー 奥貫せつ
(写真提供 新世代委員長 奥貫一之)



インターアクト委員会 委員長 細川好弘(静内)

- 7月・2日、ライラ委員会
 - ・6日、13日 海外研修事前研修 (北海高校)
 - ・13日、23日 顧問会議
 - ・20日、27日 海外研修事前研修 (各高校毎実施)
- 8月・1日～5日 海外研修 大韓民国ソウル市周辺 (インターアクター18名・顧問8名・留学生1名・ロータリアン2名 合計29名参加)
 - ・24日 地区委員会 (ホテル ライフオート札幌)
- 9月・3日 ライラ委員会
 - ・7日～8日 ライラセミナー (ジュニア部門・NTT研修センター)
 - ※詳細ライラ委員会
- 10月・11日 顧問会議
- 11月・7日 (世界インターアクト週間) 委員長例会卓話 (札幌東RC)
 - ・16日～17日 RC地区年次大会 パネル展示 (厚生年金会館)
 - ・21日 顧問幹事 (金山教諭) 協議 ・25日 新世代委員会
- 12月・16日 新世代関連委員会議



2月9日(日)札幌国際スキーマラソン交流会でインターアクター顧問教師と次年度活動について情報交換
堀田次期地区委員長(札幌東一上右)細川現委員長(静内一上左)



2002年8月2日 海外研修（韓国ソウル市）
福祉施設「明暉園」を視察、韓ヨセフ園長（左）へ奉仕の心を伝える佐伯茂昭地区インターアクト代表（北海高校）



ライラ委員会 委員長 宮崎善昭(札幌西)

①ジュニア・コース

2002年9月7～8日、札幌NTTセミナー・センター、講演 石川淑子氏
豊平川川岸清掃奉仕、ライラリアン参加者95名、ロータリアン参加者32名、顧問10名

合計117名参加

②シニア・コース

2002年9月21～22日、札幌JR研修センター、講演 宮崎幸雄 米山奨学会常務理事

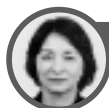
ライラリアン46名、ロータリアン42名、合計88名参加



ライラ研修風景



研修に参加した皆さん



青少年交換委員会 委員長 清水慧子(長沼)

	行事实施日	行 事 名
02年		2002年アメリカ・スイス短期受入学生来日
7月	2002.7.14(日) 第1回委員会	01-02年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ受入学生帰国報告会 02-03年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ・台湾 受入関係者オリエンテーション 02-03年度派遣学生渡航手続き最終説明会 01-02年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ受入学生送別会・ 02-03年度派遣学生壮行会・2002年短期受入学生歓迎会（合同開催）
	2002.7.28(日) 第2回委員会	03-04年度派遣候補学生選考試験
8月		2002年アメリカ・スイス短期受入学生帰国・2002年アメリカ・スイス短期派遣学生出発 01-02年度派遣学生帰国・02-03年度派遣学生出発 01-02年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ受入学生帰国 02-03年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ・台湾受入学生来日
9月		2002年アメリカ・スイス短期派遣学生帰国
	2002.9.1(日) 第3回委員会	02-03年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ・台湾受入学生オリエンテーション 02-03年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ・台湾 日本語教育説明会・ホスト別懇談会 01-02年度派遣学生帰国報告会 02-03年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ・台湾受入学生歓迎会
	2002.9.7・8(土・日) 第4回委員会	ニセコキャンプ・第1回派遣学生オリエンテーション
10月	2002.10.14(日) 第5回委員会	青少年交換事業説明会 第2回派遣学生オリエンテーション
11月	2002.11.10(日) 第6回委員会	03-04年度オーストラリア クラブカウンセラーオリエンテーション 第3回派遣学生オリエンテーション
	2002.11.17(日)	地区大会
12月	2002.12.15(日) 第7回委員会	02-03年度オーストラリア受入学生帰国報告会 03-04年度オーストラリア受入関係者オリエンテーション 02-03年度オーストラリア受入学生送別会



ロータリー財団委員会 委員長 森本正夫(札幌西北)

昨年度は規定の変更など、ロータリー財団に動きがあった。経済の低迷に比例して寄付も低調な状態であるので、ガバナー月信を通じて会員各位に寄付をお願いした。ポリオプラスの寄付金についても11月現在で800ドルという状況であったので、各クラブに3年間で150ドルの拠出をお願いした。



財団増進委員会 委員長 若狭吉範(札幌北)

- ①2510地区の全クラブに対し、2002年～2003年度のロータリー財団への寄附予定額を自主申告して戴きました処合計284,650ドル申告して戴きました。2002年12月末に於ける実績は\$ 133,873.06で達成率47%となって居ります
- ②2002年11月16日地区大会第1日目午後の本会議で委員会活動状況を報告致しました。
- ③2002年12月14日(土)北海学園大学理事長室で開催された地区ロータリー財団委員会に出席し、変化するRIロータリー財団の状況、ルール等を勉強しました。



国際親善奨学金委員会 委員長 土橋信男(札幌南)

- ①2003-04年度の国際親善奨学生選考 11名を決定
2年間奨学生 2名、1年間奨学生 2名
6カ月文化研修生 2名、3カ月文化研修生 5名
- ②国際親善奨学生オリエンテーション 2回
7月20日 財団本部への申請書類の記載について
10月5日 これからの準備について
- ③ロシアからの国際親善文化研修生の受け入れ(ホストクラブ)
リュウバ・イグリナ(札幌モーニングRC) 7月-10月
アリサ・コワレンコ(札幌真駒内RC) 7月-9月
- ④次年度の奨学生募集に関する計画作成



財団学友委員会 委員長 鍋谷操子(函館東)

- 1. 委員会の開催
第1回7月27日、第2回10月11日、第3回12月6日
- 2. 活動内容の報告
 - ①財団学友会総会への参加
 - ②財団学友のRC卓話紹介
滝川RC-片岡徹、深川RC-神部寿郎
千歳RC-岡宏幸
 - ③財団学友会への賛助金支援
 - ④財団学友会活動を地区大会パネル展示で紹介
 - ⑤帰国財団学友報告会の準備



財団学友帰国報告会

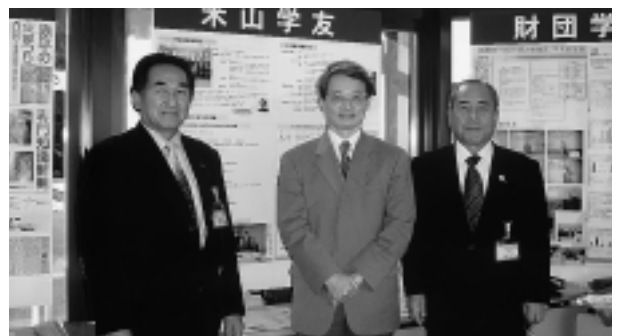


懇親会



米山学友委員会 委員長 見延庄三郎(小樽南)

- ①米山学友会(北海道)の名簿から現状確認調査
結果68名中46名 68%確認 引き続き確認作業を継続
- ②学友会とロータリー学友委員会との合同会議を3回開催
- ③ライラセミナーに参加 学友3名、委員5名 計8名
(9月21-22日)
- ④(11/16-17)地区大会参加 米山学友会PR展示パネル出展
- ⑤第3回(平成15年度)米山学友会総会及び懇親会開催
学友21名、ロータリアン6名 計27名 (於)札幌ロイヤルホテル



地区大会展示パネルの前で



米山学友会総会風景

ガバナー日記

クラブ訪問

今年度の活動も前半を終え、後半は今までの足りなかったことを補う形にしたいと念じている。とくに今年度からRIの指導にそってガバナーの公式訪問は合同例会を原則とするDLPの実施に踏み切ったために、ガバナーと各クラブ会員との関係が希薄にならざるを得なかった。この点をカバーすべく各クラブの要望を受け、つとめて各クラブを訪問し各クラブ会員との交流に努めたいと考えている。

その1つは、先月1月27日札幌大通公園RCの夜間例会に出席し、ポリオのお話をさせていただいた。ついで1月31日(金)岩内RCの主だった方々との交流を深める機会があった。岩内RCの野澤幸平会員からは是非一度岩内に来るようにとのお誘いを受けていたので、奥貫一之(札幌東RC)、見延庄三郎(小樽南RC)ご夫妻ともども岩内きっての名湯、聖観湯に1泊させていただいた。岩内RCはWCS実施のパイオニアクラブでもあり、大橋由政会長、武井優幹事ほか主だった方との交流は大変有意義だった。二次会では大橋会長、奥貫会員らのカラオケに魅せられた。前日から私ども夫婦は吹雪のなかを自分の運転する車で登別、洞爺を通してニセコを周り岩内に着いただけの甲斐があったと大変満足したのである。



左から奥貫一之・廣田満男〔後方〕・大橋由政・武井 優〔間 めがね〕・佐藤泰視〔後方〕・鳴海馨誠〔手前めがね〕・小林ガバナー・近藤徹哉・見延庄三郎・斉藤 徹〔後方〕・伊藤正敏・野澤幸平の各氏

財団奨学生研修会

国際親善奨学金奨学生が7月以降3、6カ月、1年、2年のスケジュールでそれぞれの国に派遣されることになっている。奨学生全員11名のほかロータリアン10名、財団学友5名、そして奨学会委員会の委員の計凡そ30余名が2月1日(土)、2日(日)当別町スウェーデンヒルズ(道新研修センター)における1泊の研修会に出かけた。

この企画は昨年に引き続く二度目だが、奨学生に奨学金を出すだけでロータリアンとの人間的交流が希薄な現状を憂いた土橋委員長の発想で始まったものである。奨学生は自己紹介と留学計画を話すのだが、みんな目が輝

き夢いっぱい胸膨らませ、「若い人はいいな」との思いに浸る。奨学会委員の瀧川哲夫(札幌手稲RC)、戸部アナマリア(札幌はまなすRC)のお二人から有意義なお話を伺ったあと会食。



奨学生の激励にかけつけたかつての奨学生(現学友)、後列は関係のロータリアン

土橋委員長から私に何か一言と言われたので、冒頭に「おめでとう」と言ったあとロータリアンからいただいた浄財を謙虚に受けとめ「ロータリーとのご縁をいつまでも大事にしていていただきたい」とお願いを申し上げた。また夕食後再び挨拶をということで、私は「積極的であれという多くの方の発言は大賛成だが、積極的に発言する内容を普段から作っていかなければならない」とことと、もう一つは「我々日本人としてのアイデンティティーが必要であるとの話であったが、もう一つアジア人としてのアイデンティティーも大事である」と二つのことを申し添えた。宿泊の予定をあきらめ、富田嘉市PG(室蘭RC)のご逝去に伴い急遽室蘭に行くべく帰宅させていただいた。

●●●●● われわれを送り出す財団奨学生 ●●●●●



今井愛実
(フランス、3カ月)



上森奈穂美
(タイ、6カ月)



中村理子
(トルコ、6カ月)



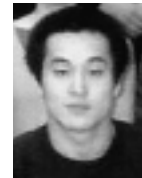
内山裕子
(オーストラリア、3カ月)



小橋麻美
(イタリア、1年)



西原明希
(イギリス、1年)



加茂実武
(イギリス、3カ月)



兼子 歩
(アメリカ、2年)



星井絵里子
(ニュージーランド、3カ月)



平岡美緒
(アメリカ、2年)



求馬久美子
(ドイツ、3カ月)

7月以降、諸外国に学ぶ国際親善奨学金奨学生女性9、男性2名。元氣な帰国報告を楽しみにしています。

富田嘉市PGご逝去

1978-1979年度のガバナー富田嘉市会員は1月31日(金)の朝に逝去されたとのこと。享年87歳。地区を代表しお別れの会に出席することにした。汽車に乗り込んだところ、たまたま大橋PGと隣り合わせの指定席となり、いろいろ昔話などを拝聴させていただいた。2月2日(日)午前11時のお別れの会にご遺影に焼香し、ご遺族に挨拶するだけの簡単なものだったが、沢山の方のお参りであった。ちなみにご三男の富田孝夫さんは室蘭東RCでご活躍中。

焼香が終わって斎藤修弥ガバナー補佐(室蘭RC)と速藤秀雄ガバナーノミニ(登別RC)のお誘いを受け3人でプリンスホテルでお昼を一緒にさせていただき楽しかった。改めて故富田嘉市PGのご逝去に心からお悔やみを申し上げる次第である(p13, 14を参考に)。

米山記念奨学生選考委員会

室蘭から札幌に戻ってすぐ、米山記念奨学生選考委員会(札幌パークホテル)に出向いた。丁度選考の終わったばかりだったが、応募者の学問的なレベル、経済的背景、そして国別の配分、ならびにホストクラブの地域性など実によく配慮されているので安心した。人間が他人を評価することは難しく、私自身も選考委員として2年間選考にあたったときのことを思い出した。改めて米山記念奨学生選考委員会の委員の皆さんのご苦勞に感謝したい。

ロータリーの友委員会

2月3日(月)夕刻、ロータリーの友(雑誌)委員会が開かれた。従来ガバナー所属のクラブから選出のロータリーの友地区委員1名だけが孤軍奮闘していたわけだが、年ごとの計画を継続性をもって進めた方がよからうということで、今年度からはロータリーの友委員会は前年度および前々年度および次年度の3人の委員に加わっていただき、現在のロータリーの友委員長佐藤公会員(札幌北RC)とあわせて計4人の構成になった。

今回の委員会の議題の一つは『ロータリーの友』編集長の二神典子さんをお呼びしてワークショップを行ったかどうかということであった。ワークショップとは単なる講演会ではなく一つのテーマについて同じ目線に立って討論を深め、一つの結論を導き出すようにしようという狙いである。従って人数も比較的40~50人以内の小人数が一般的である。例えば「地区会員に対するロータリー情報の伝達はいかにあるべきか」というタイトルのワークショップになるのであろうか? とすれば広報委員会、IT委員会との共催になろう。しかも地区幹事によって作られている『ガバナー月信』(地区のロータリーの友ともいわれる)の作成担当者との係わり合いも出てくる。前進を祈る。

『月信』の編集委員会

『ガバナー月信』の編集委員会は、月平均3~4回持たれているが、毎回結構な負担である。竹原巖編集委員長のほか米山アドバイザーも常時出席である。2月4日(火)の編集委員会は、少し遅れている2月号の最終校正と、3月号の枠組を検討した。ちなみに、熊谷委員(地区幹事、札幌北RC)が全ページの校正を担当されているので、誤字、誤植がまずほとんど見当たらないのも熊谷委員のお陰である。

『月信』は従来のようなトップからの情報伝達であれば、何の事はないが、ピチャイ・ラタクル会長の言われるように、これからのロータリーはボトムアップでなければならない。そうであれば、その精神を生かすための月信は全会員の意見交流の場であるのが望ましいとの考えで進めてきた。

子ども奉仕委員会

子ども奉仕委員会(米山道男委員長予定)のことはここ数号毎回紹介をしている。子ども奉仕のための拡大委員会として、2月4日、いつもの土橋、奥貫、和田、対木、富岡、近藤各委員会委員長(近藤会員は代理)と米山、竹原両地区幹事、並びに木村幹事エレクトが出席してホテルアルファ札幌にて開催。また、特に学校側の意見を拝聴しようということで、市立北九条小学校(高橋校長ら3名)、市立幌北小学校(野田校長ら2名)、市立北辰中学校(渡辺校長ら3名)の計9名の先生方にご出席いただき、今後の子ども奉仕委員会のあるべき姿を検討した。特に小中学校における課外授業をこの4月から始めるにあたってのロータリアンの名簿作成、更に職場研修などの具体的な話し合いがもたれた。学校側としては、もう1校市立白楊中学校を是非加えていただきたいとの希望で、了解した。



子ども奉仕委員会に集った左側小中学校の先生方、右側ロータリーアン

インフルエンザにかかる

2月4日(火)は朝から疲れていた。そのうち背中がザワザワしてきたので、熱があるようだ。でも午後から予定されていた月信の編集委員会や子ども奉仕委員会など



熊谷満会員

のスケジュールもあったので頑張っていた。夕方になって、これ以上無理してはいけないと思い、子ども奉仕委員会は出席はしたが懇親会に入ったときに失礼させていただいた。

そのまま帰宅して床について翌日、かかりつけ医の小林孝夫会員（札幌北RC、地区大会実行委員長）に診てもらったところ、鼻汁の発色テストでインフルエンザとの診断。予防接種をしていなかったのがいけなかったようだ。ガバナーエレクトを拜命してから始めての完全ダウンとなった。結局まる4日ベッドについてしまった。

新聞紙上にもインフルエンザはいま大流行である。小林孝夫会員によるとインフルエンザの流行のピークはいつも「雪まつり」の頃とのこと。インフルエンザワクチンの効果は接種後1カ月ぐらいてしてから出はじめ、その効果は6カ月続くので、予防接種は前年の10、11月に済ませておくのが望ましい。少なくとも発病間近になってからでは遅すぎるとのことだった。なお、ウイルス感染から発病まで1～2日といわれるが、幸いガバナー事務所の誰にも移していないようで安心した。

余市でのインターシティミーティング(IM)

2月15日(土)第6グループ(岩内、小樽、小樽銭函、小樽南、倶知安、余市、蘭越RC)のインターシティミーティング(IM)に参加すべくJRで余市駅に到着。余市RCの安田亘会長がわざわざ駅まで迎えに来てくださる。すぐ昼食に第6グループの近藤徹哉ガバナー補佐の経営されるお店の一つに案内された。そこで基調講演に予定の政治経済評論家の石井一二氏とも初対面。近藤ガバナー補佐とは知己の方で幅広い話題の持ち主で、その後の基調講演も楽しくまた有意義に聞かせていただいた。

基調講演の演題は「こんな日本に誰がした 混迷のロータリー」というタイトルだった。日本の抱える政治経済の現状をずばりの解説で、消費税ゼロにする、公共資金の提供、カジノの合法化など日本改革の15の提言で大変好評、質問も相次いだ。ロータリアンが政治経済を語ってはいけないといわれているが、ロータリーとして行動してはいけないという意味で、一人ひとりが論議することは大いに結構なことではないか。



第6グループIMではプロ顔負けのロータリアンの演技でもりあがった

基調講演が終わってから懇親会に入ったが、第6グループのロータリアンの歌唱力には全く脱帽。紅白に分かれての芸人ぶりはプロも顔負け。終わって小樽まで車でご案内いただき、あとは列車で札幌に戻る。

地区幹事をなぜ同伴しないのかとの質問をいただいたが、私はガバナー補佐がおられるのだし、このような機会はガバナー一人で十分であり、地区幹事の皆さんには家庭奉仕に励んでいただきたいと答えることにした。

様似でのインターシティミーティング(IM)

翌2月16日(日)朝8時発の道南バスにて3時間かかって浦河ターミナル着。第8グループ(浦河、えりも、様似、静内、三石RC)の郷司公雄ガバナー補佐(様似RC)が迎えに来てくれ、すぐに車で様似に移動。日高海岸は雪はなく晴天。遠く見えるアポイ岳の山々が白く美しい。昼食ののちIM。

第8グループのIMは「ロータリーの夢と希望を語ろう」ということで、全員が5つのグループに分れそれぞれ自分のロータリーに対する夢、希望を語り合い、各グループのリーダーがそれをまとめ、さらにそれを私が講評するというような展開となった。今までのIMはすべて特別講演の演者による一方的な話題提供に終始していたそうだが、このグループで初めての討論会ということもあり大変評判がよかった(p17を参照ください)。

加えて懇親会には東京からきた小松原ルナさんの色気たっぷりのカンツォーネを聞かせていただいた。加藤鉄二実行委員長(様似RC)の煎入りらしい。勉強の疲れが一辺に飛んだ感じで極めて和気あいあいと楽しく「今日のIMは良かったね」との声しきり。終わってすぐ帰札の予定だったが郷司ガバナー補佐のお勧めで泊まることにした。二次会には様似RCの女性会員2人と会員のご夫人方を含め20余名が集まりみんなで酒と海の幸で楽しく談笑した。



坂本好則会長(様似RC)を中央にみんなで楽しく談笑、右端郷司公雄ガバナー補佐

札幌でのインターシティミーティング(IM)ほか

2月22日(土)第4、5グループのインターシティミーティング(IM)が札幌ルネッサンスホテルにて開催。テーマは「慈愛の種は家庭から」で司会は和田壬三会員(札幌南RC、家庭奉仕委員会委員長)。

土橋信夫会員(札幌南RC)の基調講演の後、ご夫人の土橋芳美さん、大場公孝会員(上磯RC)、池上公介会員(札幌モーニングRC)、松本純枝会員(深川RC)と4人のパネリストによる講演。その後1時間余フロアからの熱心な質問が相次いだ。



土橋芳美さんのお話にきき入る [撮影：長谷川久夫会員 (札幌セントラルRC)]

ロータリーの四大奉仕をいう前に最も足元にあって大事なのが家庭奉仕ではないかとの趣旨から始まったものである。家庭をいかに平和にもたせるか、また家庭不和による家庭内暴力、不登校をどのようにして予防できるかという問題が大いに討論された。

基調講演並びにパネリストの素晴らしい演説もさることながら、フロアからの思いがけない質問が今回のIMを成功に導いた最も大きな力になったのではないだろうか。一般市民の参加も許された。最後に私自身は皆様の貴重な話の中から慈愛の種を家庭にもたすために大事なことを3点にまとめてみた。1つは相手の話を良く聞くこと。2番目、相手の言うことを理解し相手の人格、人権を認めること。3番目、お互いに誉めあうこと。誉め殺しでも良い。相手を誉める為には口先だけではいけないので、相手を認めることから始まり相手の話を良く聞くことによって熟していく。心から相手のいいところを認め、理解し誉めることが出来れば家庭も職場も組織も和やかなものになっていくのであろう。

皆様のお話を聞きながら私は英語で次のように言えるかと考えてみた。

Love begins at home. Home is where the heart is. Rotarians make the home happy.

(愛は家庭から始まる。家庭は心の宿るところである。ロータリアンは家庭を幸せにする。)

懇親会が始まってすぐ米山記念奨学生の歓送会(札幌パークホテル)に移動した。予想外の大雪で時間もかかったが間に合ってよかった。米山記念奨学生の日本語は本当に上手である。日本人学生に聞かせたいと思うほどだった。

ちなみに今日の朝は江別ロータリークラブの西村学会長が思わぬ事故で脊髄損傷で入院しているのをクラーク病院にお見舞いした。2度目のお見舞だったが顔色もよく声にも元気が出たようでよかった。ロータリー会員に代わってお見舞いの言葉を申し上げたが、西村会長は心から喜んでおられた。やはりお見舞して良かった。

室蘭でのインターシティミーティング(IM)

翌23日(日)第9グループのインターシティミーティング(IM)に出席。東室蘭着、藤川康司会員(室蘭RC)の出迎えを受け、齊藤修弥ガバナー補佐と一緒に昼食。第9グル

ープのIMのテーマは「命の尊さ がんに挑むがん学ぶ」ということで、私自身の基調講演の後、西村昭男会員(室蘭RC、日鋼記念病院グループ理事長)などのご参加をいただき市民と一緒にがんに関する「何でも相談」を行ったのである。齊藤修弥ガバナー補佐



正直なところ私自身の専門の「がん」と「ロータリー」とは全く別世界のものと考えていたが、齊藤ガバナー補佐の意表をつく企画によって私自身がロータリアンとしてまたがん学者の1人として室蘭の市民の皆さまに会い見ることになった。齊藤AGの狙いはがんは単なる病気としての理解ではなく健康を損なう一番大きな疾病として、しかもこれが我々の最も身近な病気となってきたこと、またこの病気によってロータリー活動を断念せざるを得なかった多くのロータリアンを見てきたうえでの企画であったように思う。



室蘭は道内でも屈指の高い医療レベルを持つところとして知られている。市民の皆さんから頂戴した質問も非常にレベルの高いもので、今回の市民トークは大成功であったように思う。私自身の基調講演は思いきって15分ほど短縮し、その分コーディネーターの齊藤修弥AGに司会の「市民とのトーク」に使ってもらってよかった。

なお、このロータリー市民講座には新宮正志室蘭市長ほか多くの室蘭市民の参加があり、また第10グループのガバナー補佐松見修二会員ご夫妻も札幌の第4、5連合のIMに引き続いて参加してくださいました。

また、先の藤川康司会員は室蘭を訪れるたびに齊藤修弥AGの補佐としていつも車で送り迎えなどをお務め下さって、ただ感謝の一語あるのみである。

ロータリー市民講座終了の後は場所を室蘭市民会館から室蘭プリンスホテルに移動し、そこで第9グループの会員およそ200名による懇親会。遠藤秀雄ガバナーノミニ、守屋弘ガバナー補佐エレクト、新宮室蘭市長の参加もあって大いに楽しいひと時を過ごすことが出来た。

第3グループ会長幹事会、ならびに栗山ロータリークラブ公式訪問

昨年7月の栗山・栗沢合同例会に公式訪問の時、栗山RCの北川清則会長から来年の2月25日(火)にもう一度公式訪問していただきたいとのご依頼を受けていた。何のことかと思っていた疑問がようやく解けた。

3時30分のライラックで岩見沢駅着。岩見沢RC小林弘



小林酒造の工場見学、中央辻野修ガバナー補佐

明会長、荒木敏博幹事の出迎えを受け、前ガバナー補佐の向田甚市さんと一緒に会場の小林酒蔵（栗山RC小林米三郎氏の経営による）に行く。しばし小林会長とお話の後、第3グループの江別RC西村孚会長を除く全会長幹事が出席。辻野修ガバナー補佐のいつもの見事な采配でてきぱきと行事は進む。よく学び、よく遊べをモットーに非常によくまとまったグループで、しかも非常に意気盛んである。

会長幹事会が終わってから小林酒蔵の酒造りを見学。同じ小林という名のこともあるが子供の頃からの小林酒蔵を見学したいとの夢がようやく果せた。現会長の小林米三郎氏は新潟出身の3代目。米造りの伝統を守り続けておられる。

6時から栗山ロータリークラブの夜間例会が始まる。第3グループの会長幹事も同席。「こうやって和やかな皆さんの雰囲気の中に浸るとロータリーの出会いの縁をしみじみと感じます。」と簡単な挨拶をさせていただいた。

栗山ロータリークラブの皆さんが手作りの豚汁や小林酒蔵提供の各種のお酒のもてなしとあって和やかな公式訪問となった。ここで北川会長はもとより久住八郎幹事ほか栗山RCの皆さんに心から厚く御礼申し上げたい。終わって岩見沢東RCの坂田知樹会長が札幌在住とのこと。わざわざ拙宅まで送っていただく。その間の会話も楽しかった。



手づくりの豚汁を堪能（左から 関会員、磯見会員、中村会員、梅津会員—いずれも栗山RC）

ピチヤイ・ラタクルRI会長の説かれる愛。
わたしの主張するフレンドシップ。
そして、ヒトと環境の調和。

吉 本 勲 （深川RC）
神 経 科 吉 本 病 院
TEL 0164-22-7130（代）

広告

Q1; クラブ内では、次年度へ向けて各種準備をスタートしております。クラブ予算を作るに当たって留意すべき点を教えてください。

A1; クラブ予算を作成するに当たって、留意する点は大凡何点かあります。まず、予算作成は当該年度(会長エレクト)の理事会が作成します。(推奨クラブ細則第10条第5節)クラブによっては会計が作成するものと誤解しているクラブがあります。

会計の任務は総ての資金を管理保管し、毎年1回及び理事会の要求ある毎にその説明を行い、その他その職務に付随する任務を行うものであり、資金支出の妥当性及び適合性について意見を発言する立場でなく、会計事務の執行者として会計の任務です。

2点目は、収支計算書案を作成し、理事会承認のもと収支予算書を作成します。

一般会計には当然収入の部、支出の部に分かれますが、この一般会計はあくまでクラブ運営費であって、クラブが行う奉仕活動費に支出することは許されません。

3点目は、クラブで行う奉仕活動の原資が必要となりますから、予算書に特別勘定を設けます。(みなし予算)ですがニコニコBOXを財源として四大奉仕部門の実践に対する予算を作成し、支出配分をします。

ご存知のようにニコニコBOXは会員又はビジターよりの善意のお金ですから、一般会計に繰り入れたりクラブ運営のために使用することはできません。

一般会計予算を取り崩すことのないよう、理事会は常に会計より収支の報告を受け、予算執行することが肝要です。

Q2; クラブ内には、各種の会合(例会・理事会・協議会等)がありますが、それらの参加と意義について教えてください。

A2; ロータリーの原点は会合にあると言われております。

ロータリーの発足の原点も4人の会合から始まり、98年にも亘る発展の歴史には数え切れない多くの会合が原動力となって成長、拡大し今日に亘っております。

ロータリーの会合は、クラブの会合・国際ロータリーの会合等があります。今回はクラブ内の会合に絞ってお答えします。

クラブには次のような種々の会合があります。
1.例会 2.クラブ協議会 3.クラブ討論会 4.クラブ理事会 5.年次総会 6.家庭集会 7.委員会 8.親睦会 9.同好会

1. 例会

ロータリー・クラブ定款第5条第1節 例会には本クラブは毎週1回細則に定められた日及び時間に会合を開かなければならない。と明記されています。この例会は全世界ロータリアンに出席の機会を与えるものであり、クラブ会員は会員の義務と特典の第一に挙げられているのが例会出席です。例会出席について、初期のロータリーのバイブルを書いたガイ・ガンディカーはロータリーの例会は「Live wireの如し」と言っております。「電流の流れている電線の如し」と言っているのは、例会に欠席することは、電気が通じたり通じなかった

りするようでは、ロータリーの根本的な親睦が損なわれてしまうということです。又日本のロータリーの創始者米山梅吉は、ロータリーの例会は“人生の道場”であると言っております。“入りて学び、出でて奉仕せよ”まさにロータリーの例会出席無くしてロータリー無しであります。

2. クラブ協議会・クラブ討論会

この二つの会合はともすれば混同しがちな会合です。

まずクラブ協議会(Club Assembly)

会長は、クラブ会員から全幅の信頼を得て、クラブを代表すると共に、クラブ運営管理の責任があります。従ってその熱意、識見が反映され、年々クラブの面目が新たになります。

前年度踏襲形では、一年毎の会長交換の意味が全くなくなってしまいます。ロータリーの真の目的を達成させる為のクラブのプログラムと活動は、各分野の委員会活動に直結されており、夫々の委員会とクラブ運営が両輪のごとく円滑に推進してからこそクラブの活性化と活動実践が成されるのです。そのため会長の主宰で、理事役員、各委員の出席のもと、クラブ運営や奉仕活動に関する計画や実践の手法又実施状況について協議する公式な会合であります。

このように委員会活動とクラブ運営についてクラブ管理責任者と各分野の委員長と協議する会合ですから、新会員を始めとする多くの会員がクラブを理解する為に出席が奨励されております。

年間6回以上の開催が望まれています。

3. クラブ討論会、クラブ・フォーラム Club Forum

Forumという言葉はラテン語からきたものですが、古代ローマでは一般市民の集まる広場のことであり、それが公会所となり、裁判所を意味し法定の意味にも使われていましたが、今では普通討論会の意味に使われています。

ロータリーでは通常ロータリーの諸問題を検討する為参加会員の役職上の資格などを制限しないで、誰でも自由に討論出来る会合であります。

クラブ・フォーラムは必ずしも結論や決議を出すものではなく、各年度に四大奉仕部門について少なくとも各一回以上時間をかけて開催されることが推奨されています。

近來、このクラブ・フォーラムを例会時の卓話の時間を利用して、リーダーが独り独演し、討論もせずに終わってしまうことがあるようですが、それではフォーラムにはなりません。

開催にあたっては、フォーラム・リーダーを決め予め論題を掲げ、適当な資料を配布するなり、事前に予告しておく必要があります。

4. 理事会

理事はクラブ細則に定められており、理事会構成には会長、副会長、会長エレクト、幹事、会計、直前会長の7名が含まれております。(細則第2条)理事の定数によっては会員のなかよりさらに定数を満たす数の理事を総会で選出されます。

総会で決定した次年度理事会は1週間以内に会場監督を選出します。SAAを理事とすることも出来ます。理事会はクラブの最高の管理運営機関であり、その最終決定は提訴する以外に覆すことは出来ません。(定款第9条第3節)

理事会は細則第4条第4節に従い定例の理事会を開催しますが、理事会が成立する定数は過半数で過半数以下の理事の出席では理事会は成立しません。

臨時理事会は会長が必要ありと認めたと、又は理事2名の要求があった時に開催することも出来ます。

理事会の出席 理事の出席は勿論ですが、理事以外の出席例えば各委員長又は一般の会員は理事会の出席要求がない限り出席できません。理事会構成員には四大奉仕部門の委員長は理事の中から会長が任命することになっております。(細則第7条第1節(c))他の特定分野を担当する委員会(小委員会)は理事に選出されない限り理事会出席は出来ませんが、担当する委員会活動や予算執行について理事会に諮問する必要がある時は担当する常任委員会(四大奉仕)委員長又はクラブ幹事を通して出席要請をし、理事会の要求のもと出席することは可能です。但し決議権はもちません。※理事会の会合の出席はメークアップとなります。

定款第8条第1節(a)(6)

Q3; 昨年9月に実施された地区クラブ奉仕委員会のアンケートのなかに、インフォーマル・ミーティング(Informal Meeting 家庭集会)の設問がありました。当クラブでは実施していませんが、必要の是非と意義について教えてください。

A3; 家庭集会 Informal Meeting

家庭集会是元々炉辺会合Fire-Side Meetingが改称されたもので、この歴史は1937年に遡ります。当時シカゴクラブのメンバー、ハーブ・アングスターがシカゴ近郊のハイランドパークに移り住んだ頃その町にロータリアンが12人も住んでいることを知り、我が家に招待し大きな暖炉の前でロータリーのこと又ロータリー以外の世間話に花を咲かせた集まりが始まりました。

この楽しい集まりに集まったメンバーは夫々に彼らの家庭で開き始めそれをファイヤー・サイドミーティングと呼ばれ、ロータリーの素晴らしい要素となって定着したのです。

RI発行の「クラブ奉仕No.238-J」というリーフレットによれば、「クラブ内のロータリアンは、どうすれば一層良く知り合いになれるでしょうか? またどうすればロータリアンが自分達は真にクラブ活動の一部なのだと感じ、安心して持つことが出来るでしょうか? その答えは炉辺会合です」と答えています。

このファイヤー・サイド・ミーティングも、時と共にその目的が変化してきております。当初クラブでの協議会や討論会の会合より離れ、自由な話題で友好を深めるいわばロータリーの非公式のロータリアン任意の会合でしたが、RI理事会はクラブ情報委員会に極力出席を奨励し、クラブ会員増強の指針とし、情報集会としております。

現在、家庭集会と呼ばれておりますが、2001年手続要覧には地区会員増強の項に情報集会……と記されております。

この点日本事務局に問い合わせたところ、英文ではInformal group Meetingとあり、ミーティングの内容や形式によって家庭集会と使い分けているようです。クラブの情報委員会の分野として新会員はもとより、会員に対して情報提供とクラブの融和促進の場として大いに活用すべきであります。

※毎月号のロータリーQ&Aは各クラブ又は各会員より寄せられた質問に対しての回答です。

追悼

富田嘉市 パストガバナー



富田嘉市先生の冥福を祈る

R.I元理事 竹山涼一 (1983-84 パストガバナー)



今年の冬はいつになく寒さが酷しく、立春を迎えた昨今も氷点下が続いております。丁度1月末日、富田パストガバナーご逝去の知らせが小林ガバナー事務所から入り愕然といたしました。早速三男に当たる富田孝夫さんに電話をかけて経緯を伺いましたが、3年程肺気腫のため入院されていたとのこと、一度もお見舞いに行けず残念でした。享年85歳富田さんは私より5年先輩のガバナーでしたから私達は殆ど同年令でガバナーをつとめたわけです。

加えて懐かしい思い出があります。伊藤元理事(1977～78当地区PG)が現ガバナー、富田先生がノミニーの時の地区協議会は私の札幌南クラブがホストで開催され、私はその時点でクラブ会長だったという事実です。(1978年6月3日 札幌パークホテル)

更にこの協議会の前日には東京で2度目の国際大会が39,800名という有史以来の参加者をもって開かれたのです。将にその後の推移を考えますとロータリーの盛況期といえるでしょう。

そしてその後一年間室蘭市からの初めてのガバナーをつとめた富田さんは私が知る限り力強くても温厚な、熱心な反面極めて謙虚なお人柄でした。私はその5年後に夢想だにしていなかった同じ任務につくのですが、ロータリーの世界でなければ知り合うことがなかったかも

しれない喜びを感じておりました。

最後に具体的な事例として地区協議会の時の「ガバナー就任のあいさつ」からその一部を引用いたします。

「私はガバナーと呼ばれますが、親切なカウンセラーであり、アドバイザーであり管理者にすぎません。だからといって私はオールマイティな超人でもなく、欠点の多い人間であり、能力や指導力に於ても限界があります。皆様方の中にはベテラン会員が沢山おられます。どうぞその方々の知識と能力と企画性更には意欲をお貸し下さい——」

富田先生。折にふれた御指導色々ありがとうございます。どうぞ安らかにお眠り下さい。

合掌

富田パストガバナーを偲んで

大橋康次
(1988-89年度 パストガバナー)



富田パストガバナーが1月30日にご逝去、2月2日室蘭市の慈心院本館で、お別れの会のご案内を受け、私は当日、小林ガバナーと一緒に、富田さんのご霊前に永久の別れと、心からの冥福を祈りご焼香してまいりました。

富田さんは、私より10年先輩のガバナーであり、ロータリーで初めてのお付き合いでありました。業界は異なりましたが、お互いに共通する話題があり、以来親しくご指導、ご交誼をいただきました。室蘭RCは、当地区第4番目、1936年(S11年)創立の名門クラブであり、経済界で著名な有力会員が多くおられました。その中で富田さんは、クラブ初めてのガバナーでありました。富田さんに思いもかけずガバナー・ノミニー候補の指名がありました時、企業人の立場から大変困惑されましたが、クラ

ブ全員から、また先任のパストガバナーお二人からも熱心に説得され、大決断で漸く引き受けられましたと述べられています。

富田さんのお人柄については、慶応義塾大学在学中、相撲部の勇将として活躍されたというエピソードもあり、その性格も豪放にして明快な、まさに快男児というべき風格を備えていると、親しいロータリーの友人が述べられています。

また経済人として、青年会議所の初代理事長をつとめ、また商工会議所の副会頭の要職に付かれ、室蘭地区経済界の重鎮として活躍されておりました。また庶民的なお人柄からも、多くの市民から慕われ敬愛されていたことをお別れの式場で、クラブの方々から伺ったのでありま

す。

私のガバナー年度(1988-89)、室蘭市は「鉄鋼不況」の年に当たり、この年度室蘭RC会員の提唱による「室蘭ルネッサンス」運動をクラブのプログラムに入れ、その運動推進に協力しました。「室蘭ルネッサンス」運動は、市民が主役となった新しい街づくりの方式で、企業、文化、女性の団体そして労働団体などの共鳴のもと、88年4月社団法人組織として発足させ、この運動のシンボルとして

測量山の鉄塔7基のライトアップを会員企業の協力を得て、88年11月常設点灯をスタートさせました。以来今日まで、室蘭市の希望の灯として続けられ、同市の観光名所として親しまれています。

以上のように室蘭RCの奉仕活動は、地域のニーズに応えた奉仕活動のあり方を示すものと深く思うものであり、このプログラムを指導された富田パストガバナーに心から、敬意を表するとともにご冥福をお祈りいたします。

富田嘉市さんを悼む

室蘭ロータリークラブ会長
牧野 嵩



富田さんが1月30日亡くなられました。1日も早いご快癒を祈っていた我々にとって誠に痛恨の極みであります。心不全のため2年前から室蘭市立総合病院に入院しており、85年のご生涯でありました。

富田さんは、小学校、中学校とも地元で、大学は慶應義塾で、卒業後は室蘭に帰り、戦時中は日本製鋼所室蘭製作所に勤務、戦後は室蘭産物、室蘭製氷冷蔵、室蘭通船の取締役、そして巖父の没後は三社の取締役社長に就任し、29年には室蘭魚菜市場を設立、取締役社長に就任した生粋の室蘭っ子であり、室蘭の農水産物の流通、港運関連企業各社の代表者として室蘭市の産業経済発展の基盤作りを担い、業界の発展、向上に寄与した功績は計り知れないものがあります。

団体歴や公職歴も多く29年から室蘭商工会議所常議員、51年から同副会頭を務めています。このほか、室蘭地方法人会会長、北海道法人会連合会副会長、社団法人北海道市場協会会長、全国魚卸売市場連合会会長、北海道ポートサービス協会会長など枚挙に暇がないほどで、この功績により、昭和52年に室蘭市公益功労者表彰はじ

め、同年春に、藍綬褒章、平成元年春に勳四等旭日小授賞を受けられました。

昭和40年、室蘭の白百合幼稚園の設立に際しては、発起人として率先協力し、初代園長退職の後には2代目園長として、入園式、卒園式には園児たちとおしゃべりをするのが楽しみで、その堂々たる体躯と白い髭から園児たちに「ケンタッキーフライドチキンのおじさん」と呼ばれて慕われていました。

ロータリークラブには、父上の富田作市さんの没後、昭和29年の入会で、各役員を経験後、昭和38年会長、続いて53年、室蘭からは初のガバナーに就任されております。ガバナー就任後のクラブ訪問に際しても、淡泊な人柄と気取らない語り口で人気を博していました。

室蘭の経済界に尽くされました生前のご功績を讃えつつ、富田大先輩を喪った悲しみを乗り越え、その遺志を継いで室蘭クラブの永遠の発展を誓う次第であります。

ご逝去を心からお悔やみ申し上げますと共に、どうぞ安らかにお休み下さい。

文庫通信

185号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

興味ある講演より

- ◎「男女の機微」 渡辺淳一 2002 2p (D.2530地区大会)
 - ◎「上杉鷹山に学ぶ危機を乗り切る条件」 童門冬二 2002 6p
 - ◎「日本人の心とことば」 岡野弘彦 2002 12p (D.2550地区大会)
 - ◎「美しく力強いニッポンの再生への提言」 福岡政行 2001 6p (D.2650IM)
 - ◎「日本語のみだれ」 阿川弘之 2002 12p (D.2690地区大会)
 - ◎「21世紀の環境問題」 加藤尚武 2002 11p (D.2690地区大会)
 - ◎「これからの東南アジアと日本」 恩田 宗 2001 24p (D.2620地区大会)
 - ◎「戦後日本の忘れ物」 西原春夫 2002 9p (D.2810地区大会)
- [上記申込先:ロータリー文庫(コピー)]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

ガバナーとの対話 —アンケート(会員の自由意見)への回答(1)

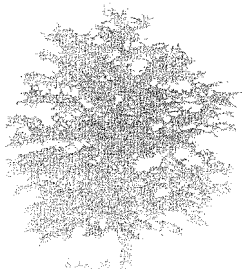
アンケートの個別項目についての結果は、月信2月号に報告した通りだが、会員から寄せられた自由意見を項目別に整理し、その中から回答の必要と思われるものについての若干の所感を加え、3月号(1)、4月号(2)の2回に分けて報告する。今回は「改革についての意見」、「新入会員の教育についての意見」、「クラブ運営についての意見」の3項目について紹介する。まずもってロータリアンのみなさんの率直なご意見に心から感謝したい。

改革について会員からのご意見

1. 時代的な状況によるためか活動の低迷、会員数の減が近年とみに感じられる。改革が必要になってきているのではないか。
2. ロータリーもそろそろ大改革をすべきではないか。
3. ロータリーだけでなく、ライオンズ、ソロプチ等もそうであろうが、各機構の活動・運動の効率化が必要。それが今後も発展をするために必要条件。ロータリーは改革のペースが遅い。
4. 会員の意見を良く汲み上げ、地区を改革していただきたい。
5. 古いものを残し、新しいものを取り入れる。
6. マンネリ化の打破が必要。
7. 古き良きものは残し、時代の新しいものは取り入れる。形式、見栄、格式ばかり重んじていると駄目だと思う。数合わせや役職選考も長い在籍と要領と企業の大きさや地位優先主義は、時代に合った魅力的ロータリーの発展は望めないと思う。21世紀は改革と融和の時代です。
8. 地区として問題意識をもって前向きに取り組む姿勢は多とするも、クラブの自主性を尊重されたし。地区あつてのクラブではない、クラブあつての地区であろう。
9. 動きが大廻りすぎて、無駄に思えることも多いのではないか。厳しい時代の今、残す部分と整理省略する部分の見直しが図られる時期にも来ているように見える。
10. 時代の進歩改革に合わせ、ロータリーも柔軟に変容改革するべきである。
11. このまま推移するならば、会員は激減するであろう。
12. 改革というのは「古いもの」をただ消すことではない。
13. 昨年、今年度の急激な変化に戸惑いを感じている。

回答：

以上が改革について頂戴した意見の全てである。改革に関する10数件の意見の殆どが、「改革が必要である」との立場で述べられている。最後に1、2の方が改革に躊躇する声があるが、全体としては「このままのロータリーでは心配だ」、何とかしようという声が聞こえてくるように思う。問題は、何をどのようにしていくか具体策についてのご提案をいただければと思う。くわしくはみなさまと話し合いの機会があればと念じている。



新入会員の教育について会員からのご意見

1. 友人の紹介で入会したが、自分の勉強不足もあるが、新人に対して先輩はもっと積極的にロータリーについて指導と交流があるような人間関係を密にして欲しい。ロータリーに入会したら自分で本を読み、自らが努力し、ロータリーを知ることだとは理解はしているのだが……。
2. 先輩の言葉遣いや表現のしかたで退会者が多く出るのを見たり聞いたりしていると、人間関係の不信が退会の大きな要因になっているような気がする。一言多いことば、冗談の通じない人に対する言葉づかい等、皆で注意し合いたい。
3. 新入会員に対しては、特別な配慮が必要。クラブで通用する言葉では理解できない場合がある。例会に参加することは出来るが、奉仕活動は一緒に行動してくれる人(誘うことが大切)がいて、初めて自ら行動できるようになると思われる。
4. 同じクラブ会員でも仲間意識が薄い。仲間はずれの人達が多く見かけられる。
5. 会員減少の中で、若い人の入会は良いと考えますが、先輩・後輩の礼儀が乏しくなっている。時代の流れか。
6. 入会2カ月なのでまだ良く分からないが、多くの方々に色々教えていただき、楽しく参加しています。今後とも宜しくお願いいたします。出来れば女性会員を増やしてください。
7. ロータリーへの魅力～昔はあったが、今は薄れた。経済情勢で最近では会員が少なくなった→数を埋めるために女性を入れる→増々魅力薄れる。その原因、数を増やそうとする為だ。ロータリーは数を増やして大きくなるべきか? 魅力を高めるべきか? ガバナーはいずれの道を選ぶべきか大局判断のときです。
8. ロータリーの存続は継続に努めるとともに、新会員の資質の向上には特に留意が肝要と考える。
9. 入会して日が浅く良くわからない部分が多い。

回答：

新入会員についての意見は10件ほどいただいた。いずれも新入会員を暖かく見守る気持が集まってきてうれしい。ここで気になるのは、新入会員になった喜びを表明している反面、新入会員がクラブ会員から何となく放っておかれる現状を垣間見ることである。新入会員に対する慈愛の心が、いまの我々に最も必要なものではないのだろうか。



クラブ運営について会員からのご意見

1. 本年から1業種5名まで入会できることになりましたが、現会員のロータリアンとしての向上が一番大切だと思います。ロータリーの原点に帰り、各クラブの例会の充実を図り、楽しいクラブ運営を心掛ければ自然と入会希望者も増えてくると思います。
2. RCの理念が好きだし、ライオンズとは少し違う団体と認識している。しかし、最近上からの押し付けのようなことが多々あるのが気がかりに思う。弱小クラブで大きな事は出来ないが、会員であることに誇りをもっている。最近出席率が落ちているのが気になるが、永遠に会が存続することを念じている。
3. ロータリーに定年はないが、人間は確実に年をとるものである。年をとったからといってロータリーから離れるつもりはないが、主力年代の人達の活動の邪魔にならないように気をつけている
4. 長い間入会していると何かと敬遠されがち。老兵は発言を控える方が良いような考えに最近変化してきているように思う。
5. 入会当時の若い頃と違い、古いロータリアンとなった今、マンネリ化している
6. 初心に帰ることが大事
7. まだ若いので例会での食事の量が少ない。余った食事はどうしているのだろう(笑)
8. 年々高齢者の部類に入るようになり、最近はロータリーの活動に対して積極性に欠けて来た様に思う。出来るだけ若い会員の皆様に協力してクラブ活動の活性化のために役立つよう努力していきたい
9. 情報委員会による指導をお願いしたい。
10. 例会を月2回に変更することを望む。
11. 例会を1週間に1度行うのは難しいのでは？
12. 週1回の例会設定は出席する側にとっては厳しいものがある。隔週、或いは月1回程度の例会設定が望ましい。
13. クラブの規模により、そのクラブの持っている力はそれぞれ大きな格差のあることはいうまでもない事だが、会員個々のロータリークラブに対する情熱が年々少しずつ薄れていく傾向にある。そんな事を含めて、もう一度クラブの再構築をしていく頃に入ってきたように考えられる。しっかりスクラムを組み、皆で“元気を出す事”を切に望みます。
14. 地区の事業としてロータリーの存在等をPRするものを取り入れるべき。
15. ロータリーの社会的認知をもっと広げるべきである。広報活動の強化が必要。
16. ロータリークラブの存在のPRが足りない。
17. ロータリーのPRを兼ねて入会者を一般公募してみても？
18. ロータリーは宣伝バタですね。もっと認知されるよう頑張らしましょう。
19. ロータリー活動の現状の姿をもっと世間に広報して存在感を高める必要があると思う。新しい会員の入会を誘うことにも、会の活動の活性化にも繋がると思う。
20. 地区の役員は地方からも登用すべきである。札幌中心の役員は地方の事情を知ることが出来ない。
21. 年功的な執行部選出ではなく、若手の登用を。
22. 入会して1年だが、一般的にロータリークラブの社会的認

知は少ないと思います。どうすれば良いかよく分かりませんが、クラブ例会を年2~3回夜間にすれば良いと思います。

23. 4年前にロータリーに拾ってもらいました。この4年間で私は育ててもらいましたので、これからも自分に出来る限り協力し、いろいろ奉仕活動にも力を入れていきたい。
24. 今年3月より初めてロータリアンとなりましたが、異業種の方々とヒューマンを前提とした付き合いが出来、大変ありがたいと思っています。今後もよろしく願います。
25. 同業種でも積極的に入会を促すべき。
26. 例会のあり方をもう少し考えてほしい。また、どんどん若い会員を入会させ活性化を図ってほしい。
27. 「HPの活用を盛んに行ってください！」と会員にPRしたいです。
28. クラブがまとまるのが肝心なり。ロータリーソングがしらすしく感じる。
29. ロータリーは報告の書類が多すぎるのでは？
30. 会員増強について、もう少しロータリーの内容や入会しやすいうようにしないと、なかなか入会者が減少してきている。
31. 人口減の地区、都市ではクラブの合併等が必要な時が来ると思う。
32. 数合わせでの会員増強は本来の主旨に反する。
33. ロータリーの存在は世界にとって大きな意義があると思う。しかし、余り組織の中の自由度が失われると会はマンネリ化する可能性がある。
34. 長年、RCの会員として決まったひととの交流をしないで多くの会員との会話、交流を深めたい。
35. 身勝手な考えを持っている人も居り、恥づかしい限りである。
36. クラブ中心の、クラブに活力が出るように、地区は指導しているであろうか。小林年度に期待している。
37. 最近はスピーチを聞く姿勢が大変良くなった(私語が少なくなった)。音楽を聴くときもこの調子で！

回答：

クラブ、運営についての意見は極めて多岐多彩にわたる。その内容を読んでいただくことで、ロータリアンの抱える問題の全貌が見えてくるように思われる。その中で、ロータリーの社会的認知のPRをもっと積極的にするべきであるという意見があった。また、会員増強は質か量かの問題について結論を出せという意見も私には心に重く残った。双方とも大事なことであるが、もっとも大事なことは我々自らを磨くことではないだろうか。質的向上があれば、おのずと量的向上が期待できるというパターンが最も望ましいと考えている。

いずれも貴重なご意見本当に有難うございました。



第8グループ会員の夢と希望

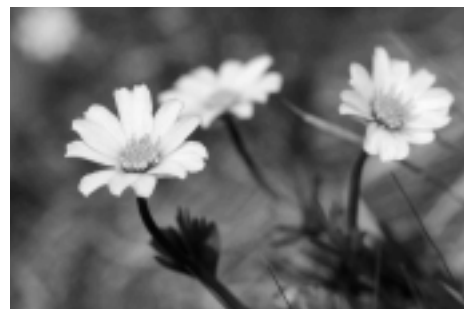
第8グループのIM(2003.2.16開催)のグループミーティング「ロータリーの夢・未来を語ろう」の「夢カード」より、いくつかピックアップしてみました。率直なご意見誠に有難うございました。

※注()は所属クラブ、ただしロータリアンのお名前は省略

1. アポイの高山植物保護への援助(様似)
2. 5つのクラブが合併したらどうなるか?日高RC(仮称)として、1つは大きな事業をしてはどうだろう(合同で)。(様似)
3. 「ロータリー楽団」を作ってみては?地区大会でも国歌やロータリーソングの斉唱がありますし、演奏家を呼んでのアトラクションの時もあります。そんな時、自前の演奏で喜んでもらえたら。(様似)
4. 高校→大学→社会人といった現在の教育制度に満足せず、実務を伴った教育を実践するために海外で勉強する子供達が増加している。この子供たちにロータリーの奨学金制度(4~5年間)が必要だと思う。各町単位ではなく、今日集まっている5町で合同の制度が良いのではないかと。(様似)
5. 会員の職業構成が都市部と郡部では異なるためか、活動計画は都市的傾向になっているように思う。(えりも)
6. 多くの異業種のトップが週1回集まるのはロータリーだけ。地域の発展のためにお金ではなく「知恵」の提供、提言で奉仕し存在感を高めてはどうか。(えりも)
7. ロータリアンの会員増強ですが、だんだん少なくなってきました。私なりに原因を考えてみますと、①お金がかかる ②ロータリーの内容を説明するのが大変 ③ロータリーの意義や目的、希望がわかりづらい ④毎週の例会は大変である ⑤会員を増やすことは大変であるが、はっきりわかりやすい内容のものを作ってほしい。(浦河)
8. 国際ロータリーは、世界人類平和のために奉仕の精神を柱として常日頃努力を重ねているところであります。戦争の名を借りた殺人行為が地球上の数カ所で行われ、罪の無い大勢の弱者が犠牲になっていることを思うと正義の定義に自身を失います。50数年前の愚かで悲惨な出来事を忘れ去ったかのように再び轍を踏もうとしている人達が存在することは誠に残念なことであります。我々ロータリーは、これに反対の大声を上げ行動を起こすことも世界平和を切望するものとして有意義なことではないでしょうか。又、この現実を子供達にも理解してもらえるような方法が、ロータリーとして考えられないものであろうか。(浦河)
9. 第8グループ全体のテーマを1つとした事業の立ち上げを。(浦河)
10. 現在、会計と出席委員長を担当している中で特に思うことは、会費に占める地元還元額が少ないことである。種々の寄付、負担金がどのように活用されているのかわからない部分が多い。RCに対しては特に夢はないが、もっと身近な事に対する金銭支援、ボランティアを再考したい。(三石)



11. クラブ例会の在り方について:隔週にして、例会時間を増やし内容充実してはどうか。金のかかる団体だと思ふ。奉仕は惜しまないが、寄付など多すぎる。もっと整理すべきではなからうか。地区大会も形式的、セレモニー的になりすぎる。懇親会は省略しても良い。登録料を減らすことを考える。(三石)
12. RIテーマ「慈愛の種を播きましょう」を今一度見つめると、本当に慈愛に満ちた種を播いているのだろうか。マンネリ化になって、その種が老朽化して、それ自体から芽が出てくなくなっているのではないかと。真実の目を自己に問い直し、真実の新しい種を播きたいものである。(三石)
13. ロータリーの未来を思う時、やはり会員増強が求められますが、当町にはライオンズクラブがありまして、このクラブでは会員増強を行うとき、ロータリーは毎週例会があるが、ライオンズは月2回で「楽なクラブ」ということを説明して会員の増強を図っております。今後ロータリークラブの例会も毎週は大変ですので、月2回にされた方が未来のためにも現会員のためにもよろしい事ではないかと考えます。(静内)
14. 奉仕の在り方として、自クラブ内だけの活動にとられず、同一地域(同ブロック)内で協同で出来る奉仕活動を模索してみてもどうか。(静内)
15. 静内にはロータリークラブのほかに、ライオンズクラブ、国際ソプロチミストがありますが、あまり交流があるとは言えないのが現状です。交流を深めていければもっと社会奉仕にもつながると思います。(静内)
16. ロータリークラブは、世界163カ国、クラブ数31,256、会員数1,243,317人と多くの仲間がいるのに何故世界平和を訴えないのか不思議です。世界平和を訴えることは政治活動なのでしょう。(静内)
17. 奉仕(寄付行為)活動について:世界ロータリー規模でなく、日本独自で東南アジアへポンプ、本等の援助活動をしてはどうか。(静内)
18. RCの会長、幹事は大変な任務ですが、大先輩のRC会員でも引受けない会員に是非とも引受けてもらえる方法はないのでしょうか。会長、幹事を経験したときには、今までと違ったロータリーが理解できるように思いますが。(静内)
19. ガバナー公式訪問について:ガバナー公式訪問は、従来のように各クラブに訪問してほしい。クラブ合同では時間的にあまり建設的な意見が出にくい。年次大会の開催について:春にやったり、秋にやったり、時のガバナーの考えでやっている感がする。歴史的にも慣習的にもどちらかに決めて継続的にしてほしい。
20. 青少年育成について:第8グループが1つになって共通な事業を、日高管内に表現していける事業をやってはどうか。(静内)
21. ガバナー公式訪問(合同例会)とIMを一緒にする。このことにて経費が節減できると思う。(静内)



回答：

まだ他にもたくさんのご意見をいただき、有難うございました。率直なご意見には感謝のみです。

ただ、ガバナー公式訪問はRIから新しく提案されているDLP(地区リーダーシッププラン)に沿ってすすめているものです。もし、各クラブ訪問の希望があるときは、クラブ会長からお申し出られたらお伺いしたいと思います。

また、地区大会は2001～2002年度まで春の開催でしたが、2001～2002年度からは秋の開催となっております。時のガバナーの考えで年毎に変わることなく、これからは秋の開催が続くと思います。その他の夢と希望については機会をみて話し合いたいと思います。なお、関連のものの一部はすでに月信でお答えしてありました。

地区活動 紹介

今年もスウェーデンヒルズの雪の山荘で



国際親善奨学生オリエンテーション成功裏に終了

国際親善奨学金委員会
委員長 土橋信男

今年の7月から来年の6月にかけて9カ国に派遣される国際親善奨学生11名の合宿オリエンテーションが、スウェーデンヒルズの道新研修センターで2月1日、2日に行われた。

小林ガバナー始め、15名のロータリアンが参加。また、かつての奨学生であった学友6名も参加して、それぞれの経験からの有益な助言や、質問への応答があった。

この合宿オリエンテーションは昨年から行われ、今年が2回目。昨年も道新研修センターで行われたが、何しろ当別は有名な豪雪地帯、1日目も大雪の後で地吹雪の中を、予定された32名全員が集合、午後2時から翌日1時まで、留学に備えての必要なガイダンスが、財団のオリエンテーション資料や、先輩からの助言・メッセージ、そしてロータリアンからの励ましなど盛りだくさんの内容で行われた。



まず小林ガバナーから、奨学生に正式に決定されたこと(米国ロータリー財団本部から、奨学生決定の正式通知は1月になされた)へのお祝いと、留学に関してのガバナー自身の経験からの貴重なアドバイス、そして国際親善ロータリー奨学生と

してのありがたさについてあらためて期待を込めた挨拶があった。

ついで、奨学生全員が、どの国へ何を学びに行くのかについて、自己紹介を兼ねて説明があった。



本年度の留学国は、アメリカ(2)、イングランド(2)、イタリア、オーストラリア、タイ、ドイツ、トルコ、ニュージーランド、そしてフランス、と実に多彩で、特にタイとトルコにはこれまでに本地区から派遣された奨学生はいないので、初めての派遣国となり、本人たちがホストロータリークラブを探し、また研修機関を探さねばならないという、まことにチャレンジングな課題を負っているの、いい経験ができるのではと期待されている。

次に、国際親善奨学金委員会の二人の委員(瀧川、戸部アナマリア)からの留学準備への助言があり、また参加した6名の学友からそれぞれ楽しかった、また失敗した体験談があったが、いずれもロータリークラブの受け入れがあることのよさがこのプログラムの強みであるとの報告で、これから出発の準備をするために有益な助言となった。



夕食後の交流懇親会は和室で和やかに行われ、夜の更けるのも忘れたほどだった。

翌日の朝食、昼食は、高橋委員と学友の新発田さんの指導のもと、奨学生全員が準備をして、美味しくいただくことができた。

将来の北海道や日本の担い手となるこれら奨学生の、実り多い留学ができるように、これから出発するまでの期間に引き準備ができることを願ってやまない。



第23回 札幌スキーマラソン参加

新世代委員会
委員 宮崎善昭



恒例の札幌スキーマラソンが去る2月9日(日)に開催され、新世代、ロータリアンが参加し冬の一日に汗を流しました。

出場したのは新世代がインターアクト、ローターアクト、交換留学生、ROTEX、財団学友、米山奨学生の合計29名、ロータリアン5名、この他に伊藤長英新世代アドバイザーの奥様は苦小牧から、細川好弘インターアクト委員長は静内から駆けつけられ応援団が17名で総勢51名になりました。



8時30分にスタート地点の札幌ドームに集合し全員5kmコースにエントリーして自己記録に挑戦、遠藤正之バスト・ガバナーも見事に完走されました。因みに最も早い人はスタート後20分でゴールイン、最もゆっくりの人は1時間20分くら

いでした。参加者はそれぞれ皆マイペースで歩くスキーを楽しみました。



スキーマラソンの後、ジンギスカンを楽しむインターアクターたち

スキーを楽しんだ後は近くの羊ヶ丘展望園でジンギスカン・パーティーでした。参加者と応援団が一同に会し伊藤長英新世代アドバイザーのご挨拶、遠藤正之パスト・ガバナーの乾杯で始まり参加者の健闘を讃え合い、新世代間ロータリーの交流を行いました。

世界理解と広報



広報委員会 委員長 城木浩一

世界理解の推進と広報

2月は世界理解月間ですが、1905年2月23日にシカゴで最初の例会が持たれたことから、ロータリーでは2月23日を「世界理解と平和の日」と定めています。

第二次大戦では多くの方が戦禍をこうむり、二度と戦争はごめんだと心から誓いました。あの戦時中に、私達は諸外国をどのように理解していたのでしょうか。血の滴る肉を喰らう鬼畜米英と表現しました。「冒険団吉」に描かれた南洋の人々。「のらくろ」に描かれた東洋の人々。日本人以外を全て蔑視する気持ちが満ち溢れ、人々を戦争に駆り立て易い理解度でした。何故、もっと

正しい報道がなされなかったのか。これは**広報の問題**です。戦勝国のアメリカにも先住民族を野蛮人とする「西部劇」や「ターザン」の映画がありました。人種によって良い人、悪い人を決めると映画の筋は組み立てやすく、面白いのですが、最近は見かけません。お互いに同じ人間として、相手の立場に立って考えることが出来るようになったからでしょう。

国際レベルの教育および文化交流活動と広報

ロータリーでは、世界理解を深めることが、国際平和に至るとの基本理念を持っています。青少年交換事業、国際親善奨学金、GSE、米山奨学金等、諸外国の人々に日本を知ってもらい、我々も国際的な親睦と視野を広げようと色々な事業に努力しています。但し、これはクラブの会員だけが国際理解を深めれば良い訳ではありません。ここに**地域社会に対する「広報」の意義**があります。

偽善と広報

ロータリークラブは、国際奉仕ばかりではありません。深い人間愛の上に築かれた高い職業倫理を掲げ、生き馬の目を抜く経済界で百年間にわたり、堂々と奉仕の理想を仕事の上で実行に移して参りました。これが広報されて更に多くの市民の共感を呼び、会員の信用は増し、クラブは世界中に広がりました。世界からポリオを駆逐する運動も効果的に実施されて来ました。ほどこしをする時は、右手がすることを左手に知らせるなど言われます。「慈愛の種を播こう」とする今日、それを十分心得た上で、それでも私達は人類への奉仕を広げるため、広報に努めます。マフィアが寄付をするのとは、わけが違います。**広報によって**

ロータリーの旗色を鮮明にし、周囲の理解と共感を得て、活動が円滑になされることを目的としています。

人間が犬をかじった話

ロータリークラブが奉仕活動を行っても、報道機関にとっては当たり前のことで、ニュース性がありません。犬が人間をかじってもニュースにならぬが、人間が犬をかじればニュースになります。記者が関心を持つような小細工をするのは、偽善的ですが、なんらかの味付けが必要です。

広報の役割

新聞やテレビは大変力があります。しかし、対外的広報は必ずしも大新聞やテレビばかりではありません。町内会の新聞は如何でしょうか。私もホームステイで預かった高校生は、町内の新年会や行事に連れ出しました。お互いに親睦が深まり、世界理解につながったと思います。町内会新聞の記事には取り上げられました。地域の片隅ではありますが、片隅の小さな広報が集まって世論を作ります。

対内的広報

各クラブでは定款の第4条に掲げるクラブの綱領(目的)に従って、奉仕の理想を基礎にした有益な事業を計画致します。特に会員が1~4項を達成出来るように、これを鼓吹、育成するために行うのがクラブの事業です。

どのような事業が計画され、実行されるのかガバナー事務所気付で広報委員会へご教示下さい。他のクラブで参考に出来るように、事例集を作って対内的広報をする予定です。今後とも広報のことよろしくご願ひ申し上げ、深川ロータリークラブの益々のご発展をお祈り申し上げます。

小中学校で講義をしてみませんか

地区幹事(子ども奉仕委員会設立準備委員)
米山道男

小中学生に対してロータリアンができることをしたい、ロータリアンは皆立派な職業人だから自らの職業を介した貢献から始めよう、という考えが全国の各ロータリー地区で広がっています。

昨年9月東京で、前川ガバナー会議長の主導による「ガバナー会青少年育成委員会(JYDC)」が発足しました。昨年11月の地区大会記念フォーラムでも前川議長が述べられていたように、この委員会の目的は、ロータリアンが子どもの育成にもっと関わっていかうとするものです。具体的活動は、①ロータリアンによる小中学校での講義、②小中学生によるロータリアンの職場訪問や職場での研修、③ロータリアンが小中学校に評議員として参加、などです。

子どもは多くの可能性を秘めた素晴らしい存在ですが、自分を確立しようと悩んでいてそれを様々な形で発信しています。私達は発信されたものを子どもの立場に立って受け止めなければならないと思います。一方、子どもは澄んだ眼で世の中をしっかりと見えています。子どもは、単なる保護の対象ではなく、一緒に考え行動する強力なパートナーです。そして私達がいなくなった後も、子ども達には、そのまた子ども達のためにも、遅しく正しく生きていってほしいと思います。そんな願いを込めて、今、私達が子ども達のためにできることをしたいと考えます。

当地区におきましても、この問題に取り組むため、昨年10月以来、小林ガバナー、佐藤ガバナーエレクトを中心に見学を重ねてきた結果、次年度、地区に「子ども奉仕委員会」を新設することになりました。この委員会では、皆様のご

協力のもと、当面、小中学校の子ども達を対象に、ロータリアンが出向いて講義をしたり、ロータリアンの職場に子ども達を招いて見学や実習をしてもらおうというような活動から始めたいと考えています。

このような交流を通じて、子ども達は、今まで知らなかった世界を知り、もっと知ろうとする興味が湧いたり、将来の目標を見つけたりすることができるかも知れません。一方、ロータリアンのほうも、子ども達の素晴らしい感性に触れ、自分や社会を考え直す契機となるかも知れません。

次年度には、地区全体に活動を広げるため、あらためて、講義と職場訪問についてのご登録をお願いしたいと考えていますが、今年度は、その先導的な試みとして、まず、札幌市教育委員会のご理解のもと、札幌市立の北九条小、幌北小、白楊小、北辰中でロータリアンによる講義を実施してみたいと考えています。

ロータリアン各位におかれましては、是非ご協力いただきたくお願い致します。ご協力いただけます場合は、地区内のガバナー補佐および第4・第5グループ内のクラブ会長には既にお送りしてありますが、「小中学校での講義」02/03年度協力者登録票」にご記入の上、ガバナー事務所まで郵便またはFAX(011-222-1526)にてお送り下さい。「登録票」が入手できない場合はガバナー事務所に御請求下さい。

来る4月から実施予定のため、準備の都合上、できるだけ早く登録していただければ幸いです。



子ども奉仕委員会設立準備委員会委員と懇談中の小中学校の先生方(2003.2.4)

第1回

ワークショップのご案内

テーマ：「ロータリー情報の今日と明日」

日時：平成15年3月12日(水)

開始：午後1時 終了：午後4時

会場：北海道厚生年金会館(札幌市中央区北1条西12丁目)

会費：出席者1名につき2,000円(お茶代含む)
※開催当日申し受け致します

出席者：2510地区広報委員、地区IC委員、地区ロータリーの友委員、クラブ会長、クラブ雑誌委員長、クラブ広報委員長、ガバナー、ガバナー補佐、地区幹事、月信編集委員、その他有志(注)今回のワークショップは義務出席ではありませんが、ワークショップとして討論する機会ですので関心のある方のご参加をお願いします。

申込締切：平成15年3月4日(火)

※参加希望者はガバナー事務所(Fax. 011-222-1526)までFAXでお申し込み下さい。

主催：第2510地区情報関連委員会(広報委員会・IC委員会・ロータリーの友委員会)、『月信』編集委員会

13:00~13:05 挨拶

2510地区ガバナー 小林 博

◎第1部:基調講演

司会 地区ロータリーの友委員会委員 斎藤元護(札幌南)

13:05~14:00 「情報とコミュニケーション」

二神典子氏(「ロータリーの友」編集長)

14:00~14:20 休憩

◎第2部:ワークショップ

コーディネーター 地区ロータリーの友委員会委員長 佐藤 公(札幌北)

話題提供

14:20~14:40 「国際理解と広報」

地区広報委員会委員長 城木浩一(札幌北)

14:40~15:00 「クラブ雑誌委員会の挑戦」

地区ロータリーの友委員会委員 山名善久(札幌南)

15:00~15:20 「電子メールの活用について」

地区IC委員会委員長 山田信夫(苫小牧北)

15:20~15:40 「月信のあり方について」

地区『月信』編集委員会委員長 竹原 巖(札幌北)

15:40~16:00 総合討論

第2回

ワークショップのご案内

友情交換委員会
委員長 金井重博
地区幹事
国別部会担当 米山道男
国際奉仕委員会
委員長 青木功喜

本年度後半における当地区の目玉事業として様々なワークショップ(参加者が自主的に運営・活動する方式の研究集会)が開催または企画されています。

また当地区では、『ガバナー月信』2月号(第15頁、「国別部会」へのご協力を)でお知らせしましたように、友情交換委員会が中心となって、「国別部会」プログラムの準備を始めています。これは、同じ外国が好きなお仲間どうしが集まって自主的に自由に勉強・交流・支援などの活動をしようとするものです。

この「国別部会」プログラムを今後どのように進めていくかについて、会員の皆さんと一緒に考えたいと思い、「国別部会」に関してもワークショップを右記の通り開催することにしました。多くの会員の皆さんの積極的な参加を期待します。

なお、現在、部会結成へ向けて、会員のご協力をいただける国々は次の通りです。これ以外の国々についても、地区友情交換委員会あてに、部会結成をご提案いただきたく思います。歓迎します。

- ・アジア・太平洋地域：中国、モンゴル、フィリピン、ベトナム、タイ、シンガポール、ミャンマー、ネパール、スリランカ、オーストラリア。
- ・ヨーロッパ地域：フィンランド、ロシア、ドイツ、オーストリア、イタリア、スペイン。
- ・南北アメリカ地域：アメリカ、メキシコ、チリ

「国別部会に関するワークショップ」開催要領

1)日時：2003年4月12日(土) 午後6時~8時

2)場所：札幌パークホテル(札幌市中央区南10西3)

3)テーマ：「国別部会：当面の活動計画と今後の展望」

4)目的：国別部会の活動の今後の発展を期して、各国別部会の具体的活動計画案を披露し合い、この活動の展望と問題点を話し合います。

5)プログラム：

- ・開会の辞 国際奉仕委員会委員長 青木功喜
- ・挨拶 ガバナー 小林 博
- ・話題提供
「国別部会という発想」 地区幹事 米山道男
「国別部会の運営」 友情交換委員会委員長 金井重博
「各国別部会の活動計画案」

各国別部会設立準備委員会世話人

- ・質疑応答と自由懇談
- ・閉会の辞 モンゴル部会設立準備委員会世話人 森本正夫

6)参加申込：3月31日(月)までに、ガバナー事務所(FAX:011-222-1526)まで、①氏名、②所属クラブ、③関心のある国名(複数可)、④連絡先電話・FAX番号を、FAXでお送り下さい。

7)参加費：2,000円(弁当代その他。当日お支払い下さい。)

8)主催：友情交換委員会・地区幹事会・国際奉仕委員会

9)問合せ先：ガバナー事務所(電話：011-219-2510)、金井(携帯：090-8909-5331)、米山道男(携帯：090-7058-5520)。

ワークショップ企画案を募集中!

本年度後半における当地区の目玉事業として様々なワークショップ(参加者が自主的に運営・活動する方式の研究集会)が開催または企画されています。

ガバナー事務所では、現在も、ワークショップの企画案を募集しています。クラブ、数クラブ合同、会員個人、会員グループ(クラブ内、クラブ横断的)など、会員はどのよ

うな形ででもワークショップを主催することができます。実施支援や経費負担についても、ガバナー事務所でご相談に応じています。詳細は、『ガバナー月信』1月号第4頁の記事「ワークショップ開催」を参照して下さい。連絡先：地区幹事(ワークショップ担当)米山道男(携帯：090-7058-5520)。

アンケート調査の結果と分析 (第1回)

2002年9月にクラブ奉仕委員会が地区内3,484名の全会員を対象に実施した、アンケート調査の集計結果は既に、『月信』2月号で報告済みですが、地区全体及びグループ別の集計結果に特徴などについて、若干の分析を加え、「調査の概要」から設問7の「同好会への参加」までを今月号に、残りの項目についても順次掲載の予定です。

調査の概要

- | | | | |
|--------------|----------------------|------------|---------------|
| 1. 調査時期 |2002年9月 | 5. 調査主体 |クラブ奉仕委員会 |
| 2. 調査対象者 |3,484名 | 6. 調査結果の集計 |ガバナー事務所 |
| 3. 調査方法 |悉皆調査・配票調査 | 7. 調査結果の分析 |クラブ奉仕委員会 |
| 4. 有効回収票・回収率 |1,758名 (50.46%) | | |

(回答率)

質問	回答項目	グループ													
		地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
回答率	会員数	3,484	189	266	384	466	466	360	209	183	281	247	246	187	
	回答者数	1,758	113	133	218	200	209	168	130	98	127	111	139	112	
	回答率	50	60	50	57	43	45	47	62	54	45	45	57	60	

◎アンケート調査時点の地区会員数3,484名に対し、回収回答者は1,758名の50%の回答率であり、アンケートの目的について徹底されなかったのか、第2710地区の会員数(3,982名)回答者(2,882名)回答率(72.4%)に比べるとかなり低いと言わざるを得ない。

◎グループ別の回答率は第7(62%)第1・12グループ(60%)と上位で、逆に第4(43%)第5・9・10グループ(45%)と低く、札幌・函館地区の都市型クラブの回答率が低く、地方クラブの回答率が高いという結果となって現れている。

1. 地区大会への参加

(上段：人数、下段：%)

クラブ活動について	1. 地区大会への参加	いつも参加	グループ													
			地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	いつも参加	857	63	69	125	81	89	81	74	61	66	36	52	60		
		49	56	52	57	41	43	48	57	62	52	32	37	54		
	ときどき参加	613	26	36	55	74	87	61	60	29	39	48	58	40		
		35	23	27	25	37	42	36	46	30	31	43	42	36		
	未参加	270	9	26	32	37	33	25	15	7	22	27	27	10		
		15	8	20	15	19	16	15	12	7	17	24	19	9		

◎地区内会員の地区大会への参加状況は、いつも参加(49%)と時々参加(35%)で、未参加は15%となり比較的参加しているものと思われる。しかし、回答率50%のなかで270名もの会員が地区大会にほとんど参加したことないというのは、ロータリーの綱領から見ても疑問に思う。

◎グループ別で見た参加状況は、第8グループ(92%)を筆頭に第12(90%)第1(89%)が参加率が高く、未参加は第10グループ(24%)第1(20%)第4・第11(19%)が高くなっている。

地区大会への参加が低い第10・第1グループは遠隔地のせいもあると思われるが、主に札幌開催となる地元の第4グループの参加率が低いのは気になることである。

2. 奉仕事業への参加

(上段：人数、下段：%)

クラブ活動について	2. 奉仕事業への参加	よく参加	グループ													
			地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	よく参加	488	28	37	56	48	31	41	64	46	36	29	36	36		
		28	25	28	26	24	15	24	49	47	28	26	26	32		
	参加経験あり	769	37	56	87	88	99	79	47	35	68	47	69	57		
		44	33	42	40	44	47	47	36	36	54	42	50	51		
	未参加	461	32	38	71	58	79	44	18	16	23	35	31	16		
		26	28	29	33	29	38	26	14	16	18	32	22	14		

◎地区内全体の参加状況は、28%の会員がよく参加し、参加した事があるは44%である。合わせると72%の会員は奉仕事業にかかわっているが、参加したことがない26%・461名もの会員には、奉仕活動への理解と喚起が必要と思われる。

◎グループ別で見た場合、都会型のグループで不参加が多く奉仕活動への関心の度合いが低く、地方グループの参加が比較的高いのはクラブ全体で取り組もうという現れと受け取れる。

3. インフォーマルミーティングへの参加

(上段:人数、下段:%)

クラブ活動について	3. インフォーマルミーティングへの参加	原則参加	785	54	57	93	113	108	78	63	55	53	43	68	57
			45	48	43	43	57	52	46	48	56	42	39	49	51
		ときどき参加	596	27	48	72	66	73	65	43	26	52	42	45	37
			34	24	36	33	33	35	39	33	27	41	38	32	33
		参加しない	217	13	20	37	15	25	15	20	3	15	23	18	13
			12	12	15	17	8	12	9	15	3	12	21	13	12

◎インフォーマルミーティングへの参加は、原則参加45%・ときどき参加34%・参加しない12%という結果になっており、比較的参加率が高いように思われる。

◎グループ別で見ると第4グループと第8グループの参加率が高く、第10グループの参加率が低いのが特徴である。

4. 会報・月信・友の購読頻度

(上段:人数、下段:%)

クラブ活動について	4. 会報・月信・友の購読頻度	よく読む	621	32	48	89	68	59	64	61	27	51	35	47	40
			35	28	36	41	34	28	38	47	28	40	32	34	36
		ときどき読む	957	59	81	116	104	125	92	59	60	64	59	73	65
			54	52	61	53	52	60	55	45	61	50	53	53	58
		あまり読まず	153	8	7	8	25	27	11	11	10	12	14	17	3
			9	7	5	4	13	13	7	8	10	9	13	12	3

◎購読頻度については、会報・ガバナー月信・ロータリーの友を一緒にした設問に問題も残るが、会報は一番身近な情報誌なだけによく読まれていると思われる。ガバナー月信・ロータリーの友については、ときどき読むと答えた会員が多いと想像される。しかし、本年度の月信は大多数の会員が購読し身近な情報が提供されているので従来に比べると良く読まれるようになって来た感じがする。

5. メーキャップの経験

(上段:人数、下段:%)

クラブ活動について	5. メーキャップの経験	ほとんどない	563	43	51	75	32	24	64	44	49	60	43	36	42
			32	38	38	34	16	11	38	34	50	47	39	26	38
		ときどきある	965	45	69	106	118	153	91	75	44	61	56	85	62
			55	40	52	49	59	73	54	58	45	48	50	61	55
		かなりある	196	10	11	33	46	32	12	10	3	6	12	16	5
			11	9	8	15	23	15	7	8	3	5	11	12	4

◎メーキャップの経験は3・4・5・10・11グループが他のグループに比べて多くあり、地方型のクラブと比較し例会場が近接しメーキャップの機会に恵まれているせいかも知れない。

6. 会員増強への協力

(上段:人数、下段:%)

クラブ活動について	6. 会員増強への協力	積極的	355	27	27	51	33	33	41	32	21	37	6	22	25
			20	24	20	23	17	16	24	25	21	29	5	16	22
		協力したことあり	898	46	73	112	101	99	90	70	50	60	68	71	58
			51	41	55	51	51	47	54	54	51	47	61	51	52
		推薦・紹介なし	473	25	31	50	61	77	36	26	26	29	38	46	28
			27	22	23	23	31	37	21	20	27	23	34	33	25

◎会員増強への協力については、地区内会員の20%が積極的に協力・51%の方が協力したことありと答えたが、一度も推薦・紹介したことがない会員が27%もいることが分かった。グループ別の特徴を見ると、一度も推薦・紹介したことがない会員が多いグループは第4(31%)・第5(37%)・第10(34%)・第11(33%)が高く、逆に積極的に協力の高いグループは第1・第6(24%)・第7(25%)・第9(29%)であり、ここでも地域性が良く現れている。

7. 同好会への参加

(上段:人数、下段:%)







クラブ活動について	7. 同好会への参加	積極的	551	42	50	69	54	50	43	48	44	56	31	36	28
			31	37	38	32	27	24	26	37	45	44	28	26	25
		ときどき参加	821	38	68	111	99	114	84	55	37	59	44	61	51
			47	34	51	51	50	55	50	42	38	46	40	44	46
		参加経験なし	335	17	13	36	43	45	34	25	16	10	35	30	31
			19	15	10	17	22	22	20	19	16	8	32	22	28

◎ロータリーの奉仕と親睦の2本柱である親睦を高めるための一つ的手段として同好会活動についてのアンケートに対して、積極的参加が31%・時々参加が47%であり、合わせると78%の会員が参加していることになる。

◎グループ別をみると、積極的参加は第8グループの45%を筆頭に第9(44%)・第2(38%)・第7(37%)と続く、参加経験なしは第10グループの32%・第12(28%)第4・5(22%)となっている。

○オーストラリアからの受け入れ学生紹介○

青少年交換委員会 委員長 清水慧子

Carita Davies カリタ・デイヴィス	Jessica Baldock ジェシカ・バルドック	Jo Bayliss ジョー・ベイリス	Mira Ponti ミラ・ポンティ	Sharnee Morgan シャーニー・モーガン	Teagan Reynolds ティガン・レイノルズ
					
オーストラリア9650 札幌西RC 札幌日本大学高校 1986/11/13生 16才	オーストラリア9800 札幌手稲RC 札幌山の手高校 1985/6/15生 17才	オーストラリア9650 札幌南RC 札幌南高校 1984/10/26生 18才	オーストラリア9550 札幌東RC 札幌稲雲高校 1985/1/30生 18才	オーストラリア9710 札幌はまなすRC 札幌新川高校 1987/6/16生 15才	オーストラリア9640 札幌北RC 札幌国際情報高校 1986/8/27生 16才



後列左から、シェリル（カナダ5360地区、静内RC）、マッティ（フィンランドマルチ地区、札幌西北RC）、オスカー（メキシコ4180地区、札幌南RC）、メグ（アメリカ7150地区、苫小牧北RC）、シャオシェン（台湾3480地区、札幌南RC）、ガブリエル（アメリカ7170地区、上磯RC）、セレス（アメリカ5100地区、札幌東RC）

2003冬季キャンプ

NISEKO in ROTARY

青少年交換委員会

交換来日留学生と派遣候補学生、クラブ関係者及びホストファミリーを囲んで、国際交流、文化交流を深め語り合い、ゲレンデスキー、スノーボード、温水プール、カラオケ、ダンス等楽しいひとときを過ごしたいと考え、このキャンプを企画致しました。

このキャンプでは、今年7・8月出発予定の派遣候補学生のオリエンテーションを含んでおります。（オリエンテーションの出席

は派遣候補学生の義務です）

ホストファミリーの負担軽減と、クラブ関係者やロータリアン、家族の参加でよりいっそうの親睦を深めて頂き、青少年交換事業の素晴らしさを、体験して頂ければ幸いです。

ROTEX（帰国組）も加わって一年の体験話に耳を傾けよう。皆さんの御参加をお待ちしております。

記

日時 平成15年3月22日(土)～23日(日)

場所 『ホテル・ニセコアルペン』

<http://www.niseko-alpen.com>

温水プール・サウナ他

ホームページ参照

倶知安町山田204

TEL 0136-22-1105

地区青少年交換委員会

委員長 清水慧子

ブリスベン国際大会と「日本人親善朝食会」へのお誘い

国際ロータリー理事 板橋敏雄

国際ロータリー理事 菅生浩三

国際ロータリー理事エレクト 田中作次

第94回国際ロータリー年次大会がオーストラリア・クイーンズランド州の州都ブリスベンで2003年6月1～4日の間開催されます。

ビチャイ・ラタクルRI会長は、この大会において「慈愛の種を播きましょう」のRIテーマを大いにうたいあげ、世界中の草の根ロータリアンのボトムアップの力を世界の恒久平和にむけて結集しようと呼び掛けておられます。

開会日の2003年6月1日に、恒例の「日本人親善朝食会」を開催いたします。皆さまにおかれましては、ぜひご友人お誘い合わせの上ご参加賜りますようここにご案内申し上げます。例年の通り、ビチャイ・ラタクルRI会長はじめ多くの国際ロータリーシニアリーダーをお迎えし、親しくお話をいただくことになっておりますので、ご期待いただきたく存じます。

日時 2003年6月1日
午前8時30分から10時まで

場所 大会場と同じBrisbane Convention & Exhibition Center内のプラザ・テラスルーム(650人収容)

会費 1人 3,000円
Queenslander Breakfastを用意いたします。

お申し込みとお支払いの方法は、東日観光(株)、(株)JT、(株)日本旅行、(株)日本通運、(株)阪急交通社、近畿日本ツーリスト(株)をご利用の方は、それぞれの旅行社を通じて、お願い申し上げます。

締め切り日は、2003年4月30日とさせていただきます。

*月信12月号p25の旅行スケジュール内で「日本人朝食会」の日程が6月2日(月)となっておりましたが、これは6月1日(日)の誤りです。

クラブ活動 紹介

創立30周年記念事業 映像システムを町に贈呈

荒木義広（えりもRC）

えりもロータリークラブは創立30周年記念事業の一環として、今年4月に開館する「えりも岬林業総合センター」の展示室に設置し、国有林の緑化事業を紹介する映像システム一式（約100万円相当）を町に寄贈した。



当クラブは襟裳岬国有林の緑化事業支援を年間活動の中に位置づけて毎年同地区で開催される植樹祭に会員が参加し協力している。



みんな笑顔に…ピース!! ～札幌雪まつり雪像制作～

安藤由香里（札幌北RAC）

昨年に引き続いて、私達は札幌雪まつりの市民雪像制作に参加しました。今年のテーマは「みんな笑顔になりますように……ハイ チーズ!!」ということで、いわゆるピースサイン、Vサイン、じゃんけんのチョキを作成しました。そこには私達のたくさんの思いがこもっています。

英国のチャーチルが国民に示した「Vサイン」、反戦運動などのシンボルとして使用された「ピース」、この手の形には大切なメッセージが込められていて、それは世界共通のシンボルともいえます。みんなの心に平和が訪れ、笑顔になりますように……そんな思いを込めてみました。何より、私達の雪像の前にたち、笑顔でピースサインを出して、楽しい時間してくれることを望みました。

制作初日は初めの3時間は、二人っきりの作業でした。昨年作っているメンバーは、ものすごい勢いでどんどん「破壊」していきます。「大丈夫かな～」と思っていると、なんとなくピースの形になっていました。

その後の作業には、交換留学生、インターアクトクラブ、ロータリーアクトの仲間や友人など、沢山の人の参加してもらいました。また、提唱RC以外のロータリアンの方々にも、差し入れや激励をいただきました。ありがとうございます。道を歩く人達にも、声をかけていただきました。雪像を作ることで、沢山の人の交流の輪が広がる、このことが雪像を作ることの楽しさだと思います。



もっともっとロータリアンの方たちに宣伝をするべきだったのではないかと、一般の方の参加を呼びかけるべきだったのでは、など沢山の反省点がありました。来年はこの反省点をいかして、さらにバージョンアップした雪像を作っていきたいと思っています。

実行委員長として、雪まつり期間中も毎日雪像を見に行きました。私達の雪像は外国の方たちから特に好評のようでした。雪像の前で記念撮影をしてくれたり、

子どもがピースの手を真似しているのを見るときが、「作ってよかった」「うれしいなあ」と心の底から思う瞬間でした。

来年も作りますので、期待しててください！

ユジノサハリンスクde 広げる輪！

岡部文佳（札幌北RAC）

私たちは、11月30日に「第5回 チャリティボーリング大会」を開催しました。提唱RC以外にも札幌はまなす、札幌セントラルなどのロータリークラブの方たちにご参加いただき、沢山の浄財を集めることができました。

その浄財で「日本の玩具」を購入し、ユジノサハリンスクの孤児院へ贈りました。



ただ何かをあげるのではなく今後の交流につなげていきたい、との思いから、「日本を知ってもらおうきっかけにしてほしい」「私達がユジノサハリンを訪問したときに一緒に遊べる」ということで、剣玉・お手玉・折り紙・だるま落としなどの日本の伝統的なおもちゃを贈ることにしました。

なぜユジノサハリンスクなのか？

昨年の札幌雪まつりで来札したユジノサハリンスクRACと雪像制作をしていた私達札幌北ロータリーアクトクラブは交流があり、共同プロジェクトを行っているからです。これまで……

・互いの地域の子どもの絵を交換



し、展示会を開催。（札幌市立北の沢小学校の子どもたちの絵、ユジノサハリンスクの孤児院、日曜学校の子どもの絵）

・「ボシチパーティー開催」ユジノサハリンスクからの財団奨学生とともに。彼女は帰国後RACの会員に！

・チャリティボーリング大会後の贈り物も、彼らに渡していただきました。

インターアクトボランティア部の紹介

函館大谷高校インターアクトクラブ
クラブ会長 三ツ石隆博

僕達、インターアクトボランティア部は、3年生12名、2年生4名、1年生2名の計18名で活動しています。

今年は、5月の大森浜清掃ボランティアから始まり、玄関前プランターの花植え、あしなが奨学金募金、7～8月に行われた、函館市民野外劇の準備、出演など様々な活動をしてきました。今年の野外劇は、雨天の影響で中止や追加公演がありとても大変でしたが、最終公演が終わった時の感動は忘れることができません。

この部は、函館北ロータリークラブの支援を受けて活動しています。時々、北ロータリークラブの方が、例会に参加してくれますが、必ず言われることが一つあります。それは、部員の人数を増やして欲しいということです。現在、僕達は18名で活動していますが、3年生の先輩方が卒業すると、部員はたったの6名しかなくなり、結成3年目にして、存続が危うくなってしまいます。

これからは、顧問の鰐淵先生と大間先生の指導を受け、部員をたくさん増やし、活動範囲をもっと広げ、皆にボランティア活動に対する関心を深めてもらうように、僕達部員一同力を入れて頑張りたいと思います。

中国上海視察旅行で、家族に「慈愛の種」

小林 進 (室蘭東RC)

当クラブは、北海道の湘南とも言われる比較的暖かい地区で、会員56名で構成しています。今年度の主なもの事業の1つであり、上海視察旅行が10月11日～14日の日程で行われました。

参加したのは12日に出発・合流した第2陣と合わせて総数30人。これまでも韓国、モンゴルやシンガポールなど、数年毎の割合で旅行を企画して、併せて旅先のロータリークラブを訪問し、国際交流を深めてき

ましたが、家族の多数の参加で今回はかつてない規模になりました。

中国においては、「ロータリーの友」2002年5月号でも紹介記事のあったとおり、北京と上海に仮ロータリークラブが承認されるようで、正式な復活が待ち望まれるところです。このため、恒例だった旅先でのロータリークラブ訪問こそ残念ながら実現できませんでしたが、記事内容が発端となり、目的地は上海に決まりました。

急速な変貌と成長を続ける中国、そして、その中心都市上海への会員の関心は高く家族での参加を熱心に呼びかけたところ12名が家族同伴することになりました。クラブの活動が広がった事や「ロータリーは家族が基本」である趣旨は会員相互だけでなく家族に対し「慈愛の種」を播くことができたと自負しています。

第1陣は11日夕方到着の後、中国一の大河揚子江の支流で上海市内を流れる黄浦江のディナークルーズで夕食。翌日は上海から車で約1時間ほどの所にある、東洋のベニスと称され、絹の刺繍で有名な蘇州市内を観光しました。その夕方、ホテルで第2陣と合流し、全員での初めての会食のあと上海雑伎団を観賞しました。



中国茶の試飲



刺しゅう製作の見学（蘇州市にて）

13日は上海市内を観光しましたが、高層ビルが建ち並ぶその景観は、北海道の“片田舎”のロータリアンから見ると、まさに驚きの大都会。WTOに加盟してますます経済が急成長を遂げる中、さらに2008年の北京オリンピック、2010年の上海万国博覧会（立候補中）をひかえ、街並みや人々から伝

わるその活気はマスコミなどで伝え聞く情報に違わず、それ以上の観さえありました。

あちこちで建設中のオフィスビルやマンションを見て「これじゃ日本もかなわない」という声もあれば一方で「まさに日本のバブル時代そのもの。5年、10年後にはどうなることやら」と冷静に分析する声もありました。

もちろん親睦重視の室蘭東ロータリークラブですから、最終の夜は、お目当てのあの上海蟹をごちそうに、旅の疲れを見せない大宴会で盛り上がったことはいうまでもありません。



租界の庭園で



4つのPET

医療の分野でPETというがん診断の最新機器が評判になっている。このPETは英語でPositron Emission Tomographyの略で最近のCT、MRIなどよりさらに一歩進んだ解析能力を持っている。

ロータリーにPETSというのがある。これは言うまでもないが会長エレクト研修セミナー (President Elect Training Seminar) のことである。

略語が一致することはよくある。3つ目は、ペットボトルのPETである。これは、poly(ethylene terephthalate) (ポリエチレンテレフタレート) という高分子物質のことである。

最近第4のPETが出てきた。先日の第4、5グループのIntercity Meeting (IM) で土橋芳美さん (札幌南RC土橋信夫会員のご夫人) が紹介してくれた「親業」というのは家庭において親が何を学ばなければいけないかである。親業のことは英語でParent Effective Training=PETというのだそうである。

国立保健医療科学院研究情報センターの望月友美子部長はたばこは個人の嗜好ですまされる問題ではなく、今や政治経済の立場から論じなければならぬと強調。たばこが原因で死ぬ人はわが国だけで年間10万人、世界全体で400万人といわれている。

欧米では既にたばこのない社会、Tobacco Free Societyという社会通念のもとで個人もこの依存から脱却しつつある。ところが欧米でのたばこ消費の余剰分はアジア、アフリカ諸国に押し付けられている。

わが国のたばこ対策の現状の手ぬるさもある。JT (たばこ産業株式会社) の筆頭株主が財務省であり、税収の相当部分がたばこに依存している現状がある。さらに、たばこ対策は従来の啓発普及や禁煙支援事業だけでなく、たばこの注意表示が日本ではまだ手ぬるい。

さらに広告規制、入手制限、公共機関の禁煙などの政策を総合的に実行していく必要がある。特にたばこ税の値上げによる税収の増加分を健康政策にも当てるのがよいのではないかと。



連絡先：(財)札幌がんセミナー

札幌市中央区大通西6丁目6 北海道医師会館6階

TEL: 011-222-1506/FAX: 011-222-1526/E-mail: scs-hk@phoenix-c.or.jp/URL: http://www.phoenix-c.or.jp/scs-hk/

広告

会員の声



「個々のロータリアンに対する四大奉仕部門功労者賞」を受賞して

今川徳郎 (江差RC)

当クラブは、去る2002年6月29日にめでたく40周年を迎える事ができました。唯一のチャーターメンバーとしてこれまで四大部門に奉仕した事に対し、この度思わぬ賞を受賞することができ感謝しております。

その中でも最も思い出に残る奉仕事業としては、ある海岸の無医地区に無料診療奉仕を行った時のことです。診療最中に子供が海におぼれ仮設の診療所に運び込まれたのです。診るとすでに呼吸停止の状態、周りの人は只オロオロするばかりです。早速人工呼吸で息を吹き返すことができ事なきをえて、大いに感謝されました。これなどはまさしく社会奉仕と職業奉仕を同時に実施した事例だと思えます。この他にもいろいろ思い出に残る奉仕事業を行ってきましたが、この度の受賞を機に、これからも体力の続く限り奉仕事業に尽くしたいと思えます。



身近な海が汚されていることをご存じですか

佐藤順一 (当別RC)

積丹町幌向の漁港の海中の清掃のため年4回潜っております。たまたま、昨年12月初旬に漁師さんから魚が異常に死んでいるという報告を受けました。

本来海草が多く生息するべきところが砂地となっています。また、石灰化

が始まっておりまして、ほとんど水中生物は見当たりません。

魚の大量死の原因は、海上投棄されたたった1個のバッテリーでした。ホッケやボラ等の大きな魚も死んでいます。恐らく釣り人が夜釣り等で落としたのか、バッテリーが海中の中にありますと鉛中毒となるとということです。たった1個のバッテリーで港一面にこれだけ多くの魚を殺してしまうのかなと、考えさせられます。

「海水はきれいに見える」というご意見がございましたが、長期間プランクトンが発生しておりませんので、透明度が非常にいいです。ですが、不思議にも生き物が全くおりません。ここは私たちが定期的に清掃しているのでまだきれいなほうですが、余市や小樽、石狩の海はこの比ではないと思えます。このように海は表面上大変きれいに見えますが、海中は大変なことになっています。

では私たちはどうすればいいのか。お聞きになったことがあると思えますが森を育てることが水をきれいにすることになります。日高、浦河、襟裳などではすでに漁業組合が植林をして海をもとに戻しています。

もう一つ、原油の産出国近海では原油汚染が社会問題になっています。それは原油を降ろした後、大型タンカーのバランスをとるために海水を入れて帰ります。そして近海でその海水を排出するわけで、この時タンク内に残っている原油等と一緒に排水され、海は汚染されます。中和剤なども散布しますが、中和剤その物も環境にいいものではありません。

このように海の環境は決して良いとは言えません。一人ひとりの意識を高めることはもちろんですが、ロータリーとして何か良い支援ができればとの思いがあります。



忙中閑あり……小林ガバナーご夫妻、岩内温泉に“つかる”ロータリーの心はFamilyだ!!

大橋由政 (岩内RC)

昨年10月実施された年次大会、“アグネス・チャン”さんの講演。今さらながら素晴らしい講演であった。彼女の飽きさせない、寝させない約2時間半。内容のみならず色々な面において学べる出会いでありました。

小林ガバナーさん始め、札幌北ロータリークラブの皆様方には改めて感謝申し上げます。

昨年末、ロータリーの会合で小林 博ガバナーさんにお会いする機会があり年次大会の感動をお伝えした折に、岩内の温泉に大会の疲れを癒しにお出でになりますかと声をお掛けしたことがきっかけで1月31日～2月1日の泊2日にて小林ガバナーご夫妻、岩内クラブ卓話等でお世話になっております奥貫地区新世代委員会委員長様、そして今年で3年目、岩内クラブ、小樽商科大学留学生への奨学図書券[1万円×5名]贈呈プログラムの橋渡しをして頂いた見延地区米山学友委員会委員長ご夫妻の5名がお見えになりました。

温泉旅館で会食後、クラブ会員のダンスホール「キング」さんで歓迎会。余市より近藤ガバナー補佐さんも出席され水割り片手に本当にぎっくばらんな楽しい会話の時間を持つことが出来ました。

小林ガバナーさんも温泉の温かみを感じたのか“女将”の瞳に酔ったのか(幸子奥様すみません)カラオケ・マイクをもって“おはこ1曲”アダモノ♪雪は降る……会場にいたお客さまも声にじびれ次々とダンスを。



ロータリークラブはファミリーだ。他地区クラブ会員ご夫妻が当地を訪れ当クラブの会員と交流して改めて実感しました。ここにもロータリークラブとしての良さの一端が……五端かな？

私の任期もあと5カ月、皆様からエネルギーを頂きながら全力で。

“雪見酒 明日の活力 ロータリー”



GSE受入世話クラブの役割と苦勞

中村和雄
(札幌手稲RC)

今年度のGSEは、フィリッピンRI3830地区から6名のメンバーが来日し、11月11日から一週間当クラブでお世話させていただきました。

6月に特別委員会を設置して、国際奉仕委員3名と特別委員5名の計8名のスタッフで実行に当たりました。

以下、今後引き受けるクラブの参考になればと思いポイント別に整理します。

研修プログラム

研修プログラムは、他クラブと重複しないように地区委員と相談しながら、作成しますが色々な機関にお願いするため大変な労力を要します。

団体研修～札幌市内の交通事情を考慮してマイクロバスを借り上げ、会員が運転しました。

個別研修～それぞれ研修先が異なるため各会員のマイカーを使用しました。

言葉の問題～チームの中に日本語が話せる人が居るとの、事前情報でしたが、結局通訳はGSE委員と会員の奥様、交換留学生等をお願いしました。

ホストファミリー

当クラブ3名、札幌西RC2名、あけぼのRC1名にホストファミリーをお願いしました。

ホストファミリーには、地区より日額3千円が支給されます。

初日にメンバーの一人が、動物アレルギーで呼吸困難になり急遽ホテルに一泊するアクシデントもありました。

費用負担

地区からは、メンバーの宿泊費を除けば6万円しか出ません、従って殆どが世話クラブの負担になります。

参考まで申し上げますと、当クラブの負担は約24万円でした。

まとめ

受入世話クラブが多大な労力と資金を費やしていることを、地区トップ及び会員の皆様に知っていただければ幸いです。



川柳20句『友』に掲載

喜多 昌(えりもRC)

平成11年7月に入会し『ロータリーの友』に投稿をはじめました。初掲載は同年12月、その後も投稿を続け今年2月号で待望の20句目が掲載されました。

掲載された川柳は下記の20句です。

ロータリー 「川柳」 喜多 昌

1 初卓話趣味の川柳役に立ち

1999・12月号

2 高価格干す手も踊るこんぶ漁

2000・1月号

- 3 介護度を無情にはじくコンピューター
2000・3月号
- 4 アイドルのきんさん天の星となる
2000・5月号
- 5 人形で孫の産湯のリハーサル
2000・6月号
- 6 ランドセルはなまるノート弾んでる
2000・8月号
- 7 握手した人を積み上げ票を読み
2000・10月号
- 8 予報士にハツ当たりするコンプ漁
2000・11月号
- 9 長生きも自問自答の敬老日
2001・1月号
- 10 質問が錬金術となる議会
2001・4月号
- 11 徳依踏んばっている森総理
2001・6月号
- 12 介護度の自立を誇る老いの意地
2001・7月号
- 13 ワイドショーよりも国会視聴率
2001・8月号
- 14 ◎墓参り無沙汰を詫びて背を流す
2001・11月号
- 15 不況には負けぬどでかい鏡餅
2002・4月号
- 16 お茶の間を闊歩しているランドセル
2002・6月号
- 17 ◎ありがとう言葉大事に生きてゆく
2002・8月号
- 18 星取表やの字が目立つ名古屋場所
2002・10月号
- 19 企業より刑務所誘致にかける町
2002・12月号
- 20 来年の生きる力に買う日記
2003・2月号

◎印 特選

ご予約・お申し込みは

●お客様を大切にするフリーダイヤル

いいさしみと寿司

☎ 0120-134344

ネタは新鮮 通の味
おたる 政寿司 すずきの店

【本 館】札幌市中央区南7西3 (仲通り) ☎(011)511-0440

●営業時間/11:30~23:00

SEKISUI 北海道セキスイハイム(株) 南展示場

●環境共生2世帯住宅

●モデルホーム
オーナー募集中

〒064-0923
札幌市中央区南23条西10丁目
北海道マイホームセンター南会場
TEL (011)-563-5816
FAX (011)-563-7816



掲示板

例会変更

- 芦別RC 3月21日(金) 休会*
 - 美唄RC 3月13日(木) 夜間例会 18:30~
 - 江別RC 3月20日(木) 休会*
 - 岩見沢RC
3月14日(金) ボーリング大会例会 18:00~
場所: 西友ポルタ 5階 トーホーホール 会費: 1,000円
 - 苫小牧RC 3月21日(金)*
 - 苫小牧東RC
3月20日(木) 移動例会 12:30~
場所: ウトナイ湖野鳥保護センター
- 注) *定款第5条第1節に基づく休会

お詫び・訂正

2月号の中で誤りがありましたので、お詫び致しますとともに下記の通り訂正致します。

- p16 新入会員紹介
函館亀田RC 正) 西谷裕幸会員
- p24 R財団への寄付者
MPHF 伊藤竹雄会員 正) 苫小牧北RC

ロータリー財団への ご協力に感謝申し上げます

バネファクター

坪谷六郎会員 (滝川RC)	9月27日
小林 博会員 (札幌北RC)	9月27日

菅原会員、鍋谷会員 メジャードナーに

菅原剛太郎会員(滝川RC)と鍋谷操子会員(函館東RC)がR財団のメジャードナー(大口寄付者)となりました。お二方のご貢献に心から敬意を表します。なお、地区からの表彰状は、次年度の地区大会時に贈られる予定です。

JGFR北海道大会へのお誘い

日本ロータリー親睦ゴルフ全国大会

JGFR北海道大会(第13回大会)が下記実施要項で開催されます。全国のロータリアンと理解と友情を深める場となる様2510地区内ロータリアンの多数の参加をお待ち申し上げます。

- と き 平成15年6月16日(月)
 - と ころ 札幌ゴルフ倶楽部(輪厚コース)
 - 登録費 15,000円(道内会員のみ)
(ご夫婦ペア参加お二人様28,000円)
 - プレー費 約22,000円(特別価格)
- ※申込は各クラブ事務局経由ガバナー事務所まで

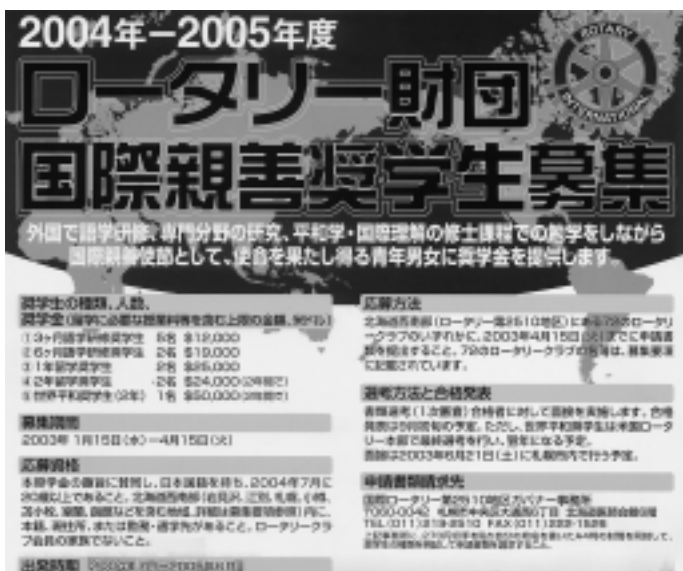
- 日本ロータリー親睦ゴルフ大会第13回大会
- 会 長 小林 博(ガバナー)
- 実行委員長 金子賢一(岩見沢RC)
- 事務局 灰野 篁(札幌北RC)
長太義雄(札幌北RC)

事務所だより

- R財団、米山財団への寄付をされた際には、送金明細書の控えをガバナー事務所へお送り下さい。FAXで結構です。
- 毎月の会員数および出席率の報告は、最終例会終了後15日以内です。期日の厳守をお願い致します。
- 月信への原稿をお寄せ下さい。特にクラブ活動、会員の声へのご投稿をお待ち致します。投稿の際には、スナップ写真も添えてください。
- 3月のロータリーレートは、122円です。

国際ロータリー第2510地区 2002-2003年度 ガバナー月信

- 発行人 2002-2003年度ガバナー 小林 博
- 発行元 国際ロータリー第2510地区
2002-2003年度ガバナー事務所
- 発行日 毎月1日発行 年12回
- 編集委員 ◎竹原 巖(地区幹事) 委員長 大田すみ子(地区幹事)
熊谷 満(地区幹事) 脇田 稔(地区幹事)
アドバイザー 米山 道男(地区幹事) 松木 新(アイワード)
- 事務局 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会館6F
TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp
- 印刷: (株)アイワード TEL241-9341



奨学生の種別、人数、奨学金(留学に必要な旅費を除く)と上限金額、科目

1. 3ヶ月前留学奨励奨学生	人数	5名	\$10,000
2. 6ヶ月前留学奨励奨学生	人数	2名	\$10,000
3. 1年間留学奨学生	人数	2名	\$15,000
4. 2年間留学奨学生	人数	2名	\$24,000(2年間で)
5. 世界平和奨学生(2年)	人数	1名	\$50,000(2年間で)

募集期間 2003年1月15日(水)~4月15日(火)

応募資格 本財団の奨学金に賛同し、日本国籍をもち、2004年7月に20歳以上であること。北海道内(岩見沢、江別、札幌、千歳、苫小牧、室蘭、函館)に在住し、詳細は募集要項を参照し、本誌、新社刊、または財団・留学先がわかること。ロータリークラブ員か家族でないこと。

出賞時期 2003年12月~2005年1月

応募方法 北海道内(ロータリー第2510地区)にある2002年ロータリークラブのメンバーに、2003年4月15日(火)までに申請書類を提出すること。2003年ロータリークラブの役員は、募集要項に記載されています。

連絡先と送金先 事務局(1次審査)は特許に対して直接を扱います。各申請書類は2003年度の卒業生、または、各所属ロータリークラブの事務局長に送付し、署名を必要とする。書類は2003年4月15日(火)までに札幌市内で行う予定。

申請書類の送付先 国際ロータリー第2510地区ガバナー事務所
〒000-0042 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会館6F
TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526
E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp

1月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例数	会 員 数			出席率	
			02.7.1	03.01.31	増減		
1	川	4	46	44	-2	87.80	
	札幌	3	47	48	1	78.12	
	青	4	12	12	0	77.08	
	平	4	15	17	2	61.76	
	留	4	69	66	-3	86.02	
小計			189	187	-2	78.16	
2	赤	4	37	37	0	90.99	
	別	4	60	58	-2	94.81	
	砂	3	61	58	-3	94.81	
	滝	3	108	113	5	75.00	
	小計		266	266	0	88.90	
3	美	4	48	47	-1	84.18	
	江	3	50	49	-1	87.75	
	江	3	41	41	0	92.50	
	岩	3	97	102	5	88.37	
	岩	4	33	34	1	90.45	
	東	4	35	33	-2	92.23	
	山	4	34	33	-1	97.55	
	当	4	46	46	0	90.10	
	小計		384	385	1	90.39	
	小	札幌	3	120	128	8	97.91
4	札幌	3	19	18	-1	100.00	
	札幌	4	29	29	0	79.31	
	札幌	3	58	57	-1	87.50	
	札幌	3	61	62	1	75.60	
	札幌	4	75	76	1	94.30	
	札幌	4	52	54	2	92.43	
	札幌	3	52	49	-3	100.00	
	小計		466	473	7	90.88	
	札幌	札幌	4	123	122	-1	98.19
	札幌	札幌	4	26	28	2	97.12
5	札幌	4	88	83	-5	99.06	
	札幌	4	50	48	-2	98.31	
	札幌	4	97	97	0	96.46	
	札幌	4	42	41	-1	90.33	
	札幌	3	17	17	0	85.78	
	札幌	4	0	24	24	7	88.50
	小計		443	460	17	94.22	
	岩	内	3	37	37	0	77.02
	岩	知	4	54	53	-1	81.00
	6	小	安	4	96	95	-1
小		樽	4	86	88	2	87.50
小		樽	3	20	20	0	85.00
小		樽	5	18	18	0	85.93
小		蘭	3	49	48	-1	87.96
小		計		360	359	-1	85.04

クラブ数 72クラブ
 期首会員数 3,458人
 当期末会員数(女性) 3,477人(98人)
 増加会員数 19人
 当月平均出席率 84.42%

グループ	クラブ名	例数	会 員 数			出席率
			02.7.1	03.01.31	増減	
7	千	4	74	76	2	85.50
	千	3	33	34	1	91.90
	千	4	50	49	-1	85.10
	北	3	16	15	-1	94.65
	長	2	18	18	0	94.30
8	由	4	18	18	0	80.56
	小		209	210	1	88.67
	え	4	27	28	1	82.40
	三	3	20	19	-1	97.36
	棟	4	24	23	-1	91.00
	静	4	68	68	0	88.89
	浦	4	41	39	-2	82.42
	小		180	177	-3	88.41
	伊	3	53	56	3	80.36
	室	3	66	62	-4	64.92
9	室	4	56	53	-3	84.00
	室	5	52	51	-1	71.08
	登	3	40	40	0	85.00
	洞	4	14	13	-1	69.00
	小		281	275	-6	75.73
	函	4	101	105	4	77.14
	函	3	51	53	2	78.21
	森	4	51	49	-2	68.00
	七	4	33	32	-1	78.00
	長	3	11	12	1	70.50
10	小		247	251	4	74.37
	江	4	20	20	0	69.60
	函	3	71	71	0	81.36
	函	4	67	66	-1	77.05
	函	4	46	47	1	74.88
	上	4	34	34	0	63.8
	松	4	8	8	0	69.00
	小		246	246	0	72.62
	白	3	34	35	1	82.00
	吉	3	68	69	1	84.26
11	吉	4	33	34	1	88.86
	吉	4	52	50	-2	87.47
	小		187	188	1	85.65
	小		3,458	3,477	19	84.42

3・4月地区カレンダー

3月		4月	
日	曜日	日	曜日
1	土	1	火
2	日	2	水
3	月	3	木
4	火	4	金
5	水	5	土
6	木	6	日
7	金	7	月
8	土	8	火
9	日	9	水
10	月	10	木
11	火	11	金
12	水	12	土
13	木	13	日
14	金	14	月
15	土	15	火
16	日	16	水
17	月	17	木
18	火	18	金
19	水	19	土
20	木	20	日
21	金	21	月
22	土	22	火
23	日	23	水
24	月	24	木
25	火	25	金
26	水	26	土
27	木	27	日
28	金	28	月
29	土	29	火
30	日	30	水
31	月		



ロータリー会員地域紹介

様似町



様似町の「花」……ヒダカソウ

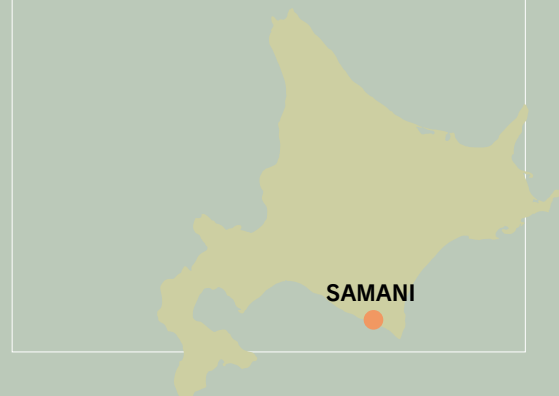
ヒダカソウは、キンポウゲ科の多年草、様似町アポイ岳の固有種。大変珍しい高山植物で、昭和58年郵政省発行の「高山植物シリーズ郵便切手」として採用になりました。



高山植物の宝庫「アポイ岳」は様似の宝

街を見下ろすようにそびえる「アポイ岳」は、810.6mの山ですが、地質と気象条件で、80種以上の高山植物が生息する群落は、国の特別天然記念物に指定されております。

またアポイ岳の地質「カンラン岩」は、マントルが押し上げられて地表に露出したとされ、世界的な学術標本と言われ、昨年アジアで初めて様似町で国際会議が開催されました。



ご意見・投稿募集

『ガバナー月信』では、より会員の皆様の声を反映させた誌面づくりを行ないたいと考えております。『月信』に関するご意見・投稿などございましたら下記事務局へ。

事務局 札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館6F

TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526

E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp



国際ロータリー第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

2002-2003 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER No.10

ガバナー月信

4月号
April

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR 小林 博 KOBAYASHI HIROSHI
〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp



ガバナーレター



小林 博

ロータリーの友と地区月信

ロータリーの機関誌の真の愛読者は、会員の1割にも満たないという話を聞いたことがある。何とも寂しい数字ではないだろうか。4月は雑誌月間である。ロータリーの機関誌『The Rotarian』（英文）と公認の地域雑誌『ロータリーの友』に対する読者の関心を喚起することが雑誌月間の任務である。

地区内には『ガバナー月信』（Governor's Monthly Letter）がある。『ガバナー月信』は本来RIからの伝達事項あるいはガバナーからのメッセージを会長幹事を介して会員諸氏にお伝えするという、いくなればトップダウンの情報伝達誌である。ところが今年度のピチャイ・ラタクルRI会長はこれからのロータリーは「トップダウン」だけではなく、むしろ一人ひとりのロータリアンの隠れたエネルギーを上を持ち上げる「ボトムアップ」がなければならないと言っている。このような将来を見据えた考えから、2510地区では『ガバナー月信』をトップダウンだけでなくロータリアン全員の率直な意見交換の場としたいと考え、その方向で努力を重ねてきたところである。この意味で『ガバナー月信』は地区月信（District Monthly Letter）というべきものである。『ロータリーの友』ともども是非ご購読をおすすめ致したい。

「地区月信」発行のためには月信編集委員会が組織され、出来るだけ一般会員の声を聞くようにつとめている。この月信に対する地区の経済的バックは決して十分なものではないが、限られた費用に見合った成果をあげていると皆様からお認めいただけるようであれば、これは非常に嬉しいことであり、また大きな慰めであり励みでもある。

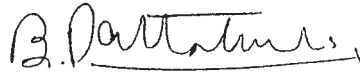
いまや「地方分権化の時代」である。「地区月信」といふならば「地区におけるロータリーの友」と理解したい。しかも「地区月信」がロータリーの友にはないような地区内の身近な問題を存分に取り上げることで、地区のロータリークラブの活性化に役立つようになることを期待している。

最後に将来への小さな夢を申し上げてみたい。それは地区のロータリーの友委員と地区の月信委員とが手を取り合うことが出来ないだろうかということである。そのための恒久的な組織を作り他地区にも模範となるような月信（コミュニケーション誌）を作っていけないものか。受身ではなく積極的に自らが「自らの地区月信」を作っていくエネルギーをこの地区に期待したいのである。

目次

ガバナーレター	小林 博	2	2002年度米山奨学生歓送会	20
ラタクルRI会長メッセージ		3	ワークショップの予定	20
文庫通信		3	米山財団への寄付状況一覧表	21
雑誌月間について	山名 善久	4	クラブ活動紹介	22
地区委員会前期活動報告		5	札幌東RC・江別西RC・えりもRC・栗山RC	
世界社会奉仕委員会・親睦活動委員会・広報委員会			岩見沢東RC・札幌はまなすRC	
ロータリーの友委員会・ローターアクト委員会・GSE委員会			会員の声	25
補助金委員会・米山記念奨学委員会			北川敏夫（札幌はまなすRC）・高井悌吉（札幌はまなすRC）	
地域社会共同隊（RCC）について		6	掲示板	26
ガバナー日記		7	第7回「ロータリー日韓親善会議」開催のご案内	26
ロータリーQ&A		10	第2回ロータリー囲碁全国大会のご案内	26
ガバナーとの対話		10	訃報	26
アンケート調査の結果と分析（第2回）		15	事務所だより	26
地区活動紹介		18	1月会員増減数・出席率報告	27
竹原 巖・友情交換委員会・川田憲秀			4・5月地区カレンダー	27

ラタクルRI会長メッセージ



Bhichai Rattakul (ビチャイ・ラタクル)
国際ロータリー会長

2月に世界理解月間を祝いながら、私は、この月がいかに重要であるかをロータリアンの皆さんにじっくりと考えていただきたいと願っております。ロータリアンとして、私たちは全員が平和と国際理解の推進という目標を共有しています。私たちはこの目標に向かい、様々な方法で努力しています。この世の苦しみを和らげる人道的奉仕プロジェクト、異なる文化の中で育った人々を結び、友情を育む交換プログラム、そして明日の外交官や調停者を教育する平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センターは、この目的を果たすための手段です。

創始者ポール・ハリスの言葉に、「戦争に至る道は、よく舗装されたハイウェイです。平和への道は未だに茨の道です」とあります。世界中で緊張が高まりつつある今日、私たちの多くは、次第に膨れ上がってゆく恐怖と増悪の生い茂る中で身動きできずに、その荒野の中で途方に暮れているのです。しかし、このように不安定な時期にこそ、ロータリアンとしての活躍が強く求められるものです。この2月、世界の人々の間の対立を煽るような誤解や歪んだ社会通念を打ち砕くために、私たちはこれまでの2倍、努力しなくてはなりません。そして、これまで以上に、相違ではなく、私たちが置かれている共通した状況に焦点を当てるべきです。

世界中の人々は共通した目的を持っているにもかかわらず、ときに私たちはみな何らかの形で繋がっているのだという事に気付かずにいることは、なんと悲しいことでしょうか。一人の状況が改善されれば、世界全体がその恩恵を受けるのです。ロータリーだけでなく、私たちの職業生活、個人生活を通じて、同じ目的を遂げ、国々、人種、文化、信仰、民族を恐るべき勢いで分裂させるその相違を繋ぎ合わせるために、私たちは専心しようではありませんか。

164カ国に存在し、いくつもの言語を話し、多様な信仰を抱えるロータリアンは、まるで世界の小宇宙のように映りますが、たった1つ大きな違いがあります。それは、ロータリーが寛容と理解と慈愛に満ち溢れた平和な小宇宙であることです。この国際理解と親善というロータリーの手本を、世界全域に広めたいものです。憎しみや争いや暴力が広がりそうなどころには、ロータリアンに慈愛の種を播いてもらいましょう。

世界理解月間実施中に平和と親善を推進するためにご尽力いただけるよう、この私のメッセージを是非貴クラブならびに貴地区のすべてのロータリアンに伝えていただければ幸いです。

文庫通信

186号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」も備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

興味深い資料から

- ◎「泥中の蓮—ビチャイ・ラタクルR・I会長のロータリー思想—」
佐藤千壽 2002. 12 (D.2790地区大会講話)
- ◎「地域社会でのロータリーイメージ強化」 中野重宏他 2001 16p
(D.2650IMフォーラム)
- ◎「教育 家庭で出来ること 学校で出来ること 地域社会で出来ること」 藤川享胤他 2002 2p (D.2770地区大会シンポジウム)
- ◎「フレッシュロータリアンと語ろう」 岩崎敏夫他 2002 11p
(D.2840地区大会パネルディスカッション)

- ◎「地域のなかで 私とボランティア」 星野和央 1996 73p
[申込先: 星野和央 FAX (048) 834-1923]
- ◎「会員増強と退会防止を考える。」 小船井修一 2002 6p
- ◎「フォーラム 「女性会員増強について」 土井口勝他 2002 22p
(D.2720地区大会)
- ◎「ロータリーの会報は会員の行動そのもの」 三浦福好 2002 1p
[上記申込先: ロータリー文庫 (コピー)]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

私が地区委員として「ロータリーの友」委員を担当しておりました時、4月の雑誌月間に地区内クラブからスピーチの依頼がありました。

幾つかのクラブでスピーチをしましたが、その折必ず決まってクラブ雑誌委員長から「雑誌委員会はどのような活動をすればいいのか？」という質問がありました。

皆さんは何をしていいのかわからないので、一応手続要覧を参考に活動をしている、とのことでした。

手続要覧に書かれている内容はと言うと、この委員会は

1. ロータリアン誌に対する読者の関心を喚起する。
2. 雑誌月間を主催し、クラブの例会プログラムにおいて毎月雑誌の簡単な紹介を手配する。
3. 新会員の教化に雑誌を利用することを奨励する。
4. ロータリアンでない講演者に雑誌を贈呈する。
5. 図書館、病院、学校、その他の図書閲覧室のために、国際奉仕並びにその他の特別購読を取り計らう。
6. ニュース資料と写真を雑誌編集者に送る。
7. その他、あらゆる方法によって雑誌を本クラブ会員およびロータリアン以外の人々に役立てるものとする。

以上のようなことが書かれています。

でも、本当にこのような活動でいいのだろうか？という疑問が私にはありました。

「ロータリーの友」誌の存在意義、存在目的はこのような簡単なものではないと考えます。勿論、手続要覧に書かれている活動も確かに必要でしょう。

しかし、手続要覧に書かれている内容は、単なる表面的な活動資料としか思えません。

手続要覧に書かれている文章の奥の奥を考えていくと、二つの言葉が浮かんできました。それは、会員増強とクラブ活性化という二つの言葉です。

私は現在、札幌南ロータリークラブの雑誌委員長を務めています。

私は、今年度雑誌委員会の活動計画の一つに、
——各委員会の協力をいただいて、比較的入会の浅い会員に対して「友」誌に掲載された記事の感想および意見をクラブ例会で発表していただく——発表する人が所属する委員会に関連した記事を読んでいただくのが基本ですが——
このような計画を立てました。

なぜかと申しますと、

クラブ内で、1人でも二人でも「友」誌を真剣に読まなければならない状況を作ろうと考えました。

案の定、指名された人は、「友」誌を数冊読み漁ったと聞いております。

また、入会間もない会員はロータリーに対して、新鮮な目を持っています。ある程度ロータリーを経験している人では気づかない目を持っているということです。

そして、「友」誌を読むことにより、ロータリーの理解を深めることができるのは当然のことです。

次に、ロータリーをある程度経験されている方は、新会員のスピーチを聴くことにより、ロータリーを再確認・再認識する機会を得る事ができます。

ロータリーは刻一刻と変化しています。5年前・10年前・20年前のロータリーの価値観と、今のロータリーの価値観とは違うことを私達は理解しなければいけないと思います。更にクラブ例会時に、新会員が友を読んでロータリーのことを話すわけですから、クラブ会員と一緒に、同じロータリーの事柄に対して考える場をなんとか作りたいと考え、この活動計画を立てました。

ここで大切なことは、クラブ会長・幹事、プログラム委員会、そして、各委員会委員長に、この目的、主旨をよく理解していただくということです。皆さんの理解無くして、この計画は、絶対に成果を得る事ができません。

要は、雑誌委員会単独での活動では活動できることが限られています。

ロータリーのあらゆる委員会の事柄に対する記事が掲載されている「ロータリーの友」誌だからこそ、「友」誌を担当する雑誌委員会だからこそ、クラブ内全委員会をも巻き込んだ活動が可能と考えます。

勿論、今私がお話した事以外にも、多くの活動方法はあると思いますが、

結論：

1. クラブ雑誌委員会は、会長・幹事をはじめ、そのクラブの全委員会と連携して活動を行うことが必要である。
——クラブの活性化を求め——
2. クラブの各奉仕委員会の役割・任務、そして、その委員会の存在目的を会員に認識、理解していただくために「友」誌がある。
——そのために「友」誌を活用する。——
——勿論、委員会の活性化につながる——委員会の活性化はクラブの活性化にもつながる——
3. 新入会員に対して、ロータリーの「いろは」を理解していただくために「友」誌がある。
——これに連動してロータリーに対し、理解・認識が深まれば、会員の退会防止にもつながる——
——さらには、ロータリーに対する理解が深まれば、会員推薦等会員増強の一助にもなる——
4. 他地区・他クラブとの比較ができる。
他クラブとの活動比較。クラブの弱点を発見することができる。

以上のような効果を期待することができる。

総論：クラブ雑誌委員会の存在目的を雑誌委員会の委員が、明確に理解することが重要。そして、その存在目的を会長・幹事及び各委員会に対し、理解促進を目的とした活動が必要。——結果「友」誌は自然と愛読されるようになり、先ほど申し上げた諸々の効果を期待することができるのではないかと考えます。

地区委員会前期活動報告

2002.7~2002.12



世界社会奉仕委員会 委員長 土倉裕之(札幌東)

- ・ミャンマー(ヤンゴン)孤児院資金援助(札幌東RC)
- ・スリランカ医療施設に中古ベッド・マットレス寄贈(札幌南RC・コロomboRC)
- ・スリランカ医療施設に中古ベッド寄贈(千歳RC・千歳セントラルRC・コロomboRC)
- ・インドネシア、スンバラ村、図書館建設(新札幌RC)
- ・WCS卓話(新札幌RC)



親睦活動委員会 委員長 植田英隆(札幌)

- ・ヨットの国際交流組織IYFRの交流会、小樽、札幌で開催されたものへの委員会としての協力。
- ・ゴルフの全国交流の道内ゴルフ会、開催にあたり挨拶。
- ・スキーの国際交流組織ISFRとの連絡活動。
- ・地区大会関連の囲碁大会が開催、連絡受け参加。



広報委員会 城木浩一(札幌北)

前期委員長より引継ぎを受け、委員会で検討した事業を進めている。

- 各クラブから事業計画をお聴きし、地区奉仕活動事例集を作成する予定だが、資料の集まりがはかばかしくありません。後半に向けて更なるお願いの呼び掛けを致します。
- ペット、地区大会等にて広報強化のお願いをした。
- ポリオ撲滅の広報として、RIからのポリオ関連資料を各クラブへお送りした。更に会長・幹事様へのお手紙や月信を通じて広報に努めている。3年計画で、ロータリー創立百周年までにポリオの撲滅を達成し

たいのだが、今まで手の届かなかった地域の子供達が一人でも多く救われれば、と願っている。



ロータリーの友委員会 委員長 佐藤 公(札幌北)

- ・第1回 ロータリーの友委員会
7月13日(土) 於: まるいち事務所
「雑誌委員会」名称変更について 等
- ・第2回 ロータリーの友委員会
11月28日(木) 於: ガバナー事務所
「雑誌委員会会議」開催の件 等
- ・第3回 ロータリーの友委員会
2月3日(月) 於: ガバナー事務所
情報関連委員会ワークショップ開催の件 等



ローターアクト委員会 委員長 中塚 力(岩見沢)

- ・地区キャンプ交流会 留萌
- ・地区セミナー 函館
- ・ライラセミナー 札幌
- ・留萌RAC 30周年 留萌
- ・RA地区協議会 赤平
- ・第1回北海道ローターアクト交流会 釧路
地区行事も予定通り消化しており特に本年度はアクト会員の積極的な活動が目につきます。



GSE委員会 委員長 山名善久(札幌南)

- ・毎月定例委員会開催
- ・RI3830地区派遣GSEチーム受入れ準備会議を毎月開催
- ・受入れに関わるコーディネーター説明会議を10月に開催
- ・10月16日~11月20日フィリピン3830地区派遣GSE

チームを受入れる。

地区大会にGSEチームメンバーと地区委員の参加受入れに関わる反省会を開催

- ・次年度フィリピン3830地区へ派遣する団員の選考試験を実施。

4名のメンバー決定



補助金委員会 委員長 伏木忠了(札幌西)

- ①委員会開催 3回
- ②ガバナー月信に補助金申請のPRを2度
- ③第1ゾーン～第4ゾーンA
ロータリー財団地域セミナー（11月28日）に出席
- ④静内RCより財団月間に卓話の依頼あり、服部委員補助金申請についてスピーチ



米山記念奨学委員会 戸井敏夫(札幌南)

米山奨学制度への理解と寄付増進を図るため、次の活動を行いました。

1. 委員会
第1回 2002年10月26日（土）
札幌ルネッサンスホテル
2. 米山奨学生懇談会（46名出席）
2002年10月26日（土） 17時30分～
（札幌ルネッサンスホテル）
3. 例会卓話（米山月間）
2002年10月1日（火）深川RC 米山奨学生 羅敏耀
2002年10月3日（木）滝川RC 米山奨学生 李英愛
2002年10月3日（木）千歳RC 米山奨学生 王云
2002年10月7日（月）札幌南RC
米山委員長 戸井敏夫
2002年10月9日（水）恵庭RC 米山奨学生 趙松吉
2002年10月10日（木）苫小牧東RC
米山委員長 戸井敏夫
4. 地区RYLAセミナー
（戸井委員長・米山奨学生8名出席）
2002年9月21日（土）～22日（日）（JR研修センター）
5. 地区大会（米山奨学生・11名出席）
2002年11月17日（日）（厚生年金会館）

地域社会共同隊 (RCC) について

国際ロータリー

RCCプロジェクト

世界中のRCCは、地元社会、近隣地、村にとって有益なプロジェクトを実施し、ロータリー奉仕の精神を実践しておられます。今年の卓越したRCCプロジェクトの例をいくつかご紹介いたします。

- フィリピン、イロコス・ノルテ、ラオアグ・ロータリー・クラブ会員とマガラオイRCCの隊員計60名が、「豚の飼育」家畜農業プロジェクトに参加しています。彼らは、20頭の子豚を買い、育て、成長した豚を売って収益を得ることを目標としています。現在、このプロジェクトは、35頭の子豚を使った輪作収益で地域社会の貧しい人々に恩恵を与え、プロジェクトを維持する規模に発展しました。
- アパリンディー・コミュニティー・ケア・センターRCCと南アフリカ、ノース・ダーバン・ロータリー・クラブは、地元の高齢者と孤児を扱う施設の日常運営を手伝っています。RCC隊員は、センター職員と居住者を助力し、地域社会で販売するセメントの製造作業、農産物の栽培、食パン作りを手伝っています。センターの維持や設備改善は、住居者に適格な生活環境を与える上で必要とされますが、その資金は政府から支給されませんので、販売収益で賄っています。

www.rotary.org

ロータリー・ウェブサイトwww.rotary.orgのRCCセクションを是非ご覧ください。このセクションは更新され、オンラインでRCC関連の情報をより入手し易いよう再構成されました。RCC活動に焦点を当てた特定セクションは、貴RCCプログラムの成功例をロータリー世界と分かち合う素晴らしい方法です。RCCプログラムで活躍されている方々に、活動の様子を提出するようご奨励ください。

RCC活動を求めたり、推進するもうひとつの方法は、RIのウェブサイトに掲載され、他のロータリー、ローターアクト、およびインターアクトのプロジェクトと並んで多種の奉仕活動や募金活動を挙げた社会奉仕プロジェクト・データベースを活用することです。データベースには、特に創意的で成功を遂げた活動で、他のクラブや地区が模倣できる活動が入力されています。

ご質問やご意見がありましたら、ご遠慮なくガバナー事務所にご連絡下さい。皆さまが2002-03ロータリー年度の目標の達成に引き続き尽力され、周りや世界中の人々の心や意識に慈愛の種を播かれるに当たり、ご成功をお祈りいたします。

ガバナー日記

中学生夢会議ってなんだろう？

中学生夢会議って聞いたことがない。とにかく出席してみることにした。3月1日(土)午後2時から2時間札幌市西区の生涯学習センターちえりあホールで行なわれた札幌手稲クラブ新世代委員会主催の「中学生夢会議」である。何をやるのか一抹の不安な気持ちでいたが、中川喬雄会長の挨拶に引き続く丹羽祐而コーディネーターの名司会で7人の中学生が将来への夢の語るのである。これに5人(内3人が札幌手稲クラブ会員)の適切なアドバイスできわめて楽しく聞かせていただいた。



▲おおいに夢を語った中学生とアドバイザー
コーディネーターの丹羽祐而会員▶

地球温暖化阻止の環境問題に関わりたいという夢やバレーボールに優勝したい、学校の先生になりたい、ピアノ弾きになりたい、イルカの調教師になりたい、家族と見詰め合う家庭を作りたいなど小さい夢や思いがけない多彩な夢を聞かせていただいた。

アドバイザーの吉野泰司会員(札幌手稲RC)は若い頃パイロットになりたかったと、また肘井博行会員(同RC)は学校の先生になりたかったが本音のところ女の子に好かれるためにどうしたらいいか苦労した話、そして戦争のない時代を作るのが今の夢であるとの紹介も心に響いた。また瀧川哲夫会員(同RC)は他人を批判する前にみんなで力を合わせて夢を果す努力が大切という率直なコメントがあった。コーディネーターの丹羽祐而会員は豊平川にチョウザメが上がってくる日を夢みたい、それが30年後であったとしてもよいという。アドバイザーの一人の磯野爽氏(元札幌市PTA会会長)は丹羽さんのチョウザメを早く食べてみたいと身近かな夢を語ってくれた。財団奨学生の平岡美緒さん(北星学園4年)は将来環境保護に関わりたい、そして国連で務めたいとのこと。

冒頭の中川会長の挨拶では「農薬」は本当は「農毒薬」といべきもので、虫をコロリと殺すと同時に人をもじわりと殺すとの話。また農薬をとりこんだドジョウを食べるトキがいま絶滅に瀕しているなど、こわい農薬の被害の話と新しい食生活に関わるご自分の仕事の夢を語ってくれた。

ロータリアンも一人ひとり大きな夢がある。夢は空想に近い夢から実現可能なもの、しかも年齢や時代変遷と

ともに変わる。果してロータリアンとしての夢は何なんだろうか？

チーム研修セミナーは新しい試み！

チーム研修セミナーは次年度のガバナー補佐と地区委員長とが次年度の基本方針を確認すべくお互いの意見を開陳し討論する場である。3月2日(日)10時半から4時半まで千歳全日空ホテルに2003—04年度のガバナー補佐エレクト、地区委員長エレクト全員が集った。この地区研修セミナーは昨年春から始まった二度目のもの。

残念ながら地区委員長の報告はおよそ30委員会から次々と続いたが、ガバナー補佐の報告は一つもなく、ガバナーエレクトからの紹介のみであった。いわば委員長報告が主体で、ガバナー補佐と地区委員長との具体的な討論のなかったことが些か残念に思った。

印象に残った話として、午前に西條正博パストガバナーから「分区代理」と「ガバナー補佐」の違いについて、また佐藤秀雄ガバナーエレクトからはアナハイムの出席の折にRI財団が株式投資による700万ドルの赤字があるのにこの赤字は存在しないunrealizedのもの、つまり書面上のロスに過ぎないと説明して、みんなの疑念を増幅したとの紹介もあった。

なお、佐藤ガバナーエレクトの報告によるとRI会長エレクトのジョナサン・マジアベさんの強い意向として、亡くなられたロータリアンの家族をサポートするための**家族委員会**を作りたいとの依頼があったとのこと。これについては2002—03年度新設の**家庭奉仕委員会**和田三三委員長の元で取り計らっていただくことで了解した。ちなみに次年度のRIテーマは「Lend a Hand」(手を貸そう)とのこと。

世界初の女性編集長を迎え第1回ワークショップ！

「ワークショップ」とは何か以前にも書いたが、一つの問題をみんなが同じ目線で討論を深め、一つの結論を導き出すよう努力し、それをさらにできれば実行に移すという狙いである。講演会でもシンポジウムでもなければ、またパネルディスカッションでもない。やはりそこに一つ新しいものを作り出していこうという含みがあってこそワークショップの精神が生かされると思う。担当された地区ロータリーの友委員長の佐藤公会員(札幌北RC)のご尽力で適切な演者選定と活発な全体的な討論が実現できたと思う。心から御礼申し上げたい。

第1回ワークショップは3月12日(水)1時から北海道厚生年金で「情報とコミュニケーション」のテーマで「ロータリーの友」編集長の二神典子さんの基調講演の後4人の演者を中心に討論を行った。ちなみに二神さんは世界各国のRI公認地域雑誌の編集長のなかで初の女性編集長である。「ロータリーの友」は昨年7月の創刊50周年迎えると同

時にサイズを大きくし、製本を中綴じに、カラーをトップにするなどいろいろ新しい企画で読み応えのあるものになったが、これも二神編集長の熱意の賜である。

小憩の後、広報について地区広報委員長の城木浩一会員(札幌北RC)、クラブの雑誌委員会のあり方についてロータリーの友委員の山名善久会員(札幌南RC)、ついで電子メールについて地区IC委員長の山田信夫会員(苫小牧北RC)、最後に月信について地区月信編集委員長の竹原巖会員(札幌北RC)の話題提供とともに質疑がなされた。

ただ、何事にも常に反省がなければならないし、反省あつての発展である。話題が「情報とコミュニケーション」というかなり広い範囲のものになったために些か焦点がぼけ、討論の突っ込みが不足したきらいがあつたかもしれない。

そのなかでも、各クラブの雑誌委員会の名称はむしろ「ロータリーの友委員会」であつた方がよろしいし、またさらに範囲を広げれば「コミュニケーション委員会」とした方が良いのではないかという意見が印象に残つた。



基調講演司会の 齊藤元護会員(札幌南RC) 二神典子 ワークショップ司会の 佐藤公会員(札幌北RC)
 齊藤元護会員(札幌南RC) ロータリーの友編集長 佐藤公会員(札幌北RC)



月信を片手に 竹原巖月信編集委員長(札幌北RC) 質疑の 松見修二ガバナー補佐(函館北RC) 質疑の 菅田馨会長(札幌セントラルRC)

本当に楽しかった・腹抱えて笑った

3月13日(木)夜、後楽園ホテルで開かれた札幌西、札幌手稲、札幌西北、札幌あけぼのの4クラブの合同例会と懇親会のご招待をいただいた。最初に挨拶の札幌西RCの高下泰三会長が言われるのには、昨年9月10日のガバナー公式訪問の時の合同例会が非常に良い印象として残つたので、夜の部の懇親を主体とした合同例会をやりたいとのことで企画されたとのこと。今回は札幌西北RC(三上直彦会長)の担当である。

懇親会に入ってから各クラブからのアトラクションで時間の経つのを忘れた。最初のだし物は札幌あけぼののクラブの関係の子供さん方による「よさこい」の実演だった。まだ幼い子供もいて大変かわいく、よさこいの最高責任者である岸田晴樹さん(札幌西RC)からはきわめて「将来性あり」とのお褒めの言葉があつた。

アトラクション2は札幌西クラブの大和良二会員による



▼金色夜叉は爆笑が絶えなかった(札幌西北RC)



▲よさこいを踊る札幌あけぼのRC関係の子供さん

ハーモニカの演奏。アンコールを含めて3曲、素晴らしい演奏で大きな拍手がおくられた。ちなみに大和会員は現在85歳とのこと。その抜群の肺活量には感嘆した。

アトラクション3は駒ヶ嶺大三会員の指揮による札幌西クラブのメンバーのコーラスである。ダークダックスも顔負けの演奏で、「乾杯の歌」など会場全員の合唱もあつて大いに盛りあがつた。さすがは札幌西クラブは音楽クラブである。

アトラクション4の札幌手稲RC宇野義昭会員による「まぶたの母」などの歌と演技には驚いた。こんなプロの芸人がロータリアンにいたとは!! おひねりも最高だったので「ニコニコ」もさぞ大変であつたであろう。

最後のアトラクション5は札幌西北RCの次期役員を主体にした「金色夜叉」である。いかにも素人らしくセリフの間が合わなかったり、どこまでが本物なのかミスなのか区別がつかない抜群の演技に会場は大いに笑いこけた。私自身久し振りに腹を抱えて笑つた。

終わって最後に札幌手稲RCの中川喬雄会長は「今日は本当に楽しかった。これで4つのロータリークラブが1つになった」と挨拶された。出来ればこの素晴らしいアトラクションは4クラブのご家族の方々にも是非見せてあげたかった。本当に素晴らしかった。

本音の討論でロータリーは変わってきた!

3月15日(土)、16日(日)会長エレクト研修セミナー(プレジデント・エレクト・トレーニング・セミナー=PETS)が千歳全日空ホテルで開催された。併せてロータリー財団セミナー、米山セミナーも開かれた。地区内12名のガバナー補佐と72名の会長エレクトが始めて一堂に会する機会でもあつた。

財団セミナーでは会員が寄附したお金在实际RI本部でどのように配分され使われているかの全容がなかなか見えてこないという質問があつたし、また3年後にその60%(96—97年度から50%)が還元されるお金の使い方についてみんなの関心と熱意がまだ不十分ではないかという意見もあつた。どうせ申請しても間に合わないだろう、ダメだろうと最初から諦めのムードではなく、やはり申請してみるという意欲が必須なのではないのか。弾を撃たなければ当たらないのである。このような基本的な意識改革がなければ、ロータリー会員が金だけ出して見返りが無いという不満につながってしまう。

財団の寄附目標額は2002—2003年度に従来の32万ドル



グループ別討論会 (Eグループ) の会長エレクト、中央に渡部英次ガバナー補佐エレクト (留萌RC) と
木村照男代表幹事エレクト (千歳RC)、右手に時間を気にする佐藤秀雄ガバナーエレクト (坂井浩会員-千歳セントラルRC-撮影)

から25万ドルに減らしたのだが、このことをまだご存じでない方も多かったようだ。それとRI会長、エレクト、ノミニー個人に2600万円ほど毎年謝金として払われているという事実はその後どのように進展したのかという質問に対しても具体的な回答はなし得ないが、いずれ規定審議会への検討がなされるはずである。

地区の委員会の数が多すぎる。予算がかかって大変ではないかとの率直な意見もあった。ただ誤解がないようにいうが、委員会を増やしたとはいえRIからの指示をそのまま受け入れているわけではなく取捨選択していること、しかも委員会の増加には責任分担が明確化した利点があること、予算面に関しては関連の委員会が合同で開催するように指導していること、また大きな委員会の予算は既に相当カットしているのでトータルでの予算増にはなっていないことをこの場で指摘しておきたい。

地区委員会が増えると各クラブで対応しきれないという意見には一理ある。今年度から地区に出来た**家庭奉仕委員会**は各クラブでは社会奉仕委員会で担当していただければいいことであろう。さらに次年度は**家族委員会**を作るようにとのことだが、これも家庭奉仕の中に入れて考えるべきであろう。さらに次年度この地区で「**子ども奉仕委員会**」が新設される。これもクラブの事情が許せば個々の委員会を作るに越したことはないが、各クラブでは社会奉仕の中で進めていただければいいのではないだろうか。

最後に私は会長エレクトのみなさんに「そのクラブを良くするのもしないのも会長さんの熱意如何である。ただ1年間無事に務めればいいということではなく、1つのビジョンを持って会員のみなさんに本音でお諮りし、前向きに進めていただくようにご努力いただきたい」とお願いした。

また、「**地区月信**」は「ロータリーの友」と違ってロータリーの身近な情報がいっぱい入っており、どうかお目通しいただくことで会長としての準備をお進めいただきたいと強調した。さらに佐藤ガバナーエレクトも「1人の人間であり、あるいは失敗もあるかもしれないが、みな様の暖かいご声援によってこの2510地区が全国的にも『なかなかよく頑張っている、素晴らしい地区だ』というふうな評価をあげていただくようお願いしたい。これも各会長エレクトのみなさんの双肩にかかっている」と激励した。

家庭を大事にしますか？

この地区に全国初の**家庭奉仕委員会**ができた。具体的に何をどうすればよいかという疑問が絶えない。**札幌北RC**では玉木弘孝社会奉仕委員長が「私の家庭奉仕」ということで夜間フォーラムを行うので基調講演をしてほしいとのこと、3月17日夜6時半からホームクラブのセンチュリーロイヤルホテルに赴いた。玉木委員長は「ある研究者は奥さんを顧みず子どもを顧みずひたすら研究に専念したために、今になって反省し家庭奉仕を思いついたのではないかと暗に私を揶揄する紹介があった。事実、玉木委員長の言うとおりで、私自身は子どもたちの父兄会、学芸会に一切出る暇もなく一心に研究に専念していたと思う。いまはがんを持った患者さんと応答する機会も多くなり、人生の最終局面に立ち入った人達を多く見るにつけ家庭がいかに大事かを思い知らされるつつある。

家庭奉仕の基本は相手の話を良く聞くこと、お互い良く話し合うこと。2番目、相手の人間としての人権、人格を十分に尊重すること。3番目、もし出来れば相手の些細な美点でも見つけ、これを何気なく誉めることの3点を紹介し、私自身が皆さまに家庭奉仕を語れる資格はないが、私自身が家内の脊柱側湾症による痛みの場所に毎朝湿布を貼るとかピップエレキバンをつける、また食事の後の皿洗いをすることなどを紹介した。

4つのテーブルに分れクラブ会員が「私はこんな家庭奉仕をしている」という紹介があった。いまその逐一を紹介することは出来ないが、あまりにも羨ましい家庭奉仕に「何か後ろめたいことがあるのではないかと冷やかされる人もいた。また、ご夫人を亡くされた一会員は、人目も羨む仲睦まじい仲であったが、奥さんを亡くされて始めて家庭のありがたみを知らされたという話もみんなの心に強く残るものであった。「私はこんな家庭奉仕をしている」という話を本音で語り合える雰囲気はロータリアンとして潔く素晴らしいと思う。



「私の家庭奉仕」を自由に語り合う札幌北RC会員

小林俊之会員撮影

Q：クラブも地区も次年度に向けての準備を始めておりますが、地区委員並びに委員長の選考や基準はあるのでしょうか？ また、地区委員会の役割について教えてください。

A：地区委員及び委員長はガバナーのブレインとして、ガバナーから特定の個人に指名するものでクラブの意向やクラブの判断で決めるべきものではありません。地区の管理や特定の奉仕活動の実践分野を担当するわけですから、それぞれの分野の知識や経験が豊富な会員を選考されることとなります。

特に実際活動の伴う、国際奉仕・財団・新世代・青少年交換関係の委員会では経験と実績が問われることとなります。しかし、同じ委員が何年も同じ職にとどまるのも考えものです。任期は3年を範囲以内に、毎年新しい委員を入れて新陳代謝を図り、地区内のスペシャリストの絶対数を増やすことが必要

です。

DLP制度が義務採用されるようになり、ガバナー補佐の就任要件の一つに地区委員並びに会長経験者があります。従って、有能な会長経験者となるべく早く地区委員に指名し、逆に地区委員として活躍した人となるべく早くクラブ会長に就任させる努力も、クラブ側で考慮する必要があります。

「ガバナーは地区で唯一のRIの役員である」とRI細則で定められていますが、ガバナー自身が地区管理や奉仕活動の実践分野のすべてに通じているわけではありません。それぞれの分野のスペシャリストとして、またガバナーのブレインとして、ガバナーから出される具体的な諮問事項を検討し、適切な答申をしなければなりません。このことも大切な地区委員の役割であります。

また、奉仕活動の実践母体は各クラブやロータリアン個人であって、地区ではありません。しかしながらクラブやロータリアンが十分な情報を持っているとは限りませんから、地区委員会が具体的な情報を収集して、それをクラブやロータリアンに提供することも大事な役割と言えます。

ガバナーとの対話 —アンケート(会員の自由意見)と回答(2)

アンケートの個別項目についての結果は、月信2月号に報告した通りだが、会員から寄せられた自由意見を項目別に整理した。その中から回答の必要と思われるものについて若干のコメントを加え「ガバナーとの対話」として3月号にその1部を報告したが、残りをすべてを4月号で紹介する。

示唆に富むご提案などが多くあって頼もしい限りである。あらためてロータリアンのみなさんの率直なご意見に心から感謝申し上げたい。

財政について会員からのご意見

1. 寄付が判らない。何種類あり何のためかが今ひとつはつきり判らない。
2. 21世紀に入り、国際的な状況も大きく変化し、経済環境が益々貧富の差を広げ拡大する傾向にある。痛々しい現況であるが、RIの100周年を迎えるに当りRI負担金、地区負担金を含め会費の減額を含めた総合的な事業、運営を見直す時期にきていると思う。
3. 分担金、寄付、特別寄付、登録料、協力金などお金のかかることばかりが多い。こういう時代だからこそ見栄を張らずに分に応じた行動をすべきではないか。もう一度

原点にもどって謙虚になる必要があると思う。

4. 社会経済が落ち込んでいる現状の中で年会費、また諸会合の参加料など考えていくべきではないのか。
5. 会の財政が苦しいのであれば、ゲストへの車代は3～5,000円程度で十分、誕生日プレゼントなどは今は必要ないのでは？
6. 地区大会に非常に疑問を持っている。①費用、②準備或いは参加に費やす時間、③大会の内容等からみて殆ど無駄ではないかと思っている。ロータリー本部の規則だからというのではなく、日本の風土に合った行動を考えたらと思う。
7. 会員増強と退会防止が今、ロータリークラブの最大のテーマになっているのではないのでしょうか。ロータリーは寄付団体ではなく、奉仕団体であるべきではないのでしょうか。一方、ロータリー財団への寄付や分担金、



米山奨学会への寄付など、日本のロータリーは非常に多額の資金を使っているようですが、国際ロータリーなのだから、特に寄付などは平等にし、無理な寄付集めははかなものかと思えます。

8. 組織として節約に努めることが必要。
9. 会員の少ない小さな町の貧乏クラブと大きな金持ちクラブとが一緒の寄付金ではなく、コンピューター時代なので色々な意見をくみ出す方法はないのですか？
10. 地区は（71クラブ）会員で成り立っていると考える。71クラブあっての地区である。地区委員会を少なくする。会員の負担金を減らす。地区行事を最低限必要なものみにする。これを実行しないと近い将来ロータリーは滅亡の危険ありと思う。
11. ここ数年会員が大幅に減少しているにもかかわらず、地区ではこれまで通りの活動をしようとするのは如何なものか。収入に見合った活動をしなければ無理がかかり、ついて行けなくなった会員が離脱する心配がある。重点的にしぼって活動すべきと思う。そのような中で委員会を増やせば会場費などがかかる。逆に委員会を減らして能率的に機能させるべきと思う。
12. 登録料、人頭分担金などが高い。

回答：

「ロータリーには金がかかる」「無駄な金は省くべきではないか」「組織をもっとスリム化して経費の節減を図れ」といったような意見が大部分を占めている。各クラブの年会費一覧表（月信1月号p27）にあるように、それぞれのクラブのご苦勞が伺える。札幌市内は平均して高い。それは会場、食事が他クラブに比べて高いということだろう。いずれにしても、ロータリーに金がかかりすぎ、それが有効に使われていないのではないかと、という疑問は少なくない。



このような意見は謙虚に受け止め、各クラブの予算づけで十分考慮いただくだけでなく、地区予算の編成にあたって注

意しなければならないところである。

ゲストスピーカーへの車代は3,000円～5,000円位で十分ではないかとか、誕生日プレゼントなど今は必要でないのではないかと（No.5）とのご意見も具体的で結構なことではないかと思う。いずれにしても、各クラブの自主的判断でお決めいただきたい。

一方、地区の予算づけで委員会が増えればそれだけ予算が増えるということであるが、これは先月号の月信にも書いたが、必ずしもそうではない。個々の委員会には経費の節減をお願いしており、委員会の数が増えることで経費が増えることではない。委員会が増えたのは、単にRIの指示

に拠るからということではなく、活動内容の責任分担が明瞭化するというメリットを重視している。

今回のアンケートには余り触れられていなかったが、1)の寄付が判らない。何種類あり何のためかが今ひとつははっきり判らない。という意見は、大変貴重なご意見と思う。ロータリー財団の寄付配分の内容がしばしば変更し、その内容について行けないという側面がある。また、財団への寄付は3年間据え置いてからその50%がわれわれの手に戻ってくるが、これの内容、仕組みについては不明な点が少なくない。とくに財政悪化に伴い、3年間に投資された財産のお金の損失もどのぐらいになるのかは、われわれには見えてこないし、具体的な内容はほとんどわからない。ともかく3年後に戻ってくるお金をいかに有効に使うかということももっとみんなの関心があっていいように思う。とくにお金を納めただけで使おうとしない傾向が寄付に関する不満に関連しているのではないだろうか。



奉仕について会員からのご意見

1. 最近のロータリーの奉仕活動は物的奉仕に多少偏る傾向がある。それがロータリーのすべての如き考えは危険である。青少年の育成を含めて心の活動をいま少し努力すべきだと考える。今ロータリーに求められているのは心の活動ではなかるうか。勿論物質的のものを排除するというのではない。
2. 派手な奉仕活動（国際）がだんだん多くなり、かなり苦痛を感じる。無意味だとは申しませんが、中にはRCへの押し付けが感じられるものもあります。新入会員やその候補者は大きな戸惑いを感じるのではないかと危惧を感じます。
3. 地元に着してない。
4. 国際奉仕に比重がかかりすぎている。
5. もっと地域に奉仕する姿勢が必要。
6. ロータリークラブは奉仕団体なのか、そうではないのか。
7. ロータリーの原点を忘れないこと。身近な奉仕活動を探し、実行したい。
8. 地域性もあると思いますが、会員各位の意識を高め、新会員の増強を頑張るべきだと思います。当クラブも何とか50名を超えるよう努力したいです。
9. 月1回例会として、市内のゴミ拾いをしたらその後の食事はもっと美味しいのでは？
10. あまり高度の考えを持たず、世界に奉仕活動をするべきだ。

回答：

ロータリーは奉仕団体でもあるが、物質の奉仕に目が行って心の奉仕がうとんぜられているのではないかとのご意見は貴重である。また、国際奉仕が華やかに展開される一方で、足下を見た地元での奉仕も必要なのではないかというご意見も貴重である。奉仕はクラブ奉仕から、職業、社会、国際の4大奉仕があり、さらにその原点とも言うべき家庭奉仕がある。背伸びせずに身の丈にあった身近なところの奉仕を忘れてはならないものである。

ガバナー、パストガバナー、ガバナー補佐、会長について会員からのご意見

1. ガバナー制度の見直しが必要。パストガバナーの定年制度が必要。パストガバナーは2年経過するとその地位を失うこととする。今のガバナー制度は明治位（100年）の古さである。この古さがロータリーの衰退となっている。ロータリーに入会して20年になり、ガバナーの悪さ加減が良く分かってきた。機会があれば退会したい。
2. パストガバナーとして年次大会、その他役職は5年程度で停止してあげることが望ましい。
3. 会長は、①社会経験の長い人、多い人でありたい。②会員の立場に立ち責任感の強い人、実行力の人でありたい。③知識力、学歴だけではだめだ。
4. ロータリーを学ぶ機会が以前より減少しているし、リーダー的なガバナー補佐や会長クラスの方がロータリーについて不勉強である。この事によって一般会員においてはロータリーが理解できなくなっている。改善する必要あり。又地区役員（委員長）に同じ人が就いていることに疑問あり。もっと広く人材を登用し、交代すべきである。実践に走り過ぎ、理論構成がなされてない現況である。
5. 先般ガバナー補佐の公式訪問があったが、全く意味無いクラブ協議会で非常にながかりした。もう少しロータリー情報（ロータリー定款細則の変更について）などを提供して欲しい。
6. ガバナー補佐のメーキャップ料を事務局が負担しているが、まごころに合わせ、表に出ない方が良いのでは？メーキャップは本来個人かと思うので。
7. ガバナー経験者（一部）が強引に2510地区を引っ張っている印象があり、極めて遺憾だ。
8. ある人の選挙後援会長になっていた事で家族から“一体ロータリークラブは何をやっているの？”と批判を受け、実に恥ずかしかった。ロータリーの職業倫理とは何か、見せかけだけの薄っぺらなものではないかとの反省がある。せめてその任を辞退して欲しかった。クラブ外の友人からも指摘を受けた。（個人名省略、一部修正）

回答：

ガバナー・パストガバナーなどに対する厳しいご意見をほとんど修正することなく、そのまま提示させていただいた。いずれも「なるほど」と頷ける内容も少なくない。た

だ、個々の意見に沿って、ロータリーが変わりつつある、或いは変えつつあるとも思うので、時間をかけながらも変えていくべきものであろう。ロータリーは90数年の長い歴史があれば、組織の沈滞化を否定し得ないのも事実である。

ただ問題なのは、外圧を利用して修正できるものではなく、内部から盛り上がる意見によって変えて行かなければならない。これが筋道と思う。いずれも謙虚に受け止めたい。



アンケートそのものについて会員からのご意見

1. ロータリアンの現状を知る上の方法としては良い、これからも期待。
2. 会員の本音を知るにはアンケートは有効だと思う。
3. このような立派な会員調査をしていただき有難うございます。結果を楽しみにしております。
4. これからもアンケート方式の意見の交換もやっていただきたい。
5. 調査を生かす方向で会員へ衆知されるならば、継続を了解できます。
6. 本調査の結果を踏まえ、活気ある新しい21世紀のロータリー活動を期待する。時代とともに変化するロータリーでも良いかも知れない。
7. 無記名のアンケートは非常によい考え方であり、全体の動向が把握でき、将来の対策上欠かせないものと思うので、今後とも継続して実施されたい。回答項目には内容が不十分で正確性が欠けるものもあり、もう少し考えた方が良い項目もあります。
8. アンケートを実施するのはいいが、これをどのように生かすかである。
9. 問い方を工夫する必要があるのではないだろうか。
10. このような調査を行うときには、何故行うのかという意図をより鮮明に述べるのがこの程度の調査を行う際の最低必要条件である。当然このことは地区では判っていると思うので、この調査結果を公表する際に明確にさせていただきたい。
11. 全て良しはあり得ないにしろ、このようなアンケート時にでもロータリー意識、目的の啓蒙はするべきで、末端の会員、又は新会員へのガイダンス、オリエンテーションを強化すべきでは？
12. アンケートを取り、地区奉仕（委）としてどんな方向へもっていこうとするのか、結果を取り纏めるだけではなく、その方向づけ迄きちんと指針を出して欲しい。

13. 調査だけではなく、クラブにもそれぞれ事情があると思いますので、地区としてクラブの活動状況を把握して指導していただきたい。ロータリー活動の状態は会員数によって異なりますので。私共のような小さなクラブは地域内の奉仕活動から始めなければならないと思います。
14. 問27～30は大変くだらない質問である。
15. このアンケートは今後のRC運営を考えるためというが、設問内容から見てどのように反映しようとするのか目的がはっきり見えない。特に問27以降の設問にはあまりにも個人の意志に入りすぎている。
16. Q&AのAの文章に適当なものがないものもある。
17. 問23に関連するが、退会者が増えることが一番問題だ。地域経済状況が良くなる可能性が薄い。会員増強は難しい。厳しい年度程、ロータリーの存在が認められるように努力すべきだろう。
18. アンケートの目的がはっきりしない。
19. 設問が合っていない部分がある
20. 設問と回答はもっと工夫すべき。
21. 質問の内容が必ずしも適切ではなく、回答に非常に苦労した。
22. 回答項目に「その他の意見・考え」がない。
23. 質問事項を身近なものにお願いしたい。
24. 設問、解答項目ともに一考の余地あり。
25. 設問が偏っているように思う。
26. もう少し質問を整理し、重複をなくして行うべき。
27. 選択肢が個人的なロータリー観に偏っている設問が多すぎるように思う。
28. あまり良い質問と思わない。
29. 質問内容が、YES/NOに近いので、もっとフランクな内容方式を考えては？
30. もう少しきめ細やかな設問設定があってしかるべき。
31. ロータリー歴及び年齢等を同時に調査すると更に解析に効果があるのでは？
32. ロータリー歴によってロータリーに関する考え方、関わり方が変わって来ると思います。アンケートの中にロータリー歴の項があった方が分析に役立つのではないのでしょうか。
33. 質問が自分の地域に密着していない部分も多く答えにくいので、考えて欲しい。
34. 設問に無理がある。
35. 問19・20に関して、答えを求めているが、答えを出せないと思う。
36. 問22・27・28・29について解答に若干の意識の違いを感じる。
37. 問25・26・27は設問が不適切。問25：女性の入会については男性と同様に考えれば良いと思う。問26：社会とは地域社会か、一般社会か、どちらを示すかで、答が変わると思う。問27：例が極端過ぎる。
38. 問27のような極端な設問はどうかと思う。
39. 問27は回答しにくい。
40. もう少し具体的に！！
41. 情報の提供を密にして、ロータリーとしてのリーダーシップを充実し、安易に会員意見を求めるなどは組織としての役割を怠ること勿れ。
42. ロータリーも100年を迎えようとしているが、規定審議会で改悪に次ぐ改悪でロータリーの基本理念が消失しようとしているとき、このような薄っぺらいアンケートではなく各々のロータリアンが何日も考えて結論を出すアンケート内容を望む。
43. クラブ奉仕委員会に望む事、①アンケートを実施する事は良いことであるが、ロータリーの意義、内容についてもう少し勉強したいので、時折クラブ奉仕委員会より各クラブに勉強していただく為、その資料を送付していただきたいと思います。
44. 設問に対する解答がおかしい。委員会で良く検討したほうが良い。真面目に努力したら名をあげなければいけないのか。委員会の人々は名をあげたいのか。
45. 色々な面で見直しを求められ、アンケートということですが、目的がよく理解できない。もっと内容を絞り込んだ方が良いと思う。
46. アンケートをどう処理するかが大事なことであり、アンケート調査そのものが良い事ではない。
47. 時代の変化に対応する為に調査分析してください。
48. 地区HPを活用してください。1年に1回の調査より効果があると思う
49. ロータリーに入って誇りと思うかという問いにはびっくりした。誇りに思うことはロータリー人として一人よがりではないかと思う。幸いにしてロータリークラブに入らせていただいて感激、感謝したと振り返り、感じている。



回答：

「アンケートそのものがくだらない、何をいまさらやるのだ」という意見が少なくなかった。確かにロータリーにいままでアンケートを行った経緯は見られない。ただ今回のアンケートの主要な部分は2700地区（広島）でやられていたものと同じことをやってみようということである。その結果は両地区ともほとんど同じ傾向が表われていて、むしろ地域性の無いのに驚かされたくらいである。違いがあるとすれば、女性会員の入会に対する寛容度が北海道に低く、広島県に高いことぐらいであろう。

アンケートそのものについて「改善の余地があるものの、

修正すべきものは修正し、今後ともこのようなアンケートはあってしかるべし、大いにやるべし」との声もあった。

大切なことは会員のご意向がどうであるか、またその意向がどう動きつつあるかということがわかる方法があれば何のことはない。月信を介してみなさんの率直な意見を聞くことも出来よう。この機会に改めて月信をもっと活用していただくようお願いをしたい。

その他の意見

1. 今年度のガバナー公式訪問を4クラブ合同でやるということは横着な方法で、各クラブの実情を正確に把握できないのではないかと。会長・幹事の緊張感が欠け、クラブ運営もマイナスで御座成りになるのではないかと。ガバナーはもっと厳格にすべきではないかと。
2. ロータリーの「会員の親睦」は大切なことだが、地区大会における懇親会はジャンボ過ぎて、その本旨から外れがちであるので、廃止を検討してもよいのではないかと。
3. 地区大会が一日で終わるプログラムを作って欲しい。
4. 禁煙反対
5. ロータリーの友誌をもっとPRすること。
6. 時流に添わない形式を大切に重んじているのがベストなのか。
7. 社会のため、少しでも役に立つように生活するように考えている。
8. 若い時は、いろいろな行事やその他に参加できたが、年をとるに従って参加等も体力に合わせている。
9. 私は90に近いので、人生にあまり積極性がなくなっている。
10. 「超我の奉仕」は入会時1回の発行でよいのでは？
11. 入会して日が浅いので、クラブ活動についてよく勉強していきたい。例会時の食事はもっと質素でも良いのではと思っています。
12. 自分の気持ちに忠実に生きたい。
13. ロータリー発足100年、もう一度原点を見る必要があるのではないのでしょうか。
14. 地区大会のゲストにもっと適当な人を呼べないものかと。
15. ロータリー活動を通して、(哲学的)ソフト面での学ぶ事項、内容の充実の向上を望む。
16. もう少し交流の場を設けると良いと思う。
17. ロータリーの活動をもう少し町民にアピールしてはいかがですか？
18. 家庭奉仕(DV)のような考え方は、ロータリアンにはふさわしくない。
19. ロータリーのステータスをより上げるようにする事で個々の意識の高揚が計られるし、社会に対しても必要と思う。
20. ガバナー月信は必要無い。購読の強要(役員経験者)は良くない。
21. 地区って何をやっているの？ 1人平均約2万円の負担、多すぎませんか？ ガバナー月信全員購読？ それなら

地区ニュースでしょう。ガバナー月信とは違うと思いますが、広告まで入れるなんて最近の地区はおかしい！せめて負担金を減らす努力をすべきではないでしょうか。

22. 地区「公報」の考え方に疑問を感じる。2回のメディアフォーラムに参加して。
23. ロータリーの基本的概念が次々と変質していつているように思う。原点にもう一度戻り、ロータリー創設時の概念を思い起こし、ロータリアン自身の為の戒めを厳しくすべきだと思う。
24. 豊かさの求め方は各人各様でしょうが、結果として得られる心の充足感は共通しているように思います。ロータリーでの実利はこの充足感がほとんどです。私たちは毎日の経済的活動(食うために働かなければならないという現実的活動)を無くしては成り立ちません。この活動とロータリーで得られる充足感のマッチングがロータリーの源と考えています。
25. ロータリアンの高齢化及び会員減により奉仕活動もままならないのが現状かと思われまます。新会員への努力も経済の不況によりままなりません。従来の一部の特権階級の「サロン」というイメージが新会員の入会に邪魔になっているかと思えますし、税法上も会費が経費と認められないのも今の若い会員の入会の邪魔になっているのではないのでしょうか？
26. 現在のRIは原点からずれてきている。
27. 実社会とのズレを感じる。



回答：

その他のご意見を全て掲載するようにした。項目が多岐にわたり逐一回答の欲しいものもある。「バナー月信は必要ない」「購読の強要もよくない。」というご意見もあるが、月信は以前のようなガバナーからの一方的な情報伝達ではなく、皆さん会員一人ひとりの自由な意見交換の場として活用していただきたいとの主旨で、ガバナー月信というよりも「地区月信」として提供してきたつもりである。

また、「月信の広告がけしからない、おかしい」という意見もあったが、これは「ガバナー要覧」にも書かれているとおりで、決してルールをはみ出していることではないし、また少しでも経費の節減に協力したいとの意図なのでお許しをいただきたい。

アンケート調査の結果と分析 (第2回)

クラブ奉仕委員会

2002年9月にクラブ奉仕委員会が地区内3,484名の全会員を対象に実施した、アンケート調査の集計結果は既に、『月信』2月号で報告済みですが、地区全体及びグループ別の集計結果の特徴などについて、若干の分析を加え前月号に引きつづいて、設問8の「ロータリー財団への寄付」から設問14の「これからもロータリー活動を続けたいか？」までを今月号に、残りの項目についても順次掲載の予定です。

調査の概要

- | | | | |
|--------------|----------------------|------------|---------------|
| 1. 調査時期 |2002年9月 | 5. 調査主体 |クラブ奉仕委員会 |
| 2. 調査対象者 |3,484名 | 6. 調査結果の集計 |ガバナー事務所 |
| 3. 調査方法 |悉皆調査・配票調査 | 7. 調査結果の分析 |クラブ奉仕委員会 |
| 4. 有効回収票・回収率 |1,758名 (50.46%) | | |

(回答率)

質問	回答項目	グループ												
		地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
回答率	会員数	3,484	189	266	384	466	466	360	209	183	281	247	246	187
	回答者数	1,758	113	133	218	200	209	168	130	98	127	111	139	112
	回答率	50	60	50	57	43	45	47	62	54	45	45	57	60

◎アンケート調査時点の地区会員数3,484名に対し、回収回答者は1,758名の50%の回答率であり、アンケートの目的について徹底されなかったのか、第2710地区の会員数(3,982名)回答者(2,882名)回答率(72.4%)に比べるとかなり低いと言わざるを得ない。

◎グループ別の回答率は第7(62%)第1・12グループ(60%)と上位で、逆に第4(43%)第5・9・10グループ(45%)と低く、札幌・函館地区の都市型クラブの回答率が低く、地方クラブの回答率が高いという結果となって現れている。

8. ロータリー財団への寄付

(上段：人数、下段：%)

クラブ活動について	8. ロータリー財団への寄付	積極的	グループ												
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
		積極的	522	32	40	77	63	64	29	59	21	38	34	30	35
			30	28	30	35	32	31	17	45	21	30	31	22	31
		お付き合い	934	61	80	103	88	116	93	67	62	49	70	77	68
			53	54	60	47	44	56	55	52	63	39	63	55	61
		経験なし	280	5	10	33	44	28	43	2	19	41	16	30	9
			16	4	8	15	22	13	26	2	19	32	14	22	8

◎積極的と答えた会員の意識について

特筆すべきは第7グループの45%は、財団寄付について会員の意識が高いことが伺える。その他のグループは殆ど30%前後の割合と言える。

◎付き合いとの回答が圧倒的で、会員の意識の中に「お付き合い程度」が定着している感がある。50%前後の割合と言える。

◎経験なしとの回答は比較的少なく、2%~30%と幅が広がっている。それにしても第7グループの2%は特筆すべきである。

◎以上の調査で感じることは、最近ロータリー財団寄付の要請は年々増加の途を辿る傾向か？ それに対して、クラブの役員は要請に応えるべく積極的に目標額の達成を目指す。しかし、各会員の意識にはロータリー財団への寄付だけがロータリー運動ではないとする考え方も見逃せない。

◎ロータリー財団による、事業が地区内会員に理解されてきている。ロータリー財団奨学金や世界社会奉仕活動などの理解度も高いのかも知れない。又同額補助金についても理解されつつある。

◎このアンケートの集計にあたり、地区内3,484名中1,758名の回答者数は、回答率にすると約50%に過ぎなかった。各クラブごとの意識の違いがでているようにも考えられる。

我が地区のアンケート集計率は、50%前後である。無関心な場合があるようだ。

9. 米山奨学会への寄付

(上段：人数、下段：%)

クラブ活動について	9. 米山奨学会への寄付	積極的	グループ												
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
		積極的	405	26	26	61	46	56	21	57	15	28	20	26	23
			23	23	20	28	23	27	13	44	15	22	18	19	21
		お付き合い	820	58	69	91	82	102	76	59	40	47	65	67	64
			47	51	52	42	41	49	45	45	41	37	59	48	57
		経験なし	484	14	34	60	65	50	66	13	42	52	20	44	24
			28	12	26	28	33	24	39	10	43	41	18	32	21

◎第2710地区アンケート調査報告によると、全体的にはお付き合いの寄付が50%で多く、積極的の寄付は20.5%、経験無しが29.6%であった。又興味深いことに2000年以降の調査では、寄付の経験無しとの回答が64.7%と多く、お付き合いの寄付が30.8%、積極的が4.5%であった。

◎我が2510地区の今回の調査によると、地区全体ではお付き合いが47%と多く、経験無しが28%、積極的が23%であった。

◎我が地区の場合、R財団に比べると米山への寄付について経験無しの会員が多かった。地区協議会でR財団セミナーが開催され、併せて米山の依頼も行われてきた。次期クラブ指導者に目標が示され、協力の要請が効果的であるように思われる。又米山記念奨学生の生活体験発表は、米山奨学会の理解を深めるには実に効果的である。

◎地区としてもこれらのことを考慮して各クラブに対して、R財団はじめ米山奨学会についての情報を伝えるべきである。

10. どのようにして入会したか？

(上段：人数、下段：%)

	地区	グループ													
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
ロータリーに対する考え	10. どのようにして入会したか	自ら希望	92	1	8	11	18	11	10	8	4	8	4	3	6
			5	1	6	5	9	5	6	6	4	6	4	2	5
		人から推薦	1,475	87	113	186	163	182	140	109	82	103	94	121	95
			84	77	85	85	82	87	83	84	84	81	85	87	85
		役職上	151	10	9	17	13	15	17	11	10	15	15	8	11
			9	9	7	8	7	7	10	8	10	12	14	6	10

◎地区全体として、人から推薦が84%で一番多く、役職上が9%で、自ら希望が5%で最も少なかった。

◎この設問は、ロータリーなど知らないと言う一般的な認識が強く現れたように思われる。ロータリーが一般社会との間にズレがあって、対外的な取り組みが不十分であった。最近（遠藤年度以降）は、メディアフォーラムなどが開催されマスコミのロータリーに対する意識が変化しつつある。良く理解されてきたように思う。最近のクラブのロータリー活動もクラブ内に留まらず、地域社会に向けた活動が行われるようになった。多くの社会人がロータリーの素晴らしさを認識し、憧れを持たれるような活動とロータリアンの人格形成の両面が課題のように感じる。

◎私たちはロータリークラブの会員の推薦を受けて、各クラブに入会致しました。ロータリーに関するインフォメーションも受けて入会したのですが、充分理解していないように思われる。そこでロータリー情報の再点検も必要である。兎に角入会して出席している内にロータリーは分かると言うのも無理な話でないか？ 新入会員は情報不足に混乱しているように感じる。

◎退会防止の一助として、メンバー同士の一声運動も効果的である。「〇〇さん元気ですか？」の一言が大切です。

11. 入会を決意するとき、重視した点？

(上段：人数、下段：%)

	ステータス	276	16	22	31	38	36	22	14	14	22	19	21	21
		16	14	17	14	19	17	13	11	14	17	17	15	19
ロータリーに対する考え	ビジネスの拡がり	316	17	18	43	32	51	31	20	19	28	20	23	14
		18	15	14	20	16	24	18	15	19	22	18	17	13
	異業種交流	908	47	70	100	109	116	84	62	58	77	72	56	57
		52	42	53	46	55	56	50	48	59	61	65	40	51
	奉仕活動	597	31	41	54	69	78	50	40	48	45	35	72	34
		34	27	31	25	35	37	30	31	49	35	32	52	30
	交友関係	1,083	62	85	144	98	129	105	81	62	81	71	92	73
		62	55	64	66	49	62	63	62	63	64	64	66	65
	その他	35	4	2	3	7	2	2	2	2	2	1	5	3
		2	4	2	1	4	1	1	2	2	2	1	4	3
	特になし	148	9	12	15	20	22	16	13	7	8	7	11	8
		8	8	9	7	10	11	10	10	7	6	6	8	7

◎第2710地区アンケート調査報告からの情報：入会の動機に関する報告によると、交友関係が一番多く63.3%で、異業種交流56.4%、奉仕活動27.4%ステータス17.7%、ビジネスの拡がり17%となっている。我が2510地区の場合は全体として、交友関係が62%で一番多く、異業種交流が52%、奉仕活動が34%、ビジネスの拡がり18%、ステータスが16%となっている。

◎以前ロータリー入会にあたりロータリー情報をインフォメーションされた先輩は、ロータリー活動の素晴らしさを力説され、そのステータスの大きさを自ら述べられた事を懐かしく思い出す。

◎ロータリーに入会して多くの友人を得たが、ロータリーの奉仕を通じて得られた経験に満足している。また異業種の会員との出会いも、社会人として広い視野を得られたように感じる。

◎これらの報告を目の当たりにしながら、今後のロータリー活動の充実と会員増強、退会防止に思いを巡らす。折角入会しながら退会していった会員を思うとき、価値観の違いが入会の動機についても大きな因果関係があるのか？ もしこれから新

入会を推薦するとき、どのようにロータリーを紹介すべきか？ 会員一人一人がもう一度初心に帰ってロータリーを見直す機会かも知れない。

◎経済不況が叫ばれる今日、仕事に優先してロータリー活動が出来るか？ このような時代にこそ、もう一工夫欲しい！ 難しい時代である。

利潤追求の経済活動は將に死にものぐるい！ そんな傍らにロータリーの奉仕活動が心の充足を与えてくれる。だからこのような時代にこそロータリーが必要なのだ！

◎『改革というのは「古いもの」をただ消すことではない』この意見にハッと気が付かされたので、「温故知新」と論語の言葉だがロータリーの原点を尋ねて、この新しい時代に相応する活動をするのではないか？ 即ち奉仕の理想に新世紀流の思いやりをプラスするとどうなる？

◎「心の奉仕活動を！」と言うご意見に頷く。物質的な奉仕活動に多少偏る傾向を危惧する声にも耳を傾けたい。

12. 今日までのロータリーライフを振り返って

(上段：人数、下段：%)

	地区	グループ													
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
ロータリーに対する考え	12. 今日までのロータリーライフを振り返って	人生にプラス	1,372	82	105	169	150	159	134	105	73	112	94	99	90
			78	73	79	78	75	76	80	81	74	88	85	71	80
		可も不可もなし	351	16	26	43	50	47	31	24	23	14	20	37	20
			20	14	20	20	25	22	18	18	23	11	18	27	18

◎人生にプラスと答えた回答が78%で、可も不可もなしとの回答が20%であった。多くのロータリアンが人生にプラスと答えているところに、ロータリーの素晴らしさがあり、人生そのものにロータリーが働いているとさえ言える。この結果を踏まえてより一層ロータリーライフを楽しんでいけるように各クラブと会員は智慧を出し合って活動する事が望まれる。

◎人生の指標は、百人百様であるがロータリーから受けた影響は余りにも大きく將にロータリー活動が人生の方向を指し示した感がある。ポスターの標語に「今一度自己を眺めよ、他人を責める鋭さで」と書かれていた。人には厳しい自分も案外自分には優しいものである。思いやりの心そのものがロータリー活動であり、ロータリーライフである。

13. ロータリーに入っていることを誇りに思うか？

(上段：人数、下段：%)

ロータリーに対する考え	13. ロータリーに入っていることを誇りに思うか	思う	1,245	71	95	156	137	139	123	87	71	105	83	94	84
			71	63	71	72	69	67	73	67	72	83	75	68	75
		そうは思わない	464	27	35	56	57	63	41	42	23	21	30	43	26
			26	24	26	26	29	30	24	32	23	17	27	31	23

◎我が地区としての回答は、思うが71%、そうは思わないが26%であった。本音と立て前と言うが、我が地区の会員諸氏はこのアンケートに本音で対応したか？ 立て前なのか？ 真摯に回答されていることを踏まえて考えたい。

◎私がロータリーに入会した当時は、先輩諸氏が機会の折りにロータリーの素晴らしさを述べて、ロータリーを熱く語っていたことを懐かしく思い出す。今は昔の話かも知れないが、今でもロータリアンであることに誇りを持っている方がいつまでも多くいて欲しいと念じています。

◎我が地区もロータリークラブも会員であることに誇りに思えるような、ロータリー運動を行う必要がある。

14. これからもロータリー活動を続けたいか？

(上段：人数、下段：%)

ロータリーに対する考え	14. これからもロータリー活動を続けたいか	これからも楽しみたい	794	39	54	97	82	91	78	63	40	64	74	61	51
			45	35	41	44	41	44	46	48	41	50	67	44	46
		続けたい	675	34	59	77	78	82	58	52	44	49	55	53	34
			38	30	44	35	39	39	35	40	45	39	50	38	30
		機会があれば辞めたい	265	24	17	37	29	32	25	13	10	11	11	33	23
			15	21	13	17	15	15	15	10	10	9	10	24	21

◎地区内全体にアンケートに参加された15%が、機会があればやめたいと考えている。悲しくも感じる。ロータリーの魅力が無くなってきたか？ それとも何が変わったのか？ 一業種一人制の看板がなくなったためか？ それだけではないかも知れない。

◎我が地区のロータリーは今会員が激減しています。この状況を克服するのは会員増強だけでは駄目かも知れない。今こそ退会防止でクラブを活性化してロータリーの魅力を再発見する必要があるように痛感する。

◎会員のロータリアンとしての向上が急務の声に頷く。各クラブが楽しい例会運営により入会者も増強される意見に同感する。

◎各クラブ会員に対するロータリー情報をいかに伝達するかも一考の価値あり。

地区活動 紹介

ロータリーを越えて 広がるWCS活動



地区幹事 竹原 巖

2001年に札幌北ロータリークラブが始めた、スリランカの病院に医療用中古ベッドを送る活動は、その後地区内の各クラブに広がり、更にロータリーを越えてライオンズクラブに広がりました。

ロータリークラブの世界社会奉仕活動は、札幌北RCが2001年3月に室蘭日鋼記念病院のベッド175台・その他の医療品334点を送ったのを皮切りに、6月に(株)ワタキウセイモア社より無償で提供された新品マットレス400枚を送り、同年9月には留萌市立病院より提供のベッド120台が送られました。これらの活動については「ガ

バナ月信」「ロータリーの友」また一般新聞各社でも取り上げられ、ロータリアンや一般市民にも広く知られるところとなりました。

2002年6月には室蘭RCが室蘭日鋼記念病院より提供されたベッド206台・マットレス257枚を送り、続いて7月に千歳RCと千歳セントラルRCの合同で千歳市立病院よりのベッド100台、札幌鉄道病院のベッド52台を札幌RCの協力で、また11月には札幌南RCが中村記念病院より提供されたベッド113台・マットレス257枚をスリランカに送られました。

これらの活動にライオンズクラブも共鳴し、国際協会331-A地区の6クラブが共同でベッド80台をスリランカにお送りし、先日の北海道新聞に記事として掲載されました。輸送方法・輸送先等についてはロータリークラブで実施したものが参考となり実施することが出来ました。1クラ



ベッド貼付シール

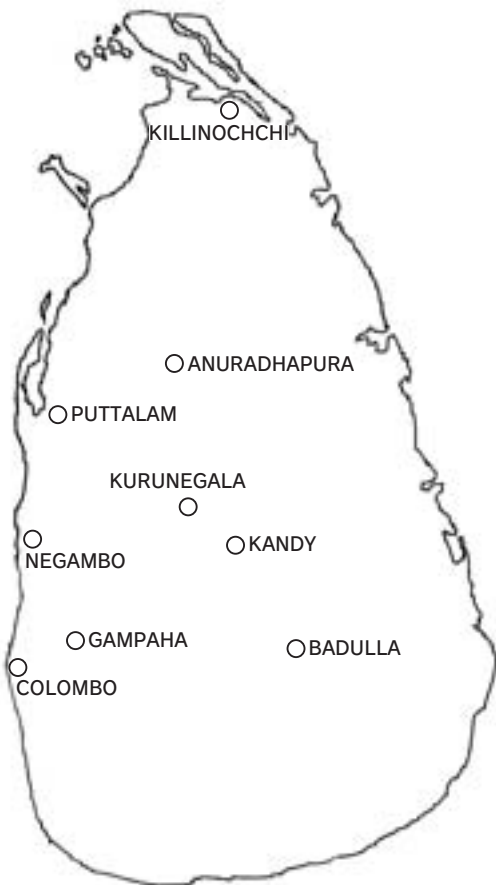
ブから始まった小さな活動が地区内に広がり、またロータリーを越えた活動に広がりつつあることに大きな意義を感じるとともに、その支援先もスリランカにとどまることなく、医療品不足に悩む世界各地に援助出来ることを願っております。

スリランカの病院に ベッド80台を寄付へ

札幌(6)ライオンズクラブで
【中央区】アカシヤラなども贈呈予定で、会員
イオンズクラブを札幌(ならは「病院の運営に役
市内の六つのライオンズクラブに「スリランカ
クラブがスリランカの
国立マハラジャ病院に、
ベッド八十台を寄付す
心地、コロンボ郊外で
る。収納箱やマットレス
が治療を専門とする同

病院を昨年、恵信会札幌
病院の細川正夫理事長が
不要になったベッドなど
福祭、ベッド数が足りず
入院者が廊下にマット
を敷いている現状を知
り、ライオンズクラブに
協力を呼びかけた。ライ
オンズクラブでは会員た
ちは三月下旬に到着予
定。今回の活動の代表徳
川真智さんは「はじめて
ベッドの寄付は、今後も継続
したい」と話している。

ベッド・マットレスを贈呈したスリランカの地域



贈呈先一覧

地域	病院名	ベ ド	マ ツレ ス	国内輸送担当	
A.PURA	A. Pura GN.Hospital	10	10	Mr. Hewamadawa of Colombo RC	
BADULLA	Mahiyanganaya Hospital	20	20	Shade Line	
COLOMBO	Homagama	15	15	Midaya Ceramics	
	Homagama	10	10	Munchee Ceylon Ltd	
	General Hospital	0	6	Midaya Ceramics	
	Padukka	5	5	Midaya Ceramics	
	Castle	10	10	Mrs. Panabokke	
	Ldy. Ridgeway	10	10	Mrs. Panabokke	
	Kalubowila	20	20	Mount Lavania RC	
	Ragama	6	6	Mr. Seneka of Tobacco Company	
	Ragama	1	1	Mrs. Nanayakara	
	General Hospital	6	6	Tobacco Company	
GAMPAHA	General Hospital	0	3	Dr. S. Paranavithana	
	Horana / Ingriya	20	20	Bodyline	
	General Hospital	15	15	Mr. Ranjith jayawardene / Mr. Sunil	
	Panadura Hospital	20	20	Unichela Pvt Ltd	
	Colombo	5	5	Mr. Wilfred Wickramasinghe	
	KANDY	Dompe	25	25	Liner Aqua Pvt Ltd
		Dompe	10	0	Rockland Distillers
Negambo Hospital		10	10	Cutols Clothing Lanka Limited	
Minuwangoda Hospital		5	5	Cutols Clothing Lanka Limited	
Diwulapitiya		5	5	Cutols Clothing Lanka Limited	
KANDY	Peradeniya	10	10	Midaya Ceramics	
	Kandy Hospital	32	30	Mr. Seneka of Tobacco Company	
	Kandy Hospital	1	0	Mr. Wadugodapitiya and Mrs. Peiris	
	Manikhinna Hospital	10	10	Liner Clothing Pvt Limited	
	Digana Hospital	10	10	Shade Line	
KILLINOCHCHI	Killinochchi	6	6	Tobacco Company	
KURUNEGALA	Ridigama, Gallagedara and Mavathagama Hospital	20	20	Casualine	
		20	20	Texture Jersey Lanka Ltd	
PUTTALAM	Puttalam Base Hospital	5	5	Tobacco Company	
	Puttalam	5	5	Tobacco Company	
	Puttalam	1	0	Mr. Disanayake of Tobacco Company	

国別部会設置懇談会 開かれる



友情交換委員会
委員長 金井重博

第2510地区の中では、クラブとして姉妹・友好クラブとの交流や特定国への支援などの活動が行われたり、個人として特定の外国との繋がりを持って活動したりと、様々な形で国際的な友情交換・交流活動が行われています。また、道や市町村でも外国の地域・都市との姉妹提携が盛んです。このような諸活動の情報を共有し刺激し合うことにより、第2510地区全体として、地区内および国際的な友情交換・交流活動が活性化することが期待されます。

そのために、特定国に関心のある会員どうしが集まって活動することが考えられますが、それはロータリーの活動として相応しいか、ロータリーの活動として効果的か、どのような活動が考えられるかなどなど、自由に御議論いただきたいと考えて国別部会設置懇談会を開催しましたので、報告します。

去る3月7日(金)午後6時~8時半、札幌パークホテルの羽衣の間で開かれ、石垣博美PG(関わりのある国:オーストラリア)、森本正夫PG(モンゴル)、米山道男地区幹事(札幌北)、青木功喜国際奉仕委員会委員長(札幌東、イタリア)、日下健三友情交換委員会委員(恵庭、オーストラリア)、池田春男(江別、ネパール)、岩崎輝明(札幌北、中国)、張相律(札幌東、中国)、井口光雄(札幌西北、フィンランド)、トールキル・クリステンセン(札幌南、デンマーク)、長谷川久夫(札幌セントラル、ロシア)、橋本信夫(札幌西、ザンビア)、戸部アナマリア(札幌はまなす、メキシコ)、山地庸夫(札幌手稲、ベトナム)、橋本雅夫(札幌セントラル、ロシア)の諸氏と友情交換委員会委員長金井重博(札幌南、オーストリア)が参加しました。



写真提供:長谷川久夫(札幌セントラルRC)

まず、金井が、懇談会開催の主旨説明をし、準備状況として、現在約20カ国について部会設立準備の世話人となっていただけの会員がいる、さらに多くの方に協力をお願いしている旨報告しました。また、4月12日の「国別部会に関するワークショップ」の開催予告をしました。

次に、出席者から外国との関わりを含む自己紹介があり、また、米山地区幹事から、活動のキーワードは「相互理解と相互支援」、活動の3本柱は「勉強、交流、支援(支援は、大掛かりなプロジェクトとは限らず、小さな親切運動でも価値がある)」が考えられることや会則案・活動計画案の説明がありました。

その後、活発な質疑応答が行われました。多くの参会者から設立賛成の意見が出されましたが、以下のような指摘もなされました。

1. 名称が活動内容を的確に表していない。3本柱のうち、まず「勉強と交流」が活動の中心となるべきなので、名称として、国別友情交換懇談会、国際友情交流会、ユニバーサル・フレンドシップ・ミーティングなどはいかがでしょうか。
2. ロータリー以外の国際交流団体との違い、ロータリーとしての視点を明確にする必要がある。
3. 地区の、他の国際関連委員会の活動との関係を明確にする必要がある。
4. 通信費などの活動費をどのようにして捻出するか。
5. 中国、アメリカ、ロシアは、将来、地域別に分ける方がよい。

IMの開催断念について

第12グループ
ガバナー補佐 川田憲秀



私はロータリークラブに入会して、かれこれ20年になります。今年度はたまたま、ガバナー補佐の役割をさせていただいております。ガバナー補佐は、IMを開催しなければならないと聞いておりました。就任とともに、どのような内容であるべきかを考えてきました。

過去の心に残っているIMを……「北の国から」の倉本聡さんの講演・社会奉仕や職業奉仕についてのパーストガバナーを助言者としての質問と指導……などが思い出

として強く残っていました。本来、会員が自由にロータリークラブについて語り合う最良の場であります。しかしながら、日本の大人社会では、たいへん難しいことです。あらかじめ質問を用意して、助言者の回答も用意しておくことが必要なのです。失礼な質問も差し控え、差し障りなく時間が消化されて成功となります。この問題の本質は、会員の年齢と意識の格差などによります。40代から80代までの年齢と意識の格差は極めて厳しいものがあります。

西欧の人たちは、ジョークを交え、実にユーモラスに議論をしています。私たち日本人が、そうなるにはしばらくの時間が必要なのでしょうか……結果として、費用の少なくすむ講師の記念講演を柱とすることで無難な内容にならざるを得ません。

昨年、「ポリオ撲滅」の事業が議論されてきました。十数年前、勝利宣言したはずだ……今になって何事だ……など等です。RIの説明によれば、内戦の続いた国々では、ワクチンの投与が出来なかった。今少しの子供たちにワクチンを投与できれば、地球上からポリオを撲滅できるのだと聞き、登録料・1万円で美味しいお酒と料理に感動できない私たちのIMとの挟間で考えました。

ちょうど、「アフリカの蹄」というテレビの映画を見ました。ノンフィクションとは思いましたが、南アフリカの人種差別の世界で、天然痘のウイルスを黒人社会に撒き、それを助けようとする日本人の医師〔留学生〕の活躍を描いた物語でした。感動と共にウイルスの恐ろしさを改めて感じました。一日も早く、子供たちを救ってあげたい……今、私たちに出来ること……日常生活において人類愛を実感できることは、なかなかありません。

このようなことで、長い歴史のあるIMを開催しないという決断には、勇気が必要でした。二十一世紀のロータリークラブは、少々裕福な人たちの仲良しクラブからの脱出ではないかと考えております。多くのご批判のあることを承知で、IMの開催を断念いたしました。ご理解をいただきますよう、心よりお願いいたします。



2002学年度の奨学期間を修了した米山奨学生の歓送会が、去る2月22日札幌パークホテルで行われた。当日は、都合で出席できなかった3名を除く修了奨学生14名、世話クラブのカウンセラー12名、指導教官4名、地区役員8名の合計38名が出席し、伊藤長英財団理事からの祝辞の後、出席修了者に1人ずつ修了証が手渡され、また、世話クラブのカウンセラーへの感



謝状が、代表して札幌真駒内クラブの丸山淳士会員に贈呈された。

懇親会に入ってから、修了する米山奨学生1人1人から奨学期間の思い出とお礼、これからの進路に向けての抱負などが述べられ、IMの会場から駆けつけた小林ガバナーからの励ましの言葉の後に、名残を惜しみつつ閉会となった。



ワークショップの予定 (2003年4月~6月)

みなさん 是非ご参加ください。申込はガバナー事務所へ。

第2回 詳細は『ガバナー月信』3月号参照

日 時：4月12日(土) 18:30~21:00
 テーマ：「国別部会一ロータリー友情交換・交流活動の活性化を目指して」
 会 場：札幌パークホテル
 主 催：友情交換委員会・地区幹事会・国際奉仕委員会

第4回 詳細は『ガバナー月信』5月号参照

日 時：5月25日(日) 15:30~18:00
 テーマ：「明日のエネルギー問題を考える」
 会 場：北海道大学学術交流会館
 主 催：地区幹事会・GSE委員会
 北大明日のエネルギーを考える会

第3回 詳細は『ガバナー月信』5月号参照

日 時：5月9日(金) 18:00~21:00
 テーマ：「家庭奉仕について考える」
 会 場：函館国際ホテル
 主 催：家庭奉仕委員会

第5回 詳細は『ガバナー月信』6月号参照

日 時：6月21日(土) 14:00~17:00
 テーマ：「大人は子ども達のために何が出来るか」
 会 場：ホテル万世閣(洞爺湖温泉)
 主 催：洞爺湖RC・地区幹事会

医療法人社団 近藤整形外科

(スポーツよろず相談室)

近 藤 浩

郵便番号 062-0042 札幌市豊平区福住2条1丁目3-16 電話 代表 (011) 851-3131

(札幌南ロータリークラブ)

米山財団への寄付状況一覧表

2003年2月28日現在 (単位：円)

クラブ名	1月末 会員数	年 額 一名当り	2002/07月-2003/02月 年度入金額			一名当り寄付実績額
			普通寄付金	特別寄付金	合計	
赤平	37	2,000	74,000	480,000	554,000	14,973
芦別	58	4,000	236,000	20,000	256,000	4,414
美唄	47	3,000	142,500	390,000	532,500	11,330
千歳	76	2,000	148,000	0	148,000	1,947
千歳セントラル	34	2,000	67,000	76,000	143,000	4,206
伊達	56	3,000	163,500	300,000	463,500	8,277
江別	49	4,000	198,000	370,000	568,000	11,592
江別西	41	4,000	164,000	0	164,000	4,000
恵庭	49	3,000	148,000	300,000	448,000	9,143
えりも	28	4,000	108,000	100,000	208,000	7,429
江差	20	2,000	42,000	0	42,000	2,100
深川	44	3,000	135,000	790,000	925,000	21,023
羽幌	48	2,000	95,000	90,000	185,000	3,854
函館	105	3,000	309,000	0	309,000	2,943
函館五稜郭	71	2,000	142,000	310,000	452,000	6,366
函館東	66	4,000	266,000	310,000	576,000	8,727
函館亀田	53	2,000	104,000	0	104,000	1,962
函館北	47	2,000	93,000	30,000	123,000	2,617
岩見沢	102	2,000	199,000	910,000	1,109,000	10,873
岩見沢東	34	2,000	67,000	0	67,000	1,971
岩内	37	2,000	37,000	160,000	197,000	5,324
上磯	34	2,000	68,000	0	68,000	2,000
北広島	15	2,000	16,000	0	16,000	1,067
栗沢	33	3,000	100,500	225,000	325,500	9,864
栗山	33	3,000	51,000	0	51,000	1,545
倶知安	53	2,000	107,000	0	107,000	2,019
松前	8	1,000	8,000	0	8,000	1,000
三石	19	4,000	78,000	50,000	128,000	6,737
森	49	2,000	100,000	0	100,000	2,041
妹背牛	12	4,000	48,000	0	48,000	4,000
室蘭	62	4,000	260,000	0	260,000	4,194
室蘭東	53	4,200	226,800	810,000	1,036,800	19,562
室蘭北	51	3,000	78,000	0	78,000	1,529
長沼	18	4,000	72,000	0	72,000	4,000
七飯	32	3,000	96,000	0	96,000	3,000
登別	40	4,000	160,000	510,000	670,000	16,750
小平	17	4,000	30,000	0	30,000	1,765
長万部	12	3,000	33,000	0	33,000	2,750
小樽	95	3,000	286,500	282,500	569,000	5,989
小樽南	88	2,000	172,000	1,870,000	2,042,000	23,205
小樽銭函	20	2,000	40,000	0	40,000	2,000
蘭越	18	2,000	36,000	0	36,000	2,000
留萌	66	3,000	202,500	170,000	372,500	5,644
様似	23	3,000	70,500	0	70,500	3,065
札幌	128	3,000	372,000	325,000	697,000	5,445
札幌あけぼの	18	4,000	74,000	60,000	134,000	7,444
札幌はまなす	29	3,000	87,000	0	87,000	3,000
札幌東	122	3,000	369,000	920,000	1,289,000	10,566
札幌北	57	3,000	172,500	600,000	772,500	13,553
札幌清田	28	3,000	81,000	110,000	191,000	6,821
札幌幌南	83	3,000	256,500	400,000	656,500	7,910
札幌真駒内	48	3,000	147,000	1,100,000	1,247,000	25,979
札幌南	97	4,000	388,000	450,000	838,000	8,639
札幌モーニング	62	4,000	246,000	100,000	346,000	5,581
札幌西	76	3,000	226,500	551,017	777,517	10,230
札幌大通公園	17	1,500	30,000	0	30,000	1,765
札幌西北	54	3,000	160,500	700,000	860,500	15,935
札幌手稲	49	4,000	202,000	120,000	322,000	6,571
札幌セントラル	24	1,500	36,000	0	36,000	1,500
新札幌	41	3,000	123,000	350,000	473,000	11,537
白老	35	2,000	69,000	0	69,000	1,971
静内	68	2,000	136,000	600,000	736,000	10,824
砂川	58	3,000	91,500	300,000	391,500	6,750
滝川	113	4,000	440,000	430,000	870,000	7,699
苫小牧	69	3,000	205,500	0	205,500	2,978
苫小牧東	34	2,000	67,000	99,745	166,745	4,904
苫小牧北	50	4,000	202,000	709,517	911,517	18,230
当別	46	3,000	138,000	0	138,000	3,000
洞爺湖	13	2,000	28,000	100,000	128,000	9,846
浦河	39	3,000	61,500	60,000	121,500	3,115
余市	48	3,000	72,000	0	72,000	1,500
由仁	18	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0
	3,477		9,759,300	16,638,779	26,398,079	7,592

クラブ活動 紹介

冬の北海高校IAC活動

矢橋潤一郎(札幌東RC)

今年度、北海高校IACは41名の部員を擁する大所帯となりました。卒業する3年生部員は4名。春の新入生の入部でさらに増える見込みです。

■札幌東RC年末家族会収集コーナー

12月19日、提唱RCである札幌東RCの年末家族会において、古着や使用済み切手等を受け付けたところ、多数の品々が寄贈されました。当日は部員20名が最近の活動を書いたパネルを掲げ、PRのピラも配布しました。

■カレンダーリサイクル

1月6～8日、毎年恒例のカレンダーリサイクル市に今年も参加しました。かでの2・7と札幌国際プラザに分かれ、分類作業・店舗設営から販売までお手伝いしました。



■車椅子観光ボランティア

2月5～7日、さっぽろ雪まつりを足の不自由な方々に楽しんでいただけるよう車椅子を支えるなどのお手伝いをしました。部員は事前に車椅子を体験し



ましたが、多くの観光客でごった返す中、雪道を車椅子で移動することの難しさを実感していたようです。

■独居老人宅除雪奉仕

2月23日、札幌市内豊平地区において、一人暮らしの高齢者のお宅前を中心に除雪作業を行いました。毎年恒例の活動になっております。



尚、札幌東RC新世代委員会ホームページ(<http://rotary-under30.infoseek.ne.jp>)では北海高校IACの活動状況を画像と共に紹介しております。

江別スノーフェスティバル&マシュマロンピック 開催

宍戸 昭(江別西RC)

冬の日の一日「雪を友達に」のテーマに、毎年開かれている「江別スノーフェスティバル&マシュマロンピック」が今年も2月8日～9日の両日開催されました。



江別の街中、公園、そして家々の前を雪像とアイスキャンドルで飾ろうという催しです。

江別西ロータリークラブも例年、メイン会場にて、その年のテーマを決め、会員全員一週間程雪像造りに汗を流しました。

昨年は、Wカップ・世界大会をテーマにし、今年は、コンサドーレと日ハムのホーム会場となる「札幌ドーム」

を製作しました。毎日夕方6時頃から寒い中、汗を流しながら造った雪像にすこし満足。当日は1万人以上の親子が参加し、楽しい一日を過ごしました。

眠っている中古ピアノを蘇らせよう!

松井久男(函館東RC)

弾いてくれる人が誰もいない……
家庭で眠っているピアノが数多くあることは皆さんご存じでしょうか。
私たち函館東ロータリークラブではそんな中古ピアノを希望する施設へ寄贈する橋渡しの事業を行っております。

まず平成13年10月22日、ピアノの提供者宅より搬出し、函館市人見保育園へ寄贈致しました。この日は生憎の悪天候となり作業も困難を極めましたが、ピアノ設置後に園児たちからのお礼として中古ピアノの伴奏で歌のプレゼントを頂き私達もたいへんうれしく思いました。



次に同日ピアノ教師宅より搬出し、今度は渡島合同庁舎1階「道民ホール」へ設置致しました。この後11月20日にこの中古ピアノを使い「道民ホール初冬コンサート ピアノとうたの夕べ」を開催致しました。広々としたホールでの演奏会。後町久子さんによるピアノ伴奏で、島聖子さんが澄んだソプラノで歌いました。200人程の聴衆はその歌声とピアノの音色に魅了されました。

また12月10日には先ほどの人見保育園に於いて「ほうすけのひよこ 一歌ものがたりコンサート」が開催されました。

次に2月17日、事前に寄贈していただきました北海道教育大学附属函館中学校で記念コンサートが開かれました。第1部が社会学級合唱サークルによる合唱、そして在校生によるフルートとクラリネットがそれぞれピアノ伴奏と共に演奏されました。



第2部は、函館在住のピアニスト伊藤亜希子さんのピアノコンサートが行われました。生で、それも目の前でダイナミックな演奏に345人の生徒、その他50人程の先生、父兄、RCメンバーもかなり圧倒されてしまいました。

今後の予定として、3月26日に市立旭岡中学校、同時期に渡島コロニー付属施設ワークショップ「虹」へ寄贈予定となっております。

今後も希望がありましたら随時実施していく予定しております。



優良青少年を表彰

新世代委員会 (えりもRC)

当クラブは、このほど例会の席上で、今春えりも高校を卒業した4人を優良青少年として表彰した。

これは、1997年から青少年健全育成の一環として、地域の模範となる青少年を表彰している事業。

今回表彰されたのは、3年間無遅刻



無欠席だった植木亮統さんと石橋由香さん、高体連の全道大会に日高地区代表として出場した女子バレーボール部の主将、瀬野明日香さん、交通安全啓発やボランティア活動などに積極的に参加した川村祐さん。

表彰式には、就職や運転免許取得などで3人が欠席、札幌の専門学校へ進学する川村祐さんのみの出席となったが、荒木会長から表彰状と記念品が贈られた。

川村君は「受賞を励みにして、これからも勉強に努めます」と力強く感謝と決意の言葉を述べ、会員から祝福の拍手を受けた。

本年度二度目の公式訪問をおえて

久住八郎 (栗山RC)

昨年7月の公式訪問の際に、小林ガバナーへ2月25日の夜間例会に是非来てくださると依頼しましたら、ガバナーが手帳をとりだしまして、日程が空いている事を確認、是非栗山にきていただきたいとお願いいたしましたら、ガバナーにも心よく承諾を頂きました。

ちょうど第三グループの会長・幹事会議を栗山で開催することになり、ガバナー公式訪問、会長幹事会議、夜間例会をいっしょに開催することになりました。メンバーからはいままでにやったことがない、ガバナーが二度も来るのかなど色々声がかかってきましたけれど、ガバナーの言われるビジョンよりもアクション。メンバーの方々にも看板を制作、会場の準備、積極的に活動をしていただきました。とくに、小林米三郎会員(小林酒造会長)からは数回のご指導を頂きました。利国奈美子会員からは、豚汁と煮染めをつくりますと積極的発言を頂きました。栗山ロータリーメンバーのチームワークの良さ、第三グループの辻野ガバナー補佐のリーダーシップに感心しました。



小林清志さんの「酒と料理の相性」の話

5時から開く会長・幹事会議の10分前の4時50分には、全員が集まりましたので会議が開催されました。そうすることによって、会議の内容がしまりました。遅れて、開催された会議はただらと内容もしまらないことが多いようです。その点、第三グループに感心いたします。

小林ガバナーと事務所へありがとう。小林ガバナーから「送迎の予定をしているようでしたら、送迎の事は準備で忙しいので気をつかわないでください。岩見沢までJRでゆき、岩見沢ロータリー小林弘明会長と同行いたし



左から小林米三郎会長と小林G、辻野AG

ます」との連絡、ガバナーの気配りに感心いたします。せめて帰りは栗山でお送りいたしますと伝えましたら、事務所の阿部さんから、「岩見沢東ロータリークラブ坂田知樹会長の自宅が札幌で、ガバナーの家の前を通って帰りますので、坂田さんをお願いしてよろしいですか」との連絡。阿部さんもガバナー、会員のことを心配しての配慮ありがとうございました。多くの人の心の温かさを感じました。これからも多くの人の縁を大切に考えております。また夜間例会での小林清志さんのお酒と料理相性、お酒の種類などの卓話はとても上手で参考になりましたと、好評でした。

4月12日（土）13日（日）に北の錦の小林酒造と谷田製菓（日本一のきびだんご）2社による蔵まつりが開催されます。おいしいお酒が用意されていますので来てください。

えりも小校長を招き卓話

広報委員会（えりもRC）

当クラブでは、毎年数名の外部講師を招いて卓話をお願いしているがこのほど、町内のえりも小学校校長・根城健さんに卓話をしていただいた。

根城さんは、1981年から1984年までの3年間、フィリピンのマニラにある日本人学校に勤務した経験をもとに、当時のフィリピン国の概要や日本人学校の状況、日常生活と治安、戦争との関わり、シスター海野氏との出会いなどを柱に40分程話した。



根城さんの勤務した学校の生徒は商社や大使館の子息が多く、親達も教育熱心で、指導上問題のある子供は皆無であったが、治安が悪いためビレッ

チ（囲いのある住宅街）というところに住み、24時間警備された生活をしたとのこと。

また、フィリピンは太平洋戦争とは切っても切れない関わりを持った国で、戦車の残骸や崖に穴が掘られた防空壕が沢山残っており、住民感情もあり、戦争の話は禁句となっていることを語った。

最後に3年間の最大の思い出として、明治末期にマニラからバギオまでの「ケノン道路」の完成に尽力した日本人の子孫の調査をしていた、シスター海野氏の出合いに触れ、80周年記念誌の「日本語版」の編集に携わったことなど、すばらしい出会いを得たことと、生徒を教育する上で多くのことが役立っていると貴重な3年間を熱っぽく語った。

創立20周年記念事業で 車椅子財団並びに パベナ基金へ寄付金を送る

金子賢一（岩見沢東RC）

我が岩見沢東RCは、昭和58年6月28日全道で初めてのアデショナルクラブとして会員22名で誕生し今年度創立20周年を迎えることになりました。

この20年間、地域に根ざした活動を基軸にロータリー精神を前面に色々な活動・提案を繰り返し大きく前進しております。

今年度、RI会長（ビチャイル・ラタクル）のテーマ慈愛の種を播こう！を中心に、地域に向けて・世界に向けて岩見沢東RCも活動を続けロータリーに与えられた責務を何かの形に変えたいとの思いであります。

この20周年を迎えるにあたり、地区国際奉仕委員長青木功喜委員長・世界社会奉仕委員長土谷裕之委員長と連絡を取り合い、20周年実行委員会・並びに会員と検討しWheelchair Foundationに車椅子を記念事業として\$3,750を寄付送金させていただきました。

また、もう1つの記念事業と致しまして、パベナ基金（幼児虐待防止施設）に対しても30万の金額を拠出させていただきました。なお、4月4日にタイへ岩見沢東RCより、8名の会員が出向き贈呈式を敢行致します。これらの事業に対して土倉委員長には過大なるご尽力を頂いたことに感謝申し上げます。

岩見沢東RCは現在34名の会員で会を運営しておりますが、会員相互の友情に支えられながら未来あるクラブ作りに邁進しております。

この事業を機に世界平和を願い、貧困・幼児虐待等に対してもっと積極的に物事に取り組みロータリー活動を続けていくところでございます。

クラブの ちょっといいはなし

高井悌吉（札幌はまなすRC）

戸部アナマリア会員は、わがクラブの『広告塔』的存在で、ロータリアンとしての活動（クラブ内外）は周知の通り。「はまなすBOX」の提唱者でもあり、ニコニコBOXと並んで実績を挙げ、クラブ運営に役立っている。

メキシコ出身だが、日ごろの言動は「日本人以上に日本的」ということでも、つとに有名。3月4日の例会では日本の各種イベントで、昔ながらの伝統が次第に薄れてゆくのは残念、と言いつつ、「ひなまつり 日本の伝統 いつまでも」、またメキシコにはひなまつりという言葉はないということで、「HINAMATSURIFIESTA DE LAS NINAS TRADICION JAPONESA AHORA Y POR SIEMPRE」と一句を詠み上げ、はまなすBOXに……

クラブではかねてから佐藤・熊谷会員らが俳句・川柳の一句を添え、浄財を寄せているが、戸部会員も加わり、北川会長は「段々、わがクラブのBOXも国際色が出てきた」と歓迎、この日は戸部会員の一句が感動を呼び、大きな拍手が沸きあがっていた。

会員の声



RI会長歓迎会に思う

北川敏夫
(札幌はまなすRC)

ビチャイ・ラタクル国際ロータリー会長が4月に来札され歓迎会を行うことは、月信・クラブにそして第4・5グループIMの時にも案内されました。

現職のRI会長の来札は1988年以来15年ぶりということであり、またビチャイ・ラタクル会長は是非北海道を訪問したいという希望があり、来札が実現したとお聞きしております。したがって歓迎会には第2500地区の会員の方々も一緒に、多くの会員が参加し北海道全体で歓迎の意を表したいものだと思っております。

しかし、クラブ会員の数人より歓迎会のあり方について疑問を寄せられました。それは現職のRI会長の歓迎会の主催者が現職のガバナーでなく、何故特定の2クラブなのかということ。特定クラブの合同例会の歓迎会に、何故2500地区の会員の方々や地区内他のクラブ会員皆さんがメイクアップという形の参加となるのでしょうか？

ガバナーは地区における唯一のRI会員であると聞いております。私もその唯一のRI役員が現職のRI会長の歓迎会的主催者になることは当然至極のことと思われ、会員からの疑問に答えることが出来ませんでした。歓迎会への参加も会員に強く要請出来ずに苦慮して

おります。地区運営もロータリー精神にもとずいた、明朗・公平なものであってほしいものと願うばかりです。



IMに参加して

ーパネラーの発言に感銘ー

高井悌吉
(札幌はまなすRC)

2002～2003年度国際ロータリー第2510地区の第4・5グループ合同IMに参加、例年にない盛り上がりを見せ、胸にこみ上げるものがありました。土橋信男前札幌市教育長の基調講演、「慈愛の種は家庭から」に始まり、4人のパネリストとのディスカッションを通じて感動の連続でした。

特に印象的だったのは、池上公介パネラー（池上学院学院長、札幌モーニングRC会員）の「登校拒否児の訓練を通じて家庭のあり方を考える」は私の実体験とオーバーラップするものであり、琴線にふれる思いがいたしました。

私は軍国少年（戦争を美化するものではない）として戦中育ち。このため進学することなく一時期を過ごしたが、先祖崇拜、礼節、食生活の事など、家庭教育全般についての大切さを自然に身につけた。これは周囲の人たちも同様でありました。

戦後になって、戦中すでに中等教育を受けていた姉・兄に刺激されて私も3年遅れて独学で大学に進み、まだ戦後復興半ばの東京で修学後は北海道にU

ターン。企業戦士として私なりに活動してきました。

今から26年前に中国へ研修旅行の旅の機会を得たが、その時の中国の子ども達をレポートした「見た！中国の底力」の一部を紹介すると

—物質文明にどっぷりつきりきった日本。戦中戦後をはさみ、激動と混乱の中で育った私の少年時代は「質実剛健」の教育でもあったこの言葉は、戦後育ちの人には、いい響きを持たないかもしれないが、いま「質実剛健」の教育は欧米にさえ、お株を奪われているという。そして「知・徳・体」に力をいれているという少年達の教育その子ども達の姿を見たとき、現在の私たち（日本の）の生活のあり方について反省させられた—

このレポートと同様の事例はカナダ、ロシアの取材旅行でも痛感、日本の将来に少なからず不安を覚えた。

池上パネラーによる不登校児の問題は、こうした暖衣飽食の時代（現在も）を過ごした親たちの“背”をみて育ててきたもので親の責任は大と言えましょう。

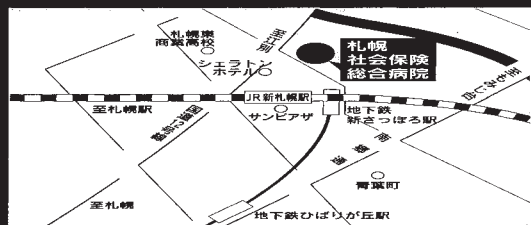
私は現役時代、PTA、老人大学などで講演のおり、青少年問題を多々訴えてきたが、池上パネラーの考え方と共通するものがありIMの討議の中で発言したかったが、一昨年脳梗塞を患って以来、失語症となり人前でのお話は苦手で発言のチャンスを失い残念至極の限り、一筆したためた次第です。

札幌社会保険総合病院

健康管理センター

健康診断

- 生活習慣病予防健診
- 人間ドック（日帰り・一泊二日）
- すこやか健診（札幌市の健診）
- 法定健診（企業検診・入学や入社での健診など）
- 各種がん健診（胃・腸・肺・子宮・乳房など）
- その他 動脈硬化 脳ドック 骨粗鬆症



札幌市厚別区厚別中央2条6丁目2-1
札幌社会保険総合病院 2階

TEL.011-893-5881

<http://www.zensharen.or.jp/sapb/public.html/home.htm>

掲示板

例会変更

留萌RC	4月 2日(水) 休会*1	
	4月 9日(水) 夜間例会	18:30
江別RC	4月29日(火) 休会*2	
岩見沢東RC	4月29日(火) 休会*2	
当別RC	4月29日(火) 休会*2	
室蘭RC	4月30日(水) 休会*1	
苫小牧東RC	4月10日(木) 夜間例会「麻雀大会」	
苫小牧北RC	4月29日(火) 休会*2	

注) *1 定款第5条第1節に基づく休会
*2 法定休日による休会

2003年 地区協議会開催のご案内

日 時 2003年4月19日(土)
登録開始:午前8時45分 本会議開始:午前9時15分
場 所 千歳市民文化センター(地図を同封致します)
(千歳市北栄2丁目2-11 電話 0123-26-1151)
お問合せ先 国際ロータリー第2510地区ガバナー・
エレクト事務所
〒066-0041
千歳市清水町4丁目8番地1 シェルヴィルビル2階
電話 (0123) 42-2000
FAX (0123) 42-2009

第7回「ロータリー日韓親善会議」開催のご案内

日 時: 2003年9月25日(木)と26日(金)
場 所: 東京ベイホテル東急(東京ディズニーリゾート)
千葉県浦安市舞浜1-7 TEL 047-355-2411
記念事業: 韓国からの米山記念奨学生と日本の学友による意見交換
主 催: 日韓親善委員会
登 録 料: ロータリアンとその家族1名18,000円
宿泊案内: 東京ベイホテル東急
9月24日は150部屋、25日は200部屋、26日は100部屋を準備しております。
宿泊料金お一人(朝食・サービス料込);
1室2名さまご利用の時¥12,000
1室1名さまご利用の時¥20,000
以上の5%が加算されます。

参加希望者は、事前に人数確認を致しておりますので、4月20日までにガバナー事務所へお知らせ下さい。

tel.011-219-2510
fax.011-222-1526

第2回ロータリー囲碁全国大会・第4回囲碁国際大会のご案内

第2750・2580地区共催の「第2回全国囲碁大会」と、ロータリー囲碁同好会主催の「第4回囲碁国際大会」が、東京RCのホストによって下記要領にて同時開催されます。
囲碁を通じて親睦と国際交流を図ることがこの大会の趣旨ですので、級・段位を問わずクラブ内の囲碁好きの会員皆様にご参加いただきたく存じます。
参加希望の方は詳細をお知らせ致しますので、
ガバナー事務所(Tel.011-219-2510)へご連絡下さい。
なお、大会参加はメイクアップとなります。

日 時	5月17日(土)	5月18日(日)
	12:30 親睦自由対局	19:00 予選
	16:00 開会式・予選	13:00 決勝戦・開会式
	19:00 懇親会	

大会会場 日本棋院(JR市ヶ谷駅3分)
登 録 料 GPFR会員 12,000円
申込締切 4月30日(全国大会)・5月12日(国際大会)

討 報

上田 智夫 会員
(室蘭RC)
平成15年2月17日
ご逝去(享年75歳)



《ロータリー歴》
1970年 入会
1978-79 副会長
1982-83 37代会長
各委員長歴任
ポールハリスフェロー

事務所だより

- 毎月の会員数および出席率の報告は、最終例会終了後15日以内ですので、期日の厳守をお願い致します。
- 月信への原稿をお寄せ下さい。特にクラブ活動、会員の声へのご投稿をお待ち致します。
投稿の際には、スナップ写真も添えてください。
- 4月のロータリーレートは、122円です。

国際ロータリー第2510地区 2002-2003年度 ガバナー月信

発行人 2002-2003年度ガバナー 小林 博
発行元 国際ロータリー第2510地区
2002-2003年度ガバナー事務所
発行日 毎月1日発行 年12回
編集委員 ◎竹原 巖(地区幹事) 大田すみ子(地区幹事)
熊谷 満(地区幹事) 脇田 稔(地区幹事)
アドバイザー 米山 道男(地区幹事) 松木 新(アイワード)
事務局 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会館6F
TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526 E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp
印刷: (株)アイワード TEL241-9341

1月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数			出席率
			02.7.1	03.2.28	増減	
1	川 3	46	44	-2	2	87.00
	深羽 幌 4	47	48	1	1	86.97
	妹背 牛 4	12	12	0	0	77.08
	小平 4	15	17	2	1	67.65
	小留 萌 4	69	66	-3	0	90.51
	計	189	187	-2	4	81.84
2	赤平 平 3	37	37	0	1	86.48
	芦別 4	60	58	-2	0	95.81
	砂川 4	61	58	-3	0	96.17
	滝川 4	108	114	6	2	70.00
	小計	266	267	1	3	87.12
3	美幌 眼 4	48	47	-1	0	85.22
	江別 4	50	49	-1	2	87.76
	江別 別 3	41	41	0	3	93.18
	岩見 沢 3	97	102	5	0	90.24
	岩見 沢 3	33	34	1	3	83.33
	計	384	385	1	12	89.51
4	札幌 あけほの 4	120	128	8	0	98.61
	札幌 はまなす 3	19	18	-1	1	100.00
	札幌 北 3	29	29	0	4	73.56
	札幌 モーニング 4	58	57	-1	6	91.66
	札幌 西 4	61	63	2	0	78.28
	計	466	473	7	15	90.99
5	札幌 東 4	123	123	0	0	99.33
	札幌 清田 3	26	28	2	5	97.43
	札幌 南 4	88	85	-3	0	100.00
	札幌 真駒内 4	50	48	-2	3	97.21
	札幌 南 3	97	97	0	0	96.47
	計	442	441	-1	1	94.08
6	新札幌 大通公園 4	17	18	1	4	83.55
	札幌 セントラル 3	0	21	21	6	87.30
	小計	443	461	18	19	94.42
	岩内 4	37	37	0	0	75.49
	倶知安 4	54	53	-1	4	82.00
	計	96	94	-2	0	90.87
7	小樽 樽 4	86	88	2	0	90.24
	小樽 銭函 4	20	20	0	2	81.25
	小樽 越前 3	18	18	0	0	81.25
	余市 4	49	48	-1	4	89.55
	小計	360	358	-2	10	84.38

クラブ数 72クラブ
 期首会員数 3,458人
 当期末会員数(女性) 3,464人(98人)
 増加会員数 6人
 当月平均出席率 84.44%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数			出席率
			02.7.1	03.2.28	増減	
7	千歳 4	74	76	2	2	85.50
	千歳 セントラル 4	33	35	2	0	77.80
	恵庭 4	50	48	-2	0	81.80
	北 島 4	16	15	-1	2	92.86
	長沼 3	18	18	0	4	84.60
	計	209	210	1	9	81.77
8	えりも 4	27	27	0	0	80.56
	三石 3	20	19	-1	1	94.73
	襟似 3	24	23	-1	2	91.00
	静内 4	68	67	-1	0	85.77
	浦河 3	41	37	-4	1	81.94
	計	180	173	-7	4	86.80
9	伊達 3	53	56	3	0	78.57
	室蘭 4	66	59	-7	0	90.16
	室蘭 東 3	56	53	-3	1	93.75
	室蘭 北 3	52	51	-1	2	93.46
	登別 4	40	40	0	2	85.00
	計	281	272	-9	5	88.99
10	函館 4	101	102	1	0	73.17
	函館 亀田 3	51	53	2	1	73.72
	森 4	51	49	-2	0	64.50
	七飯 3	33	32	-1	0	82.00
	長万部 4	11	12	1	0	64.50
	計	247	248	1	1	71.58
11	江差 3	20	20	0	0	60.00
	函館 五稜郭 3	71	71	0	0	79.24
	函館 東 3	67	65	-2	6	79.45
	函館 北 4	46	47	1	0	73.99
	上磯 4	34	34	0	3	61.00
	計	246	245	-1	10	70.45
12	白老 4	34	35	1	1	80.00
	苫小牧 4	68	66	-2	0	82.41
	苫小牧 東 4	33	34	1	3	85.29
	苫小牧 北 3	52	50	-2	2	94.07
	小計	187	185	-2	6	85.44
	計	3,458	3,464	6	98	84.44

4・5 月地区カレンダー

4月 ロータリー雑誌月間			5月		
日	曜日	行 事	日	曜日	行 事
1	火		1	木	
2	水		2	金	
3	木		3	土	
4	金		4	日	
5	土		5	月	
6	日		6	火	
7	月		7	水	
8	火		8	木	
9	水		9	金	第3回ワークショップ(函館国際ホテル、18:00~)
10	木		10	土	美唄RC30周年式典美唄スエヒロ(14:30式典 16:30懇親会)
11	金		11	日	
12	土	第2回ワークショップ国別部会(札幌パークホテル、18:30~)	12	月	
13	日		13	火	
14	月		14	水	
15	火	04-05年度R財団国際親善奨学生募集締切	15	木	
16	水		16	金	
17	木		17	土	岩見沢東RC20周年式典(岩見沢平安閣 15:00~)
18	金		18	日	
19	土	地区協議会(千歳市民文化センター、9:00~)	19	月	
20	日		20	火	
21	月		21	水	
22	火		22	木	
23	水		23	金	
24	木	千歳RC35周年記念式典(千歳全日空ホテル、15:30~)	24	土	第1・2グループIM(赤平市民会館、13:00~)
25	金	ピチャイ・ラタクルRI会長歓迎会(札幌パークホテル、12:00~14:00)	25	日	
26	土		26	月	
27	日		27	火	
28	月		28	水	
29	火		29	木	
30	水		30	金	
			31	土	ブリスベン国際大会、北海道ナイトパートI 第30回ローターアクト地区大会(キング・ムー、16:00~)

倶知安町



撮影：赤塚裕子氏

カタクリの花

春に倶知安の旭ヶ丘公園及び羊蹄山のふもとで一面に咲くのが見られる。



撮影：赤塚裕子氏

羊蹄山

標高1,898mで日本百名山にもなり、別名蝦夷富士といわれる。江戸幕府の測量方がこの山に登り、周辺の測量を行い、江戸幕府発行『後方蝦夷記』に当時の周辺の状況が記載されている。



ご意見・投稿募集

『ガバナー月信』では、より会員の皆様の声を反映させた誌面づくりを行ないたいと考えております。『月信』に関するご意見・投稿などございましたら下記事務局へ。

事務局 札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館6F

TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526

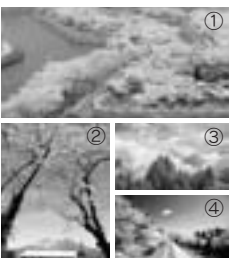
E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp



国際ロータリー第2510地区 DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

GOVERNOR'S

MONTHLY LETTER 2003 【ガバナー月信】



表紙の写真説明

- ①五稜郭公園 撮影：小安土達郎会員(函東RC)
- ②森町青葉ヶ丘公園 撮影：水本鉄雄氏
- ③松前町第二公園
- ④静内町二十間道路桜並木



国際ロータリー第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

2002-2003 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER No.11

ガバナー月信

5月号
May

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR 小林 博 KOBAYASHI HIROSHI
〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp



ガバナーレター

指導者が毎年変わるということ



小林 博

1999年の国際協議会でカルロ・ラビッツァ会長エレクト(1999-2000年度)は、ロータリーの指導者が毎年変わるこの意味について大変素晴らしいスピーチをされている。5月は特別な月間ではないので、この機会に私は「ガバナーの言葉」に代えてラビッツァ氏の会長講演「ロータリー2000の課題：指導力の持続」の骨子を紹介させていただきたい。この訳文はわが地区の野口信夫パスト・ガバナーからご恵与いただいたものであることを附記し、ここに感謝する。

すべてのロータリアンが指導者であるからロータリー指導者となる均等の機会に恵まれるという論理的背景によって、毎年7月1日に指導者が入れ替わります。これは、短い間に法人を破綻させかねない経営システムです。ですが、ロータリーならではの本質の一部でもあります。これが他の団体と異なる点です。7月1日に指導者が替わることは、ロータリー不変の特徴です。ですが、指導陣が毎年替わったとしても、プログラムや傾向も関連連して変化するには及びません。

私が国際ロータリー会長ノミネーになった後、グレン・キンロスRI会長は私をエバンストンに呼び、キンロス会長やレイシー会長エレクトと一緒に重要な意志決定に私が加わるようにしてくれました。これがロータリーにとって歴史的瞬間であったのを知っている人は殆どいません。この前例のない措置を講じたのはグレン元会長の偉大な功績と言えるでしょう。本年度中、ジム会長と私は殆ど毎日のように協議し、会長ノミネーのデブリン氏をこの協議に喜んで迎え入れました。実際のところ、会長ノミネーとして1年間研修できるようにし、会長職関連の従事期間を3年にするようRI会長指名日程を変えるのが私の切なる希望です。

トップ3人のロータリー指導者の継続性が、組織にとって特に優秀で賢明に働く職員にとって、緊急に必要とされる安定感をもたらします。既に皆さんにお話しましたように、私は見本を示して指導するつもりです。これが最初の適例です。国際ロータリーの3人の最高指導者が協力したように、ガバナーの皆さん一人一人が2人の後任者と三頭制を築くようにお願いします。これは皆さんの権限を奪うものではなく、21世紀に成功するために必要な安定性を地区にもたらします。地区レベルの総意づくりに模範を示せば、クラブ指導者のチームワークを推進する最上の方法となるでしょう。

後任者と協力し、複数年度プログラムに重点を置くという考え方は、ロータリーの伝統を破るものです。この伝統はこれまでは大変役立ってきました。ですが、来る千年期の増大するニーズに立ち向かうには、もう受け入れられないものになっています。最高責任者が毎年替わる企業を想像してみてください。この1年交替制でロータリーが、94年間生き残れたのは幸運としか言いようがありません。

(中略)

何としても伝統にしがみつこうとするロータリアンに対しては、創始者ポール・ハリスの次ぎの言葉に注意を喚起して下さい。「運動は年を経るにつれ、慣行化します。伝統が理性の行使を阻みます。今までいつもこうだったからと云う理由だけで、価値のないものや不合理なものが続けられます。かつては存在理由があったとしても、もはや存在理由のないことが明らかであっても誰も前例を敢えて破ろうとしません。精神を無視して法文を文字通り履行するようになっているのです。」

この言葉は、ロータリーを変化のない千年一日のごとき団体にしたくないと私たちに物語っています。創始者ですら、賢明なる変化の必要性を認識していたのです。時代遅れの伝統に疑問を感じ、存在理由や適切さを欠く先例を破ろうとすると、ロータリーの精神はポール・ハリスの言葉を実行に移します。(このあと省略)

目次

ガバナーレター	小林 博	2	アンケート調査の結果と分析(第3回)	15
地区協議会報告		3	ロータリー財団への寄付のお願い	18
2004年 規定審議会に立法案の提出を考慮中のクラブへ		4	クラブ活動紹介	19
2004-05年度 長期派遣候補学生募集要項		4	函館RC・栗山RC・室蘭東RC・岩見沢東RC・留萌RC・えりもRC	
ガバナー日記		5	ロシア部会設立準備会開催のお知らせ	21
ロータリーQ&A		8	ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます	22
文庫通信		8	掲示板	22
地区活動紹介		9	訃報	22
家庭奉仕委員会・米山道男・友情交換委員会			事務所だより	22
第3回・第4回ワークショップのご案内		13	3月会員増減数・出席率報告	23
米山記念奨学生紹介		14	5・6月地区カレンダー	23

地 区 協 議 会 報 告

本年度の地区協議会は地区内の各クラブから次年度会長、幹事、クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・新世代の各委員長、地区役員など総勢600名が集まり、4月19日に千歳市民文化センターにおいて開催されました。

小林ガバナー点鐘・挨拶の後、佐藤ガバナーエレクトの次年度RI会長のテーマと次年度地区運営方針について説明があり、RI2830地区黒田PGより会員増強について、そして西條研修リーダーから女性会員について講演があり午前の部を終了しました。

午後からは7つの分科会に別れ、熱心な勉強と討論がなされ次年度に向けての準備に一段と熱が入ったようでした。

プログラム ▶▶▶▶▶

08:45	登録受付開始		10:30	会員増強と退会防止について(講演)	RI会員組織コーディネーター(D2830.PG) 黒田 正宏
09:15	開 会 大ホール		11:30	地区研修リーダー講演	地区研修リーダー(PG) 西條 正博
	司会:ホストRC実行委員会 羽芝 涼一		11:50	諸事お知らせ	ホストRC SAA 原 明
	点 鐘 ガバナー 小林 博		12:00	昼 食 — 休憩 —	各分科会場へ移動
	国歌斉唱		13:00	分 科 会 (7分科会)	
	ロータリーソング「奉仕の理想」		14:55	休 憩 — 15分 —	大ホールへ移動
09:20	歓迎の言葉	ホストRC会長 田口 廣	15:10	分科会報告	各分科会リーダー
09:30	役員紹介	ガバナー 小林 博	16:10	所 感	ガバナー 小林 博
09:35	ガバナー挨拶	ガバナー 小林 博	16:20	謝 辞	ガバナー・エレクト 佐藤 秀雄
09:45	ガバナー・エレクト講演		16:35	閉会の言葉	
	ガバナー・エレクト 佐藤 秀雄			ホストRC実行委員長 大井 綱雄	
10:20	休 憩 — 10分 —		16:40	点 鐘	ガバナー 小林 博



ガバナー 小林 博



ガバナー・エレクト 佐藤 秀雄



地区研修リーダー 西條 正博



2004年規定審議会に 立法案の提出を考慮中のクラブへ

地区規定審議会代表議員
石垣博美 (札幌セントラルRC)

衆知を集めロータリーの近未来に向けた形作りを行う規定審議会が、2004年6月14日～18日シカゴのマリオット・ダウンタウンで開催との案内が2004年規定審議会代表議員の私に送られて来ました。

2510地区の代表議員である私の仕事はこのロータリー年度に次回審議会への提出する立法案の準備が主な審議会関連の活動になります。立法案制定に今日の審議会の形式になったのは1972年の国際大会（ヒューストン）からです。

立法案はロータリーの近未来に向けた形作りへの世界中のクラブによる提案です。この度、クラブからの立法案を提出する場合の地区の証明様式に若干の改定があり手続上の変更がありましたのでご連絡致します。

これはクラブが立法案を提出する場合、2種類の証明書式があり、一つは地区が承認した立法案用、もう一方は地区が承認していない立法案用です。後者の場合は、立法案を規定審議会の審議にかけるために提出するかどうかをクラブが決定

するため、ガバナーが署名した未承認の立法案と証明書を、提案したクラブへと返却することになります。尚、地区が承認したクラブ提出の立法案は、ガバナーの署名入りの証明書と共に、直接RIに提出されます。

この手続上の変更に伴い改訂版の証明書式を使用しなければなりません。この場合、立法案はしかるべき形式で準備し手書きは避けて下さい（手続要覧の第14章参照）。

クラブが提出する立法案は可能な限り早目にRIに提出したいので協力をお願い申し上げます。すべての立法案は2003年6月30日までRI世界本部またはRI日本事務局に必着となりますが、特に地区が承認していないクラブの立法案は前述の地区の手続き後、再検討のためにクラブに返却されなければなりませんので可能な限り早く提出する様にして下さい。

既に各クラブあてに送付された『立法案の提出方法』を会長、幹事さんにご精読の上、作成提出されるようお願い申し上げます。

2004-05年度 長期派遣候補学生募集要項 (アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ・オーストラリア・台湾)

当地区の青少年交換プログラムとして、2004-05年の派遣学生を下記の要領に基づいて募集致します。ロータリーの親善使節としてふさわしい高校生をご推薦頂くようお願い致します。1クラブ2名までの推薦ができますが、原則として、受入時期のずれるオーストラリア1名とオーストラリア以外の交換国1名の計2名となります。

派遣期間：2004年7～8月からの1学年間（11カ月以上1年未満）
派遣予定国：★アメリカ2または3地区（オレゴン州1地区、ニューヨーク州1または2地区）★カナダ1地区（アルバータ州）★フィンランド・マルチ1地区（フィンランド全域）★メキシコ1地区（中南部）★オーストラリア5地区（東海岸地域5地区）★台湾1地区（桃園・台北県）

募集人員：各地区1名、合計11または12名の予定。
応募資格：2004年1月現在で15歳以上19歳未満で、中程度以上の学業成績があり、ロータリーの親善使節としての留学に対して積極的な態度を持つ男女。ロータリー会員の子女であるか否とは問いませんが、保護者と在籍高校（受入高校）および推薦ロータリークラブの全面的支援（受入学生のホストを含む）を必要とします。

自己負担分：往復の旅費・保険、その他、渡航に必要な費用（航空券・保険については、地区委員会指定の代理店から購入することが条件です）。

応募の方法：推薦ロータリークラブから2003年6月18日（水）（必着）で応募書類をお送り下さい。

選考方法：英語・小論文・面接により選考します。
選考日：2003年6月22日（日）を予定しています。
結果の通知：選考日から約2週間後までに推薦ロータリークラブ宛に通知致します。

注意事項

①推薦した学生が派遣されることとなりますと、推薦クラブで相手地区からの留学生をホストしていただくこととなります。これには受入留学生のための高校及びホストファミリーの手配が含まれます。この際、派遣学生の在籍高校に留学生を受け入れて頂くよう努力して下さい。

②派遣学生の出発はすべての交換国とも2004年7～8月頃です。交換国の学生を受入はオーストラリアの場合2004年1月、オーストラリア以外の交換国では2004年8月です。

③受入留学生を他のクラブと共同してホストする場合、あるいは、他クラブがホストすることが内定している場合は、選考結果通知後、直ちに当委員会にお伝え下さい。

④アメリカに派遣が決定した場合、予防接種が追加が必要になりますので、事前に学生や保護者の方へお伝え下さい。（例えばポリオの場合、オレゴン州の場合は計4～5回、ニューヨーク州の場合は計3回になるように追加で接種が必要です。）アメリカ以外の派遣国でも必要な場合があります。

⑤クラブで推薦する前に、必ず、応募学生・保護者との面接を行い、ロータリー活動やロータリー青少年交換事業の目的を説明する機会を必ず持つて下さい。1クラブから2名まで推薦できますが、原則としてオーストラリア1名と受入時期のずれる他の交換国1名の計2名となります。

⑥派遣する相手地区との交換は確認していますが、相手地区の多くは現地で選ばれた学生の人数に応じた交換をおこなっています。また、多くの国で縮小の傾向が見られます。したがって、時として、相手地区ならびに学生の事情により派遣・受入が一時的に中止される可能性があることをご理解下さい。このことは必ず、応募学生ならびに保護者に対しても事前にお話し下さい。相手国からのビザが発給されるまでは、あくまでも派遣「候補」学生です。

⑦派遣候補学生・保護者・推薦クラブ担当者は、当地区青少年交換委員会が実施するオリエンテーションに出席することが義務づけられます。

⑧交換学生の募集・選考・派遣・受入は年度をはさみます。現年度及び次年度のクラブ会長・幹事・青少年交換担当者ははじめ、関係者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

問い合わせ・応募書類請求・送付先(2002-03年度青少年交換委員会事務局)
青少年交換委員会事務局（事務局員：伝庄こずえ）
〒069-1343 夕張郡長沼町旭町南1丁目1-2 KSインターナショナル内
TEL：01238-2-5251/FAX：01238-2-5252
Email：yecd2510@violin.ocn.ne.jp/執務時間 月・水・金(10:00～15:00)

ガバナー日記

音楽はやっぱり楽しい

— 函館の都市連合会 (IM)

3月29日(土)2時から函館ロイヤルホテルで第10、11グループ合同のIMが遠藤哲二、松見修二両ガバナー補佐リーダーのもと開催。函館空港には松見修二ガバナー補佐の出迎えをうけ函館ロイヤルホテルに直行。しばし歓談のあとIMのホスト役の函館ロータリークラブ(加藤健太郎会長)の臨時例会に出席。第4グループの村上正、第5グループの角掛晴雄両ガバナー補佐の友情参加に助けられる。

IMのテーマは「NPOからロータリーの奉仕を考える」。いま日本には1万以上のNPO団体があって、ロータリーもいくなれば一つのNPOである。ロータリーは他のNPOと同列なのか? 違うとすれば何がどう違うのか?

NPO北海道サポートセンター理事、津田祥子さんの基調講演のあと田中修市(函館RC)コーディネーターと5人のスピーカーによるフォーラム。

フォーラムのテーマは「奉仕の理想:ロータリアンが失ってはいけないものとは」。時間制約もあってNPOそのものについての話と、奉仕とは何かの話との焦点が少し噛み合わない点もあったが、ロータリーがNPOを真正面から取り出したことに大きな意味があり、少なくともこの点で成功であった。ロータリーの奉仕が他のNPOと一番違う基本はやはり「I serve」なのだろう。

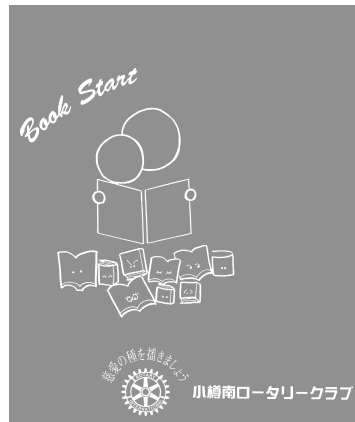
勉強が終わってからの懇親会。特に**函館、函館東、函館五稜郭RC**のコーラスは優劣つけ難くそれぞれ素晴らしかった。近く広島市で開催のロータリー合唱祭に出演予定とのこと。ほかにフルートあり声楽あり。一緒の村山正ガバナー補佐も「音楽はいいな、今日は来て良かった」と。なお、**函館RC**若山直会員の書かれた「ホワイトダックスの誕生」の記事(p.19)が参考になる。

次年度は地区全体としてIMはやらないとのこと。やはり「淋しいな」の声もあり。IMに代わって地区内のロータリー合唱コンクールで復活する手もあるか?

張り切る小樽南ロータリークラブ

4月8日(火)朝、**小樽南RC**の相馬哲也会長がガバナー事務所に見えられ、ブックスタートの絵本と子ども達と保護者に差し上げる携帯用の手提袋を持って来て下さった。この布製の袋は1ヶ700円とのこと。なかなかスマートで使い勝手がありそう。

ブックスタートはご存知のとおり、乳幼児検診に参加した全ての赤ちゃんと保護者に絵本の入った「ブックス



タートバック」を説明文とともに渡すという英国から始まった運動で、道内でも既に幾つかの市町村で開始している。ただ、この運動を取り上げたロータリーは、少なくとも北海道では小樽南RCだけであろう。小樽南RCは近く、小樽海洋少年

団との楽しいひとときを小樽マリンコーナーで開くとのこと、なかなか活発な活動である。また小樽南RCと言えば、地区内でも随一の米山寄付金の多いクラブとしても知られている。クラブとしての総額だけでなく、個人の寄付額も最高クラブの1つである。これも相馬会長はじめ関係者の努力の賜物と心から感謝申し上げたい。

継続は力なり

「こうすれば良かった」「ああすれば良かった」という今年度地区幹事の反省を次年度の皆さんにお伝えしたほうが良いということで、菅原耕治・竹原巖・米山道男の3人の地区幹事と私とが、4月12日(土)に竹原幹事の運転する車で千歳全日空ホテルへ赴いた。佐藤ガバナー・エレクトはじめ、武石忠俊・木村照男代表幹事のほか次年度地区幹事の皆さん方といろいろ忌憚ない話し合いを持たせていただいた。

従来、ロータリーは単年制と割り切っていたために、前年度からの引き継ぎ、或いは次年度への引き継ぎは全くなかった。しかし、本号の巻頭言にも書いたように重大な問題については、2~3年度にまたがったガバナーや地区幹事間での話し合いがあったほうがよいのではなかろうか。1999-2000年度のカルロ・ラビッツアRI会長の言葉を借りれば、計画の継続はロータリーの革命的な進歩に繋がる筈である。とは言っても、それぞれの年度の持ち味を出さなくてはいけない。従って、継続されるべきものと単年でいくべきものが混在していると言わなければならないだろう。

月信、ガバナー公式訪問、地区会員名簿、ガバナー補佐の引き継ぎ会をどうするかなどのほか、緊縮予算についての地区のあるべき姿につき忌憚ない意見交換がなされた。その討論の内容には双方にとって大変意義深いものであったと感じた。

外国に親しむ人集まれ！ — すごい人材揃いにびっくり

国別部会とは要するに、地区内のロータリアンが世界中のいろいろの国にそれぞれの持つ思いを語り合い助け合う機会があったら良いだろうという米山道男地区幹事の発想に基づくものであった。友情交換委員会（金井重博委員長）などの主催による第2回ワークショップが、4月12日（土）夜6時半から札幌パークホテルでもたれた。

私はこの2510地区にはすごい人材がたくさん揃っているということで、嬉しくも思い、また心強くも感じた。江別RC池田会員のネパール、千歳RC岩佐会員のタイ、札幌西RC橋本会員のアフリカ、札幌セントラルRC長谷川会員のロシアへの思いなどいずれもじっくりお伺いしたい魅力的なものである。

このような企画は何もロータリーでは必要ないという意見もあるようだが、ロータリーとして何をどこまで出来るのかを討論するのが今回のワークショップの狙いであった。それぞれの国への思いを勉強し、友情を深め、支援活動をしていけばそれで良いのである。いずれにしても、このような外国との友情交換は楽しくなければならぬだろう。

次年度地区ロータリーのエンジン全開！！

次年度に向けての最終的な準備が地区協議会である。地区役員のほか、72クラブの会長・幹事、クラブ奉仕・社会奉仕・職業奉仕・国際奉仕・新世代の各委員長が集まり、次年度へ向けての最終的な準備会が4月19日（土）、千歳市民文化センターで行われた。

佐藤秀雄ガバナー・エレクトの最も強調したかった点は2つ。1つは、この地区のIT化を積極的に進めようということ。2つ目は予算の緊縮、経費節減。

他にも黒田正宏RI会員組織コーディネーター（2830地区PG）による会員増強と退会防止についての問題、西條正博研修リーダーによる女性の第1号会員がアメリカのダーラムRCに生まれた時の苦労話の紹介など。現在ロータリーの抱える問題が集中的に論議された。

私は最後の所感で基本的に最も大事なことは長年の慣習におぼれることなく、試行錯誤を恐れず前向きに改革に取り組むこと。クラブが良くなるもならないも今日お集まりのロータリアンのみなさんの「やる気如何」であるということを申し上げた。

クラブ運営も地区運営と同じく単年制に終止しがちであるが、ものによっては継続性をもってやること。従って前年度、次年度との引き継ぎが重要であることなど、自戒の心を含めて率直に申し上げた。

今回の地区協全体を通し佐藤ガバナー・エレクトの議事運営が気張らず気取らずありのままの姿で心から嬉し

く思う。この地区ならではの特徴は、更に遠藤秀雄ガバナー・ノミニニーに引き継がれ、他地区からも羨まれるような良いロータリーが出来ていくであろう。

広報かくあるべき

久しぶりに4月21日（月）、ホームクラブの例会に出席。卓話の札幌真駒内RC丸山淳士会員（地区広報委員長エレクト）の広報に関するお話は大変晴らしかった。何故広報が必要なのか、広報とは何のためにするのか。ロータリーは隠匿の美が尊重されながら、最近のロータリーは然るべきことは積極的に一般市民に広報すべきと方針が変更になっている。その根拠は何か、ということ極めて理路整然、明解に説明し、会員のみんなに深い感銘を与えた。「今日の卓話は良かった」との声は翌日になっても耳にした。

広報は地区活動の中でも最も大事な委員会活動のひとつと思う。丸山淳士会員の広報のお話をみなさん聞かれてはいかがなものか、各クラブにおすすしめ申し上げたい。

周年行事の在り方を考える

4月24日（木）、千歳RCの創立35周年を記念してのシンポジウム『夢、未来、子どもに期待するものは』に参加させていただいた。ロータリークラブの創立記念日というと、そのクラブの過去を振り返り、とかく儀式が主体になることが多い。ところが従来のスタイルに代え、子どもにかかわる千歳の教育委員会、警察、新聞社、青少年施設関係者などのそれぞれの分野の方々の率直な意見発表があり、そのあとみんなで討論するシンポジウムであった。これは極めて有意義な企画であったと思う。

最後のコメントーターとして次期地区子ども奉仕委員会の米山道男委員長が所感をまとめてくれた。私自身も感想として、子どもの問題は子どもだけの問題ではなく家庭問題でもあること、すべてに共通した問題として、大人でも子どもでも相手の言葉を良く聞くこと、相手の人柄、人権、人徳、人格などを心の底から認めること、そして、相手の中に見出される素晴らしい些細なことでも誉めることの3つが、普遍的にもっとも大事ではないかという私見も申し上げた。

さらに新聞報道は「悪い話」が強調され過ぎるが、「良い話」を意図的に多く報道するように努力してはどうか。これを千歳運動として発信できないものかという意見も申し上げた。いずれにしてもロータリークラブの創立の周年行事を従来の枠を超えた新しい在り方を教えてくれたように思う。

シンポジウムが終わって懇親会で初めて千歳セントラルRCの田口 廣会長からお祝いの言葉が述べられ、あとは酒が入って和気あいあいの楽しい会であった。

ビチャイ・ラタクルRI会長を札幌に迎えて

4月25日（金）12時15分より、ビチャイ・ラタクルRI会長の歓迎会が札幌パークホテルで開催された。お隣の2500地区から217名、当2510地区からは417名の合計634名の参加があった。札幌大学吹奏楽団のタイ国国歌、日本国国歌の演奏に引き続き、ロータリーソング「R-O-T-A-R-Y」。ホストは伊藤義郎元RI理事。私は日本語の「乾杯」の代わりにタイ語の「チャイヨー」の言葉でみなさんと杯をあげさせていただく。その後、竹山涼一元RI理事の挨拶、RI会長のスピーチ。何回聞いても心から印象に残るスピーチであった。クライマックスはかつてアナハイムで聞いた父親のいない子どもに「あなたが私の父親になってくれたらいい」という言葉からRI会長がロータリーの心に目覚めたというお話で、これは何度聞いても心を揺さぶられるものであった。

会長スピーチのあと2500地区の小船井ガバナーと相談のうえ予め決めていた北海道の全ロータリアンからの謝意として最新最高のデジタルカメラをプレゼントした。品物はNikonのCoolPix5700、経費は両地区で折半。

歓迎会が終わって「今日の歓迎会は良かったね」との多くのロータリアンからの慰めの言葉にホッとしたものである。これもひとえに伊藤義郎元RI理事（札幌RI）、竹山涼一元RI理事（札幌南RI）、2クラブの荒紀男、中島一郎両会長のご尽力のお陰と心から感謝したい。

夜は6時からグランドホテルで両地区の全パストガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニーほか計29名が集まったの歓迎会。ビチャイ・ラタクルさんもご満悦のようであった。



今年度はラッキーだった！

「今年度はラッキーだったですね」という言葉は良く聞いた。何故かと聞くと、今年度のビチャイ・ラタクルRI会長はアジア人の心のわかる本当に素晴らしい人だからというのである。確かにそのとおりである。毎年のRIのテーマには感慨深いものが多いが、特に今年の「慈愛の種を播きましょう—Sow the seeds of live」はロータリーの心を伝える名言だと思っている。このような年にガバナーとして巡り合った幸せは心から感謝したい。

ビチャイ・ラタクルRI会長は大の親日家である。そのことはいろんな場面で垣間見ることが出来る。31年前に札幌を訪ねたことがあるとのことで、今回は2度目の訪問。だが、アナハイムるときから「札幌、札幌」と、北海道をえらくお気に入りようだった。今年の12月中旬にはバンコクで日本のロータリアンとだけの友好の機会を持ちたいという非公式の計画をお聞きしたが、もしこれが実現するのなら何とか参加したいものと思う。

『月信』の予算は大丈夫か？

会員のみなさんの月信への熱い思いとか投稿の増加でページ数がいつも30ページを超えていた。そうすれば当然経費も膨らむ。広告代をいただくなど収入増と印刷費の圧縮などを図ったが、それだけでは間に合いそうもなく、当初の月信の予算をオーバーしそうである。ということで、今月号はページ数を24ページに減らしてしまった。竹原巖編集委員長も断腸の思いであろう。月信はビチャイ・ラタクル会長のいわれるボトムアップの具体化に必須のものだが、このことがまだ会員諸士に十分理解されていない。経費的にも1冊100円で済むのだが。



上：懇親会を前に会員との自由なスナップ 下：全員の拍手に迎え送られて

RI会長歓迎会の写真募集

RI会長ビチャイ・ラタクルさんの来札にあたっての歓迎会で撮られた写真の中で、「これぞ!」と思うスナップがありましたら編集委員会あてに5月15日までにお送り下さいませんか。『月信』6月号にてご紹介出来ればと考えております。

ロータリー Q&A

回答

・情報委員会委員長 亀井敏清
・ガバナー事務所

Q: ホームクラブ例会を欠席した場合、他クラブ例会にメイクアップすることにより補填出席することができますが、メイクアップの方法と種類について教えてください。また、必ずメイクアップカードをクラブに提出しなければ出席扱いとは見なされないのでしょうか?

A: ロータリークラブ会員には会員として守らなければならないいくつかの義務があります。「定款・細則の遵守」「地域社会を代表する職種の職業人としての責任」「ロータリーの友誌の購読」「諸会合の時間厳守」「会費の納入」そして「例会出席」があります。会員としての義務にたいして会員の特典もいくつかありますので列記いたします。「ロータリーの記章を着用することが出来る」「世界のロータリアンと友達になることが出来る」「世界中のクラブ例会に出来る」等々があり、例会出席の義務を果たすため特典を利用し他のクラブ例会等に出席で欠席の補填が出来る訳ですが、その他のメイクアップ方法について、手続要覧によるクラブ定款第7条第1節から参照にして記します。

- ◎ホームクラブ定例会の前14日または後14日以内に
 - ①他のロータリークラブまたは仮クラブの例会時間の60%以上の出席
 - ②ローターアクトクラブ・インターアクトクラブ・ロータリー村落共同隊の例会に出席
 - ③RI国際大会・規定審議会・国際協議会・ロータリー研究会・ゾーン大会・RI委員会会合・地区大会・地区協議会・ガバナー指示の地区委員会・IMに出席
 - ④他クラブ例会出席の目的で訪問したとき、定例の時間と場所で例会を開いていなかった場合
 - ⑤理事会承認の奉仕プロジェクトまたはクラブがスポンサーした地域社会の行事や会合に出席
 - ⑥理事会の会合、または理事会承認の奉仕委員会の会合に出席ただし会員が14日以上にわたり海外旅行の場合、メイクアップ期間(定例会の前後2週間以内)に拘束されません。
- ◎質問の2点目「必ずメイクアップカードをクラブに提出」についてですが、出席先によっては必ずしもメイクアップカードが発行されるとは限りませんので、会員が自ら報告することで出席が有効となります。

文庫通信



「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

ロータリーを理解するために

- ◎「わがロータリーへの道(抄録増補版)」ポール・ハリス著; 鈴木徹・竹山涼一・若佐武司共訳 札幌南R.C. 1996 126p [申込先: 札幌南R.C. FAX (011)222-2744]
- ◎「奉仕理念の提唱者 アーサー・フレデリック・シェルドン」 田中毅 2002 85p [申込先: 芦屋川R.C. FAX (0797)32-6888]
- ◎「英知と名言(抄訳)」 秦野R.C. 1998 55p [申込先: ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「これからのロータリー活動」 齊藤博 2003 7p (横浜南R.C.卓話) [申込先: ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「ロータリーへのご案内」 長岡成郎 2001 43p [申込先: 長岡成郎 FAX (0480)33-4728]
- ◎「純ちゃんのコーナー(ロータリー3分間情報)」 深川純一 伊丹R.C. 2002 28p [申込先: 伊丹R.C. FAX (072)775-1223]
- ◎「ロータリー・チャンネル」 長崎南R.C. 1992 44p [申込先: ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「新会員のためのロータリー用語」 小林茂 鷹巣R.C. 2002 45p [申込先: 小林茂 FAX (0185)54-2324]
- ◎「小さなクラブの会長時間【点鐘】」 福山丸之内R.C. 2002 81p [申込先: 福山丸之内R.C. TEL (084)927-5252]
- ◎「藍壺先生と言う人 米山梅吉物語」 内藤茂雄 米山梅吉記念館 2002 40p [申込先: 米山梅吉記念館 FAX (055)989-5101]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

地区活動 紹介

第7回 家庭奉仕委員会 からの報告



家庭奉仕委員会

委員長 和田壬三

委員が全員参加して本年度最後の委員会を開きましたので報告申し上げます。

I、本年度の当委員会の活動に対する総括

1、当初の3回の勉強会は、ガバナーに参加して頂き何をなすべきか模索し、その中で委員の率直な意見の交換があり、又ガバナーとも親しくお話が出来、それ以降の委員会活動が、スムーズにいったのではないかと。会場は和田事務所。開催時間は6時、土曜日は4時からであったが特に問題はなかった。

最初の地区内の社会奉仕委員会と世界社会奉仕委員会、学友委員会との合同委員会は、有意義であった。その委員会が縁で、世界社会奉仕事業にクラブとして取り組むことが出来たし、地区社会奉仕委員会の滝川RCの菅原会員や、札幌西RCの村木会員さらに世界社会奉仕委員長の土倉さんなどと知り合うことが出来、とくに菅原会員にはその後の当委員会の活動にも参加して頂き有難かった。

2、勉強会は4回とも講師、内容共に素晴しかった。

①第1回は、土橋信男札幌南RC、前札幌市教育長であり、当委員会の活動に光明を与えてくれた。現代の状況では、家庭生活は、愛情や思いやりで自然に営めるものではなく、訓練によりより豊かになる方法があるんだという貴重な示唆を得ました。

この時には、ガバナー月信に、案内を出したが、深川RCの松本純枝社会奉仕委員長に参加して頂き、以降ずっと当委員会の活動に参加してくれて有難かった。但し、月

信に案内を出しただけでは、あまり効果がないのではないかと。

②第2回は、月信に加え札幌市内及び、空知管内、小樽市、千歳、恵庭の各クラブの会長、幹事、社会奉仕委員長宛に直接案内を出して、参加を働きかけたところ、約25名の参加を得て、土橋芳美先生の親業訓練の講義を聴くことが出来た。先生の話が、委員自身の家庭奉仕に最大の影響を与えた。

土橋先生は、先ず、誉めることを私たちが出来ていないことを知らしめてくれた。それは自己紹介のときに自分の優れていることを話すように指示して話させたところそれが難しいことであること知ったからである。自分すら誉めていないのにどうして他人が誉められるのかというわけである。

委員各人が、如何に変わったかについて報告があったが、小さな家事の手伝いから始めて、よく聞く、誉めることまでに至った経過が語られました。

③池上先生の話は上手であり、内容も興味深いものであった。食事の問題にしても、夫婦の問題を子供に押し付ける問題にしても親が子供に悪影響を与えていることが良く分かりました。

④大場委員からは、知的障害者についての実態やその家族がどのようにして支えあっているかについて具体的に聞くことが出来大変有意義であった。

⑤委員会の委員だけでは、惜しい内容であり、地区内のロータリアンに参加していただけなかったことが最大の反省点であった。

3、第4第5グループIMについて

①総じて、会場の活発な発言があり、成功といえるのではないかと。

②ガバナーからのまとめも良かった。

③一般参加者が少なかったのではないかと。宣伝方法に工夫が必要だったかもしれない。

④内容的には、ロータリアンがどう行動すべきかの視点が、見えなかったのではないかと。

⑤講師間の打ち合わせのときに視点をもう少し明確に確認しておくべきだった。

II、函館ワークショップ（5月9日）の進め方

1、目的 参加ロータリアンに家庭奉仕の大切さを認識してもらう。

2、テーマの設定

‘日頃心がけている家庭奉仕’ ‘心がけたい家庭奉仕’

(家事のこと、家族の共有体験のこと、家族とのコミュニケーションのことなど何でもいい。)

3、進行方法

①ガバナー補佐に開始の挨拶、ガバナーの挨拶。

②参加者全員の自己紹介とテーマについての意見を発表（時間は、2分以内）

③地区からの参加者4名は、5分以内で自己紹介とテーマについての意見発表。

④その中で最も多かった具体的な問題点、重要と思われる問題について絞って、討論する。

4、役割分担

①総司会 大場委員

②ディスカッションの司会 和田委員長

III、次年度活動計画

1、勉強会を最低2回以上行う。

拓殖大学の相馬教授には、食の問題。前北星大学の相場幸子教授には、子供に対する親の関わり方について、お聞きする。

宣伝は、ガバナー月信だけではなく、直接、社会奉仕委員長や会長、幹事に詳しく内容を伝えて、働きかけるべきである。インターネットも活用する。

2、各クラブの活動の状況を月信で紹介して参考にして頂く。少なくとも委員は、所属クラブに働きかけて、家庭奉仕について意識啓発を行う。

3、IMのビデオを各クラブに活用していただく。

4、親業訓練が効果的であることが分かったので、土橋芳美先生の協力を得て、親業訓練初級コース（6時間）を実施していただくように各クラブに働きかける。

“慈愛の種を家庭から” をテーマとする第4、第5グル ープIMについての報告

家庭奉仕委員会

委員長 和田壬三



2月22日札幌南RCをホスト、札幌RCをコホストとして表記のIMが開催されましたが、家庭奉仕に関連する部門だけ報告します。

1、ガバナーの挨拶

ガバナーからは、四大奉仕（クラブ、社会、国際、職業）の大前提として家庭奉仕があつていいのではないかと感じている。演者の選択はこれ以上ない方を人選していただいた。この会の成功は、活発なディスカッションである。そのためは良く聞かなければならない。と援護射撃をして頂きました。

2、土橋信男 前札幌市教育長、前北星大学学長の基調講演



最初に大きな集会で一人の父親が、告白しているテープを聞かせてくれました。内容は、彼は、家庭及び子供の教育は、

妻の役目。自分は、仕事一筋、家庭では亭主関白で良い。と通してきた。箸が無いと「箸が無くてどうして飯が食える」といってテーブルをひっくり返すという具合であった。その結果、長女が、先ず不登校になったので、無理やり学校に置いてきたり、下の子達も連帯責任であるとして、罰を与えたりした事も悪かったのか長男、次男、三男と全員が不登校になった。というものです。

平成13年の統計で、小中学生の不登校の数は、13万9,000人であり、右肩上

がりで増え続けている。高校中退者も10万人を越え右肩上がりで増えている。大検を受ける若者の数も増え続けているし、公立高校で、通信制の学級を計画しているところもある。土橋氏の奥様がなさっている親業訓練講座の受講生にも似たような状況がある。即ちこのような家庭（崩壊の過程）の状況は、例外ではない。

家庭を対象とした社会学によると家庭は、社会の最小の単位であり、家庭が単位になって、社会が出来ている。家庭の平和なくして社会の平和はない。又家庭は、癒しの場でありそこに行くと元気になる場である。ところが、現状は、家庭は癒しの場どころか家庭の平和を維持することさえ難しい時代である。

その原因は、

- 1)核家族化により、世代の価値の伝達が困難になったこと、核家族の中心である夫婦の関係が、上下の関係ではなくなってしまい、昔の価値観と異なってきたことによる混乱から、破綻する夫婦が増え続けている。
- 2)急激な社会変化、特に電子機器やパソコンなどの操作について、子が親に教わるという関係が生まれたり、豊かな社会が子供にテレビ、雑誌、漫画、インターネット等から得られる情報をもたらし、親の情報は、ほんの僅かなものに低下してしまったなど親が子に何でも教えるという関係が崩れて、親の権威が失われ、子供が親を見下すという事態が見られるようになった。中でも父親の権威の失墜が大きい。家庭でも妻のほうが怖い家庭が多くなっている。
- 3)豊かな社会は、心よりも物によって満足するといった価値観をばびこらせてしまい、子供（妻にも）にも物を与え満足させたことが、子供（妻）の心を蝕んできた。
- 4)日本の家庭の伝統的な価値観であった親孝行が、失われている。

このような家庭崩壊の現状を救うのは、家庭に愛の種をまく、具体的には、家庭において互いに仕え合うことである。仕え合うとは、

- ①喜び、悲しみ、痛みを互いに分かち合い、励ましあうこと。

- ②家事はたくさんある。互いに家事も分かち合うこと。子供にも家事を分担させる躰が大事である。
- ③家族と一緒に食事をしたり、旅行をするなどの共有体験が必要である。
- ④家族が話し合うことが必要である。

その方法として、家庭を開くこと互いに他人を家庭に招きあうことが大事である。ロータリークラブはもっと家族会的なことを多く行うべきである。

このようにしている家族には、家庭は、本来の癒しの場、家庭に帰れば元気になる場になるのではない。

先のテープの例の後半の部分をテープで聞かせてもらいました。あることをきっかけに一年後には、長女は、海外旅行に行けるまでに、長男は、福島の通信高校に通い、今年卒業する予定のところまで、次男は、学校に通い始め、三男は、ガイダンス教室に通い始めるところまでに回復したということです。

きっかけは、妻が、毎朝ニコニコしながら、「貴方行ってらっしゃい」と来る日も来る日も声を掛け続けたことから、この社長さんもうしたらこんな笑顔になれるんだということで、その原因を聞いて、自らも変わったことから、このように家庭が回復したということです。

3、土橋芳美 親業訓練協会インストラクター



親であることに訓練はいらないと考えている方が多いが、自分が親として子の為に良かれとして、行ってきた事が、実は、子にどれほど酷い

ことをしてきたかの実例がある。

理想のお嬢さんとして育てられたお嬢さんが、親の言いなりに過ごしたことで如何に自分是不幸であったかを結婚式の前日に懇々と諭された親がいた。良い子を育てたと思いついでいた親は、実際には、子供の人権を侵していたことに気がつかなかったのである。

親業訓練とは、アメリカのトマスゴードンさんが、親と子の関係を良くす

るための方法として開発したコミュニケーションに関する方法である。

子供に問題がある場合には、子供は、どんなに小さくても自分の問題を自分で解決できる能力があるのだから、親が子供が解決すべき問題を取り上げて解決してはならない。子供から相談を受けたときには、“能動的な聞き方”具体的に言えば、子供の言葉を繰り返して、子供の言いたいこと、感じていることを、親が理解したことを子供に伝えるだけに留めるべきである。

子供の問題ではあるが親が問題を抱えるとき、例えば子供が部屋を散らかす。子供が近所の迷惑になるようなことをする。などの場合に困るのは親である。こんな場合、直ぐ叱り付けたり、綺麗にしなさいなどと命令したりする親が多いのであるが、親業訓練では、「私メッセージ」によることを教えている。先の例では、親が子供に、片付ける時間がないことを伝える。とか、親が近所から非難されて困っていることを伝える。のである。

親と子が対立する場合。例えば子供が、店の前でおもちゃを買ってとせがむ時、人前もあるので買ってあげると子供の勝ち、親が強引に子供を引っ張って、店から引き離すと親の勝ちというふうには私たちは、どちらかが意思を通してしまふことが多いが、負けた方に恨みが残る。このような場合「勝負なし法」で解決するのが良い。

この方法は、親と子のために開発されたのであるが、夫婦間、会社の社員と上司との関係にも応用できる。即ち豊かな人間関係を築く方法である。

4、池上公介 池上学院学院長



今は昔と反対の時代になっている。昔は、子供が、親に学校に行かせてくれと頼んだ。今は、親が子供に学校に行ってくれと頼む。

もともと中学浪人の指導をしていたが、今は、彼らよりも不登校や引籠りの子の指導の方が多くなっている。親との面接を通じ、又寮生の生活習慣

を見るにつけて、子供たちが不登校や引籠りになった。原因は、親にあることが分かってきた。

一つは、父権の欠如である。父親が、子供の教育に全く関与しないか、関与しても父親の存在感がなくなっている。子供たちに母親が、父親の存在をきちんと説明していない。父親の働きで生活していることすら知らない子供が増えている。

二つ目は、きちんと母親が、国際的に最も優れた食であることが、認められている日本の伝統的な正しい食生活を子供にさせていない。味噌汁を飲んだことがない子供が多い。

三つ目は、先祖を大切にしていない。自分の力だけで、成功したと自惚れている親が多い。

5、大場公孝 社会福祉法人渡島コロニー理事長、精神科医



発達障害児が増えている。自閉症、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）の三種類である。

自閉症は、社会性の障害、言語発達の障害、固執、という特徴があるが、視覚や映像で捉えることが得意なのでこの性質を利用して学習させたり、就労させたりすることが可能である。

学習障害は、読む、書く、聞く、話す、計算する、推論するなどのうち特定の能力の習得が困難な子である。得意なことをさせ、苦手なことは、できかかっていることをさせることが大事。

注意多動性障害には、不注意優位型、多動衝動性優位型、混合型、があるが、注意力が散漫にならないような教室の構造にする。目に入りやすい教材を使うなどの工夫が必要である。

発達障害児の支援に共通することは、褒めること、認めること、出来そうなことから始めることが大事である。このことは、彼らを社会の一員として認めることである。強いものだけがいる社会よりもいろいろな人の価値を認める社会の方が、重要である。

又その家族は、障害者だけではなく

全ての家族の構成員が、痛みを持っているので、互いに助け合い励まし合うことが大事である。

6、松本純枝 深川IRC社会奉仕委員長



地区家庭奉仕委員会の勉強会に参加して、親業訓練のことを知り、訓練を受けてみた。父の介護疲れで毎朝、頭痛を訴える

母に対し、母だけに父の介護を任せてきた自分を責められている気がして、とてもいやな気分で何年間も母の頭痛の訴えを聞いてきたが、どうすることも出来なかった。四回目の訓練のとき、火傷を負って泣き叫ぶ子供が、母から、「すごい火傷をしたみたいね、痛いのね」と言葉を掛けられて、泣くの止めた。という例が出ていたので、心を込めて、「お母さん、毎朝起きると、一番具合が悪いのね、それで頭痛がするのね。」と言葉をかけたところ、翌朝から、その訴えが止まったのである。

7、パネラー間のやり取り

大場：「池上先生、LDやLDHDの方は、親が、躰のせいと気にされる方が多いのではないかと、そんな時どのように親に接していますか。」

池上：答え「皆、躰のせいと気にしている。その子の特徴を生かした教育をし、この子たちの特徴を受け入れる企業があることを話し安心させている。」

和田：「芳美先生、妻たちは、毎晩遅く薄野から帰る亭主を遊び歩いていると誤解しているようである。妻から、「貴方、毎晩薄野でいい思いをしていらっしゃること」などと言われたらどう答えたらよろしいでしょうか？」

悪い例

「貴方、毎晩薄野でいい思いをしていらっしゃること」 夫「だって仕事だから仕方がないだろう」 「本当に仕事なの」 夫「何だその言い方」

相手が否定的な言い方をしてきたときには、決してこれに乗らないことが大事である。

良い例

「貴方、毎晩薄野でいい思いをしていら

っしゃること」 夫「君と一緒にだっ
たらもっと楽しかったよ」 「そう、
どうも有り難う」 夫「遅くなった
ので心配して起きていてくれたんだね。
有り難う」 「分かってくれてうれ
しいわ」

8、フロアーから、活発な意見がありま したが、家庭奉仕に関係する意見は 以下の通りです。

南部会員（札幌東）：「子供は、ス
トレスを感じる学校から帰ったとき、
優しく「お疲れさん」と母親から声を
掛けられることで癒されるが、カウ
ンセラーをしている実感として、最近
は子供が帰っても声をかける母親がい
ないことが多い。」

北澤豊次郎会員（札幌真駒内）：中
川会員（手稲）から食べ物の重要性の
発言があり、和田が、岩手大学の沢
博先生が、偏った食生活が、体だけで
はなく心も蝕むということを少年院の
収容者の食生活やねずみを使った動物
実験で確かめたということ。「子育て
崩壊」という書物の中で発表している
が、池上先生に感想を聞いたところ、
「確実に関連性があると感じている。非
常に激しい子、変わっている子は必ず
偏食がある。最近も頭は良いが素行が
変な子がいたので、食生活について尋
ねたところ、昼も夜も外食で偏った食
生活であったが、寮で正しい食生活を
させたところ、変な素行が治まった」
とのこと。

砺波（札幌幌南）が、夫婦の会話を
補うのに、文書でやり取りする方法が
道新に出ていたことを紹介した事に対
し、土橋芳美さんから、「定年間際の主
婦の悩みは、夫と一日中過ごす事の鬱
陶しさである。それは、夫婦に共有体
験が無いことによる。いくら愛し合っ
ていても共有体験が無ければ、コミュ
ニケーションも成り立たない。そのた
めの方法は、家庭を解放し、客を招く
ことである。」との発言がある。これに
関連して、はまなすRCの戸部アナマ
リアさんから、「夫と仕事は共有してい
るが、仕事は議論が多く共有体験には
ならず、子供が成長してからは、会話が
無くなった。ところがロータリーに入
り、共有体験が出来るようになってか

ら、会話が再開したところ、夫がこん
なに話せる人間であることが分かっ
た。」との発言がありました。 **斉藤**
（札幌幌南ロータリーアクトクラブ）不登
校の子供の気持ちが分からないのでお
聞きしたい。

池上「一人っ子が多く、しかも王子
様のように育てられて、困難に自分で
対処する術を身につけていない。だか
ら、学校に行って、様々な障害がある
と耐えられずに楽な家にこもってしま
う。」

高下（札幌西）「子育て相談をして
いて、不登校の家庭は、父親が子育て
に全く関心がない場合が多いと実感し
ている。赤ちゃんを育てるときから、
父親は、赤ちゃんに接するべきである。
又相談者は、全て専業主婦であり、夫
が子供にも妻にも関心を持ってけれ
ないという悩みが多い。薄野からも早
めに腰を上げて帰るべきではないでし
ょうか。」

土橋信男「子育ては、両親がバラ
ンスよく関与しないといい子が育た
ない。日本の企業家は、家事や子育て
にもっと配慮すべきである。PTAも
ほとんどが母親である。」

南部（札幌東）：子育てに父親の協
力が必要であるが、夫婦としての愛情
の交換も子育てには必要で、正しい
夫婦としての接し方を子育て相談の
内容として教えている。

大田（札幌北）：子育てのためにも、
女性が社会に参画するためにも、男性
の職場や、薄野にいる時間が長すぎる
のが問題である。ここを変えて、夫婦
が家庭にいる時間が長くなれば、老
後に夫婦だけになった場合に困るこ
ともなくなるし、子育てにも女性の
社会参画にも役立つのではないかと

和田：その現実の中で、いかに夫が
家庭に目を向けてやるかということも
大事ではないか。

9、小林ガバナーからの講評



今日の話聞きながら、次の3点が重要であると思った。

一つは、人の話を良く聞くことである。子供であろうと

妻であろうと良く話を聞いてあげるこ
とである。

二つ目は、相手の人格、相手の立場
を認めることである。家内や子供は、
年下だからといって、従属物のよう
に見えないことである。

三つ目は、相手をほめる。心底ほめ
るには、相手を認めないと出来ない。
相手をほめることが大事である。

次期子ども奉仕委員会

次期委員長

米山道男

1. 地区での広報：地区チーム研修セミナー（3月2日）、札幌西RC（3月4日）、会長エレクト研修セミナー（3月15日）、札幌北RC（4月14日）、地区協議会（4月19日）で、設立の理由・目的・準備状況・計画概要を説明しました。
2. 委員の委嘱：地区全域に互って活動を展開することになるため、全ガバナー補佐に各グループから1名（第4および5グループは2名）の委員を推薦していただき、計14名の方に委員を委嘱しました。
3. 講義協力者のリスト作成：22名の方から協力者登録票を提出していただきました。
4. 学校側との連絡会開催：4月10日、札幌市立北辰中、北九条小、幌北小、白楊小、教頭全員を含む5名の先生方とお会いして、以下の方針を確認しました。(a) まず各校で授業参観日を設定し、講義協力者に子ども達の実態を見てもらう。(b) 5月16日に、学校側と講義協力者・次期子ども奉仕委員会委員との懇談会を開く。(c) その後、各校の年間計画に従い、各校の指名に応じて講義を実行する。
5. 委員会出席および開催：4月26日に地区社会奉仕委員会に出席します。6月20日に他の3委員会（地区社会奉仕委員会・地区家庭奉仕委員会・地区世界社会奉仕委員会）との合同委員会を開催します。

第2回

ワークショップの報告

友情交換委員会

委員長 金井重博

国別部会の設立をテーマとした第2回ワークショップが4月12日(土)に札幌パークホテルにて開催され、小林ガバナーをはじめ、国際交流に関心を持つ47名の方々のご参加をいただきました。会に先立って行われた参加者全員の自己紹介では、それぞれの方々との繋がりが思い入れなどが自らの体験を交えて紹介され、この国別部会に対する関心や期待が窺えました。開会の挨拶として青木国際奉仕委員長は、交流相手国に対する理解、その為の勉強の重要性を訴えられ、引き続き国別部会の提案者である米山地区幹事より部会の発想及び勉強・交流・支援という三つの柱についてご説明があった後、石垣・森本両PGから活動の考え方に対する意見が出されました。石垣PGからは、友情交換を継続させる為には対等・互恵的な関係を築くこと、その為には必ずしも対等とは言えない既存の交換事業を見直し新しい体制を考える必要があるとの指摘がなされ、さらに姉妹提携等を通じた地区対地区交流の実現、その交流の発展的な具体例としてエルダーホ

ステルについてのご提案がありました。森本PGも同様に継続の重要性を説かれ、個人に頼らないシステム作り、中心的な役割を担う人材の育成が必要とのご意見をいただきました。その後、部会設立における問題点として次のような事項が提起されました。

- ・相手国を熟知している人材がどれだけのいるのか、またそれぞれ職業を持っている中でどこまでやれるのか。国別部会を具体化する前に国際奉仕のあり方について考えるべき。
- ・家族連れで来る留学生には、コミュニティ内でのサポートも有効なのではないか。
- ・交流は確固とした理念をもって臨むべき。
- ・相手国をどう選ぶか。その国の発展度合いにより交流の仕方が異なってくる。
- ・部会参加者の間の意思疎通を図り、温度差を無くすべき。
- ・相手国の政治や文化を理解した上でしっかりとした考えを持ち、どの程度踏み込んだ交流をするのかということを決めておく必要がある。
- ・国別という名前にこだわらず、全体的なフレンドシップを表す名前はどうか。
- ・ロータリーとしてやるのに先進国・後進国というような区別は疑問。
- ・他の委員会とぶつからないようにポイントを絞るべき。

・国際親善奨学金委員会やその他の国際関連委員会では資金が果たして有効に利用されているのかという大きな問題を抱えている。それについて一度地区全体で討議して、国際交流のあり方、交流相手国を見直すべき。



今回のワークショップではこれらの提起された問題について討論する予定でしたが、時間の都合上中断せざるを得ず、十分な討議ができないという残念な結果となってしまいました。これについては最後に頂戴した講評の中で小林ガバナーも、今後討論を重ね深めることが必要と述べておられます。さらにガバナーからは、対等にこだわらず相手国の事情に配慮したフレキシブルな交流の可能性、ロータリーならではの、この地区ならではの独自性の模索というご提案をいただきました。そして最後に国別部会に対する期待を表明され、第2回ワークショップは終了いたしました。

第3回 ワークショップのご案内

ワークショップは、全員が、話題について意見を出して、より一層の理解を深めると共に有意義な意見を形成する集会であります。従いまして、はじめに参加者全員に自己紹介とテーマについての意見を2分以内の時間で発表していただきたいと思っております。その上で、いくつかのテーマに絞って更に議論を深めていきたいと思っております。自己紹介は、所属クラブと次期担当役員については、あらかじめプリントしておきますので、そのほかの職業、趣味などについてお願いします。参加者全員に家庭奉仕の大切であることを心底から理解していただけることを期待しています。

記

- 1、日時 5月9日 午後6時開始
(登録午後5時30分)
- 2、場所 函館国際ホテル
- 3、テーマ “日頃心がけている家庭奉仕”
“心がけたい家庭奉仕”
(家事、家族との共有体験、コミュニケーションなど何でも結構です)
- 4、演者 池上公介氏(池上学院学院長、札幌モーニングRC)
土橋芳美氏(親業訓練インストラクター)
土橋信男氏(前札幌市教育長、前北星大学学長、札幌機南RC)
- 5、参加費 2,000円

第4回 ワークショップのご案内

北海道にもようやく春が巡ってきました今日この頃、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、国際ロータリー第2510地区ワークショップを以下の要領で開催いたします。

都会生活に慣れた私達がともすると見失いがちな、エネルギー問題を取り上げました。さて、どんな顛末になりますことやら。奮ってご参加の上、有意義なご意見をお聞かせ下さい。

会終了後北海道大学内レストラン「エンレイソウ」で懇親会を開催します。参加費は3,000円で、30名で打ち切りますので、参加希望者は、以下にご連絡下さい。

TEL 011-706-2241/FAX 011-716-4864 井上勝一 宛

記

- 1)開催日時:平成15年5月25日(日)
午後3時30分~6時
 - 2)開催場所:北海道大学学術交流会館小講堂
札幌市北区北8条西5丁目 TEL 011-716-2111
 - 3)総合タイトル:明日のエネルギー問題を考える
 - 4)演者:井上勝一(札幌北RC):都市化と健康
橋本信夫(札幌西RC):開発と破壊のはざまから
川田恵秀(白老RC):石油業界からみたエネルギー問題
村山正(札幌RC):新しいエネルギーとその使い方
 - 5)司会進行:山名善久(GSE委員会委員長)
井上勝一(GSE委員会委員)
 - 6)入場料:無料(定員 100名)
- 主催:国際ロータリー第2510地区幹事会・国際ロータリー第2510地区GSE委員会・北海道大学大学院地球環境科学研究科・エネルギー問題を考える会

米山記念奨学生紹介

2003年度



氏名	エルデネバートル・イテル
国籍	モンゴル
大学・課程学年	室蘭工大・修士2
専攻	情報工学
世話クラブ名	室蘭東



氏名	劉淑如
国籍	台湾
大学・課程学年	北大・博士2
専攻	歴史地域文化学
世話クラブ名	札幌手稲



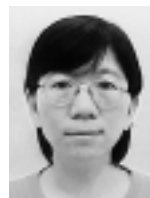
氏名	楊春
国籍	中国
大学・課程学年	北大・修士2
専攻	生物資源生産学
世話クラブ名	札幌モーニング



氏名	何新
国籍	中国
大学・課程学年	北大・博士3
専攻	医療薬学
世話クラブ名	札幌大通公園



氏名	朱琦
国籍	中国
大学・課程学年	北大・博士3
専攻	電子情報工学
世話クラブ名	札幌北



氏名	梁連文
国籍	台湾
大学・課程学年	北大・博士3
専攻	生物資源生産学
世話クラブ名	札幌西北



氏名	邱麗珍
国籍	台湾
大学・課程学年	北大・博士3
専攻	法学政治学
世話クラブ名	札幌真駒内



氏名	尹種秀
国籍	韓国
大学・課程学年	北大・博士3
専攻	環境資源工学
世話クラブ名	札幌セントラル



氏名	申東煥
国籍	韓国
大学・課程学年	北大・博士3
専攻	生命資源科学
世話クラブ名	函館五稜郭



氏名	金良俔
国籍	韓国
大学・課程学年	北大・博士2
専攻	国際広報メディア
世話クラブ名	札幌南



氏名	寛楠
国籍	中国
大学・課程学年	北大・医博4
専攻	高次診断治療学
世話クラブ名	札幌東



氏名	申雪寒
国籍	中国
大学・課程学年	北大・博士3
専攻	社会基盤工学
世話クラブ名	札幌はまなす



氏名	林永波
国籍	中国
大学・課程学年	北大・博士2
専攻	物質環境科学
世話クラブ名	札幌西



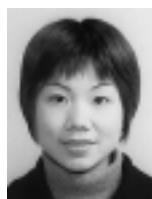
氏名	張曉華
国籍	中国
大学・課程学年	教育大・修士2
専攻	学校教育
世話クラブ名	新札幌



氏名	崔春蘭
国籍	中国
大学・課程学年	小樽商大・修士2
専攻	経営管理
世話クラブ名	小樽



氏名	譚丹丹
国籍	中国
大学・課程学年	札幌大・修士2
専攻	文化学
世話クラブ名	札幌清田



氏名	陳貞君
国籍	マレーシア
大学・課程学年	道工大・修士2
専攻	機械システム工学
世話クラブ名	札幌あけほの



氏名	洪奈延
国籍	韓国
大学・課程学年	浅井学園大・修士2
専攻	人間福祉学
世話クラブ名	江別西



氏名	李英愛
国籍	韓国
大学・課程学年	学園大・博士3
専攻	日本文化
世話クラブ名	札幌幌南



氏名	王海燕
国籍	中国
大学・課程学年	北大・博士3
専攻	人間システム科学
世話クラブ名	札幌



氏名	李紅梅
国籍	中国
大学・課程学年	北大・医博4
専攻	生体機能学
世話クラブ名	札幌北

2003年度の地区米山奨学生は、本年2月2日に選考試験を行い、大学推薦による44名の応募者の中から18名の新規採用者を決定いたしました。これに前年よりの継続者3名を加えた合計21名が今年度の地区米山奨学生です。米山奨学事業は、ロータリーの理想とする国際親善と交流を深めるために、優秀な留学生を支援し、国際平和の創造と維持に貢献することを目的として日本のロータリアンが作り育てた国際奉仕プログラムです。

地区ロータリアン各位の暖かいご理解とご支援をお願いいたします。

アンケート調査の結果と分析 (第3回)

クラブ奉仕委員会

2002年9月にクラブ奉仕委員会が地区内3,484名の全会員を対象に実施した、アンケートの集計結果は『月信』2月号で、またその結果の分析は『月信』3月号並びに4月号で設問1から設問14までを報告済みですが、今月号は設問15「ロータリー情報の入手方法」から設問22の「行動を求めるロータリーとどのようにかかわりたいか」までを、地区全体及びグループ別の集計結果の特徴等について、若干の分析を加えて掲載致しました。

調査の概要

- | | | | |
|--------------|----------------------|------------|---------------|
| 1. 調査時期 |2002年9月 | 5. 調査主体 |クラブ奉仕委員会 |
| 2. 調査対象者 |3,484名 | 6. 調査結果の集計 |ガバナー事務所 |
| 3. 調査方法 |悉皆調査・配票調査 | 7. 調査結果の分析 |クラブ奉仕委員会 |
| 4. 有効回収票・回収率 |1,758名 (50.46%) | | |

(回答率)

質問	回答項目	グループ												
		地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
回答率	会員数	3,484	189	266	384	466	466	360	209	183	281	247	246	187
	回答者数	1,758	113	133	218	200	209	168	130	98	127	111	139	112
	回答率	50	60	50	57	43	45	47	62	54	45	45	57	60

◎アンケート調査時点の地区会員数3,484名に対し、回収回答者は1,758名の50%の回答率であり、アンケートの目的について徹底されなかったのか、第2710地区の会員数(3,982名)回答者(2,882名)回答率(72.4%)に比べるとかなり低いと言わざるを得ない。

◎グループ別の回答率は第7(62%)第1・12グループ(60%)と上位で、逆に第4(43%)第5・9・10グループ(45%)と低く、札幌・函館地区の都市型クラブの回答率が低く、地方クラブの回答率が高いという結果となって現れている。

15. ロータリー情報の入手方法

(上段：人数、下段：%)

ロータリーに対する考え	15. 情報の入手方法	例会	グループ												
			地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		情報誌など	1,389	81	108	174	159	159	134	100	74	104	92	117	87
			79	72	81	80	80	76	80	77	76	82	83	84	78
		十分得られていない	312	19	24	35	29	30	33	26	16	22	21	12	45
			18	17	18	16	15	14	20	20	16	17	19	9	40
			62	1	1	7	13	12	5	5	2	1	3	9	3
			4	1	1	3	7	6	3	4	2	1	3	6	3

◎例会による情報の取得が圧倒的に多く、全体の79%を占めている。反面ロータリーの友等の情報誌からの情報取得は18%と低く、情報誌があまり読まれていない状況が把握される。

◎地区内の12グループ別で見ても例会場による情報取得が平均化して多いが、11グループが例会場での情報取得が84%と地区平均より多く、情報誌等からは9%と地区内平均より低いことが特徴的である。

◎情報が十分得られていないはアンケート回答者のなかで62名(4%)おり、グループ別では第4(7%)第5・第11(6%)と都市型クラブ会員の中で情報が十分会員に伝えられていないという結果となっている。

16. ロータリーで得られた考え、習慣の他団体への応用

(上段：人数、下段：%)

ロータリーに対する考え	16. ロータリーで得た考え、習慣の他団体への応用	積極的に応用	グループ												
			地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		応用経験あり	226	11	17	32	23	26	22	13	8	12	36	11	15
			13	10	13	15	12	12	13	10	8	9	32	8	13
		応用経験なし	950	51	71	123	106	117	100	76	51	79	43	72	61
54	45		53	56	53	56	60	58	52	62	39	52	54		
			513	34	39	56	63	65	43	39	33	33	23	54	31
			29	30	29	26	32	31	26	30	34	26	21	39	28

◎ロータリーで得られた考え、習慣の他団体への応用について、地区内全体では積極的が13%・応用経験有りが54%で合計すると67%となり、何らかの形でロータリーの考え方を職場や団体に応用している事が読み取れる。しかし、29%の会員が応用経験なしと答えており、「綱領」「4つのテスト」等のロータリーの基本的な考え方をもっと広く多くの会員が応用することで、職場や団体がより良くなる事が期待される。

◎グループ別の集計をみると積極的に応用と応用経験ありを合算すると第3・第9・第10グループが地区平均より高いことが読み取れる。

(上段:人数、下段:%)

17. 自分のクラブのまとまりは？

		グループ													
		地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ロータリーに対する考え	17. 自分のクラブのまとまりは？	大変良い	741	36	60	90	76	120	69	53	33	72	36	54	42
			42	32	45	41	38	57	41	41	34	57	32	39	38
		まあまあ	895	60	67	111	100	83	91	74	57	49	68	77	58
	51		53	50	51	50	40	54	57	58	39	61	55	52	
	あまり良くない	70	1	2	9	24	5	3	2	3	4	3	6	8	
		4	1	2	4	12	2	2	2	3	3	3	4	7	

◎地区全体では大変よいが(42%) まあまあ(51%) あまり良くない(4%) となっている。グループの集計では第5・第9の(57%) が際立って良く、あまり良くないでは第4(12%) 第12(7%) が高い集計結果を示しており所属グループのクラブは再考を要す課題としてとらえるべきと思われる。

18. 楽しいクラブ例会か？

(上段:人数、下段:%)

ロータリーに対する考え	18. 楽しいクラブ例会か？	非常に楽しい	339	16	21	47	38	53	28	35	17	43	11	17	13
			19	14	16	22	19	25	17	27	17	34	10	12	12
		まあまあ	1,286	73	102	159	142	145	130	89	75	77	95	110	89
			73	65	77	73	71	69	77	68	77	61	86	79	79
		早く帰りたい	80	8	8	6	12	10	6	5	2	5	3	9	6
			5	7	6	3	6	5	4	4	2	4	3	6	5

◎非常に楽しいが19% まあまあが73%の両方で92%を占めているが、17の設問のクラブのまとまりが大変よいの42%との比較で非常に楽しいが19%と低い点が気にかかる。まとまりが良くてもクラブ例会の楽しさとは別と考えなければならないのか？

◎グループ別では非常に楽しいが第9グループの34%が最も高い比率で、第7(27%) 第5(25%) 第3(22%) グループが平均より高くなっている。まあまあはどのグループも平均化しているが、早く帰りたいは地区内会員の5%もおりクラブ例会に工夫が必要と思われる。

19. クラブの奉仕活動

(上段:人数、下段:%)

ロータリーに対する考え	19. クラブの奉仕活動	非常に活発	861	55	73	108	80	90	76	72	63	72	56	69	47
			49	49	55	50	40	43	45	55	64	57	50	50	42
		あまりしていない	764	41	50	94	103	111	70	55	29	48	48	64	51
			43	36	38	43	52	53	42	42	30	38	43	46	46

◎地区内全体の集計で非常に活発(49%) あまりしていない(43%) は、ロータリーの奉仕活動の低下傾向を示しているように思われる。グループ別の集計で非常に活発なグループは第8(64%) 第9(57%) 第2(55%) であり、逆にあまりしていないグループは第5(53%) 第4(52%) となっており、札幌市内クラブの奉仕活動が停滞気味の数字となって現れている。また、全体的に各委員会のみ奉仕活動に終始して、全員参加型の奉仕が少ない結果と受け取ることもできる。

20. 自分のクラブの寄付はどの程度だと思うか？

(上段:人数、下段:%)

ロータリーに対する考え	20. 自分のクラブの寄付はどの程度だと思うか	平均以上	706	57	74	70	95	128	47	55	32	36	27	44	41
			40	50	56	32	48	61	28	42	33	28	24	32	37
		ほぼ平均かそれ以下	677	32	40	107	54	47	79	47	41	64	58	59	49
			39	28	30	49	27	22	47	36	42	50	52	42	44
		知らない	302	7	13	34	40	33	28	26	20	25	24	35	17
			17	6	10	16	20	16	17	20	20	20	22	25	15

◎地区全体では平均以上と考えているのは40%であり、グループ別集計の中で50%を越えて平均以上と回答しているのは、第5(61%) 第2(56%) 第1(50%) の3グループである。


◎クラブの寄付状況が地区内のどの位置にあるかを知らないと答えた会員は、全体で17%あるが財団・米山に関わりを持たないと理解できないのが本音のような気がする。

◎ロータリー財団・米山奨学会への更なる啓蒙活動が必要と思われる。

5月12日 看護の日……

ナイチンゲールの誕生日

看護の心をみんなの心に



やさしい社会の実現を……

社団法人 北海道看護協会

21. 新会員に対するロータリー情報の提供は？

(上段：人数、下段：%)

		グループ													
		地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ロータリーに対する考え	21. 新会員に対するロータリー情報の提供は？	熱心	284	21	34	35	25	35	28	31	17	15	12	14	17
			16	19	26	16	13	17	17	24	17	12	11	10	15
		ある程度	1,137	60	81	143	127	145	103	80	69	91	72	90	76
			65	53	61	66	64	69	61	62	70	72	65	65	68
		あまり	278	16	14	36	39	26	33	17	7	19	23	32	16
			16	14	11	17	20	12	20	13	7	15	21	23	14

◎熱心に情報提供があるは16%で、またあまりないは同じ16%となっており、ある程度あるは65%である。グループ別では熱心に第2(26%)と第7(24%)の2グループが20%を越えており、あまり情報提供の少ないのは第11(23%)第4・第6(20%)の3グループである。

◎新会員に対するロータリー情報の提供は退会防止にも関係し、またロータリアンの質的向上にも寄与することと思われるので、クラブも地区も一体となり取り組むべき課題と思われる。

22. 理念に立脚した行動を求めるロータリーにどのように関わりたいか？

(上段：人数、下段：%)

ロータリーに対する考え	22. 行動を求めるロータリーへどのように関わりたいか	積極的に	1,300	75	104	160	146	152	127	102	73	95	80	102	84
			74	66	78	73	73	73	76	78	74	75	72	73	75
		参加したくない	312	21	21	43	36	44	25	23	15	19	20	26	19
			18	19	16	20	18	21	15	18	15	15	18	19	17

◎積極的に関わりたいとの回答は、第2・第7グループの78%を筆頭にほとんどのグループが70%を越え、地区全体でも74%の高比率となっている。設問19のクラブの奉仕活動について問いに非常に活発49%・あまりしていない43%となっているが、関わりを持ちたいの高比率の回答から会員は何らかの形で行動をする意欲を持っていることが伺える。クラブのリーダーシップ次第によっては、ロータリー活動の活発化の下地が存在するのではないと思われる。



ⓕ 北海道消防機材株式会社

〒060-0005 札幌市中央区北5西20
 TEL (代)011-611-1551 FAX 611-1556
<http://www.shobokizai.com/>

札幌西北ロータリークラブ
 八木忠雄
 (北大昭28旧卒)

創業55年!!
 昭和23年(一九四八年)消防法と共に生れ法の改正強化の中、皆様方の御引立により今日に至りました。厚く御礼申し上げます。

クラブ活動 紹介

ホワイトダックスの誕生

若山 直 (函館RC)

現在、函館クラブは「京都洛中ロータリークラブ」と姉妹クラブとなっているが、この話が持ち上がって姉妹提携打診のため、洛中クラブを訪問した函館クラブ会員は痛くカルチャーショックを受けた。

洛中には合唱団があり、おもてなしの会でその美声を披露してくれたのである。帰路、車中で函館メンバーは大いに盛り上がり、さっそく田中修市会員（函館おおてまち病院院長）を団長として、合唱団を結成することとし、有志を募った。

歌の指導は、市民オペラで美声が実証されている鈴木比都美（すずきひとみ）先生、ピアノ伴奏は島本久美子先生に決定した。練習会場は函館クラブ例会場である五島軒本店とし、部屋が空いている場合、無料で借りることになった。私も審査にパスして団員兼会場掛兼連絡掛として加わった。1991年夏と記憶している。

当クラブは翌年、「第2510地区 地区大会」の開催ホストクラブに決定しており、その大会でデビューすることを目標とした。団員18名により本格的な練習が開始された。合唱団の名前は、ダークダックスよりは白髪の会員が多かったため、ホワイトダックスに決定された。

1992（平成4）年4月23日、函館市民会館大ホールで「地区大会」が開催され、午前中の式典の後の「休憩時間」に、「ホワイトダックス」は初めて公衆の面前でコーラスを披露した。正直、会員の大半はお弁当を食べるのに夢中で、熱心に聴いていただいた記憶はな

いが、初デビューとしては上々のできだったと自負している。



函館ロータリークラブのホワイトダックス

以来、2003（平成15）年の現在まで、函館クラブのクリスマス家族会では恒例の出し物となった。旭ガ岡老人ホーム慰問なども行って来た。

特記できることは、京都洛中クラブが主幹して呼びかけ、開催が決定した「全日本ロータリークラブ親睦合唱祭」に、姉妹クラブのよしみで1995年第1回大会から欠かさず参加していることである。3年前には函館大会も開催でき、楽しい思い出を作ることができた。

本年は5月に広島で第9回の合唱祭が開催されるため、団員一同、毎週月曜夜7時～9時の練習に余念がない。ちなみに、今回の曲は「大きな古時計」「かごに乗って」「世界に一つだけの花」3曲である。25ものクラブがエントリーするので持ち歌は3つに限定されている。毎年、どのクラブがどんな成長を見せてくれるかが楽しみだし、終了した後の懇親会での大合唱は全員参加の素晴らしいものである。

日本は130年前に鎖国から明治の文明開化をへて欧米文化を吸収してきた。ロータリー活動もその一つであり、我々ロータリアンはロータリー活動を通じて、良くも悪くもアメリカ文化の神髄に触れることができる。ホワイトダックスで合唱をしていると、なぜ「コーラス」という文化が、ついに日本古来の伝統からは誕生しなかったか、が体得できるように思う。合唱は、なにより他人の歌う声と、自分の声の一つにしなれば形にならない。自己主張とハーモニー。その微妙なバランスを保った時にのみ、合唱は成功する。これは日々のロータリー活動にも通じることではないかと私は思っている。

〈行きたくないけど、行ってみたい所〉 矯正施設への見学

幹事 久住八郎 (栗山RC)

春のふきのとうが南の斜面に顔を見せる、陽気の3月25日、栗山ロータリークラブのメンバー24名と保護司星野貞夫さんの計25名を乗せたバスが栗山から月形へ向かいました。栗山町で矯正施設の誘致運動が盛り上がり、メンバーから矯正施設について勉強したいとの雰囲気が強くなり、職業奉仕委員長今井敏明会員が先頭に立ち、まず月形刑務所を視察したらという意見に決まりました。しかし、視察の手順がわからないため、役場に相談したところ保護司を紹介され、保護司の星野貞夫さんの努力で視察が承諾され、矯正施設参加者名簿も出来て日程も決まり、視察となりました。午後1時20分、予定通りに月形刑務所前に到着し、門に設置されている電話で連絡すると中から刑務官が出てきて「ご苦労さんです」と迎え入れてくれました。さっそくパンフレットが手渡され、談話室に案内され、そこで簡単な説明があり、その場所にたばこ・携帯電話・カメラを置いて刑務官に案内され面接室へ。思ったよりも狭く、ストーブが設置してありましたが寒い感じがし



ました。それから奥へ、ひとつめのドアの鍵を刑務官が開けて進むとまたドア、刑務官が鍵を開けてまた奥へ。「ここからは社会と隔離された場所になります」との説明があり、更に奥へ進み受刑者の共同室、単独室、半開放室と案内され、5人の部屋に6人の収容では狭い感じを受けました。そのあと、食事のサンプルを見

て、この食事なら糖尿病も治るとの
声が聞こえました。お風呂も見学し
ましたが、15分の入浴との説明後、
作業所で作業の様子を見ることが出
来ました。刑務官の丁寧な説明、案
内に感心して談話室へ戻り、刑務官
からのパンフレットの説明、その後
会員からの質問も多く出され、熱心
な勉強ぶりを感じました。帰りには、
刑務官の方々が門まで見送ってくだ
さいました。あとで聞いた話ですが、
刑務所内の視察はなかなか出来ない
そうです。これも保護司の協力とロ
ータリーへの信用があるからだよと
聞かされ、ロータリーへの信用はす
ごいなあと感心しました。

「あれこれなんでも 無料相談室」大盛況

寄木清二（室蘭東RC）

室蘭東ロータリークラブ（前田康博
会長）の初の「あれこれなんでも相談
室」が2月15日、室蘭市輪西町のぶら
っと・てついちで開催されました。専
門家の助言を求めて、約160人の市民
が相談に訪れ会員、関係者を驚かせた。
相談は債務、相続不動産、家庭相談、
医療介護、年金など多岐にわたり「相
談を受けたい人がたくさんいる」こと
があらためて印象付けられました。



午後1時の開始前からロビーには50
人以上の市民が待機、急きょ30分繰り
上げてスタートしました。その後も
次々と相談者が訪れ、受付時に記入す
る申込用紙が足りなくなって担当者が
コピー機に向かっていて、また終了時
間も1時間延ばす状態でした。



同クラブのメンバーの弁護士、司
法書士、税理士、医師、看護師、建築
士、大学教授、高校長、建設、食品な
ど各分野のエキスパートが対応した
が、法律関係の相談が多かったため、
弁護士や司法書士の窓口は順番待ちの
市民が絶えなかった。相談内容は、離
婚問題と多重債務が全体の6割を占め、
年金、不動産の贈与・相続、健康、介
護などが続いた。医療は循環器科、眼
科、外科、内科、泌尿器科などを専門
とする医師、約10人が待機、スタッフ
は看護師さながら、内容に応じて専門
の医師に相談者を案内しました。

身長や体重、血圧、心拍数など測
定コーナーや肺活量、握力、背筋力の
体験コーナーは、健康をチェックする
市民が立ち寄っていました。

事前の広告が足りませんでした、
多種多様な問題や日常生活での安心や
安全、そして心構えなど、関心をもた
れている多くの市民の皆様が、相談に
来られたと感じました。

今後もクラブ会員が多種多様なそ
れぞれの職業を通じて、実際の行動と
共に身を持って汗をかき、社会に奉仕
する団体であり得るようさらなる努力
が必要と思いました。



今後も当ロータリークラブ運営に
対して、ご関係のみなさまのご協力を
賜ります様お願い申し上げます。

創立20周年記念事業

坂田知樹（岩見沢東RC）

今年度、岩見沢東RCは20周年を迎
え、5月17日には創立20周年記念式典
を挙行します。岩見沢東RCは記念事
業として5つの事業を行います。1. 岩
見沢特別養護施設「光が丘学園」へ寄
付 2. 岩見沢市青少年健全育成基金
へ寄付 3. 岩見沢東RC杯争奪少年サ
ッカー大会へ大会用テント寄贈 4.
国際ロータリー2510地区世界社会奉仕
委員会（WCS）事業との連携による
寄付等への記念事業へ150万円を用意
しました。地区世界社会奉仕委員会
（WCS）との連携による事業は、タイ
（バンコク）のパベナ基金への支援と
カナダ（7101地区）の車椅子寄付プロ
ジェクトの2つの事業を行います。4月
4日バンコクのPAVENA FOUNDATION
FOR CHILDREN AND WOMENの事務局
のある施設を訪れパベナ基金の寄贈式
を行いました。ガバナー月信12月号の
地区活動紹介の中に和田地区家庭奉仕
委員長が訪問した時の文面にありま
すようにパベナ基金は、父親から虐待さ
れている児童や、人身売買で苦しんで
いる少女、家庭内暴力で悲惨な状態
になっている妻などを救済する活動
です。



土倉裕之2510地区WCS委員長のお
力添えをいただきながら現地事務所と
アポイントをとり、パベナさんとお会
いすることが出来ました。パベナさん
は政府の公職にも就いておられ、大変

お忙しい中、我々の訪問を暖かく迎えていただきました。また、この話をお聞きになったDONMUANG ROTARY CLUBのVICE PRESIDENTのSUVIT KITTITATANONT（スピットさん）が駆けつけてくれ、寄贈式に花を添えていただきました。パベナさんから今までの活動の写真をを見せていただきました。我々が事務所に3時間ほどいる間にも4人ほどの相談者が来ておりました。現在、パベナ基金の施設は数箇所に分かれているため十分な対応が出来ないそうです。また政府から毎年援助をいただいておりますが、活動資金はまだまだ必要だそうです。最近、タイのみならず隣国からの相談も受けているようです。将来的には施設をひとつにまとめていきたいとおっしゃっていました。また、2510地区のWCS事業のひとつにパベナ基金への支援を取り上げていることを非常に感謝していらっしゃいました。今回、現地を訪れ、今年度のRIテーマ「SOW THE SEEDS OF LOVE」の意味をもう一度考える時間を持つことができた喜びに感謝したいと思います。帰りに施設の子供達から手作りのプレゼントをいただき、再会を誓って……。

留萌RCで 巡査部長が奉仕活動

澤田 茂（留萌RC）

当クラブは4月9日夜間例会で、ゲストを迎えてプログラム「そば打ち」体験が行われた。

ゲストは、隣町、増毛町舎熊駐在



所佐藤吉廣巡査部長で、佐藤氏は「そば打ち」が趣味で現在は、そば打ち3段位で休暇を利用して各施設で奉仕活動をしておられます。

当夜は会員65名に約100食のそばを打ち極意の技を披露していただき、さらに初心者向けの実技指導も受けた。

新入学児童に交通安全 ランドセルカバーを贈呈

新世代委員会（えりもRC）

当クラブでは、1975年から新入学児童を対象に交通事故から守る啓発活動の一環として「交通安全ランドセルカバー」を贈呈している。

今年度も町教育委員会を通して、町内各小学校の新入学児童33人にランドセルカバーを贈った。

カバーはビニール製でサイズは

25×40cm。デザインは下地全体が蛍光の黄色で、その中に濃紺の枠組みがあり、男女児童の上半身の姿と「こうつうあんぜん」と黄色で記入され、下段にえりもロータリークラブの文字が入っている。

町民からは、黄色のランドセルを背負った姿は遠くからでも新一年生と分かり、横断歩道などでは、特に注意して運転するので事故防止に非常に役立っていると好評を得ている。

また、保護者からも、このカバーを付けていることにより、安心して通学させることができると感謝されている。



ロシア部会設立準備会開催のお知らせ

友情交換委員会委員長 金井 重博
ロシア部会設立準備会世話人代表 長谷川久夫

当友情交換委員会は、地区活動の一つとして、国別に分かれて友情交換活動をする「国別部会」を提案し準備を進めてきました。国別部会に関して、去る3月7日には懇談会（ガバナー月信4月号19頁参照）、4月12日にはワークショップ（ガバナー月信5月号13頁参照）を開催しました。

この国別部会の第1号として、ロシア部会が提案され、下記の通り集まりを開催することになりましたので、ぜひ多くの会員の皆様に参加していただきたく御案内申し上げます。

参加申込みは、いずれも、長谷川久夫事務所あてにFAX（011-512-1151）でお願い致します。

—— 記 ——

1. 懇談会

日 時：2003年5月6日（火）午後6時～8時
場 所：札幌グランドホテル こまくさの間（別館4階）
来 賓：ロシア共和国駐札幌総領事ワシリー・サプリン氏
会 費：2,000円（食事代その他） 申込期限：2003年5月4日（日）

2. 勉強会

日 時：2003年5月20日（火）午後6時～8時
場 所：札幌パークホテル パールルーム（2階）
講 師：エカテリーナ・ゴドワロワさん（北大大学院文学研究科学生）
演 題：サハリンの現状
会 費：2,500円（食事代その他） 申込期限：2003年5月16日（金）

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます。

(2003年3月末現在)

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー		ポール・ハリス・フェロー	
渡辺哲則会員 (札幌手稲RC) (1) 6月25日	横岡孝一会員 (函館東RC) (1) 2月14日	高橋慶一会員 (深川RC) 12月12日	岡島 章会員 (小樽南RC) 12月27日
城木浩一会員 (札幌北RC) (2) 12月13日	柳引克弘会員 (羽幌RC) (1) 2月21日	小島安彦会員 (三石RC) 12月20日	高橋政美会員 (小樽南RC) 12月27日
三上直彦会員 (札幌西北RC) (2) 12月20日	茶谷恵一会員 (羽幌RC) (1) 2月21日	河内栄子会員 (滝川RC) 12月26日	坪井純司会員 (小樽南RC) 12月27日
八木忠雄会員 (札幌西北RC) (1) 12月20日	榊原昭夫会員 (羽幌RC) (1) 2月21日	川原弘嗣会員 (滝川RC) 12月26日	上野正之会員 (小樽南RC) 12月27日
佐藤秀雄会員 (千歳RC) (1) 12月27日	吉川達也会員 (函館東RC) (1) 2月28日	浅沼廣幸会員 (千歳RC) 12月27日	山吹啓之会員 (小樽南RC) 12月27日
福田武男会員 (千歳RC) (1) 12月27日	小泉護太郎会員 (函館東RC) (3) 2月28日	藤崎正敏会員 (千歳RC) 12月27日	國枝良吉会員 (札幌南RC) 12月27日
本田正一会員 (栗沢RC) (2) 12月27日	井野 智会員 (札幌中心RC) (2) 2月28日	藤本敏廣会員 (千歳RC) 12月27日	高島敏子会員 (札幌南RC) 12月27日
福島正紘会員 (小樽南RC) (1) 12月27日	南原康二会員 (札幌東RC) (1) 3月 7日	稲董丸真会員 (栗沢RC) 12月27日	梅田鉄夫会員 (新札幌RC) 1月31日
斎田義孝会員 (小樽南RC) (1) 12月27日	藤永貞治会員 (赤平RC) (1) 3月14日	川幡 直会員 (栗沢RC) 12月27日	宮川昭一会員 (森RC) 2月21日
森本 一会員 (留萌RC) (1) 12月27日	渡部芳巳会員 (赤平RC) (1) 3月14日	金山英昭会員 (栗沢RC) 12月27日	門脇雅夫会員 (函館東RC) 2月28日
森本正夫会員 (札幌西北RC) (5) 12月27日	小林弘明会員 (岩見沢RC) (2) 3月20日	河合 明会員 (栗沢RC) 12月27日	早坂文雄会員 (赤平RC) 3月14日
浜波 寿会員 (札幌南RC) (1) 12月27日	佐藤 伸会員 (札幌南RC) (1) 3月20日	高野正光会員 (栗沢RC) 12月27日	宇戸啓隆会員 (赤平RC) 3月14日
石上源應会員 (小樽南RC) (1) 1月27日	福山恵太郎会員 (札幌南RC) (3) 3月20日	宮森 裕会員 (栗沢RC) 12月27日	芝垣美男会員 (室蘭東RC) 3月20日
小安土達郎会員 (函館東RC) (2) 2月 5日	島津宏興会員 (札幌南RC) (1) 3月20日	新井隆次郎会員 (小樽南RC) 12月27日	庄司 弘会員 (由仁RC) 3月20日
森元 浩会員 (函館東RC) (1) 2月14日		加藤正幸会員 (小樽南RC) 12月27日	

掲示板

例会変更

留萌RC	5月 7日(水) 休会*
芦別RC	5月 2日(金) 休会*
滝川RC	5月15日(木)→5月11日(日)に振替 「観桜会(家族同伴)」12:30~滝の川公園
美唄RC	5月 8日(木) 夜間例会18:30~ 5月29日(木) 創立記念休会
江別西RC	5月 6日(火)→5月 8日(木)に振替 江別RCとの「合同例会」12:00~, 江別市民会館 37号室
岩見沢RC	5月23日(金)→5月17日(土) 「岩見沢東RC創立20周年式典」に振替 15:00~, 平安閣 5月30日(金)「題名のない夜間例会」18:00~
岩見沢東RC	5月20日(火)→5月17日(土)に振替 「創立20周年記念式典」15:00~岩見沢平安閣
当別RC	5月20日(火)「観桜会」18:00~
岩内RC	5月 1日(木) 休会*
小樽RC	5月13日(火)「職場訪問例会」12:30~, 小樽ヒルトンホテル
小樽南RC	5月 2日(金) 休会* 5月16日(金) 休会*
余市RC	5月 7日(水)「お花見例会」18:30~, ホテル水明閣 5月14日(水) 例会場変更 5月21日(水) 余市経済センター (TEL 0135-23-2116) 5月28日(水)
白老RC	5月 7日(水)
苫小牧RC	5月16日(金) 5月12日(月)に振替
苫小牧東RC	5月15日(木) 「第12グループ4クラブ合同例会」
苫小牧北RC	5月13日(火) 18:00~, 苫小牧グランドホテルニュー王子
白老RC	5月14日(水)「夫婦同伴例会 お花見」18:00~, 白老八幡神社
苫小牧東RC	5月 1日(木) 休会*

注) * 定款第5条第1節に基づく休会

訃報

池内泰文 会員
(札幌西北RC)
平成15年1月8日
ご逝去 (享年60歳)



《ロータリー歴》
1989年7月6日 入会
1993~94年 職業奉仕委員長
1994~95年 会員増強委員長
1998~99年 社会奉仕委員長

訃報

佐々木昭一 会員
(札幌西北RC)
平成15年2月10日
ご逝去 (享年60歳)



《ロータリー歴》
1995年2月2日 入会
1997~98年 出席委員長
2000~01年 社会奉仕委員長

事務所だより

- 各クラブに届いているブリスベン国際大会の信任状及び代議員カードについて; クラブからの代議員がいない場合は、ガバナーが代理者となりますので会長・幹事の署名のうえガバナー事務所までお送り下さい。
- 毎月の会員数および出席率の報告は、最終例会終了後15日以内です。期日の厳守をお願い致します。
- 月信への原稿をお寄せ下さい。特にクラブ活動、会員の声へのご投稿をお待ち致します。投稿の際には、スナップ写真は添えてください。
- 5月のロータリーレートは、122円です。

国際ロータリー第2510地区

2002-2003年度 ガバナー月信

発行人 2002-2003年度ガバナー 小林 博
発行元 国際ロータリー第2510地区
2002-2003年度ガバナー事務所
発行日 毎月1日発行 年12回
編集委員 ◎竹原 巖 (地区幹事) 大田すみ子 (地区幹事)
熊谷 満 (地区幹事) 脇田 稔 (地区幹事)
アドバイザー 米山 道男 (地区幹事) 松本 新 (アイワード)
事務局 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会館6F
TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526 E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp
印刷: (株)アイワード TEL241-9341

3月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			02.7.1	03.3.31	増減	内女性	
1	深川	4	46	43	-3	2	89.77
	羽幌	4	47	48	1	1	67.70
	妹背牛	4	12	11	-1	0	75.00
	小平	3	15	16	1	1	70.59
	留萌	3	69	65	-4	0	91.26
小計			189	183	-6	4	78.86
2	赤平	4	37	37	0	1	85.13
	芦別	3	60	57	-3	0	95.66
	砂川	4	61	58	-3	0	93.80
	滝川	4	108	114	6	2	72.00
	小計			266	266	0	3
3	美幌	4	48	47	-1	0	82.38
	江別	3	50	48	-2	2	89.99
	江別	4	41	41	0	3	89.73
	岩見沢	3	97	102	5	0	88.22
	岩見沢	4	33	34	1	3	87.48
4	札幌	3	35	33	-2	2	89.84
	札幌	4	34	33	-1	2	97.92
	札幌	4	46	46	0	0	89.36
	札幌	4	384	384	0	12	89.37
	札幌	4	120	121	1	0	98.57
5	札幌	3	19	18	-1	1	100.00
	札幌	4	29	29	0	4	74.14
	札幌	5	58	57	-1	6	87.86
	札幌	3	61	61	0	0	76.19
	札幌	4	75	76	1	2	91.93
6	札幌	4	52	53	1	2	88.31
	札幌	4	52	49	-3	0	97.45
	札幌	4	466	464	-2	15	89.31
	札幌	4	123	122	-1	0	98.21
	札幌	3	26	27	1	5	95.05
7	札幌	3	88	84	-4	0	100.00
	札幌	4	50	48	-2	3	95.46
	札幌	5	97	95	-2	0	97.38
	札幌	4	42	41	-1	1	96.75
	札幌	4	17	18	1	4	77.94
8	札幌	4	0	21	21	6	89.00
	札幌	4	443	456	13	19	93.72
	札幌	3	37	37	0	0	74.20
	札幌	4	54	53	-1	4	81.00
	札幌	4	96	91	-5	0	91.78
9	札幌	3	86	88	2	0	84.15
	札幌	4	20	20	0	2	86.25
	札幌	4	18	18	0	0	71.87
	札幌	4	49	48	-1	4	87.97
	札幌	4	360	355	-5	10	82.46

クラブ数 72クラブ
 期首会員数 3,458人
 当期末会員数(女性) 3,439(97)人
 増加会員数 -19人
 当月平均出席率 82.95%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			02.7.1	03.3.31	増減	内女性	
7	千歳	3	74	76	2	2	90.30
	千歳	4	33	35	2	0	84.30
	千歳	4	50	48	-2	0	25.49
	北広島	4	16	15	-1	2	92.86
	長沼	4	18	18	0	4	72.20
8	小樽	3	18	18	0	1	90.74
	小樽	4	209	210	1	9	75.98
	えりも	4	27	27	0	0	79.63
	石狩	5	20	19	-1	1	93.68
	静内	4	24	23	-1	2	93.18
9	浦河	4	68	67	-1	0	89.89
	浦河	4	41	40	-1	1	87.65
	浦河	4	180	176	-4	4	88.81
	伊達	4	53	56	3	0	80.35
	室蘭	4	66	62	-4	0	71.23
10	室蘭	4	56	53	-3	1	95.83
	室蘭	4	52	51	-1	2	77.95
	登別	4	40	40	0	2	85.00
	洞爺	3	14	13	-1	0	85.00
	小樽	4	281	275	-6	5	82.56
11	函館	4	101	100	-1	0	76.71
	函館	5	51	52	1	1	75.69
	森	4	51	49	-2	0	71.00
	七飯	4	33	32	-1	0	81.00
	長万部	4	11	12	1	0	72.34
12	小樽	4	247	245	-2	1	75.35
	江差	4	20	20	0	0	62.50
	函館	3	71	69	-2	0	81.29
	函館	4	67	65	-2	5	74.58
	函館	4	46	47	1	0	75.42
13	上磯	3	34	34	0	3	64.70
	松前	4	8	9	1	1	67.00
	小樽	4	246	244	-2	9	70.92
	白老	4	34	35	1	1	80.00
	苫小牧	3	68	62	-6	0	82.41
14	苫小牧	4	33	34	1	3	78.22
	苫小牧	3	52	50	-2	2	84.99
	苫小牧	3	187	181	-6	6	81.41
	小樽	4	187	181	-6	6	81.41
	合計			3,458	3,439	-19	97

5・6月地区カレンダー

5月		6月	
日	曜日	日	曜日
1	木	1	日
2	金	2	月
3	土	3	火
4	日	4	水
5	月	5	木
6	火	6	金
8	木	7	土
9	金	8	日
10	土	9	月
11	日	10	火
12	月	11	水
13	火	12	木
14	水	13	金
15	木	14	土
16	金	15	日
17	土	16	月
18	日	17	火
19	月	18	水
20	火	19	木
21	水	20	金
22	木	21	土
24	土	22	日
25	日	23	月
26	月	24	火
27	火	25	水
28	水	26	木
29	木	27	金
30	金	28	土
31	土	29	日
		30	月



ロータリー会員地域紹介

留萌市



留萌市の花……ツツジ

昭和52年10月1日、留萌市の花として告示制定されたもので「ツツジ類のうち留萌地方に適應するものすべてを含む」とあります。



黄金岬の夕日

北海道の西海岸に位置する留萌市は、海に沈む落陽の太陽画、数分の落日のアートが楽しめます。

金波、銀波の縋れ織り。日本海に面した黄金岬で、潮風に吹かれながら眺める夕日は絶品中の絶品です。

RUMOI

ご意見・投稿募集

『ガバナー月信』では、より会員の皆様の声を反映させた誌面づくりを行ないたいと考えております。『月信』に関するご意見・投稿などございましたら下記事務局へ。

事務局 札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館6F

TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526

E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp



国際ロータリー第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

2002-2003 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER No.12

ガバナー月信

6月号
June

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR **小林 博 KOBAYASHI HIROSHI**
〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp



ガバナーレター



小林 博

ロータリーに入って何が一番良かったか？

「ロータリーに入って何が一番良かったか」と自問自答することがある。各人各様の受け止め方があるだろうが、私の場合はロータリーに入ったことで、たくさんのロータリアンの友人を持たせたことではないかと思っている。今まで自分の仕事の専門分野での付き合いは多くあったが、それ以外の人達、特に性別、年齢、職業が違うだけでなく、かなり異なる価値観を持つ人達との付き合いの中から、相性良く仲間になれたのもロータリーという組織があり、そこにいったお陰と感謝している。

ただ、100人以上の大きなクラブならいざ知らず、小さなクラブの人達はそういう機会が限られてしまう。交際し得るロータリアンの数に限りがあるからである。そこでどうだろうか？ 自分のクラブに限定しないで、同じグループ内を広く見渡し、メイキャップするなどして他のクラブの人達との交流の機会を得るように努力されてはいかがだろうか。

さらにチャンスを求めて他のグループとの交流を深めることが出来ればまことに申し分ない。幸い私の場合はガバナーのご指名をいただいたお陰で、限られた範囲ではあっても地区内のすべてのグループ、すべてのクラブのかなり広い範囲の方々と知己を得たことは何にも代え難い大きな財産になったと思う。この財産は何としても大切にしていかなければと自分自身にきつく言い聞かせている。

ロータリーで違った価値観の人達が、奉仕という1つの目標に向かって突き進めることは何としても素晴らしいことである。趣味の友達とか気の合った遊び友達との交友とは違う。多様な価値観の人達が大きな目標に向かって一緒になって歩み続ける緊張感がある。そこには人生の使命感とか自らの生き甲斐にも通ずる崇高なものがあり、これをロータリーの心の拠り所として求める人も少なくないのである。

6月はロータリー年度の最終月間で、「親睦活動月間」である。この月間はもともと趣味・職業別親睦活動月間となっていた。今は単に親睦活動と言われている。国内のロータリーだけでなく、外国の地区の人達との親睦活動を意図した月間でもある。また、国際的に「友情交換委員会」を設立するようにとのRIの推奨もいただいている。こうやって広く海外の多くの人達とも友情を深め、交流を深め、奉仕に向かって共通の価値観を持てる多くの友人を世界中につくっていける。これは何と楽しいことか。こういう活動が続く限りロータリーはいつまでも明るく発展すると信ずる。

目次

ガバナーレター	小林 博	2	新旧ガバナー補佐引継ぎ会議及びガバナー補佐座談会のご案内	17
ビチャイ・ラタクル会長来道歓迎会		3	新旧地区委員長引継ぎ会議のご案内	17
「国際レベルのロータリー・プログラム」について			ダヤシリさん歓迎会のご案内	17
	野口 信夫	4	第12回GSE派遣メンバー決定	18
ガバナー日記		5	クラブ活動紹介	19
ロータリーQ&A		9	栗山RC・七飯RC・札幌幌南RC・えりもRC・岩見沢RC	
2004年国際大会（関西）の登録料が決まりました		9	ロータリー財団への寄付状況一覧（全国地区別）	21
文庫通信		9	会員の声	21
地区活動紹介		10	ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます	22
青少年交換委員会・職業奉仕委員会・川田憲秀・家庭奉仕委員会・友情交換委員会・米山道男・米山学友会			掲示板	22
アンケート調査の結果と分析（最終回）		14	訃報	22
第4回ワークショップの報告		16	事務所だより	22
第5回ワークショップのご案内		16	4月会員増減数・出席率報告	23
			6月地区カレンダー	23

ビチャイ・ラタクル会長 来道歓迎会

4月25日、15年ぶりに来道された歓迎会には、2510地区、2500地区の700名近い会員が参加しました。ビチャイ・ラタクル会長によるスピーチの要旨を紹介します。

慈愛の種という言葉の意味をよく質問されます。

自分自身の過去の経験で、1958年に入会はしたがその当時は例会出席と会費を払うだけのメンバーであったのであり本当の意味でロータリアンではありませんでした。「キッカケ」はある時、クラブの奉仕プログラムに、週末に母子家庭の子供との海水浴ボランティアに参加した時から始まりでした。週末ぎりぎり、私は休日は自分で過ごしたいという気持ちがありましたので、当初参加を断っていたのですが、予定していた他のメンバーの参加がキャンセルになり、結局私がしぶしぶ参加する事になったのです。

3人の子供を車に乗せてパタヤビーチで海水浴に行くのですが、隣に座った子供は汚くて私はあまり近づきた

くなかったのですが、子供から近づいてきたのです。

海岸ではその汚い子供は誰も遊ぼうとしないで1人で孤独に過ごしていました。

その時、私が理解したのは、その子供は私と遊びたいのだという事を。そして、彼とは一日間一緒に遊び、プログラムが終了して帰宅した時に、薄暗い中でその子供と別れる時お互いに涙を流し、「もし貴方が本当のお父さんだったら良かった」という言葉を子供から聞いたから涙が溢れたのです。それが、私のロータリアンとしてのターニングポイントでありました。それは「慈愛の種を播いた」スタートと思っています。(ロータリーマジック)

奉仕活動の中に「慈愛」がなければならないと考えました。

とにかく、新しい会長年度が近づいている中で、来年度も「慈愛の種」を播き続けていただくことを願っています。



慈愛を説くラタクルRI会長



両地区からの贈り物(最新の最高デジタルカメラ)



小林ガバナーとラタクルRI会長



ラタクル会長挨拶



伊藤義郎元RI理事挨拶

「国際レベルのロータリー・プログラム」について



パスト・ガバナー 野口 信夫

一昨年の『ロータリーの友』9月号に、同年4月に開かれた規定審議会の議長を務められたクリフ・ダクターマン元RI会長の談話が載っていました。その談話の中に次のような部分がありました。

「ポリオ・プラスの後のプログラムについて、RIに検討を求める決議案を審議会が否決したことに驚かされた」と言うものです。

これを読んで、私は一つの大きな疑問を感じたのです。それは、ダクターマン元RI会長が、ポリオ・プラスの後に続く巨大プログラムの第2弾が、当然議題に上がるものと考えておられたと言う事実に対してです。

今やっているポリオ・プラスのプログラムは、ロータリー創立100周年を記念する世紀の事業として、世界中のロータリアンが率直に受け入れ、ポリオ撲滅の成功を祈ってこれに協力してきたものであります。

けれども、こうしたことが今後も続く定例的なプログラムとなると、それはまた別問題ではないか、と言うのが私の疑問です。

その昔、1913年にエリリアRCのエドガー・アレンと言う人が、身体障害児の総合対策事業を強力に推し進めるためにロータリー・クラブに入り、その仕事に没頭した結果全米の多くのロータリー・クラブがこれに協力するようになり、ロータリーがこれで良いのかとする理論派と、気の毒な子供達の為に全力を尽くすと言う実践派との間に大論争が巻き起こったのです。ロータリーを二分するような混乱を前にして、RI理事会は1923年のセントルイス大会で「23-34決議」を採択し、漸くこの論争に終止符を打ちました。

手続要覧第6章「社会奉仕」の始めに、社会奉仕活動に対する方針と言う表題があり、これは“社会奉仕に関する1923年の声明”と、これと同じく“1992年の声明”の二つから成り立っています。

先ず“1923年の声明”ですが、そこには国際ロータリー（以下省略してRIとします）とロータリー・クラブ（以下RCとします）のあり方を示しています。その5)を参照して下さい。「RCはクラブとして関心があり、またその地域社会に適した社会奉仕活動を自主的に選ぶことについて絶対的な権利を持っている。しかし、如何なるクラブも、ロータリーの綱領を無視したり、RC結成の本来の目的を危うくするような社会奉仕活動を行ってはならない」として、RCの持つ権利と責任を明示しています。

そしてRIは、「一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、しかし、どんなクラブのどんな社会奉仕活動にせよ、それを命じたり禁じたりすることは絶対にしてはならないものとする」と言うのです。

また、“1992年の声明”はその後の変化に対応して、この年の規定審議会で採択されたものですが、RIのRCに対する働き掛けについて、示唆が勧奨に変わった程度ですが、ただ一つ気になるのは、「国際レベルのロータリー・プログラムの活動を通じて社会奉仕プロジェクトを強化する機会を確認すること」と言う一項目です。

この「国際レベルのロータリー・プログラム」とは、なにを指すのでしょうか？

ポリオプラス街頭募金活動のお知らせ

札幌大通公園RC会長 木津敏彦
札幌大通公園RCポリオプラス組織委員会

札幌大通公園ロータリークラブでは、ポリオ撲滅募金活動を進めるにあたり、小林ガバナーをお招きしてポリオについて学習会の実施や、ポリオ組織委員会を設置して検討してきたところです。

このたび、実践することに意義があると考え、以下のように街頭募金活動を行うことになりました。

標語：1. 300円で15人の子供を救えます。悪魔のポリオから。
2. なくそうポリオ、始めよう助け合い。

日時：平成15年6月15日(日) 午後1時～4時

場所：三越百貨店前もしくは大通公園4丁目(北海道神宮祭のため流動的に設定)

当日は、当クラブの会員が募金活動を行っておりますが、ロータリアンの皆様のご参加も歓迎いたします。

ガバナー日記

ロシア勉強会始まる

ロータリーの5010地区（2510地区ではなく5010！）はウラル山脈東側とサハリン、カムチャッカ、アラスカの一部を含む世界でもっとも広大な地区の1つである。サハリンには既に3つのロータリークラブが誕生し、故富山惟夫PG、石垣博美PG、米山道男地区幹事などがかつてこれらのクラブを訪問したことがあり、すでに友好関係が結ばれている。また、近く数名の地区ロータリアンがサハリンを再度訪問する計画もある。こういったことは国際奉仕に関わるロータリアンの草の根の活動の1つであり、RIラタクル会長の言われるボトムアップの象徴でもあり、まことに結構なことと思う。

国際奉仕委員会のもとに友情交換委員会があるが、この委員会の中の新たに始まった国別部会では、いろいろな国々に関わる豊富な人材がわが地区にたくさんおられることでもあり、あらゆる角度の国際奉仕を是非活発な活動を進めていただきたいものである。

ロシア部会は他の国々に比べ特に準備が先行してきた。これは札幌セントラルRCの長谷川久夫会員というロシア通のベテランがおられるお陰と思うのだが、5月6日（火）には札幌グランドホテルでサプリン在札ロシア総領事ら（挨拶のあと退席）を招いて懇談会が開かれた。

ロシアだけでなく、オーストラリア、スリランカ、タイなどにも具体的な勉強、交流、支援が行われている。

その他の全ての国々についても友好をめざして積極的な勉強会が欲しいと思う。いずれの国ともロータリアンの節度ある範囲内で関係者のコンセンサスを得ながら着実に一步一步前進していきたいものである。



挨拶のサプリン総領事、挨拶のあとすぐ退席された（長谷川久夫会員撮影）

やはり家庭を考えよう！

「自分の家庭については特に何も考えたことがない」と言うロータリアンが意外と多い。誰だって無意識のうちに家庭を案じているのだろうが、それを表だって気にすることは余りないようだ。

家庭奉仕委員会がわが地区に出来てから1年に近い。和田壬三委員長熱意ですでに数回の勉強会がもたれ、また、第4・5グループ合同のIMには初めて家庭のことが話し合わせ成功であったと思う。現在は十分幸せだから、と言えばそれまでだが、家庭のことは話し合えば合うほど、段々面白くなって将来への展望も見えて来るように思う。

そんな折り、5月9日（金）pm6：00から「家庭」についての第3回ワークショップが函館の国際ホテルで開かれた。集まった人は第10・11グループの遠藤哲二（函館RC）、松見修二（函館北RC）の両ガバナー補佐をはじめ、クラブ会長・幹事・社会奉仕委員など35名。テーマは「日頃心がけている家庭奉仕」、「心がけたい家庭奉仕」（家族との共有体験、コミュニケーションなど）である。

和田委員長の発案で参加者全員が自己紹介とともにテーマに沿い各自の家庭への奉仕の現状と理想を語り、後半は全員の討論となった。池上公介会員（札幌モーニングRC）、土橋信男会員（札幌幌南RC）、土橋芳美さん（土橋会員ご夫人）のアドバイスによって議論も盛り上がった。残念ながら時間制限で夜9時に終了。



ワークショップ終わってからの懇親会で、左から横内隆文会長（江差RC）、遠藤哲二AG（函館RC）、土橋芳美さん、鍋谷操子会員（函館東RC）、松本純枝会員（深川RC）、大場公孝会員（上磯RC）

今回のワークショップでふだん家庭を考えたことのない人も家庭の大切さについて何か気付かれたのではなかったと思う。今回の企画に出て良かった、あるいはロータリーに入って良かったとの参加者の声も少なからず耳にした。私自身、家庭奉仕についての話を聞くことで、いつもさわやかな興奮を覚えるのである。

最後に私は、みなさまは各クラブに戻られてから今回と同じような各自の家庭を語り合う機会を作っていたいただきたいとお願いした。そんな試みによって、これまで何となくタブー化されていたお互いの家庭観が見えてきて、それでまた会員間の親近感が一段と深まるのではないかと思うのである。

美唄は30年おめでとう！

人間の30歳といえは一番働きざかりの青年である。若いといえは若いのだが、30歳ではすでに老化が始まっているのも事実である。

美唄RC（大竹繁夫会長）の30年の式典とお祝いの会が5月10日（土）pm2：30から美唄市のホテルスエヒロで開かれた。周年行事の目的は、ただ飲んで食べて終わるのではなく、クラブ創設の頃の先人のご苦勞を偲び感謝の気持ちを思い起こすこと、もう1つはこれからの5年、10年、20年先のクラブをどのように発展させていくかの決意を新たにすることではないか。

式典の後、全員バスでアルテピアッツァという新設の彫刻広場に赴き、途中満開のさくらを鑑賞した。4時30分から祝賀会、井坂紘一郎美唄市長も参加。いつもながら人と人との不思議な縁を教えてくれるのもロータリーの隠れた魅力の一つと思う。

辻野修ガバナー補佐のほか次年度の佐藤秀雄ガバナー・エレクト、木村照男代表幹事エレクトも集まり、和気あいあいの家庭的な会であった。それと、美唄RCの後藤三雄会員とのご縁で北見紋別から約30人に近いロータリアンの友情参加があったのには感激した。



美唄RC30年 手に手をつないで。左端は井坂紘一郎 美唄市長。

IMをやるべきか否か

かつて12グループの川田憲秀AG（白老RC）は、IMをやらないと宣言していた。その理由は設営の苦勞もさることながら、多額の費用に見合っただけの成果がないのではないかと危惧からだった。



熱弁の川田憲秀AG（白老RC）

ところが、IMがなくともそれに代わる何かがあってもいいのではないかと、グループ内でその後いろいろの意見交換があったようだ。その結果、グループ内の4クラブ合同例会が5月12日（月）pm6：00からホテルニュー王子で開かれた。簡単な挨拶だけで余興など一切ないスマートなものであったが、和気あいあい楽しい会だった。ちなみに次年度IMはすべて原則中止とのこと。それでは淋しいとの声もあり、ただ中止ではなくIMに代わる何か新しい企画を創り出していけばよいのではないか。



あれ!! 見たことある垂れ幕。地区大会のときのものをそっくり借用。さすが賢い!!

職業奉仕のひとつ？

自分の職業を通して社会の皆さんにお役に立つようなことをするのが職業奉仕の1つである。かねて札幌東RCの奥貫一之会員から当クラブの職業奉仕・社会奉仕委員会主催で社会福祉法人北海道リハビリのデイケアに来られる近隣の方々に私の専門のがんの話をして欲しいとの依頼があった。5月15日（木）午後、清田区の一角にあるこの施設に着いたところ、清田RCの阿部哲夫会長、江口洗幹事はじめ数人もお見えになり、札幌東クラブの会員、地域住民ともども総勢60人ほどの方々が私の話を熱心に聴いて下さった。タイトルは『私ができるがんの予防』ということで、難しい話は一切なしにして、どのような



生活をすればどのくらいのがんの予防効果が期待できるかということをお話した。話が終わってから質問が相次ぎ、皆さんの笑顔に支えられながら、時には笑い声をたてながら楽しく質疑応答をさせていただいた。がんは難しい病気だから話題にしたくないという思いが強いが、今ではがんはもっとも身近な病気になったし、これといかに上手に長く付き合っていくかの知恵が試される時代になってきたと思う。

終わって御礼にということで、福祉施設に通う方々が作られた大小色々な柄の布袋を何点か頂戴した。また、子ども達が作ったカラフルな布袋もいくつもプレゼントされた。子ども達が慣れない手つきで苦勞して作ったんだなあと思いながら、見事な出来映えに驚くお土産であった。こんなお土産はほんとに心から嬉しく思う。

小粒ながら立派！

岩見沢東RCの20周年記念式典並びに祝賀会が5月17日(土)に岩見沢平安閣で行われた。岩見沢東RCは現在34名で世界の平均会員数よりは若干少ない。しかしその活動内容を見ると、坂田知樹会長が国際的事業を展開したり、金子賢一実行委員長が日本ロータリー親睦ゴルフ全国大会の実行委員長を務められたり、また車椅子財団(7170地区)に車椅子50台を寄贈したり、タイ・バンコクのパヴェナ基金に30万円を寄贈したりしている。さらに今回、市内の光が丘学園(社会福祉法人)、岩見沢サッカー協会、岩見沢青少年育成基金にもそれぞれ多額の寄付をされている。そのめざましい活動は何度か月信で紹介されたとおりである。

金子賢一実行委員長が「小粒なクラブではありますが」と言われたその言葉の中には、小人数ではあっても大人数のクラブに負けないだけのことはやっているという自信のほどを紹介されたと思う。また、坂田知樹会長は「ロータリーの原点を見つめ直そう」と力説しておられた。数多くあるロータリークラブの中で岩見沢東RCは、今後とも「小粒ながら」ロータリーの原点を見つめながら着実に発展していくと信ずる。頼もしい限りである。これぞ本当に20年おめでとうである。



手に手をつないで、左から坂田知樹会長(岩見沢東RC)、武蔵信一会員(岩見沢RC)、金子賢一実行委員長(岩見沢東RC)、佐藤秀雄GE(千歳RC)、辻野修AG(当別RC)

最後の最後のIM

今年度は第12グループを除き都市連合会(IM)は実施してきたが、次年度はIM形式の集会はない。第1・2グループ合同のIM(5月24日(土)、赤平文化会館)は名実ともに最後のIMとなった。世話役は第2グループガバナー補佐の藤原税会員(赤平RC)、ホストは赤平RC(赤川清介会長)だが、第1グループ(吉本勲ガバナー補佐)のみなさんとともに積極参加。懇親会には20数名の美女コンパニオンも加わり、地区最後のIMを盛り上げてくれた(次頁写真)。

今回のIMのテーマはポリオ。国際医療協力で我が国を代表する専門家の千葉靖男先生(札幌医大卒)の『世界ポリオ根絶計画の進捗状況と課題』の記念講演。とくにインド、パキスタンなどのワクチン投与の現場の写真は圧巻だった。ポリオを患った四肢麻痺の気の毒な子ども達の姿は決して他人事ではない。千葉博士は未だに流行する地区のポリオは、医療対策の遅れというよりはむしろ貧困が原因だという。貧困であれば手洗いする場もなく、もちろん下水道もなく糞便と共存するような生活環境からポリオウィルスの経口感染は絶えることはない。山間僻地のほかに部族紛争とか内戦とか治安の悪化が加われば、ポリオ撲滅は益々難しくなる。言うなればポリオは政治経済の落とし穴の中にある。

歩行が不可能な子供達
(千葉博士提供)



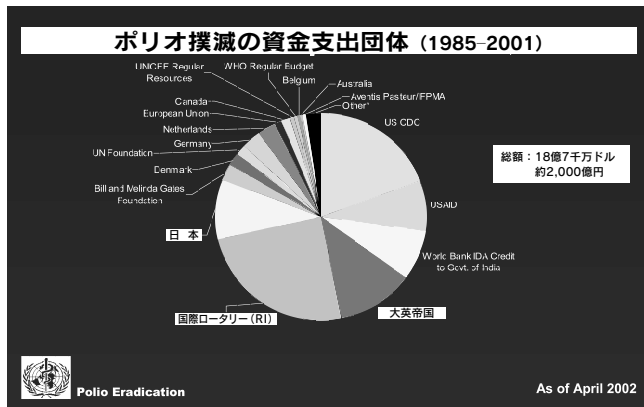
一度でいいから起きあがってご飯を食べてみたい

地区のポリオキャンペーン担当の城木浩一地区広報委員長（札幌北RC）は記念講演に先立って、ポリオ撲滅宣言がなされた後なぜ改めてポリオが再登場してきたかの経緯説明と、ポリオ撲滅に必要な目標額の根拠をわかり易く解説いただき有り難かった。

50年前の日本はまだ発展途上国だった。当時の北海道は各地にポリオが流行した。外国から呼吸麻痺に陥った

子ども達を救うための「鉄の肺」などたくさんの暖かい手を差し伸べてもらった。今度はわれわれがポリオ流行地の子ども達を助けてあげる順番なのではないか。

私はポリオで四肢麻痺に陥った1人の子どもの叫び声が忘れられない。「1度だけでいいから起き上がってごはんを食べたい!」というのであった。



ポリオ撲滅に提供された基金の1/3が国際ロータリーと日本政府からのものであった。（千葉博士提供）



ポリオワクチンの注射に赴いたところ。下水道はなく汚物と共存するような生活環境。銃を背にする人もいる。（千葉博士提供）



地区最後のIMのあとの懇親会。左から講師千葉靖男先生、吉本勲AG、赤川清介会長、1人おいて田中良一実行委員長（ともに赤平RC）、1人おいて神部洋史会長（滝川IRC）、村中俊二会長（深川IRC）、北正信会長（芦別RC）、1人おいて藤原税AG（赤平RC）

明日のエネルギーをどうするか？

面白いワークショップだった。第4回ワークショップ「明日のエネルギーを考える」は、山名善久（札幌南RC）、井上勝一（札幌北RC）の2人の司会で5月25日（日）、北大学術交流会館で行われた。日曜の午後で、しかも北大構内ということで集まったロータリアンは少なかったが、一般市民の参加もあり白熱した議論は大変参考になった。

ふだんエネルギーのことなど無関心できたが、これはいけない。これからの日本、あるいは北海道のエネルギー戦略はいかにあるべきかの関心を盛り上げていく必要があるのではないか？

4人の演者のうち井上勝一会員はエネルギーの健康と

の関わりのこと、橋本信夫会員（札幌西RC）はエネルギーの文化史的背景、川田憲秀会員（白老RC）はエネルギーの実学的背景、村山正会員（札幌RC）のエネルギーの種別効率対比の話はどれも初めて耳にする興味深いものだった。原子力、風力、水力、火力、太陽熱、地熱など利害のからむ複雑な問題だが、成り行きまかせのいまの状況は何とも情けない。国家戦略の愆しいと思うのが、これは専門外なるが故の単純な夢なのだろうか？

それと1人ひとりのロータリアンがエネルギー消費の節減にもっと努力する必要があるのだろう。いずれにしてもいつか時間と場所を変えてもう1度是非やっていたきたい大切なテーマと内容だったと思った。

回答

・情報委員会委員長 亀井敏清
・ガバナー事務所

Q：人頭分担金・財団などロータリーではドル建ての支払いが多くありますが、為替レートはどこで決められ？ 市中相場との関係や改定基準のルールはどうなっておりますか？

A：（国際ロータリー日本事務局への問い合わせ回答）
為替レートは国際ロータリーで決定し各国に通知して来ます。改定基準は以前の手続要覧では5%の変動があった場合改定するとありましたが、現在は削除されておりますが、最近のレート変更の状況を見ますと、従来通り5%の変動でレート改定を実施しているようです。市中相場に合わせてレートを変更しますと、通知等の事務手続きが繁雑となりますので5%を目安としているようです。

（この1年間の為替レートの変動状況）

日付	市中レート	ロータリーレート
2002年 4月1日	133.15	130.00
5月1日	128.60	130.00
6月3日	124.45	130.00
7月1日	119.80	126.00
8月1日	119.95	120.00
9月2日	118.70	120.00
10月1日	122.15	120.00
11月1日	122.70	120.00
12月2日	122.85	120.00
2003年 1月6日	119.85	122.00
2月3日	119.95	122.00
3月3日	118.20	122.00
4月1日	118.25	122.00
5月1日	119.00	122.00
6月1日		116.00

（みずほ銀行日次データ参照）

2004年 国際大会（関西）の登録料が決まりました

●大会日程 2004年5月23日（日）～26日（水）

登録料	2003年12月15日まで	2004年3月15日まで	当日登録
・ロータリアンカップル	US\$400	US\$450	US\$500
・ロータリアン ・ゲスト ・19歳以上	US\$300	US\$325	US\$350
・ローターアクト ・財団学友 ・奨学生	US\$60	US\$80	US\$100
・18歳以下のゲスト ・YE ・インターアクト	US\$20	US\$30	US\$40

●2004年国際大会実行委員会事務局

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-5-25 久太郎町恒和ビル4F TEL(06)6258-0561 FAX(06)6258-0562 e-mail:sec@ri2004.com

文庫通信

188号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

先輩ロータリアンの主張から(2)

- ◎「ポール・ハリス ロータリーへの道」 チェスリー R. バリー
ロータリーの友：1968・2月 4p
- ◎「会長独白」 佐竹郁夫 1978 8p
- ◎「短いロータリーの話」 大阪R.C. 1972 14p
- ◎「ロータリーにおける小さな教訓」 チャールス G. テネント
若松徳衛訳 [1979] 4p
- ◎「ポール・ハリスの口授」 中西 進 1985 2p
- ◎「新人のためのロータリー情報」 佐々木統一郎 7p
- ◎「道と術」 佐々木統一郎 3p
- ◎「多種多様の中の調和と個人の確立」 佐々木統一郎 1971 11p
- ◎「ロータリー発祥の背景」 佐々木統一郎 1975 19p
- ◎「献身的ロータリアン群像」 松本兼二郎
ロータリーの友：1979・1月 8p
- ◎「“発見”の歴史を回顧する ロータリー創立80周年にあたって」
ジョー・ニュージェント ロータリーの友：1985・2月 5p

[申込先：ロータリー文庫（コピー）]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日

地区活動 紹介

青少年交換研究会 青森会議



青少年交換委員会

委員長 清水慧子

4月26・27日ピチャイ・ラタクルRI会長をお迎えして第10回青少年交換研究会青森会議が開催されました。2日間にわたる全体会議、分科会は大変内容が濃く、しかもポイントをついた会議であったと思います。

1日目のパネルディスカッション、「青少年交換プログラム過去—現在—未来」、分科会「学生一人をホストするのにどうしてこんなにお金がかかる?」、「こんな学生なら何回でもホストしてみたい!こんな学生は二度とホストしたくない」、「交換学生、ホストファミリー、ホスト地区の間のトラブルは何故起きる?一回避しうるトラブル&トラブルの解決法」、分科会では私もサプリーダの一人として参加し各地区の問題提起に焦点を当て、皆で解決の糸口を探りました。

ピチャイ・ラタクルRI会長は記念講演でロータリー青少年交換プログラムの重要性を強調され国際理解、国際交流に青少年交換プログラムの果たす役割が如何に大きいかを情熱を込めてお話されました。「国際親善に一役を果たす青少年に慈愛の種を播きましょう」と心から私達を激励して下さいました。ラタクル会長の優しいお言葉に感銘し、満開の桜が懇親会により一層華やかさを添え、会場は深い感動に包まれたのでした。

2日目のパネルディスカッション「各国の青少年交換プログラムに学ぶ」では、当地区の交換相手地区でもあるアメリカオレゴン5100地区、台湾台北3480地区(前青少年交換委員長で現ガバナーのジミーさん)、そして韓国、日本の代表がそれぞれ派遣受入事業について述べ議論も白熱し、終始活発な意見交換がされました。今回の研究会では第1回ROTEX全国会議が開かれ帰国留学生ROTEXが全国どこへ

移動しても活躍できるようにと全国組織づくりをスタートさせ、早くも大阪世界大会に向けて動き出しました。当地区の参加者は開催地も青森と近いためROTEX2人を含む9人で、会議を通して得た貴重な知識と各地区間の連携を今後の青少年交換事業に生かしたいと思います。



山内哲郎委員(上磯RC)、ピチャイ・ラタクルRI会長、渡邊哲則委員(札幌手稲RC)、堺正英クラブカウンセラー(上磯RC)



馬場信吾委員(北広島RC)、清水慧子委員長(長沼RC)、ピチャイ・ラタクルRI会長、青森2830地区受入の交換学生(アメリカから)

第2回 ロータリー市民講座開催

職業奉仕委員会

委員長 富岡公治

次の通りの要領にて地区職業奉仕委員会主催の第2回ロータリー市民講座が開催されました。

記

- I. 日時 平成15年4月2日 午後1時30分から午後3時迄
- II. 場所 札幌市中央区民センター(札幌市中央区南2条西10丁目)
- III. 講師 税理士 金坂和正(札幌真駒内ロータリークラブ会員)
- IV. 演題 節税のポイントはどこ? 税について誤解があります!
- V. 講演の内容
 - 1 所得税
 - ・生計を一つにする親族に支払う対価についての誤解。その他の所得税の節税のポイント

- 2 法人税
 - ・交際費等についての誤解
- 3 相続(贈与)税
 - ・公正証書による遺言がベストか?
- 4 消費税
 - ・簡易課税と免税についての誤解
 - ・仕入れ税額控除の要件~所得税、法人税と大きな違い
- 5 平成15年相続法改正について
 - ・相続時精算課税制度
 - ・少額減価償却資産30万円未満へ
 - ・孫養子について
- 6 当日は約40名の市民が参加し、判りやすく税制度、税金についての講話をする金坂講師についての話を熱心に聴いておりました。

私達主催者側とすれば、中小企業者とかアパート経営者等の税金についての関心を持っている人達が多く参加すると考えていましたが、約60%以上の参加者は一般の主婦であり、講演終了後、第3回ロータリー市民講座は何時開催されるのかという問合せが多数寄せられ、ロータリアンの専門職種の市民講座が市民に期待されていると思われました。



IMを合同例会に変えてみました



12グループガバナー補佐

川田憲秀

長いロータリークラブの歴史の中で、常識になっていましたIMをやめて、代わりに合同例会を開催いたしました。5月12日・午後6時より、苫小牧市のグランドホテルニュー王子において開催いたしました。出席会員は122名で、小林ガバナーそして佐藤ガバナーエレクトの出席もいただきました。主管は白老クラブでお願いいたしました。点鐘・ロータリーソング・会長挨拶・幹事報告・ガバナー補佐による出席クラブの紹介・ゲスト・スピーチ小林ガバナーそして佐藤ガバナーエ

レクト……と続きました。例会を終了して、山本ガバナー補佐エレクトの乾杯で懇親会となり、最後は伊藤パーストガバナーの中締めで終了いたしました。「手牵手をつないで」を歌い実には和気藹々の例会でした。会費は、通常の例会費用のプラス3,000円となり一人5,000円となりました。IMと異なる点は、講演などのプログラムがありません。また、記念誌の作成・配布がありません。これらの、費用は100万から200万円の費用がかかります。講師は価格を抑えることで無名の方になります。有名な講師になると高額な講演料となり、記念誌も、多額のコストがかかりますが、ぱらぱらと読んでいただくと本棚に入るだけだと思います。その割には、編集に膨大な時間と多くの会員の方の手をおかけします。さて、合同例会ですが、小林ガバナーからは、「家庭奉仕について」あらゆる奉仕活動の原点は家庭奉仕であると思うと……ガバナーはこの1年間は毎日毎日・ロータリーの諸行事があり、奥様に皮肉を言われたとおっしゃっていました。しかし、この1年の間に奥様と沖縄旅行をされたとお聞きしています。癌の基礎研究に没頭され家庭を顧みることもなく、今やと反省されたかと〔失礼します〕……想像しております。実感のこもった説得力のあるお話でした。佐藤ガバナーエレクトは3年前に地区より国際ロータリーに寄付をした財団寄付のシェアーの中に、各クラブで奉仕活動を支援するシステムについての説明があり、次年度のクラブ役員が目と耳が研ぎ澄まされていました。懇親会は、グランドホテルニュー王子の栗田社長さん〔苦小牧クラブ会員〕のお気づかいにより、ディナーとなり1時間の予定時間では、ガバナー・ガバナーエレクトが各テーブルを廻って懇談をしていただく予定がふいになりました。少々反省をしております。経済環境が劣悪の中、政府が銀行に対して高いハードルを強要し、それに伴い大手の企業の数値目標が高く求められ、関連する中小企業に厳しい条件が突きつけられております。血も涙もない、環境で会員も会員事業所も苦しんでおります。競争原理の嵐が吹き荒れている中、ロータリーの友情がひと時の清涼剤となれば幸いと思った合同例会でした。

第3回 ワークショップの報告

家庭奉仕委員会

委員長 和田壬三

“日頃心がけている家庭奉仕”“心がけたい家庭奉仕”というテーマで、函館市内の函館国際ホテルに於いて、5月9日に開催されました。参加者は、小林ガバナー、松見補佐、遠藤補佐、鹿野次期補佐、を含め総勢で35名でした。

事前準備

事前に全参加者に対し、「ワークショップとは、予め、各人がテーマについて考えていることを発表しあい、それに対して、議論して更に各人の認識を深めることであること」、「今回のワークショップの目的は、家庭奉仕の大切さをロータリー自身に認識してもらうことであること」、会の進行方法として、最初に自己紹介と共に各人の日頃心がけている家庭奉仕、心がけたい家庭奉仕（家事、家族の共有体験、コミュニケーションなどなんでも良い）について1分以内で述べて頂きたいと文書でお願いしておきました。又札幌から、アドバイザーとして、土橋信男（札幌幌南RC）芳美ご夫妻、池上公介（札幌モーニングRC）松本純枝（深川RC）の各氏にご参加頂きました。

ワークショップ

最初に専門家である土橋芳美、同信男先生、池上公介先生にお話いただき、次いで参加者全員が、それぞれの家庭の状況や家庭奉仕の現状について語り合っていました。その中で最も話題が多かった、家族の共有体験とコミュニケーションの取り方に絞って議論を進め、土橋芳美先生が、コミュニケーションの方法について、改善すべき点について、個々の発言者に対し具体的に指摘頂き、質問に答える形で、池上公介、土橋信男先生が、指導するといったところで時間が来てしまい最後にガバナーから、誉めることの大切さ、そのためにはよく聞くこと、相手の人格を認めることが必要であると纏めて頂きました。参加者からの発言の要旨は以下の通りでした。

・家族で登山をしている。釣りをしている。毎週一回全部の子供の家族を集めて食事会をしている。毎日最後に帰る

家族に合わせて食事を取るように心がけている。子供が、野球をしたいといっているので家族全員で釣りが出来なくなるのではないかと心配している。

- ・子供とは、友達とし同様に付き合ってきた。
- ・第4、第5グループのIMのビデオを繰り返し5回夫婦で見た。ロータリーはこんな素晴らしいことをしているのかと妻も感心していた。（松見補佐がダビングして約3時間のビデオを各クラブに1本ずつ事前に回していただいていたようです。）
- ・亭主関白であるが、時々妻に感謝の言葉を掛けている。料理がおいしかったとか、助かるといった程度である。
- ・共に家業を営んでいるが、毎朝妻より早く起きてお茶を入れているが、第3者から妻がこのことを友達に話していることが伝わり、感謝していることが分かった。主人がお茶を何時も入れてくれることに感謝している。
- ・妻に給料をそっくり渡しているが、サラリーマンであるため、毎月同じ日に同じ金額であるためか、感謝の言葉がないのは寂しい。
- ・子供が独立して、夫婦だけとなり、会話もなくなったが、ダックスフンド2匹を買ったところこの犬を中心にして再び会話が始まった。



左端鹿野文男AGエレクト（函館亀田RC）

- ・茶髪の外見がそれらしい若者二人が、食堂で、カウンターに腰掛けて、隣の子に対し、タバコを吸っても良いか了解を得ている姿を見て、外見だけで判断をしてはいけないと反省した。
- ・我が子が中学で番長であったが、あるとき家族で外出し、道路を横断している時その子だけが遅れたので振り返ったところ、歩行困難な、よそのおばあちゃんの手を引いていた。この子は大丈夫と思いついておいたが、今では立派に後継者として手伝っている。

- ・家事はする時間がないのだが、ベッドメーカーだけは必ずしているのと家庭では努めて笑顔を決やさないようにしている。
- ・子供のアルバイトの件で、妻と祖母が対立したので、間をとって素直に自分の気持ちを伝えたところうまく解決した。
- ・子供に対して怒ることとしかることは違う。叱るようにしている。
- ・旅館業であるが、親と食事をしたことが一度もないし不満に思ったことも無く、家業を継いでいる。食事はコミュニケーションの手段であって、他で補われていれば一緒にしなくとも大丈夫。
- ・親と同居することは当たり前と思ってずっと同居している。

土橋芳美先生からのコメント

給料を全額渡していることに対して妻からの感謝の言葉が無いことに不満のことですが、私メッセージで素直に自分の気持ちを伝えることが大事。「貴方から感謝の言葉が聞けるとうれしいのだけれど」といった言葉を言ってみる。

池上先生からのコメント

両親が子供に関心を持って指導することが大切であるが、母親が、父親のことを尊敬していることを子供に伝えるだけでも子供は立派に育つのに今は、逆転している。

食事のことも大切であり、コンビニなどの食事に頼っている子供は、問題行動に走りやすい。

土橋信夫先生からのコメント

親は子供に対して友達のように振舞うことには問題がある。親は親として子供を育てる責任がある。その場合、父親と母親は、それぞれ父親、母親としての役割を果たすべきだと思う。その基本は、日本人、社会人としての躰である。

感想

総じてロータリアンは、家庭経営も上手になさり、問題がないとの印象を受けました。むしろロータリアンが、日頃接する地域、職場などにおいて、家庭奉仕の重要さ、大切さを語りかけ、子育てに、家族経営に生かすように働きかけるべきことを訴えるべきことが、当委員会にと

っては必要かなとの感想を持ちました。

反省点

当初から参加者が、多いので議論の時間がなくなるのではと懸念して、発言を1分に制限していましたが、参加者の自己紹介も後半になると寛いできたのか、それとも前の発言に対して刺激を受けた結果か、家族全員の紹介などから始まって、1人10分にも及ぶ方もいて結局議論する時間は正味30分程度しか取れませんでした。そのために、参加者同士が更に突っ込んだ議論をするところまでには至りませんでした。

3時間という時間も午後6時に開始した会議であれば、これ以上延ばすのは困難であり、議論が深まる前に終了せざるをえなかったことが残念でしたが、土橋芳美先生、土橋信男先生、池上公介先生のコメントで、各人の問題意識が、深まるのが出来れば幸いです。

今後は、人数を15人程度に絞るか、時間を増やす、或は、グループに分けて、別々に議論する必要があるのではないかなとの感想を持ちました。



右端和田壬三家庭奉仕委員長

ロシア部会に関する懇談会開かれる

友情交換委員会

委員長 金井重博

去る5月6日（火）午後6時から8時まで札幌グランドホテルで標記懇談会が開かれました。来賓として、在札幌ロシア総領事館からワシリー・サプリン総領事他2名が出席され、当地区からは小林ガバナー

との交流を目的に部会が
つくられるのは初めて。
今月末に部会としてロシア
語勉強会などを聞き、
正式に活動を始める。夏
にはサハリンへ視察旅行
なども予定している。



懇談会風景。

北海道新聞2003年5月7日朝刊

ーを始め25名が参加しました。

小林ガバナーのお話：地区内のロータリアンが色々な国の人々と仲良くしようという企画が米山地区幹事から出され、友情交換委員会の金井委員長を中心に検討していただいています。今回その第1号として、ロシアに関する集まりが開かれたことを大変嬉しく思います。この会が、他の国との交流会のモデルとなるよう期待しています。

サプリン在札幌ロシア総領事のお話：このような会合が開かれたことを喜んでます。最近のロシアは民主化が進み経済も安定し、諸外国と交流できる条件が整いつつあります。ウラル以西や中央ロシアとも交流してほしいです。大歓迎して協力させていただきます。

石垣バスターガバナーのお話：ロシアは訪れる度に良い方向に変わっており、サハリンは大変な日本語ブームです。交流の機が熟してきたこの時期に、永年の想いが叶ってこのような集まりができ、今日は嬉しい日です。近い国ですので一層の交流を望みます。

遠藤バスターガバナーのお話：会の発足に当たっては、会則・活動計画・収支予算が必要と思います。当地区では5年前から、ロシアから3カ月間2名の国際親善奨学生を受け入れています。まだ対等の交流ではありませんが、問題点を検討してゆきましょう。

金井の挨拶：本委員会は今年度新設されたばかりですが、地区からの示唆に基づき、国際版小さな親切運動を検討してきました。その第1歩である本日の会合では、ロシアとの交流の在り方について御懇談をお願い致します。今日のために準備をいただいた長谷川久夫さん（札幌セントラルRC）に感謝致します。

この後、長谷川氏が進行を担当して懇談しました。

ロシア部会設立
国際ロータリー
西北海道七十二のロ
タリークラブが加盟す
る国際ロータリー第2
10地区（事務局・札幌
は組織内にロシア部会
を設けることになり、設
立へ向けた懇談会が六日
夜、札幌市の札幌グランド
ホテルで開かれた。
同組織内に特定の外国
懇談会には在札幌ロシア
総領事館のワシリー・
サプリン総領事も写真左
にも出席。「領事館とし
て大歓迎し、できるだけ
協力したい」とあいさつ
し、今後の交流に期待を
寄せた。

次期子ども奉仕委員会

次期委員長

米山道男

1. 小中学校での授業参観：5月15日（木）に北九条小に6名、16日（金）には白楊小に4名、北辰中に1名がお伺いして授業を見せていただき、校長先生を始め先生方ともお話しすることができました。澆刺とした子ども達に接し、参加者全員が若返りました。学校は、電話などで予約さえすれば、いつでも参観してよいそうです。皆さんに参観をお奨めします。必要なら当委員会に御相談下さい。今回の授業参観参加者（敬称略）は以下の通りです。岩崎輝明、植田英隆、高橋麗秋、中川喬雄、平野和典、三澤龍子、村山正、米山道男。



北九条小学校2年生の教室での授業参観風景

2. 学校・ロータリークラブ懇談会：5月16日（金）午後6時から8時まで北九条小の会議室をお借りして開催しました。北辰中・北九条小・幌北小・白楊小4校の校長先生2名、教頭先生4名を含む先生方9名とロータリアン9名が参加しました。先生方からは子ども達のことや授業を実施する際の諸注意を伺い、ロータリアンはそれぞれ、このプログラムに参加した動機、自分の職業、提案した授業の目的と概要を話しました。このプログラムに対する先生方とロータリアン双方の熱意と意欲に満ちた会合となりました。子どもが対象であるだけに、慎重の上にも慎重を期してプログラムを進めてゆきたいと考えます。ロータリー側の参加者（敬称略）は以下の通りです。植田英隆、大田すみ子、菅原耕治、高橋麗秋、千葉峻三、中川喬雄、中村真規、三澤龍子、米山道男。

3. 委員会開催予定：地区社会奉仕委員会・地区家庭奉仕委員会・地区世界社会奉仕委員会との合同委員会を6月14日（土）に開催します（前号に記しま

した「6月20日」を変更しました。委員予定者の初顔合わせです。



会議風景



手前から、植田氏、三澤氏、北辰中の（挨拶する）小西校長・渡辺教頭、北九条小の高橋校長・佐々木教頭



向かって左から、（発言する）大田氏、高橋氏

米山学友会・野外懇親会・盛大に開催

米山学友会

委員長 見延庄三郎

去る5月10日（土）午後12時半より、桜の美しい小樽市朝里川温泉郷の旅館「宏楽園」の大庭園（2万坪）で、米山学友会員とロータリアンによる家族ぐるみの大パーティーが開催された。当日は天候にも恵まれ米山学友会関係者29人、ロータリー関係者14人計43名の参加であった。斉田委員の開会宣言の後、見延米山学友委員長から経過報告、陳学友会々長、伊藤



（財）米山記念奨学会理事、ガバナー代理で米山地区幹事等各氏から御挨拶を頂いた。要約すると「米山奨学期間終了後も米山学友とロータリアンとの親密な親睦交流を深め、一層人間的社会的成長と共に国際間の平和と親善につなげていこう」との主旨の御挨拶であった。

次いで参加者全員による記念撮影の後、地元RCを代表して、小樽南RCの相馬会長から「慈愛に満ちた？」歓迎の挨拶と乾杯の音頭で宴会に入った。

当日のメニューは飲み放題食べ放題のジンギスカン料理であったが、小樽地ビールの特別提供もあり、しばしの間「お代りコール」の合唱が続き、会話にも大輪の花が咲いた。



やがて食欲も落ち着いたところで、クイズのお楽しみ番組と相成った。進行はその道の権威者？でもある高橋紀幸学友副委員長が発題者となり、文字や数字の組合せを中心とした、知性とユーモア溢れるとても楽しいクイズの連続であり、別のパーティーのお客さん迄手を挙げる位みんな大いに楽しみ又賞品に沸いた。

加えて岩内RCの野澤委員夫妻によるお笑いクイズが続き、珍味他野澤食品のお土産が惜し気もなく配られ、予定の2時間がアット云う間にたってしまった。

最後に戸井米山奨学委員長の音頭により、参加者一同の御多幸と米山学友会の益々の発展を祈念し閉会となった。閉会后宏楽園の米山社長の配慮により、露天風呂の入浴サービスもつき、多くの参加者が家族共々裸のつきあいを楽しんだ。

今回のパーティーは天候にも恵まれ、家族共々心から楽しんでもらえた素晴らしいものであった。こうしたことの積み重ねで更に参加者も増え、一層交流が深まり、米山奨学制度の究極の目的が達成されるものと期待される。

協力して下さった皆さん本当に有難うございました。 2003年5月

アンケート調査の結果と分析 (最終回)

クラブ奉仕委員会

2002年9月にクラブ奉仕委員会が地区内3,484名の全会員を対象に実施したアンケートの集計結果は『月信』2月号で、またその結果の分析は『月信』3月号・4月号・5月号で設問1から設問22までを報告済みですが、今月号は設問23「ロータリーの将来展望は？」から設問27・28・29の「自身の日頃の生き方について」までを、地区全体及びグループ別の集計結果の特徴等について、若干の分析を加えて掲載致しました。

調査の概要

- | | | | |
|--------------|----------------------|------------|---------------|
| 1. 調査時期 |2002年9月 | 5. 調査主体 |クラブ奉仕委員会 |
| 2. 調査対象者 |3,484名 | 6. 調査結果の集計 |ガバナー事務所 |
| 3. 調査方法 |悉皆調査・配票調査 | 7. 調査結果の分析 |クラブ奉仕委員会 |
| 4. 有効回収票・回収率 |1,758名 (50.46%) | | |

(回答率)

質問	回答項目	グループ												
		地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
回答率	会員数	3,484	189	266	384	466	466	360	209	183	281	247	246	187
	回答者数	1,758	113	133	218	200	209	168	130	98	127	111	139	112
	回答率	50	60	50	57	43	45	47	62	54	45	45	57	60

◎アンケート調査時点の地区会員数3,484名に対し、回収回答者は1,758名の50%の回答率であり、アンケートの目的について徹底されなかったのか、第2710地区の会員数(3,982名)回答者(2,882名)回答率(72.4%)に比べるとかなり低いと言わざるを得ない。

◎グループ別の回答率は第7(62%)第1・12グループ(60%)と上位で、逆に第4(43%)第5・9・10グループ(45%)と低く、札幌・函館地区の都市型クラブの回答率が低く、地方クラブの回答率が高いという結果となって現れている。

23.

(上段:人数、下段:%)

ロ タ リ ー に 対 し て 考 え る	23. ロータリーの将来展望は?	原点回帰すべし なお発展	797	33	68	101	90	92	79	63	44	55	50	71	51
			45	29	51	46	45	44	47	48	45	43	45	51	46
		このままでは衰退	865	64	57	101	103	108	83	62	38	66	58	65	60
			49	57	43	46	52	52	49	48	39	52	52	47	54

この項に対する回答は上記の如くほぼ拮抗している。グループ別に見ても際だった特徴は見られず、第1グループの、原点回帰29%、衰退57%が目を引きくらいである。そもそもこの設問には解答肢に問題があったと思われる。

原点回帰とは何を指すのかが明確でなかったからである。ロータリー結成に至るP.ハリスの思考を指すのか、又は1905. 2. 23日の初会合時の内容を指すのか、或いは、時代が少し降るが、ロータリーの奉仕の概念が明確化された1923年を指すのか? 更には、衰退とは単に会員数の減少を指すのか、会員の奉仕活動への参加意欲の多少を指すのか。これらの点がはっきりと示されていなかった為に二者択一の解答には抵抗があったと思料される。

24.

(上段:人数、下段:%)

ロ タ リ ー に 対 し て 考 え る	24. これからの会員増強について	常時新会員を補充すべき	1,412	75	105	184	161	163	136	111	77	106	86	110	98
			80	66	79	84	81	78	81	85	79	83	77	79	88
		現会員を維持すべき	262	23	20	26	25	41	24	19	15	17	16	24	12
			15	20	15	12	13	20	14	15	15	13	14	17	11

会員増強には異論も有るが、会員の大多数は、常時新しい会員を補充すべきであると考えている。

25.

(上段:人数、下段:%)

ロ タ リ ー に 対 し て 考 え る	25. 女性会員の入会について	前向きに考えるべき	1,410	91	114	181	156	157	135	117	87	111	85	100	76
			80	81	86	83	78	75	80	90	89	87	77	72	68
		望ましくない	246	5	13	30	31	45	29	11	4	11	21	37	9
			14	4	10	14	16	22	17	8	4	9	19	27	8

望ましくないと答えたのは、地区全体で14%であるが、第4・第5・第6・第10・第11グループが平均値を超している。そして第3グループが丁度平均値である。このことは、大規模クラブを有するグループに女性会員に対する拒否反応が多いと考えら

れる。

昔はロータリーへの魅力は有ったが今は薄れてきた、その理由の一つに、女性会員の入会をあげている会員がいる。一方女性会員を増やして欲しいとの要望もある。次年度RI会長は女性会員の増強を特に要請されているが、皆さんは如何に考えますか？

26.

(上段：人数、下段：%)

ロータリーに対する意見	26. ロータリーは社会から認知されているか	地区	グループ											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
			十分認知されている	1,029	63	97	132	108	107	94	67	63	78	71
認知されていない	59	56	73	61	54	51	56	52	64	61	64	60	59	
		626	34	27	78	80	92	67	60	27	42	32	47	40
		36	30	20	36	40	44	40	46	28	33	29	34	36

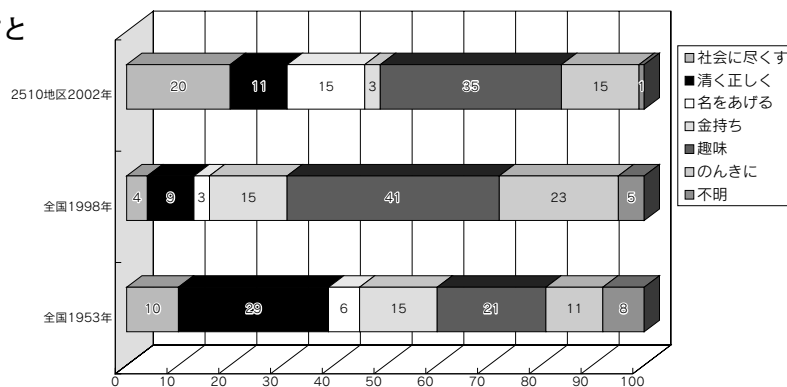
認知されているとの答えがやや優勢であるが、ロータリーは宣伝下手、PRが足りない、広報活動の強化が必要等の意見も散見される。

27.

(上段：人数、下段：%)

自身の日頃の生き方について	27. 自分の生き方に一番近いのは？	地区	グループ											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
			社会のために全てを捧げる	358	18	31	44	46	45	28	21	20	19	32
どこまでも清く正しく生きる	20	16	23	20	23	22	17	16	20	15	29	18	26	
真面目に努力して名をあげる	186	15	16	35	16	15	22	11	9	17	7	13	10	
一生懸命働いて金持ちになる	11	13	12	16	8	7	13	8	9	13	6	9	9	
自分の趣味にあった暮らし方をする	268	9	22	39	18	37	29	22	12	21	16	29	14	
くよくよせずのんきに暮らす	15	8	17	18	9	18	17	17	12	17	14	21	13	
	45	4	4	4	4	10	3	2	2	3	3	5	1	
	3	4	3	2	2	5	2	2	2	2	3	4	1	
	612	40	41	83	64	72	45	59	39	42	42	43	42	
	35	35	31	38	32	34	27	45	40	33	38	31	38	
	258	18	24	21	32	26	38	20	13	22	8	26	10	
	15	16	18	10	16	12	23	15	13	17	7	19	9	

ロータリアンの生き方と
全国民の生き方



28.

(上段：人数、下段：%)

自身の日頃の生き方について	28. 自分の生き方に一番近いのは？	甲	グループ											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
			(甲) 面倒を見てあげることが多く、他人から頼られる	480	19	29	58	61	65	51	35	18	41	33
(乙) リーダーになって苦労するより、気楽に従う	やや甲	27	17	22	27	31	31	30	27	18	32	30	27	29
		744	45	55	103	92	102	73	61	39	19	49	58	48
	やや乙	42	40	41	47	46	49	43	47	40	15	44	42	43
		330	25	32	35	27	25	34	23	27	26	21	30	25
乙	19	22	24	16	14	12	20	18	28	20	19	22	22	
	68	4	9	9	7	5	5	8	2	8	2	6	3	
	4	4	7	4	4	2	3	6	2	6	2	4	3	

29.

(上段：人数、下段：%)

自身の日頃の生き方について	29. 自分の生き方に一番近いのは？	甲	グループ											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
			(甲) 古いものはできるだけ残そうとする方	315	21	28	34	33	36	37	17	21	28	22
(乙) 新しいものをとり入れて改革していく方	やや甲	18	19	21	16	17	17	22	13	21	22	20	19	11
		554	31	40	69	63	67	55	42	30	41	37	44	35
	やや乙	32	27	30	32	32	32	33	32	31	32	33	32	31
		615	34	45	74	71	75	50	54	37	42	38	51	44
乙	35	30	34	34	36	36	30	42	38	33	34	37	39	
	181	6	14	26	28	21	21	16	4	12	10	13	10	
	10	5	11	12	14	10	13	12	4	9	9	9	9	

この27さらに28・29については、今回の質問事項の中でも様々な批判が寄せられた。中には“大変くだらない質問である”との厳しいご意見もあったが、ごもっともである。一見ロータリーには関係の無い質問であり、且一般的質問としても、その設問・選択肢に納得できないものがあつたからであろう。ただこれらの設問・特に27問は、日本国民の平均的生き方がどう変化したか、そしてロータリアンのそれとに差異があるのか？ を探る為の質問であつた、と申し上げれば、設問の意図そして回答肢少なさもご理解頂けるのではなからうかと考えている。

さて、生き方であるが、下表の如く1953年と1998年の調査ではかなりの変化がみられる。特に顕著なのは、1953年に比べて「社会に尽くす」「清く正しく生きる」が減少し、「趣味にあつた暮らし方をする」「のんきに暮らす」が増加したことである。一方、当地区の会員は、「趣味にあつた暮らし方をする」のが35%と一番多いが、「社会に尽くす」ことを生き甲斐としている会員が次ぎに多く、しかもそれは、1998年の全国平均はもとより、1953年のそれをもはるかに凌駕している。2710地区の調査でもほぼ同様な結果を得られたことを考えると、この点にロータリアンの特質が表されているといえるのではないであろうか。

(上段：人数、下段：%)

30.

	地区	グループ												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
30. 今後のアンケートの実施について	定期的実施するのが望ましい	1,209	74	94	154	124	143	122	83	67	80	77	104	87
		69	65	71	71	62	68	73	64	68	63	69	75	78
	余り必要なし	380	16	26	40	59	44	37	42	25	21	26	26	18
		22	14	20	18	30	21	22	32	26	17	23	19	16

第4回 ワークショップの報告

ワークショップ

『明日のエネルギー問題を考える』を開催して 井上 勝一 (札幌北RC)



新しいロータリーの可能性を模索して、一般市民との連携を強めるためのワークショップを計画し、北海道新聞社の後援を得て開催した。意気込みと期待は強く、当初、参加者100名、懇親会参加者30名を予定したが、実際には、ロータリアン19名、一般市民17名の参加に過ぎなかった。会場(北大)や開催日時に対する考慮の不足を、計画実行者として猛省している。発表は、「都市化と健康」井上勝一(札幌北RC)、「開発と破壊のはざまから」橋本信夫(札幌西RC)、「石油業界からみたエネルギー問

題」川田憲秀(白老RC)、「新しいエネルギーとその使い方」村山 正(札幌RC)のいずれも白熱を帯び、特に村山氏の発表は、会場とのやり取りがいつ終わるかと思ひ届かぬほどであった。内容については、帰り際「これ一回で終わるのは勿体ないですね」と言った一般市民の言葉にすべてが表わされている。いずれにせよ、曠野に一步は踏み出された。この不断の繰返しにより、踏み固められ、一条の確固とした道筋への発展を祈ってやまない。

第5回 ワークショップのご案内

テーマ：「大人は子ども達のために何ができるか」

いつの時代でも、子どもは自分探しの途上にあつて悩んでいます。そしてその悩みを様々な形で発信しています。大人は子どもの心に真剣に耳を傾ける必要があります。そして、伸び伸びとした雰囲気の中で自分探しができるよう手助けをしたいと思ひます。

大人は子ども達のために、どのような考え方をもち、どのようなことをしたらよいのでしょうか。このことを皆で考えてみるために、このワークショップを企画しました。多くの参加者による熱心な話し合いを期待します。

記

- 日時：2003年6月21日(土) 14:00~17:00(引続き、19:00まで懇親会)
- 会場：ホテル万世閣(〒049-5721 虻田町字洞爺湖温泉町21、電話：0142-73-3500、FAX：0142-75-2271)
- プログラム：
 - ・話題提供
 - (1)「子どもは大人に何を望むか」 虻田町の小中学生 (2)「家庭で何ができるか」 地区家庭奉仕委員会委員長 和田王三
 - (3)「学校で何ができるか」 虻田町の教育関係者 (4)「地域で何ができるか」 洞爺湖RC会員など地域住民
 - ・小中学生からの質問時間
 - ・参加者全員による話し合い
- 会費：ワークショップは無料。懇親会は6,000円(宿泊の場合は6,000円追加)。当日お支払い下さい。
- 申込方法：①氏名、②所属クラブ、③連絡先、④ワークショップ参加の有無、⑤懇親会参加の有無、⑥宿泊の有無、を記して、2003年6月2日(月)までにガバナー事務所にFAXで。(FAX：011-222-1526)
- 主催：洞爺湖RC・地区幹事会
- 問合せ先：ガバナー事務所(011-219-2510)、前谷休市(洞爺湖RC、0142-76-3056)、米山道男(地区幹事、090-7058-5520)

新旧ガバナー補佐引継ぎ会議 及びガバナー補佐座談会のご案内

ガバナー 小林 博
ガバナー・エレクト 佐藤秀雄
現・次期地区幹事一同

今年度の各ロータリー活動はどうであったかを検証する時間も近づいてまいりました。この評価は、5年、10年、20年先に下されるものとは思いますが、皆様方と一生懸命努力したことだけは間違いないと存じます。その成果もすべて皆様方のお陰と心から深謝申し上げます。1年間を振り返り「新旧ガバナー補佐引継ぎ会議」を下記の要領にて開催しては如何かと存じ、佐藤秀雄ガバナー・エレクトご了解のもと計画致しました。是非ともご参加下さいますようお願い申し上げます。

当日は、12時30分よりガバナー補佐座談会を企画し、その要旨をガバナー『月信』第13号に掲載することも考えております。

なお、出欠のご返事は**5月30日までにガバナー事務所**へお送り下さいますようお願い申し上げます。 敬具

記

1. 日時 2003年6月15(日)

- 12時30分～14時30分 ※12時00分より会食
「02-03年度ガバナー補佐座談会」
- 15時00分～17時00分
「新旧ガバナー補佐引継ぎ会議」
- 17時00分～18時30分
「懇親会」

2. 場所 札幌アспенホテル

札幌市北区北8条西4丁目 Tel.011-700-2111

新旧地区委員会委員長 引継ぎ会議のご案内

ガバナー 小林 博
ガバナー・エレクト 佐藤秀雄

今年度の各ロータリー活動はどうであったかを検証する時間も近づいてまいりました。この評価は、5年、10年、20年先に下されるものとは思いますが、皆様方と一生懸命努力したことだけは間違いないと存じます。その成果もすべて皆様方のお陰と心から深謝申し上げます。

さて、**次年度に委員長が交替する委員会を対象に**「新旧地区委員会委員長引継ぎ会議」を下記のとおり開催致したくご案内申し上げます。ご多用中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご臨席下さいますようお願い申し上げます。

なお、出欠につきましては、**5月30日までにガバナー事務所**へご返信下さいませ。 敬具

記

1. 日時 2003年6月15(日)

13時00分～14時30分
17時00分～18時30分「懇親会」

2. 場所 札幌アспенホテル

札幌市北区北8条西4丁目 Tel.011-700-2111

ダヤシリさん歓迎会のご案内

ご存知のとおり、国際ロータリー第2510地区ではこの2、3年、地区内の中古ベッドなど医療資材をスリランカへ多量にお送りして参りました。地区内ロータリアンのご協力に厚く御礼申し上げます。

先方の受入れ責任者はダヤシリ・ワルナクラスーリヤさん(コロンボRC)で、この方のお力添えがあったればこそ、円滑な作業が出来たと考えております。

つきましては、ダヤシリさんが近く来札されます。次の要領にて歓迎会、並びに感謝状の贈呈を致したく存じますので、ご出席をいただければ光栄に存じます。なお、ダヤシリさんは日本人と変わらぬ流暢な日本語を話されます。ご夫人(日本人)も同伴されるかもしれません(未定)。皆さまのご出席をお願い申し上げます。

記

日時●6月5日(木) 午後6時00分

場所●札幌ガーデンパレス(中央区北1西6 Tel.011-261-5311)

会費●3,000円(予定)



お菓子をプロデュースするナシオ

<http://www.nasio.co.jp/>

あなたとともに



夢を育てるナシオ

最新の情報と独自のシステムをフルに活用し、お客様のビジョンをカタチにしていきます。

ナシオはメーカー・小売・消費者を結ぶUseful企業です。

NASIO
株式会社 ナシオ

関西支店

平成15年5月1日開設

本社/札幌市西区八軒9条西10丁目 ☎(011)642-5155 道内支店(札幌・旭川・北見・函館・苫小牧・釧路) / 関東本部 / 東北支店 / 関西支店

第12回●GSE派遣メンバー決定

派遣地区 3830地区（フィリピン、メトロマニラ地区）
 派遣日程 2004年2月18日から3月24日（35日間）



チームリーダー

氏名●戸部謙一 年齢●64歳
 所属ロータリークラブ●札幌西RC
 勤務先●日本食品製造合資会社社長 フィリピン国名誉領事



メンバー氏名●小嶋裕美
 性別●女
 年齢●36歳
 専攻及び職業●看護師

北海道大学医療短期大学を卒業。札幌社会保険総合病院に勤務。大学を卒業後、子供の頃を過ごした九州に戻り、3年間を大学病院で看護師として勤務。その後自由な北海道の環境と大学時代の友人が多い北海道に戻る。現在は札幌社会保険総合病院に勤務、ナースステーション科長を務めている。8歳になる娘と子犬のキャバリア犬と暮らしている。モットーはいつも生き生き、キラキラしていること。さまざまな新しいことに挑戦することに興味がある。この度のフィリピンでの研究グループは色々な新しいことに挑戦する機会が多いと考え、楽しみにしている。



メンバー氏名●紺野拓美
 性別●女
 年齢●27歳
 専攻及び職業●美容師

札幌平岡高等学校卒業後、北海道芸術デザイン専門学校、北海道ヘアスタイリスト専門学校において美容師としての技術を学ぶ。現在美容室桜井に勤務、副主任を務めている。趣味は油絵、コンピュータグラフィック、日本舞踊など。美容室桜井では毎年留学生を対象にした奉仕活動をしているため、外国の若い人と接する機会が多い。仕事の中では特にネイル・アートを得意としている。この度はフィリピンでの美容界の現状を学んでけると同時に、出来れば現地の美容室で日本の美容技術を実際に示す機会があることを期待している。



メンバー氏名●佐久間慎二
 性別●男
 年齢●29歳
 専攻及び職業●北海道新聞社勤務

北海道学園大学では英米文化論を学ぶ。北海道新聞社人事部に勤務。学生時代から生命倫理学に興味があり「日本におけるホスピスの可能性」を卒論のテーマにした。趣味は将棋とギターを弾くこと。幼少の頃からスポーツ少年で、野球とスピードスケートに熱中していた。しかし、15歳の時に大病と闘い、病を克服したが足が少し不自由になった。しかし命の淵から生き残ったからには、少しでも周囲の人たちの役に立たなければならないと考えている。今回のGSEでは新聞記事を教育の現場で利用するNIE (Newspaper In Education) のフィリピンでの可能性を調査すると共に一緒に行くメンバーとの友情を深めながら、フィリピンの人々との文化交流を活発にしたいと考えている。



メンバー氏名●福地信昭
 性別●男
 年齢●30歳
 専攻及び職業●臨床検査技師

北海道大学医療短期大学を卒業後、日本赤十字血液センターに勤務。献血を受けた血液を血液製剤として製品化した上、輸血を必要とする患者に届けるという仕事をしている。趣味はスポーツで、夏は水泳、冬はスキーを楽しむ。一昨年タイから研修生が血液センターに派遣されてきた。その研修生の担当になったため語学の壁がある中でコミュニケーションをとる苦労をした。その経験から学んだことはコミュニケーションとは互いに理解しようという努力することと感じた。GSEメンバーに選ばれてフィリピンに出かけるこの機会に語学力と海外に対する認識を深める機会にしたい。

ロータリーの専門用語がわからない!

ロータリアンだけに通じて一般の人にはわからない用語がある。いくつか挙げよう。私たちが何気なく使っている「点鐘」は辞書にも載っていない。村山正第4グループガバナー補佐の話によると、点鐘は本来海軍用語とのこと。「章典」という言葉も辞書には載っていない、とは亀井敏清地区情報委員長のお話である。「テーブルスピーチ（卓話）」も、英語の辞書にも日本語の辞書にも載っていない。いずれもロータリー独特の言葉のようである。以上のようなことが他にも幾つかあるのではないかと。ロータリーが一般社会に気軽に受け入れられるためにも、一般の人にわかりにくい異質感のある言葉はできるだけ避けた方が良くない。

り・ん・ご・の・ひ・と・り・ご・と

とうとう戦争が始まり「戦争はんだ〜い」と叫んでも馬の耳に念仏なのか、聞く耳持たぬのか単にブッシュは戦争が好きなのか?…。と、考えるだけで何もしない自分が情けない今日この頃。そんな時にふと見つけたガンジーの墓碑に刻まれた文字。

『七つの社会的罪』 Seven Social Sins

- | | |
|------------|-----------------------------|
| 1. 理念なき政治 | Politics without Principles |
| 2. 労働なき富 | Wealth without Work |
| 3. 良心なき快楽 | Pleasure without Conscience |
| 4. 人格なき学識 | Knowledge without Character |
| 5. 道徳なき商業 | Commerce without Morality |
| 6. 人間性なき科学 | Science without Humanity |
| 7. 献身なき信仰 | Worship without Sacrifice |

マハトマ・ガンジーのこの魂の箴言は、人類への普遍的な問いかけである

クラブ活動 紹介

第一回パソコン教室開催

久住八郎（栗山RC）

4月22日の統一地方選挙の告示日に、メンバーの中から3名の会員が立候補予定で多数の欠席者がでると予想されましたので、移動例会としてパソコンの勉強へと変更しました。本年度のペッツ（会長エレクト研修セミナー）へ参加させていただきました際に、IC委員会山田信夫委員長より、これからは「インターネットが必要な時代になってきました。これを利用することにより、経費も節約できます」などと色々の利点を聞きましたが、いざ実行となると難しく、クラブIC委員会の今井敏明会員と協議して、まず会員の方にこの便利さを知ってもらうために、栗山ロータリーでパソコン教室をやってみようということになりました。4月22日の例会を移動例会に変更、今井敏明会員の会社の2階にあるパソコン教室へ。12時30分開催予定のところ、多くの会員がはやめに来て食事をすませ、早くもパソコンにチャレンジ、インターネットでロータリーの源流を画面に呼び出すと色々の情報が出てきます。例えば2月25日、小林ガバナーの2度目の栗山への公式訪問の様子が記載されていました。ガバナー月信を画面上に写し出して、私がいるなどと歓声を上げていました。今井会員が栗山町のインターネットを出しやすくしておいたので、栗山町の地図や天気予報も見ることができ、町の最新情報を知ることができました。年輩者がパソコンをやることはたいへんだと思いますが、時代の流れのなかで必要になってきている事を理解していただき、次年度はIC委員会に力を入れると聞いております

ので栗山RCは一步踏み出し、次年度もパソコン勉強会を開いてほしいと願っています。



長万部、森、七飯RC合同で 春の交通安全キャンペーン

柴田晴史（七飯RC）

5月12日（月）午後1時30分～2時30分の1時間で、それぞれの場所で3クラブ同時に行った。



クラブの年度始めに、社会奉仕で何かできないか、又、1クラブでするよりも、合同ですればアピール度も増すのではないかと。3クラブは国道5号線に沿って町があり、これを利用すればキャンペーンが出来ると3クラブで打合せ、いろいろな案がでた。スタンプラリーキャンペーン等、だが交通となると警察の交通係、また、それぞれの町の交通安全協会の協力を得なければなりません。

また、各クラブの希望の月日、時間にも制約されます。そんな中で一斉に行われる春の交通安全中にする事になり、その中で何をしたらいいのか、打合せの結果、ポケットティッシュに交通安全標語、シートベルトは命を守

ると3クラブ名をプリントした物をティッシュにはさみ込み、このはさみ込み作業は例会時に出席会員で200個を準備、ガムと缶コーヒー各100個を揃えて行った。



豊平川河川敷でゴミ収集作業

近藤和雄（札幌南RC）

札幌南RC環境保全委員会（委員長坪池栄一）による、清潔で住み良い街にするための環境美化推進運動の一環として、豊平川河川敷に捨てられた空き缶・ゴミの収集を会員35名の参加により実施しました。



しゃくなげ公園入口の 石庭を整備

社会奉仕委員会（えりもRC）

当クラブでは、このほど、町内新浜地区にある「しゃくなげ公園」入り口の石庭の補修整備を行った。



石庭は1983年に、クラブが造成し、町に寄贈したもので、以来毎年春に会員が、冬の間の強風などで壊れたり、ゆがんだりした柵の補修や草刈りなどをして整備している。

参加した会員は、スコップやカケヤ、鎌などを手に、竹で柵の増強をしたり、草刈りや地ならし等、約2時間をかけて整備。入園者もきれいになった石庭の前でしばし足を止めて眺めていた。



壊れた柵を補修
えりも
ロータリー
【えりも】えりもロータリークラブ(荒木善広会長、二十七人のほかに、町内新築のしゃくなげ公園入りの石庭整備を行った。
石庭はおよそ二十年前同クラブが寄贈した。以来毎年春、メンバーが堀などの補修に柵を出すメンバー

整備を続けている。参加者は草刈りのほかに、冬の間の強風などで壊れた柵を補修した。
メンバーの一人は「こ

岩見沢ロータリー旗争奪 第12回 中学校選抜野球 岩見沢大会

荒木敏博(岩見沢RC)

毎年5月の連休に行われる岩見沢ロータリー旗争奪中学校野球大会も12回目を迎え、参加校も市内・近郊合わせて昨年より4校増えて16チームが参加し、晴天の中、5月3～4日の2日間熱戦が繰り広げられました。

開会式に引き続き行われた始球式では、ピッチャーに渡辺市長、キャッチャーは小林会長、バッターには倉増エレクトという顔ぶれで真剣勝負が行われ会場にどよめきをもちました。

スポーツは勝敗もさることながら結果だけではなく、チームワーク、行動力、友愛などを培うことが大切であり、本大会はスポーツを通じて青少年のたくましく、健全な成長を願うと共に既に全国レベルにある地域野球の更なる発展と充実を目指し行くものである事を再認識した2日間でした。



春のゴミ掃きクリーン作戦

社会奉仕委員会(えりもRC)

当クラブ主催の春のゴミ掃きクリーン作戦がこのほど、本町市街地を中心に行われ、大勢の町民が参加して街の美化に努めた。

午前7時、えりも小学校校門前に会員をはじめ、女子バレーボール少年団、婦人ボランティアグループ、さらに特別養護老人施設「やまと苑」や日高信用金庫えりも支店などが、職場ぐるみで参加、過去最高の120人が参加した。



参加者は、ゴミ袋を手に国道と町道に分かれ、約1時間にわたって路上に捨てられた空き缶やタバコの吸い殻などを丁寧に拾い、2トントラック一台分のゴミを集めた。

担当の委員は、毎年春と秋のクリー

ン作戦により、町民の意識も高揚、また、ごみの分別収集などの影響で、ごみを出さない習慣が定着し、年々効果が上がってきている」と語っていた。

【えりも】ロータリー

町民120人参加

えりもでクリーン作戦

ロータリー(荒木善広会長、27人のほかに、町内新築のしゃくなげ公園入りの石庭整備を行った。
この日は、えりも小学校校門前に会員をはじめ、女子バレーボール少年団、婦人ボランティアグループ、さらに特別養護老人施設「やまと苑」や日高信用金庫えりも支店などが、職場ぐるみで参加、過去最高の120人が参加した。

全国RC野球大会に参加して

橋本新治(岩見沢RC)

平成15年5月24日～6月29日にわたって甲子園で開催される第21回全国RC野球大会に我チームは第2510地区代表として登録、選手・応援団総勢25名をもって参加してまいりました。



23日には、大会第1日目6試合の12チームが一同に会してノホテル甲子園において親睦をかねての前夜祭は盛大に挙行され、我チームの面々は楽しい酒に酔い、明日の勝利を確信しつつ盃を酌み交わしておりました。

24日大会初日の第1試合、全国RC野球大会コミッショナー瀬川正義様の始球式の後、我チームは大阪箕面RCと対戦、ファインプレー(?)・エラーをつみかさねつつ善戦・健闘いたしましたが、力およばず2-0で惜敗(?)し、晴天の甲子園球場を後にしました。

初戦突破は残念ながらありませんでしたが、ケガ人を出すこともなく参加25名が楽しく、にぎやかにRC野球大会を楽しんできた事をここに報告します。

ロータリー財団への寄付状況一覧（全国地区別）

国際ロータリー第2510地区 ガバナー 小林 博/ロータリー財団委員会 委員長 森本正夫/財団増進委員会 委員長 若狭吉範

ロータリー財団への寄付状況については、『月信』5月号でクラブ別自主申告額と実績額を3月31日現在で掲載しお知らせ致しました。地区全体の自主申告額は284,650ドルで、3月31日現在の実績額は180,824ドルで達成率は64%でした。

4月30日現在は下表のとおりポリオプラスを除く実績額は189,446ドルで、達成率67%と目標達成には厳しい状況です。本年度も残すところ1か月となり、今一度財団並びにポリオプラスへのご理解とご協力をお願い致します。

2003年4月30日現在（単位：ドル）

地区	基準会員数	地区目標額	1人当り寄付実績額	年次寄付	ポリオ・プラス	使途指定寄付	恒久基金寄付	合計
2500	2,960	220,000	103.33	81,879.75	205,968.95	0.00	18,000.00	305,848.70
2510	3,490	250,000	59.66	183,946.01	18,761.30	0.00	5,500.00	208,207.31
2520	1,567	150,000	54.49	71,245.79	12,140.89	0.00	2,000.00	85,386.68
2530	2,756	290,000	75.32	136,777.26	65,391.70	0.00	5,400.00	207,568.96
2540	1,446	163,700	55.56	28,134.75	51,202.90	0.00	1,000.00	80,337.65
2550	2,259	305,500	118.83	191,308.41	57,085.24	0.00	20,050.00	268,443.65
2560	2,332	255,000	81.76	178,076.72	567.42	5,010.00	7,000.00	190,654.14
2570	2,335	250,000	112.62	96,440.16	111,976.17	0.00	54,556.63	262,972.96
2580	3,930	300,000	95.77	210,655.68	106,305.59	0.00	59,400.00	376,361.27
2590	2,875	295,000	174.79	321,922.82	109,563.34	-3,555.46	74,600.00	502,530.70
2600	2,698	26,000	86.21	122,339.85	94,189.15	5,067.00	11,000.00	232,596.00
2610	3,150	100,000	84.08	170,588.57	88,265.21	0.00	6,000.00	264,853.78
2620	3,957	425,900	89.44	311,855.29	1,957.40	7,600.00	32,500.00	353,912.69
2630	4,330	600,000	146.49	338,551.79	250,757.83	0.00	45,000.00	634,309.62
2640	3,119	500,000	206.47	163,920.43	433,477.47	20,585.00	26,000.00	643,982.90
2650	5,656	800,000	145.90	536,607.51	170,328.74	4,917.00	113,353.62	825,206.87
2660	4,646	680,000	164.39	465,060.36	244,972.10	22,847.00	30,873.75	763,753.21
2670	3,490	287,000	110.94	183,005.21	201,669.66	0.00	2,500.00	387,174.87
2680	3,649	400,000	124.67	252,257.16	186,049.01	9,600.00	7,000.00	454,906.17
2690	3,706	540,000	150.45	296,771.62	229,728.52	7,921.00	23,163.33	557,584.47
2700	3,514	230,000	62.79	175,672.04	29,474.51	12,000.00	3,500.00	220,646.55
2710	3,942	410,000	144.47	247,959.46	217,140.58	2,000.00	102,412.48	569,512.52
2720	2,910	270,000	64.90	97,332.79	84,438.61	0.00	7,083.33	188,854.73
2730	2,823	110,000	51.27	123,224.89	6,774.98	2,000.00	12,740.00	144,739.87
2740	2,853	280,000	89.15	186,907.23	46,933.81	-2,500.00	23,000.00	254,341.04
2750	5,434	400,000	107.37	378,504.14	38,650.70	7,750.00	158,525.00	583,429.84
2760	5,736	570,000	112.06	322,672.16	286,228.88	1,783.00	32,083.33	642,767.37
2770	3,223	520,000	153.72	347,442.45	70,531.67	1,000.00	76,450.00	495,424.12
2780	2,838	300,000	129.55	248,519.10	80,899.85	0.00	38,249.99	367,668.94
2790	3,508	355,000	87.57	218,912.34	33,200.36	2,500.00	52,566.99	307,179.69
2800	2,298	270,000	96.03	166,891.57	46,796.41	6,000.00	1,000.00	220,687.98
2810	1,556	155,000	53.98	57,703.81	23,296.09	1,000.00	2,000.00	83,999.90
2820	2,473	280,000	182.40	164,898.07	265,116.13	6,049.17	15,000.00	451,063.37
2830	1,392	100,000	42.45	54,447.57	1,140.00	0.00	3,500.00	59,087.57
2840	2,343	230,000	82.57	141,530.23	44,942.34	5,000.00	2,000.00	193,472.57
日本の合計	111,194	11,318,100	111.42	7,273,962.99	3,915,923.51	124,573.71	1,075,008.45	12,389,468.66
世界の合計				37,464,535.64	44,931,981.83	8,171,476.83	4,432,273.91	95,000,268.21

会員の声

神様の目線が求められるロータリー

川田憲秀
(白老RC)

デフレスパイラルの日本経済は、行き先がまったく予測できません。ハーバード大学で学んだ大臣の研究を、この日本で実験してほしくない……と悲鳴が聞こえてきます。

そんな中で、私たち日本のロータリークラブが21世紀を迎えました。1年間のガバナー補佐の経験は、いろいろなものを幅広く学習させていただき、貴重な期間となりました。異常とも言われる高齢化社会の中で、ロータリークラブは40代から80代の会員で構成されています。ほとんど、3世代の年齢の差となっております。親・子・孫ほどの年齢差の会員の意識、価値観を共有することは不可能なことと思います。しかし、どこか大切な一点を共有しなければ、この素晴らしいロータリー

を未来あるものとして続けて行くことは出来ません。

小林ガバナーの一年間も、この挑戦と改革の連続であったと思います。私のクラブにおいても、何度か問いかけてみましたが、ほとんど反応がありませんでした。「昔からやっているようにやればよい……」「面倒なことをするのであれば、俺はやめる……」などなどです。変革していかなければ、若い会員が入会して来ませんし、入会しても失望して退会していきます。実感する経済社会は、厳しさを越えて悲惨な状況です。過当な競争の中でリストラをしなければ、倒れることが避けられません。

クリスチャンの方々は、日曜日に教会に行きすべてを包み込む慈愛に満ちた神様の目線を意識するようです。週に一度の例会に出席し、ほんのひとときだけでも神様や仏様の目線で、地球のこと・地球に住む人々について考えるのがロータリーなのではないかと思っております。住む家もなく、泥水をすくって飲んでい

る子供たちがいる……ポリオに泣いている子供たちがいる……。私たちの大変さとは比較にならない恵まれない人々がいることを忘れてはいないだろうか？

私たちのロータリーは、人間の目を少しでも神様の目線から見ることを教えているのではないのでしょうか……。

会員の減少により、クラブの財政も地区財政も一段と厳しさを増しているようです。小林年度ではガバナー事務所費や、パストガバナー会等に関わる費用を大幅に減額し収入減に対応したようですが、次年度以降もこの厳しさは変わることは無く、抜本的対策が求められることと思います。従来の慣習を改革し新しい試みに対して反発や批判するだけでは、ロータリーの未来を明るくすることはできません。改めて「四つのテスト」を基準に考え、「神様の目線で見ると」ことがロータリーに求められていると思います。手ごたえのある一年間でした。小林博ガバナーありがとうございました。

家庭奉仕のビデオ

「慈愛の種は家庭から」と題したIM（第4・第5グループ）が開催され、その模様をコンパクト（26分）にまとめたビデオテープが出来上がりました。

例会時にあるいは、ご家庭で是非一度ご覧下さり、奉仕の原点をさぐってみるのも大切と思われます。

ビデオテープはガバナー事務所ならびに地区文献資料室にありますので、貸出しを希望される方はご一報下さい。

ガバナー事務所 TEL 011-219-2510
FAX 011-222-1526
文献資料室 TEL 011-231-1297
FAX 011-222-2744

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます。

(2003年4月末現在)

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー	ポール・ハリス・フェロー
小笠原孝会員 (函館北RC) (7) 4月11日	樋口正明会員 (札幌北RC) 4月3日
山田邦昭会員 (恵庭RC) (2) 4月18日	片岡是充会員 (札幌北RC) 4月3日
大川健一会員 (恵庭RC) (1) 4月18日	飯淵義久会員 (室蘭東RC) 4月11日
古川大之会員 (長沼RC) (1) 4月25日	若松竹治会員 (室蘭東RC) 4月28日
荒岡幹史郎会員 (札幌東RC) (3) 4月25日	杉下清次会員 (札幌北RC) 4月28日
竹原 巖会員 (札幌北RC) (1) 4月28日	
長太義雄会員 (札幌北RC) (1) 4月28日	

掲示板

例会変更

- 美唄RC 6月12日(木)「家族同伴夜間例会」18:30~
6月26日(木)「さよなら夜間例会」
小樽南RC 6月 6日(金)「酒田RCとの合同例会」18:00~
場所:ニュー三幸(稲穂1-3-6 Tel.0134-33-3500)
6月13日(金)→6月14日(土)「野外例会」に変更 12:00点鐘
場所:マリンウェーブ小樽(築港5-7 Tel.0134-22-1311)
当別RC 6月24日(火) 夜間例会「さよなら例会」18:00~
苫小牧RC 6月27日(金) 夜間例会に変更 18:00~

次年度例会日の変更(7/1より)

- 白老RC 毎週水曜日12:30~⇒毎週火曜日12:30~に変更

次年度クラブ事務局の変更(7/1より)

- 洞爺湖RC 〒049-5605 虻田郡虻田町字高砂町159番地2 株式会社エムズ内
TEL (0142)74-3333 FAX (0142)74-3334

お詫び・訂正

- 5月号の中で誤りがありましたので、お詫びして訂正致します
p23「3月会員増減数・出席率報告」出席率の訂正
恵庭RC 誤) 25.49% → 正) 85.49%
第7グループ 誤) 75.98% → 正) 85.98%
地区全体 誤) 82.95% → 正) 83.78%
p5左 8行目 第4グループの村上正→正) 村山正
p7左 下から7行目 伊藤義郎元R1理事(札幌RI) →正) (札幌RC)
p7左 下から6行目 竹山涼一元R1理事(札幌南RI) →正) (札幌南RC)
p7右 上から7行目 Sow the seeds of live→正) love

小林ガバナー 国際大会のパネリスト を務める

2003年6月1日~3日までオーストラリアのブリスベンで開催の国際ロータリー第94回世界大会で、Back to Basics「原点に戻ろう」がテーマのパネルディスカッションに3人のパネリスト(イギリス・アメリカ・日本)の1人として参画することになりました。

計 報

山口 進 会員

(札幌東RC)
平成15年3月27日
ご逝去(享年69歳)



《ロータリー歴》

1971年8月23日 入会
1977~78年 職業分類委員長
1982~83年 国際奉仕委員長
1989~90年 出席委員長
1997~98年 副SAA
2001~02年 ロータリー財団副委員長
2002~03年 出席副委員長

事務所だより

- 毎月の会員数および出席率の報告は、最終例会終了後15日以内です。期日の厳守をお願い致します。
- 月信への原稿をお寄せ下さい。特にクラブ活動、会員の声へのご投稿をお待ち致します。投稿の際には、スナップ写真も添えてください。
- 6月1日からロータリーレートが116円に変更されます。年度末につき送金の混雑が予想されますので、お振込みは6月20日までお願い致します。

国際ロータリー第2510地区 2002-2003年度 ガバナー月信

発行人 2002-2003年度ガバナー 小林 博
発行元 国際ロータリー第2510地区
2002-2003年度ガバナー事務所
発行日 毎月1日発行 年12回
編集委員 ◎竹原 巖 (地区幹事) 大田すみ子 (地区幹事)
熊谷 満 (地区幹事) 脇田 稔 (地区幹事)
アドバイザー 米山 道男 (地区幹事) 松木 新 (アイワード)
事務局 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会館6F
TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526 E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp
印刷: (株)アイワード TEL241-9341

4月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数			出席率
			02.7.1	03.4.30	増減	
1	川	4	46	43	-3	84.38
	幌	4	47	48	1	68.44
	妹	4	12	10	-2	82.50
	小	4	15	17	2	72.06
	留	4	69	68	-1	87.23
	計		189	186	-3	78.92
2	赤	4	37	37	0	88.51
	声	4	60	57	-3	92.13
	砂	4	61	58	-3	92.79
	滝	4	108	114	6	72.00
	小	4	266	266	0	86.36
	計		48	46	-2	84.09
3	美	4	48	46	-2	84.09
	江	4	50	49	-1	87.55
	江	4	41	41	0	90.00
	岩	4	97	102	5	89.60
	岩	4	33	34	1	85.30
	計		35	33	-2	86.85
4	礼	4	120	120	0	97.51
	礼	4	19	18	-1	100.00
	礼	4	29	29	0	77.59
	礼	4	58	57	-1	93.21
	礼	4	61	61	0	76.76
	計		75	75	0	91.67
5	礼	4	52	53	1	88.08
	礼	4	52	48	-4	97.40
	小	4	466	461	-5	90.28
	礼	3	123	123	0	99.41
	礼	4	26	27	1	97.00
	計		88	83	-5	100.00
6	礼	4	50	48	-2	95.96
	礼	4	97	95	-2	97.90
	新	4	42	40	-2	92.17
	礼	4	17	18	1	78.43
	礼	4	0	21	21	81.00
	計		443	455	12	92.73
7	岩	4	37	37	0	79.05
	俱	4	54	53	-1	81.00
	小	4	96	90	-6	92.13
	小	4	86	87	1	91.36
	小	4	20	20	0	82.50
	計		18	18	0	62.50
8	余	4	49	48	-1	87.45
	小	4	360	353	-7	82.28

クラブ数	72クラブ
期首会員数	3,458人
当期末会員数(女性)	3,437(97)人
増加会員数	-21人
当月平均出席率	84.23%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数			出席率	
			02.7.1	03.4.30	増減		
7	千	4	74	74	0	2	87.80
	千	4	33	35	2	0	74.30
	恵	4	50	48	-2	0	79.29
	北	3	16	15	-1	2	95.24
	長	4	18	18	0	4	84.60
	計		209	208	-1	9	91.60
8	え	4	27	27	0	0	86.11
	石	4	20	19	-1	1	92.10
	様	4	24	23	-1	2	94.30
	静	5	68	67	-1	0	87.50
	浦	4	41	42	1	1	90.24
	計		180	178	-2	4	90.05
9	伊	4	53	56	3	0	82.14
	室	4	66	61	-5	0	91.81
	室	4	56	53	-3	1	94.79
	室	4	52	50	-2	2	71.00
	登	5	40	40	0	2	82.50
	計		14	13	-1	0	86.36
10	函	4	101	102	1	0	84.77
	函	3	51	52	1	1	75.69
	森	4	51	49	-2	0	70.00
	七	4	33	32	-1	0	82.00
	長	4	11	12	1	0	68.75
	計		247	247	0	1	74.25
11	江	4	20	20	0	0	66.40
	函	4	71	71	0	0	82.63
	函	4	67	65	-2	5	79.27
	函	4	46	49	3	0	79.26
	上	4	34	34	0	3	59.90
	計		8	9	1	1	67.00
12	小	4	246	248	2	9	72.41
	白	4	34	35	1	1	80.00
	吉	4	68	62	-6	0	81.25
	吉	4	33	33	0	3	85.15
	吉	4	52	48	-4	2	93.14
	計		187	178	-9	6	84.89
	合		3,458	3,437	-21	97	84.23

6月地区カレンダー

6月		ロータリー親睦活動月間
日	曜日	行 事
1	日	第94回国際ロータリー年次大会(オーストラリア、ブリスベン) 日本人朝食会、北海道ナイトパートⅡ
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	ダヤシリさん歓迎会(札幌ガーデンパレス、18:00~)
6	金	
7	土	札幌モーニングRC15周年記念式典(ホテル日航札幌、18:00~)
8	日	会員増強委員会(東京ホテルパシフィック、11:00~)
9	月	
10	火	
11	水	財団学友委員会(札幌ルネッサンスホテル、18:00~)
12	木	
13	金	第4回ガバナー諮問委員会(札幌グランドホテル、18:00~)
14	土	第2グループ会長・幹事会(橘、19:00~)
15	日	新入AG引継ぎ会議(15:00~17:00) 新旧地区委員会委員長引継ぎ会議(札幌アスペンホテル、13:30~)
16	月	第13回ロータリー親睦ゴルフ北海道大会(札幌ゴルフコース輪厚コース)
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	2004-05年度R財団奨学生面接選考試験(ガバナー事務所、9:00~) 第5回ワークショップ(洞爺湖万世閣、14:00~)
22	日	
23	月	GSE委員会(会場未定、18:00~)
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	財団奨学生送別会(札幌グランドホテル、18:00~)
29	日	
30	月	

RIの災害救援は停止

2002年11月、RI理事会は、2003年1月1日付をもって、RIの災害救援活動を停止することを決定しました。以後、RIは公式の災害急報を発行していません。理事会は、援助を求める被災者たちに必需品を配分するには、RIの地区災害救援委員会に比べて経験豊富な国際的救援機関の方がはるかに設備が整っていることで同意しました。2003年1月、ロータリー財団管理委員会は、即時災害救援のためのシェア地区財団活動資金(DDF)災害救援の選択肢を削除することに同意しました。管理委員会は、災害の余波に対する長期的支援を提供するために、既存の人的補助金プログラム(例:マッチング・グラント)を通じた災害救援活動にDDFを使用することを地区に奨励しています。(RI事務総長エド・フタ氏からの書簡より抜粋)

「病気の半分は気です。」なるほど、字で書いたとおり病気は「病」そのものと「気」との二つ合わさったものです。気を楽しみなさい。気が病気をつくるのだから、気を平静にしたら病気は半分治ったも同じです。つまり、病気にところがいかに大事か。

日本語とか中国語には、「気分」、「気持ち」、「短気」というような気を使った言葉が極めて多い。辞書をざっと見ただけでも気が頭にあるか、尾にあるかは別にして五、六十の言葉は楽に見つかる。このころの気だけでなく、「大気」とか「天気」とか気象問題にまで使われることから、東洋人がいかに気ということをいかに好むかがわかる。

英語では病気のことはsickness、illness、diseaseという。Diseaseというeaseつまり楽なものではないのが病気である。illness、sicknessいずれも言葉の中にmindつまり、気というものの存在がない。これは欧米人は病気に気というものを意に介さなかったのだろうか？



ロータリー会員地域紹介

札幌市



札幌市……赤レンガ庁舎とチューリップ

レンガ造りの美しい外観から「赤れんが」の愛称で親しまれている旧本庁舎は、マサチューセッツ州の議事堂をモデルに、明治21年に建てられました。建物内も見学できます。



YOSAKOIソーラン祭り

92年6月、10チーム1,000人の参加者で始まった祭は、「街は舞台だ」を合言葉に急成長。昨年の第11回では151万人の観客が集まりました。

SAPPORO

ご意見・投稿募集

『ガバナー月信』では、より会員の皆様の声を反映させた誌面づくりを行ないたいと考えております。『月信』に関するご意見・投稿などございましたら下記事務局へ。

事務局 札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館6F

TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526

E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp



国際ロータリー第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

2002-2003 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER No.13

ガバナー月信

最終号
July

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR 小林 博 KOBAYASHI HIROSHI

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp





小林 博

若い人に任せようではないか！

任を終えるにあたって

少しく気負いすぎたかなと思う反面、よき隣人にめぐまれ楽しく頑張ったと自らを慰めている。幸い健康上の支障もなく、また大きな事故もなく、この地区のロータリーを後退させることなく僅かでも前進させることが出来たのではないかと、とのささやかな満足感をもってガバナーの任を終えることが出来たのも、この1年間を支えてくれたガバナー補佐をはじめすべてのロータリアンのお陰である。この感謝の気持ちはいくら申し上げても尽きることはない。

ただ、この地区に限らず「ロータリーはこのままでいいのか？」と考える時、現実にはわれわれの夢見るロータリーの理想郷にはなお程遠いものを感じる。ロータリーと言えども日本社会の縮図であるから、これを急に変えようとするは無理であると知りながら、一つでも二つでも出来ることからやってみて行かなくてはロータリーは良くならないのではないかと。みんなが力を合わせ、毎日の奉仕を楽しみながらも、ロータリーの発展に率先しなければならぬのではないかと思う。

ロータリーの長老に一言

ロータリーに入って良かったと思う人が大部分だが、われわれの身近には反省すべきことが沢山ある。その一つはロータリーの規則に振り回されないことである。規則は大事だが、細かな理屈にこだわって時間を浪費してはいけない。まずは善意と良識をもって最上と信ずることである。規則とはみんなを縛るためにあるのではなく、我々がロータリーで生きていくための最小限のルールを用意しているのに過ぎない。

二つは長老を自任する人達は、ロータリーの運営に余り口を出さないことである。些細なことで揚げ足をとったり、クラブの慣習はこうだからとか、昔はこうだったと言って新しい考えを押し込んではいけない。ロータリーの原則は不変であっても、そのビジネスは時代とともに大きく変わってきた。だが、長老は昔のままの判断基準を押しつけ、何か新しい意見、提案が出ると、すぐにそれを否定し潰してしまう傾向がある。このような風潮に嫌気をさす人達は本音を語らず不信感をもって退会していく。これではロータリーの発展を阻害するだけでなく、ロータリーを自ら崩壊させかねない。

どうすればいいのか

具体的に言えばロータリーに詳しい人、或いはクラブの長老を任ずる人達は、クラブの運営に関しては控え目になっていただきたい。というより、会長・幹事はじめクラブの柔軟な発想の若い人達に全てを任せるようにしていただきたいと思う。新任早々の会長・幹事はロータリーの規則を熟知していないかもしれないが、フェアプレイの精神をもって「四つのテスト」を守り、自らの良心に照らし、「友愛、親睦、奉仕」のロータリーの原則を理解し、実行できる人である限り何も心配はないのである。

年輩者は若い新鮮な考えのロータリアンを信頼し、折角出された意見、提案に十分耳を傾け、むしろ激励してあげることが望ましいのではないだろうか。もし、新しい試みが思いがけない事態で失敗したとき、いさぎよく責任をとればいいのである。もちろん、そういう失敗がないように、トップは注意深く、また忍耐強く、下の人の意見、提案を聞かなければならない。そのうえで迅速・適正に判断すればよい。それを長老達は否定ではなく肯定的な立場で前向きに激励してあげていただきたい。そうすれば若い人達も自信をもってどんどん力を付けロータリーの発展に結びつけていくであろう。

任期の最後に自戒の意を込めて耳の痛いことを申し上げた。これもわがロータリーが永遠に前進し、発展して欲しいと切に祈るがゆえの衷心からの発言であることをご理解いただけたらと思う。

1年間の活動報告を纏めてみたのだが、初めは纏めることに躊躇した。その成果をひけらかすかの印象を与えるかもしれないと懸念したからである。また、謙虚に静かにこの1年間を終わりたいとの気持ちもあった。

だが、やはり纏めてみることにした。できるだけ客観的に、また冷静に1年間を振り返ることの意味を尊重したいとの結論に達したからである。

ロータリーは一人ひとりの会員があってクラブを作り、クラブがグループを作り地区を作っている。地区は一人ひとりの会員の金銭的サポートを受け、またクラブ運営のあるべき姿を提供する責任を負っている。とすれば当然、地区が会員の期待にどれだけ応えたかの自己検証の責任があるのではないかと考えたからでもある。

難しく考えては切りがない。一切の懸念を払拭し、とにかく纏めてみることにした。原案を用意し、何人かの関係者のご批判もいただいたうえで、下記「2002-2003年度努力したこと」を作ってみた。会員諸子の更なるご批判をいただければ幸いである。

・年度始めに掲げた地区目標・

1. 家庭に慈愛の種を播きましょう
2. クラブに慈愛の種を播きましょう
3. 職業を通じて慈愛の種を播きましょう
4. 地域社会にそして国際社会に慈愛の種を播きましょう

具体的な作業として次のようなことを行った。

1. DLPの完全実施

地区リーダーシッププラン(DLP)の完全実施に向け、その主旨説明に12名のガバナー補佐エレクトとクラブの会長エレクトと話し合いの機会をもった。

2002-2003年度のガバナー公式訪問は合同例会を原則とし、27か所の合同例会を実施した。

また従前のガバナーのクラブ協議会出席はガバナー補佐をお願いした。

2. 機構改革

RIの指導方針により青少年交換委員会は国際奉仕委員会から新世代委員会の所属とした。新たに家庭奉仕委員会、米山学友委員会、友情交換委員会、ライラ委員会、100周年記念委員会を新設した。また次年度新設予定の子ども奉仕委員会の検討準備を行った。

また、個々の委員会のロータリー全体の枠組の中で位置付けを明確にするために組織図の変更を行い、それに基づき活発な活動が行われた。

3. 財政の改革

ロータリー財団への寄付目標額はアナハイムの国際協議会にて従来の32万ドルから25万ドルとした。地区予算の緊縮化を図り、かつ会計はガラス張りとした。事業予算は大幅に減額し、基本的には年度収入範囲で支出を賄い、とくにガバナー事務所費を大幅にカットした。

4. 広報の促進

『ガバナー月信』の内容を充実し、トップダウンとボトムアップの記事を調和させた。ページ数の増加分の収支改善に有料広告を取り入れた。また、顔写真入り『会員名簿』の作成により、会員相互の親交が図られた。各クラブ活動が活発となり、その活動内容は『月信』のほか新聞紙上にもしばしば報道された。市民講座も始まった(職業奉仕委員会)。

目次

ガバナーレター	小林 博	2	クラブ活動紹介	38
2002-2003年度 努力したこと		3	千歳RC・栗山RC・恵庭RC・札幌東RC・札幌西北RC	
最近の歴代RIテーマ		4	春楡奨学会の紹介	43
この1年間を振り返って		5	中国の看護師との交流を10年間続けて	43
ガバナー補佐・地区委員会			国際大会(ブリスベン)のグループ討論から	小林 博 44
両雄、相まじえた365日		15	会員の声	45
2002-2003年度 ガバナー補佐座談会		20	佐々木敦(札幌真駒内RC)・久住八郎(栗山RC)	
地区運営を振り返って		25	吉本 勲(深川RC)・米山道男(札幌北RC)	
喜びをともに・新入会員紹介		27	ポリオの街頭募金に挑戦!!	47
山谷紀巳夫会員 青少年交換学生へ奉仕		27	米山財団への寄付状況一覧表	48
ガバナー日記		28	ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます	49
地区活動紹介		33	米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます	49
洞爺湖RC・家庭奉仕委員会・地区幹事 米山道男			会員増減数・出席率報告	50
友情交換委員会・次期子ども奉仕委員会			『ガバナー月信』全13号の編集を終えて	竹原 巖 51
国際親善奨学金委員会・国際奉仕委員会			計報	51
第13回JGFR北海道大会成績表		37		

5. 地区大会の見直し

大会プログラムのサイズを変え、内容の充実を試みた。大会初日は記念フォーラムなど主に研修の機会とし、2日目はアグネス・チャンの記念講演など祭典的なものとした。華やかな演出を避け、大会時間の短縮・効率化と経費の節減を図り、また懇親会は遠隔地会員のことを考え昼の開催とした。

6. 継続活動の検討

単年制の原則のもとに、案件によってはその継続性を検討した。そのため年度間にわたる引継ぎ、連絡、討論の機会を設けるようにした。ロータリーの友委員会(旧雑誌委員会)の委員に前年・前々年・次年度委員を配したのもこの主旨によるものである。

7. 国際奉仕の進展

2000-2001(遠藤ガバナー)年度から始まったスリランカへの病院ベッドの寄贈は2001-2002(岩城ガバナー)年度に引き継がれ、今年度までにベッド800台のほかサイドレール300台、点滴スタンド40台、車椅子10台、マットレス900枚を送った(WCS委員会ほか)。また国別交流会がロシア、スリランカで始まった(国際奉仕委員会)。

8. 討論する雰囲気

自由にものを言える雰囲気はロータリーの活性化に必須であるとの大前提で、クラブ、委員会などロータリーのあらゆる集会は単に他人の発表を聞くだけでなく、各人が自由に意見を述べ積極的な討論をするようにお願いした。5回にわたるワークショップの開催もその狙いのもとに試みたものである。

9. アンケートの実施

クラブ奉仕委員会の主導の下に2710地区(広島・山口県)との同時施行によるロータリアンの意識調査のためのアンケートを実施した。2710地区との違いは女性会員に対する寛容さが当2510地区で低調なことであった。詳細は『月信』に掲載された。

10. 2500地区との共同作戦

わが地区大会に2500地区(北海道東半分)のガバナー、パストガバナーに声を掛け、およそ半数の方の参加をいただいた。ビチャイ・ラタクルRI会長の札幌での歓迎会は一緒だったし、国際大会(ブリスベン)の北海道ナイト(友情交換委員会)も共同主催とし、北海道がまとまった一つの夢をもつように心がけた。

反省点

1. DLPの実施によりガバナーはいくらか身軽になったが、ガバナー補佐は大きな負担を強いられることになった。一方、公式訪問を合同例会のときにしたり、クラブ協議会に出席しなかったためガバナーと各会員との関係が稀薄になったかも知れない。
2. 委員会の数が増えたための予算増に対する注意が必要となった。
3. 財団寄付目標額を下げたことで、寄付意欲を削いだかもしれない。
4. 会員増強をあまり強調しなかったので会員増が思うようにいかなかった。
5. 『地区会員名簿』に72クラブのうち2クラブの協力がいただけなかった。
6. 『月信』の予算はページ数の増加により経費増となった。
7. 地区大会本会議が2日間にまたがったことで、とくに初日への参加のPRが足りなかった。
8. 討論することに不慣れなせいかわorkshopのあり方に一層の工夫が必要となった。
9. 改革に躊躇する声に必ずしも十分対処できなかった。

最近の歴代RIテーマ

年度	テーマ	RI会長
92~93	Real Happiness is Helping Others まことの幸福は、人助けから	クリフ・ダクターマン(アメリカ)
93~94	Believe In What You Do — Do What You Believe In 行動に信念を—信念は行動に	ロバート・バース(スイス)
94~95	Be a Friend 友達になろう	ビル・ハントレー(イギリス)
95~96	Act with Integrity, Serve with Love, Work for Peace 真心の行動、慈愛の奉仕、平和に挺身	ハーバート・ブラウン(アメリカ)
96~97	Build the Future with Action and Vision 築け未来を—行動力と先見の眼で	ルイス・ジアイ(アルゼンチン)
97~98	Show Rotary Cares ロータリーの心を	グレン・キンロス(オーストラリア)
98~99	Follow Your Rotary Dream ロータリーの夢を追い続けよう	ジェームス・レーシー(アメリカ)
99~00	Rotary 2000: Act with Consistency Credibility Continuity ロータリー2000: 活動は一貫実、信望、持続	カルロ・ラビツァ(イタリア)
00~01	Create Awareness Take Action 意識を喚起し—進んで行動を	フランク・デブリン(メキシコ)
01~02	Mankind is Our Business 人類が私たちの仕事	リチャード・D.キング(アメリカ)
02~03	Sow the Seed of Love 慈愛の種を播きましよう	ビチャイ・ラタクル(タイ)
03~04	Lend a Hand 手を貸そう	ジョナサン・マジアベ(ナイジェリア)

この1年間を振り返って

● ガバナー補佐 ●

君子之交淡如水

第1グループガバナー補佐 吉本 勲



君子ノ交ワリハ淡キコト水ノ如シ。これは荘子の言葉の前半である。後半は小人之交云々と続くのだが、この際は前半についてのみ触れたい。

中国文学の泰斗吉川幸次郎氏はこの君子を紳士と訳しておられる。つまり、紳士の交際は水のようにあっさりとしてわだかまりがない、の意である。いかにもRCの紳士にふさわしい言葉のようであるが、現実にはあっさりし過ぎて蒸留水のようなが多い、と長く思っていた。私は老荘の徒ではないから、もう少しコクのある交際の方が好きだ。

今年度第1グループガバナー補佐を仰せつかり、小林ガバナー、他グループガバナー補佐、各クラブ会長、一般会員の方々と広く、またいささか味わい深い紳士の交際を結ぶことができたのは幸せであった。皆様に深謝申し上げつつ、補佐を去るの言葉としたい。

ガバナーの掲げる改革に承えて

第2グループガバナー補佐 藤原 税



前年度の羽幌のIMでガバナー補佐の指名をうけ、年度の始まる半年前から始まった会長幹事会の「まだ」から次年度にバトンタッチする時期の「もう」への時間の経過は早かった。

その間、DLPの完全実施の年度ということで、ガバナー補佐出席によるクラブ協議会、合同例会方式によるガバナー公式訪問等、初めての試みも経験しました。また、各クラブ持ち回りの会長幹事会で意見の交換・調整を行い、顔写真付会員名簿作成・ガバナー月信等、ガバナーの掲げる改革にもグループ内各クラブの賛同を求め、芦別・赤平クラブが共同で受入れてきました。

グループ内クラブの協力を得て実施したGSE受入、第1第2グループ共同開催での最後の合同IMと、それなりの成果はあったと考えてはおります。

しかし省みて地元地域への奉仕を考えたとき果たして私が、クラブが、グループ全体として顔がどちらを向いていたのか反省もしながら、創立以来30年以上の歴史を持つ第2グループ各クラブのこれからの変化に対応できる柔軟性に期待致し、お世話になった皆様に深く感謝申し上げます。

グループ内の融和に前進

第3グループガバナー補佐 辻野 修



6月21日、グループ8クラブの最後の会長、幹事会を終えてやっと補佐の仕事が終わったと言う実感を持ちました。小林ガバナーの「新しい事への挑戦、ロータリーの改革」に共感を覚え、私なりに各クラブの会長、幹事さんのご協力を得て新しいことに取り組んで来ました。

グループ内8クラブを一つのクラブとして捉え、事業を進めて参りました。例会中の禁煙をグループとして宣言したのはその表われです。又、IMも従来の型にとらわれず道民の森を会場として屋外でのパーティーも印象に残るものでした。グループ研修会もテーマを「本音で語ろうロータリー」とし成功したと思っています。親睦活動にも力を入れ、ゴルフ、麻雀、ボーリング、パークゴルフ等多くの会員の参加を頂きました。この一年間補佐としてガバナーと各クラブのパイプ役に徹し、又、グループ内の融和に努めて一年間実のある活動が出来たことに満足しております。今後は又一会員としてロータリー活動に励みたいと思います。小林ガバナー他関係の皆様のご指導に心から感謝し退任のご挨拶とします。

大きく広がった人の輪

第4グループガバナー補佐 村山 正



何はともあれ一年が過ぎました。一昨年のクラブ会長に引続いてのガバナー補佐でしたので、ホッとしていますというのが、いつわらざる心境です。

グループ内各クラブのクラブ・アッセンブリー、会長・幹事会、ガバナー公式訪問への随行などを含めて、グループ内各クラブの色々な会合、地区の各種行事などに出席した回数は総計38回に成りますが、その他に前年度就任前のプレリユード的な出席が8回ありました。

この一年の間にロータリーを通しての人の輪が大きく広がり、思いがけない旧友とも再会し、各クラブの皆様と親しく成れたのは、大変うれしく感謝すべき事でありましたがそれにしても、出席しなければならない会合が多すぎたのではないかと思います。

小林ガバナーには色々とお世話になりながら、何かと迷惑もお掛けしましたが、想い出深い一年でありました。

大変よい経験でした ガバナー補佐



第5グループガバナー補佐 角掛晴雄

一昨年11月、クラブ会長より次期のガバナー補佐を引受けてくれとの頼み、私身その器ではないと一応はお断りしたのであるが、友人の遠藤正之のバスターガバナーの薦めもあり引受けることにした。補佐の仕事は何のであるか全く判らずとまどっていたが今年度よりガバナー公式訪問の様式が変更となりその日程作りが胃が痛くなる日々をおくっていたが、作りおわってしまったら何時の間にか胃痛が治っていた。行事がかなり煩雑なので補佐幹事を1名おかしてもらった。

当初は種々の活動を活発に行うべく張り切っていたが、昨年9月に長男を亡くし元来私は楽天的であり物事に動じないと思っていたのですが、そのショックの大きさに仲々立ち直れず、加えて本年年明けに体調を崩し、新しく活動をおこそうにも気持が萎えて余り行動が出来ませんでした。最低の補佐だったと自覚反省しております。ガバナー、地区委員並びに傘下のRCに対して誠に申し訳なく心よりお詫び致します。お許し下さい。

何れにしても大変よい経験をさせて戴き勉強にもなりました。今後は一ロータリアンとして奉仕の理想を求めてクラブにも地区に対しても尽くす覚悟です。この1年間のご指導、ご交誼ありがとうございました。

人生の思い出に刻まれた1ページ



第6グループガバナー補佐 近藤徹哉

ガバナー補佐の指名を頂きましたのは、2001年9月末でした。初めての経験をする訳ですので、大変不安を抱きました。2002年4月までに、事業計画を提出の期限で、本当の所、参りました。1年間のスケジュールを書く事でしたので、悩みましたが、なんとか期限までに、間にあいました。

いざ、スタートになり、今思うと、よくやったと、自分で反省して、消化したもんだと思っています。自分は、自分としての個性をどのように発揮するか、を考えました。指名を頂いて、自分が参考になった事は、

- 1・友達「会員」を沢山知りました。「又、自分の売り込みと、自分を知ってもらった事」
- 2・各クラブの現状を、把握できました。「動き、例会の流れ、出席率の問題、中身」
- 3・自分のクラブとの比較「諸々を認識」が分かりました。
- 4・自分の欠点の発見をしました。
- 5・坐忘「ざぼう」の精神を持ちました。そこで、事務局の会員が気持ちよく助けてくれました。なにごと、率先して、いかなくは、ならない事を認識しました。
- 6・ロータリーに入会して、今は自分の人生と皆さんへの感謝の心で一杯です。
- 7・特に、海外への旅では、必ずメーカーキャップしますが、

「今回は、シドニーのノース・シドニー・ロータリー・クラブへ出席—6月5日、現地で暖かく迎えてもらいました。ロータリーの特権と思っています。」

8・自分の財産「知人、勉学」を得ました。

ガバナー補佐でないと、経験できない事が沢山ありましたので、会員の方が、是非受けて、経験をして頂く事を切望して止みません。特に、自分のクラブの会員の暖かいご支援、理解、援助に深く感謝申し上げます。また、地区の役員のかた、小林ガバナーの心の深さを知りました。紙面を借りまして、只只、感謝と感激で一杯です。本当にありがとうございました。

私の人生の思い出の1ページに刻まれる事です。

3つの提案 ガバナー補佐



第7グループガバナー補佐 和田次彦

上半期はクラブ例会・クラブ協議会訪問及びGSE受け入れ等で大変忙しく、また、下半期にはガバナー補佐の善悪の評価につながるIMが活動の中心でありました。

IMにつきましてはこれまでとは違った視点に立脚した内容を考えておりましたので、各クラブには事前にその趣旨を説明したわけではありますが、結果に対する自信はありませんでした。

いずれに致しましても無事何とか終えることができ、グループ内各位に心からお礼申し上げます。

1. ロータリー活動の今日的課題について
各クラブ共通の問題として会員の減少と拡大の困難さが挙げられる訳ですが、言うまでもなくこのことに関する特効薬など存在いたしません。ただ、減少及び拡大、ともに言えることはクラブの活動をより活発にすることであり、さらにその活動が地域作りに確かに貢献していることと認識されるものであることが非常に大事なことでもあります。そのためには活動テーマは、より検討されたものでなければなりません。特に今日のように私たちを取り巻く諸環境が非常に厳しい時代においては、取り組み課題が「何か」によって地域社会から受ける認知の度合いが大きく違うことなのであります。そうでなければ私たちの活動は、単なる慈善団体のそれと同じとしか受け取られないからであります。
2. 青少年交換留学生について
各クラブとも、このテーマに関してこれまで積極的に取り組んできた経緯がありますが、しかし会員の減少などに伴うクラブ運営上・財政上の問題で、今後とも継続的にこの事業に取り組むことが非常に困難となっております。各クラブとも、数年に1度の割合でしかこの事業に取り組めないというのが実情であるといえます。
よって、このような状況を踏まえ、今後は複数クラブで、またはグループ内事業として捉えられないであろうか、グループ内協議を要する条件といえます。
3. 情報共有化の必要性について
現在ロータリーが抱えている問題点のひとつとして、クラブ及び地区、そしてRIとの一体化の欠落ということが上げられます。
確かに地区及びRIからは文書などをもって各種の通達などがクラブに流れますが、しかし、現実には「地区が、特にRIが何をやっているのかよくわからない」というのが会員各々の思いであります。
運動活性化のために、例会セレモニーの中に地区及びRIアワーを設け、パソコン(できる限り映像を使って)によるリアルタイム情報を流すべきであります。
今日的方法による情報の共有化は、運動意識の向上につながるものであり、今やアナログの存在となつたロータリーを時代に即した運動体として生まれかわさなければならぬと考えます。

ロータリーとは多くの仲間を作ることだ



第8グループガバナー補佐 郷司公雄

私の補佐の仕事は2002年1月12日から始まった。すなわち、小林ガバナーエレクト(当時)が、自らの考えを第8グループ内次期会長会議で披露した日であります。

DLPに基づく、合同公式訪問、会員名簿の作成、ガバナー月信の全員購読等々、いずれも各クラブから、理解を得られるのだろうかと言う心配であります。しかし、

ガバナーの熱意が全ての不安を解消していただき、私は貴重な人生経験をさせていただきました。また、ロータリークラブとは何かと言うのも私のテーマでした。各クラブを訪問して、心温まる出会いがありました。ガバナーを始め多くの地区役員、他のクラブ会員、ガバナー補佐の仲間との出会い、貴重な体験をさせていただきました。「ロータリーとは、多くの仲間を作ることだ」。この経験を、今後の自クラブの活動に生かしたい思います。

1年間、ご指導いただいた方々に感謝の意を込めて「ありがとうございました」。

「慈愛の種」から「改革の花」を咲かせよう



第9グループガバナー補佐 齊藤修弥

2002-03年度RIテーマは「慈愛の種をまきましよう」であった。改めてこの1年間を振り返る時、このテーマの重さに驚きの念を禁じ得ない。慈愛の種を播くとは、個人が自分の意思で新たな行動を開始することを意味している。したがって「家庭に、クラブに、職業に、地域社会に、国際社会に種を播く」とは、これまでとは異なった種を自分の責任で播くことに他ならない。

この事は言葉を代えれば「現在のロータリーを改革しよう」というメッセージではないだろうか。小林博ガバナーはこのテーマを正面から受け止め、1年間の全力疾走を行った。小林ガバナーのソフトではあるが情熱と迫りに満ちた叱咤激励を受けての補佐活動は、歯ごたえのある又楽しいロータリー運動であった。

私達の目指したロータリーの改革は確かに一定の成果を残したと思うが、「ローマは1日にしてならず」の格言を胸に、今年播いた改革の種が将来大きく開花するよう、1メンバーとして心新たに組み込んでいきたいと自省しているこの頃である。

地道な活動に頭が下がる思い



第10グループガバナー補佐 遠藤哲二

平成13年12月、小林博ガバナー(当時エレクト)が来函され、ガバナーのロータリーに対する情熱に圧倒されました。

私がガバナー補佐に任命され、以来ガバナーの熱意を各クラブにどのように伝え、その改革を受け入れてもらうか? 各クラブの意向をどのように地区に反映させるか? を考えてきましたがガバナーの考え方を浸透させることが出来たかどうか分かりません。

各クラブを訪問して感じたことは夫々のクラブに特徴があります。その優れたクラブ運営はクラブの先人が培ってきたものです。しかしリーダーによってその方向が簡単に変わる可能性があることも感じました。

この不況下で小さなクラブが会員増強に苦勞しながら成果を挙げていますし、各クラブが地域へ色んな形で奉仕活動をしていますし、地道な活動に頭の下がる思いもしました。

1年間ガバナー補佐をさせていただいたお蔭で優れた人々を知ることが出来ました。他のクラブにも沢山の友人を得ることが出来ました。これからの私の人生を豊かにしてくれるものと感謝しております。ありがとうございました。

ガバナー補佐の軸足



第11グループガバナー補佐 松見修二

01年12月13日函館で小林ガバナーとお逢いし、ロータリーを変えよう、変革をしよう、トップダウンではなくボトムアップを目指そうと語られ、その熱い思いに誘発されて以来1年半が過ぎガバナー補佐の役務を終ろうとしている今、ガバナー補佐の軸足はどちらに有ったのだろうか。各クラブを訪問しガバナーや地区の情報を伝達する時の軸足は地区に在りトップダウンとなり、各クラブから頂く意見或いは要望はボトムアップでありこの時の軸足は当然グループと、クラブに置かれるものと思われれます。DLP完全実施は様々の矛盾を感じます。各クラブ訪問を4回以上行う規定についても改善の余地があると考えます。クラブ訪問は上期、下期共に1回とし、余った回数は各クラブ会長、幹事次期会長との連絡協議会でどうでしょうか。時間を節約しましょう。

今回のAG座談会ではロータリーに寄せる思いを、同じ目線で語り合い時間の経過を忘れさせました。今期はこれで終わった。と言う思いと、終わってはいないと言う思いがそれぞれ複雑に胸に去来します。私の職業の建築を引合いに考えるなら、物造りには完成があり、さらに使われて建物の目的と機能が評価されます、しかし、ロータリーには完成は無く、評価と結果が次年度或いはもっと先に現れて全てが過去形に成ります。

私の好きな名言に「麻につるる蓬」があります、何時の日か今期蒔いた慈愛の種が大輪の花を咲かせることを期待します。

手ごたえのある一年間でした



第12グループガバナー補佐 川田憲秀

経済環境の悪化の中、会員の減少が問題視されている状況で、地区カバナー補佐会議の内容は、実に有意義なものでありました。①会員の質と量の問題②世界で最初に出来たNPOとしての国際ロータリークラブの自覚③形式を重んじるための多額の費用の削減④国際ロータリークラブの悪しき慣習の問題⑤勝利宣言をしたはずのポリオプラスの問題⑥会員名簿の作成⑦カバナー月信などなど、多くの議論が出来た充実した1年間でした。

聖域を設けることのないロータリークラブこそ、二十一世紀に、人類に貢献できる団体として存在できると信じます。カバナー・カバナースタッフ・そしてアシスタントカバナーの皆様にお礼を申し上げます。また、グループの各クラブの会長・幹事の皆様にも、深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

この1年間を振り返って

● 地区委員会 ●

アンケート実施が大きな収穫



クラブ奉仕委員会 委員長 神代利臣

今年度の当初計画としては、各クラブのクラブ奉仕委員長による「委員長会議」を開催し、クラブ奉仕をより活性化する方策等についての意見交換をしたいと考えた。この件は、委員長が長期不在に近い状態に陥った為、開催できなかったことが残念であり、且申し訳なく思っている。

しかし一方、当地区では恐らく初めての試みである、地区内全会員に対する意識調査を実施できたのは大きな収穫であった。

このアンケートは小林ガバナーの強いご懇願によるものであったが、回収率が50%というのには不満が残った。とは言え、多くの良心的ロータリアンのご協力により、所期の目的はある程度果すことができたし、会員の素直な声を聞くことができたのも大変良かったと思っている。

尚、このアンケートの集計・整理・図表化等については、竹原地区幹事・阿部事務局員の献身的なご助力をいただいた。この場をお借りして厚くお礼申し上げたい。

また、その後の分析・結果発表は、金子・近藤・羽部・矢橋各委員の分担によるものであり、そのご苦勞にも心から感謝申し上げたい。

職業奉仕理念の強調充実



職業奉仕委員会 委員長 富岡政治

1 ロータリー市民講座の開催

地区職業奉仕委員会主催のロータリアン講師によるロータリー市民講座を開催致しました(ガバナー月信11月号所収)。

(1) 第1回ロータリー市民講座

- ①日 時 平成14年10月7日
- ②場 所 札幌市中央区民センター
- ③講 師 北大医学部名誉教授 小林博(ガバナー)
- ④演 題 「がんと人間」
- ⑤参加者 約80名

自分又は家族ががんにかかっている市民も多く、全国各地からの市民が多数参加され、熱心に小林講師のがんと向き合う対処法の話に耳を傾け、又、多数の質疑応答がありました。

講義が終わった後も多数の市民が残って小林講師に質問をしていました。

(2) 第2回ロータリー市民講座(ガバナー月信6月号所収)

- ①日 時 平成15年4月2日
- ②場 所 札幌市中央区民センター
- ③講 師 税理士 金坂和正
(札幌真駒内ロータリークラブ)
- ④演 題 節税のポイントはどこ？
税について誤解があります
- ⑤参加者 約40名

私達主催者側からすると、中小企業者とかアパート経営者等の税金について一般的日常的に関心を持っている市民が参加すると思っていましたが、約40名の参加者の60%以上は一般主婦であり、第3回ロータリー市民講座は何時開催されるかという質問が次々と寄せられ、ロータリーの専門職種を活かしたロータリー市民講座について市民から大きな期待をされていることを実感しました。

2 10月のロータリー職業奉仕特別月間について

10月職業奉仕月間について、地区内7クラブからの地区職業奉仕委員による職業奉仕卓話の講師を分担派遣してほしいとの要請に応じ、職業奉仕理念と実践活動についての普及に努めました。

3 地区協議会の第4分科会(職業奉仕部門)の

運営の実施

2003年4月19日に千歳文化センターにて開催された地区協議会にアドバイザーとして、野口バスターガバナーのご協力を得て、各地区職業奉仕委員の協力分担のもと、充実した職業奉仕分科会を実施することが出来ました。

4 ロータリーの金看板というべき職業奉仕理念の

より一層強調充実させる必要性について

2003年4月25日札幌パークホテルにおいて開催された歓迎昼食会において、ラタクルRI会長は「He protits most who serves best」の標語が板橋RI理事をはじめとした日本のロータリアンを中心とした努力によって、今後も国際ロータリー標語として使用継続されることとなったことのお話があり、ロータリーの根幹ともいべき職業奉仕理念の高揚に今後とも努力しなければならないと地区職業奉仕委員会委員一同改めて感銘し、決意した次第です。

クラブの現状と悩みに学ぶ



地区社会奉仕委員会 委員長 対木正文

地域社会から真に喜ばれる奉仕活動とは何か？ 会員の減少や予算面での悩みを抱えながらどのように奉仕活動したら良いのか？ 奉仕活動のマナー化を

防ぐための方策は何か？ ロータリーの奉仕活動の広報はどこまで許されるのか？ 地域社会に密着した活動は会員増強に役立つのか？ これらの問題を話し合い、情報を共有化するため、地区内5カ所（函館・余市・札幌・苫小牧・滝川）で7月から10月にかけて、社会奉仕に関する情報交換会を開催しました。地区委員会としてもクラブの現状と悩みを学ばせていただきました。ご協力いただきましたガバナー補佐とお世話いただいた地元クラブに心から感謝申し上げます。

また、地区委員会では、2002-2003年度各クラブの社会奉仕活動の内容をデータベース化しました。今後の地区内での社会奉仕活動の参考にしていただければ幸いです。

大きく変わった家庭奉仕の意識



家庭奉仕委員会 委員長 和田 三三

上磯RCの大場、札幌西RCの高下、新札幌RCの水野、札幌大通りRCの長谷川の4名の委員と共に苦闘した1年でした。

委員会は5回、勉強会は4回開催し、全員が参加しました。

北九条小学校における課外授業“みんな仲良く家庭のこと”を実施、苫小牧での社会奉仕活動情報交換会への参加、第4、第5グループのIMにおけるシンポジウム“慈愛の種を家庭から”の実行、その成果を25分のビデオにまとめる作業の実行、“家庭奉仕をテーマとするワークショップ函館”（松見ガバナー補佐、鍋谷地区学友委員長の協力を得ました）の開催、洞爺湖における第5回ワークショップ“大人は子供たちのために何が出来るか”への参加などが主な活動内容ですが、委員自身の家庭奉仕の意識が、大きく変わったことが最大の成果だったと思います。何時もガバナーからの示唆に富んだアドバイスが支えになっていました。感謝申し上げます。

（次期は、ロータリアンや更には、職場、地域の方までこの成果を及ぼすことを目指したいと思います。）

地区活性化に挑戦



国際奉仕委員会 委員長 青木 功喜

小林年度、初めて発足した友情交換委員会は、金井初代委員長が米山地区幹事と共に、2510地区に新しい風を入れ、地区活性化に挑戦しました。

電通の最近の調査によると、ロシアを重要な国と思う日本人は63%になっていると云う結果が示されています。従来ロシアと日本は色々な思い込みがありましたが、この際その思い込みは洗い流し、変な先入観は改める時になっています。世界は敵と味方と考えるのではなく、その間には多くのひだが存在します。画一化された価値

観に左右されないで、お互いの文化の多様性を守る事が国際理解のために大切でしょう。

論語に「学びて思わざればすなわち暗し思いて学ばざればすなわち危し」という言葉もあります。すなわちロシアと我が国の間は知る事よりも判りあう事が大切です。

時代は否応無しに変化して行きます。規則は守るためにあるのではなく、これを利用して結果を出すためにあるべきです。日本人は理屈が好きで、実践的でないと云われます。

昭和10年生まれ世代は、従来の級長は選挙で決めました。すなわち民主主義を体で教わりはじめた時代でした。その点それ以前の人、理屈で判っても、体で判れないのは当然でしょう。それが時代の流れです。

お互いを理解しあう心が、この友情交換委員会を通じてロータリーに拡がって行く事を心から願います。

各クラブの独自企画に協力



世界社会奉仕委員会 委員長 土倉 裕之

この1年間で活動の内容が変わりつつあります。以前は地区委員会がプロジェクトを策定してそれに各クラブが参加していただくといった活動でしたが、昨年度あたりよりクラブ独自での活動が増えてきました。この1年間でも、コロンボロータリークラブ中古ベッド寄贈（千歳ロータリークラブ・千歳セントラルロータリークラブ）・インドネシア図書館援助（新札幌ロータリークラブ）・ミャンマー孤児院資金援助（札幌東ロータリークラブ）・コロンボロータリークラブ中古ベッド寄贈（札幌南ロータリークラブ）・Wheel Chair Foundationに車椅子資金寄贈・パペナ基金に資金援助（岩見沢東ロータリークラブ）のように各クラブが独自に企画したプロジェクトに地区委員会が協力する形に変わって来ました。

今後も各クラブの協力を得ながらロータリーの輪を広げていきたいものです。

活動にひろがり生まれる



親睦活動委員会 委員長 植田 英隆

親睦活動委員会としての活動、まとまった形での活動とはなりません。従来の地区行事、全国同好会行事については、それぞれこれまで関係を持って、活動されてきた地区内の同好会員などの手により、粛々と進行、それぞれの成果確認されてきました。

ヨット、ゴルフなどに加え、囲碁などその活動のひろがりもでてきています。これまでより、趣味親睦の活動されてきている方々より、ピックアップしての委員会体制をとりましたが、機能する点ではまったく不十分に終わりました。自覚、取組み方についての姿勢に甘さのあ

ったことなど、主として委員長に起因するものであるものが大きかったことは、申し分けなく思っております。ただ、趣味親睦活動の地区としての活動はこれからの課題として持ち越されました。ポイントをしぼり、肩肘はらないことでの、わかりやすさ、今期も必要であったことでした。性格づけと簡素なわかりやすい活動はどうか、かかえたなかでの1年でした。

2003-2004年度への移行にあたって、確認の甘さがあり、ご迷惑をかけた点がありました。そうしたなか新年度の委員長、委員の方々の気持ち姿勢には、本当にロータリー精神の現われと感謝しております。

私個人として、地区とクラブそして会員といった関連のことで、考える体験をさせていただいた機会だったこと、最後に申し添えます。

ロシア・中国の勉強会結成に目途



友情交換委員会 委員長 金井重博

地区で初めて出来た委員会の委員長をさせて頂きました。米山地区幹事のアドバイスと特段の協力とご指導を頂きながらも、私自身非力で、年度事業にした国際部会の立ち上げに大変難行いたしました。

何とか予備調査と国際ワークショップなどの懇談を通じてロシアと中国の勉強会の結成の見通しがつきました。

次年度も委員長の就任を要請されていますので、継続事業として努力いたします。ブリスペンでの北海道ナイトも皆さんの協力で、110人ご参加いただき喜んで頂きました。

地域への積極的な広報を



広報委員会 委員長 城木浩一

奉仕団体を辞書でひくとロータリークラブ等と出てくれば、報道機関にとってロータリーの奉仕活動はもう当り前の話で、ニュース性がない。陰徳を積むのが良いとか、良いことをして広報するのは偽善的だが、活動を円滑に実施するためには広報が必要だ、と言った積極的な広報がこれまで多く語られてきた。

しかし、世界平和のために国際理解を深めようとしているロータリーの活動は、自分達だけの国際交流で良いのだろうか。もっと、地域の人々への積極的な広報が必要であろう。更に、世界的な不況が永年続くと人の心はすさみ、悪徳商法がはびこって来る。高い倫理観に基づく商業道徳は経済活動を活性化させるためにも、もっと広報されなければならぬ。と言った積極的な広報が最近求められている。ロータリーは時代の変化や世界情勢によって変化する。

3月12日のワークショップにおいても、『ロータリーの友』編集長は広報を宣伝ではなく、パブリック・リレーションの確立と積極的にとらえていた。

ポリオの広報も中々浸透しないが、3年計画の最後にはきちんと2510地区の善意が集まると信じている。他地区の努力で目標が達成されたから、私達はもうやめたとすることにはならぬだろう。ロータリアンではないが、札幌医大出身の千葉靖男先生がポリオ撲滅のため、現在も東南アジアで大変なご苦労をされている講話を、赤平の第1・第2グループIMで聴いた。本当に教えられることの多い1年でした。

「回首原点」の心で運営に尽力を



情報委員会 委員長 亀井敏清

毎月号の『ガバナー月信』に掲載されたQ&Aには多種多様なロータリーに関する質問がありました。規定に関するもの、クラブ運営に関するもの特に難解なものはありませんでしたが、ロータリーに関する関心が現れているものばかりです。まさに“小さな疑問が大きな扉を開く”です。

最近のロータリーの変化の速度は益々早まってきました。在籍15年以上でクラブ中堅の会員と新会員とのロータリーに関する考え方、取り組み方に格差が出ていないでしょうか。

当地区でも最近年毎に新しい企画が採用されています。時代の流れといってしまうとそれまでの話ですが、そのために失っているものがないかどうか。ロータリーでの「不易流行」時代とともに変わってゆくものとロータリー哲学に基づく変えてはならないものがある筈です。

クラブ情報委員の皆さん「回首原点」ロータリーの心を尋ねながらクラブ運営に尽力してください。

新しい委員会の悩み



ロータリーの友委員会 委員長 佐藤 公

今年度「雑誌委員会」として発足しましたが、途中から「ロータリーの友委員会」に改称しました。メンバーは現委員長を含め4名。会期中に5回委員会を開催。メイン活動となったのは4月に開催されたロータリーの友、広報、IC、月信編集各委員会との合同ワークショップ。「ロータリーの友」二神編集長をゲストスピーカーに迎え有意義な内容であったが、時間からみてロータリーの友委員会1本に絞るべきであった。

1年間を振り返っての課題は、地区内の雑誌委員会(次年度からロータリーの友委員会となる)との連携、コミュニケーションをどう図っていくかということ。委員長

を招集しての会議もよいが、基本的な活動を各クラブでどうやっているかを把握することが大切と痛感すると共に、またその把握の難しさを感じた次第。現委員会メンバー4名は皆、理論と経験をお持ちなのでこれからの活動に期待を乞う。

電話やFAXとともに 地区委員会



IC委員会 委員長 山田信夫

インターネットはデジタルデータ在りきのコミュニケーションツールです。

デジタルデータをみんなで作り、みんなで利用することにより世界中で広がってきました。

その代表格がホームページですが、当地区のホームページは文献資料室と制作スタッフのご努力により全国でも屈指のすばらしいホームページです。参照カウントも約11,500にも昇っています。

また、Eメールではメールマガジンの配信先も期首220件が現在は306件と確実に増えています。

この1年間の地区内会員の方からのEメールは約330件、内容は例会変更、活動報告など様々ですが前年度に比べ格段に増えています。

低コストで便利性の高いインターネットが電話、FAX、郵便などとともにコミュニケーションツールの一つとして認知された年度といつてよいでしょう。

ぜひこのもう一つのツール“インターネット”を手にかけてください。そしてこれらのツールをうまく使い分けましょう。

貴重な文献を次代に伝える文献資料室



文献資料室 委員長 塚原房樹

数年前から地区のIT化推進をお手伝いして来ましたが、今やインターネットがロータリーの通信伝達手段として主役の座につきました。毎日洪水のようにロータリー情報がネットを通じて流れてきます。しかしこれらの情報はほとんどロータリーの管理・運営・実践に関するデータで、ロータリーとは何かという本質に触れたものではありません。

今のロータリーは実践を主とした単なるボランティア団体となりました。しかし実践はどこまでもロータリーの目的と理論の上に展開されねばなりません。その点ロータリーの理論を知るには、歴史の淘汰に耐えた思想の殿堂である文献を訪ねる必要があります。そしてその理論の根本をなすものこそロータリーの哲学なのです。その意味で貴重な文献を次代に伝えることが文献資料室の任務です。

Enjoy Rotary 地区委員会



新世代委員会 委員長 奥貫一之

「エンジョイ・ロータリー」何時の年度だったかRIの標語がありました。今でも私の一番好きな言葉で、楽しくなくてはロータリーでないという思いで私は奉

仕活動に取り組んでまいりました。1年間の新世代活動を通してでも色々な思い悩みがありました。そんな時はポール・ハリスの原点に帰る事にしています。四つのテストが明解な答を与えてくれます。特に4番目の「みんな為になるかどうか」を「新世代のためになるかどうか」と置きかえて全ての意志判断をしてきました。この気持は新しい年度も持ち続けてゆきたいと考えております。

究極の新世代プログラムと言われている「ライラセミナー」で象徴される、ロータリープログラムの中での異なる新世代関連委員会同志の協力関係の育成を大きな柱として小林年度は十分成果をあげられなかった点を反省し、佐藤年度はしっかりと歩んでゆくつもりです。

多くの人たちの奉仕によって



ライラ委員会 委員長 宮崎 善昭

ライラセミナーは今年度から、ジュニアクラス(14~18歳)、シニアクラス(18~30歳)までと分離して開催することになりました。セミナーのテーマは「共生」

についてです。基調講演、グループ・ディスカッション、意見発表、奉仕活動などのプログラムを通して参加者がテーマについての関心を持ち、そしてそれを深めることによって自分の価値観形成に役立てることが、このセミナーの大きな目的です。

青少年の柔軟な発想が可能な時期に他者の意見に耳を傾け、意見をぶつけ合い自分との差異に気づき、他者を通して自己変革していく「場」を形成することがロータリー青少年教育の大きな課題であることを覚えます。セミナーの開催、スキーマラソン実施にあたり先輩ロータリアン諸兄、運営の中心となったライラ委員、新世代関連委員、青少年、国際関連委員の多くの皆様のご奉仕に感謝申しあげお礼を申しあげます。

青少年に奉仕の楽しさと喜びを



インターアクト委員会 委員長 細川好弘

2510地区のインターアクト活動は37年前の1965年5月7日室蘭大谷高校インターアクトクラブの発足に始まり、現在10クラブ約180名の会員が各々共同奉仕プロジェクトのみならずリーダーシップ研修行事や青少年・

大人との交流も含めて自己のベストを発揮してユニークな活動を通して真剣に楽しむという、心躍る機会を発見しております。

更に当地区では新世代委員会を中心として0才から30才代に係る奉仕プロジェクトが着実に実施されておりますが、インターアクトクラブのホストロータリークラブが71クラブ中10クラブが提唱されています。ホストである、ないにかかわらず青少年との共同奉仕プロジェクト等を通じて新世代奉仕活動が組み込まれることによって、ロータリアン側の熱意と関心が理解され、反面ロータリアンとしての貴重な役目を果たすことにもなります。

新インターアクトクラブとして元気よく産声が聞かれるようロータリアンの愛の奉仕を新世代に伝えていただければと願っております。

適正に消化された地区行事委員会



ローターアクト委員会 委員長 中塚 力

◎今年度の主な活動内容

1. 地区委員会 RA会長・幹事合同会議
——札幌市
本年度の基本方針・活動計画・その他
1. 地区キャンプ 浜の清掃活動という地域奉仕を兼ね。留萌の海でのキャンプ交流会——留萌市
1. 地区セミナー 地域問題を取り上げ、著者の視点で「函館駅前地区活性化」について考える——函館市
1. 地区協議会
違う意見を議論し合う大事さを学ぶ——赤平市
1. 北海道RA交流会
交流のほとんど無かった2500地区との交流——釧路市
1. 香港キングスパークRA海外研修ホスト
お互いの国の文化、習慣に理解を深め有意義な研修会でした。——札幌市・富良野市・その他
1. グアム海外研修
地元アクター・ロータリアンとの交流会。
北海道の四季、文化の紹介。——グアム
1. 第30回地区大会
この1年間の活動内容の再確認——札幌市
1. ライラセミナー参加——札幌市
1. ロータリー地区大会参加——札幌市

この様に地区行事は予定通り地区・RA・提唱クラブが連携を密にし適正に消化されたものと思います。また、各アクトクラブについては月2回の例会はもとより提唱クラブとの合同プログラム等々、たくさんの奉仕活動として親睦活動を行っております。

本年度は特にRA地区役員が中心となり“自分の事、仲間の事、地域の事、世界の事”に目を向けながら、問題意識と行動力を持って「自分には何ができるのだろう」と考え若さと行動力を武器に活動されておりました。

今後ともロータリー精神のもとアクトらしく素晴らしい活動される事をご期待申し上げます。

青少年交換事業の発展を祈念して



青少年交換委員会 委員長 清水 慧子

地区青少年交換委員長を務めた3年間に、派遣・受入れ(長期・短期)合わせて約90名の交換留学生在プログラムに参加し、幸い一人も早期帰国・早期送還を出さず親善大使の任務を全うしました。私はこれを大変誇りに思います。素晴らしい学生、ホストクラブ、ホストファミリー、ホスト高校、日本語の先生に恵まれました。学生を信じる事、学生と早く信頼関係を築く事がこの青少年交換プログラムを成功裡に導く鍵だと思い、その一念で交換事業を進めて参りました。

念願でありました第2510地区ROTEX名簿も、1995年に再版されたものに訂正を加え2003年度までの約360名を収録しました。ROTEXの中には既にロータリアンとして活躍されている方も大勢います。ROTEXがどこへ移動しても活躍できるように全国組織づくりがスタートしました。青少年交換事業には多くの人々の協力が必要です。ご指導を頂いたガバナーはじめ国内外での多くのお出会いと皆様に生かされている事に感謝し、国際親善・国際交流を担う青少年交換事業の益々の発展を祈念致します。

不安定な世界情勢、今こそ資金面での協力を



ロータリー財団委員会 委員長 森本 正夫

財団委員長を拝命して以来、この何年か口を開けば「経済不況のあおりを受けて、ロータリーでも会員数が減少の一途をたどっている」と言い続けなければならないのは残念なことです。

今年の前半には対イラク戦争がありましたが、このように世界情勢が不安定なときほど、平和と友好を求めるロータリーの各種活動が重要性を増してくるのではないかと思います。会員の皆さんにも、その点は十分にご理解いただいているのは承知しております。つきましては、実際に、意義ある活動が続行できるよう力を合わせて資金面での拡充にご協力を願う次第です。

私としまして、前任者の富山先生の足跡を継いで、財団の活動を次の世代へとつないでいきたいと考えておりますので、今後も引き続きご支援のほど何卒よろしく願います。



各クラブのラストスパートを期待



財団増進委員会 委員長 若狭 吉範

小林ガバナー年度がスタートする前、ガバナーエレクトがアナハイムで2510地区の年次寄付を前年度よりも7万ドル減額して25万ドルでエントリーして来たとの説明を受けた時財団増進委員長の立場で、不景気とは言いながらも皆さんにご協力戴いて100%達成が可能な気がして居りました。

11月の地区大会は丁度ロータリー財団月間に当り、小林ガバナーの大口寄付をPRして景気付けしたことであり年末位には何とかメドが付く様な気もしておりました。

ところが案に相違して月日が経過するに従って状況が非常に厳しいことが判り、地区より各クラブの会長、幹事さん宛2回に亘り寄付増進のためのお願いの文章を発送しております。

4月末日現在に於ける自主申告に対する達成率は73%と言う状況です。余す処2カ月。各クラブさんのラストスパートを信じ乍も大変気の揉める昨今です。

地区大会の記念フォーラムで話題となったRI理事会の決定による「謝意の表明」が、もしこの様なロータリーの現実の運営に影を落すことになれば大きな問題であり、色々な意味で転換点に達してると言われるロータリーの改革は大変道が遠い気が致します。

感動したGSEチーム受け入れ



GSE委員会 委員長 山名 善久

当委員会は今年度RI3830地区（フィリピン）から派遣のGSEチームを受け入れ、多くの皆様のご支援をいただき、無事終了することができました。

彼等は全ての事柄に感動をし、派遣される前に想像していた日本のイメージがことごとく覆され、大きな驚きと感動を素直に表現していました。これもひとえに、プログラムに携わっていただいた多くの方々に深く感謝申し上げますとともに、多大なるご努力に心から敬意を表します。

GSEプログラムは、短期間で極めて大きな効果を期待できる事業の一つと私は考えています。このことは、過去にGSEプログラムに携わっていただいた方々にはご理解をいただけたと思います。しかし、これから先検討しなければいけない課題もたくさんあることも事実です。ひとつひとつこの課題に取り組み、今以上に地区内多くの会員皆様にご支持をいただけるプログラムにしていきたいと考えています。

次年度も皆様のご指導、ご支援を心からお願い申し上げます。今年一年間の当委員会に対するご協力に深く感謝申し上げます。

素晴らしい青年たちの推薦に感謝



国際親善奨学金委員会 委員長 土橋 信男

本委員会の最大の責務は、会員の善意でなされた寄付で与えられている国際親善奨学金を受けるに最も相応しい青年を広く募集し、選考できたかどうかということである。

そのためには、地区内に適切に広報して、本奨学金の存在を知らせ、またその広報を通じて啓蒙することも必要である。それが充分できたかどうかは委員会の評価になる。

本年度選考した奨学生11人は、アジア2カ国（タイ、トルコ）、ヨーロッパ4カ国（イングランド、フランス、ドイツ、イタリア）、オセアニア2カ国（オーストラリア、ニュージーランド）そして米国と、実に9カ国への留学を計画している。特に、アジアの2カ国は初めてのことである。

この9月から出発する留学に備えて6回にわたるオリエンテーションを実施したが、その過程でこの11人はわれわれの期待に十分に答えてくれるという確信を持った。素晴らしい青年を推薦していただいた各クラブに感謝の意を表したい。

初めて開催した「帰国学友報告会」



財団学友委員会 委員長 鍋谷 操子

地区内の各クラブへ「財団学友」の存在意義を高めながら、「財団学友」のロータリーへの協力意識を高めていきたいとの思いから「財団学友会」が発足してから早くも2年が経過いたしました。各クラブには賛助会員として、今年も学友会へのご支援・ご協力を頂き感謝を致しております。さて、今年1月25日に「帰国学友報告会」を地区レベルで初めて、開催を致しました。関係者には多数のご参加を頂いたのですが、学友のスポンサークラブからの参加が極めて少なかったことが残念です。私たちの委員会から各クラブへのインフォメーションが十分に行き届かなかったこともその原因の1つですが、ロータリークラブに於ける「財団学友」への認識の低さを物語っているようです。地区DDFの大半を注入している財団奨学生の成果体験報告をスポンサークラブとしても是非確認して欲しいものです。ロータリー財団月間での財団学友の卓話も「財団学友」との接点を持つことで容易になっていくでしょう。今後とも「財団学友」への理解とご支援を御願いたします。

補助金枠一杯の活用を 地区委員会



補助金委員会 委員長 伏木忠了

年当初活動計画を発表した財団補助金委員会は、財団からの助成金について、各クラブへの情報の提供と財団への補助申請のお手伝いをするのが目的であり、地区内においては、地区社会奉仕委員会や地区世界奉仕委員会と連携しながら、補助金の申請を出していただくためのPRを兼ねて来ましたが、各クラブからの申請はありませんでした。

この補助金制度は、その年度の3年前に、皆さんが寄付した額の60%が地区活動資金(DDF)の枠であり、人道的プロジェクト(補助金委員会)に35,000\$配分されておりましたが、年度内使用が原則で繰越は出来ません。

また過去の事業や委員会資料の引継ぎなどもなく、後手後手になった事を痛感しております。

2003~2004年度から「新しい補助金制度」がスタートしますので、改めて補助金の枠一杯ご活用下さるようPRをしたいと思っております。

思い出深い野外懇親会 地区委員会



米山学友委員会 委員長 見延庄三郎

「米山学友会活動の活性化を図る」と言う基本方針のもとに、委員一同兎に角一生懸命取り組んできた。一方学友会役員の皆さんも我々の支援を歓迎し、陳会長を中心に非常に精力的に活動を開始してくれた。幾つもの行事の支援を行ってきたが、特に5月に小樽で開催した家族ぐるみの野外懇親会では総勢43名、和気あいあいとパーティを楽しみ、ロータリアンと喜びを共有し合えた事は何よりの大きな成果であった。此の間伊藤米山記念奨学金理事始め米山地区幹事や戸井米山記念奨学委員長の懇切な指導や援助があり大変助かった。唯一一番苦労したのは学友会員の消息を把握することで、転居する場合の連絡洩れの為行方がわからなくなることがあることだ。転居時の報告洩れのなきようもっと啓蒙活動が必要だ。いずれにせよ米山学友委員会活動の活性化こそ米山記念奨学制度の重要な仕上げのひとつと見え、二年度目の今年は一層の充実を図りたい。

アゲントの1年 地区委員会



米山記念奨学委員会 委員長 戸井敏夫

本年度をもって、3年間務めさせていただいた地区米山記念奨学委員長を退任いたします。

最終年度の本年は、特別寄付金が減少し、また米山セミナーにおいても制度についての厳しい意見を拝聴するなど、どちらかというアゲントの年でありました。

昨今の経済環境では、やむを得ないものがあるとは思いますが、米山奨学制度も今アンケート等により制度に関する意見収集をし、さらには変わろうとしております。

今後厳しい見方も含めて関心を寄せていただき、日本のロータリー固有のすばらしい事業であります米山奨学制度への一層のご理解をお願いいたします。

最後になりましたが、地区役員を経験して、いろいろな会合や行事で真にロータリーを愛する方々と接する機会を得たことを感謝し、また次年度役員の皆様のご活躍を期待いたします。

成功した大会参加 地区委員会



オン・ツー・ブリスベン委員会 委員長 遠藤正之

当委員会に各クラブから頂いた報告によると、参加者は18クラブ、64名の会員と26名のご家族となっています。イラク情勢、SARS問題等ありましたが、皆様のご理解のもとに成功裡に大会参加を頂けたことに感謝を申し上げます。特に本年度の目玉は二つの「北海道ナイト」を成功させたことと思います。

「北海道ナイト(I)」は奥貫新世代委員長のきめ細かな準備とご苦勞による「元交換留学生との交流の夕」で開会式の前日小林G夫妻も出席され元交換学生7名とロータリアン及び家族28名の参加で大変なごやかに行われました。「北海道ナイト(II)」は、金井友情交換・青木国際奉仕両委員長の緻密な計画のもとに、開会式の直後、午後7時より大会々場横のリッジス・サウスバンクホテルで伊藤元RI理事、2510地区小林G以下88名、2500地区小船井G以下4名、海外より18名の参加があり、国際色豊かな余興、スピーチもあり楽しい会でした。(詳しくは両委員会より報告があると思います。)



両雄、相まじえた365日

you believe in……

この対談記事は、2500地区の小船井修一ガバナーが司会者とともにインタビューのためにわざわざ2510地区ガバナー事務所にお出で下さったときのものです。内容は2500地区の『ガバナー月信』に掲載されているものですが、当地区『月信』にも掲載させていただきます。司会者は2500地区副幹事の瀬野賢二会員（釧路RC）です。

男は責任を背負って、
実行に移さなければならない時がある。
男はあらゆる矢面に立ち、
変革していかなければならない時もある。
そして、もし、この世界にBelieveがなかったら……
コロンブスは大西洋の真中で引き返し、
またピカソは絵筆を置いたでしょう。
コッポラはディレクターズ・チェアを
畳んでしまったかも知れません。
Believe
それは信じることを信ずることであり、

自分を信じる自信であり、人を信じる信頼でもあります。
この世界をもっと素敵にしたいと思うエナジーでもあるでしょう。
ここに己を信じそして人々を信頼し、
365日走り続けた男ふたりが対面しました。
今回、
『月信』最終号では2510地区小林博ガバナーをお訪ねし、
お互いの365日を振りかえって頂きました。
そこには完走したランナーのごとく、
成し遂げたお二人のすがすがしい笑顔がありました。
両雄、1年間たいへんご苦勞様でした。

Q1 6月末をもって2002—2003年度ガバナー職が終了致します。今回、『月信』最終号では2510地区小林博ガバナーと2500地区小船井修一ガバナーに1年を振りかえりながら、今だから言える事、時のエピソード等をお話戴きます。

小船井:小林ガバナー1年間ご苦勞様でした。私にとってはアツという間の1年だったような気がします。また、よくぞここまでたどり着いたとの安堵感もありますが、小林ガバナーの場合は如何な印象でしょうか。

小林:私も同じです。長いようで短い1年でした。正直言って肩の重い荷がおりたという感じです。

小船井:ガバナー職は単年制ですから前年度からの引き継ぎというのはあまりありませんでしたので私なりにやらせて頂きました。しかしながら、単年度制にはプラス面とマイナス面があり問題がたくさんあることがわかりました。

小林:ロータリーにおいてのガバナー職は、原則はその年度の全てを尊重するという事ですが、それだけに捕われると違った意味で思い切った事が出来なくなります。例えば2年、3年に跨がるような長期の企画立案が生まれてこなくなります。本来ロータリーの活動は、長期的に渡って継続していくのがあって然るべきだと思います。クラブ単位では、長期継続事業を数多く見ることがありますが、残念ながら地区レベルではなかったことも事実ですね。

小船井:年度を跨ぐ例えとして仮に「2500/2510地区の合同地区大会をやりましょう。」という意見（例えの話です）があったとします。ところが時のガバナーが地区大会の開催地を決定して行うことになっていますので、その点では、上記の意見は、一切申し送りができないこととなりますね。さまざま

な新しい企画案やご意見があったとしても、それを決定する上では、乗り越えられない厚い壁があるようですね。

以前小林ガバナーからお聞きしたのは「まずそんな事を憂慮する前に仲良くなりましょう。」と言うお話でした。2500と2510地区が人的交流によって仲良くやっていけばいい。互いのコミュニケーションが深まりさえすれば、そこから自然に何かが生まれるという事でしょうか？

小林:カルロ・ラビツアさんがRI会長ノミニーになった時、グレン・キンロスRI会長に呼ばれジェームス・レーシー会長エレクトと三人が一緒になって話し合いました。いつも集まっていたそうです。私もそれに習ってエレクト、ノミニーに雑談程度ですが、お話ししましょうか！と声をかけました。
小船井:諮問委員会というのは良くも悪くも凄惨存在です。しかしながら、「諮問委員会などいらない！」という一般ロータリアンの声も幾度か耳にしました。私はガバナーをやらせて頂いたこともあって諮問委員会の必要性は実感していますが、一般のロータリアンにとっては、まったく諮問委員会の姿が見えていないこともあり、上記のような意見も出てくるのでしょうか。これは、どのように委員会が運営され、どのような協議がなされているのか？が見えてなかったことによるご指摘でもあると思います。

Q2 小林ガバナーが言われたノミニー、エレクト、ガバナーの3人が常にお話していくというのは、いいですね。継続事業が年度を越えて繋がっていく可能性が出るということですから……。

小林:その年度を尊重するのが原則です。その上で何か継続

的なものを考えましょうと言うことです。例えて言うなら、企業の社長が毎年変わってそれぞれが勝手に別々の事をやっていたら会社は成り立っていかないじゃないですか。

人間のかくれた能力を引き出す自由討論は、多いにやるべきです。

小船井:小林ガバナーが開催されたワークショップについて教えて頂きたいのですが。

小林:ワークショップとは、講演会でもシンポジウムでもパネルディスカッションでもありません。ひとつの問題をみんなが同じ目線で討論し、できるだけ結論を導き出すよう努力し、その結論にそって実行することを目的としています。開催のテーマは、「ロータリー情報の今日と明日」から始まり「国別部会：当面の活動計画と今後の展望」・「日頃心がけている家庭奉仕」・「心がけたい家庭奉仕」・「明日のエネルギー問題を考える」・「大人は子どもたちに何ができるか」の計5回開催しました。

小船井:そうですね。まさに単年度制の欠点を指摘されたと言うことでしょうか。小林ガバナーが実践されたワークショップの中で、特に出たい人が出て勉強をする、参加自由意思の考え方に私は、新鮮さを感じました。ロータリーにはIMという事業がありますが、嘗ては勉強会であったのが徐々に親睦の色が強くなってきたことも確かでしょう。IMは分区毎開催ですが、2500地区の分区はエリアが広いためでしょうか、久しぶりにあう会員交流の場の色合いが徐々に強くなってきます。勿論、親睦も大切であると理解しますが、真の勉強の方が気になるころでもあります。その意味でもワークショップは、本音の真剣討議というところがいいですね。大変参考になりました。

小林:私の基本的なスタンスとして大学時代の経験が参考になっているのですが、人間のかくれた能力を引き出すためには自由討論が大切だと考えています。しかしながら、残念ですが、自由討論をする事に多くの日本人は慣れていないこともあります。人間は自由討論を介して自分自身を発見したりすることが出来るところに自由討論のプラス面があると思います。実は、アメリカの国力のひとつの源泉も喧々囂々とおこなうディベートにあります。アメリカ人は、全てにおいて議論する事に慣れていきます。

小船井:だいたい今まではフォーラム形式が多いですね。きちっとした定義があるようでないのが実情でしたし、いろいろな人がさまざまな捕らえ方をしてきました。

小林:ワークショップは、最初から格式ばらず、みんな同じ目線で同じレベルでお話しましょう……から始めます。それは、ある程度勉強してみんなのレベルが一緒、みんなが知っているという前提から始めます。その上で議論を深めるのです。その議論の中から何かひとつを作っていく。作ると共に出来るものなら実行に移していこうという含みをもって討論を仕組む訳です。

小船井:ブリスベンの国際大会の国際研究会もディベートを行っていましたね。是か！非か！の結論にもっていくセッ



ションでした。国際的にもディベートはポピュラーになってきています。小林ガバナーは昨年のアナハイムの国際大会でも発言されていますし、先日のブリスベーン国際大会での2日目の研究会で英語、仏語圏のワークショップの意見発表者としてスピーチされていましたね。世界大会のステージですからね。私などは、とても発表などはできません……。私は日本語ディスカッションに出席するのが精一杯でした。その意味で小林ガバナーは、今年度のガバナー35名の中で出色のガバナーだと私は尊敬しています。

小林:ブリスベーンのワークショップは、私の考えるワークショップと多少違っていました。一般会員がいろいろな意見を言う。いい意見に対してはワッと拍手、そうでないとブーイング、入れ替り立ち替わりに意見を発表し司会者が全体調整をする。それはそれで面白いですが、ある意味では「ガス抜き」の意味があったのかもしれない。

小船井:日本の場合、ワークショップといっても分科会の要素がありますよね。私共の地区を例にとればパストガバナーが講師を務め、一方的に参加者に伝えるというスタイルなんです。お話を聞いていて、この形から早く抜け出し、本来のディベートをしなくては駄目だと感じます。2510地区の小林ガバナーのワークショップ開催の挑戦とその内容の素晴らしさに感服しました。今後、私どもも大いに参考にさせていただきます。その節にはアドバイスよろしく願います。

Q3 ところでガバナー職の中でも最大職務・最大事業に公式訪問と地区大会がありますがこのふたつについてのお話を思い出しながらお聞かせ頂けますか。

小船井:私共の2500地区は69クラブ。私は上は利尻、礼文から下は広尾までまさに北海道を縦断しました。2510地区は72クラブですから私共より4クラブ多いクラブ数ですが如何でしたか。

小林:69クラブ全部を回ったのですか。

小船井:はい！69クラブ全部を訪問しました。クラブ協議会も出ました。大変でしたが今思うと楽しい事ばかり思い出します。

小林:私は昼間を原則に公式訪問は27カ所の合同例会で実施しました。また、クラブ協議会出席はガバナー補佐にお願いしました。地区リーダーシッププラン(DLP)に副っただけのことです。しかし、各クラブの会員とのコミュニケーションが薄くなったという声も実際ありました。小船井ガバナーは

69カ所ですから私の2倍以上ですし、しかもあの広さですからね。やっぱり修一さんの若さが為せる行動力ですね。

小船井: 当地区では過去、公式訪問は上半期中に行っていました。それは、クラブ協議会にガバナーが出席していたからでもあります。今年度はガバナー補佐におまかせするという事で公式訪問は1年を通して行うことが出来ました。これも本年度スタートしたガバナー補佐(DLP)制度導入の成果だと思います。その意味では、過去のガバナーは凄かったんですね。実は、パストガバナーの方からクラブ協議会も出席せず、合同公式訪問例会ばかりでどうするんだという厳しいご指摘もありました。結果としては、クラブ協議会は49カ所、公式訪問は57カ所だったと思います。

小林: 「手抜きではないのか」との批判もありましたが、RIの決めたDLP採用の実施なのですが、過去にすべてを廻ってきた実績のあるパストガバナーからすると、そのように見えるのかも知れません。一方では、合同例会に関して多数の皆さんが非常に積極的でした。近くのクラブでありながら一緒にやる事がなかったのに今回の合同例会は、意義あるいい機会を戴いたと言う声も多数ありました。

小船井: 従来の分区代理から変わったガバナー補佐の皆さんが今まで以上に大変だったと思いますね。反面、一番勉強なさったのもガバナー補佐の皆さんではないでしょうか。

小林: ガバナー補佐の方は何か聞かれてもガバナーの考えはこうじゃないでしょうかと間接的な話ししかできません。自分はこうなんだと言いたかった部分あると思うんです。勉強はしたが、立場が違うので歯がゆいところがあったでしょう。本当にご苦労かけたと思います。

小船井: あと数日で私達もパストガバナーの立場になるわけですが。パストガバナーになってからの生き方、あり方という問題もありますね。私の時はこれだけ苦労したのだから、みんなやるのが当たり前、当然と思ってる方もいれば、一方でガバナー職のチャレンジの門戸を開くためには今の制度を変えるべきだと思う人もいます。見識、知識、経験も深まった中で、ガバナーとしての能力をもっている人は70歳を超えなくては駄目だと思っている人もいます。しかし、40代でガバナーを出せる若々しさ、体力、気質が日本のロータリーにないというのも残念です。そういう仕組みになっていないという事でしょうか。この日本のスタンダードが世界的なスタンダードかといえば違います。どっちがいいか、悪いかと言う前にガバナーは年代の垣根を外し年取、性別、学歴の幅をせばめずにチャンス拡大する事が大事だと私はいま痛感しています。その意味では、DLP制度はそれに則していると思いますし、私が少し若い世代であることもあり世代の代表としてちょっぴり生意気を言わせて戴きました。すみません。

新しいことへのアクションには、「勇気」がいる、「勇気」は次へのアクションステップです。

小林: ところで2500地区の地区大会は本当に素晴らしかったですね。私が見に行かないで、むしろ若い会員に見てほしか

ったと思ったものです。戻って来て、良かったよ！と内容を説明しても、言葉ではなかなか伝わらないのです。子供達を上手に演出してた所も素晴らしかったですよ。ハードとソフトをたくみに盛り込んだ力強さの中にあたたかなハートのある大会でした。

小船井: 地区大会というのは、学びと感動の場だと私は思うんです。ある意味での消化試合じゃありませんが、遠くから来て食事するのが楽しみと言うだけの地区大会もあるでしょう。それではお食事会で終わってしまいます。参集したロータリアンの皆さんが心で感動を共有できること、そして何かを持ち帰ってもらうことだと私は思います。懇親会で食事をし、即いなくなる。実際、そのような地区大会も過去にありました。それならば、帰らせないようにするには、どうしたらいいのかを模索しました。映像などを駆使し、今までの殻を破った地区大会にしようという私達の挑戦結果でもありました。でも、新しい事をする時には勇気もいりますし、批判も出てきます。過去のことを変えていく難しさはありましたね。2510地区の地区大会のフォーラムに私もお招き戴き、パネラーとして参加させて頂きました。その節は、つたないパネラーですみませんでした。小林ガバナーの方の地区大会を少しお聞かせ戴けますか。

小林: 大会初日は記念フォーラムなど主に研修の機会にしました。2日目はアグネス・チャン記念講演など祭典的なものにしました。実は、地区大会は大会スタッフの皆さんがやってくれたんです。私がお願いした事は、夜の懇親会は遠くから来る人が帰れないので昼の懇親会にしましょう。全体の時間を短縮し、効率化を図りましょう。経費は節減してください。この3点でした。それを受けて皆さん一生懸命やってくれました。

実は2500地区の「誕生日のお祝い」を見てこれはいいと思い、当地区も真似をさせてもらいました。いい企画は誰が見てもいいですからね。その意味では、正直釧路の大会が先に開催されて良かったですよ。

小船井: 私達は、特に新入会員の参加者にとって、印象的な大会にする事も心掛けたつもりです。彼等がこれからのロータリーを築く大切な人材だからでもあります。

Q4 両ガバナーは、お互いの地区大会に参加されたわけですが、一般の多くの会員が交流参加する事も大事なのではないのでしょうか。

小林: 地区大会を開催して思うことは、たくさんのお金を使い会員が半強制的に集まる必要性が今の時代に本当に必要か？考えることがありました。地区大会での小船井パネラーの発言の中にもありましたが、極力、経費を節減して2500と2510が共同で行う合同地区大会があってもいいでしょうね。それは、札幌でなくていいじゃないですか。例えば、北海道のヘソと言われている富良野のラベンダー畑で開催するなどの発想も生まれてきます。キャパシティーとしては札幌ドームかもしれませんが5万人入るところに2,000~3,000人集まってもおかしい話です。夢のようなお話も「千里の道も一歩」

と言われるようにワークショップなどでみなさんの夢をお話しているうちに、いつの日か、それじゃやってみましょうという事になるかもしれませんよ。

小船井: 今回のプリスペアの国際大会での北海道ナイトや来札したラタクルRI会長歓迎会も共同主催で北海道がまとまったひとつの結果です。共通する北海道というステージの中で、お互いにコミュニケーションを取り合っていく空気を作ることもガバナーの仕事だと、この終りになって理解できました。もう、遅いでしょうか。

トップダウン⇒ボトムアップへ 読まない『月信』⇒読ませる『月信』への挑戦。

Q5 次に読まれざるベストセラーと言われ続けてきた『月信』についてお尋ねします。2510地区の『月信』では「ガバナー・sレター & ガバナー日記」、2500地区では「ガバナー巻頭文 & インタビュー」とお二人共、原稿書きには、ご苦労されたと思いますが……。

小船井: 小林ガバナーご自身が『月信』の紙面で書いた原稿量は私より多いと思います。私は1年間でA4サイズ1,615枚、1枚が約1,100文字ですから約177万字書たこととなります。但し、これは、会議の議事録や講演速記メモなども含まれてますし、インタビューや対談は、書いたというより語ったということですから、厳密に『月信』だけをみたら小林ガバナーにはとても追いつけませんね。

Q6 『ガバナー月信』は、ガバナーから会員に届けるガバナーの手紙と理解してもいいのでしょうか。

小林: 本来はそういう事です。しかし、私の理解はちょっと違ってきます。それは、現在は上意下達の時代ではないという認識から出発しているのです。従来はトップダウンのシンボルが『月信』だったのかも知れませんが……。ガバナーや国際ロータリーからのメッセージを一方向的にクラブ会長に伝え、クラブ会長から更に一般会員に伝えるツールがガバナーズ・レターであったと言ってもいいでしょう。

実は、本年度のビチャイ・ラタクルRI会長は「ロータリーが発展していくためには一人ひとりの会員の力をお借りしなければなりません。つまり、ボトムアップを図ってトップダウンとボトムアップをミックスすることによって本当のロータリーができていくのではないかと！」と力説しています。私もこのお考えには同感であり、そのための一番具体的に使えるツールが『月信』であることに気がつきました。そこで、会員のQ&A原稿や投稿原稿を積極的に募りロータリアン各位の隠れたエネルギーを誌面に反映してみました。

小船井: 2510地区の『月信』は、いつも私共の編集部でも注目していました。誌面の企画デザインは勿論、中身の情報の濃さにいつも驚かされていましたね。私共では、途中6号からス

タートした「人」シリーズという企画があります。これは私の公式訪問をすべて終えた後に誕生した新企画です。69カ所の訪問で多くのロータリアンにお会いし「クラブの存在の前に人ありき、役職者の前に隠れた人材ありき」と私の感じた訪問印象を編集委員会が即座に形にしてくれたシリーズでもあります。立場を越えて地域で活躍されている方、誰よりもロータリーを愛してる方、いつもは縁の下で汗を流している方などにスポットライトをあててみました。結果、編集委員の方には、地区内を取材で駆け巡る結果となり大変ご苦労をかけたことも事実です。でも、その編集委員が「素晴らしいロータリアンの取材をして人生の幸せを感じました。」と語った一言が私にとっては嬉しかったですね。何か熱い情熱が伝わってきました。同時にロータリアンである前にそれぞれ一人の人であること、クラブがある前に皆さんの暮らす地域があることを、このシリーズから学ばせて戴きました。

小林: 読みごたえのある素晴らしいシリーズでしたね。日本全国から届けられる『月信』のなかには投げ遣りな『月信』もありますよ。

小船井: 地区によっては『月信』の購読費という形で一般会員からもらっていない所もあるようですから、それはそれでいいと思います。また、中にはハードペーパーで発行せずにインターネット・ホームページで見て頂くところも増えていると聞いています。

小林: それも自然の流れですね。しかし、まだITに精通していない人も多々いらっしゃるのではやはりハードページは大事なツールだといえるでしょう。両地区ともアナログハードペーパーだけではなく地区のホームページでも発信しました。そのデジタルの方は、すべて修一さん自身が打ち込みからアップまでやっていたと聞きましたので、これは凄い！！ 到底私にはできない芸当です。ある人が小船井ガバナーを「電脳ガバナー」と呼んでいましたが私も領けるところです。

小船井: 私はガバナーに就任して、意識したのはデータベースを作っておこう。ということでした。ガバナーが知り得る情報の全てをデータベースにすれば、次のガバナーも使えるだろうとの思いで過去2年分の知り得るものをホームページに掲載しました。勿論、一般会員の方も地区の情報のひとつとして即座に取り出すことができるようにしました。

小林: インターネットですから私共地区外からも見ることができますね。その意味では、IT化により人的交流より先に地区情報が地区の垣根を越えています。この情報に遅れず人と人の交流も急がれるところですね。その意味では、今日のこの対談もそのひとつ。お声をかけて頂いたことに感謝いたします。いずれにしても、2500/2510地区共に『ガバナー月信』は、この1年ががんばりました。言い換えれば北海道のロータリーが頑張ったと言うことでしょうか。これは他地区の『月信』と比べてみると自画自賛でないことがお解り頂けると思います。これも編集関係者の皆さんのお陰、1年間ありがとうございました。

小船井: 『ロータリーの友』もそうですが、『月信』も部数だけは出ているが読まれざるベストセラーと言われてきました。

しかし、『ロータリーの友』も女性編集長になり大きく変わりました。北海道の2地区も今までの『月信』にはないチャレンジをし頑張ったと思います。少なくとも北海道の『月信』は、時代の変化に対応しながら改革したことだけは互いに胸を張っていいと思います。ただ、当事者ふたりだけで納得しているのでは自己満足と呼ばれます。問題は、地区内ロータリアンの皆様の評価は如何に？なんでしょうね。

Q7 お話が変わりますが、確か2500地区では創立25年を迎えるクラブが創立記念日をもって解散のお話をお聞きしましたが。

小船井: そうなんです。2500地区内の1クラブがこの度、終結・解散という事態を迎え、この度RIのすべての手続きを終え6月30日をもって正式になくなってしまいます。年度のガバナーとして考え深いものがあります。

小林: それは残念ですね。私共の地区でも会員が6名まで減ったクラブがありました、しかし、その後15名ぐらいいまで盛り返し、現在も継続していますよ。

Q8 これは、北海道のこの低迷する経済状況が関係しているのでしょうか。

小林: 会員減や地区の再編・クラブの解散など、これらは経済と関係ないと言ったらウソになりますが、本来ロータリーというのは経済状況に支配されるべきものではないのでしょうか。

小船井: 2500地区においては-130名(2002. 7. 1~2003. 6. 30)です。これら会員減は、経済状況のせいばかりには出来ませんね。起きる問題点を深く広く考えようとしないとところが問題だと思われま。勿論、北海道の景気は良くありませんが、景気が悪いから仕方がないと言うならば、そこから一歩も進まない事になりますね。

いちロータリアンにもどり、また新たな出発の時なのです。

Q9 お二人にお伺いします。ガバナー職を終えるに当たり、ガバナーをやって、得たものはなんですか。良かったことはなんですか。

小林: ロータリーに入ってたくさんのロータリアンとの友情をもてた事です。これはガバナーをやったからという以前の問題ですね。やはり、自分の専門分野の方たちだけのおつき合いが多かったのですが、それ以外の人たち、特に、性別、年齢、職業が違うだけでなく、違った価値観をもっている人たちとおつき合いができることが得た最大のものではないでしょうか。これは、ロータリーという組織があったお陰だと感謝しています。

実際、修一さんとも年齢も職業も違う中、同じ北海道という背景と同じロータリアンという背景を背負ってるからこそこうして親しくお話ができるのです。終生、別れないご縁をいただいたと思っています。

小船井: 私も先生と同じです。見方を変えてひとつお話させて戴きます。私共のガバナー事務所の事務局長、川口雄さんがこの4月78歳で亡くなりました。ガバナー事務局体制をつくりあげ、私が無事ガバナー職を終わらせて戴けるのも川口さんのお陰と言っても過言ではありません。川口さんが入院なさる前、私が「体調が悪いのにすみません」と言うところ「この年齢になって心を燃やすことの出来る立場(事務局長)にしてくれただけで嬉しい……」と言ってくれました。78歳の大先輩がロータリーに対する自分の想いを亡くなる前にひかえ目におっしゃったんでしょね。ややもすれば、権威、権力というのは自分に本来備わっているものと錯覚する人も多く見受けられる中で、川口さんからは、控え目なロータリーの素晴らしさを学ばせて戴きました。年齢も、役職もそして職業や社会的立場を横に置き、人間裸になれば、皆いちロータリアンなんですよ。

小林: その通りですね。長老を任ずる人達は控え目になることが大切です。同時にロータリーの規則に振り回されないことでしょうね。規則とはみんなを縛るものではなくロータリーの最小限のルールを言っているだけです。まずは規則の前に善意と良識を信ずることだと私は思います。ある合同例会の時のことですが、「ガバナーを終わられたらどうしますか」という質問がありました。私はすぐに「ひとりのロータリアンに戻ります」と答えました。

Q10 最後に、両ガバナーに1年を振りかえりご自身に語りかけるとしたらどんな事でしょう。

小林: 少し気負いすぎたかなあと思う反面、たくさんの方たちに助けられ、楽しく頑張ったと思います。健康にも恵まれ、僅かでも前進させる事が出来たのではないかと。そして、ささやかな満足感をもってガバナーの任を終えることが出来たのも全てガバナー補佐はじめ、ロータリーを支えてくれた皆様のお陰です。素晴らしきロータリアン諸兄に心から「ありがとう」と言わせて戴きます。

小船井: 私も体をこわすことなく、1年間を務め終えたことに安堵しています。これも偏に支えてくださった皆さんのお陰と心から感謝申し上げます。変えることにチャレンジした1年でした。急に変えようとする事は無理だとわかっていますが、私が残した有形無形の何かひとつでもいい、誰かひとりでもいい、たったひとつでもいい、受け継がれていってくれたなら幸せです。小林先生と同じように私もこれからは、いちロータリアンとして歩んでいきます。先生1年間ご苦労様でした。また、本日はお忙しい中、私共の『ガバナー月信』、最終号にご登場頂きありがとうございました。

(取材/札幌2510地区ガバナー事務所にて) 2003. 6. 29
基本編集: 四方山裕子
司会&リライト&編集責任: 瀬野賢二(副幹事)

●編集者から一言

お気付きかと思いますが、対談の途中からは、修一さん、先生と呼び合うフランクで笑顔あふれる対談になりました。これからも「修一さん&先生」の素敵な交流が続くことを願いつつ特集「小船井ガバナーが聞く」を締めさせて戴きます。

ガバナー補佐座談会

2003年6月15日12:30~14:30 於：札幌アスペンホテル



ガバナー補佐座談会、みんな緊張の表情。次第に柔くなって談論風発。



竹原 厳しい反省とまた将来の展望も含めて忌憚のないご意見を頂ければと思います。座談会の要旨は『ガバナー月信』に掲載予定で、『月信』編集委員長の私が司会をさせていただきます。

3点についてお話いただきたいと思います。まず、今年度本格的に導入されたDLP制度でのご苦勞や問題点について、2つ目は小林年度から始まった新しい試みに対する評価、3つ目はこれからのロータリーに対する提言についてそれぞれの思いを語っていただきたいと思っています。

DLP(地区リーダーシッププラン)について

吉本 分区代理時代に比べガバナー補佐の忙しさ、仕事の多さにはかなり参りました。最低4回の訪問は、仕事をしながらなのでなかなか大変でした。

藤原 第2グループの4クラブは距離的にも近いが、合同例会では多くの会員を収容するだけの会場が不足している問題があります。ガバナーに直接来ていただきたいという声もありました。

辻野 8クラブに各4回の訪問で毎回違った話をするのに苦勞しました。4回目のクラブ訪問は、各クラブ内会員の職場訪問を行うなど工夫しました。ガバナーが訪問する機会が少ないので、ガバナーをお呼びする機会を作るように心がけました。

角掛 クラブからの批判、注文などは特別ありませんでしたが、ガバナー補佐の仕事量が多くなったことは事実ですし、合同例会の日程調整に苦勞しました。それでもたまに合同例会を行ったほうがロータリアン同士の親睦になるのではないかという意見もありました。

近藤 DLPは良いシステムだと思います。ただ、最低4回というのは多いので、私は3回で良いと思っています。

本当はガバナーに頻繁に来て欲しいという声が強かったです。

和田 GSEの受入れの関係もあり、各クラブを4回くらい訪問しましたが、話に苦勞しました。各クラブ協議会に出席して事業報告を受けても指導はなかなか出来なかったというのが現実です。各クラブ共通して会員減少の問題と、会員の減少に伴う財政難で青少年交換留学などの事業がうまく行きません。この対処として、各クラブがお金を出し合って協力しようという話が出ています。

郷司 訪問する立場としては、クラブを指導する立場ということよりもクラブにはどんな意見があるのか、意見があるのならガバナー事務所との間に立ってうまく連携させようという気持ちでした。合同例会については、賛否両論ありましたが良かった点は各クラブが交流できたことだと思うので、私は続けて行っても良いと思います。

斎藤 合同の公式訪問例会はとても良かったと思います。公式訪問例会は合同で結構ですが、各クラブ協議会はガバナーにお越しいただいて行えないでしょうか。ガバナー補佐がクラブ協議会に行っても、ガバナーに代わって自信をもって発言することが出来ません。



遠藤 第10・11グループ合同で行事を行うことが多く、ガバナーの公式訪問も函館市内1回と郊外クラブ2回の3つに分けて行ったが、ある会員から本来グループ別に行うべきとの意見もありました。次年度は10・11グループ全クラブ合同のガバナー公式訪問となったようでございます。ガバナー補佐のクラブ訪問は地区からの情報を伝え、クラブからのご意見反映等良かったと思いますし、私個人として他のクラブに沢山の友人を得ることができました。

松見 合同例会は「ガバナーの手抜きではないか」との意見がありましたが、ガバナー・エレクトの時期(2001

年12月)に会長・幹事予定者を集めて「改革をするんだ」と話されていたのでロータリーの皮を一枚むくという意味で皆さん協力しましょうと話しました。ガバナー補佐は大変だという労いを受けますが、クラブ会長をやっている方が大変だと感じました。各クラブ共通しての問題は会員減少に伴う財政難であり、安定した会員数のクラブはさして問題ないが、60、70名を切るクラブでは、従来、幅のある活動をしていたのが段々狭まっていくという問題があります。ガバナーは改革ということを強く印象付けたのではないのでしょうか。

川田 充実し「ロータリーってましたな」と感じた1年でした。クラブ協議会をやってみて、クラブによってガバナー補佐を受入れる印象の違いがありました。また地区やRIに対する視線が違いました。地区やRIを理解してもらおうに手段が貧相で、話せば分かるというだけでは伝え切れないものがあり、ビデオや写真などを使う方法を考えなければならないのではないかと感じました。



藤原 初めてガバナー補佐がクラブ協議会に出席したせいか、クラブ側も従前と同じスタイルで、ガバナーの代わりにガバナー補佐が行くということで「この問題についてどう思いますか？」と問われても、ガバナーではないので自信を持って答えることが出来ず、「私はこう思っていますけども」としか答えられない。次のガバナー補佐の方々もこの点が1番最初に困るのではないかなと思います。当初、地区から見本みたいのを出していただけると伺っていましたが、何もありませんでした。

川田 PETSがあって次年度の会長がRI会長の考えを聞いてクラブに伝えているのだろうけども、クラブでは事業計画が先に出来あがっており全然反映されないという現状があります。

和田 ガバナー補佐の持っている考えを押し付けることが出来ないし、ガバナーが考えられることがどう受け止めているかという問題があります。クラブでは全体がどうなっているかは関係なく各委員会が単発で事業を考えているので、クラブ協議会というものがただ聞くだけになってしまっている。内容まで踏み込んだ話は出来ない。それであれば、例会にお邪魔して自分の話したいことを話した方がいいということになります。

松見 地区の委員会がたくさんあるが、方針がクラブに浸透していません。地区の主要な委員会と、各クラブ委員長の合同協議会の必要性を感じます。

川田 地区が考えているようにクラブはロータリー全体を考えているのではない。RI会長が考えていることがそれ程地区委員会やクラブ委員会に影響されない事業計画になっていたのではないのか。

松見 ただ、第11グループの上磯RCのようにきちんと

取り入れているクラブもあります。これはPETSで勉強したことをクラブに帰って話して、次年度の計画をしている。若いクラブだから柔軟性に富んでいるのでしょうか。

竹原 RIが立てた方針を、必ず守らなければならないというのではなく、クラブの自主性があってRIとクラブは対等の状況ですから、クラブの方針があれば一概に反対することは出来ないですね。

川田 何を言っても関係ないという感じでは、せっかくのアナウンスも意味がないものになってしまいます。

近藤 RIの決算書がどうなっているのか出して欲しい、また日本の理事が日本の現状等を本部に詳しく伝えているのでしょうか。本部から言われたことをただ地区でやっているのではないかという要望と意見が会長さんから出ました。小さいクラブは30分取ってくれますが、大きいクラブではガバナー補佐が行くといっても発言できる時間は3分とか5分しかありません。これではガバナーからの伝達をすることが出来ません。

都市連合会(IM)について

竹原 IMについては如何だったでしょうか？

斎藤 今回ガバナー補佐をやって1番良かったことはIMを開催したことだと思っています。従来にないものをやろうということで非常に乗り気になりました。これが周りへも伝わって「ロータリー市民講座」という新しいものになったので、来年からIMがなくなるということは非常に残念だと思います。私のクラブ内、グループ内からも同じ声が聞こえました。そんなに大きくやる必要はないが、1年に1回は同じグループのメンバーが集まる場は持つべきではないか、次年度に引き継ぐときに開催を要望するよう頼まれました。

郷司 IM中止というのはトップダウンですよ？ もっとクラブの意見も聞いてもいいのではないのかという意見がありましたし、今お話のありましたように年に1回位はみんなで集まってそんなにお金をかけなくても何かをやった方が良いのではないかという意見が出ました。

川田 IMをやらなかったのは第12グループだけですけれども、講演会、記念誌にお金がかからなかっただけの違いで、合同例会で費用をかけずにIMをやったと思っています。



辻野 IMがなぜ気が重いかといいますと、これは従来通りのことをまたやらなければならないからで、新しいことをやろうとするとこれは結構楽しく出来るのではないのでしょうか。私のグループも今回は野外で行い天候の心配はありましたが、これはこれで結構刺激的でした。フォーラムなどを省いたことを補填する意味でグループ研修会を行い、この2つを併せてIMと思っています。次年度IMが廃止になるこ

とは大変寂しく思いますが、次年度のガバナー補佐が今度はどんな形でやろうかと考えているようです。

吉本 昨年とは違って今年は第2グループにお任せし、合同で「ポリオの問題をはじめよう」と題して専門家を招きお話をいただきました。これはSARSや天然痘などの問題も重なって、啓発的で大変有意義で良いIMであったと思います。

藤原 第1グループと第2グループは十数年間毎年合同でIMを開催してきましたが、どうしても相手グループからの参加が少なく、今年限りで合同開催は止めようという話が以前から出ており、今年は最後なので皆さんに参加していただくということでした。

角掛 今年度から発足した家庭奉仕委員会の和田委員長との話の中から家庭奉仕に関することをやろうと決まり、「家庭に慈愛の種を播きましょう」というテーマで行いました。IMはおもしろくないから止めようという意見もありましたが、今回結構な会員も集まり予算面でも余裕ができました。来年からIMがなくなることで交流がなくなるとの心配がありますが、みんなの意見は大々的にやらずとも会員が集まる方法を考えていけば良いのではないだろうかというものでした。

松見 IMを止めるという理由は何ですか？

和田 確かガバナー補佐が大変だということ、今まで面白くなかった。それから、お金の問題だと思います。年度当初はそんなやらない方がいいなと言う意見だったのが、力を発揮出来るのがIMで何とか自分の特色を出して実のあるものをやろうという気になった。実際私も大変満足しているので、IMはやり方次第であろうと思っています。

竹原 IMはみんなやって良かったということでしょうか？

吉本 内容次第でしょう。

和田 もしIMをやられるとしたら、各クラブの代表者(会長・担当者)を集めて内容をじっくり練る必要があり、AGと担当クラブだけで決めるのではなく、共通の課題・テーマは何か、何を話し合っていかなければならないのかをきちっと把握していくことが重要だと思います。

斎藤 ロータリアンのためだけのIMをやったらつまらないと思います。地域社会に向かって何が出来るのかという視点から取り組むと色んな手法が出来ると思います。

和田 確かに今までのIMは「ロータリーは何ぞや」というようなテーマばかりだからつまらなかったのでしょうかね。

遠藤 IMはロータリアンの研修と親睦の場と2つの面があると思います。次年度はIMの代わりにワークショップとかグループ研修会だけが開催されるようなら、そのグループとしてロータリアンの親睦の場が無くなるのではと懸念致します。

ガバナー補佐ビジネス

竹原 グループの中にはガバナー補佐室やガバナー補佐幹事団というのを設けた所もあるようですが、他の方々は一人でその大変な立場を務められていらっしゃいました。ガバナー補佐の資金については地区からは10万円しか補助がありませんが、グループではどのような対応がされていましたか？

辻野 第3グループでは、会員1人あたり500円出していたら400名の会員で20万円になります。その他に当別クラブから10万円の計50万円の予算があります。2名いる補佐幹事はすべてのクラブ訪問についていきます。

角掛 クラブからお金を出していただけるとするのは最高に良いことですね。なかなか言い出せないことですが。

辻野 本人が言うのではなくて、グループ内でどなたかが発言されて昨年度から執行されています。

角掛 10万円だけでは出来ませんよね。



吉本 第1グループも私が要望してガバナー補佐室を設置した訳ではなく、自発的に若い会員が集まって作ってくれました。お金のこともどこからどのように入っているのか分かりませんが、

事務的な面は非常に楽でした。4人も必要ないかも知れませんが、1人はガバナー補佐の補佐(幹事)を作られた方が良いと思います。

辻野 グループからいただいた20万円のうち10万円はガバナー補佐としてIMに寄付致しました。

竹原 これだけ負担の大きいガバナー補佐の仕事ですから、やはり助けてくれる人とお金の問題が重要ですね。RIの方からの助成金はありませんから、地区予算の中からの10万円という事務費しかないということは今後も問題です。



近藤 第6グループは事務局6人体制で、これは前年度からの引継ぎの際に最低2人とされていました。私のところも交代でクラブ訪問の際には同行し、例会の議事録や写真をとってガバナー事務局に報告していました。予算はクラブから20万円、各会員から500円で全6クラブで18万円。ただし、このやり方が良いのかどうかは分かりませんが、私は良かったと思います。

IMの話ですが、私は一般の人にも開放したいと要望しましたが、ロータリーのお金を使っているからということで私の要望は下ろされました。これからは、地域を巻き込んでいかなければならないのではないかと考えております。

角掛 第4・5グループは一般の方も来られるようになっていましたが、実際にはほとんどいらっしゃらなかったです。

改革の評価

竹原 評価は数年経たなければわからないと思います。良い面も悪い面も忌憚のないご意見を頂ければと思います。

吉本 どこのクラブもあまり反発はなく非常にやり易かったです。また、今年度小林ガバナーの「ロータリー改革」ということもかなり浸透させることが出来たのではないかと思います。『ガバナー月信』は大変好評でした。『名簿』の件は、「ガバナー補佐の顔を立っているんだ。本当は反対なんだ」というクラブが2つありました。日本海沿岸のクラブは、活動が非常に活発ですし会員増強も減少すればすぐ補充し減っていないのですが、農村地帯は会員増強が難しく、グループ全体では1~2名の減です。先程、会長よりも楽だったと話されていましたが、私は会長の方が楽だったと感じました。

藤原 吉本AGのお力も借りて進めてきましたけれども、ガバナーの改革は支持される方が多く、第2グループは全面的に応援する感じでした。『名簿』の件も含めて賛成いただいていたと思います。

辻野 ガバナーのお仕事柄もありまして、1番最初の会長・幹事会で例会中の禁煙をグループ宣言しました。反発はありましたが、何とかうまくいきこれを機に喫煙を辞めた方が随分おります。非常に良かったと思っておりますし、ご本人やご家族の方々にも喜んでいただけたのではないかと感じております。



角掛 小林ガバナーの出された方針は各クラブでは素直に受け取っていただけたと思います。特に『月信』は大変評判が良いです。『名簿』の件は小林ガバナーも大変ご苦労されて、出来あがった『名簿』には札幌市内の2つのRCが載っていません。それらのクラブは何しろ頑固です。しかも、対応が遅いのです。こちらの言ったことがなかなか浸透せず結論的に反対となりました。札幌東RCも反対の方が多かったのですが、何とか会長さんを通じて説得していただきました。その他は特に問題はなかったです。

次期子ども奉仕委員会の委員をグループ内からクラブがダブっても良いから出してくれと依頼され、自分のクラブが頼み易いこともあり札幌南RCから3人挙がったのですが、地区から同じクラブ3人では困るから、選択して1人にして欲しいと言われました。折角お願いしたので地区で選んでいただきたいと伝えましたら、それは出来ないと言われました。何とか説得をして1名にしました。更には、この際だから女性委員を1人選んで欲しいと言われ、札幌清田RCの方をお願いすることが出来ました。この件は非常に苦労致しました。

喫煙の件は、私自身喫煙しますが私のクラブでは例会中は原則的には禁煙にするという話があったにも関わら

ず通達がはっきり出ませんでした。来期7月から例会中は禁煙ということが決まっています。1年遅れでガバナーには申し訳ないのですが。

近藤 『月信』については非常に良かったと思います。『名簿』については、情報公開とかの問題で拒絶するのはナンセンスで、ロータリーの会員を信用するかどうかだったと思います。会員増強も話をしてきましたが、大きなクラブに女性会員がいないです。

吉本 女性会員のいないクラブほど保守的な傾向があるような気がします。



和田 おそらくガバナーが求めた改革とは情報公開だったと思います。地区予算表が例年はその年度のみだけ出てくるのですが、それが今年度は前々年度と前年度との対比がされていて非常に分かり易かった。こういうことが1番の改革で、全てに繋がっているのではないかと思います。

『月信』は全く問題なく良かったと思いますし、『名簿』は余り使うことがなく各クラブ1冊とかCD-ROMにするとかでも良かったのではないのでしょうか。そう考えていきますと、情報公開もアナログからデジタル化していく方向だと思います。ロータリーは全体として動きが遅く何となく漫然としているので、この辺をどう変えていくか。例えば、青年会議所を終えた若い人が狙い目で声を掛けても、若い人が入って来るとギャップが出来てくる。

ロータリーは、より時代に即していけないと地域から置いて行かれると思います。例えば、ガバナーが合同公式訪問しか出られないのであれば、パソコンで映像や言葉を送るなど出来ます。次年度には新しいあり方を模索して行って欲しい。今年はきっかけとなる非常に良い年度であったと思います。



郷司 改革については、ガバナー補佐は大変だと思ってスタートしましたが、1月にガバナーが来られ、あるクラブから20項目くらいの要求などが出された際にガバナーが懇切丁寧に説明して下さったことで、それ以降は何も出てきません。100%とはいきませんが、『名簿』・『月信』・合同例会については受入れられたと思います。その最初の会議のお陰でガバナーの考えなどが理解してもらえ、かなり浸透していったのではないかと思います。

斎藤 「慈愛の種を播きましょう」は非常に良いテーマだったと思います。結果的に『月信』も『名簿』も素晴らしかったですし、「改革の種を播きましょう」と行動したのが、小林ガバナーであったと思います。来期からは『月信』も『名簿』もやらないと伺いましたが、そうであればロータリアンにガバナーの発言というものがどう捉えられるかが気になります。改革を実施するのであれば、

少なくとも3年は継続しないと評価ができません。

遠藤 『地区名簿』についてですが、10・11グループでは以前から毎年、『顔写真付合同会員名簿』が作成されていて、その時の所属委員会までわかります。利用頻度の面からも『地区名簿』がはたして必要なのか？との意見もありました。『ガバナー月信』については、全体的に好評です。あるクラブでは年度当初、例年通りの購読数でしたが3カ月目位から全員購読に変わりました。



松見 『月信』は地区の考え方や地区の行事の様子が良く見える。各クラブを訪問したときに地区の動きを伝えるのに役立ちました。ただ、良く読む人とそうではない人がいるので、自分の出したお金が何に役立っているかを知る意味でも読んで下さいと呼びかけました。

『名簿』は広い範囲で会員の顔が見えるので必要ではないでしょうか。地区大会は非常に良かったですが、アグネス・チャンの講演は一般市民に開放の機会を設けたら良かったと思います。

川田 私のクラブでは年功序列の慣習でガバナー補佐が決められていましたが、地区内のガバナー補佐の皆さんとお会いして、年功序列ではなくきちんと務められる人を選ばなくてはならないと分かりました。ロータリーを見る目線が変わりました。

吉本 『名簿』で問題となっていたプライバシーが侵害されたことは全くありません。それは反対のための反対であったのでしょうか。非常に便利な点もありましたが、1年では評価が定まらないので、2年3年続けていかなければいけないものだと思います。

斎藤 これからのロータリーにとって財政の問題が極めて重要だと思います。地区として全体の会費を圧縮するなど財政問題を真剣に検討する委員会が必要ではないでしょうか。これも次年度へ向けて申し送りしていただきたいと思っています。

将来への提言

竹原 次年度以降へのご提言があればお願い致します。



川田 景気が悪いので、RIが日本に資金を期待しているようです。そのとき、ただ財布にあるお金を出すだけではなくて、もう少し行動を起こしてお金を集める、これが本当に尊いことで、もっと奉仕の意味を考えた方がいいのではないのでしょうか。

松見 ロータリーは流れが緩やかなので、いきなり行動を起こすと抵抗があるのだと感じます。特にワークショップの件ですが、議論をするのが難しく小人数で行わなければいけない。今年度発ち上がった良いものは3年程度のスパンで継続性を持つことを希望します。

遠藤 地区、クラブの事業等の継続性については、充分見極める必要があります。良いと思ったら続けるべきです。会員増強については、よく質か量かが問われますが、質だけ追っては行き詰まりです。ある一定以上の数があるって自然と淘汰され存続していくものと考えます。

斎藤 日本全体が明るく元気がない中で、我々は奉仕活動できるという幸せな状況にありますので、こういった団体が明るく元気な運動を率先していくことを強くうたって欲しいと思います。

郷司 会員もお金の面ではシビアで、RIの財政が透明ではないことと、地区大会の札幌市への寄付をなくし地区に還元できる方法を考えて欲しいと思います。クラブの活動を地域の皆さんに浸透させていくことから始めたいと思っております。

竹原 札幌市への寄付の件は、今年度の地区大会では自治体への寄付は一切行わなくなりましたのでご理解いただきたいと思っています。

和田 地域に密着した活動や事業を小さいながら続けていけば、地域との連動が成されていくと思います。ロータリーはPRが下手だと言われていますが、情報の時代に情報不足だと感じていますので、手法をクリアして活発な活動をしていけるようになればと思います。

近藤 もう少しシンプルになるという改革が必要だと思いますし、もっと討論する機会があればと思います。

角掛 若い人を多めに勧誘し入ってもらい、クラブを活性化させたほうが良いと思います。また、女性会員の入会についても前向きに考えた方がよいと思います。金を出すだけの奉仕ではなく、自分の体を使った奉仕を考えていけば会費の減額にも繋がると思います。

辻野 補佐を務めてグループ内のクラブ、或いは会員同士の交流が少ないことがわかったのでお世話役に徹してきました。次年度の方にも同じくお世話役になっていただきガバナーの意向を伝えていただきたいと思っています。

藤原 地区委員会は新しく出来ても、なくなる委員会はないのかなと思います。

吉本 深川RCは米山や財団寄付が活発なクラブですが、月信に掲載される時は、1人当りの実績額を載せて欲しいという要望がありました。



村山 うっかりして遅刻してしまい申し訳ありませんでした。1年間に会議が多かったという感じがしますので、もう少し簡略化していただきたい。また小さなクラブでは、1人3役を務めなければならない場合もあるので、大変だったと思います。色んな方と知り合いになれたことや、ユニークな活動を知ることが出来て、良かったと思います。

竹原 今日はどうも有り難うございました。

地区運営を振り返って



いかにムダなく、スムーズに。 そんな目標もちながら、ヨーイドン！

代表幹事 菅原耕治

人が動けば、お金も動く。新しいこと、やろうと思えばご意見いろいろ。あちらを立てれば、こちらが立たず。なんと難しい組織かと、思いながらの1年間、なんとか無事(?)終了。終ってみれば、反省する事ばかりの幹事です。

地区運営に成功の秘訣はないが、人との“出会い”とロータリーに対する“思い”に、素晴らしい答えがある様です。ご協力を頂きました3,800人の地区会員と地域の皆様に深く感謝致します。



信頼の大切さを再確認

地区幹事 大田すみ子

ロータリー歴7年目にして、女性が入っていた方が良くからのガバナーの意向で、身に余る役割を与えられ努力してきました。

会議やIM、バルセロナ国際大会などへの出席を通して多くの人々と知り合えたこと、地区幹事会で激論があって創り上げていくプロセス、『月信』担当で表紙の題材で頑張り通したことなど、欠席の多い割には学びの多い、有意義で楽しい月日でした。

一国一城の主であるロータリアンが主張を調和させて結実させていくのは、人の英知の集団的成熟であると感じさせられました。

成果ばかりを追う社会風潮の中で、心や感性を鍛え和合させるロータリー精神とその活動に、信頼の大切さを再確認しております。



ラッキーだった『月信』編集への参加

地区幹事 熊谷 満

2001年9月から地区幹事として小林GEのお手伝いをさせて頂きましたが、私は主として『ガバナー月信』の校正を担当致しました。

『ガバナー月信』はトップダウンだけでなく会員からのボトムアップ式の内容をふんだんに盛り込んだ読み応えのあるものを作るというガバナーの方針に則りということで、大まかな掲載内容については小林ガバナー、竹原編集委員長、米山アドバイザーを中心に原稿の配置や構成について討議され、印刷の組版そして三校目の校正となり、それが翌日の午前中には印刷所に返還という事で結構大変な作業でありました。

最初の頃は目の疲れがひどく、眼科を受診した事もありました。しかし、全文を読ませて戴き、色々な事を勉強させて頂いたことは本当にラッキーでありました。原稿をお寄せ戴きました会員の皆様に感謝申し上げます。

この約2年間50数回の幹事会、各月半ばからの『月信』の打ち合わせ、その他で例会以外で家庭を空ける事が多く、家庭奉仕はどうであったかが多少気になるところでもある。しかし、貴重な経験をさせて頂き感謝致します。



議論の中からの結論

地区幹事 竹原 巖

小林ガバナーがガバナーとして指名されたときより関わりを持ち、一緒にやって来た一人としてこの6月で任期を終え、無事職務を果たせたことに充実感と深い感慨を覚えます。エレクト時代の準備期間には運営の細部について見当がつかないことがあり、文献等で学習しながら手探りで進めることが多くありました。しかし、ロータリーの改革と前進に情熱をかける小林ガバナーに引っ張られ、多くの事を学びながら2年余を地区運営のお手伝いができ、大勢の人達と出会ったことに心から感謝しております。

方針を立て実行するに当たっては、ガバナーはじめ地区幹事と議論を繰り返し結論を出して来ました。議論が白熱することもしばしばありましたが、目的はロータリーの前進であり、その事によるしこりは全くなく、むしろその議論を楽しむ雰囲気幹事会にはありました。ロータリーのなかで望んでも出来ない貴重な経験を、この2年間させて頂いたことに感謝いたします。



皆様に感謝

地区幹事 米山道男

約2年前、最初の地区幹事会で、協力の条件として以下の3点を挙げたことを思い出します。①会合では、喧嘩(相手の話を聞かず一方的にしゃべること)でなく議論(良い結論に到達するための共同作業)をすること、②これを契機に札幌北クラブがより良くなること、③後で小林先生が、単に「ガバナーをしました」でなく「ガバナーとしてこれこれをしました」と言える年度とすること。①と③は満足しています。②については、その兆しを感じています。

この2年間で私が小林ガバナーから学んだことは、特に、(i)迅速な仕事振り、(ii)反対されても信念を曲げない強さ、(iii)若い者(?)に伸び伸びと仕事をさせたことです。

私も色々なことをさせて頂きました。特に、(1)地区目標の起草、(2)『ロータリーの友』の小林ガバナー紹介記

事の執筆、(3) 地区大会記念フォーラムの立案、(4) 地区組織図の改訂、(5) ワークショップの企画、(6) 各種地区委員会への参加、(7) 国別交流会の提唱、(8) ロータリアン宣言案の起草、(9) 米山記念奨学生選考に関する意見の『月信』への投稿、(10) 次期子ども奉仕委員会の準備、などです。

何よりも良かったことは、深く関わった方々それぞれの良さを知ったことです。在任中にお会いしたすべての皆様に感謝し、また佐藤秀雄次期ガバナーと次期地区幹事の皆様のご活躍をお祈り致します。



精一杯でしたが?!

地区幹事 脇田 稔

思いもよらず地区幹事を指名され、本当にできるのか不安一杯のところへ、個人的にも複数の職務が重なり、繁忙の混乱を極めました。このため、毎回の地区幹事会にもしばしば欠席を余儀なくされることが多く、菅原代表幹事はじめ、幹事会の方々にご迷惑のかけどおしの2年間でした。クラブ奉仕委員会担当幹事として、また『月信』編集委員としても十分お役に立てずご迷惑をおかけしました。地区協議会の準備と実施には予定を最優先して働いたつもりでしたが、小林ガバナーエレクト(当時)のユニークな発想によるいくつかの企画の出だしに十分職務を尽くせなかった点、クラブ協議会担当としてサポート役ができなかった点は悔いが残ります。事務局の阿部さん及川さん初め皆さんの暖かいご理解ご協力で心から感謝します。



苦労した予算編成

地区財務委員会 委員 大西 勲

私は地区財務委員として地区資金会計を、また地区大会でも会計を担当させていただきましたが、地区資金会計では杉下財務委員長、地区大会の会計では長太地区大会実行委員会幹事に負うところが多く感謝しています。

振り返って考えますと先ず予算編成が思い出されます。会員数は減少傾向にあり、また支出の削減は難かしく幹事一同大変苦労致しました。地区大会で承認いただいた時はホッとしました。

地区大会の予算についても、会費をいくりにするか、登録者の予測等いろいろの問題があり、杉下地区財務委員長より赤字は許されないとのお話もあり大変心配しましたが、各部門の協力により支出面において大いに削減を図っていただいた結果、十分収支を償うことが出来たのは幸いでありました。

地区大会では来賓接待等の役目を担当しましたが、本大会でも会場には殆んどいることがなく、アグネスチャンの講演は一部楽屋裏で聞いただけでした。地区大会記録誌が出来上がり、全文を読みましたが素晴らしい講演で感激しました。この講演は大成功であったと思います。

大活躍の幹事の皆さんに比べ私自身时期的に多忙な事があつたりして十分な活動ができなかった事をお詫び致します。

地区財務委員会報告 ~前年度を上回る繰越金を計上できそう

地区財務委員会 委員長 杉下清次



地区予算は当初、ガバナーの意向で委員会活動と事業活動に出来る限り予算を割り振り、他は節約に努めるべしという事で作成にとりかかりました。しかし、一般地区資金も特別地区資金もそれぞれ5百万円程度しか繰越されてこない旨の情報を得て慌てました。事実、前年度の予算では一般及び特別ともに5百万円前後の繰越金となっております。

一般地区資金は、地区を1年間運営していくうえで基本的な財源となるものです。その予算は委員会活動やガバナー事務所の運営等にガバナーの運営方針が示されます。一方、特別地区資金は地区の各種事業を行うための予算です。特別地区資金の予算はその年のガバナーの事業方針が示されております。予算作成に際しては3期間分の地区予算及び実績を比較検討できる表を作成し分析、ガバナー及び幹事会の方へ提出致しました。それによって十分な情報のもと検討判断していただけたと考えております。

地区の活動は年度の前半に資金を多く支出します。いま以上に繰越金を減少させると年度間のスムーズな事務引継ぎにも支障が生じると考え、単年度の収入と支出を同額とする、すなわち収支均衡させる事を最低条件としました。現在のように毎年会員の減少によって収入が減少する場合、年度内の収入と支出を一致させる事を予算作成の段階で実行しないと実現不可能であります。またその予算を厳格に執行していく気構えがないと達成されません。従ってガバナーにはかなり我慢してもらい予算を作成し、地区協議会で承認されました。

年度が始まってから企画される事業に割り当てる事を予定した特別地区資金のその他の地区事業費は、本来もっとたくさん計上したかった訳ですが、毎年度固定された金額の支出も多くほとんど予算を割く事が出来なかったのが残念です。予算に計上されていないものは予備費の範囲でしか支出する事が出来ません。

こんなに厳格に予算を作成し執行したのは、毎年度の収入減により当地区が財政危機に陥りつつあると考えたからです。そういう行動をしていると良い事があるもので、前年度からは、一般地区資金で1,200万円、特別地区資金は900万円が決算をして繰越されてきました。しかし、一旦計上した予算を変更する事なく予算執行に努めました。正式な決算は7月末頃に固まりますが、一般地区資金は各支出予算を大幅に減額したにもかかわらず、ガバナー事務所の経費節減や地区年次大会の余剰金等によって前年度を上回る繰越金を計上できそうです。また、特別地区資金はGSE事業の支出年度と重なった事もあり、次年度繰越は若干前年度を下回る事が想定されます。

年度の始まる前から地区の財政状態の厳しさを訴え、小林ガバナーをはじめ多くの人にプレッシャーをかけてしまいました。予算がつかなくて断念した事業もいくつかありました。しかしながら、皆さんの協力ではほぼ予算どおり財務を執行する事が出来ました。収入は減りましたが次年度繰越残高は増加に転じた事をもって財務委員会としては次年度に引き継いでいきたいと考えております。

喜びをともに ◆新入会員紹介



矢野文教 (留萌)



佐藤寛明 (留萌)



富山有一 (留萌)



愛場雅一 (滝川)



柳 清二 (滝川)



成本治郎 (滝川)



福井義昭 (滝川)



田守雅行 (江別)



梅津真平 (岩見沢)



佐藤公信 (岩見沢)



佐藤 修 (栗山)



大木俊英 (栗山)



小島 茂 (栗山)



石井道夫 (栗沢)



金山和則 (栗沢)



佐藤正治 (札幌はまなす)



石川雅啓 (札幌モーニング)



大泉 清 (札幌モーニング)



秋山 孝 (札幌北)



佐川晋一 (札幌北)



西園英敏 (札幌清田)



伊藤 豊 (新札幌)



小松和雄 (新札幌)



村上 寛 (新札幌)



上田ゆう子 (札幌大通公園)



水口昌仁 (千歳セントラル)



上居久実 (静内)



高杉保廣 (浦河)



井村勝昭 (浦河)



谷口克樹 (浦河)



阿部敏彦 (浦河)



星 巖 (浦河)



奥田宗夫 (浦河)



藤田泰蔵 (浦河)



木田尚考 (浦河)



吉田順治 (室蘭東)



古川幾雄 (函館)



鷺見好春 (函館)



鈴木明洋 (函館)



山田 彰 (函館)



村上正人 (森)



堀尾 功 (森)



松本美信 (森)



本郷圭三 (森)



島野祐司 (森)



井上正範 (長万部)



奥山 勉 (長万部)



大友伸之 (長万部)



花輪博幸 (函館五稜郭)



棟方 勝 (函館五稜郭)



青山栄一 (函館北)



崎野浩志 (函館北)



中里鏡正 (松前)

※10月号および2月号で未紹介の会員



山谷紀巳夫会員(札幌手稲RC), 青少年交換学生へ奉仕

今年のYOSAKOIソーランに6人の青少年交換学生が参加、札幌市内を乱舞した。山谷紀巳夫会員は同クラブの渡辺哲則会員とともに3日間に亘り乱舞のスナップを撮影し、8ページ、カラーの小冊子にまとめた。表紙に登場する学生は1人ひとり各自のものを用意したので、計6種類作製したことになる。素晴らしい出来映えとともに、山谷会員の超私の奉仕に感謝したい。



ガバナー日記

——最後の日記となりました——

ブリスベンの国際大会はよかった！

——感動の連続で美談もあった

今年のロータリーの国際大会は6月1～4日にオーストラリア・クィーンズランド州のブリスベンで行われた。私には初めての大会参加だったが、その印象は一言でいって「出席して良かった」である。

国際大会の前に2日間ロータリー研究会があった。これに出席してロータリーの勉強をしようかとも思ったが、**札幌北RC**の数名のロータリアンが、友好関係を結ぶメルボルンの**ウェルビーRC**を訪問したいとのことで、そちらにご一緒させていただくことにした。計8名でまずはシドニー経由でメルボルンに飛んだ。

先方のロータリアンの出迎えを受け、郊外のウェルビー市役所に直行。市役所横には道行く人の目を引く立派な**日本庭園**がある。この庭園は**札幌北RC**の城木浩一会員が1995年に同RCを代表して作ったもので、日本の情緒をよく伝え周辺の環境にもよくマッチしている。この庭園でしばし懇談の後、夜は市内のレストランで地元のロータリアンのほか、かつて在札の交換留学生や家族も加えて楽しい友情交換を行った。

メルボルンに2泊後、ブリスベンに移って5月31日(日)夜は北海道ナイト第1部。会場はリバーサイドのピアナインという有名な海鮮料理レストラン。参加者はかつての交換留学生のほか関係者を含め総数約30名で、既に結婚して幸せな家庭を作っている元留学生やその子供も出席して和やかない会だった。

6月1日(月)大会初日、コンベンションセンターで行われた開会式は素晴らしかった。ビチャイ・ラタクル会長の敬謙な人柄とロータリーへの深い造詣の賜物であろう。ロータリーの旗を持ち馬にまたがった騎手6人が左右から入場したあと、世界120余国の旗を持った少年少女が万雷の拍手のもと次々と壇上に現れるあたりは特に感動的な見せ場だった。

夜は2500、2510地区合同の**北海道ナイト**第2部。会場はリッジスサウスバンクホテルの12階。ブリスベン河を挟む**対岸の夜景**がとても美しい。伊藤義郎元RI理事ご夫妻はじめ、両地区ガバナー、パストガバナーのほか、ウェルビーRCのイアン・ナイト夫妻(PG)、スリランカの現ガバナーのパス・マナム夫妻、アメリカのステイブ吉田夫妻、シルバー夫妻(ともにPG)など総勢120名の参加だった。歓談のあとフォークダンス。みんな輪を作り順次相手を代えながら楽しい運動で終了。北海道ナイト設営の準備にご苦労された遠藤正之オン・ツー・ブリスベン委員長(PG)はじめ、青木功喜、金井重博、奥貫一之の各委員長さんにはただ心からの感謝あるのみである。

翌2日(火)の大会の本会議も開会式に劣らず印象的だった。ビチャイ・ラタクル会長の挨拶はいつ聞いてもロータリアンの心を揺さぶる感動的な名演説である。そのあと舞台上に夫人とご子息、ご令嬢のほかお孫さんも紹介されて大きな拍手がわいた。家庭の暖みはみんなに理解され易い。

2日の午後は「原点に戻ろう」Back to Basicsのパネルディスカッションにパネリストの一人として参加。私がどうして



メルボルン郊外ウェルビーの日本庭園。札幌北RCの城木浩一会員が中心になってつくった



リッジスサウスバンクホテルの12Fからみたブリスベンの夜景が美しかった

c Tourism Queensland

パネリストに選ばれたのかわからないのだが、折角の機会なので断ることなくお受けし、不得手な英語で家庭奉仕、子ども奉仕の大切なことを強調した。満場の会員にいささかの関心をもっていただけたかと思う。

思いがけない美談を耳にした。恵庭RCはかねてから青少年交換に大変熱心なクラブだが、オーストラリアからのかつての留学生ミーガン・ストールマンさんが昨年帰国後に交通事故死した。清水慧子青少年交換委員長(長沼RC)、恵庭RCの村上利雄前AG、早瀬源一会長、大川健一会員、日下健三会員、久野等会員夫妻のロータリアンが貴重な6時間を割いて彼女の墓参りにわざわざ行ってくださったという。ロータリーのすばらしい思いやりの心と思う。故人のご両親は涙して心から感激されていたとのことである。

ダヤシリさんを迎えてスリランカ交流会

コロomboRCのダヤシリ・ワルナクラスーリヤさんは2510地区から2、3年続けて贈られてきた病院のベッドの受入れ窓口として修復、配送などの仕事一切を私財を投げ打ってご努力して下さった方である。この度、日本政府から勲4等瑞宝章をいただいた機会にご夫人(日本人、節子さん)ともども札幌にもお出で下さった。わずか1泊の短い旅行だったが、6月5日(木)夜は札幌ガーデンパレスにおいて、スリランカに関係のある20名の地区内ロータリアンと交流をしていただいた。

ダヤシリさんの流暢な日本語によるスリランカの状況説明でガバナーエレクトはじめ、何人か翌年早々にもスリランカに行ってみたい希望者が出たようである。お土産にスリランカの紅茶をいただいた。地区からは感謝状とロータリーのマークの入ったガラス製の地球儀を贈ってお礼の気持ちに代えた。運良く大通公園でYOSAKOIソーランを見ていただく機会にも恵まれ、ダヤシリさんは大変ご満悦のようであった。



ダヤシリ・ワルナクラスーリヤご夫妻
節子さんと勲4等瑞宝章を胸にしたダヤシリさん

翌6日(金)午前、新たにスリランカ国内で必要な医療機器を入手したいとの希望で、全国展開の医療器械店ムトウの田尾延幸社長をご紹介申し上げた。前向きな感触を受けてダヤシリさんはホッとしたようである。

札幌モーニングRC・15才の好青年

札幌モーニングRCは1988(昭和63)年、札幌北RCをスポンサークラブとし、しかも道内初の早朝例会クラブとして「ささやかさ」をモットーに発足した。会員数の大きな減少

もなく現会員64名、会員はテリトリーに関係なく市内全域から参加している。

早朝例会は欧米では珍しくないが、日本では昼の例会が大多数で早朝例会は全国2,329クラブ中8クラブに過ぎない。その中でモーニングの名前を持つクラブは川口、青森、旭川、京都を含め5クラブ。これら5クラブの人達が札幌モーニングRCの創立15周年(6月7日(土)夜)のお祝いに馳せ参じて下さった。

「カミネッコン」はあまり聞き慣れない言葉だが「紙根っ子ん」、つまり段ボールの小箱の中に新聞紙とともに樹の小さな根っ子を入れたものである。これが土中で自立的に根を張って大きな木に育っていくという北大の東三郎名誉教授の提唱される緑化運動の一つである。札幌モーニングRCは早くからこのカミネッコン運動に共鳴し、市内小学校生徒の協力をもらいながらすでに『月信』にも掲載されたとおりの成果をあげてきた。創立15周年のお祝いでは東三郎さんがカミネッコンに関わる感銘深い記念講演をして下さった。



札幌モーニングRC15年のお祝いの席にて。
中央左は村山正ガバナー補佐、右は中島一郎札幌南RC会長

ひきつづく会員有志らによる祝賀演奏会(モーツァルト「ピアノ四重奏曲ト短調K485」)も素晴らしかった。開会にあたっての池上恵三会員(札幌モーニングRC)の国歌・君が代の独唱もよかったし、型どおりの来賓紹介を省略したのも好感が持てた。しかも式典・祝賀会の会場はオープンしたばかりのJRタワーホテル日航札幌36階である。眺望も初めて見る素晴らしいものだ。垢抜けしたというより上品でスマートな15周年であった。この15才の少年の将来が何とも楽しみである。

会員増強は会員数だけのことではない!!

クラブ会員数が増えることは誠に望ましい。6月8日(日)東京パシフィックホテルでの第1・2ブーンの次年度会員増強委員長会議に出席したが、現職ガバナーとしての出席はなぜか私1人だけだった。

私が申し上げたことは「数だけを言い続けるとロータリーは金が欲しいからではないかと誤解されかねない。ロータリー活動の内容を充実しロータリーに魅力を持たせる努力のほうが「急がば回れ」で大事なことはないか。増強は数を増やすこともあるが、ロータリアン自身が自らの資質を

磨き質を強める意味での増強もある。質が向上すれば、これに量もついてくるのではないかと。ところが、増強委員の皆さんはどれも数に固執することから抜け切れないようである。

会員数が気にならないといえは嘘になる。当地区の年度初の2002年7月1日の地区会員数は3,458名で、その後札幌セントラルRCの設立もあって会員数は増えたように見えたが、その後も微減の傾向が続いている。心配なのは「魔の6月」の言葉があるくらい、新年度に移る直前の6月の会員減少である。

退会の原因には表向きでは語れない本音の部分がある。高齢者が多いことによる自然減は止むを得ないとして、若い人、女性に魅力を与えない息づまった現状にこそ問題がある。奉仕活動なら巷のNPOのほうが自由闊達に楽しくやっているのに比べ、ロータリーのそれは精彩がない。とにかく市民を魅了するに値することを言うだけでなく実践することではないのかと改めて自覚した。

議論を深めることはいいことだ！

議論は喧嘩ではない。むしろ議論は楽しむくらいの気持ちの余裕が大切である。ひとつのテーマをめぐる賛否両論あって当然であり、臆せず率直な意見を交換する中から隠れたより深い真実が生まれる。

第4回諮問委員会は6月13日(金)夜、札幌グランドホテルで行われた。特に今回は最終の委員会ということで、私はこの数か月取り組んできた問題について簡単な紹介を行った。まずは、会員の減少傾向は僅かながらまだ続いていること。また、RI財団に対する寄付が目標額にまだ到達していないことを説明した。これは私自身がガバナーとして「ロータリーは金だ、増強だ」と声高らかに言わなかった躰寄せでもあり、いささか責任を感じずる次第である。

諮問委員会では素晴らしいご意見を沢山頂戴した。この地区独自の取り組みをしている家庭奉仕委員会や子ども奉仕委員会の活動状況を説明したのに対し、家庭奉仕が個人生活のプライバシーの問題に触れる危険がないかのご意見を頂戴した。私は家庭が社会の最少単位であり社会奉仕、あるいは4大奉仕の原点であるべきもので、これをロータリー活動の中に含めることの必要性を述べた。ある委員は格言をもじって「ロータリーは家庭から始まる」Rotary begins at homeと言ってくれた。

また、子ども奉仕で課外授業として学校教育の現場に入ることの予想外の難しさとロータリーの出来る力の限界についてのご指摘もいただいた。もっともなご意見であり、課外授業を殊更に大言壮語すべきことではなく、出来る範囲内で社会のお役に立つ慈愛の種を播ければ良いのである。

また、ある委員からは最近のロータリー活動は都市中心型になった反面、郡部のロータリー活動を軽視していることはないか、とのご注意もいただいた。これは全くその通りのことで、今後の検討課題。いずれにしてもこのような自由闊達な意見交換の出来ることは何とも素晴らしいことで、この雰囲気は是非続けていただきたいものである。

ご苦労さん、ガバナー補佐のみなさん

札幌まつりの6月15日(日)午後、札幌アスペンホテルにて現ガバナー補佐から次年度ガバナー補佐への引継ぎ会議をやらせていただいた。その前に現ガバナー補佐だけの座談会も聞いたが、全体を通しての話題を2、3綴ってみたい。

ガバナーが個々のクラブを直接訪問しないことを淋しく思うクラブも少なくなかったようだ。これはRIの地区リーダーシッププラン(DLP)の実施にあたり、合同例会をガバナー公式訪問とする最初の年度であったための戸惑いでもあったと思う。私自身は年度後半に数か所のクラブ訪問をさせていただきコミュニケーションも深まって良かったと思う。

郡部ではGSE、財団・米山奨学生、青少年交換など国際交流の機会が比較的少ないために、予算配分は地域還元型でやっていきたいとの希望も出された。地区内ロータリアンが同じ負担を受けながら、その恩恵が都市に集中していることに対する批判でもある。このような問題に具体的にどう対処したら良いか、議論に立ち入る時間もなかったが今後の重要な検討課題と思う。

地区委員の構成は札幌及び近郊に集中する傾向がある。これを是正した方が良いのではあるが、地区予算の制約もあって旅費その他の支弁の余裕がないことから札幌周辺に集中してしまうやむを得ない理由もある。

会員増強は、名案がある訳ではない。私は皆さんへのお願いとして、会員増強の新たな方向は30代の若い人の獲得に集中していただくのは如何かと申し上げた。例えば青年会議所の会員の中から勧誘することである。またそれ以前の重要な問題はそのような若い人達に魅力あるロータリー



YOSAKOIソーラン祭りにリレント舞華軍団の一員として参加した6人の交換留学生。6月7日(土) JR札幌駅前にて

クラブを作っていくことである。それがなくては、勧誘しても、すぐ退会というのでは意味がない。したがって、まずは自らのクラブのマンネリ化を打破し、より魅力があって楽しいクラブを作ることが急務ではないか。

都市連合会 (IM) を次年度やめるのはなぜかという質問もあったが、IMという名称、或いは形式・内容に囚われず、グループ内で1つの新しい企画を進めていくことについては佐藤ガバナー・エレクトは賛成されている。ロータリアンを対象にするにせよ、また市民を対象とするにせよ、各グループで自主的に考えていけば良いことであろう。例えば小人数で特定のテーマの議論を深めていくワークショップ (WS) をIMの代わりにやることも一案なのである。

『月信』については皆さんから一様に高い評価をいただいたようである。とかく地区とクラブとの間に疎外感があるといわれるが、全てのロータリアンがもっと緊密なコミュニケーションを持つために1番簡単な方法はこの『月信』の積極的な利用である。ボトムアップの恰好の場でもある。次年度佐藤ガバナーは情報のIT化に向かって熱心に進めておられるので安心してはいる。ただ、『月信』に代わる内容がインターネットを介してだけで、印刷物としての配布は希望者だけにしたことを残念に思うという意見も強かった。

『**会員名簿**』についてはガバナー補佐の顔を立てただけで、原則的に反対というクラブもあった。ただ、プライバシーの侵害、或いは値段 (1,000円) が高いという批判は当たっていなかったようだ。『名簿』の評価は未だに定まらないが、何年かに1回はこのような『名簿』があって良いのではないかというのが大方の見解であろう。1部の役職者からは、他クラブの会員と知り合う機会も増え友好関係の促進に極めて役立つというの評価もいただいた。

会が終わったあとの懇親会も極めて和気あいあい、楽しく愉快で「今日の1日は良かった、有意義だった」の声は必ずしもお世辞ではなかったように思う。

ロータリークラブあつての地区委員会だ！

地区委員会は地区行事の一つとして自由闊達な運営をしている。だから地区委員に任命されること自体が、クラブの役職よりも名誉なことと受け止めてしまう人もいる。事実、委員会活動は時に各ロータリークラブの活動よりも目立った存在になっている。ただ注意していただきたいことは、委員の任命が地区委員長からクラブの会長・幹事の了解をとることなく個別に直接依頼してガバナーから委嘱されているという現状についてである。

ちょうど1年前、**札幌東RC**の菊地章幹事からクラブ運営に支障があつてはいけないので、必ずクラブの了解を貰ってから委員の任命の準備を進めて欲しいとの依頼があつた。誠にその通りであると思ひ、本年3月2日のチーム研修セミ

ナーに引続く3月15・16日の会長エレクト研修セミナー (PETS) とで2度、地区委員の任命については各クラブの了解を予めいただくようにと皆さんに注意をお願いした。ところが、実際は実行されていなかったようである。

『**手続要覧**』によれば、地区委員の任命は必ずしもクラブの了解を必要とするとは書かれていないが、心情的な配慮として当然あつて欲しいことである。2003～2004年度は委員の任命も決まっていることなので、2004～2005年度こそは今から十分に配慮いただきたいものと思う。当然、クラブあつての地区であり地区委員会なのである。

クラブからのお誘いありがとう

6月14日 (土) 朝9時半、**小樽南RC**の相馬哲也会長が拙宅までお迎えに来て下さり、同クラブ主催のクルーズ体験の後、クラブ例会、その後のジンギスカンパーティーに参加させていただいた。クルーズには小樽南RC会員有志と小樽商大在学中の留学生20数名が3隻のボートに分乗し、祝津沖までをクルーズしたが、途中大きな揺れもあつて船酔いで横になってしまう留学生もいた。例会では海洋少年団、小樽商大に対するクラブからの寄付贈呈などがあり、ジンギスカンパーティーではロータリアンが留学生、海洋少年団団員と一緒に、同団員のご父兄の手作り料理のおもてなしを受け楽しく歓談させていただいた。



相馬哲也 (小樽南RC) 会長から表彰を受ける
小樽海洋少年団見延延三郎団長 (小樽南RC) から関係のロータリアンと少年団員

同日夜は、**第2グループ**の藤原税ガバナー補佐をはじめ赤平・芦別・砂川・滝川の4クラブの会長・幹事の懇親会を札幌で行うので出席するようにとのこと。市内某料亭で若い女性コンパニオンのサービスもあつて極めて和やかな会合であつた。ちなみにこの4クラブは大変仲の良いクラブで、同夜も午前様で帰られた方もいたと聞く。



大いに飲み食べ笑った、楽しかった。左から北正信、荒川忠義 (芦別RC 会長・幹事)、神部洋史 (滝川RC会長) の各氏 (第2グループ会長幹事懇談会にて)

6月16日(月)は、ホームクラブの例会出席後、「日本ロータリー親睦ゴルフ大会第13回北海道大会」に出席し、挨拶と景品の授与を行った。北海道ゴルフ大会は東京大会に次ぐ長い歴史と実績を持つ。出席者およそ100名、遠くは沖縄からご夫人の同伴も多く最後の「手と手つないで」は全国ロータリアンの連帯感を確認するものであった。お世話役の金子賢一(岩見沢RC)大会実行委員長、坂田知樹(同)大会副実行委員長はじめ事務局担当の札幌北RCのみなさんのご苦勞に心からお礼を申し上げたい。

6月24日(火)4時、第3グループ辻野修ガバナー補佐(当別RC)のお迎えを受け、泉亭俊彦当別町長としばし歓談の後、当別RCの夜間例会に出席した。ガバナーになって初めての例会出席はこの当別RCであったが、最終例会も当別にとい

とである。1人の少年は「おはようと言っても挨拶を返してくれない大人がいる」との声に大人は1本取られた形である。

和田壬三会員(地区家庭奉仕委員長)が冒頭に日本教育研究所のアンケート調査結果では「親を面倒見ようとの気持ち、相手を信頼する気持ち」について調査対象にした世界のいくつかの国の中でも日本がもっとも悲觀的なものであったとの話は心に強く残った。

われわれは次世代の子どもに何をしなければならないのか深く考えさせられたのだが、具体的に大人達が何をどうやるか、となると結構難しい。私自身は最後のまとめで、他人に注意する勇気と、他人に謝る勇気を子ども達に教えて欲しいと小さなお願いをした。懇親会のあと、長万部RCの片山幸夫会長と角健幹事から2次会のお誘いを受け



6月24日(火) 当別RC夜間例会のあとの2次会。みんなよく笑った

う温かいお誘いを快くお受けすることにした。今年は地区リーダーシッププラン(DLP)の完全実施ということで、ガバナーと個々のロータリークラブとの関係が希薄化することを懸念していたこともあったので、各クラブからのお誘いは大変有り難かったのである。

大人は子どもに何が出来るか

第5回ワークショップ(WS)が年度最後のWSとして6月21日(土)、洞爺湖温泉の万世閣において「大人は子どもに何が出来るか」をテーマに行われた。洞爺湖RCの川南明則現会長、元会長の前谷休市、皆川一男会員はじめ、同RC会員のみなさんのお世話によるものである。遠藤秀雄ガバナー・ノミニー(GN)、高橋恒夫(登別RC)、片山幸夫(長万部RC)両会長ほか多くのロータリアン、近隣の小中学校の生徒、また行政・教育関係者など凡そ80名の参加で盛会であった。

とくに印象的だったのは、小中学生の生の声を聞いたこ

た。そのとき片山会長自身がかつて青函連絡船の長い栈橋を足の不自由なおばあちゃんを背負って懸命に走ったという慈愛の実践の話を目にし、出席者一同感激したのだった。

子どもの本音に押されて

洞爺の第5回ワークショップで進藤勝哉会員(室蘭RC)は、次のような言葉を書いたメモをポケットの中にいつもしのばせているとご発言いただいた。ここに同会員のご了解のもと紹介させていただく。小中学生ではなく高校生の声だろうか？

先生 聞いてください、僕らのなやみを不満を不平を
先生 話してください、あなたの青春の夢を希望を
先生 笑ってください、教室の重さ暗さをふきとばして
先生 しかって下さい、僕らのあやまちやさぼりや反抗を
先生 教えてください、はてしない人生のつらさやきびしさを

胆振管内教育局 安西主査 61.10.30
「いじめと非行」の講演会から



「大人は子どもに何が出来るか」のワークショップの翌朝。ホテル万世閣より見た朝もやにかすむ洞爺湖

地区活動 紹介

第5回ワークショップ報告

洞爺湖RC幹事 皆川一男



去る6月21日(土)午後2時~5時、洞爺湖畔のホテル万世閣において、地区最後の行事となる第5回ワークショップが、「大人は子ども達のために何ができるか」をテーマとして開催されました。これは、今年度の地区重点目標に沿い、家庭や地域に慈愛の種をまこうとする活動の一環です。地元の小中学生17名を含めて約70名という大勢の参加者が、お互いの話を熱心に聞き、熱心に話し合いました。



洞爺湖RC前谷休市会員の総合司会のもと、川南明則会長の挨拶に続いて、米

山道男地区幹事から「3年前の噴火の後で開催されたロータリークラブ作文コンクールの御縁で、今回御当地での開催をお引き受けいただき嬉しい。今日は、子どもの皆さんから大人に、こういうことをしてほしい、こういうことをしてほしいという意見をお聞きして、私達の反省材料にさせていただきたい。また、子ども達に対する家庭・学校・地域の役割をあらためて皆で考えたい。」と、本ワークショップ開催の趣旨説明があり続いて、筆者の司会で、討論に入りました。

まず、「子どもは大人に何を望むか」の小テーマで、小中学生の意見や訴えを聞きました。

○「2000年の有珠山噴火で大きな被害を受けた不安な避難生活の中で、みんなに元気を取り戻してもらおうのにどうしたらいいか考えた。それには、自分が笑顔を見せ明るく振る舞うことと気付き、実践した。それで仲のよい友達が一杯出来た。大人の人にも、いつも明るく元気に誰にでも挨拶の声をかけてほしい。」

○「不安な避難生活で環境が変わり、ジンマシンが出る始末だったが、早く、友達と作ろうと思ひ、それには、

自分を表に出すことと考へた。そして、たくさんの友達が出来た。自分を出したくても出せない人に、大人は手を差し延べてほしい。」

○「避難生活で得た他校の友達との別れの寂しさを身に沁みて感じる事が出来たと同時に、大人の人に子どものための交流の機会をたくさん作ってほしい。」

○「将来、プロ野球の選手を目指す自分は、避難してやっとなりにしたミットで練習に励み、弱かったチームをまとめ、そのチームワークでとうとう優勝できた。それも、噴火のお陰だと思う。今後とも立派なキャッチャーになるために頑張る。」

○「将来の夢は、家業の農業を継ぐこと。野菜を植え、育て、収穫し、販売する嬉しさを味わうこと。それに牛を飼うこと。現在、この仕事を続けている父母を誇りに思う。」

○「どうしていじめが起こるのか？遊びからエスカレートしたり、仲間外れをすることから起こります。“ひとりになれる力”と言うことをクラスの目標にしていじめをなくそうとしている。」(“ひとりになれる力”→自立心)

○「安全で住みよい社会を作るにはどうしたらよいか？子どもの安全を考えたら通学路の近くにガソリンスタンドを造るのはどうかと思う。」

○「交通事故を減らす提言。湖畔の遊歩道で車・バイクを走らせない。住民や観光客が安心してのんびりと散歩できるのが遊歩道。車・バイクを入れないで欲しい。」

○「大人が変わってほしいことは、誰にでも気軽に挨拶をして欲しいことです。」

○「ガム・タバコの吸い殻のポイ捨てを無くすことで、住みよい安全な地域作りができるのではないかと。ポイ捨てを見かけたら注意すべきだ。」など沢山の要望が出されました。

次に、「家庭では子どもに何が出来るか」の小テーマで、和田亓三地区家庭奉仕委員会委員長が、日本教育研究所のアンケート調査から、(1)年若い両親を介護する(中国66%、米国46%、日本16%)、(2)両親を尊敬する(米国80%、韓国55%、日本10%)、(3)自分の両親の子どもでもあることに満足している(多くの国80%以上、50%以下は日本の25%のみ)の結果を示し、「親が子どもを信頼することが重要で、子どもの言うことを聞く、子どもの失

敗を見守る、家庭以外の力も借りる、などを奨める。」と話されました。



3番目の小テーマ「学校では子ども達のためにどのような取組みをしているか」では、工藤勉洞爺湖温泉小学校校長が、「学校の教育とは、主体的に自分の考えを持って生きる力を育てること、また小さくても目標・夢・希望を抱けるようそして問題を自分で解決できるように具体的に助言してあげることであり、そのためには、子どもに出番や役割を与えることが大切。」と述べられました。具体的実践例として、月浦森林公園での野外学習、ボートでの中島行と島内巡り、高台のホテルへの登高、などを挙げられました。

最後の小テーマ「地域では子どものために何が出来るか」については、吉田聡虻田町主任児童委員と三浦昭三当クラブ会員とからそれぞれ、ボランティア活動について提言していただきました。吉田氏は、民生委員として十数年地域の子どもの達と触れ合ってきた体験を語り、今後も子どものために力を貸す努力を続けていきたいと話されました。三浦氏は、「当クラブは花和小学校を通じて「ねむのき学園」と18年にわたって交流を続けてきたが、親近感がますます深まり喜びも増した。これも継続して交流した結果であり、子ども達にも影響を与えることと思う。」と述べられました。



ここで、小中学生からの質問を受けて応答があり、小中学生は大人が並んでいる中を握手しながら退席しました。休憩の後、参加した大人全員による意見交換に入り、虻田町の教育・行政関係者、小林博ガバナー、遠藤秀雄ノミニ、地区幹事、長万部RC会員、洞爺湖RC会員などから、和やかな中にも熱心に、多くの建設的な意見が出されました。

最後に、若狭洋一虻田町教育委員会委員長と小林ガバナーの所感が発表され、竹原巖地区幹事の挨拶のあと、前

谷会員の閉会宣言となりました。引き続き開かれた懇親会では、3時間に及ぶ会議から解放されて一層の親交を深め、和気藹々のうちに会を閉じました。

恐らく今年度最後の地区行事だったと思われるのですが、誠に有意義なひとときを過ごすことができました。



第5回ワークショップ 子供のために家庭でなにが出来るか

家庭奉仕委員会 委員長 和田三

虻田町の方には、2年前、私が地区の社会奉仕委員長の時、有珠山噴火災害義捐金事業として、虻田町内の全小中学生を対象として、作文コンクールを実施し、長崎島原懸賞旅行を執行し、更に島原の普賢岳の被災地区の小中学生との合同の「噴火の街に暮らして」という題名のシンポジウムを開いた際にお世話になりました。その際にも司会の皆川さんや、パネラーの三浦昭三さん、実行委員長の前谷さんや虻田町の教育委員会の方、小中学校の校長先生はじめとする先生方には大変ご苦勞をおかけしましたがこの場をお借りして、御礼申し上げます。

私は家庭奉仕委員長に小林ガバナーから指名を受けたのが、一年半前の1月2日、丁度アフリカ旅行に出かけようとした朝でした。

それから約一年半私は、家庭や親子をテーマとする本があれば購入して読み、映画が上映されていればすぐ見に行き、参考になる活動を道内でしておられる方がいれば、お招きしてお話を聞き、講演会にも積極的に参加し、1970年代にアメリカの児童精神医師であるトマス・ゴードンさんが開発した親業訓練にも参加しました。1回3時間、8週間に及ぶもので、一度も欠かさず参加しました。

家庭奉仕に関連するシンポジウムも1回、ワークショップも1回開催し、更に小学校で、みんな楽しく家庭のことと

いうテーマでの課外授業も実行しました。勿論本業の弁護士業を通じて、更に私自身の家庭生活を通じて、私が学んだことを実行したりしてみたのです。

私はこの1年半の間に変りました。はっきり意識できます。家庭というものが、全てのものに勝る尊い場所であり、家族というものが、人間関係の基本になっていることが理解できるようになったからです。

家族が人間関係の基本であることを知ることは、人を信じるのが、人間関係の基本であることを知ることでありますので私は、私のこれまでやってきたことを伝えて、私も皆さんを信じていることを伝えたかったのです。

日本の家庭は、親でさえ、子供を、子どもでさえ、親を信じる事が出来ない危機的な状況が増え続けています。

1、ひとつだけデータを披露しますが、財団法人日本教育研究所が、世界の国々と日本の同年代の**中高生の意識調査**を、無作為に抽出した2,000人の子からのアンケートや聞き取り調査の結果に基づいて発表しています。

1996年のデータに、高校生だけに聞いていますが、“自分の力で生きることが出来なくなった年老いた両親に対して全力で介護しますか？”という問いに対し、中国の高校生は、66%がはい。アメリカの高校生は、46%がはい。日本は、16%がはい。

1998年に“貴方は貴方の両親を非常に尊敬しますか？”という質問をしました。中国の代わりに韓国の高校生にしています。

韓国55%がはい。アメリカ80%がはい。日本10%がはい。

貴方は、自分の両親の下に生まれて、非常に満足していますか？という問いを全世界の中高校生にしたところ、はいと答えた国で、80%以上はざらにあり、50%以下の国は無かったということです。日本は、25%です。

日本は、世界一の長寿国になりました。日本の子供は、そしてその子供を育てる親も、世界一暮らしやすい、経済的には、世界一豊かな環境の中にいるのです。それなのに何時の間にか、両親が子供から、尊敬されず、信頼されない国になってしまっているようです。

私は、そのような信頼関係が出来ている家庭を前提にいくつかご提案を申し上げます。

子供の言うことをしっかりと聞くと

ということです。忙しい家事の間でも子供はお構いなしに自分の伝えたいことを言うてくるものですが、家事を中断してもじっくりと時間を掛けてでも子供の要求に耳を傾けるべきです。

忙しいからといって、子供の要求を聞いてあげなければ、逆に今度親が、今遊びたいと思っているし、また、遊んでいる子供に対して、お使いとか、手伝い、勉強といった、親の希望することを伝えても聞き入れてもらえないのは当然でしょう。ですから、どんなときでも真剣に子供の言うことに耳を傾けてあげることが必要です。

2、次に私たち自身もそうですが、完全な人間はいません。まして子供は、**失敗することが当たり前**です。失敗することによって、子供は、失敗しないようにするにはどうしたらよいか、失敗した結果がどうなるのかを知ることが出来るのです。子供は、成長するために失敗することが必要なのです。失敗が多い子どもは、経験が多いということに外なりません。同じ失敗を繰り返す場合でもそうです。失敗するほどその経験は、その子にとっては、困難なものだけなのです。

子供は、家庭だけでは育ちません。アフリカにこのような格言があるそうです。

「子供というものは、村中の人の知恵と力が無ければ育たない。」

子供が、他人の力を借りなければ育たないのは、事実です。ですから、子供の関係する学校とか勉強塾、スポーツ施設、友達、親戚などあらゆる人々に対して親が信頼を寄せること、そのことを子供に伝えることが必要です。

よく学校の担任の先生を非難する親がありますが、最悪のことです。子供は、その先生を信じ、その先生を尊敬しなければ、先生の言うことをよく聞こうとするはずはありません。間違っても、このような事はすべきではありません。まして、配偶者のことを悪く言ったりすることは口が裂けても言うてはならないことです。

今年度ワークショップ一覽

地区幹事 米山道男

今年度後半の目玉事業として、ワークショップが5回開催されました。テーマは、ロータリー情報、国際交流、家庭奉仕、エネルギー、教育と多彩で

したが、宣伝不足や不慣れなため、参加者が少ない、議論が深まらないなどの問題も残りました。しかし、関心があるテーマについて、対等の立場で自由に話し合うというこの試みは、今後も続けることによってロータリー活性化の一助になるのではないかと期待を抱かせるものであったと思います。御協力いただいた関係各位に深謝致します。

第1回 「ロータリー情報の今日と明日」

3月12日(水) 13:00~16:00、北海道厚生年金会館、主催：地区広報委員会・IC委員会・ロータリーの友委員会・ガバナー月信編集委員会、約40名参加(ガバナー月信4月号7頁参照)。

第2回 「国別部会—ロータリー友情交換交流活動の活性化を目指して—」

4月12日(土) 18:30~21:00、札幌パークホテル、主催：友情交換委員会・地区幹事会・国際奉仕委員会、47名参加(ガバナー月信5月号13頁参照)。

第3回 「家庭奉仕について考える」

5月9日(金) 18:00~21:00、函館国際ホテル、主催：家庭奉仕委員会、35名参加(ガバナー月信6月号5頁・11頁参照)。

第4回

「明日のエネルギー問題を考える」

5月22日(日) 15:30~18:00、北海道大学学術交流会館、主催：地区幹事会・GSE委員会・北大明日のエネルギーを考える会、36名参加(ガバナー月信6月号8頁・16頁参照)。

第5回 「大人は子ども達のために何ができるか」

6月21日(土) 14:00~17:00、洞爺湖温泉ホテル万世閣、主催：洞爺湖RC・地区幹事会、70名参加(内、小中学生17名)(ガバナー月信7月号28頁参照)。

交換留学生を囲み歓談

友情交換委員会 委員長 金井重博

5月31日(土) 地元の有名な川に隣接するシーフードレストランで第一部として留学生の集いを新世代委員会の奥貫委員長の御世話で30人の参加者が7人の元2510地区への交換留学生を囲み歓

談をしました。

6月1日(日) プリスベン国際大会の開催日の夜、隣接のリッジズ・サウスバンク・ホテル・プリズベンにて6時30分から8時迄、北海道ナイト第二部として企画され120人のご参加をいただき第三回目を迎えた「北海道ナイト」は、国際交流、地区と地区との交流を深める楽しいひとときとなりました。

道内の2500地区及び2510地区の皆さんとの交流、そしてオーストラリアからは9800地区、9600地区、9640地区の方々、アメリカはアラスカの5010地区やアリゾナ、そしてスリランカの方々等、外国のロータリアン18人のご参加で短い間ながら和やかに国際交流が出来ました。当地区からも多くの方々、特に恵庭RC、苫小牧北RC、札幌東RC、札幌北RC、千歳RC、札幌西RC、札幌RC、岩見沢RC等から大勢の参加をいただき、会を盛り上げて下さいました。今回の運営の難しさは、大会が三部に分かれていて、特に二部と三部への参加が集中してしまい、両方に配慮して時間を調整することでした。従って、その短い幕間でのパーティーということでも皆様にもご迷惑をおかけしました。立食にしたことでお疲れの方もおられたことでしょう。

遠藤オン・ツー・プリズベン委員長(PG)の開会の挨拶に続き、伊藤義郎元RI理事(PG)もご夫妻で駆けつけてくれて日本語と英語でご挨拶をいただいた後、主催者として2510地区小林ガバナー、2500地区小船井ガバナー挨拶、スリランカ3220地区ガバナーPathmanathan氏の紹介、石垣PGの紹介でオーストラリアのIan Knightご夫妻の挨拶、9710地区キャンベラRC会長、9600地区ハミルトンRC会長および幹事の挨拶、さらに伊藤長英PG、2500地区の佐藤PG、清水(PG)、青木国際奉仕委員長、5010地区Steve Yoshida(PG)ご夫妻とアリゾナの(PG) Philip Silbers氏からそれぞれ挨拶をいただき、私も、アシスタントとして恵庭RCで青少年交換留学生だったエリザベスさんと札幌南RCの元留学生ニコルさんに手伝っていただいて、なんとか司会並びに挨拶をさせていただきました。

アトラクションとして演奏を依頼した地元のローカルバンドがメロディを奏でだしてもなく、女性のボーカリーダーが参加者にフォークダンスを踊るように声をかけて下さいました。石黒さん(札幌西RC)が会を盛り上げる為に率先して踊ってくれた為に



写真はメインゲストの留学生と小林ガバナー、伊藤長英(PG) 遠藤(PG)。(尚この写真には、佐藤ガバナーエレクトは次の予定が有り中座されましたのでお入りになっていません)

すぐ踊りの輪が出来て、楽しいひとときを過ごしました。反省しているのは、日本の両地区のガバナー、パストガバナーのご挨拶に奥様も登壇していただくことを忘れてしまいました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。三部に出る方、その後ゴールドコースト方面に宿泊をされる方の長距離移動の時間と疲れを考え、8時に佐藤ガバナーエレクトに中締めをしていただきましたが、その後もしばらく歓談が続き、皆さんに盛り上げていただいた楽しいナイトとなりました。

「北海道ナイト」に参加していただいた方々に改めて感謝申し上げます。

小中学生と話そう

次期子ども奉仕委員会 次期委員長 米山道男

当委員会の当面の使命は、(i) 会員が小中学校で授業をする、(ii) 会員の職場で小中学生が見学や実習をする、この二つの活動のお膳立てをすることです。既に昨年10月以来、多くの会員のご協力を得て、着実に準備を進めてきました(『ガバナー月信』3月号19頁、5月号12頁、6月号13頁参照)。

6月14日(土)には午後4時から札幌市内で、地区の世界社会奉仕委員会、社会奉仕委員会、家庭奉仕委員会と合同で会議を開きました。当委員会からは、松下文芳(江別西)、三澤龍子(札幌清田)、工藤左千夫(小樽南)、酒井宏(千歳)、石田勉(函館)、和歌宏侑(白老)の各委員と筆者が出席しました。

どなたも殆どの人と初対面でしたが、そこはロータリーの良さ、すっかり打ち解け親しくなり、今後の予定を確認し、協力を約束し合いました。それぞれ教育に関心が高い人達です。今後の委員会活動に、知恵と経験を生かして大いに力を発揮していただける予感がしました。

7月26日の函館を皮切りに、8月には2日滝川、9日苫小牧、23日小樽、30日札幌と各地に出向き、社会奉仕委員会、家庭奉仕委員会と合同で、各地の会員各位との意見交換会を開催させていただき予定です。

その後で、会員各位のご協力のもと、(i)小中学校で授業をして下さる会員と(ii)職場に小中学生を見学や実習に招いて下さる会員の登録名簿を作成します。名簿完成後、各クラブ代表と当委員会委員(12の各グループにいます)とで、名簿を携えて市や町の教育委員会を訪ねて理解と協力をお願いしていただきたく思います。一つまたは複数のクラブで一つの教育委員会と対応していただきたく考えています。その後で各小中学校と個別に連絡を始め、実際の小中学生との関わりは来年4月からということになると思います。

会員各位の、次期当委員会へのご理解とご協力を心からお願い致します。

花が人に与えるもの

次期子ども奉仕委員会 講義協力者 高橋麗秋

子どもは実に多くの可能性を秘めており、私も、「子ども達のためにできることをしたい」と考えると同時に、ロータリアンとして、自分や社会を見つめ直す好機としたいと講師登録をしました。

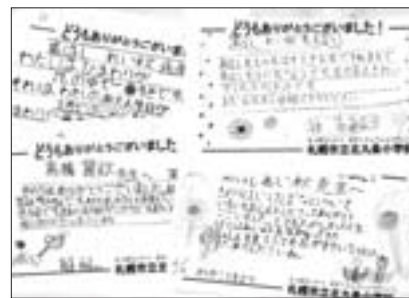
今般、早速、北九条小学校から特別授業の依頼があり、参上しました。

6月5日、小学3年生に「いけばなと花の心」というタイトルではありますが、共に花について考え、この世に存在する花の役割や大切さを始めとして、ヒーリング効果等についても触れるように致しました。また、「いけばな」が生まれた所以や歴史を探ることで、今日、日本の文化として外国より高い評価を受けていることを知ってもらいたいと思い、デモンストレーションや仕事上

の写真(テレビ画面を通し)を交えながらお話させていただきました。

後半は、実際に花をいけることにし、私が初めに基本花型と自由花をいけて見せ、次に希望者(生徒全員)から時間の都合で、一人の生徒さんにいけばなに挑戦してもらいました。最後には、生徒さん全員で合作作品を制作し、皆で作る楽しさ、共同制作の中で感じる何かを余韻として約1時間20分の授業を終了しました。以上が大まかな内容です。

当日は、36名のお友達とコミュニケーションを図ることへの期待に胸を弾ませて行きましたが、まず、生徒さん一人一人の目の輝きに驚かされました。そして、私の話本当に純粋に耳を傾けてくれ、質問すると全員が元気良く挙手をするという具合に、答えてくれる生徒を選ぶことの出来ない状態で進みました。特に、最後にオブジェに向日葵の花を挿して合作を創る時に、私が、「今日は、室内で授業をしているので、空の色をオブジェにして持って来ました。皆さんの好きな太陽のような向日葵の花を空に向かって元気良く挿して下さい」とアドバイスただけで、自由に生徒全員で大小の向日葵を活けてもらいましたが、完成作品は、プロから見てもお世辞抜きで良く出来上がり、皆の感性の豊かさに嬉しくなりました。また、後日、3年生全員から感想文を頂戴しました。私の言葉の端々をも敏感に受止めてくれた内容にビックリしましたが、多くの生徒が花の絵も描いてくれとても感激しました。「また、是非来て下さい」という文面を読みながら、機会があれば、もっと多くのことを楽しく子ども達に教えながら、私もエネルギーを分けてもらいたいと思いました。



ロータリー国際親善奨学生の初の壮行会開かれる

国際親善奨学金委員会 委員長 土橋信男

本年度選考した奨学生11人は以下に示すように9カ国への留学を目指している。これは過去最多の国であり、特にアジアへの2カ国は初めてである。

その奨学生のための壮行会を去る6月28日に行った。小林ガバナーをはじめ出席したロータリアンの励ましの言葉に応じて、各奨学生は力強くその決意や抱負を語った。

これは本地区で行った初の壮行会であった。壮行会では、これも国際ロータリー財団から送られてきた初の奨学生バッジが各奨学生にガバナーから手渡され、奨学生一同喜びと感激に満ちていた。

奨学生の出発はそれぞれ国やプログラムによって違いがあるが、最初の出発は9月である。奨学生の留学が実り多いものであるように！



- 内山裕子(江別) オーストラリア3カ月
- 求馬久美子(恵庭) ドイツ3カ月
- 加茂実武(札幌はまなす)
イングランド3カ月
- 星井絵里子(札幌東)
ニュージーランド3カ月
- 今井愛美(札幌清田) フランス3カ月





- 上森奈穂美(札幌幌南) タイ6カ月
- 中村理子(札幌) トルコ6カ月
- 小橋麻美(深川) イタリア1年
- 西原明希(札幌幌南) イングランド1年
- 兼子歩(札幌はまなす) アメリカ合衆国1年
- 平岡美穂(札幌幌南) イングランド1年



国別交流会について

国際奉仕委員会委員長 青木功喜
 友情交換委員会委員長 金井重博
 地区幹事 米山道男

同じ外国に関心のあるロータリアンが集まって、その国について勉強したりその国の人々と交流したりする活動は国際理解の増進を図る上で有効ではないかと考え、今期後半に、友情交換委員会が中心となって会員に呼びかけて何度か懇談会などを開きました(注1および注2参照)。

この活動の次期の方針について、去

る5月22日に、小林G、石垣PG、佐藤GE、今期の菅原・竹原両地区幹事、次期の木村地区幹事、青木、金井、米山が協議した結果、次期も継続して活動することに合意しました。

集会名を「(国名)交流会」とし、国際奉仕委員会が主催し、開催経費はその都度参加者負担とすることにしました。主催は国際奉仕委員会ですが、実行には世話人グループが協力することになります。

この活動に関心のある方は、地区の国際奉仕委員会にご連絡下さい。今期における会員各位のご協力に感謝申し上げますとともに、次期における活発な活動を期待しています。

(注1) 今期開催した関連集会：

1. 「国別部会に関する懇談会」(3月7日)、
2. 「国別部会に関するワークショップ」(4月12日)、
3. 「ロシア部会に関する懇談会」(5月6日)、
4. 「ロシア部会勉強会」(5月20日)、
5. 「スリランカ交流会」(6月5日)。

(注2) ガバナー月信の関連記事：

1. 米山「国別部会」へのご協力を(2月号15頁)、
2. 金井「国別部会設置懇談会開かれる」(4月号19頁)、
3. 金井「第2回ワークショップの報告」(5月号13頁)。

第13回JGFR北海道大会成績表

	A部門(HC 0~12)					B部門(HC 13~36)					C部門(女性全員)				
	氏名	所属RC	グロス	H C	NET	氏名	所属RC	グロス	H C	NET	氏名	所属RC	グロス	H C	NET
優勝	小島久雄	長泉	84	13.2	70.8	鳥袋良夫	沖繩コザ	85	12.0	73.0	行松愛子	堺	98	22.8	75.2
準優勝	千明三右衛門	渋川	103	31.2	71.8	梅田鉄夫	新札幌	91	15.6	75.4	渡瀬三知子	東京西	105	28.8	76.2
3位	新井 清	吹田	76	3.6	72.4	仲屋成裕	岩見沢	96	20.4	75.6	小島道子	長泉	109	32.4	76.6
4位	宇治 忠	門真	80	7.2	72.8	藤波仁央	岩見沢	100	24.0	76.0	枝吉眞喜子	佐賀西	100	22.8	77.2
5位	森山英次	岩見沢	86	13.2	72.8	羽田克己	東京芝	98	21.6	76.4	田中公子	総社	108	30.0	78.0
6位	金子賢一	岩見沢東	79	6.0	73.0	入江瑞彦	高砂青松	90	13.2	76.8	入江愛子	高砂青松	109	30.0	79.0
7位	金田省三	岩見沢東	81	7.2	73.8	坂本 巍	和歌山南	96	19.2	76.8	藤原園子	東大阪中央	110	28.8	81.2
8位	小代一幸	津久見	87	13.2	73.8	谷川泰清	高松グリーン	93	15.6	77.4					
9位	田近良三	伊丹昆陽池	78	3.6	74.4	田中裕士	総社	99	21.6	77.4					
10位	戸塚富雄	渋川	78	3.6	74.4	小西龍機	小野	96	18.0	78.0					

グランドシニア

氏名	年齢	ネット
1位 門馬真澄(郡山東)	73才	75.0
2位 花栄壮佳(高砂青松)	70才	75.4
3位 池田栄吉(池田くれは)	78才	75.8
4位 葛尾信弘(松江)	70才	75.8
5位 伊藤隆男(知立)	73才	77.0

ベストペア賞

氏名	所属RC	グロス	ネット
1位 小島久雄・小島道子(長泉)		70.8	76.6
2位 行松公仕・行松愛子(堺)		76.4	75.2
3位 枝吉順佑・枝吉眞喜子(佐賀西)		74.6	77.2

グロス賞

部門	氏名	所属RC	グロス
A部門	1位 新井 清(吹田)		76
	2位 田近良三(伊丹昆陽池)		78
	3位 戸塚富雄(渋川)		78
B部門	1位 鳥袋良夫(沖繩コザ)		85
	2位 入江瑞彦(高砂青松)		90
	3位 梅田鉄夫(新札幌)		91

女性部門

1位 行松愛子(堺)	98
------------	----



6月16日(月)札幌ゴルフ倶楽部(輪厚コース)にてJGFR北海道大会が開催されました。大会当日は天候に恵まれ、全国19地区より88人の方々が参加され、北海道でのゴルフを楽しまれました。皆様の成績を左記に報告致します。

クラブ活動 紹介

クラブ発足35周年記念行事 「こどもを育むシンポジウム」 を開く

酒井 宏 (千歳RC)



この度、千歳ロータリークラブ(会長 村松克重)では、創立35周年を記念して、こどもに視点を当てたシンポジウムを開催した。シンポジウムには各界で活躍中の6名のパネリストをはじめ地域の行政・学校関係者、ロータリアンOB、第7グループロータリアンなど150名の参加を得た。また、公私にわたりご多忙の中、小林地区ガバナー、米山地区次期子ども奉仕委員会委員長のご出席を賜り、シンポジウムに花を添えていただいた。

地区ガバナー誕生を契機に

当クラブは、1968年4月に札幌ロータリークラブのご指導の下に発足、爾来、ロータリー精神に則り奉仕活動をはじめ地域貢献を展開し、35年の節目の年を迎えた。この意義ある年に、我がクラブの佐藤秀雄会員がRI2510地区ガバナーに推挙されたこともあり、その意味を含め、次代を担うこどもの健全な育成と、将来あるべき姿を模索するために有識者を招聘し、ロータリアン等が一堂に会してシンポジウムを開催した。

「こども」に視点を当てた理由

「記念行事として何をするか」から始まり、こどもに視点を当てたシンポジウム開催決定までに紆余曲折があった。

少子・高齢化を迎えた今、次代を担うこどもに想いを致す大人は少なくない。今から1世紀前のスウェーデンの婦



人解放運動指導者が「二十一世紀はこどもの世紀である」と表明したが、戦争という問題で世界のこどもは受難と苦痛を体験し、茨の道を歩んだ。二十一世紀を迎えた今でも戦火に怯え、飢えに苦しみ、学べずにいるこどもが多い。反面、日本のこども達は物質的に恵まれているが、精神的に脆弱化し、自己の欲望を満たすために予想もしない反社会的な行動に走りがちである。それらこどもが成長する過程で大人の間わりが大きいことは長い歴史が証明しているなどを考えると、大きな可能性を秘めたこどもに期待を込めるためにロータリアンとして、そして大人として何ができるかについて議論をすることが出発点であった。

恵まれたパネリスト

開催に至るまでに20回ほどの委員会を開催した。委員会メンバーがそれぞれに想いがあり、口角泡を飛ばしての議論の中から基本方針から運営の細かい部分まで決定した。委員会メンバーの個性が、まさにロータリアンの職業分類の意味が生かされたと思っている。

シンポジウムの主役は参加者であり、もう一方の主役がコーディネーターとパネリストである。それぞれの分野で活躍している方々に開催の趣旨をお伝えし、参加をお願いしたところ、快く引き受けいただいたことが、今回のシンポジウム成功の第一歩であったと思っている。

活発な発言で会場熱気

各パネリストには、それぞれの立場と豊富な経験から自由な発言をお願いした。コーディネーターの北海道千歳

リハビリテーション学院 山本克郎学院長からは、「大人の行動と役割」と題して基調講演があり、「社会もこどもも病んでいる。それを回復・治療させるため、大人の責任が問われる」と「大人の行動の重要性と責任」を呼びかけた。次に、千歳市教育委員会 小林義知教育長は、「教育現場におけるこどもの行動」というテーマで「こどもは親が育ったように育つ」と直言、教育現場からの得た光と影を大人の責任と役割を考えたいと、また、北海道新聞社千歳支局 川島亨支局長は、「こどもの特異行動と報道」のテーマで「多くのこどもは、まっすぐに成長したいと思っている。子供の危機が言われる今、普通に頑張っているこども達にスポットを当てた報道が望ましい」と日々の体験から大人への警鐘が話された。北海道警察本部少年課サポートセンター 梶 裕二少年心理専門官は「こどもの心理と犯罪」というテーマで、「こどもの非行は一過性のもの。こどもを犯罪者にしないために、大人がルールの教え方に工夫することが大切」と少年犯罪と対峙した経験からの指摘であった。最後は、自ら青少年問題研究所を設立して活動しているほか千歳市保護司会総務部長の公職にある佐々木繁信氏は、「こどもと家庭」と題し、「今のこどもは危ない」「社会の混乱の中で家庭機能が崩壊【今、家庭(親)にも求めるものは】と力説し、「きみは夢を持っているか 夢を現実の目標に変えて 目標を実現するために頑張っているか」と結んだ。

「千歳運動」として評価

米山次期地区子ども奉仕委員会委員長には、コメンテーターとしてご参加いただき、「子どもは多くの可能性を秘めた素晴らしい存在」「子どもと同じ目線で語り、子どもから学ぶことが大切」と子どもに接するときの親や大人の基本姿勢などについて力説され、あわせて次期子ども奉仕委員会の活動内容などの抱負を話された。

最後は、小林地区ガバナーの講評として「各パネリストのお話は大変素晴らしかった。とにかく、相手が大人でも、子どもであれ、家庭でも社会の中でも、相手の話を良く聞くということが大事であるという気がした。」また「相手の人格・人権を心の底から認める。そうすると相手が子どもであれ、大人であれ、素晴らしいと感ずることがある」と想いを述べられた。今回のシンポジウムが「千歳運動」として多くのクラブで展開することを期待するとの講評があり、開催クラブとして感激の言葉であった。

今がスタート台

シンポジウム終了後、多くのロータリアンから「いい企画であった」「素晴らしい内容であった。ご苦労さま」という労いの言葉をいただいた。しかし、素人集団が企画・運営したシンポジウムであり、一抹の不安があったが、お褒めの言葉をいただくと、大人の誰もが抱えている問題を同じテーブルに付いて、議論に参加できたことに満足をしていただいたものと思います。

総理府が提唱する「大人が変われば子供が変わる運動」を身近なものと感じ、「大人の行動と責任」についてお互いを感じ、行動するときであると思います。まさに今「千歳運動」はスタート台に立ったばかりである。

今回のシンポジウムの開催にあたり、小林地区ガバナーはじめ米山次期子ども奉仕委員会委員長、7グループロータリアン各位のご協力に心から感謝申し上げます。

第3グループとして初めてのパークゴルフ大会

久住八郎（栗山RC）

6月9日（月）新緑のまぶしい中、栗山ダムパークゴルフ場に、各クラブより41名が勢揃い、太陽もこの日感激する

ような、晴れ顔、午後2時スタートを前にして、辻野ガバナー補佐よりの親睦を深めたいとの挨拶、北川会長の挨拶、友成審判委員長より競技説明につ



づき、栗山ロータリークラブ副会長太田ヒロ子より力強い選手宣誓、初めてパークゴルフをやる人もベテランの人も楽しくやっていました。女性6名の参加もあり、だれでも気楽に、やれるスポーツを提案された辻野ガバナー補佐、年度の初めに、計画を立てて、実行される姿に、第3グループのまとまりを感じます。楽しいパークゴルフのあと、ホテルパラダイスヒルズの温泉にはいり、おいしいビールを飲みながら懇親会、表彰式、結果は、地の利を活かした栗山が団体優勝、栗沢ロータリーは11時から来て練習したが、善戦及ばず、わきあいあいの懇親会でした。



この楽しい、懇親会を計画立案された栗山ロータリーの親睦委員長関吉一郎の顔は責任を果たしたと言う表情でした。このパークゴルフ大会を通して、メンバーの人的交流が出来、信頼も出来れば、一つの財産ではないかと考えます。



に
れ
の
誕
生

悲しい別れと奇跡の再会 —ブリスベン世界大会への旅—

村上利雄（恵庭RC）



第7グループだけでブリスベン大会参加ツアーを組もうということになったのは今年の春でした。当時私はガバナー補佐をしていたことから、世話役とし動くことになりました。今年の夏頃から日程やコースを具体化しました。

オーストラリアにいる元交換留学生にも逢おう、ということになりました。10人以上のローテックスに手紙を送りました。転居先不明で戻った手紙が数通、返送されなかったものの返答がない、というものもありました。

結局、会えることになったのは、恵庭に前年度留学したケイト・ランクロード、その前のミーガン・ストールマン、そして1月に帰国するエリザベス・マーランの3人になりました。

折角の機会だから、千歳や恵庭からオーストラリアに来て学校に通っている学生にも声をかけよう、ということになりました。



ミーガンは着物も似合った（隣りは筆者）

まず、恵庭からニューサウスウェルズ州のリズモアに派遣中の交換留学生、鈴木愛さんが来てくれることになりました。ブリスベンの大学に私費留学している古谷さんや、ゴールドコーストで英語の専門学校に通っている栗林さんも来てくれることになりました。

私には、出来れば逢いたい人がもう

一人いました。15年前、わが家で初めて預かった留学生のカイリー・バークです。恵庭RCでは、12年前に行われた創立20周年記念式典で、ゴールドコーストのバーレイヘッズRCと姉妹提携の調印式をおこないましたが、カイリーはその架け橋になるなど活躍してくれたものでした。数年前に結婚してから音信が途絶えていました。

あと8カ月で会えるというところまでできた10月2日、**突然悲報**が飛び込んで来ました。ミーガン・ストールマンが、交通事故で死んでしまったということです。4人でドライブ中、迷い込んだ蜂を払おうとしたドライバーがハンドルを切り換え、車が崖から転落し、全員が死亡したということでした。

嘘だろう、と思いました。数日前に、電話で打ち合わせをしたばかりだったのです。

ミーガンは私の家に住んだ最後の留学生でした。彼女のご両親も恵庭に来て、あちこちと案内したものでした。老人の私より先に死ぬなんて許せない、とも思いました。

ミーガンのお墓参りに行こう、ということになったのは、出発が間近になった頃でした。クイーンズランド州のツーンバという町に、彼女の墓があることが分かりました。ツーンバは人口7~8万人といますから、千歳より小さく、恵庭より大きな町、といったところでしょうか。

清水慧子地区青少年交換委員長は、同じ第7グループの長沼RC会員ですが、委員長も世界大会に参加することになっていました。ミーガンが留学していた時も委員長をしていて、彼女のことを良く知っていました。清水委員長は9年前と11年前、長沼町が実施している小学生の国際交流で、数名を連れてツーンバへ行き、体験入学などをさせたのだそうです。そのツーンバにミーガンのお墓がある巡り合わせに、私達は驚きました。

ミーガンの両親などとの連絡は、

9640地区青少年交換委員長のマイク・フレイザーさんを通じて、清水委員長がとってくれました。清水委員長とフレイザー委員長は、日本で交流がありました。これも不思議な縁でした。

ミーガンのお父さんとフレイザー委員長が、それぞれ自分の車でホテルまで迎えに来てくれることになりました。相談の結果、ミーガンのホストファミリーなど、関係の深い8名が行くことになりました。

5月29日夜、私達は関西空港を飛び立ちました。シドニー空港に到着したのは、翌朝の10時近くでした。時差の1時間を引いて計算すると、11時間を超えていました。長いフライトでした。

到着後、オペラハウスやハーバリーリッジ等を見学しました。翌朝は6時にホテルを出発、シドニー空港からブリスベン空港に向かいました。

ブリスベン空港では、ミーガンのご両親やお姉さん、それにバスターガバナーでもある祖父、そしてフレイザー地区委員長などが出迎えてくれました。ご両親は3年前に恵庭に来たことがあり、ホストファミリーなど関係者の顔をよく覚えていました。

私には、**ご両親の横にミーガン**がいるように感じました。そこにはミーガンが立っていて、あの知的な明るい笑顔で、私達を迎えてくれる筈でした。私はいる筈のないミーガンを捜し求めました。無念の思いが私の心を貫きました。

私達と握手をするうち、お母さんの目から涙があふれ出してきました。私達には、涙の意味が痛いほどよく理解出来ました。

ミーガンは、家族全員で空港に迎えに行くと、約束してくれていたのです。そしてもう少しで大学を卒業というときに、若い命を落としたのです。ご両親も、本人も、どんなにか無念だったことでしょう。

ご両親達とは空港で別れました。ブリスベンでコアラ園などの観光の後、

ゴールドコーストのANAホテルに着くと、ケイトや鈴木愛さん、栗林さんなどがロビーで待っていました。夕食後には、エリザベスとご両親が迎えに来ました。エリザベスの家に招待されていたのです。エリザベスのご両親も昨年恵庭に来てしばらく滞在していたので、多くの人と顔見知りになっていました。

エリザベスの家は、ホテルから車で25分ほどの住宅街にありました。外壁から室内の壁まで、白で統一された潇洒な建物は高台にあって、応接間からは、ゴールドコーストの夜景が、ネオンのきらめきも鮮やかに見下ろされました。室内も見せてもらいましたが、二つある浴室のうち、一つはバスタブに入ったまま夜景が眺められるようになっていました。私達はそこで、2時間あまりの楽しいもてなしを受けました。

翌朝8時、リムジンバスと乗用車の2台が迎えに来ました。ミーガンの墓参りです。トランクには、白い花輪を忍ばせました。日本を発つ前から、ホテルに手配を頼んであったのです。

通訳をかねて、ケイトが一緒に行ってくれることになりました。ケイトは日本に来るとき、その前年度に留学したミーガンに、いろいろアドバイスをしてもらったのです。帰国後も交流があったとのことでした。

車はミーガンが卒業したセント・ヒルダス高校の前を通りました。立派な門構えの、伝統ある学校のようなでした。ミーガンはこの高校を首席で卒業したそうで、彼女を記念して**ミーガン賞**が設けられ、毎年日本語科のトップに授賞されることになったそうです。大学での成績も優秀で、上位10名に与えられる優等生の表彰を受けたとのことでした。

車は内陸に向かって高速道路を走り続けました。100キロから110キロの制限速度でした。全線無料とのことでした。日本とは大違いです。

道路から見える住宅はどこも庭の芝がきれいに刈られ、すっきりとした印象を与えます。あちこちの庭で、上半身裸で芝刈りに精を出す男性の姿が見受けられました。庭の芝刈りは義務づけられていて、怠ると市が代行する代わりに高い料金を取られるので、日曜はどここの家庭も芝刈りに汗を流すとのことでした。



ミーガンの墓前で留学課程修了証書を読みあげる清水地区青少年交換委員長

ミーガンのお墓までは、3時間近くかかりました。一面に芝が張られ、ところどころに、50センチ角ほどで、やや横に細長い黒曜石のようなプレートが置かれています。道端には小さな人造池があり、その周りに花々と共にプレートがありました。映画やテレビなどで見る、立てられた墓標は見当たりませんでした。

墓地ではミーガンの姉や祖父母、そしてお父さんの幼友達などが、私達を待っていました。

ミーガンのお墓は、広い芝生の中にありました。地面に置かれたようなプレートの向こうには、背丈ほどの樹木が直線に植えられ、濃い緑葉を地面から生い茂らせていました。横に並ぶ墓標の周りは、茶色のチップが敷き詰められています。

早瀬恵庭RC会長が、プレートの前に白い花輪を捧げました。私達は横1列に並んで手を合わせました。

オーストラリアでは、土葬と火葬のいずれかを選択できるそうです。ミーガンは土葬で、プレートの下で縦になって眠っているとのことでした。

私は説明を聞き、死後8カ月の遺体はどうなっているのだろうと、あらぬ

想像をしてしまいました。腐敗してはいないだろうか、虫がついてはいないだろうか。そんな想像をするのはこの上なく辛いものでした。私にとって、土葬はとてつもなく残酷なものでした。

私は恵庭で一緒に暮らしたときのミーガンの姿を、懸命に思い浮かべようとしました。私をお父さんと呼んでくれたときのままの姿で眠っているのだと、懸命に自分に言い聞かせました。

ホストファミリーの1人が、プレートの前で膝を折り、うなだれました。ミーガンの温もりを求めるかのように、プレートに手のひらを当てました。

「こんなところに入ってしまって、可哀想に」

話しかけるように呟くのでした。手の甲に涙が落ちて鈍くはねるのを見たとき、私の中の悲しみが爆ぜました。

「こんなところで会う約束じゃなかったのに」

誰かの呟きが参列者の涙を一層煽り、肩を波立たせました。

清水委員長が、日本から持って来たミーガンの留学修了証書を取り出しました。今日まで渡せずにきたのでした。

清水委員長は、プレートを挟むようにして遺族と向かい合い、証書を読み上げました。涙を流し続けるお母さんをお父さんの逞しい腕が背後から優しく支えました。

墓参の後、私達は雄大な原野を見下ろせる郊外レストランで、昼食を御馳走になりました。そこには、かつて清水委員長がツーンバで親しくなった子供や家族が待っていました。清水委員長は子供たちの成長に目を見張りました。

私達はツーンバからブリスベンの世界大会会場へと直行しました。コンベンションセンターに到着したとき、2回目の開会式は間近に迫っていました。クイーンズランド大学の古谷さんが来てくれました。1時間以上も私達を探したそうです。時間を縫って、日

曜市場の出店などを案内してもらいました。



ミーガンの温もりを求めるホストファミリー

翌日は1日フリータイムでした。それぞれにゴルフや観光のグループに分かれ、楽しく過ごしました。私はゴールドコーストのビル街を見下ろす高原で食事をしたり、船の形をした水陸両用車で街や湾内を遊覧したりしながら時を過ごしました。

夜になって、ゴルフ組が戻って来ました。その中の一人が、思いがけない朗報をもって来てくれました。なんと、ゴルフ場で出会った支配人が、あのカイリー・パークの御主人だったのです。シューズを返しに行ったとき支配人に会い、どこから来たのかと話しかけられ、そのことが分かったということでした。彼は私の名前を知っていて、カイリーに電話をして欲しいと言付けてきました。



駅長姿が似合ったカイリーも今は2児の母

これはまさしく奇跡というものです。彼から託されたという名刺を見ると、カイリーの名前と電話番号がメモされていました。

夜の8時半過ぎでしたが、私はカイリーに電話をかけました。カイリーの驚きの声が、電話機から飛び出してきました。私の家にいた頃と同じ声でした。

短い時間でしたが、私達は色々なことを語りあいました。彼女は2歳の男

の子と、5カ月の女の子のお母さんになっていました。

「明日日本に帰ります。朝6時にホテルを出発するので会わずに帰るけど、声を聞けただけでも幸せでした。帰ったら子供が生まれたお祝いの品を送ります。お母さんに見せてやりたいので、赤ちゃんの写真を送ってください」

カイリーは送る約束をしてくれました。

翌朝、5時半過ぎにバスが迎えにきました。オーストラリアは冬に入っていて、朝の6時はまだ暗闇の中になりました。

ホテルの玄関を出てバスに向かおうとしたとき、私は思わずその場に立ち尽くしました。バスの前に、カイリーがいたのです。2歳の男の子は白地に紺のチェックのパジャマとサンダル、という格好でした。眠っていたところを無理に起こされて来たらしく、少し機嫌が悪そうでした。女の赤ちゃんは、カイリーの肩口に顔を預けながら眠っていました。どちらも西洋人形のような可愛らしさでした。自分の孫のようにおしさを感じました。仲間が私達を写真に撮ってくれました。

カイリー親子に見送られて、バスは空港へと走り出しました。私はシートにもたれながら、彼女に出会えた幸運に酔いしれました。二度と会えまいと諦めていたのです。ひょっとするとミーガンが引き合わせてくれたのかもしれない、などと思うのでした。

混声コーラスで銀山学園訪問

朝倉正人（札幌東RC）



5月18日（日）に札幌東RCの社会奉仕委員会（小田切委員長）とイーストハーモニーと合同で総勢32名にて混声コーラスでの交流を行いたいとの考えで、余市郡仁木町にあります知的障害者福祉施設「銀山学園」を訪問致しました。



当日は五月晴れで絶好のコンディション、気分も爽快で一台のバスに乗り込み景色を見ながら談笑し、練習しているうちにやがて到着しました。昨年も伺っておりますので学園の皆様も来るのを楽しみにしていたようで、出迎えて頂き歓迎を受け少し緊張してしまいました。

例会の後に何回か星野慶子先生のご指導を仰ぎながら練習を致しました。男性のメイン曲がトレロカモミロで聞きなれない曲でなかなか上手に歌えないところもあり、また口が回らない事がしばしばありちょっと心配でした。それに比べて女性陣は普段の通り完璧でございます。ハーモニカーズも少し不安でしたが……。

先生の指揮のもと歌い始め何とかメイン曲をクリア（少しミス）。他の歌は女性陣の助けをもらい格好がつかしました。武田先生のリードでハーモニカーズも上手に演奏し無事終了。その後生徒さん達との合同合唱で童謡等を大きな声でリズム良く一緒に歌って頂きました。和やかな楽しい時間を過ごさせていただき、久々に童心に還った気持ちでございました。

施設の人達はなかなか人との対話、つながりがないと思います。お話をしたい、仲良くしたい気持ちが理解でき多くのことは出来ませんが、コーラスを通じて少しでも喜んで頂けた感じで学園をあとにしました。



昼食は水明閣で、鮎料理とワインで舌鼓を打ち和気藹々、中、ほろ酔い気分です。帰途につきました。

このようなことで会員の親睦とコミュニケーションがとれ、今日一日何かすがすがしい気持ちと充実感のある一時を過ごさせて頂きありがとうございます。こう感じたのは私だけでしょうか……皆さんがそのように感じたと思います。休日の一にご苦労様でした。

四クラブ合同発寒川清掃社会奉仕活動

大島利一（札幌西北RC）



札幌西区の発寒川えん堤の清掃奉仕活動（約1,300m）を5月17日（土）札幌西・札幌手稲・札幌西北・札幌あげほの四クラブの社会奉仕委員会合同で参加者31名と連合町内会（9町内）の皆さんと一緒にいった。札幌西RCの高下泰三会長の『今日は日本晴れの最高の天気を持って来ました。清掃奉仕で良い汗を流しましょう』と言う挨拶のとおりに雲一つない好天に恵まれて清掃活動を行いました。この発寒川えん堤は1991年～92年の2年間にわたり札幌西・札幌手稲・札幌西北の3クラブの社会奉仕委員会が合同で桜の苗木200本を植樹したところで、それから12年後の今では見事な桜並木となり近隣の皆さんから素晴らしい憩いの場になったと大変喜ばれており、1993年には連町から御影石の立派な感謝の石碑が建てられている場所で、今年は石碑建造10年目に当たり、桜の成長をみようとして四クラブ合同で清掃奉仕を行ったものです。私たちが想像していたよりもゴミは少なかったが、それでもゴミ袋で



約45袋程もあり、大物ではホイール付古タイヤ4本が投棄されていたのには驚きました。

清掃で流した汗の上にもう一つ良い元気な汗を流そうと引き続き登寒川の隣りになる311mの三角山に16名の猛者連が健脚を競い登山、下山後札幌手稲RCの移動例会場宮の森ガーデンに合流、例会後は自動的に懇親会に早変わり総勢44名で汗を流したあとの水分補給としてビールとジンギスカンでお互いの健康に感謝して乾杯し、四クラブの交流を一段と深めた本当に気持ちの良い幸せな一日でありました。



インターアクト年次大会開催

矢橋潤一郎（札幌東RC）

インターアクト年次大会が6月21～22日、北海道青少年会館（札幌市南区真駒内）において、北海高校IAC（提唱 札幌東RC）のホストにより開催されました。参加登録は、生徒・顧問・ロータリアン合わせて130名。

初日の土曜日は開会式後、盲人卓球の模擬体験を行いました。専用の台を西区の福祉センターから搬入し、この競技で活躍されている方から直接指導を受けました。夜の交流会はバスケットボール大会。各校間の親睦を深めました。

翌日曜のプログラムでは、北海高校



IACが長く交流を続けている韓国の児童擁護施設「共生園」から名誉園長をお招きし、講演をお願いしました。部員の父兄も見学を訪れ、実際に同園でお手伝いした部員達による体験発表に聞き入っていました。

ホスト校の北海高校IACは、現在50名の部員が在籍しています。そのため準備・運営において人手で困ることはなかったようです。部員一人一人が役割を意識しており、顧問先生の指示を待つまでもなく率先して動き、毎晩遅くまで部室に残っては準備・リハーサルに取り組んでいました。そうした十分な準備により2日間の日程はスムーズに進行し、例年より規模の大きな年次大会も成功のうちに終えることができました。



>>> 春楡奨学会の紹介

米山道男会員（札幌北RC）が昨年、退職金の一部を北大留学生に提供した時に用いた名称が「春楡奨学会」です。この奨学金では、奨学金提供者が国籍・学部・金額・期間・人数などの条件を自由に設定し、提供者自身が面接しますので、他の奨学金と違って、提供者の考えを明確に反映できるシステムだということです。米山さんは賛同して下さる方を求めています。写真は、応募したが不採用になった留学生達との米山会員宅の庭でのパーティー風景（7月6日）。（幹事 竹原 巖）



>>> 中国の看護師との交流を10年間続けて

札幌北RCの大田すみ子会員と木村芳江会員は、1993年から中国への看護講演を行うと同時に国際活動の少なかった中国の看護職リーダーの招聘活動を開始し10年目を迎えています。

応援者をつのって、これまで14名を招き、日本の看護の実情と看護教育の視察、日本の社会についての見聞を広げる機会をつくってきました。受け入れのための経費は1人およそ50万円でした。

今年10年目を機して札幌市で開催する看護の学術集会を中心に大学、一般、老人施設等の視察を含めて3名を



招待したいと計画中です。

この活動に賛同して下さる方を募集中です。（幹事 竹原 巖）

国際大会(ブリスベン)の
グループ討論から

小林 博 (札幌北RC)

本文はブリスベンにおけるロータリーの国際大会2日目に開催されたBack to Basics (原点に戻ろう) のパネルで筆者が家庭奉仕について話した英文の要旨である。

私はこの30年間非常に怠惰なロータリアンでした。率直に言って札幌北ロータリークラブの会員でありながら、決して真のロータリアンではなかったと思います。私自身の専門であるがん研究に忙殺されたためにロータリー活動への時間が取れなかったというのが正直なところで、毎週1回ロータリーの友人と昼食を取りながらロータリーの話をするのが精一杯という状況でした。

しかし私がガバナーの任命を受けたときには、これを潔くお受けし、2002年1月にカリフォルニアのアナハイムで開催された国際協議会に出席致しました。

このような状況でありましたが、ただ私はロータリーにとって何が一番大事かということについていつも考えてきたことは確かです。

1. 今年の国際ロータリーのテーマは「慈愛の種を播きましょう」で、私の非常に好きなテーマのひとつです。ロータリアンとして慈愛の種をロータリークラブ、職場、地域社会、国際社会に播くことがいかに重要かということは疑う余地もありません。しかし慈愛の種というテーマを論ずる時、社会の最も小さな単位として家庭がもっとも重要ではないかと考えまして、私どもの地区に「家庭奉仕委員会」なるものを始めることに致しました。それ以来いろんな場面において私どもはロータリアンとして自分たち個々の家庭に何ができるかを討論してきました。自己利益のない、家庭のための真の慈愛の種を家庭に播きたい。そうすることで、まず自分の足元により豊かな家庭を築き、そこからよりよき社会を構築していく出発点にしたいというのが我々の願いです。この活動は我々のロータリークラブを強力にするだけでなく、ロータリアン相互の友愛の気持ちを深めることにも役立つと確信しています。



2. ロータリアンとして家庭に対して今何が大事かという問題についての我々のホットな議論を通して、私なりに得た結論はいくつかあります。これは単に自分たちの家庭に平和をもたらすだけでなく、子供達に関連した

犯罪などの予防にも通ずるものです。

家庭に関する議論から、私の学んだ大事なことは、まず子供たちの言うことをよく聞いてやることだと思います。両親は子供達に対して厳格に躾けるか、あるいは甘やかすかのどちらかですが、どんな些細なことでも子供達の言うことを注意深く、また辛抱強く聞くことが子供への非常に良い指導を生み出す第一歩になるだろうと考えるからです。

次に大事なことは他人を尊敬するということです。個々人の人権を確認することです。相手が若い人、自分の子供であってもそうです。両親はしばしば子供は自分の分身であると考え、子供達の人間としての独立した権利などを認めようとしません。相手を認めることは子供だけでなく一般の対人関係にも通じるのですが、我々ロータリアンはこういったことで社会の模範でなければならないと思います。

3番目に大事なことは相手を褒めるということです。相手の言うことを注意深く聞く、あるいは相手の人間としての存在を認めることに加えて相手の些細なことでも何か美点を見出して言葉で誉めてあげることです。褒められた人は喜びと自信を与えられるものです。

以上3つのことは理論的には受け入れられても実際はなかなか難しいものではありますが、これらを実行することによって家庭内の平和、さらには社会の犯罪などの予防に役立つと考えます。



3. 以上の理念に基づいた家庭奉仕の考えをさらに拡大して、学校というものをひとつの大きな家庭と考え、我々自身が学校に赴いてみることにしました。まずロータリアンが自分の専門領域で得意とする分野のことを子供達に話して聞かせるプログラムを作ってみました。我々は先生方が行っている教育よりもっと広い範囲のことを教えることが出来ます。

昨年から試験的にスタートしまして、今年もまた同じようなプログラムを作っております。予めロータリアンのつくったリストの中から適当な演者を小、中学校の先生方に選んでいただいて、そのロータリアンが学校へ行って話をするわけです。昨年我々が体験したのは、子供達が目を輝かし興奮して話を聞いてくれるということでした。私も、またお話をされるロータリアン自身も熱心に聞き入っている子供達の姿にすっかり魅了され、心からの感動を覚えました。

この試みは今後も必ずうまくいくものと信じていますし、また同じ試みが全国のロータリアンの間に広がりつつあることも大変嬉しく思うのであります。有り難うございました。

会員の声



大事な地区版ロータリーの友『ガバナー月信』の全員購読

佐々木 敦
(札幌真駒内RC)

『ガバナー月信』最終版発行に際し、編集委員の方々へ今年1年間、幅広く内容豊かな記事を情報として提供していただき、その企画、収集、編集能力とご苦労に敬意を表したいと思います。

組織にとって情報の共有化、コミュニケーションを高めるために、機関誌は大変重要なものです。ロータリアンにとって『ロータリーの友』はその意味で重要な役割を担っています。

しかし、今日のロータリーのおかれた厳しい情勢の中、我々ロータリアンにとって、情報は『ロータリーの友』それだけでよいのでしょうか。

昨年の『ガバナー月信』7月号で、小林ガバナーは、次のように述べ、新年度を迎える挨拶として、「ご存知のとおり、いまロータリーはかつての成長期を過ぎ、その価値観の混乱の渦の中にあるといえます。… それではわれわれは何をしなければいけないのでしょうか。その前にわれわれはいまなぜロータリーにいるのでしょうか?… 激しい時代の動きに遅れることなく、その流れを先取りするくらいの情熱をもって、私どもの理想とする友愛と奉仕のロータリーを真剣に作っていかねばならないと思います。…」



厳しい情勢の中、会員の減少や、活動のマンネリ化、低迷など個々のクラブの抱える問題は多々あると思いますが、上記のガバナーの挨拶のとおり、これらの問題は乗り越えていかなければならないテーマなのです。このためには、まずわれわれ一人ひとりが「認識」することからはじめなければならないと思います。地区のこと、他クラブの活動の様子、又

各クラブやコミュニティーの抱えている共通の問題等。そこから活性化の「行動」が始まるのではないのでしょうか。そのためには、地区の情報の共有化、活発なコミュニケーションが今こそ必要なのです。『ガバナー月信』は有力な手段となり得ます。

『ガバナー月信』の編集について、『月信』4月号で小林ガバナーは、RI会長の「これからのロータリーはトップダウンだけでなく、むしろ一人ひとりのロータリアンの隠れたエネルギーを上を持ち上げるボトムアップがなければならない」との言葉を引用した上で、「2510地区では『ガバナー月信』をトップダウンだけでなくロータリアン全員の率直な意見交換の場としたいと考え、その方向で努力を重ねてきたところである。この意味で『ガバナー月信』は地区月信というべきものである。… 地区月信はいかなれば『地区におけるロータリーの友』と理解したい。」と述べています。

今年度は『ガバナー月信』を地区のロータリアン全員が購読していますが、札幌真駒内RCでは、前年度と今年度2年連続全員購読をしています。これによって、いままで遠く縁が薄く感じていた地区活動、他クラブのことが、よく理解でき身近に感ずるようになりました。

来年度も地区として、全員購読を継続すると聞いて喜んでいましたが、仄聞するところ全員購読はないらしいとのこと、誠に残念に思います。来年度は地区役員、クラブ役員だけが購読していればよいという情勢なのではないでしょうか。私は「否」と申し上げたい。ぜひ、地区版ロータリーの友『ガバナー月信』を大事にして、次々年度からは地区のロータリアン全員が購読を続ける方針を打ち出し

て欲しいと考える次第です。役員への情報伝達のためだけの手段ではなく、地区3500人のロータリアン全員の情報の共有化に活用して、“我々の理想とする友愛と奉仕のロータリー作り”に生かし、厳しい情勢に力を合わせて対処していかなければならないと思うのです。



奉仕活動に役立て今年元気に育っています桜の苗木を無料にてお上げします

久住八郎 (栗山RC)

昨年、種をまいた桜の苗木がすくすくと成長しています。秋までに20センチくらいになります。来年の5月の始め頃に植えますと、根つきもよく育ちます。2年せいの苗木もありますが、本数が少しく少ないです。

50本単位で申し込み下さい。但し原則として取りに来て下さい。お送りする場合は送料ご負担お願いいたします。本数は多く用意してありますが、先着順とさせていただきますので早めをお願いいたします。個人に配布しませんので各ロータリークラブでお申し込みください、次年度の活動計画にご利用いただければと考えております。お申し込みは下記のFAX番号までおねがいたします。

FAX 01237-2-6337

TEL 01237-2-1088

住所 夕張郡栗山町朝日南大通り4丁目



2年目の桜の木



「みこし渡御」に参加
交換留学生が
「みこし渡御」に参加

交換留学生が「みこし渡御」に参加



これでよいのか ローターアクト大会

吉本 勲
(深川RC)

本年度のローターアクト大会は5月31日、札幌のキング・ムーという若者向けの会場で行われた。地区30回大会であるから、2510地区の多くのアクトたちが参加し、もちろんロータリークラブからは、地元のガバナー補佐、クラブ会長、各ローターアクト委員長などが来賓として出席した。

国歌及びアクトソング斉唱、ガバナー補佐他来賓の方々の祝辞等々、式典は短く15分とかからなかった。式典が終わってすぐ交歓会である。たちまちの中に来賓も何も放ったらかしにして、自分たちだけのどんちゃん騒ぎ、例によって例のごときハダカ踊り、セックスゲームすれすれのばかばかしい素人芸、SMプレイに類したもののオンパレードである。

来賓の大人たちはあきれはて、渋面を作ってしばし眺めていたが、やがて一人去り二人帰りついに誰もいなくなる。中座するというに多少の抗議の意志もこめられていたのかもしれないが、その程度のことに頓着する連中ではない。

数年前、県主催の成人式で祝辞の最中に騒ぎ立てていた若者たちを、壇上から「静かにしろ」と一喝した橋本高知県知事のような人もいるにはいるが、ロータリーの紳士諸氏にそれだけの度胸のある方がおありだろうか。

そして若者たちのこれらのバカ騒ぎこそ、日本の戦後民主主義とやりに洗脳され切った昭和20年代前半生まれ、すなわち、おおむね団塊の世代を両親に持つオボッチャマ、オジョーサマ方のありのままのお姿である。

自由に個性豊かに子供たちの自主性を尊重して、のびのびと決して叱らず育て上げた結果がこれである。要するに敗戦後、徳育の名に値いするものは何一つ行われては来なかった。

私見によれば、教育とは自由でも放任でも個性の伸長のみでもない。紙幅がないので長々と論じているわけにはいかな

いが、教育は必ずその一部に強制的要素を含むであろう（アメリカは1980年代に自由放任教育を実施して惨憺たる失敗をなめ、すでに軌道修正して今日に及んでいる）。

さて、今年度最終のガバナー補佐会議は去る6月15日に終わった。事前にもし私がローターアクト大会の実態を知っていれば、当然補佐会議において問題提起を行ったであろう。

しかし、私の所属する深川クラブの熱意に充ちたローターアクト委員長が失望と落胆の色を浮かべて、ようやくアクト大会の惨状を私に打ち明けられたのは17日のことであった。いささか実情を知っていると思われる各クラブ（あるいは地区の）ローターアクト委員長はともかくとして、クラブ会長、ガバナー補佐、ガバナー、いや2510地区のすべてのロータリアンはこれらの若者たちの無軌道ぶりを知らなくてよいのであろうか。

それとも、式典さえ終われば、あとは彼等の自主性に任せるべきであり、大人たちにはこれらのバカ騒ぎを事前であれ事後であり、制止したり注意したりする権利はないのであろうか。これらの乱痴気騒ぎを支えるために各クラブは多額の費用を負担し、多大の労力を提供しているわけであるが、そのような必要性があるのかどうか。これらの問題はすでに地区及び各クラブのローターアクト委員会の手に余る事態になっているものと、私には思われる。

来年は赤平市でローターアクト年次大会がある。そのテーマはすでに決まっています『見たい、聞きたい、騒ぎたい。』というのだそうである（騒ぎなければクラブを離れて自分たちの金で勝手に騒げばよい）。

私はすべてのロータリアンに聞きたい。われわれは彼等に対していったい何をなすべきであろうか。それとも何もなくてよいのか。きれいな事、事なかれ主義、見て見ぬふり、これでよいのか。

古代ギリシャのオリnposの神々は若い男女の美しい裸体を賞でたもうた。日本の神々もまたそうである。その故に神事においては、たとえば御輿渡御の場合

に若者たちが裸体になって御輿をかつぐのである。いうまでもなくこれらの裸体には聖性が宿り、共同体のすべての成員がこれを良しとみなすのである。これに反して、ローターアクトの若者たちの裸体に宿るのはただのセックス願望だけである。

私は重ねて第2510地区のすべてのロータリアンに聞きたい。これでよいのかと。



米山記念奨学生の 選考について

米山道男
(札幌北RC)

筆者は昨年大学を退職するまでの10年間留学生達と深く関わってきましたので、いわゆる私費留学生達の窮状を知り尽くしているつもりです。彼等にとって、ロータリーの奨学金は地獄発天国行きの切符にも等しいものです。それだけに、選考は慎重の上にも慎重にさせていただきたく、この点に関する積年の想いを以下に纏めてみました。諸賢の御理解を賜りたく思います。

1. 応募者への迅速な通知

近年、第1次選考（大学での書類審査）は例年9月に行われ、第2次選考（地区委員会による面接試験）は翌年2月に行われています。9月の第1次選考の結果は12月末頃になってやっと東京の米山記念奨学会から本人に通知されるのですが、この間を本人達は非常に不安な気持ちで過ごすこととなります。結果を通知しないでおく利点は何もないばかりか奨学会に対する不信感を生む結果になっています。地区委員会は、各大学に対し、第1次選考の結果を迅速に応募者に知らせるよう要望してほしいと考えます。

2. 応募者と配偶者の収入調査

面接予定者およびその配偶者の収入をできる限りの方法を使って調査してほしいと思います。大学当局や指導教官に問い合わせるなど色々な方法がある筈です。最近の受給者の中には、配偶者が日本

学術振興会の特別研究員（大学に問い合わせてれば分かります）で月額35万円、二人合わせて月収50万円という人もいました。自動車を持っている受給者もいます。その一方で、奨学金がないため、週6日夕方5時半から11時までスキノの料理店の皿洗いに冬も自転車で通い、極貧の生活を送りながら勉学に励んでいる留学生がいることを考えると、会員の貴重な浄財のこのような使い方に憤りすら感じます。

なお、受給途中であっても、高額の特典所得が判明した場合は、直ちに支給を取りやめて次点に回すなどしてほしいと思います。

3. 応募者の経済状況の重視

最近の奨学会の考え方は、「優秀で将

来性があり、かつ友好親善に貢献できる人」という点に力点が置かれ、応募者の経済状況を重視しないように見受けられます。しかしながら、そもそも奨学金授与とは経済的支援に他ならず、経済的困窮度を問題にしないというのは奨学金本来の目的を見失った考え方です。「優秀で将来性があり、友好親善に貢献でき、かつ経済的に困難な状況にある人」を奨学生として選んでいただきたいと強く要望します。

4. 配偶者の収入上限の下方修正

奨学会の規約によると、配偶者の年収が400万円（月収33万円）までは応募資格があるとなっています。これに米山記念奨学金が加われば月額48万円です。多分の家族は半分近くを貯金か仕送りに振

り向けるでしょう。配偶者の不労所得は月額5万円程度以下を応募条件にすべきでしょう。これではアルバイトが必要でしょうが、米山記念奨学金はそのアルバイトの負担を軽減するためにこそ役立つべきで、貯金や仕送りのために使われるべきものではないと考えます。奨学会に再考を促したいと思います。

5. 申請書類の平易簡素化

奨学会が作成した奨学金申請書類の文章は、生硬で難解な表現が多く見られます。日本人にとって難しい表現すらあります。これを読む人は日本に来て間もない外国人です。もっと易しく簡潔な表現を用いてほしいと思います。

ポリオの街頭募金に挑戦!!

札幌大通公園RCは6月15日（日）、大通公園4丁目において会員有志17名によるポリオのキャンペーンと募金活動を行いました。2時間の活動で収益金は53,871円、また事前に知人などに呼びかけるなどして集まった52,171円の総額106,042円をポリオ基金に寄附してくださいました。理念よりも実践の模範を示してくれた大通公園RCの木津敏彦会長ほかクラブの皆さんに心から御礼申し上げます。



（本部・米シカゴ）へ送る。

ポリオ撲滅へ大通で募金
ロータリークラブ
【中央区】札幌大通公園ロータリークラブ（木津敏彦会長、会員17人）はこのほど、中央区大通公園で、ポリオ（小児まひ）撲滅のための街頭募金活動を行いました。木津会長は「日本ではすでに根絶したが、世界にはまだポリオは残っている。三百円あれば五人の子供たちにワクチンを提供できる」と話していた。お金は国際ロータリークラブ（本部・米シカゴ）へ送る。

笑いの種を播きましょう!!

カーネギーの詩「笑いは心の武装を解除する」

「笑いは元手がいらぬ、しかも利益は莫大、与えても減らず、与えられた者は豊かになる。笑いは一瞬見れば、その記憶は永久に続く事がある。どんな金持ちでも、これなしでは暮らせぬ、どんな貧乏人でも、これによって豊かになる、家庭に幸福を、商売に善意をもたらす友情の合い言葉、笑顔は疲れた者にとっては休養、失意の人にとっては光明、悲しむ者にとっては太陽、悩める者にとっては自然の解毒剤となる。買うことも、強要することも盗むこともできない、無償で与えて初めて値打ちがでる。」

播こう
慈愛の種



咲かそう
慈愛の花



ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

2003年5月～6月

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー			
山光 進会員	(札幌東RC)	(2)	5月19日
田尾重良会員	(札幌東RC)	(2)	5月23日
鈴木俊幸会員	(札幌東RC)	(1)	5月23日
名塩良一郎会員	(札幌東RC)	(4)	5月30日
森 正志会員	(札幌幌南RC)	(1)	5月30日
遠藤正之会員	(札幌幌南RC)	(4)	5月30日
土橋信男会員	(札幌幌南RC)	(1)	5月30日
加藤健太郎会員	(函館RC)	(1)	6月6日
國立金助会員	(函館RC)	(2)	6月6日
藤井方雄会員	(函館RC)	(1)	6月6日
櫻井政経会員	(札幌RC)	(1)	6月6日
北谷好文会員	(砂川RC)	(1)	6月6日
川村義昭会員	(苫小牧東RC)	(1)	6月10日
小林敏夫会員	(函館RC)	(1)	6月13日
坂田知樹会員	(岩見沢東RC)	(1)	6月13日
奥貫一之会員	(札幌東RC)	(5)	6月18日
大公一郎会員	(札幌東RC)	(3)	6月18日
星野恭亮会員	(札幌東RC)	(2)	6月18日
高下泰三会員	(札幌西RC)	(2)	6月18日
松崎 幹会員	(札幌手稲RC)	(1)	6月20日

ポール・ハリス・フェロー			
山本公彦会員	(岩見沢RC)	(1)	6月25日
橋本新治会員	(岩見沢RC)	(1)	6月25日
浅野 剛会員	(岩見沢RC)	(1)	6月25日
吉本 勲会員	(深川RC)	(3)	6月27日
新井田孝会員	(伊達RC)		5月16日
細谷義弘会員	(岩見沢東RC)		5月16日
谷内馨一会員	(小樽RC)		5月16日
泉 侑会員	(小樽RC)		5月16日
竹田俊一会員	(砂川RC)		6月6日
大山知行会員	(砂川RC)		6月6日
丹呉幹彦会員	(小樽RC)		6月13日
沖田 豊会員	(函館亀田RC)		6月18日
朝倉正人会員	(札幌東RC)		6月18日
大越克巳会員	(札幌西RC)		6月18日
川南明則会員	(洞爺湖RC)		6月20日
三浦昭三会員	(洞爺湖RC)		6月20日
杉浦則男会員	(札幌南RC)		6月25日
北川清則会員	(栗山RC)		6月27日
柏木秀之会員	(函館五稜郭RC)		6月30日

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

2002年12月～03年6月

米山功労者			
西村 孚	会員	(江別RC)	12月16日
三上春吉	会員	(恵庭RC)	12月12日
早川卓伸	会員	(岩見沢RC)	12月26日
遠藤秀雄	会員	(登別RC)	12月26日
見延庄三郎	会員	(小樽南RC)	12月13日
佐川秀逸	会員	(小樽南RC)	12月13日
竹田栄治	会員	(小樽南RC)	12月13日
鳥井健次	会員	(小樽南RC)	12月13日
辻 健	会員	(小樽南RC)	12月13日
米山八郎	会員	(小樽南RC)	12月13日
中川 東	会員	(札幌北RC)	12月13日
太田耕平	会員	(札幌西RC)	12月17日 (2回)
高下泰三	会員	(札幌西RC)	12月17日
神部洋史	会員	(滝川RC)	12月24日 (2回)
向井辰巳	会員	(滝川RC)	12月24日
菊地 章	会員	(札幌東RC)	1月31日
福田武男	会員	(千歳RC)	4月25日 (2回)
小林 明	会員	(函館RC)	4月22日
小林昌志	会員	(札幌南RC)	4月3日
福嶋 貢	会員	(函館東RC)	5月6日 (2回)
池垣清信	会員	(函館東RC)	5月16日 (6回)
鳴海馨誠	会員	(岩内RC)	5月27日
田頭博昭	会員	(室蘭RC)	5月23日 (2回)
南原康二	会員	(札幌東RC)	5月26日 (2回)

今野陽三	会員	(苫小牧RC)	5月23日 (2回)
北谷好文	会員	(砂川RC)	6月5日
米山功労法人			
NPO法人北海道アフリカ協会様		(札幌真駒内RC)	12月13日
米山ファンドフェロー			
日沼俊栄	会員	(岩見沢RC)	12月26日
守屋 弘	会員	(登別RC)	12月26日
中村 雅	会員	(登別RC)	12月26日
斎藤正史	会員	(登別RC)	12月26日
丹呉幹彦	会員	(小樽RC)	12月6日
大沼哲郎	会員	(留萌RC)	12月27日
阿部哲夫	会員	(札幌清田RC)	12月12日
中島 勉	会員	(札幌幌南RC)	12月24日
高島敏子	様	(札幌幌南RC)	12月24日
上田英二	会員	(滝川RC)	12月24日
山根英治	会員	(滝川RC)	12月24日
赤川清介	会員	(赤平RC)	1月22日
伊藤正敏	会員	(岩内RC)	1月30日
安田隆義	会員	(室蘭北RC)	4月25日
奥村義夫	会員	(札幌東RC)	4月22日
砺波 寿	会員	(札幌幌南RC)	5月26日
荒井捷一	会員	(苫小牧北RC)	5月16日
青野茂俊	会員	(岩見沢RC)	6月24日

5月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例回数	会員数				出席率
			02.7.1	03.5.31	増減	内女性	
1	深川	4	46	43	-3	2	91.88
	羽幌	4	47	48	1	1	74.06
	妹背	4	12	10	-2	0	82.50
	小留	4	15	17	2	1	66.18
	留平	3	69	68	-1	0	84.42
	小計		189	186	-3	4	79.81
2	赤平	2	37	37	0	1	91.89
	芦別	4	60	57	-3	0	92.49
	砂川	4	61	58	-3	0	97.57
	滝川	5	108	114	6	2	75.00
	小計		266	266	0	3	89.24
	3	美幌	4	48	46	-2	0
江別		4	50	49	-1	2	86.16
江別		4	41	41	0	3	87.60
岩見		5	97	102	5	0	90.70
岩見		4	33	34	1	3	92.65
栗沢		4	35	34	-1	2	90.22
4	栗山	3	34	33	-1	2	94.62
	当別	4	46	46	0	0	89.13
	小計		384	385	1	12	89.64
	札幌	4	120	121	1	0	98.53
	札幌	4	19	18	-1	1	100.00
	札幌	4	29	29	0	4	77.84
5	札幌	3	58	58	0	6	88.48
	札幌	4	61	62	1	0	76.64
	札幌	4	75	73	-2	2	93.03
	札幌	3	52	53	1	2	89.43
	札幌	4	52	47	-5	0	98.40
	小計		466	461	-5	15	90.29
6	札幌	4	123	122	-1	0	99.11
	札幌	3	26	28	2	5	100.00
	札幌	4	88	83	-5	0	100.00
	札幌	4	50	48	-2	3	96.50
	札幌	3	97	94	-3	0	96.34
	札幌	4	42	41	-1	1	93.46
7	札幌	3	17	18	1	4	66.66
	札幌	3	0	21	21	6	81.00
	小計		443	455	12	19	91.63
	岩内	4	37	37	0	0	78.22
	倶知安	4	54	53	-1	4	81.00
	小樽	4	96	91	-5	0	91.72
8	小樽	3	86	87	1	0	91.26
	小樽	4	20	20	0	2	82.50
	小樽	4	18	18	0	0	60.93
	余市	4	49	48	-1	4	89.55
	小計		360	354	-6	10	82.17

クラブ数 72クラブ
 期首会員数 3,458人
 当期末会員数(女性) 3,438(97)人
 増加会員数 -20人
 当月平均出席率 84.68%

グループ	クラブ名	例回数	会員数				出席率
			02.7.1	03.5.31	増減	内女性	
7	千歳	4	74	74	0	2	90.90
	千歳	4	33	35	2	0	71.40
	恵庭	4	50	48	-2	0	80.97
	北広島	5	16	15	-1	2	96.15
	長沼	3	18	18	0	4	90.70
	由仁	5	18	18	0	1	80.00
8	小計		209	208	-1	9	85.02
	えりも	5	27	27	0	0	99.05
	三石	3	20	19	-1	1	91.23
	様似	4	24	23	-1	2	87.50
	静内	4	68	66	-2	0	92.96
	浦河	4	41	44	3	1	95.87
9	小計		180	179	-1	4	93.32
	伊達	4	53	56	3	0	72.05
	室蘭	4	66	60	-6	0	69.99
	室蘭	4	56	53	-3	1	87.50
	登別	5	40	40	0	2	82.50
	洞爺	4	14	13	-1	0	95.00
10	小計		281	272	-9	5	79.84
	函館	4	101	103	2	0	79.26
	函館	3	51	51	0	1	72.67
	森	3	51	49	-2	0	71.00
	七飯	4	33	32	-1	0	87.80
	長万部	3	11	12	1	0	83.30
11	小計		247	247	0	1	78.81
	江差	4	20	20	0	0	68.00
	函館	4	71	69	-2	0	82.33
	函館	4	67	65	-2	5	76.25
	函館	4	46	47	1	0	72.22
	上磯	4	34	34	0	3	63.20
12	小計		246	244	-2	9	67.00
	白老	4	34	35	1	1	71.50
	苫小牧	4	68	65	-3	0	81.56
	苫小牧	4	33	33	0	3	84.39
	苫小牧	4	52	48	-4	2	92.44
	小計		187	181	-6	6	84.85
合計		3,458	3,438	-20	97	84.68	

6月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例回数	会員数				出席率
			02.7.1	03.6.30	増減	内女性	
1	深川	4	46	43	-3	2	88.75
	羽幌	4	47	47	0	1	80.32
	妹背	4	12	10	-2	0	90.00
	小留	4	15	14	-1	0	71.64
	留平	4	69	64	-5	0	89.09
	小計		189	178	-11	3	83.96
2	赤平	2	37	37	0	1	89.19
	芦別	4	60	58	-2	0	90.27
	砂川	3	61	58	-3	0	97.39
	滝川	2	108	109	1	2	68.00
	小計		266	262	-4	3	86.21
	3	美幌	4	48	47	-1	0
江別		4	50	46	-4	2	84.03
江別		4	41	41	0	3	89.63
岩見		4	97	102	5	0	92.17
岩見		4	33	34	1	3	88.23
栗沢		4	35	34	-1	2	90.10
4	栗山	4	34	32	-2	2	93.33
	当別	4	46	42	-4	0	90.76
	小計		384	378	-6	12	89.72
	札幌	4	120	113	-7	0	97.81
	札幌	4	19	18	-1	1	100.00
	札幌	4	29	28	-1	4	73.33
5	札幌	5	58	59	1	6	87.86
	札幌	4	61	60	-1	0	82.28
	札幌	3	75	74	-1	2	94.08
	札幌	4	52	54	2	2	92.08
	札幌	4	52	44	-8	0	96.74
	小計		466	450	-16	15	90.52
6	札幌	4	123	121	-2	0	98.66
	札幌	3	26	28	2	5	100.00
	札幌	4	88	81	-7	0	99.36
	札幌	4	50	48	-2	3	96.00
	札幌	4	97	90	-7	0	97.53
	札幌	4	42	36	-6	1	95.20
7	札幌	3	17	18	1	4	84.92
	札幌	3	0	21	21	6	79.70
	小計		443	443	0	19	93.92
	岩内	4	37	37	0	0	77.03
	倶知安	4	54	53	-1	4	81.00
	小樽	4	96	88	-8	0	90.79
8	小樽	3	86	87	1	0	96.54
	小樽	4	20	20	0	2	80.00
	小樽	4	18	18	0	0	73.34
	余市	4	49	46	-3	4	86.95
	小計		360	349	-11	10	83.66

クラブ数 72クラブ
 期首会員数 3,458人
 当期末会員数(女性) 3,336(97)人
 増加会員数 -122人
 当月平均出席率 85.39%

グループ	クラブ名	例回数	会員数				出席率
			02.7.1	03.6.30	増減	内女性	
7	千歳	4	74	72	-2	2	88.80
	千歳	4	33	31	-2	0	78.60
	恵庭	4	50	50	0	0	79.95
	北広島	3	16	15	-1	2	90.47
	長沼	5	18	18	0	4	85.50
	由仁	4	18	16	-2	1	70.83
8	小計		209	202	-7	9	82.36
	えりも	4	27	23	-4	0	80.77
	三石	5	20	18	-2	1	94.70
	様似	4	24	23	-1	2	88.60
	静内	4	68	68	0	0	92.69
	浦河	4	41	41	0	1	88.90
9	小計		180	173	-7	4	89.13
	伊達	4	53	55	2	0	74.54
	室蘭	4	66	54	-12	0	97.46
	室蘭	4	56	53	-3	1	96.36
	登別	4	40	40	0	2	78.89
	洞爺	4	14	13	-1	0	82.50
10	小計		281	264	-17	5	100.00
	函館	4	101	101	0	0	77.01
	函館	5	51	47	-4	1	72.43
	森	4	51	47	-4	0	81.50
	七飯	4	33	29	-4	0	84.80
	長万部	4	11	12	1	0	64.58
11	小計		247	236	-11	1	76.06
	江差	4	20	20	0	0	72.00
	函館	4	71	64	-7	0	89.55
	函館	4	67	60	-7	6	81.04
	函館	4	46	43	-3	0	77.09
	上磯	4	34	33	-1	3	66.40
12	小計		246	229	-17	10	67.00
	白老	4	34	28	-6	1	83.00
	苫小牧	4	68	62	-6	0	80.88
	苫小牧	4	33	33	0	3	86.72
	苫小牧	3	52	49	-3	2	90.73
	小計		187	172	-15	6	85.33
合計		3,458	3,336	-122	97	85.39	

『ガバナー月信』全13号の編集を終えて

『月信』編集委員長 竹原 巖

『ガバナー月信』を1号から13号までの編集を終えて、ホット一息の感がします。小林ガバナー年度の『月信』について振り返って見たいと思います。ガバナーは『月信』を地区内の全会員が講読して頂くよう、年度の始まる前からそしてペッツ・地区協でガバナー補佐あるいは会長に繰り返し説明して来ました。残念ながら全員講読には至りませんでした。地区内会員数3,460名に対して、3,200名の方93%が講読してくれることになり、その責任の重さを痛感致しました。

ガバナーの基本方針に基づき担当幹事が昨年の4月に集まり、『月信』の編集方針や掲載内容について話し合い、ガバナーからのメッセージだけでなく、「地区委員会活動」「各クラブの活動紹介」あるいは「会員からのご意見」や「疑問」など、ボトムアップの情報提供や意見交換の場とし、写真を多く取り入れ親しみやすい『ガバナー月信』を作る事としました。



1号から6号までの「表紙」には、ロータリーはお一人お一人の会員により成り立っているとの思いから人物で飾り、7月号 (RI会長・ガバナー)、8月号 (71クラブ会長)、9月号 (71クラブ幹事)、10月号 (喜びをともにする新人会員)、11月号 (地区大会記念講演のアグネスとフォーラム参加の4名の他地区ガバナー)、12月号 (地区大会特集号でRI会長代理とガバナー)、7号以降は季節の風景や花々とししました。1月号 (干支に因み牧場の羊)、2月号 (国際大会開催のプリズベン)、3月号 (晩冬から早春の花々)、4月号 (地区内の桜の名所)、5月号 (スズラン・ツツジ等)、6月号 (ライラック)そして最終号は (バラと慈愛) としました。また、「裏表紙」は12グルー

プ内の名所と花を掲載しました。

これも初めての試みと思われませんが、クラブ・会員・地区委員会からの投稿も盛りだくさんとなり、ページ数が増えることで当初予算より支出オーバーが見込まれたので、会員の職業紹介を兼ねた「広告」を掲載することとし、地区内関係各社・団体より多数のご協力を頂き、特に第1グループの吉本ガバナー補佐の「吉本病院」、並びに、小林ガバナーの「札幌がんセミナー」には多大なご協力を頂き有り難うございました。

小林ガバナーは編集に関して細かなアドバイスをくださり、初めての経験である私にとって力強く頼りにいたしました。また、公式訪問その他で会員の方から出されたロータリーへの質問や疑問について「ガバナーとの対話」のコーナーで取上げ、その率直な答えが好評を博していたようです。そして、1カ月間の活動を「ガバナー日記」として掲載し、これも日々のガバナーの動静や考え方が理解できると評価されました。

1号から13号の『月信』作成には、熊谷満会員には毎回編集会議に参加しご意見をいただき、そして校正を担当下さりご苦勞をかけたことに感謝申し上げます。また、大田すみ子会員・脇田稔会員には編集会議で貴重なご意見を頂き有り難うございます。アドバイザーとして米山道男地区幹事そして松木新さん (株)アイワード)には毎回適切なアドバイスを頂き感謝申し上げます。そして、阿部智子事務局員にはデータの収集や連絡にご協力頂き有り難うございます。このほか多数の方々のご協力とご指導で『月信』を作って参りました。

紙上を借りて心から御礼申し上げます。

訃報

森田春穂 会員

(札幌西RC)

平成15年5月8日

ご逝去 (享年73歳)

《ロータリー歴》

1969年3月18日 札幌西RC入会

1977~78年 親睦活動委員長

1979~80年 幹事

1982~83年 ロータリー情報委員長

1992~93年 会長

1998~99年 会員増強委員長

米山功労者

マルチプルポールハリスフェロー



国際ロータリー第2510地区 2002-2003年度 ガバナー月信 最終号

発行人 2002-2003年度ガバナー 小林 博

発行元 国際ロータリー第2510地区
2002-2003年度ガバナー事務所

発行日 毎月1日発行 年12回

編集委員 ◎竹原 巖 (地区幹事) 大田すみ子 (地区幹事)

熊谷 満 (地区幹事) 脇田 稔 (地区幹事)

アドバイザー 米山 道男 (地区幹事) 松木 新 (アイワード)

事務局 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会館6F

TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526 E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp

印刷: (株)アイワード TEL241-9341

千歳市



■支笏湖

四季折々の美しい景観を見せる支笏湖。周囲40km、最大深度360m、平均水深256m。秋田県の田沢湖に次ぐ、わが国で2番目の深度を誇り「巨大な水がめ」と形容されています。

■千歳市の花



ツツジ

春から夏にかけて紫、白、紅色などの花が咲きます。種類が多く、鉢植えや造園用に適し栽培管理もしやすく、家庭での植栽も多く見られます。



ハナショウブ

新緑を背景に、水辺に紫、白、紫紅色などの花が咲き乱れる風情は日本の情緒にあふれています。



国際ロータリー第2510地区 DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S
MONTHLY LETTER 2003 【ガバナー月信】



ご意見・投稿ありがとうございました

『ガバナー月信』では、会員の皆様の声を反映させた誌面づくりを行ってきました。『月信』に関するご意見・投稿などのご協力に感謝いたします。

事務局 札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館6F

TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526

E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp